令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

＝ 定　例　会 ＝

自　令和８年６月11日（木）　開　会

至　令和８年６月29日（月）　閉　会

宮　古　島　市　議　会

目　　次

◎　第４回定例会
ｏ招集告示 …… １
ｏ上程案件処理結果 …… ２
ｏ応招議員名簿 …… ５
○６月１１日（議事日程第１号） …… ７
ｏ会期及び日程 …… ９
会議録署名議員の指名について …… １４
会期を定めることについて …… １４
議案審議 …… １５
○６月１２日（議事日程第２号） …… １７
議案審議 …… ２１
○６月１９日（議事日程第３号） …… ３９
一般質問 …… ７９
我如古　三　雄　君 …… ７９
前　里　光　健　君 …… ９０
豊見山　貴　仁　君 …… １０４
根　間　康　雄　君 …… １１６
狩　俣　勝　紀　君 …… １２８
○６月２２日（議事日程第４号） …… １３９
一般質問 …… １４１
砂　川　和　也　君 …… １４１
大　城　　仁　君 …… １５２
池　間　　仁　君 …… １６４
砂　川　浩　平　君 …… １７６
○６月２４日（議事日程第５号） …… １８９
一般質問 …… １９２
下　地　　茜　君 …… １９２
仲　間　誉　人　君 …… ２０３
富　浜　靖　雄　君 …… ２１５
狩　俣　勝　成　君 …… ２２７
○６月２６日（議事日程第６号） …… ２４１
一般質問 …… ２４４
下　地　信　広　君 …… ２４４
平　良　恵　泰　君 …… ２５４

平　良　敏　夫　君 …… ２６４
粟　国　恒　広　君 …… ２７８
山　下　　誠　君 …… ２９１
國　仲　昌　二　君 …… ３０６
○６月２９日（議事日程第７号） …… ３２１
一般質問 …… ３２９
狩　俣　政　作　君 …… ３２９
下　地　信　男　君 …… ３４１
議案審議 …… ３５２

宮古島市告示第８０号

令和８年第４回宮古島市議会（定例会）を次のとおり招集する。

令和８年６月４日

宮古島市長　嘉　数　　登

１　期　　日　　令和８年６月１１日（木）

２　場　　所　　宮古島市議会議事堂

上　程　案　件　処　理　結　果

議案番号	件　　名	提　案　者	提出月日	処理月日	結　　果
議案 第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算(第２号)	市　　長	令和８年 ６月11日	令和８年 ６月29日	原案可決
議案 第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）	〃	〃	〃	〃
議案 第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）	〃	〃	〃	〃
議案 第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について	〃	〃	〃	〃
議案 第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について	〃	〃	〃	〃
議案 第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について	〃	〃	〃	〃
議案 第４９号	財産の取得について	〃	〃	〃	〃
議案 第５０号	議決内容の一部変更について	〃	〃	〃	〃
議案 第５１号	議決内容の一部変更について	〃	〃	〃	〃
議案 第５２号	議決内容の一部変更について	〃	〃	〃	〃
議案 第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について	〃	〃	〃	〃
議案 第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について	〃	〃	〃	〃
報告 第　５　号	専決処分の報告について	〃	〃		
報告 第　６　号	宮古島市新型インフルエンザ等対策行動計画の変更について	〃	〃		
報告 第　７　号	令和７年度宮古島市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	〃	〃		
報告 第　８　号	令和７年度宮古島市港湾事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	〃	〃		

議案番号	件　　名	提　案　者	提出月日	処理月日	結　　果
報告 第　９　号	令和７年度宮古島市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	市　　長	令和８年 ６月11日		
報告 第１０号	令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	〃	〃		
報告 第１１号	令和７年度宮古島市水道事業会計継続費繰越計算書の報告について	〃	〃		
報告 第１２号	令和７年度宮古島市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	〃	〃		
陳情書 第　２　号	宮古島での日米共同訓練とオスプレイ飛行の中止を求める陳情書	陳　情　者	〃	令和８年 ６月29日	不 採 択
陳情書 第　３　号	航空自衛隊宮古島分屯基地で発見されたダイオキシン類及びＰＦＡＳへの対応を求める陳情書	〃	〃	〃	継続審査
陳情書 第　４　号	渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める陳情書	〃	〃	〃	採　　択

議案番号	件　　名	提　案　者	提出月日	処理月日	結　　果
意見書案 第　3　号	渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書	文教社会委員会	令和８年 ６月29日	令和８年 ６月29日	原案可決
決議案 第　3　号	レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議	議　　員	〃	〃	否　　決
決議案 第　4　号	頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議	〃	〃	〃	〃

開会日（令和８年６月１１日）に応招した議員

豊	見	山	貴	仁	君	仲	間	誉	人	君
池		間		仁	〃	砂	川	和	也	〃
大		城		仁	〃	山	下		誠	〃
砂		川	浩	平	〃	狩	俣	政	作	〃
平		良	恵	泰	〃	平	良	和	彦	〃
根		間	康	雄	〃	下	地	信	広	〃
富		浜	靖	雄	〃	我	如古	三	雄	〃
狩		俣	勝	成	〃	平	良	敏	夫	〃
下		地	信	男	〃	粟	国	恒	広	〃
狩		俣	勝	紀	〃	國	仲	昌	二	〃
前		里	光	健	〃	下	地		茜	〃

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月11日（木）　　初　日

（議案上程、説明、聴取）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第１号

令和８年６月１１日（木）午前１０時開会

日程第 １		会議録署名議員の指名について	
〃 第 ２		会期を定めることについて	
〃 第 ３	議案第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）	（市長提出）
〃 第 ４	〃 第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ５	〃 第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ６	〃 第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ７	〃 第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ８	〃 第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ９	〃 第４９号	財産の取得について	（ 〃 ）
〃 第１０	〃 第５０号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１１	〃 第５１号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１２	〃 第５２号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１３	〃 第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１４	〃 第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１５	報告第 ５ 号	専決処分の報告について	（ 〃 ）
〃 第１６	〃 第 ６ 号	宮古島市新型インフルエンザ等対策行動計画の変更について	（ 〃 ）
〃 第１７	〃 第 ７ 号	令和７年度宮古島市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１８	〃 第 ８ 号	令和７年度宮古島市港湾事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１９	〃 第 ９ 号	令和７年度宮古島市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第２０	〃 第１０号	令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第２１	〃 第１１号	令和７年度宮古島市水道事業会計継続費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第２２	〃 第１２号	令和７年度宮古島市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	（ 〃 ）

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会期日程計画表

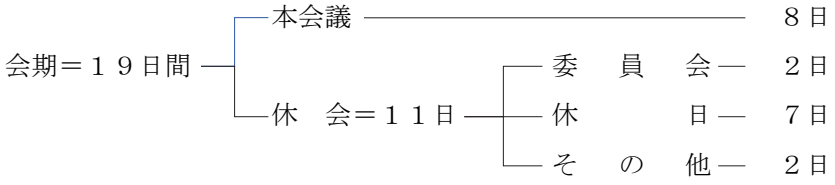
令和８年６月１１日（木）午前１０時開会

月　　日	曜日	種　別	日　　程	摘　　要
６月１１日	木	本会議	会議録署名議員の指名 会期の決定 議案上程、説明、聴取	開　　会
６月１２日	金	〃	議案に対する質疑（付託）	通告締切
６月１３日	土	休　会		
６月１４日	日	〃		
６月１５日	月	〃	委員会	
６月１６日	火	〃	〃	
６月１７日	水	〃		報告書作成
６月１８日	木	〃		海神祭
６月１９日	金	本会議	一般質問	
６月２０日	土	休　会		
６月２１日	日	〃		
６月２２日	月	本会議	一般質問	
６月２３日	火	休　会		慰霊の日
６月２４日	水	本会議	一般質問	
６月２５日	木	〃	〃	※台風７号の接近に伴い閉庁のため会議を開くことができず一般質問は行われなかった。
６月２６日	金	〃	〃	※２５日に一般質問を予定していた２名を加え６名の一般質問を行った。
６月２７日	土	休　会		
６月２８日	日	〃		
６月２９日	月	本会議	委員長報告、質疑、討論、表決	閉　　会 ※２名の一般質問を行い、終了

				後、委員長報告、質疑、討論、表決を行った。

※６月２２日、議会運営委員会が開催され、「台風７号の接近に伴い、２６日（金）に暴風警報が発令され、閉庁となる場合の会期及び日程」について諮問したところ、①会期の延長は行わないこと、②２６日（金）に予定されている議員・４名の一般質問は最終本会議の２９日（月）に行い、質問終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決した。なお、台風の進路等により、状況に変化が生じた場合は、再度議会運営委員会を開き、協議することも確認された。

※６月２４日、議会運営委員会が開催され、「台風７号の接近に伴い、暴風警報が発令され、閉庁となった場合の一般質問の進め方」について諮問したところ、①２６日（金）の一般質問は６名とすること、②最終本会議の２９日（月）は２名の一般質問を行い、終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決した。



令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月１１日（木）

（開会＝午前10時00分）

◎出席議員（２２名）　　（散会＝午前10時12分）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（０名）

◎説　明　員

市長	嘉数登君	環境衛生局長	梶原健次君
副市長	砂川朗〃	会計管理者	友利和代〃
企画政策部長	石川博幸〃	水道部長	砂川勤〃
総務部長	上地俊暢〃	消防長	狩俣勝彦〃
福祉部長	守武大〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
農林水産部長	下地貴之〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
建設部長	下地睦子〃	教育長	宮城克典〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	教育部長	久貝順一〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	生涯学習部長	天久珠江〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）諸般の報告書

令和８年６月１１日（木）

	３月定例会の閉会後、陳情書５件を受理し、そのうち３件を陳情文書表のとおり付託したので、所管委員会での審査をお願いする。
	宮古島市監査委員の上地廣敏委員、狩俣政作委員の両名から令和８年３月分例月出納検査結果報告があった。
５月　８日～９日	８日、名護市万国津梁館で開催されたアメリカ合衆国独立２５０周年祝賀会に出席した。
	８日、石垣市で開催された「令和８年度先島市町村議会議長会定例総会」に砂川和也副議長が出席した。同総会では会務報告の後、令和７年度歳入歳出決算、令和８年度事業計画案、令和８年度歳入歳出予算案がいずれも承認された。 また、次年度の同定期総会は宮古島市で開催されることが決定した。
５月１１日～１３日	１１日、巡視船みやこ船内において、宮古島海上保安部業務視察に参加した。
	１２日、嘉数登市長と共に、内閣府及び、こども家庭庁へ要請を行った。 内閣府においては、黄川田仁志内閣府特命担当大臣、井上裕之内閣府事務次官、松田浩樹内閣府審議官に対し、「沖縄振興特定事業推進費の活用にかかる支援について」の要請書を、こども家庭庁においては、渡辺由美子こども家庭長官に対し、「私立小規模保育園の既存施設改修に係る補助金の処分制限期間の見直しについて」及び、「一時預かり事業（一般型）の制度拡充について」の要請書を、それぞれ嘉数登市長が手交した。
５月１５日	市内ホテルで開催された「トライアスロン感謝の集い」に出席し乾杯の挨拶を述べた。
５月２０日～２２日	２１日、島根県松江市で開催された「令和８年度防衛省全国情報施設協議会役員会議」に出席した。同役員会では令和７年度事業報告・収支決算報告、令和８年度運営方針・事業計画等、６件の議案が審議され、いずれも承認された。役員会終了後、航空自衛隊高尾山分屯基地の視察を行った。
	２２日、市内ホテルで開催された「沖縄県中小企業家同友会第３４回宮古支部総会・懇親会」に出席した。
５月２６日～２９日	２７日、東京国際フォーラムで開催された「第１０２回全国市議会議長会定期総会」に出席した。同総会では、部会提出議案２６件のほか、会長提出議案「多様な人材の市議会への参画促進及び地方議会の権能強化に関する決議」を含む４件が可決された。 総会終了後、沖縄県市議会議長会として木原稔官房長官を訪問し、「日米地位協定の抜本的な改定及び在日米軍占用施設が集中する沖縄の基地負担軽減について」に関する要望書を県市議会議長会の坂井浩二会長が手交した。

５月２６日～ ２９日	２８日、東京都内ホテルで開催された、「市議会議員共済会第１３２回代議員会」に出席した。同代議員会では事務報告・令和７年度会計決算が承認された。
５月３１日	宮古島来間リゾートシーウッドホテルで開催された「ＭＩＹＡＫＯ　ＧＡＬＡＸＹ－ＤＯＭＥ」開業セレモニーに出席し挨拶を述べた。
６月　４日	嘉数登市長から、令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）の招集告示をした旨の通知とともに、今定例会に付議すべき議案の送付があった。
６月　５日	市未来創造センターで開催された「宮古島市シルバー人材センター令和８年度定時総会」に出席し、祝辞を述べた。
６月　６日～ ８日	７日、東京都ＪＲＡ馬事公苑で開催された「第４７回せたがやふるさと区民まつり」に下地信広君、富浜靖雄君と共に参加し、交流を深めた。
６月　９日	議会運営委員会が開催され、諮問した会期については、本日６月１１日から６月２９日までの１９日間とすることと決した。 --- 議会運営委員会終了後、全員協議会が開催され、当局による令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）提出議案事前説明がされたほか、議会運営委員会の報告を行った。 以上

◎議長（平良和彦君）

ただいまから令和８年第４回宮古島市議会定例会を開会します。

（開会＝午前10時00分）

本日の出席議員は22名で全員出席であります。

本日の日程は、議事日程第１号のとおりであります。

直ちに本日の会議を開きます。

この際、諸般の報告をします。

事務局長から報告させます。

◎事務局長（友利毅彦君）

議長の命により、諸般の報告をいたします。

３月定例会の閉会後、陳情書５件を受理し、そのうち３件を陳情文書表のとおり付託したので、所管委員会での審査をお願いいたします。

６月４日、嘉数登市長から、令和８年第４回宮古島市議会定例会の招集告示をした旨の通知とともに、今定例会に付議すべき議案の送付がありました。

６月９日、議会運営委員会が開催され、諮問した会期については、本日６月11日から６月29日までの19日間とするのが適当であると決しました。

そのほかにつきましては、報告書によりご了承願います。

諸般の報告は以上です。

◎議長（平良和彦君）

これより日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第87条の規定により、議長において下地信広君及び平良恵泰君を指名します。

次に、日程第２、会期を定めることについてを議題とします。

お諮りします。今定例会の会期は、本日６月11日から６月29日までの19日間としたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、会期は本日６月11日から６月29日までの19日間と決しました。

なお、議事の都合により、６月15日から18日までの計４日間は休会としたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、そのとおり決しました。

なお、会議予定については会期日程計画表のとおりでありますので、ご了承願います。

次に、日程第３、議案第43号から日程第22、報告第12号までの計20件を一括議題とし、提案者から提案理由の説明を求めます。

◎市長（嘉数　登君）

令和８年第４回宮古島市議会定例会に提出しました議案についてご説明申し上げます。

今回提出しました議案は、予算議案３件、条例議案３件、議決議案６件、報告８件の合計20件でございます。

それでは、予算議案からご説明を申し上げます。議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）。今回の補正は、７億707万4,000円の増のほか、債務負担行為及び地方債の追加、変更を行い、補正後の歳入歳出予算の総額をそれぞれ503億7,407万4,000円と定めてあります。

次に、議案第44号、令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）。今回の補正は、資本的支出で1,643万4,000円の増となっております。

次に、議案第45号、令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）。今回の補正は、収益的収入及び支出で1,883万円の増、資本的収入及び支出で３億6,346万円の減のほか、企業債の補正を行っております。

次に、条例議案についてご説明申し上げます。議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について。地方自治法第204条第２項の趣旨に基づき地域手当を定め、該当地域へ派遣する職員に対して同手当を支給するとともに、文言を整理するには条例を改正する必要があるため、本案を提出いたします。

議案第47号、宮古島市介護保険条例の一部改正について。介護保険法施行令の一部を改正する政令の施行に伴い、税制改正により給与所得控除が見直され、令和８年度の保険料率の算定に係る特例が定められたため、本市の介護保険料についてこれに応じた措置を講ずるには条例を改正する必要があるため、本案を提出いたします。

次に、議案第48号、宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について。沖縄県母子及び父子家庭等医療費助成事業実施要綱の一部改正に伴い、本市における対象者の拡充を行うためには条例を改正する必要があるため、本案を提出いたします。

次に、議決議案についてご説明申し上げます。議案第49号、財産の取得について。電子黒板の取得については、宮古島市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第３条の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出します。

次に、議案第50号、議決内容の一部変更について。城東中学校校内運動場改修工事の設計変更に伴い、契約金額を変更するには宮古島市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出します。

議案第51号、議決内容の一部変更について。上野小学校屋内運動場改修工事の設計変更に伴い、契約金額を変更するには宮古島市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出します。

次に、議案第52号、議決内容の一部変更について。伊良部島小中学校プール設置工事建築の設計変更に伴い、契約金額を変更するには宮古島市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出します。

議案第53号、宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について。公の施設について指定管理者の指定をするには地方自治法第244条の２第６項の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出します。

議案第54号、宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について。公の施設について指定管理者の指定をするには地方自治法第244条の２第６項の規定により、議会の議決を必要とするため、本案を提出いたします。

次に、報告についてご説明申し上げます。報告第５号、専決処分の報告について。地方自治法第180条第１項の規定により、専決処分をしたので、同条第２項の規定によりこれを報告いたします。

報告第６号、宮古島市新型インフルエンザ等対策行動計画の変更について。新型インフルエンザ等対策特別措置法第８条第８項の規定により、宮古島市新型インフルエンザ等対策行動計画を変更したので、同項において準用する同条第６項の規定により、別冊のとおり報告をいたします。

報告第７号、令和７年度宮古島市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について。繰越額が28億2,108万2,153円となっております。

報告第８号、令和７年度宮古島市港湾事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について。繰越額が8,541万5,000円となっております。

次に、報告第９号、令和７年度宮古島市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について。繰越額が3,913万9,919円となっております。

報告第10号、令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告について。繰越額が10億712万円となっております。

次に、報告第11号、令和７年度宮古島市水道事業会計継続費繰越計算書の報告について。繰越額が30万8,000円となっております。

報告第12号、令和７年度宮古島市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について。繰越額が、建設改良費については１億3,781万5,643円、事故繰越額については227万6,450円で、合計が１億4,009万2,093円となっております。

以上、ご説明申し上げました。慎重なるご審議の上、議決を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（平良和彦君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これで本日の日程は全部終了しました。

よって、本日の会議はこれにて散会します。

（散会＝午前10時12分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月12日（金）　　２日目

(議案に対する質疑（付託))

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第２号

令和８年６月１２日（金）午前１０時開議

日程第 １	議案第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）	（市長提出）
〃 第 ２	〃 第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ３	〃 第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ４	〃 第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ５	〃 第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ６	〃 第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ７	〃 第４９号	財産の取得について	（ 〃 ）
〃 第 ８	〃 第５０号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第 ９	〃 第５１号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１０	〃 第５２号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１１	〃 第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１２	〃 第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１３	報告第 ５ 号	専決処分の報告について	（ 〃 ）
〃 第１４	〃 第 ６ 号	宮古島市新型インフルエンザ等対策行動計画の変更について	（ 〃 ）
〃 第１５	〃 第 ７ 号	令和７年度宮古島市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１６	〃 第 ８ 号	令和７年度宮古島市港湾事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１７	〃 第 ９ 号	令和７年度宮古島市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１８	〃 第１０号	令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第１９	〃 第１１号	令和７年度宮古島市水道事業会計継続費繰越計算書の報告について	（ 〃 ）
〃 第２０	〃 第１２号	令和７年度宮古島市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	（ 〃 ）

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

議　案　付　託　表

令和８年６月１２日（金）第４回定例会

委員会名	議案番号	件名
総務財政委員会	議案第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）
	議案第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について
文教社会委員会	議案第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）
	議案第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について
	議案第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について
	議案第４９号	財産の取得について
	議案第５０号	議決内容の一部変更について
	議案第５１号	議決内容の一部変更について
	議案第５２号	議決内容の一部変更について
	議案第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について
経済工務委員会	議案第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）
	議案第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について

議案第４３号　令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）

歳出款項別審査委員会表

令和８年６月１２日（金）第４回定例会

委員会名	款	項	頁
文教社会委員会	３．民生費	１．社会福祉費	２８
		２．児童福祉費	２９
	４．衛生費	１．保健衛生費	３０
	１０．教育費	１．教育総務費	３５
		２．小学校費	３６
		３．中学校費	３７
経済工務委員会	６．農林水産業費	１．農業費	３１
	８．土木費	２．道路橋りょう費	３３
		５．港湾空港費	３４

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月１２日（金）

（開議＝午前10時00分）

◎出席議員（２１名）　　（散会＝午前11時34分）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
		〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（１名）

議員（４番）　砂川浩平君

◎説　明　員

市長	嘉数登君	環境衛生局長	梶原健次君
副市長	砂川朗〃	会計管理者	友利和代〃
企画政策部長	石川博幸〃	水道部長	砂川勤〃
総務部長	上地俊暢〃	消防長	狩俣勝彦〃
福祉部長	守武大〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
農林水産部長	下地貴之〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
建設部長	下地睦子〃	教育長	宮城克典〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	教育部長	久貝順一〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	生涯学習部長	天久珠江〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席議員は21名で定足数に達しております。

本日の日程は、議事日程第２号のとおりであります。

この際、日程第１、議案第43号から日程第20、報告第12号までの計20件を一括議題とし、質疑に入ります。

質疑があれば発言を許します。

◎下地信広君

議案第52号、議決内容の一部変更についてでありますが、伊良部島小中学校のプールですが、どこの箇所を変更したのか、どういった理由で変更したのか、お伺いしたいと思います。

◎教育部長（久貝順一君）

議案第52号、議決内容の一部変更について、18ページから19ページの伊良部島小中学校プールの設置工事の変更内容についてお答えをいたします。

主な変更内容としましては、土工事及びコンクリート工事の中で盛土及び土間コンクリートを追加したものであります。これは、校舎側のほうとプールとの間にある段差を駐車スペースとして有効活用したいということで、盛土をしまして土間コンクリートにて舗装を行うものとなっております。また、共通仮設費の積み上げにおいても、クレーンの日数の精算、また仮設道路及び交通誘導員の追加を行うものとなっております。

◎下地信広君

今の中東情勢の中で、資材とかが高騰しているからそういう部分も含まれているのかなと思ったんだけど、これは違いますね、では。

◎教育部長（久貝順一君）

今回の変更額の契約については中東情勢は関係はございませんで、改めて追加でこういった盛土をして駐車場として有効活用できるような形にするとか、あとはクレーンの日数の精算が増えたというところもあってその変更となっております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎砂川和也君

私も、まず議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について、新しく管理職員特別勤務手当というのが、単身赴任手当、地域手当というのがあるというんですが、内容を教えてください。

この単身赴任の手当をつけるということは単身赴任の方がいらっしゃると思うんですけど、何名ぐらい今いるのか。

あと、地域手当というのがあるんですけど、１級地から５級地というのがあるんですけど、１級地とか５級地の内容が分からないので、そこもお答えください。

議案第50号、議決内容の一部変更について、議案第51号、議決内容の一部変更について、先ほど下地信

広議員が言ったように、この２つのどの辺を変更したのかというのをお答えください。

◎総務部長（上地俊暢君）

議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正についてお答えいたします。

今回改正する内容が、手当が３種目入っておりますが、まず地域手当についてご説明申し上げます。地域手当は、都市部など物価水準が高い地域で勤務する職員の経済的負担を軽減する目的で該当する地域に勤務する国及び自治体で導入される給与制度であります。本市におきましては、今年度から地域手当の対象地区である東京都内の内閣府本部へ職員を派遣しておりまして、このため今本条例を改正し、他の自治体と同様に地域手当を支給できるようにするものでございます。

それから、記載の管理職員特別勤務手当と単身赴任手当につきましては、今回新設をする地域手当とともに、管理職員特別勤務手当につきましては平成28年、それから単身赴任手当につきましては平成27年に給与条例に追加しておりますが、今回の改正、第４条の給料の規定においては記載の手当は給料に含まれないという記述でございまして、その部分の管理職員特別勤務手当と単身赴任手当を入れ込む必要があったため、文言の整理のために今回改正をしております。

それから、地域手当の内容としまして等級がございまして、１級地が東京都、それ特別区となっております。それから、２級地が関東近辺、茨城県、神奈川県、大阪府などです。それから、３級地、４級地とございますけど、沖縄県は５級地入っておりませんので、今回沖縄県から派遣される職員については１級等級地に派遣しますので、その分の手当を割増しで支給するという条例でございます。

（何事か声あり）

◎総務部長（上地俊暢君）

失礼しました。単身赴任手当を支給している職員は、本市において今２名おります。

◎教育部長（久貝順一君）

議案第52号、議決内容の一部変更について、18ページから19ページの伊良部島小中学校プールの設置工事の変更の内容についてお答えいたします。

先ほどの答弁と重なる部分もあるかと思いますけども、主な変更内容としましては土工事及びコンクリート工事の中で盛土及び土間コンクリートを追加したものとなっております。これは、校舎とプールとの間にある段差を駐車スペースとして有効活用するために、盛土をして土間コンクリートにて塗装を行うという形になっております。

また、共通仮設費の積み上げにおいては、クレーンの日数の精算と仮設道路及び交通誘導員の追加を行うものとなっております。その中でクレーンにつきましては、設計時では積算基準の日数でしか想定できなかったため、現場の実情に応じて日数を精算しております。ちなみにクレーンの日数については、９日間程度予定していたのが24日間に変更になったというところもあります。また、仮設道路等及び交通誘導員につきましては、当初設計書の中では正門から搬入路を想定しまして仮設通路を計画をしておりましたが、学校側と調整する中で、学校側に負担をかけないこと、また児童生徒にもより一層の安全を確保するため、校庭脇から搬入することに至っております。また、交通誘導員を配置しまして、登下校中の安全はもとより、地域住民の安全も配慮した形で今回の変更となっております。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時12分）

再開します。

（再開＝午前10時12分）

◎教育部長（久貝順一君）

まず、議案第50号、議決内容の一部変更について、14ページから15ページの城東中学校屋内運動場改修工事に係る変更内容についてお答えいたします。主な変更内容としましては、防水改修工事の中で屋根スラブ面の下地調整を追加したものであります。これは既存のコンクリート、屋根スラブ面の水たまりを是正するためにモルタルにて勾配をつけて不陸調整を行ったものとなっております。また、屋根改修工事においては、もともと既存の屋根の鉄骨がありますので、その鉄骨の下地を延長しております。これはその屋根のカバー工法を支える既存の金属屋根の劣化を考慮しまして、コンクリート躯体からも新しい屋根を支えることができるようにしたためとなっております。加えまして、改修後の屋根の点検ができるよう、点検用タラップ､固定式のはしごと点検時における転落防止用の手すりを追加したものとなっております。そのほかに外壁工事におきまして、ひび割れ補修と爆裂部の補修の追加があります。これは足場を設置し、外壁全体を高圧洗浄にて汚れを落とした際に新たに判明したひび割れの劣化数が想定以上だったということもありまして、実際に補修したひび割れ及び爆裂部の数量が増えたことの変更内容となっております。

次に、議案第51号、議決内容の一部変更について、16ページから17ページの上野小学校屋内運動場改修工事の変更内容についてお答えをいたします。主な変更内容としましては、防水改修工事の中で塗膜防水を追加したものとなっております。これ屋根金属から流れる雨水の排水溝の劣化が判明したため、塗膜防水を追加で施工したものとなっております。また、屋根改修工事においては、屋根カバー工法を支える既存の金属屋根の鉄骨下地が雨漏りの影響で腐食をしておりまして、既存利用ができなかったことから新しく取り替えたものとなっております。また、加えまして、改修後の屋根の点検ができるように、屋根へ上るための点検用タラップ、先ほどの城東中学校と一緒なんですけども、固定はしごの点検口を追加しております。

◎砂川和也君

下地信広議員もおっしゃったんですけど、何か昨今世界情勢でその建築資材が上がったのか、だから変更があったのかなと思ったんですが、聞いていると基本設計を修正するような形で、工事費が増えているのかなという形になると思います。もし資料とか添付があれば、一応そういうのも我々も見えてきてまた質疑とか変わってくるが、これだけ見ると何か今の世界情勢の物価高騰の影響かなと思ってしまったんですが、こういうのって資料とかというのは今後つけることというのは、議長を通してお願いしたほうがいいんでしょうか。添付資料とかがあれば、より分かりやすく、いい議論ができると思うので、その辺はどうお考えですか。

◎副市長（砂川　朗君）

資料の提供につきましては、これまでも議会の場で提出してくれというようなご要望があった場合に提供しておりますので、ご要望される際に我々のほうから提供はしたいと思いますが、議案に関しては議案

の部分で送付をこれまでどおりやった上で必要があれば要望していただきたいというふうに考えております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎前里光健君

専決処分についてであります。報告第５号、専決処分の報告について、これ損害賠償額36万6,850円についてということで、消防車両のこれ損害賠償発生しています。もちろん消防活動というのは市民生活とか財産を守る上で緊急性の高い業務ということでありますが、今回もちろん車両保険とか入っていると思うんですけど、これ全部一般財源なのか、保険で対応するのかというところを教えてください。

また、この車両側のほうの損傷というのもあるのかということが２点目。

その後の消防活動に影響はなかったかということが３点目であります。

次に、議案第49号、財産の取得についてなんですけれども、これは当初の予算のほうでは計上されている学校ＩＣＴ機能強化整備事業ということで、電子黒板だったと思います。これ市債で対応されていると思います。その市債の内容を教えてください。

そして、この設置台数、また改めて対象校とか、その詳細についてもお答えください。

スケジュール上、これ議決後にどういう配置で完了時期を見込んでいるのか、併せてお聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

報告第５号、専決処分の報告について、損害賠償額については保険会社のほうで対応をしております。

◎消防長（狩俣勝彦君）

車両の損傷部分の質疑ですけども、リアフェンダー、サイドガード等を損傷しています。あと、事故後の活動には支障ありませんでした。修理工場にすぐ点検してもらって、出動等の体制は整っております。

（「ちょっと休憩お願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時20分）

再開します。

（再開＝午前10時20分）

◎教育部長（久貝順一君）

議案第49号、財産の取得について、12ページから13ページのＩＣＴ機能強化整備事業の補正の内容です。昨年と同様に液晶型電子黒板及び情報モラル教材を整備をいたします。液晶型電子黒板は100台の整備を予定しておりまして、この部分は平成30年度、平成31年度に設置をしました合計350台の電子黒板の更新時期が来ておりますので、更新するという形になっております。それで、令和６年度から３年間ほどかけて350台を入れ替えるという形になっておりまして、今年度が最終年度に当たっておりまして、100台を整備することとなっております。今年度の対象施設は、南小学校、北小学校、西辺小学校、城辺小学校、福嶺小学校、下地小学校、西辺中学校、平良第一小学校、久松小学校、鏡原小学校、下地中学校を予定をしております。今年度の各学校の学級数に応じて調整を行いまして、配置校なども変更することもございます。ちなみに

令和６年度が125台、同様に令和７年度も125台、今年度が100台の合計350台となっております。また、情報モラル教材につきましては、教員向け教材及び児童生徒向けの教材を前年度に引き続き全小中学校へ整備いたします。

配置スケジュールにつきましては、議会議決後契約結びまして、その中で随時配置していくという形になっておりまして、すみません、今詳細な配置スケジュールを持ち合わせておりませんので、後ほどお答えしたいと思っております。

◎総務部長（上地俊暢君）

電子黒板の充当財源でございますが、一括交付金とふるさと応援まちづくり基金を使っておりまして、起債のほうは充当していないというところでございます。一括交付金が１億2,000万円程度です。ふるさと応援まちづくり基金の充当については今調べておりますので、後で報告させていただきます。

◎前里光健君

保険対応で全部行ったというこれ報告第５号、専決処分の報告についての件なんですけれども、もちろんこの活動というのはかなり緊急性の高い業務なので、重要なことなんですけれども、今後そういった空き家等増えてきているというところと、あと狭隘な道路とかいうところも考えるとやはりそういう事故等本当はあってはいけないんですけども、そういったところとの情報共有とか計画を考えていかなければいけないというのと、やはり再発防止、それに向けてどういう考えを持っているのかということをお答えください。

そして、財産の取得なんですけれども、いろいろ先ほど来議員の同僚の皆さんおっしゃっていますけれども、物価高騰という今状況があるというところで、この電子黒板とか今話ししていると100台を入れ替えるということで、こういった機材は特に高くなっていると思うんですけども、この後の利用というのは可能なのかという、要は撤去する、再利用、保管、廃棄、いろいろ考えがあると思うんですけども、そういった何か必要な教育に関する事業者とかが提案して、そういった中古でもいいから欲しいですよとか、そういった提案とかには協力することが可能なのかという相談なんですけども、その点についてお聞かせください。

◎教育部長（久貝順一君）

先ほどの配置スケジュールについてお答えいたします。

今定例会で了解いただいた後に、もうすぐ電子黒板の配置の整備をしていきたいと思っています。一応８月末までには更新を全て完了したいというふうに考えております。

あと、更新した後の現在既存の電子黒板に関して、一応教育委員会としては今のところ廃棄の予定で進めておりまして、あと再利用したいとか使いたいという部分については現在のところ考えておりませんが、もしそういった関係団体がおりましたら調整をしてみたいと思っております。

◎消防長（狩俣勝彦君）

事故等の対策という質疑ですけども、事故となりますと取り返しのつかないことになると思います。ただ、住民に不安を与えますので、事故を起こさぬようふだんから安全運転には注意を払っておりますが、引き続き安全運転には取り組んでいきたいと思っております。また、狭い道路など消防車両が入りづらい場所には、誘導員等を配置して行うように徹底していきたいと思っております。

◎総務部長（上地俊暢君）

先ほどご質疑ありました電子黒板の充当財源にふるさと応援まちづくり基金もございますと答弁しております。基金の充当額が3,000万円となっております。

◎前里光健君

消防長、もちろん再発防止の対策しっかり取っていくということも大事ですし、あと近年出動件数が増えているということもありますので、やはりここは気をつけて、また必要なものは求めていくというようなことをしてこういった対策を重ねていただきたいというふうに思っております。

先ほど教育部長のほうからも答弁ありましたけれども、例えば今ボランティア団体とか福祉団体とか様々団体があって、こういった施設において必要なこういう電子黒板というのが、提案があれば言っていただければということなんですけども、それはこれからの段階で８月までに配置するという話なんですが、窓口はもう教育委員会に問合せしていいということでよろしいですか。確認お願いします。

◎教育部長（久貝順一君）

取り替えた後の既存の電子黒板について、そういった福祉団体とか、そういったボランティア団体とかでぜひ活用したいということであれば、教育委員会の学校教育課のほうにご相談いただければと思っております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎根間康雄君

気になる点だけを確認したいと思います。

まず、議案第49号、財産の取得についてもずっと話をしているんですが、私は全く別の内容です。この入札の業者が何者ぐらいあったのか。

それと、議案第50号、議決内容の一部変更について、議案第51号、議決内容の一部変更について、議案第52号、議決内容の一部変更についても、それぞれ入札業者はどれぐらいいたのかを知りたいと思いますので、よろしくお願いします。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時29分）

再開します。

（再開＝午前10時31分）

◎教育部長（久貝順一君）

まず、議案第49号、財産の取得について、12ページから13ページのＩＣＴ機能強化整備事業の中での入札の業者は何業者かということです。５者で入札したんですけども、１者が辞退となっております。議案第50号、議決内容の一部変更についてから議案第52号、議決内容の一部変更についてにつきましては、すみません、もうしばらく待っていただいて、後ほどお答えいたしたいと思っています。

◎議長（平良和彦君）

いいですか。

◎根間康雄君

分かりました。では、後で伺います。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎下地　茜君

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書のほうから質疑したいと思います。

31ページ、６款農林水産業費、１項農業費、２目農業総務費の中で、説明欄、これ委託費と工事請負費ですが、公園維持管理費321万2,000円がありますので、委託料、工事請負費内容、どこのどういう整備かというところを教えていただきたいと思います。

あわせて、６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費の18節負担金、補助及び交付金になるかなと思うんですが、さとうきび安定生産確立対策事業補助金と、上から４つ目のさとうきび収穫機械機能向上支援事業、それぞれ2,000万円ほどついていますので、内容をお聞きしたいと思います。

一番下に生食用パインアップル生産拡大事業費というのが48万円ついているので、こちらも内容をお聞きできればと思います。お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書31ページの６款農林水産業費、１項農業費、２目農業総務費の公園維持管理費の委託料でございます。214万5,000円の補正でございます。これはインギャー公園の漏水がありまして、緊急性を要したものですから、既決予算を工事費に流用して対応しているところでございます。そのため、既決予算で予定していた委託費が足りなくなったことから、この分の補正となっております。

６款農林水産業費、１項農業費、３目の農業振興費、さとうきび安定生産確立対策事業補助金でございます。これは、サトウキビの栽培管理、収穫等の作業効率化のため、農業用機械の導入、これは購入またはリース含めてですけども、に対する支援事業でございます。税抜きで80％以内の補助となっておりまして、中型ハーベスターが１件、トラクター関連が３件となっております。

続いて、さとうきび収穫機械機能向上支援事業補助金でございます。これは、耐用年数を経過したハーベスターを対象に、老朽化によって性能が低下した部品を最新の部品に交換するなどして、機械の機能向上、それから利用期間の長寿命化を図る事業でございます。導入としては、中型が１台、小型ハーベスター４台となっております。

それから、一番下の生食用パインアップル生産拡大事業でございます。これは、宮古島市におきましても沖縄県産の生食用パインアップルの生産振興､それから産地化を目指すためこの事業を要望したところ、４月に県から内示がありました。内容としましては、県登録の品種を、増殖用の苗を確保した上で３年かけて増殖を行う事業となっております。予算についている原材料費は、酸性土の購入であるとかその栽培に係る費用となっております。

◎下地　茜君

パインアップルについてだけお聞きしたいなと思います。

農家のニーズがあったので、宮古島市のほうで補助メニューを整えて県に出されたのかなと推測していますけども、宮古島市内のこの支援事業の対象者としての農家をどのくらい想定しているのかというところをお聞きできればと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

令和６年度現在でございますけれども、宮古島市で生産している農家が24戸ございますので、それが対象となっております。

◎教育部長（久貝順一君）

根間康雄議員の先ほどの質疑の中で漏れがありましたので、お答えをいたします。

まず、議案第50号、議決内容の一部変更についてから議案第52号、議決内容の一部変更についてのものです。まず、議案第50号、議決内容の一部変更についての城東中学校の入札業者につきましては、入札者が２者となっております。議案第51号、議決内容の一部変更についての上野小学校屋内運動場、また議案第52号、議決内容の一部変更についての伊良部島小中学校プールの事業につきましては、入札者がいないため入札不調となりまして、その後随意契約を結んでいるところです。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎我如古三雄君

２点ばかり質疑します。

まず最初に、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）の補正予算書26ページです。２款総務費、１項総務管理費、13目地域振興費のコミュニティ助成事業が1,587万5,000円補正がありますが、これはどこのほうにこの助成事業、公民館のあたりかと思うんですが、この内容の説明お願いします。

それから、あと議案第51号、議決内容の一部変更についての上野小学校体育館。議決内容の一部変更についてであります。現在、床の張り替えとか行っているところでありますが、これは関連して緊急性を要しますので、この上野小学校体育館の天井の照明が、26基中11基がもう長い間照明が切れているんです。これ前々から指摘をしているが、対応が遅い。それで、今あまり暗いもんですから、子供たちもバスケットボールの部活とか、いろいろその他、隣の砂川小学校に行ったり、もう場所を切り替えて練習をしている状況。生徒の皆さん、保護者の皆さん方が、子供をいろいろと行き来して面倒を見ているというふうな状況であります。この照明が暗いと事故に遭う可能性も大であります。もう走り回っていますので、衝突して倒れる可能性も大きい。これ保護者の皆さんからも強く言われて、私も教育委員会の教育施設課に話をしているんですが、なかなか進展見られないということで、今のこの体育館の工事と連動して、切れている、照明が。もうほとんどの学校はＬＥＤに変更していると思うんですが、それを含めてこの設置ができないか、改修ができないか、この２点よろしくお願いします。

◎議長（平良和彦君）

我如古三雄議員、よろしいですか。議案と違っている方向でいっていると思うんで、ここは後で別でやってください。よろしくお願いします。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書26ページの総務費の説明欄でコミュニティ供用施設建設等事業補助金1,587万5,000円についてご説明いたします。

この予算は、野原部落会より要請のあったコミュニティ供用施設整備事業における実施設計作成のための予算となっております。本事業は防衛施設周辺整備事業補助金を活用し、地域コミュニティー活動、防災活動、地域行事等に活用できる施設整備を行う予算となっております。

（何事か声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時43分）

再開します。

（再開＝午前10時44分）

ほかに質疑はありませんか。

◎仲間誉人君

１点だけ質疑したいと思います。よろしくお願いいたします。

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）の補正予算書36ページの10款教育費、２項小学校費、３目学校建設費の説明欄、鏡原小学校屋内運動場改築事業の説明をお願いいたします。

◎教育部長（久貝順一君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書36ページ、10款教育費、２項小学校費、３目学校建設費の鏡原小学校屋内運動場改築事業の内容について説明をいたします。

現体育館が築42年が経過しておりまして、老朽化に加え、面積が527平方メートルと狭小であります。また、文部科学省が定める耐力度調査においても建て替え基準を満たしているということもありまして、今回改築事業を行うこととなっております。また、文部科学省が定めた学級数の児童数から割り出すと必要面積が919平方メートルとなっております。347平方メートル不足しておりまして、児童数に応じた面積を有していないのが現状であります。また、鏡原地区は近年緩やかな形で生徒数が増加傾向にもありますので、これらを踏まえて建て替えが必要であると判断をしまして、整備に向け、本定例会において補正予算を計上しております。ちなみに新体育館の面積としましては1,527平方メートル、現施設のおよそ３倍程度の広さとなっております。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時46分）

再開します。

（再開＝午前10時47分）

◎仲間誉人君

築42年で老朽化が進んでいるということで、しかしながら耐力度調査では要件を満たしているということでありますけれども、その工事期間、工期いつ頃を予定しているのか、お聞かせください。

◎教育部長（久貝順一君）

工期についてお答えいたします。

本６月定例会で予算承認いただいた後に、７月に入札と仮契約を行います。その後９月定例会で議決を経まして本契約となります。その後着工する予定となっておりまして、工期は約15か月間を見込んでおります。順調にいけば10月から工事を着工しまして、来年度12月いっぱいまでの期間の工期ということで合計15か月間の工期を見込んでおります。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎富浜靖雄君

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書の第２表、債務負担行為補正、７ページです。１点だけです。宮古島市総合体育館整備事業の変更があります。この変更内容を教えていただければと思います。

◎建設部長（下地睦子君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書７ページ、第２表、債務負担行為補正の宮古島市総合体育館整備事業（体育館）の部分ですけれども、令和８年度当初予算で体育館事業令和８年度から令和９年度までの債務負担、既に39億1,323万円承認をしていただいているところです。今回は、令和８年度から令和10年度分です。５月時点で概算要望を行っております。全体計画のうち令和10年度予算分につきましても防衛省に概算要求を行ったことから、今回債務負担の額と期間を変更するという内容のものです。

◎富浜靖雄君

防衛省に変更の内容を伝えて金額が増したという感じなんですか。これ先ほどから話が出ていますけど、中東の情勢は関係ないでよろしいですか。

◎建設部長（下地睦子君）

今回変更を行うことに関しては、その中東情勢に関する変更ではございません。これまで概算要望を行っているのが令和９年度分までだった、今年度５月時点で令和10年度分の概算要求も行ったことで総事業費全体分を債務負担で変更するという内容で、総事業費を今回全て上げるという内容です。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎下地信男君

私も、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）から質疑します。１点だけです。

補正予算書31ページの先ほど下地茜議員からも質疑がありました６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費、生食用パインアップル生産拡大事業、これ原材料費48万円ですけども、額は小さいんですが、県の委託金を受けてやるという話です。内容が聞き取れなかったので、もう一度これお願いしますということと、カキ養殖事業もそうでしたけど、新たに出てくる事業というのがどういったプロセスで上がってくるのかということを確認したいんです。例えば今回のこの事業というのは、この原材料費というのは原種なのか、それお答えしていただきたいんですけど、パイナップル生産組合から要望があってこういう予

算を措置していくのか。あるいは、その中で市の方針として本当にこの生食用のパインアップルの生産拡大に取り組むということが市役所内で確認をされて、その手段として最初の事業としてやっていくのかというそのプロセスが見えないというのがあって、カキ養殖事業もやりたい若者がいるということで、ただ実証事業で今後展開するかしないかは検証するとか、そういう話があって、どういうふうなプロセスを経てこういう予算化して拡大事業という銘打ってやっていくのかということと、今後のこの事業の後のパインアップル生産というのにどういうふうに取り組んでいくのかということ、この２点お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書の31ページです。６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費、生食用パインアップル生産拡大事業でございます。先ほどもお答えしましたけれども、市においても沖縄県産の生食用パインアップルの生産振興、それから産地化を目指すということがございます。そのため県に要望したところ、内示があったということで計上しております。今後３年ほどかけて増殖を行いまして、希望する農家に配布をした上で生産拡大に努めていきたいと考えております。

◎下地信男君

では、市としてこの生食用のパインアップルの生産拡大していこうという取組、もうこれは決まっていて、原材料費で取ったのはこれ原種を取って３年間で増やしていくという話になるんですか。その際パインアップル生産農家などとの調整というんですか、こういう計画のすり合わせというか、そういうのがしっかりとした計画の下にされているのかどうか確認をさせてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

まず、今回の予算でございますけれども、原材料費、これは苗については県から無償提供していただきます。栽培に必要な土の購入とか栽培用のポットの購入費用となっております。まず、３年間かけて農政課が管理している旧みどり推進課のハウス、そこで増殖を行った上で、農家への配布はもうちょっと先になるかと思いますけれども、当然産地協会がございますので、その生産者と意見交換しながら進めていくことになると思います。

◎下地信男君

この原材料費というのは、苗を育てていくための肥料になるんですか。この48万円というのは県の委託費ですよね。県の委託費をそのまま48万円計上しているというのは、県からはこの育苗のための資材を委託しているということになりますか。そうだとすると、この苗というのがどこから調達してやるんですか。その計画はしっかり生産農家の皆さん方には共有されているんですかという質疑を先ほどしました、最後の質疑ですね。まあ分かります。そういう観光がどんどん進んでいて、地場産業盛り上げて、これを観光と農家の収入につなげようというのはよく分かるんですけど、カキ養殖事業も何かそのプロセスというのが曖昧で、生産農家との本当にすり合わせでやっているのかなという気がして、ある一部の担当職員がこれ面白いからやってみようという話の部分だけでやっているような、いわゆる将来の計画というのがどうなっているかとなかなか見えないので、３年間で育苗して農家に配布した後のことも考えなくちゃいけないですよね、生産拡大ということでは。そういうことを踏まえながらの市としてこういう拡大していこうという事業なのかということが気になりました。先ほどの質疑について答弁お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

増殖用の苗につきましては、沖縄県農業研究センター石垣支所から導入する予定となっております。

それから、この事業の導入目的の一つとしまして、もちろん生産拡大もあるんですけれども、正規ルート以外で入手した苗を栽培している農家がいらっしゃるということで、その正規ルート以外の苗の流通防止目的もございます。それと、生産拡大という意味でございます。今後生産農家の皆さんともしっかり意見交換していきたいと考えております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎國仲昌二君

よろしくお願いします。まず、議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について、この地域手当のものですけども、これは何で当初ではなくて６月定例会での計上になったのかというのを教えてください。

あと、20ページですけども、議案第53号、宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定についての部分です。指定の期間が供用開始の日からとなっているんですけど、これまだ供用開始していないんでしょうか、これもお聞かせください。

あとは、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）のほうに行きます。一般会計の補正予算です。補正予算書19ページの18款財産収入、２項財産売払収入、１目不動産売払収入、土地売払収入、これの説明。それから、もし件数が何件かあればこの件数も教えてください。

あと、補正予算書20ページの20款繰入金、２項基金繰入金、７目庁舎等建設基金繰入金、これがマイナス3,850万円ですけども、これどこに充当しているのかというの教えてください。

あと、補正予算書26ページの２款総務費、１項総務管理費、19目政策推進事業費の中の宮古島市ふるさと納税イベント事業の内容を教えてください。

あとは、補正予算書36ページ、10款総務費、２項小学校費、３目学校建設費、鏡原小学校の屋内運動場改築事業ですけども、約１億6,000万円です。これかなり額が大きいんですけど、なぜ当初ではなくて６月補正予算で計上するのかというのと、あと特定財源その他がマイナス104万3,000円となっているんですけど、これについての説明もお願いします。

以上、よろしくお願いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

私のほうからは、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）のほうの補正予算書26ページ、２款総務費、１項総務管理費、19目政策推進事業費、宮古島市ふるさと納税イベント事業の普通旅費予算292万9,000円についてお答えいたします。

この事業ですけども、宮古島市のふるさと納税、企業版ふるさと納税の寄附額増加に向けた新たな取組として、本年11月に東京都内で開催予定の企業版ふるさと納税イベントに係る旅費となっております。内訳ですが、１つ目に、イベント参加呼びかけのため、首都圏の企業へ訪問するための旅費として73万2,000円。

２つ目に、このイベントですけども、市職員による市の課題解決のために企業版ふるさと納税を活用し

たい事業のプレゼンテーション、課題解決に企業の協力を求めるプレゼンテーションがあります。このプレゼンテーションに係る事業は、最大５つの事業を予定しております。１事業につき担当課の職員２名の参加を予定しているため、計10名分の旅費として183万1,000円を計上しております。

３つ目に、イベントで反応のよかった企業へ市長のトップセールスを実施するため、ふるさと創生課から随行職員の旅費として36万6,000円を計上しております。

◎福祉部長（守武　大君）

議案書20ページ、議案第53号、宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定についてです。城辺地域密着型介護事業所指定管理の選定についての指定期間が供用開始日からとなっている理由でございます。現在、城辺地区の地域密着型介護事業所は、小規模多機能型居宅介護事業所きゃーぎといって西城にある事業所で、社会福祉協議会が指定管理を受けて運営しているところでございますが、老朽化がひどくて城辺庁舎のほうに移転をするという計画で、現在城辺庁舎１階の入って左側の部分、改修工事中でございます。工事の進捗は、今月中には工事は終了する流れになっておりまして、その後に完了検査があったり、引っ越しの手続とかがあって、予定としては10月までに引っ越し等完了して供用開始をしたいという思いがあるところです。ただ、10月よりもしかしたら早くなるかもしれないという部分もありますし、事情によっては10月１日を超す可能性もあるということで供用開始の日からという形にしています。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

私のほうからは、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書19ページ、18款財産収入、２項財産売払収入、１目不動産売払収入です。これは、3,625万7,000円は、佐良浜こども園建設予定に係る土地売買契約を令和８年４月１日付で社会福祉法人ムサアザ福祉会と締結をし、その土地売払いの収入が生じることから歳入の予算化をしております。

全部で何件かというご質疑でございますが、１件のみということでございます。

◎総務部長（上地俊暢君）

議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について、地域手当の条例提出についてでございますが、地域手当については今年度から内閣府本部に派遣しております職員に支給する手当でございます。昨年度から内閣府本部と職員派遣について調整を行ってきましたが、中身のほうが固まったのが３月中旬頃でしたので、３月定例会に事前に提案することができませんでした。そのため、今定例会の提案となっております。

それから、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書20ページ、20款繰入金、２項基金繰入金、７目庁舎等建設基金繰入金、庁舎等建設基金繰入金についてでございます。今回3,850万円減額としております。庁舎等建設基金については、庁舎建設や市長が必要と認める施設整備の財源に充てるため設けた基金となっております。該当事業の必要な額を一般会計に繰り入れて充当するものとなりますが、令和８年度においては当初予算で４事業に基金繰入金を充当する予算内容となっておりました。そのうちの３事業について、県補助金の交付内示額の増や先ほどこども家庭局長からありました不動産売払収入の予算化に伴って財源振替を行っているところでございます。

補正予算書36ページの10款総務費、２項小学校費、３目学校建設費のその他の財源104万3,000円の減額も、先ほど申し上げました庁舎等建設基金、それの財源振替に伴う減額というところでございます。

◎教育部長（久貝順一君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書36ページの10款総務費、２項小学校費、３目学校建設費、鏡原小学校屋内運動場改築工事のものであります。なぜ今回の６月補正予算での予算要求なのかということです。例年１月に県との予算ヒアリングを行いまして、３月下旬頃に内示があります。その後５月末に正式な交付決定がなされますので、当初予算の編成時期には間に合わなかったというところもありますので、今回の補正要求となっております。

◎國仲昌二君

まず、地域手当ですけど、調整がぎりぎりだったということなんですけども、私がなぜそういう説明したかというと、４月に戻ってそれの適用ということで、４月、５月はではその職員が負担することになるねということで、できれば当初で条例改正ができなかったかということでした。これもその条例を改正しても、その調整がうまくいかなくても特にその条例を適用する必要はないので、そこら辺でもうちょっと職員に配慮する必要があったんではないかなと思うんですけど、そこら辺の考えをお願いします。

あと、補正予算のほうです。土地売払収入で佐良浜小学校の跡地ですか、そこの話が出ていましたけど、これいろいろ住民説明会とかもやって、いろいろそういう報道とかもあったんですけども、これも住民との合意というのかな、その説明はしっかりなされたのかというのをお願いします。

あと、その次のページ、庁舎等建設基金繰入金、これ３事業で財源振替ということでしたけれども、これはこの補正予算書に反映されているんでしょうかね、この財源振替。それをお願いします。

あと、鏡原小学校の予算計上、これ新規だと思うんですけど、その他がマイナスになるというのがよく分からないんですけども、そこら辺の説明もう一度お願いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

地域手当の制定でございますが、國仲昌二議員ご指摘のとおり、派遣する前に整備すべきだったと考えております。職員に今負担がかかっているところは承知しております。

それから、庁舎等建設基金の財源の充当が、補助金の内示の決定と土地の売払いによって財源振替しておりますが、本予算についても反映されておりまして、基金の減額と補助金の増額がありますので、事業が明記はされておりませんが、財源振替のところは反映されているところでございます。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

補正予算書19ページの土地売払収入のほうに関して住民の合意は得られているかというご質疑でした。令和７年度において、大小ありますけれども、５回以上の説明会を開いて合意は得られております。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時18分）

再開します。

（再開＝午前11時18分）

◎総務部長（上地俊暢君）

補正予算書36ページ、学校建設費の特定財源その他の104万3,000円の減額でございます。記載には鏡原

小学校の事業が入っておりますが、先ほども申し上げました財源振替がございまして、基金繰入金減額が伊良部島小中学校プール整備事業、それから上野小学校の屋内運動場の改修事業、この２つです。この２つの相殺をしまして、その他財源のほうが合わせて104万3,000円の減額ということになっております。

◎國仲昌二君

今の補正予算書36ページの件ですけど、説明の欄は鏡原小学校だけになっていますよね。ですから、財源振替した部分はこの説明欄で説明する必要があるんではないかなと思うんですけども、その辺の考えお聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

財源振替については、これまでも説明欄には設けておりません。本市のシステム上も今こういう対応できておりませんので、現在は記載していないというところでございます。今後記載が可能かどうか、また調査してみたいと考えております。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時20分）

再開します。

（再開＝午前11時22分）

◎副市長（砂川　朗君）

補正予算書の表示の仕方についてでございますが、目の中で学校建設費、今回の部分で例示としてお示ししますけども、学校建設費の中で補正予算が計上される場合と財源振替のみがある場合、複数ある場合、この場合は補正がある事業は名称が出てきます。その際にはもう一つ、財源振替のみが行われた場合は事業がほかにない場合は記載されていたんですけど、今回の場合、複数の事業で補正予算が計上されたことと財源振替のみの事業があったので、これが優先されて補正のあった事業名のみが出てくるというようなシステムになっております。これまで財源振替のみがあった場合にはその表示がされてきたという経緯がございます。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

◎狩俣勝紀君

報告第10号、令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告について、32ページ、33ページかな。大嶺１号・２号配給水管改良工事の件、あと大嶺３号・スバリ地区配給水管改良工事の中で、説明として仮舗装から本舗装に入る前の掘削方法が変更になったためとありますけども、その掘削方法と、ただ金額が変わったのか、変わっていないのか。そのままの金額なんですけど、金額に変更はないですかという点、２点お願いします。

◎水道部長（砂川　勤君）

報告第10号、令和７年度宮古島市水道事業会計予算繰越計算書の報告についてお答えいたします。

道路占用許可を得るんですけども、道路管理者と路面復旧幅について、道路復旧する際に舗装工の距離

が変わったために、その分の協議に少し時間を要したということです。これについて、掘削幅の増、そして舗装工の単価、その幅による工事費かかりますので、予算は工事費の増が発生いたします。なので、協議が長引いたので、その分繰り越しで、数量も工法が変わりますので、その分の金額の変更も発生するということになります。

◎狩俣勝紀君

変更するということですか、金額。変更。金額はそのままなんですけど。動いていないように見えますけど。

◎水道部長（砂川　勤君）

金額変更になるんであれば7,000万円を超すんではないかというご意見だという受け止めなんですけども、現在契約額は5,258万円になります。今後変更、増額するんですけども、7,000万円、当初予算範囲内で収まるということになる予定でございます。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時29分）

再開します。

（再開＝午前11時29分）

◎粟国恒広君

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書で33ページ、10款土木費、２項道路橋りょう費、３目道路新設改良費について、14節工事請負費が7,855万9,000円と。これはどこの道路ですかということを説明してください。お願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、補正予算書の33ページ、10款土木費、２項道路橋りょう費、３目道路新設改良費、14節工事請負費、社会資本整備総合交付金事業ですけれども、これ令和８年度における社会資本整備総合交付金事業は、Ａ―56号線、Ｂ―57号線、山中11号線の３路線を予定しております。今回この工事費として計上しているのは、Ａ―56号線とＢ―57号線の道路の改良工事を予定している箇所でございます。

（「議長、休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時30分）

再開します。

（再開＝午前11時31分）

◎豊見山貴仁君

さくっといきたいと思います。

議案第44号、令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）、１款資本的支出、１項建設改良費、１目施設費の委託料、伊良部浄水場建築耐震補強詳細設計業務委託、２目営業設備費、器具備品購入費、

こちらの説明お願いします。

◎水道部長（砂川　勤君）

議案第44号、令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）、１款資本的支出、１項建設改良費、１目施設費、伊良部浄水場建築耐震補強詳細設計業務委託です。昨年度耐力度調査を行いました。その中で一部耐震性能を有していないという旨の診断結果を受けまして今年度実施すると。その際に６月定例会で補正予算を計上している理由としましては、耐震結果が出たのが３月23日でしたので、当初予算に組めなくて６月定例会となっております。

もう一点、１款資本的支出、１項建設改良費、２目営業設備費、器具備品購入費の27万5,000円は、４月下旬にプリンターが故障しましたので、その買換えのための予算でございます。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

（「進行」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて質疑を終結します。

ただいま議題となっております20件のうち、日程第１、議案第43号から日程第12、議案第54号までの計12件については、議案付託表のとおり各所管委員会に付託します。

なお、議案第43号の歳出については、歳出款項別審査委員会表により、所管委員会のご審査をお願いします。

これで本日の日程は全部終了しました。

よって、本日の会議はこれにて散会します。

（散会＝午前11時34分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月19日（金）　　３日目

（一　般　質　問）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第３号

令和８年６月１９日（金）午前１０時開議

日程第 １　　一般質問

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月１９日（金）

（開議＝午前10時00分）

（延会＝午後４時43分）

◎出席議員（２２名）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（０名）

◎説　明　員

市長	嘉数登君	環境衛生局長	梶原健次君
副市長	砂川朗〃	会計管理者	友利和代〃
企画政策部長	石川博幸〃	水道部長	砂川勤〃
総務部長	上地俊暢〃	消防長	狩俣勝彦〃
福祉部長	守武大〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
農林水産部長	下地貴之〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
建設部長	下地睦子〃	教育長	宮城克典〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	教育部長	久貝順一〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	生涯学習部長	天久珠江〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）諸般の報告書

令和８年６月１９日（金）

	宮古島市監査委員の上地廣敏委員、狩俣政作委員の両名から令和８年４月分例月出納検査結果報告があった。 以上

一　般　質　問　通　告　書

発言順位	1	議員番号	18	氏　　名	我如古　三　雄
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．日米共同訓練について ①陸上自衛隊と米海兵隊との実動訓練が宮古島で初めて６月25日から29日までの期間で行われる。以上を踏まえて伺う。今回の訓練計画によると日米共同による災害対処訓練が共同調整所の運営、共同衛生、急患護送、航空機による物資補給と輸送など、島嶼防衛を想定した計画となっている。中東情勢や自然災害発生など現実を注視して備えることは、リスクの最小化にもつながり大変重要であります。このようなことからも今回の災害対処訓練は市民の安心、安全を守る上から極めて重要かつ意義ある訓練であると考えます。市長の見解を伺う。 ②市民の不安解消に向けた対策について伺う。 ２．うえのドイツ文化村廃止について ①宮古島市行政経営会議は、うえのドイツ文化村を機能判定で公共施設としての機能は廃止すべきとして嘉数登市長に答申した。以上を踏まえて伺う。廃止の意図について伺う。 ②うえのドイツ文化村建設の歴史的背景に対する当局の現状認識について伺う。 ③答申内容の廃止すべきは、本市の観光交流の拠点施設が揺らぎ上野地域のみならず、各方面からも懸念されており、本市の観光振興施策においても大きな損失となるのは明白で極めて重大であります。廃止すべきは、徹回すべきと考えます。市長の見解を伺う。 ３．ドイツ皇帝博愛記念碑建立150周年記念「博愛150年宮古島フェスト」に対する支援について ①今年150周年の好機に、ドイツ生徒たちを迎えた友好交流（音楽交流）の国際行事をＪＴＡドームにおいて開催し、ドイツ国との相互の絆を一層深め、今後の文化、経済、観光交流の促進と地域活性化につなげる出発点にする。以上の観点から行政当局の支援について伺う。 ②日独友好交流をさらに推進する観点からドイツ都市との友好交流姉妹都市締結について伺う。 ４．３Ｄプリンター住宅整備について

	①本市において、沖縄県内においては初めてとなる先進技術活用型住宅整備事業が導入される。事業の概要目的について伺う。 ②建設場所について、上野トロピカルフルーツパーク内に決定に至った経緯について伺う。 ③本市においては、若者の定住について課題を抱えている一方で、医師や看護師、介護士、教師等の専門性が高い職種の方が不足している傾向にあります。入居者はどのような方が対象となるのか伺う。 ④入居開始時期について伺う。 ５．イムギャーマリンガーデンの指定管理について ①イムギャーマリンガーデンの管理について、現行は使用許可書に基づいて長年にわたり、個人による管理体制で対応している。しかし、公共施設である以上、公共性、公平性を保つ観点から、指定管理者制度に基づき住民の福祉増進に役立て機能させる必要があります。個人管理者に対する指導及び退去命令など、これまでの経緯について伺う。 ②退去命令に従わない場合の今後の対応策について伺う。
２．市民の利便性向上について	１．宮古島市公式ＬＩＮＥについて ①本市の公式ＬＩＮＥは、市民のニーズに対応した効果的な行政サービスを提供しており、市民の利便性向上につなげる上からも大変重要であります。直近における本市公式ＬＩＮＥの登録者数について伺う。 ②受信設定、生活密着機能を追加して情報の共有化を図るなど、充実強化に向けた今後の取組について伺う。
３．本市の外国人労働者について	１．本市における外国人労働者について ①現在、様々な分野において、人手不足が深刻になる中で、経済や社会の担い手として外国人労働者は存在感を高めています。以上を踏まえて伺う。本市における外国人労働者数について伺う。 ②国の外国人労働者支援策は深刻な人手不足を背景に、特定技能や育成就労などの制度を活用した受入れが拡大している。外国人労働者が本市に与える経済効果について伺う。
４．本市の出生数について	１．本市における出生数の推移について ①2025年の全国の出生数が過去最少を更新した。以上を踏まえて伺う。 ア．本市は、宮古島市子ども・子育て支援条例（仮）の策定により子育てのしやすい島を目指し、子育て世代が安心して子供を

	産み育てることのできる環境づくりを推進するとしている。本市における過去５年間の出生数について伺う。
５．子供が増えない要因について	１．子供が増えない要因について ①子供が増えない主な要因について伺う。
６．少子化対策について	１．少子化対策の取組について ①少子化対策のさらなる今後の取組について伺う。
７．サトウキビ生産振興について	１．サトウキビ新品種の普及について ①サトウキビ栽培において、連続した株出しでの多収とビレットプランターでの機械植付けに適した新品種が開発された。農家の高齢化や労働力不足を補うと同時に、サトウキビの安定した生産の構築を目指す必要があります。新品種の普及拡大に向けた取組について伺う。
８．水道行政について	１．安定的な水源確保について ①入域観光客の増大及び観光需要の大幅な伸びと、大渇水時など万が一に備えた水源確保について新水源確保が求められます。新たな水源確保の開発に向けた取組について伺う。
９．消防行政について	１．インバウンドによる救急搬送について ①インバウンドの急激な増加に伴い、本市における救急搬送の現状について伺う。
10．教育の振興について	１．ラーケーション制度導入について ①児童生徒が家族と過ごす時間のため、平日に学校を休めるラーケーション制度の導入が全国の自治体や県内の市町村でも広がっている。本制度に対する当局の見解を伺う。 ②働き方改革の一環として、親が土日に休みづらい環境でも家族で過ごす時間を確保できることや、欠席扱いにならない観点からも運用を拡大し、導入すべきと考えます。当局の見解を伺う。 ２．学校図書館における新聞の配置について ①国は、公立学校の図書館整備に地方財政措置（地方交付税）を講じている。 ア．学校図書館の予算や充実度に地域間格差が生じないためにも学校図書館に新聞配置が必要と考えます。本市における配置状況について伺う。 ②図書館司書と教員がテーマ別の新聞スクラップブックを作ることで授業や調べ学習に活用でき、子供たちは世の中とのつながりを実感でき、学びの姿勢はより主体的になる。このようなことから学校図書館への新聞配置が果たす効果は大きいと思慮する。当局

			の今後の対応についてを伺う。		
発言順位	2	議員番号	11	氏　　名	前　里　光　健
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ
発　言　事　項			要　　旨		
１．市長の政治姿勢について			１．「地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会（意見交換会）」について 南西諸島を取り巻く安全保障環境の変化に伴う日米共同訓練等の受入れに関して、市民から寄せられている不安や疑問の声を直接伺い、今後の市政運営に生かす目的に開催されている。以上踏まえて伺う。 ①６月25日から始まる日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」の受入れについては、有事を未然に防ぎ、戦争を起こさせないための抑止力､危機管理能力を高める取組につながるものと考えるが、市長の認識を伺う。 ②「日米共同訓練については、国や沖縄防衛局から説明を受けて、その都度判断する。一方で米軍単独訓練については、自粛を求める」という考え方について伺う。 ③「地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会（意見交換会）」で出された市民意見を、今後の施策や計画にどのように反映させていくのか伺う。		
２．福祉行政について			１．第４次宮古島市地域福祉推進計画について 宮古島市では、令和８年３月に第４次宮古島市地域福祉推進計画が策定されており、本計画では、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり、地域共生社会の実現を目指している旨の記載がある。以上踏まえて伺う。 ①第４次宮古島市地域福祉推進計画の中の指標で「住んでいる地域を『住みよい』と考えている住民の割合」が前回調査より減少していたが、その要因について伺う。 ②住みよい地域づくりのためには、公的ボランティア（保護司、民生委員・児童委員、人権擁護委員、行政相談委員など）の位置づけを明確にし、関係機関との連携強化を第３次宮古島市総合計画に盛り込む必要があると考えるが、当局の見解を伺う。		
３．教育行政について			１．ＧＩＧＡスクール構想・ＡＩ・ネットモラル教育について 本市では、ＧＩＧＡスクール構想に基づき、児童生徒へのタブレット端末の整備が進められ、導入から約５年が経過した。端末の整備により、授業や家庭学習におけるＩＣＴ活用が進んでいる。以上		

	踏まえて伺う。 ①タブレット端末導入によって、「児童生徒の学力向上」「学習意欲の向上」「個別最適な学びの実現」の部分にもたらされた成果について伺う。 ②課題について伺う。 ③タブレット端末活用の成果や課題を把握するため、児童生徒、教員、保護者を対象としたアンケート調査や意見聴取を実施しているのか伺う。 ２．教育現場におけるＡＩ活用について ①教育現場におけるＡＩの活用に関する方針（児童生徒がＡＩを活用する場合のルールや指導方針の策定など）について教育委員会の見解を伺う。 ３．情報モラル教育の充実について タブレット端末やインターネットの活用が進む中で、児童生徒がＩＣＴを正しく安全に活用するためには、情報モラル教育の充実が重要であると考える。以上踏まえて伺う。 ①近年、本市で発生した、小中学生が巻き込まれたインターネット関連のトラブルについて（内容、件数など）伺う。 ②本市の小中学校における情報モラル教育の実施状況について伺う。 ４．夏休み対策について 本市は離島圏に位置し、物価高騰や輸送コストの影響を受けやすい環境である。夏休み期間中における子供たちの健やかな成長を守るため、教育委員会、学校、関係部署が連携し、現状把握と必要な支援につなげる取組が重要と考える。以上を踏まえて伺う。 ①夏休みなどの長期休暇期間中において、児童生徒の生活環境や健康状態について、教育委員会としてどのような課題認識を持っているのか伺う。
４．企画行政について	１．令和７年度宮古島市物価高騰対策事業について ①予算議決後、本来想定されていた時期よりお米券配布が遅れた理由について伺う。 ②市民生活への影響をどのように認識しているのか伺う。
５．建設行政について	１．中心市街地活性化計画について 令和６年４月に改定された中心市街地活性化基本計画における都市再生推進法人の認定制度については、市においても民間主導のまちづくりを後押しする重要な制度として、前向きに検討が進められ

	ているものと認識している。以上踏まえて伺う。 ①都市再生推進法人の認定制度について、市は現在どのような検討を行っているのか伺う。 ②公募要領等（公募、審査、認定）スケジュールの整備について伺う。
６．自治行政について	１．宮古島市における認可地縁団体の現状について ①認可地縁団体の認可申請や認可後の運営に関する相談件数について伺う。 ②近年の相談件数の推移について伺う。 ③相談内容として、どのような課題が多く上がっているのか伺う。 ④本市として、認可後の団体が適正かつ円滑に運営できるようどのようなサポート体制（手引やＱ＆Ａの作成、説明会や個別相談の実施など）を整備しているのか伺う。
７．港湾行政について	１．平良港国際クルーズターミナル受入れ施設及び施設周辺における課題について ①３月定例会で指摘した平良港国際クルーズターミナル受入れ施設及び周辺施設における課題解決に向けた市の取組について伺う。
８．情報行政について	１．市役所のパソコン押収について

発言順位	３	議員番号	１	氏　　名	豊見山　貴　仁
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．2025年第９回定例会（12月）で提起した課題の進捗状況について	１．離島（伊良部島、池間島、来間島）の橋周辺への防犯カメラの設置について 以前の市の答弁（2025年第９回定例会一般質問）で「当初予算の中で優先順位を再度検討していく」との答弁をいただいた。その答弁を踏まえて伺う。 ①令和８年度、補正予算等での設置に向けて予算計上を行う検討はなされているか伺う。
２．野そ防除対策について	１．ドローンを活用した野そ防除対策の実証事業について ４月28日、多良間島で農業機械メーカーが開催した実演会で、ドローンによる野そ防除剤を散布する技術などが公開されたと聞いた。以前の市の答弁（2025年第９回定例会：仲間誉人議員への答弁）で、ドローン用の殺そ剤（野そ防除剤）が現状はないということであったが、状況が変わったと認識している。その認識を踏まえて伺う。 ①令和８年度、ドローンを活用した野そ防除対策を、実証事業とし

	て行うことはできないか伺う。
３．地下水保全について	１．航空自衛隊宮古島分屯基地で発見された汚水について ６月６日、航空自衛隊宮古島分屯基地内において、設置時期や用途が不明な地中構造物が発見され、その内部に汚水が溜まっていたとの報道があった。報道によると、汚水は異臭を伴い、約30トンの水量があるとされている。また汚水からダイオキシン類や有機フッ素化合物（ＰＦＯＳ・ＰＦＯＡ）が検出され、市民の間では、地下水や周辺環境への影響を心配する声も挙がっている。この事案に関する市の対応について伺う。 ①市は現時点でまとまった流出は確認されておらず、危険性が生じている可能性は低いと説明しているが、不安を解消するには根拠に乏しいと感じる。市長は本事案を受け、市民に対し、どのように安全・安心を確保していく考えか伺う。 ②今回、沖縄防衛局が汚水を確認してから市へ報告するまでに約２か月を要している。本事案を早期に解決していくためには、市と沖縄防衛局との緊密な連携が不可欠であると考える。しかしながら、このような情報共有の時間差が生じたことについては、今後の対応に不安を感じる。市は沖縄防衛局に対し、早急な調査の実施を要請しているとのことだが、今後、水質調査を含む周辺環境調査や情報共有について、沖縄防衛局とどのような連携体制を構築していく考えか伺う。 ③本事案において、市が、正確な情報を迅速に発信することが市民の安心につながると考える。市長は今後、市民への情報提供をどのように進めていく考えか伺う。
４．下地島農業エリアについて	１．市が下地島に所有する農地の利用状況について ①現在の農家への貸付状況を伺う。 ②未利用地がある場合、その理由を伺う。 ２．農業振興への効果について 下地島農業ゾーンは、高付加価値作物の生産による地域農業の振興や担い手育成を目的として整備されたものと認識している。そのことを念頭に伺う。 ①これまでの成果について、本市はどのように評価しているのか伺う。 ②下地島農業ゾーンについて、今後どのような活用方針を持っているのか伺う。
５．中小企業支援について	１．地元企業優先活用について

	以前の市の答弁（令和８年第２回定例会）で、本市では物品調達等の契約において、市に本店または支店の営業所がある事業所を名簿に登録し、各部署においては当該名簿から見積徴取を行っているとの答弁をいただいた。この制度は、地元企業の受注機会を確保するための重要な仕組みであると考える。他方、地元事業者の皆さんからは、「制度があることを知らなかった、または知っているが、実際にどの程度活用されているのか分からない」「島内で対応できる案件であっても、市外事業者が受注しているように感じる」といった声も聞かれる。地元企業の皆さんは、地域の雇用を守り、地域行事やスポーツ活動を支え、災害時には地域の最前線で活動するなど、物心両面から地域社会を支える重要な存在だと考える。だからこそ、制度があるからでなく、その制度が実際に機能しているかを検証することも重要であると考える。そのことを念頭に伺う。 ①令和７年度の物品調達や業務委託等において、地元企業の受注率を伺う。 ②地元企業が対応可能であるにもかかわらず、市外企業が受注した案件について、その理由を伺う。
６．市の人事評価制度について	１．人事評価制度の効果と課題について 人事評価制度は、職員一人一人の能力向上や組織力の強化、さらには士気向上を目的として運用されているものと認識している。一方で、人事評価制度については、民間企業においても評価の公平性や納得性の確保、評価者によるばらつきなど、様々な課題が指摘されていると聞く。そのような課題も踏まえ、以下について伺う。 ①現在の制度運用における課題についてどのように認識しているのか伺う。 ②職員からの意見や要望を制度改善に反映する仕組みがあるのか伺う。 ２．会計年度任用職員の人事評価について 会計年度任用職員について伺う。 ①市の会計年度任用職員に対して、人事評価はどのように実施されているのか伺う。 ②評価結果は、翌年度の任用や報酬決定にどのように反映されているのか伺う。 ③会計年度任用職員のモチベーション向上や、評価の高い人材確保の観点から、処遇改善について今後どのように取り組む考えがあるか伺う。

７．宮古島市検定料補助金交付事業について	１．令和８年度、市は検定料補助事業を拡充した。この事業拡充は、子ども議会で挙がった要望を受けて実現したものであり、子供たちの学習意欲の向上につながる取組として高く評価している。一方で、学校によって受検できる検定の種類や実施回数に差があるとの声を聞いた。そこで伺う。 ①小中学校ごとの検定実施状況について伺う。 ②小中学校ごとの受検者数について伺う。 ２．本事業の目的は、単に受検者数を増やすことではなく、児童生徒の学力向上や学習意欲の向上につなげることにあると考える。そのため、本事業の成果を検証・評価するに当たっては、受検者数だけでなく、検定の合格率やその推移を把握することも重要であると考える。令和７年度に実施した同様の事業では、合格率の算出を行っていないと伺った。そのことを踏まえて伺う。 ①教育委員会は、本事業の成果をどのような指標に基づいて評価しているか伺う。 ②今後、本事業の効果を数値として検証するため、各検定の合格率の推移を、一つの指標として把握し活用する考えはあるか伺う。
８．市職員による公金横領問題について	１．宮古空港駐車場利用料金の着服事案について ５月21日、市職員が宮古空港駐車場の利用料金である公金の一部を着服していたとの報道があった。当該職員は懲戒免職処分となり、市からは再発防止策として、保管金庫の変更や防犯カメラの設置などを実施する方針が示された。しかしながら、本市では過去にも公金に関する不適切な事案が発生しており、市民の信頼回復のためには、この事案は決して個人の問題として終わらせるのではなく、組織としてなぜ防げなかったのかを検証し、実効性のある再発防止策を講じることが重要であると考える。また、現金管理業務の属人化や内部チェック体制、人員配置のあり方など、組織運営上の課題がなかったのかについても検証が必要だと考える。市民からお預かりした大切な公金を適正に管理するためには、場当たり的な対策ではなく、全庁的な内部統制の強化と、再発防止に向けた根本的な現金管理体制の構築が求められると考える。そのことを踏まえ伺う。 ①発生原因の分析について ア．今回の事案が発生した原因について、本市はどのように分析しているのか伺う。 イ．現金管理体制や内部チェック体制にどのような課題があったと認識しているのか伺う。

	②現金管理体制の標準化について 本市では、空港駐車場をはじめ、各種使用料や手数料など、様々な部署で現金を取り扱っていると考える。そこで伺う。 ア．本市には現金管理に関する統一的なガイドラインまたはマニュアルが整備されているのか伺う。 イ．現金の受領から保管、集計、入金までの手続について、各部署において適切に運用されているか確認を行っているのか伺う。 ③属人化と人員配置について 不正や事務ミスは、特定の職員に業務が集中し、チェック機能が働かない環境で発生しやすいと言われている。そのことを踏まえて伺う。 ア．現金を取り扱う業務について、特定の職員に依存する「属人化」の状況はないか伺う。 イ．複数人による確認体制構築のため、人員配置は十分であると認識しているのか伺う。 ウ．人員不足による業務過多が、内部統制上のリスクとなっていないか、市の見解を伺う。 ④公金管理においては、職員個人のモラルに依存するのではなく、不正を起こしたくても起こせない仕組みを構築することが重要と考える。本市は今回の事案を踏まえ、どのような組織づくりを目指していくのか市長の見解を伺う。

発言順位	4	議員番号	6	氏　　名	根　間　康　雄
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．企画政策行政について	１．宮古島市上野トロピカルフルーツパークについて ①宮古島市上野トロピカルフルーツパークのコンセプトとして、宮古島全体を森と捉えいのちの森を島全体に展開する拠点施設と位置づけるとありますが、当局の見解を伺う。 ②地域住民の憩いの場や魅力ある観光地、市の農業発展に寄与するための施設とするとありますが、当局の見解を伺う。 ③宮古島の農業と産業の融合をコンセプトに農業や観光、エコを連携した施設となるとありますが、当局の見解を伺う。 ２．宮古島市上野トロピカルフルーツパーク設置及び管理に関する条例について ①第１条に宮古島市の産業及び観光の振興を図り並びに市民の憩い

	の場を提供するため、宮古島市上野トロピカルフルーツパークを設置するとありますが、当局の見解を伺う。 ②第３条に宮古島市上野トロピカルフルーツパークの施設は農産物加工施設、多目的広場、展望台、駐車場、トイレ、遊歩道、格納庫、堆肥舎、マンゴーハウス及び育苗施設とするとありますが、当局の見解を伺う。
２．教育行政について	１．子供たちの生きる力をはぐくむ学校教育の推進について ①施策の基本方針１について 確かな学力の向上を推進するとして、目標項目を児童生徒の学力向上、学力・学習状況調査における全国との比較（粘り強さ）を令和３年度小学生73.5ポイント、中学生56.8ポイントを令和８年度は全国水準にするとしています。その達成率を当局に伺う。 ②施策の基本方針２について 豊かな心を育む教育を推進するとして、目標項目を学級集団づくり、質問調査による要支援郡の出現率を令和８年度は10%以下としています。その達成率を当局に伺う。 ③施策の基本方針３について 健やかな体の育成を図る教育を推進するとして、目標項目を体育の授業以外で運動に親しむ１校１運動の実施率を、令和２年度小学生87%、中学生72%から令和８年度は小学校、中学校ともに100%にするとしています。その達成率を当局に伺う。 ④施策の基本方針４について 地域とともにある学校づくりを推進するとして、目標項目を学校運営協議会の設置割合を令和８年度は100%としています。その達成率を当局に伺う。 ⑤施策の基本方針５について 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を推進するとして、目標項目を個別支援計画の作成校割合を令和８年度は100%としています。その達成率を当局に伺う。 ⑥施策の基本方針６について グローバル社会で活躍する人材を育成するため、子供たちによる国内外との交流を推進するとして海外ホームステイ参加者満足度を令和８年度は80%以上を目標としています。その達成率を当局に伺う。 ２．南小学校のそば、別名センダン木通りのセンダン木が枯れて倒れかかっています。生徒たちの安全のためにも早急の撤去が必要です。

	当局の対応について伺う。
３．環境行政について	１．環境保全地域について ①自然環境保全地域である与那覇湾、伊良部沿岸海域、下地島がありますが、宮古島一周道路（外周道路）にある海岸などを環境保全地域に指定できないか。当局に伺う。 ②市条例に基づく特別保全地区に大野山林、東平安名崎パナリがありますが、他に予定地はありますか。当局に伺う。 ③自然環境保全地域という固有名詞の指定でないものの、行政が明確に保全の網をかけている大神島周辺、来間島南・西沿岸、下地島西側の通り池周辺海域があります。他に予定地はありますか。当局に伺う。 ２．野犬について ①現在の宮古島市で野犬の数は把握されていますか。当局に伺う。 ②野犬は群れで活動します。現在３頭から６頭の群れが存在すると言われています。群れの数は把握されていますか。当局に伺う。 ③家畜咬傷被害で今年度は何件、報告されていますか。当局に伺う。 ④大型捕獲わなどの設置をしても、野犬は賢く捕えられないと聞いています。今後、子供や人への被害が懸念されます。早急に新たな捕獲対策は考えられているのか。当局に伺う。 ３．防災行政無線について ①防災行政無線の屋外スピーカーは現在、宮古島市内に何か所設置されているのか。当局に伺う。 ②宮古島市の中心である北小学校周辺にある屋外スピーカーの放送が聞こえなくなったと市民からの声がありました。現状はどうなのか。当局に伺う。
４．市長の政治姿勢について	１．３月26日に提出した決議案、台風や地震などの災害及び交通事故等に伴う重症患者の救助、救急搬送のヘリ部隊配備の要望について ①宮古島市の医療の現状は、高度救急医療体制や設備が不十分であると考えられます。市民の安全・安心のためにも対応をどう考えているのか、市長に伺う。 ②宮古―那覇間では年間平均約30件の救急患者搬送が行われています。現在ヘリ部隊は沖縄本島より出動しており、搬送中に患者が亡くなる事例もありました。宮古島市から搬送することに対する市長の考えを伺う。 ③防衛大臣宛ての意見書提出は否決されました。市長が４月または５月中に防衛大臣に前向きに要請すると伺いましたが、その後ど

		うなっているのか。市長に伺う。			
発言順位	5	議員番号	10	氏　　名	狩　俣　勝　紀
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ
発　言　事　項		要　　旨			
１．農林水産行政について

	について伺います。
４．防災行政について	１．津波警報発令周知について ①増加傾向にある津波警報周知のため、海水浴場等に津波フラッグ設置について伺います。
５．企画政策行政について	１．先進技術活用型住宅建設予定地について ①当初予定の旧平良児童館跡地から宮古島市上野トロピカルフルーツパークへの変更について伺います。

発言順位	6	議員番号	13	氏　　名	砂　川　和　也
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．海浜行政について	１．現在宮古島でマリン事業を営んでいる業者の数を伺う。 ２．マリン事業は届出制であるが、この制度を許可制にとの声があるが、市の考えを伺う。 ３．市が県から移管され管理する４海岸（前浜・砂山・吉野・中の島）にタトゥーや入れ墨等の露出規制看板設置は可能か伺う。 ４．17ＥＮＤ駐車場問題について
２．令和５年度宮古島市省エネ家電製品買換促進補助金制度について	１．補助金制度の検証結果を伺う。
３．防災行政について	１．宮古島市公式ＬＩＮＥの運用について ２．防災行政無線が聞き取りにくいとの声が市民から寄せられます。市の考えを伺う。 ３．宮古島市における公衆電話の件数を伺う。
４．港湾行政について	１．トゥリバー地区の管理体制について ①３月定例会にて４月から公募型プロポーザル選定による事業者が管理するとの答弁がありました。現在の進捗を伺う。 ②看板の連絡先が変わらず港湾課のままです。進捗を伺う。
５．道路行政について	１．腰原39号線の進捗状況を伺う。 ２．伊良部102号線の進捗状況を伺う。
６．公共Wi―Ｆiについて	１．公共Wi―Ｆi環境について、令和６年３月定例会一般質問にて「現在導入している機器が更新の時期を迎えていることから、今後のWi―Ｆi環境の整備につきましては関係機関と意見交換を行い、本市において最適な環境整備に向けて検討しているところでございます」との答弁がありました。現在の進捗を伺う。
７．教育行政について	１．糸満市の中学校で天井ボード材の一部が生徒の机の上などに落下したとの報道がありました。業者の施工不良があった可能性が想定

	されるそうです。この問題は宮古島市でも起こり得るかもしれません。この案件に対し県や国からの何らかの施策等はあるか伺う。 ２．給食センターに従事される方は、月に数回検便検査を行っていると聞いております。現在も運用は変わらないか伺う。 ３．市の給食栄養士は何名配置か伺う。
８．公園行政について	１．根間公園の運用について
９．ＴＶ報道について	１．５月に地元テレビ局にて、公共工事の予定価格算出などに使うシステムが入った市のパソコン（農林水産部２台、建設部１台）を宮古島警察署が回収したとの報道があったが、市民から不安の声が聞こえます。当局の見解を伺います。

発言順位	7	議員番号	3	氏　　名	大　城　　仁
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．公園行政について	１．都市公園について ①Ｐａｒｋ―ＰＦＩ（公募設置管理制度）導入に当たり、本市において今後どのような手続が必要か伺う。 ②令和７年９月定例会にて「新たに推進する宮古島市の第４次集中改革プランの推進項目に位置づけておりますので、関係部署と調整を図りながら積極的に取り組んでまいります」との答弁があった。第三次行財政改革大綱における第四次集中改革プランでは、令和９年度の公募開始とあるが、実施状況について伺う。 ③Ｐａｒｋ―ＰＦＩ導入に当たり、議会議決が必要な事項があるか当局の見解を伺う。
２．地域行政について	１．スポーツ施設について ①ＪＴＡドーム宮古島について ア．来年度で供用開始10年を迎えるＪＴＡドーム宮古島について、アリーナ部の人工芝メンテナンス計画を伺う。 イ．ポーターパネル設置が市民主催のイベントに与える影響について、当局の見解を伺う。 ②市所有の屋内練習場（宮古島市伊良部屋外運動施設内多目的屋内運動場、宮古島市平良多目的屋内運動場、ＪＴＡドーム宮古島）について、市民向けの一般開放が可能か伺う。 ③スイミングプールについて ア．令和６年５月に民間のプールが閉業したことについて、市民生活への影響をどのように認識しているか伺う。 イ．宮古島市民プール実現可能性調査結果について伺う。

	ウ．宮古島市民プール実現可能性調査結果を受けて、当局の方針を伺う。 エ．民間によるスイミングプール再建について、市として支援策を講じる予定があるか伺う。 ２．本市の人口動態について ①本市で出生した者のうち、現在も本市に住民票登録のある者の割合を年代別（20代から50代）で伺う。 ②若者定住促進における定量的目標を伺う。 ③目標達成のためどのような取組を行っているか伺う。 ④地方創生移住支援事業を活用した移住者支援金制度導入について伺う。
３．環境行政について	１．航空自衛隊宮古島分屯基地で発見された地中構造物中の汚染水について ①発見に至った経緯を伺う。 ②内容物の流出可能性について当局の見解を伺う。 ③今後の対応策について伺う。
４．福祉行政について	１．聴覚障がい者の会について ①今後の連携強化について、当局の見解を伺う。 ２．障害者支援施設利用者の送迎について、実施、または検討されているか伺う。
５．市長の政治姿勢について	１．日米共同訓練について ①今回、受入れに至った経緯を伺う。 ②市長の見解を伺う。

発言順位	8	議員番号	2	氏　名	池　間　　仁
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．農業振興行政について	１．農産振興係の業務について ①さとうきび新植夏植促進事業の進捗について伺う。 ②有機質肥料事業の進捗について伺う。 ③新植夏植促進事業から、新植更新事業（春・夏植え）への拡充について伺う。 ２．宮古地区さとうきび糖業振興会について ①令和７年度の主な取組について伺う。 ②生産振興対策に関する増産計画について伺う。 ３．サトウキビ生産者交付金について ①サトウキビ産業は地域経済を支え、離島振興のみならず国土保全

	・食料安全保障に寄与する重要な作物である。その観点から交付金拡充への取組について伺う。 ②令和８年度の要請計画について伺う。
２．子育て支援について	１．宮古島市子育て応援宣言について ①宮古島市子育て支援条例の取組について伺う。 ②妊婦等包括相談支援事業について ア．継続取組の内容について伺う。 イ．支援事業に対する出生率との検証について伺う。 ２．ゼロ歳から２歳児の保育料無償化について ①対象となる保育園児の人数について伺う。 ②国・市の軽減措置対象人数について伺う。 ③軽減措置対象外の保育園児への支援について伺う。
３．水産振興行政について	１．水産業振興事業について ①伝統漁法支援事業（アギヤー漁）の取組について伺う。 ②新規漁業者（アギヤー漁）への支援について伺う。 ２．カキの養殖実証事業について ①実証概要について伺う。 ②９月の中間免許（特定区画漁業権の付与）に向けての進捗状況について伺う。 ③免許付与後の事業化に向けた養殖計画について伺う。 ３．大浦湾内のモズク漁場について ①モズク生産量の推移について伺う。 ②漁場の砂堆積状況に関わる支援事業について伺う。
４．スポーツ行政について	１．スポーツ振興について ①宮古島100ｋｍワイドーマラソンの今後の取組について伺う。 ②宮古島ワイドー・ズミ大学駅伝について ア．参加大学への合宿支援拡充について伺う。 イ．全国４大学駅伝実現に向けた展望について伺う。
５．教育行政について	１．閉校学校跡地施設について ①閉校後の今後の利活用について ア．運動場跡地の利用状況について伺う。 イ．地元企業への利活用促進について伺う。 ２．西辺幼稚園における閉園後の利活用について ①休園中の当該園舎を放課後子ども教室として活用する旨の要望があるが市の見解を伺う。 ②閉園後の放課後児童クラブとして運用する旨の要望があるが市の

		見解を伺う。			
発言順位	9	議員番号	4	氏　　名	砂　川　浩　平
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ
発　言　事　項		要　　旨			
１．宮古島市におけるサトウキビ産業の増産体制構築と市直営種苗センターの設立について		１．サトウキビ産業への補助投資効果と現状認識について ①国費・県費による手厚い農業機械整備事業（リース料等の補助金交付）など、長年にわたり本市のサトウキビ産業に莫大な行政投資が行われてきたにもかかわらず、生産量（単収・収穫面積）が思うように増えない要因について市当局の現状認識を伺います。 ②市当局の分析を伺います。 ２．現行の種苗配付システムにおける「目詰まり」と不公平性について ①優良種苗の増殖・配付について、民間委託（受託農業者・農協・製糖会社）を中心とした現行の３段階増殖ルート、及び行政連絡員を介した紙ベースの希望調査が、一般の兼業農家等への目詰まりや情報・アクセスの不公平性を生んでいるのではないか、本市における配付実態の把握状況を伺います。 ３．最新品種「ＲＫ10―29」等の導入による農家所得向上の経済効果について ①本市においてビレットプランターでの植付けに適し、極めて高い多収性・発芽率誇る最新品種「ＲＫ10―29」等の優良無病苗が、希望する全ての農家へ100％公平に行き渡った場合､本市全体の生産量及び農家所得の底上げにどれほどの経済的ポテンシャル（試算）があるか伺います。 ４．市直営「スマート種苗供給センター」の設立について ①利害関係のある民間委託や形骸化したアナログ調査から脱却し、離島行政の一丁目一番地であるサトウキビの増産と農家所得向上を確実に成し遂げるため、宮古島市が責任を持って管理・増殖・ダイレクト供給を行う「市直営の種苗センター」を設立すべきと考えるが、市長の決断を伺います。			
２．ふるさと創生課について		１．ふるさと納税について ①ふるさと創生課は、多様化する社会課題に対応し、スピード感を持った行政運営を進めるために新設されたと認識しております。同課は、本市の魅力発信と自主財源の確保を同時に進める重要な役割を担っており、少子化対策をはじめとする重点施策を効果的に推進するための要（かなめ）であると理解しています。そこで			

	お尋ねします。今期のふるさと納税について、市は「個人版で18億円、企業版で5,000万円」の目標を掲げて取り組まれていると伺っていますが、現在の進捗状況について伺います。 ②本市に多大な貢献をいただいた高額納税者（個人・企業）に対して、感謝状の贈呈や、今後も継続的なご縁を持てるような関係人口創出に向けた取組を行っているのか、市の見解を伺います。
３．宮古島市新総合体育館の建設について	１．新総合体育館建設事業について ①現在、終わりの見えない物価高騰や円安のあおりを受け、市民生活や市内事業者の経営は非常に困窮しています。このような状況下で、当初想定から約２倍の150億円にまで膨れ上がった新総合体育館の建設を、さらなる予算上振れのリスクを抱えながら、なぜ「今」進めなければならないのでしょうか。他事業の予算を圧迫してまで、このタイミングで着工しなければならない「圧倒的な大義名分」について、具体的な見解を伺います。 ②総事業費150億円のうち、国からの補助金等の財源措置を除き、宮古島市が最終的に負担することになる実質的な手出し額（一般財源の投入額や、将来にわたる市債の返済負担額）は幾らになる見込みですか。 ③この巨額の負担が将来の宮古島市の財政健全性を脅かし、ひいては福祉や教育などの市民サービスを低下させる要因になり得ないか、見解を伺います。 ④体育館は建てて終わりではありません。完成後に毎年発生する電気代や修繕費などの維持管理費（ランニングコスト）は、市の財政を長期的に圧迫することが懸念されます。市は年間幾らの維持管理費を想定していますか。 ⑤市民の利用料金等の収入だけでそれを賄える見込みなのか、あるいは一般会計（市民の税金）からの補填が毎年幾ら必要になると試算しているのか、市の具体的な見解を伺います。
４．先進技術活用型住宅整備事業について	１．先進技術３Ｄプリンター活用事業について ①具体的な事業の進め方について伺います。 ②地元の経済循環への影響について伺います。 ③本事業において、熊本県の企業が国の予算（補助金等）を獲得し、主体となって事業を展開すると聞き及んでいます。先端技術の導入や実証実験の場として宮古島が選ばれること自体は歓迎すべき一面もありますが、これが単なる「島外企業の通り道」や「実験の場を提供するだけ」になっては意味がありません。そこでお尋

	ねします。今回の事業において、実施主体である島外企業、宮古島市、そして何よりも地元の事業者は、それぞれどのような役割分担で関わることになる予定ですか。 ④この事業を通じて、地元の建設業やものづくり産業にどのような技術的・経済的な波及効果（メリット）があると市は想定しているのか、具体的な見解を伺います。 ⑤地元企業へのコンサルティングや伴走型支援の体制づくりについて、市はどのように取り組んでいくのか、具体的な見解を伺います。
5．選手派遣費について	1．スポーツ大会等における選手派遣費の支給迅速化について ①県外や沖縄本島で開催される大会への選手派遣費について、申請から実際の支払いまでに多大な時間がかかっており、保護者から「支給はまだですか」という不安や困惑の声が多く寄せられています。特に、高校総体や中体連などが重なる繁忙期においては、担当部署の業務負担が爆発的に増加していると考えられますが、現在の支給遅延の主な原因をどのように分析していますか。 ②このピーク時に対応するため、会計年度任用職員の増員や他部署からの応援体制を構築すべきと考えますが､市の見解を伺います。
6．子供たちの遊び場について	1．屋内用エア遊具の活用方法について ①子供たちが天候に左右されず、安全に体を動かして遊べる「屋内用エア遊具」の利用方法について ア．市は今後、この遊具をどのような施設に設置する予定か伺います。 イ．どのようなイベントや事業で活用していく考えなのか、具体的な運用方針を伺います。

発言順位	10	議員番号	22	氏　　名	下　地　　茜
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
1．保育行政について	1．閉園時の補助金返還に関して内部改修等の残存年数を基礎とした運用の明確化が求められていた件について、本市の対応の進捗を伺う。 ①本件についてその後どのような進展があったか伺う。 2．一時預かり事業（余裕活用型）について ①３月定例会において「要綱等を整理し、施設の意向を伺いながら運営の在り方を検討し、実施に向けて調整を行っていく」との答弁があった。その後の調整状況について伺う。

２．教育行政について	１．通学区域の運用の在り方について、本市における検討の進捗を伺う。 ①福嶺学区について、小規模特認校指定に向け、市内全域からの通学を可能とすることを含めた制度運用について検討の進捗を伺う。 ②小規模校について、年度途中に転入生があった場合の教員配置について伺う。
３．人事行政について	１．休職者や職員の健康確保が課題となる中、近年は育児・介護に加え、治療と仕事の両立支援についても国の取組が進められている。自治体においても職員支援体制の充実が重要と考えることから、本市における両立支援の考え方や運用状況について伺う。 ①治療、育児、介護等と仕事の両立支援について、庁内で対応方針を整理しているか伺う。 ②治療中の職員、育児・介護等により勤務上の配慮が必要な職員について、どのような方法で把握しているか伺う。 ③本人同意のもとで、就業上必要な配慮事項を異動先管理職へ引き継ぐ仕組みがあるか伺う。 ④現在の運用状況を踏まえ、両立支援について庁内での仕組みの充実を図る考えはあるか伺う。
４．財産管理について	１．宮古島市庁舎管理規則について ①５月に庁舎敷地内で行われた市民集会において、拡声器の使用をめぐって職員が進行を制止し､集会が一時中断した事案について、後日、市から拡声器使用は許可制であったが、その案内が十分ではなかった旨の説明があった。 ア．当日には職員による申請受付時に拡声器は禁止と伝えているとの発言を確認しているが、市民団体の申請時や当日の制止について、拡声器が許可があれば使用できることを認識した上での説明だったか伺う。 イ．駐車場の使用をさせなかった理由を申請がなかったためと説明しているが、当日には職員から他の利用者への影響を理由に許可をしなかった旨の発言があった。経緯について、本市の認識を伺う。 ②今後の規則整理に当たり、以下のとおり伺う。 ア．市民が真ん中の宮古島への観点から、市民による自主的な活動や意見表明の機会をどのように位置づける考えか伺う。 イ．市民活動に対する利用条件や制限について、主催者の属性で

	はなく、実際に生じる影響や支障など客観的な状況に基づいて行う考えか伺う。
５．環境行政について	１．航空自衛隊宮古島分屯基地敷地内で発見された地中構造物について ①上野野原の航空自衛隊宮古島分屯基地敷地内で発見された地中構造物内の液体から、ダイオキシン類及びＰＦＡＳの一種であるＰＦＯＳ・ＰＦＯＡ等が検出された事案を受け、本市の対応を伺う。 ②環境衛生局において、令和４年度及び令和５年度にＰＦＡＳ調査を実施している。今回の事案を踏まえ、水道水源流域外も含めた地下水環境の把握のため、ＰＦＡＳモニタリング調査を継続的に実施する考えがあるか伺う。 ③水道部の公表している水質検査結果では、袖山水源及び袖山第２水源では、他の水源と比較して比較的高いＰＦＡＳ濃度が継続して確認されている。市はこの状況をどのように評価しているか伺う。 ④今回の事案は、地下水に依存する宮古島において、市民の関心が極めて高い問題である。市として、今後の対応方針について検討するため、速やかに地下水審議会を開催し、専門的見地から審議を行う考えはあるか伺う。
６．国民保護について	１．市町村協議会の設置について ①本市の国民保護計画は平成31年２月に改定されているが、変更の際に、国民保護協議会への諮問を行ったか伺う。 ②国・県・市が連携して実施している避難シミュレーションは、国民保護法上のどの規定に基づくものか伺う。 ③学区ごとの避難先、シェルターへの残留など住民の生命・生活に直結する事項が決定されつつあるが、シミュレーションの結果は、今後の国民保護計画の変更に反映される予定か伺う。
７．基地行政について	１．６月20日に予定される日米共同訓練（日米合同訓練・日米実動訓練と同じ、以下日米共同訓練と記す）について ①2016年11月、12月に防衛省は宮古島市民に対し、配備に関する説明を行っているが、オスプレイについてどのように説明がなされたか伺う。 ②日米共同訓練については、どのように説明がなされたか伺う。 ③令和７年３月定例会で、市長公約として米軍については自粛すべきと述べてきたことについて、市長として日米共同訓練で米軍の訓練があった際、自粛を要請していくかという質問に対する市長

		答弁について伺う。			
発言順位	11	議員番号	12	氏　　名	仲　間　誉　人
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ
発　言　事　項		要　　旨			
１．防災行政について		１．災害時の避難所（学校施設）について ①停電時の対応について伺います。 ②職員就業時間外の対応について伺います。 ③学校教職員と地域との連携について伺います。			
２．教育行政について		１.学校教育におけるＡＲ技術の導入について当局の見解を伺います。 ２．結の橋学園について ①建設中のプールの進捗状況を伺います。			
３．漁業行政について		１．カツオ一本釣り漁について ①一本釣り漁のエサ取り漁師が年々減少傾向にある現状について当局の見解を伺います。 ②支援策はあるか伺います。			
４．農業行政について		１．さとうきび優良種苗安定確保事業について ①種苗配布後の成果について伺います。			
５．観光行政について		１．観光地における受入環境整備について ①整備を求める声として、トイレ・シャワー・駐車場の整備を求める意見が多い現状について当局の対応を伺います。			
６．学校跡地について		１．旧佐良浜小学校跡地利用について ①利用計画について状況を伺います。			
７．道路行政について		１．佐良浜中央線（仮称）整備について ①進捗状況を伺います。			
８．環境衛生行政について		１．不法投棄について ①島内ごみゼロ大作戦において撤去しきれなかった不法投棄場所の対応について			
発言順位	12	議員番号	7	氏　　名	富　浜　靖　雄
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ
発　言　事　項		要　　旨			
１．市長の政治姿勢について		１．行政財産使用許可申請について ①拡声器使用について ア．利用申請は必要なのか伺う。 イ．庁舎管理規則の禁止行為、喧騒にわたる行為について伺う。 ウ．基準検討について伺う。 ２．宮古空港駐車場の利用料金について			

	①市空港課の男性職員の公金横領について ア．再発防止策について伺う。 ②キャッシュレス決済について伺う。 ３．国立療養所宮古南静園について ①将来の運用について伺う。 ４．根間公園について ①今後の運用について伺う。 ②民間のイベント利用の方法について伺う。 ③防犯カメラの設置について伺う。 ５．みどり推進課について ①なくなった経緯について伺う。
２．農業行政について	１．大型ドローンでの野そ防除剤散布について ①多良間村での最新農業機械実演会について ア．内容確認を行っているのか伺う。 ②今後の検討について伺う。
３．福祉行政について	１．高齢者外出支援タクシー利用助成事業について ①申請書の提出期間について伺う。 ②申請書の提出時間について伺う。
４．環境行政について	１．家庭から出た園芸用や家庭菜園の土の処分について ①市民からの問合せはあるか伺う。 ②処分方法について伺う。
５．教育行政について	１．市立図書館の所蔵新聞について ①本市の新聞所蔵方法について伺う。 ②デジタル化について伺う。

発言順位	13	議員番号	8	氏　　名	狩　俣　勝　成
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．宮古島市固定資産税の課税免除の特例について ①離島の地域における課税免除について ア．内容について伺う。 イ．課税免除を受けている事業者数について伺う。 ウ．課税免除による効果について伺う。 ②その他の課税免除について ア．課税免除の種類について伺う。 イ．各区域内の課税免除を受けている事業者数について伺う。 ２．子供の遊び場整備について

	①各自治会が、字有地等に子供の遊び場を整備する場合の支援策について ３．日米共同訓練について ①宮古島においては、日米共同による災害対処訓練として、日米の共同調整所の運営訓練、共同衛生訓練及び航空機による物資補給・輸送訓練を計画していますが、今なぜ、日米共同か、市長の見解を伺う。 ４．宮古島市のＤＸ推進について ①災害発生後、罹災証明書の発行までの被災者支援業務の流れについて伺う。
２．道路建設行政について	１．道路上にはみ出した草木等の適切な管理について ①私有地からはみ出した草木を発見した場合の対処法について伺う。
３．農業行政について	１．畜産振興について ①市の畜産農家戸数の減少について ア．離農していく農家の主な経営体型について伺う。 イ．小規模畜産農家への支援について伺う。 ②養豚農家について ア．現在の養豚農家の状況について伺う。 イ．養豚農家の誘致への課題について伺う。 ２．イムギャーマリンガーデンについて ①トイレが使用中止となっているが状況について伺う。
４．スポーツ行政について	１．カママ嶺公園市営テニスコートについて ①照明設備について ア．現時点での配置計画について伺う。 イ．設置予定の競技レベルについて伺う。 ２．宮古島市陸上競技場駐車場の雨水処理について ①進捗状況について伺う。

発言順位	14	議員番号	17	氏　　名	下　地　信　広
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．森林環境譲与税について ①森林環境譲与税は令和６年から年額1,000円で住民税と合わせて国税として徴収されていると思いますが宮古島市に入る税収入について伺う。 ②宮古島市においての具体的な活用事例について伺う。

	③宮古島市の森林率について伺う。 ２．宿泊税について ①宮古島市の宿泊税の導入は令和９年２月１日を予定しているとお伺いしましたが予定どおりなのか、ベンダーとの調整について伺う。 ②宮古島市への税収見込額は約５億400万円となっていますが税収の使途を決める会議体が開催されているのであれば内容をお伺いします。 ３．日米共同訓練の実施について、市長自ら地域ごとに意見交換会を開催しています。 ①その目的について伺う。 ②意義について伺う。 ４．中東情勢が見通せない中、宮古島市のごみ袋等石油製品の確保について当局の見解を伺う。 ５．宮古島市の現金取扱事務について伺います。市行政において、直接、現金収受を行っている部門は何か所あるのか伺う。
２．福祉行政について	１．保育行政について自動車運転免許のないお母さんが兄弟姉妹を自転車で別々の保育園に送迎している事例が見受けられる。配慮が必要だと思われますが当局の見解を伺う。 ２．ひとり親家庭生活支援事業について ①ひとり親家庭世帯の自立を図るため、どのような支援をしてきたのか具体的事例をお伺いします。
３．宮古島市のスポーツ振興、活性化について	１．宮古島市スポーツ推進計画（７年計画）平成27年から34年版はＰＤＣＡサイクル（計画、実施、評価反省、改善）を活用し、見直しをして成果と課題を検証することで次へのステップとなるものだった。新計画は今どうなっているのか伺う。 ２．スポーツ振興に必要な有識者会議の宮古島市スポーツ審議会、宮古島市スポーツコンベンション推進協議会等の開催、実績について伺う。 ３．パラスポーツも国内外大会が開催され認知度が高くなっている中で、宮古島市における障害者のスポーツ活動推進はどのような現状なのか伺う。 ４．宮古島市のスポーツイベント（トライアスロン、ワイドーマラソン、大学駅伝、ビーチバレー等）は宮古島市のスポーツ活性化に貢献していますが競技者との交流による人材育成は開催されているのか伺う。

４．道路行政について	１．宮古病院前、オリーブ薬局前の街灯について ①街灯が消えて暗いため修繕できないか伺う ２．伊良部字仲地の理髪店前にある排水溝ですが、コンクリートの蓋が壊れて危険な状態になっている。補修の計画について伺う。 ３．伊良部字伊良部の塩田公園の東屋の解体工事の計画について伺う。

発言順位	15	議員番号	5	氏　　名	平　良　恵　泰
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．農業行政について	１．稲作について ①石垣市での視察結果を踏まえ、見解を伺います。 ②農業技術は土壌・水利用・気候条件によって結果が異なります。石垣市での検証結果だけで宮古島市における稲作の適否を判断するのではなく、宮古島市の環境下で小規模な試験栽培を実施し、データを蓄積する必要があると考えますが､市の見解を伺います。 ２．地産地消について ①令和７年12月定例会で答弁にありました、地産地消認定品目について、現時点での検討状況をお伺いします。
２．ふるさと納税について	１．ふるさと納税について ①本年度のふるさと納税目標額について ア．個人版について伺います。 イ．企業版について伺います。 ②その目標達成に向けて、主力として想定している返礼品は何でしょうか。 ③本市として、今挙げた返礼品の現在の生産量は、目標金額に十分対応できる生産量の確保や供給体制が見込まれているか伺います。 ④本市では、地産地消振興センターや各補助金等で六次産業化への支援を進めていますが、加工するためには、まず原材料となる農水畜産物の安定生産・確保が不可欠です。それらを踏まえて、ふるさと納税額の目標達成のために、加工支援だけでなく、生産者への支援も併せて重要ではないかと考えますが､見解を伺います。 ⑤六次産業支援・原材料生産支援・ふるさと納税戦略と一体で考える部署横断の体制はあるか伺います。 ⑥ふるさと納税額目標達成のためにも、六次産業への支援と並行して農水畜産生産者への支援拡大、生産体制そのものを戦略的に強

	化することが、本市経済への波及効果や所得向上にもつながると考えますが見解を伺います。
３．観光行政について	１．下地島空港17ＥＮＤについて ①下地島空港を取り囲む17ＥＮＤ周辺は宮古島・伊良部島を代表する観光スポットとして多くの観光客が訪れていますが、市として現在の17ＥＮＤの駐車場を含めた利用状況についてどのような認識をしていますか。 ②17ＥＮＤ駐車場の管理・整備について、沖縄県と委託契約等はありますか。 ③現在の17ＥＮＤの駐車場を含む安全面や交通管理上の課題について、市はどのような認識を持っていますか。 ④17ＥＮＤ周辺における駐車場の整備・拡張について、今年度行う予定はありますか。 ⑤17ＥＮＤ駐車場周辺もしくは新規駐車場整備について検討する考えはありますか。
４．情報行政について	１．住民票を本市に有さない住民人口について ①本市は住民基本台帳人口､約５万5,000人を基礎として行政運営が行われていますが、実際には住民票を有していない長期滞在者や就労者など、多くの実態居住者が生活していると考えます。それらを踏まえて、市としてこのような実態をどのように認識しているか伺います。 ②本市では、住民票を有しない実質的な居住者数について調査・推計を行っているか。 ③住民票を有しない実態居住者も、ごみ処理・水道・道路など多くの行政サービスを利用しています。それらを踏まえて、それに伴う追加的な行政コストを試算したことはあるか伺います。 ④実態人口による行政サービスの公平かつ健全な運営のためにも住民票を有しない実態居住者からも財源を確保する必要があると考えるが見解を伺います。 ⑤水道料金の契約形態が一般用か営業用で分かれているように、住民票を有さない実態居住者との契約を営業用もしくは新たな契約形態を設ける案についてはどうか、見解を伺います。 ⑥市として、実態人口の正確な調査をする考えはあるか伺います。 ⑦年間どの程度の行政運営コストが必要になるか試算する考えがあるか伺います。
５．建築行政について	１．用途地域について

	①本市では急激な観光需要により、人口構成や土地利用状況が大きく変化している一方で、現在の用途地域が現状や将来のまちづくりの方向性と必ずしも一致していない地域もあると考えます。それらを踏まえて、現在の用途地域は土地利用状況や将来に向けたまちづくりと適合しているか見解を伺います。 ②用途地域の見直し期間が５年ごとに推奨されているとのことですが、次回の見直しはいつ頃を予定していますか。
６．施設行政について	１．公設市場について ①指定管理に向けた現在の状況について伺います。 ②本市が現在考える指定管理の内容について伺います。 ③既存の入居者への説明状況について伺います。 ④入居者からどのような意見があるか伺います。

発言順位	16	議員番号	19	氏　　名	平　良　敏　夫
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．市長は就任以来、市民との交流を大切にし、意見交換等数多く行っております。市民との距離がより近いイメージがありますが、その成果を伺います。 ２．５月の中旬に宮古テレビの報道で警察が宮古島市公共工事積算システムを押収とのニュースが流れました。このことについて説明することはできますか。
２．道路行政について	１．下里通り、西里通りを南から北に横断するバリアフリー道路について、しきしま隣のコインパーキング前歩道にマンホールが設置されていますが、歩道とマンホール蓋との高低差が５センチほどあり危険です。実際にけがをした方もいると聞いております。早急に改修すべきだと思いますが、当局の見解を伺います。 ２．平良城辺線の宮古自動車学校前道路中央のマンホールが段差で危険です。早急に改修すべきだと思いますが、当局の見解を伺います。 ３．二重越五差路交差点のマンホール段差の改修について ４．宮古毎日新聞社からサンエー方面までの道路の不具合について ５．荷川取にある警察官待機宿舎前丁字路、一時停止道路が波打っていることについて ６．同道路の止まれの文字が消えていることについて ７．道路のセンターライン、横断歩道また一時停止の白線が消えていることについて ８．いさむ自動車前の交差点での右折専用ラインの白線が見えないこ

	とについて、かねひで方面から交差点を右折する車が大きく飛び出て、ファミリーマートから直進する車と接触しそうになる。右折ライン、停止ラインを早急に引くべきと考えるが当局の考えを伺う。 ９．日本キャタピラー宮古営業所前の交差点で、宮古空港方面から来た左折車と同時に対向車が右折して危険です。優先道路に違反していると考えるがいかがですか。 10．いさむ自動車前の交差点でも右折車の違反が見受けられます。取り締まることはできますか。
３．農業行政について	１．化学肥料の硫安がＪＡで在庫切れで購入できないとのことです。状況を伺います。 ２．他の化学肥料で在庫切れはあるか伺う。 ３．化学肥料の在庫はあるが、出していないとのうわさもありますが当局は把握しているのか伺います。 ４．サトウキビ農家がよく使う硫安の購入に対する市の補助金がないと聞いていますがいかがですか。 ５．その理由を伺う。 ６．狩俣自治会で、行われている堆肥製造実証事業の進捗状況を伺います。 ７．この事業を実施する組織はどこですか。
４．宿泊税について	１．2027年２月１日から施行徴収される宿泊税ですが、多くの宿泊事業所の協力が必要になってきます。進捗状況はいかがですか。 ２．納期内に完納した宿泊事業者には３％の納税報奨金が支払われるようですが、納期内に完納できない事業者に対してはどのような処置を取ることになりますか。 ３．インバウンドのクルーズ船の客からは宿泊税が徴収できません。一般観光客との不平等感がありますが､市はどのように考えますか。 ４．以前、部長はインバウンドの宿泊税に代わる税は係船料だと答弁しました。間違いないですか。 ５．係船料の改定は2020年にトン当たり３円から14円に値上げされています。その理由はクルーズ拠点旅客受入施設建設時の起債償還に充てるためだと理解していますがいかがですか。
５．港湾行政について	１．宮古島市は、クルーズ拠点旅客受入施設の総事業費の85％、９億9,680万円を国から借り受けています｡起債償還計画どおりに償還されていますか。
６．港湾施設使用料について	１．クルーズ船で来島する乗客から新たに港湾施設使用料を徴収することについて当局は検討すべきではないか。

7．投資詐欺・マルチ商法について	1．宮古島市でも以前から話はあったが、特に近年、投資勧誘やマルチ商法のトラブル等を耳にする機会が増えている。沖縄県消費生活センター宮古分室には、これらのトラブルの相談があると思うが、年間相談件数について伺う。 2．トラブル相談の内容はどのようなことか。
8．宮古島市熱帯植物園について	1．先日、宮古島市熱帯植物園に久しぶりに行きました。園内はきれいに手入れされており、ブーゲンビリアをはじめとした様々な花がいっぱい咲いていました。みどり推進課の努力のたまものです。しかし来園者はというとまばらで残念な気持ちになりました。体験工芸村の方に聞くと、観光客は少ないとの話でした。年間の入場者数について答弁できますか。 2．植物園に小さな動物園を併設する考えはないか。 宮古馬に加えて、ヤギ、豚、鶏、アヒルなど子供たちが喜ぶと思いますがいかがですか。
9．車両検査について	1．市所有の車両には積載型クレーン車がありますが、法定検査は受けているか。 2．車両には6か月点検、12か月点検、24か月点検の法定検査がありますが受けていますか。 3．市所有の車両は何台ありますか。 4．車両管理はどのようにしていますか。 5．車検時の整備工場はどのように決めていますか。

発言順位	17	議員番号	20	氏　　名	粟　国　恒　広
質問方式	一問一答方式			発言場所	演壇及び質問席

発　言　事　項	要　　旨
1．市長の政治姿勢について	1．第３次宮古島市総合計画策定について 2．航空自衛隊宮古島分屯基地の地中で見つかったダイオキシン、有機フッ素化合物汚染水問題について 3．旧平良庁舎利活用の進捗状況について 4．宮古島市新総合体育館建設について 5．３Ｄ住宅実証事業について
2．都市計画事業について	1．久松のスキラ地区（トゥリバー）都市計画事業導入について 2．宮古空港南側で進められている民間企業の開発事業と宮古空港の利活用の検討について
3．観光行政について	1．宮古島夏まつりの運営見直しについて 2．ふるさと納税返礼品について
4．福祉行政について	1．出生率低下の対策について、どのように検討しているか伺う。

	２．中東情勢の影響による本市の医療や介護分野の現況について
５．水道事業について	１．急速な水需要の対応について、海水淡水化導入の検討について
６．農林水産行政について	１．竹アラ地区圃場整備事業について
	２．サトウキビの副産物堆肥購入、圃場への散布支援について伺う。
	３．宮古島市農地地力増進（狩俣地区）及び循環型農業事業について
	４．養殖モズク生産網の補助について
	５．漁村再開発施設用地の利活用について
	①漁港清掃委託事業について（動物での除草）
７．農業委員会について	１．平良字松原563―２、563―３、563―４、569―３の４筆の農地転用について伺う。
	２．令和８年度における農業振興地域（農振）除外申請件数について
	３．主な農地法第４条転用の審査基準について伺う。

発言順位	18	議員番号	14	氏　　名	山　下　　誠
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．公共施設管理計画及び運用について
	①維持・管理について
	ア．管理計画の進捗状況を伺う。
	イ．行政経営会議の答申について伺う。
	②宮古島市新総合体育館建設について
	ア．進捗状況を伺う。
	イ．国内外の情勢を踏まえた建設費について伺う。
	２．国民保護計画について
	①避難計画について
	ア．避難・帰還後の住民生活について伺う。
	３．財政運営について
	①法定外目的税について
	ア．宿泊税の導入について当局の見解を伺う。
	②財政健全化について
	ア．自治体ＤＸの進捗状況について伺う。
	４．管理監督責任について
	①職員の不祥事について
	ア．公金横領の経緯について伺う。
	イ．相次ぐ事務ミス等の改善策に関し当局の見解を伺う。
２．農林水産業の振興について	１．各種補助事業について
	①運用方針について

	ア．園芸施設設置・修繕補助事業について伺う。 イ．肥料購入補助事業について伺う。 ②農地の効率運用について ア．耕作放棄地の現状について伺う。
３．農地行政について	１．農地法及び農業振興地域の整備に関する法律について ①農地の違反転用について ア．違反行為に対する農業委員会の対応を伺う。 イ．県の対応を伺う。 ウ．今後の方針について伺う。
４．公共財産について	１．公共財産の取扱いについて ①久松漁港内における公共財産について ア．資材ヤード使用料の減免措置について伺う。 イ．今後の運用方針を伺う。 ②民宿キャンプ村について ア．公募状況について当局の見解を伺う。 イ．今後の運用方針を伺う。
５．災害対策について	１．災害時の住民避難について ①避難施設について ア．災害時の避難施設について伺う。 イ．避難施設の運用改善について当局の見解を伺う。
６．スポーツ振興について	１．体育施設の拡充について ①陸上競技場について ア．利用状況について伺う。 イ．照明設備について伺う。

発言順位	19	議員番号	21	氏　　名	國　仲　昌　二
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の基本的な考え方について	１．職員の市民への向き合い方について ①平和行進集会への職員の対応について ア．職員が庁舎管理規則に基づかず拡声器は禁止、のぼりは禁止、駐車場使用禁止と申請者に発言したことについて市長の見解を伺う。 イ．職員が市民に対し、高圧的な態度で大声でどなり、市民集会を中断させたことに対する市長の見解を伺う。 ２．安全保障について ①南西諸島をめぐる状況について

	ア．沖縄は地理的に国防上の最前線にあるという発言の真意について伺う。 ②国民保護計画について ア．武力攻撃予測事態に認定されると、自衛隊、米軍による空港、港の使用が優先され、避難が困難になると思うが、市長の見解を伺う。 イ．戦争における国民への補償について「国民等しく受忍すべきものであり補償はできない」とした最高裁判決が確定していることについて市長の見解を伺う。
２．地下水保全について	１．広報みやこじま５月号に掲載された市の見解について ①図１のグラフについて ア．このグラフは特別支援学級の在籍者数なのか伺う。 ②小学校男児高度肥満児のデータについて ア．データの公表もしくは、2023年度以降のデータの提供はできないか伺う。
３．みなと緑地ＰＰＰについて	１．議会の議決は必要について ①ガイドラインはいつ変更されたのか伺う。 ②令和７年３月時点では議会の議決は必要だったの根拠を伺う。 ２．長期貸付について ①貸付価格は適正か伺う。 ②事業者が撤退した場合の対応について伺う。 ③貸し付けた市有地への市民の出入りについて伺う。
４．行政財産について	１．長期貸付について ①みなと緑地ＰＰＰ以外にあるか伺う。 ２．行政経営会議について ①委員の構成について伺う。 ②うえのドイツ文化村の廃止について伺う。 ③エコハウスの廃止について伺う。
５．３Ｄプリンター住宅について	１．旧平良児童センターについて ①当初予算の積算について伺う。 ア．詳細な調査は行わなかったのか イ．予算の積算はどのように行ったのか ２．宮古島市上野トロピカルフルーツパークについて ①３Ｄプリンター住宅建設場所に選定した理由について伺う。 ②３Ｄプリンター住宅建設は目的外使用ではないか伺う。
６．教育行政について	１．食物アレルギー対応について

	①宮古島市の基本方針について ア．国の指針や県の手引に基づく基本方針において校内食物アレルギー等処遇会議のメンバーに共同調理場長、場長補佐が入っているが、現状はどうなっているか伺う。
７．駐屯地周辺体育館整備助成事業について	１．ＣＭ方式の導入について ①工事費が膨れ上がる状況にＣＭ方式は有効だと思うが、導入についての見解を伺う。
８．水道行政について	１．伊良部浄水場再活用について ①多額の工事費やランニングコストが水道料金の値上げにつながらないか心配との市民の声がある。見解を伺う。 ②ＲＯ浄水処理は、ミネラルまで除去され、健康被害も報告されていると聞いているが、市長の見解を伺う。
９．地域行政について	１．地縁団体について ①地縁団体と市の関係性について伺う。
10．防犯対策等について	１．防犯カメラ設置について ①地域の防犯対策や不法投棄対策を目的に、来間大橋、池間大橋、伊良部大橋に防犯カメラは設置できないか伺う。
11．情報公開について	１．行政文書存否応答拒否通知書について ①行政文書の存否を明らかにすることを拒否することができるのはどのような場合が考えられるか伺う。

発言順位	20	議員番号	15	氏　　名	狩　俣　政　作
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．教育行政について	１．本市の児童生徒への対応について ①虐待を受けている児童生徒への、その後の対策の状況について伺う。 ②教育委員会として、児童生徒の薬物に対する意識や実態についてアンケート調査等は実施しているか伺う。 ③宮古島警察署との情報共有や連携体制はどのようになっているのか伺う。
２．市民生活行政について	１．本市のビーチの使用について ①市民がビーチを使用できない状況が発生しているが当局はこのことを把握しているか伺う。 ②本市として今後どのような対策を講じるか伺う。 ２．国立療養所宮古南静園の永続化について ①本市の見解を伺う。

	３．本市の積算システムが入ったパソコンを宮古島警察署が回収したとの報道について ①回収された経緯を伺う。 ②その後の状況を伺う。 ③今後の対策を伺う。
３．スポーツ行政について	１．アジアスポーツアカデミー構想について ①スポーツ振興課との個別連携協定について伺う。
４．環境行政について	１．クリーンセンターの炉の管理について ①運用開始してから、これまでの維持管理費の総額について伺う。 ②運用時間が16時間になっていることについて伺う。 ③今後の運用方針について伺う。 ２．一般家庭ごみ収集委託業者へのアンケートについて ①近年の物価高騰や労務環境の変化に伴う、収集委託業者の皆さんへアンケートを実施し、31業者中24業者に回答していただきました。その結果、物価高騰の影響を感じている業者が95.8%に及ぶことについて今後の対策を伺う。 ３．エコアイランド推進費について ①３月定例会で計画の見直しを行うとの答弁がありましたが現在どのようになっているか、見直しの進捗状況を伺う。 ４．脱炭素先行地域実証について ①進捗状況について伺う。

発言順位	21	議員番号	9	氏　　名	下　地　信　男
質問方式	一問一答方式			発言場所	質問席のみ

発　言　事　項	要　　旨
１．市長の政治姿勢について	１．地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会について ①意見交換会を実施する目的について市長の見解を伺う。 ２．国民保護計画について ①有事に伴う島外避難を拒否した市民等への対応について伺う。 ②島外避難後の市民財産（家畜やペット等）の取扱いについて伺う。
２．選挙について	１．本市の選挙投票率向上について ①去る２月８日の第51回衆議院議員総選挙において県内の投票率は54.44%。本市は44.14%で県内最低となり不名誉な結果となった。９月13日には県知事選挙が執行されるが、投票率を向上させるため、投票しやすい環境づくりについて選挙管理委員会の見解を伺う。
３．農林水産業について	１．土地基盤整備事業について

	①上地長山地区整備事業について以下に伺う。 ア．当地区の採択に向けた取組について伺う。 ２．沈砂池の安全対策について ①下地竹アラ地区の整備後の西側沈砂池には常に水が張り、侵入防止柵が設置されていないため、安全性に問題がある。近くに市営住宅があり、子供が近づき危険との指摘がある。当局の見解を伺う。 ３．農業振興のための地力増進の取組について ①農業の生産性を高めるには、土づくりは重要な課題の一つである。地力増進の取組について伺う。 ②狩俣地区に設置した堆肥製造施設の稼働状況について伺う。
４．消防行政について	１．消防職員の適正規模について ①消防職員数の現状について伺う。 ②令和７年度に消防防災科学センターに委託した職員適正調査の結果について伺う。 ③この調査結果を受け、今後の対応について市長の見解を伺う。
５．福祉行政について	１．食の自立支援事業受託事業について ①本事業の内容について伺う。 ②現在の事業受託業者は何社か伺う。 ③委託料は弁当、配食時の安否確認及び配達に係る諸費用を含むとされていますが、１食当たりの料金について伺う。 ２．点字式ごみ袋の状況について ①点字式ごみ袋の販売状況について伺う。 ②今後の方針について伺う。
６．教育行政について	１．児童生徒の学力向上について ①児童生徒の学力向上の取組について伺う。 ②家庭や地域との連携について伺う。 ２．下地小学校の校内環境整備について ①鉄骨ビニール温室の撤去について伺う。 ②飼育小屋の撤去について伺う。 ③体育館の雨漏り修繕について伺う。 ３．児童生徒選手派遣補助事業の拡充について ①少年野球チームの指導者によると、市内ではチーム数が激減し、沖縄本島等への遠征によってチームの強化を図りたいとして遠征費の支援要望がある。これら強化のための遠征費を補助対象とすることについて当局の見解を伺う。

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席議員は21名で、定足数に達しております。

本日の日程は、議事日程第３号のとおりであります。

また、諸般の報告書を本日の議事日程フォルダに配付してありますので、ご確認ください。

ただいまから日程第１、一般質問に入りますが、通告外の質問にわたらないよう、議事進行にご協力を願います。また、質問方式及び質問場所については、一般質問通告書により事前に通告した方式及び場所を遵守するよう願います。

なお、今定例会においては、通告した議員全員が一問一答方式での通告をしております。議会運営に関する申合せ事項により、一問一答方式の１人持ち時間は、質問時間、答弁時間、移動時間を含めて60分以内、質問回数の制限は設けないこととなっております。

それでは、通告に従いまして、順次質問の発言を許します。

◎我如古三雄君

自民党、我如古三雄でございます。

少しばかり所見を述べます。昨日は、宮古各地において、ハーリー、恒例の海神祭が開催されました。私も久松地区の海神祭を見させていただきました。すごい盛り上がりで、地域の皆さん方が子供から大人まで総動員して、やはり各地域とも漁業を振興している地域だなとつくづく心強くも、この地域の盛り上がりを感じた次第であります。多くの地域の皆様方に心からご苦労さんを申し上げたいと思っております。いずれにしても、この海神祭が地域の連帯として地域を盛り上げていることに胸を打たれた次第であります。

去る４月に開催されました第40回の全日本トライアスロン宮古島大会が、多くの関連企業や市民の支援、声援、そしてボランティアに支えられて、大会のすばらしさを内外に発信できましたことは大きな喜びとするところであります。加えて、来年の大会が実りある、記憶に残るような大会となることを期待するものであります。

それから、本年４月から韓国、釜山空港への直行便が就航し、本圏域から４路線目となる国際直行便が就航しております。また、昨年度の入域観光客が126万人余と過去最高を更新するなど、本市が内外から魅力ある観光地として注目され、その地位を確立していることから、農業や観光、スポーツ、経済など、多方面での広域交流が深まることを期待するものであります。

一方、本市職員による不祥事が相次いでおります。市の公僕である市役所職員が公金の横領などあってはならない、言語道断であります。このように一部の職員が犯した行為は、1,200名余の職員も今市民から悪く見られております。これが現実であります。どうか副市長、教育長、そして各部の部課長の皆さん、いま一度職員の職務に対する綱紀の粛正を徹底してもらいたいと強く申し上げます。

それでは、通告に従いまして、私見を交えながら私の一般質問に入ります。当局におかれましては、市民の皆様方に分かりやすい説明、答弁を求めます。まず最初に、市長の政治姿勢から、日米共同訓練について伺います。陸上自衛隊とアメリカ海兵隊との実動訓練が、宮古島で初めて６月25日から29日までの期

間で行われる。以上を踏まえて伺いますが、今回の訓練計画によると日米共同による災害対処訓練が共同調整所の運営、共同衛生、急患護送、航空機による物資補給と輸送など、島嶼防衛を想定した計画となっております。中東情勢や自然災害発生など、現実を注視して備えることはリスクの最小化にもつながり、大変重要であります。このようなことから、今回の災害対処訓練は市民の安心、安全を守る上からも極めて重要かつ意義ある訓練であると考えます。市長の見解を伺います。

◎市長（嘉数　登君）

日米共同訓練の実施につきましては、市民の皆様に様々なご意見があることは私も承知をしております。しかしながら、現在南西諸島を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増しております。中国公船による領海侵犯や尖閣諸島周辺での操業困難化といった状況に加えまして、北朝鮮による弾道ミサイル発射や台湾周辺での緊張、それからロシアの動向など、総合的な脅威への対応として、より現実的な備えが求められていると認識しております。有事は決してあってはならないことですが、本市の地理的特性を踏まえ、現実を直視し、万が一の事態に備えることは、市長として私の責務であると強く認識しております。こうした現状認識に基づき、今回の訓練は日米同盟を基盤にした抑止力、対応力の強化、特に共同衛生訓練という大規模災害時の人道支援、救助活動にもつながるものであり、その必要性は理解をしております。

◎我如古三雄君

今回の共同訓練は離島防衛を目的としておりますが、今後訓練回数を増やすことが共同訓練の意義がさらに深まる、高まることを信じて疑いません。

次に、市民の不安解消に向けた対策について伺います。

◎市長（嘉数　登君）

日米共同訓練の実施や陸上自衛隊Ｖ22、いわゆるオスプレイの宮古空港使用について、市民の皆様が米軍の単独訓練への発展やオスプレイの安全性への懸念、不安を抱かれていることは深く理解をしております。市といたしましては、米軍が単独で訓練を実施することについては自粛を求める立場です。オスプレイを使用する訓練に当たっては、安全管理の徹底と市街地上空の飛行自粛を沖縄防衛局に対し強く要請いたしました。私自身も訓練を視察し、安全確保の状況を直接確認してまいりたいというふうに考えております。

また、市長として市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、私の考えを直接ご説明する責任があるとの認識から、６月６日から21日にかけて上野地域、城辺地域、下地地域、平良地域、伊良部地域の各地域での意見交換会を開催しているところです。皆様の意見をしっかりと酌み取り、国へ伝えてまいりたいと考えております。加えて、国に対し申入れを行ってきた安全保障環境の変化に関する市民への情報提供につきましては、先ほど小泉進次郎防衛大臣の記者会見において、来月の７月19日日曜日に沖縄防衛局主催による防衛セミナーを開催し、直接地元の皆様に安全保障環境の変化に関する内容を説明するとのご発言がありました。市民の皆様の不安解消に向けた取組として、防衛省においても本市からの申入れを真摯にご検討いただいた結果であると前向きに受け止めております。

◎我如古三雄君

今回の共同訓練において大前提となるのは、安全管理の徹底を強く求めることだというふうに考えます。

次に移ります。うえのドイツ文化村廃止の撤回について伺います。市行政経営会議は、うえのドイツ文

化村を機能判定で、公共施設としての機能は廃止すべきとして嘉数登市長に答申した。以上を踏まえて伺います。行政経営会議が廃止とした要因、意図について伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

市の行政経営会議が答申したことへのご質問についてお答えいたします。

宮古島市においては、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定するとともに、各施設における機能及び建物の維持、廃止を判定する個別施設計画を令和元年度から令和２年度にかけて策定し、公共施設等の整理、適正化に向け取り組んでおります。うえのドイツ文化村については、個別施設計画策定時から公共施設としての機能判定は廃止、建物判定は売却との判断がされており、その実施についての目標期間は令和５年度と定めていましたが、計画に沿った取組の進捗が思わしくなかったことから、今回行政経営会議へ諮問する施設の対象としたところでございます。行政経営会議では、施設の維持管理経費や人的コストなどの行政コストが多くかかっている状況や施設の規模から、今後の更新等の将来負担経費が多大となる懸念などが第三者目線からの意見として上がった一方で､施設自体は立地も含めてポテンシャルは高く、民間利活用の可能性が十分にあるとの意見も多くありました。そのことを踏まえ、公共施設としてではなく、既存の建物も活用しながら民間利活用を検討すべきとの考えから、現行の個別施設計画のとおり、公共施設としての機能は廃止との答申となっております。

◎我如古三雄君

このうえのドイツ文化村は、旧上野村時代に地域の観光振興の拠点として全エネルギーを費やして、長年にわたってドイツとの友好交流も兼ねてやってきた貴重な建物、財産の施設であります。また、内外からも大きな注目もありますし、今でもドイツから多くの方々も来ているのが現状であります。宮古島市とドイツとこのように友好交流を図るということも、大きな観光振興に果たす役割だというふうに思っております。そういうことで、ドイツの総領事が来た翌日、うえのドイツ文化村が廃止というふうに新聞の１面に大見出しで載っていた。これは、非常に総領事に対しても、ドイツの皆さん方に対しても失礼に当たるかというふうに多くの皆さん方も言っているところであります。多くの旧上野村民がエネルギーを費やしてつくってきたこのうえのドイツ文化村は、今後とも宮古地域とドイツとの友好交流、しっかりと取り組んでいくべきだというふうに思っております。施設の廃止ということ、地域住民はなくなるというふうな考えで理解をしているわけです。そういうことで、この問題についてはしっかりと地域の皆さん方とも意見交換会をしながら、住民への説明を再度するべきだというふうに思います。その点についてお願いします。

◎副市長（砂川　朗君）

答申における話でございますが、建物を解体して敷地を全て更地にするということではなくて、活用できる建物等は残しながらも公共施設として維持するより、民間利活用を推進するほうが宮古島市の今後にとって効果的、効率的であるという内容のものでございます。実際に行政経営会議においても、うえのドイツ文化村は立地も含めて施設自体のポテンシャルが高いため、民間利活用へと転用できる可能性は十分にあるとの意見がございました。うえのドイツ文化村は、公共施設として用途が制限された状態とせず、民間の創意工夫や自由な発想を生かせる施設として利活用を推進するほうが本市のさらなる観光振興に寄与する施設になるというふうに考えております。

行政経営会議の設置、開催を含めた市長公約である資産リストラの推進の取組は、行政だけの目線ではなく、外部からの意見もいただきながら、廃止すべきものは廃止する、残すべきものはしっかり残すとして、市全体で議論していくことを方針としております。市としましては、客観的、民間的、専門的な観点等を踏まえた行政経営会議の答申意見を尊重すべきものであると捉えている一方で、地域の皆様と意見を交わしながら取組を進めることも併せて重要であると考えております。そのことから、うえのドイツ文化村を含めた答申対象施設の利活用については、行政経営会議からの意見や各施設に要している経費等を数値化した施設別行政コスト計算書を踏まえながら、地域の皆様との意見交換をしっかり行いつつ取組は進めていきたいというふうに考えております。

◎我如古三雄君

行政経営会議がこのように答申をする､だからといってこれが全てではないというふうに私は思います。いろいろと類似施設がありますが、行政経営会議がこの施設はもう駄目だと、この施設も駄目だと、駄目と言ったら語弊ですが、だからといってこれを全て尊重するのはいかがなものかと。やはり行政当局としては、それでは廃止すべき施設がほかにも……ただ、年間の維持管理費が約1,800万円から2,000万円くらい。これは、当初の上野村時代は毎年3,000万円かかっておりました。では、例えばの話ですが、ＪＴＡドーム宮古島あたりは年間維持管理費がどのぐらいかかっているのか｡約4,000万円ぐらいかかっていると思います。この維持管理費だけで廃止ということはいかがなものかと、これを強く地域住民は言っているわけです。施設によっては、これは宮古島市としてもっともっと生かすべきだというふうなことを考えてもいいんではないかというふうに思っております。うえのドイツ文化村というのは特別な施設であります。他の施設とは違います。国際交流という観点からも大事であります。こういったことを理解してもらわないと､当局の皆さん方はいかがなものかというふうに思います｡今から130年前のドイツの商船を救助して、地域の皆さん方がいろいろと頑張ってもらった。これがドイツの本国に伝えられて、ドイツの皇帝から博愛記念碑も贈られてきて、これが博愛というふうに現在まで生きている歴史であります。この博愛がうえのドイツ文化村のあかしであります。うえのドイツ文化村を今後ともしっかりと守って、施設を生かしていくのが行政当局の役割ではないかと思います。

②の現状認識については飛ばしますが、③の答申内容の廃止すべきは、本市の観光交流の拠点施設が揺らぎ、上野地域のみならず各方面からも懸念されており、本市の観光振興施策においても大きな損失となるのは明らかであります。廃止すべきは撤回すべきと考えます。市長の見解を伺います。

◎市長（嘉数　登君）

私の公約の一つとして、経営視点に立った公共施設の有効活用がございます。その実現は、非効率の状況にある公共施設等の運営管理や原因を施設別行政コスト計算書により可視化をいたしまして、諮問機関となる行政経営会議、これ選挙のときの公約では私は地域経営会議というふうに表現をしておりました。この行政経営会議を設置し、施設の統合、廃止や民間利活用等の資産リストラの取組を推進するというふうにしております。行政経営会議は、経済団体、金融機関、それから学識者等、多様な分野から委員へ就任をいただいており、資産リストラの取組に客観的な意見、民間的な視点、さらには専門的な知見を含めることで、自治体経営における効率性の向上を図ることを目的に設置をしております。そのため、当会議によるうえのドイツ文化村は、現在のように公共施設としての運営管理を行うよりも、民間の創意工夫や

発想を生かせる施設として利活用を推進するほうがより観光振興に寄与する施設になるとの意見は、今後の市政方針として参酌すべきものであるというふうに捉えております。

私が掲げる資産リストラの取組は、行政が一方的に施設の廃止等を決定するのではなく、市民の皆様にも将来的な公共施設の維持管理、更新に係る経費等を示しながら、市全体での公共施設の在り方を議論していくことを基本的な考え方としております。そのことから、資産リストラの取組による公約実現へ向けて、施設別行政コスト計算書による施設状況の可視化、それから行政経営会議の議論とともに、地域とも意見交換を行いながら推進してまいりたいというふうに思っております。

先ほど我如古三雄議員のほうからうえのドイツ文化村が特別な施設であると、他の施設とは違うんではないかというようなご指摘がございました。各地域には地域、地域の大事な施設といいますか、そういったものが残っているかというふうに思っておりまして、一律に廃止とか、一律にどうするということでなくて、答申をいただいた内容についてはしっかりと地域住民とも意見交換をしながら、最終的には市の全体を考えて判断をしてまいりたいというふうに考えております。

◎我如古三雄君

まさにそのとおりであります。地域住民というのは、当局からの説明を欲しいというふうなことでありますから、再度意見交換をぜひともやってもらいたいというふうに思っております。

次に、先ほども触れましたが、ドイツ皇帝博愛記念碑建立150周年記念、博愛150年宮古島フェストに対する支援について伺います。今年で150周年の好機に、ドイツ生徒たちを迎えた友好交流、音楽交流の国際行事を10月18日にＪＴＡドーム宮古島において開催し、ドイツ国との相互の絆を一層深め、今後の文化、経済、観光交流の促進と地域活性化につなげる出発点にするために催物を行います。以上の観点から、行政当局にも支援をお願いしているわけでございますが、それについて伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ドイツ皇帝博愛記念碑が建立された歴史的背景やそこに込められた博愛の心を次世代に継承していくことは大変意義があることであり、今回博愛150年宮古島フェストが開催されることは大変有意義なものであると認識しております。市といたしましては、ドイツとの交流に関する支援として、これまでうえのドイツ文化村で開催しておりますダンケフェスト等に対して補助金を交付していることから、支援につきましてはその辺りの兼ね合いも含めまして調整してまいりたいと考えております。

◎我如古三雄君

今このフェスティバルに向けて、民間団体が実行委員会を結成して、各宮古圏域の団体に支援を呼びかけております。各方面から大きな支援の輪が広がっております。後援団体であったり、様々な学校の支援であったり、地域の皆さん方の支援を今お願いをしているところであります。1,500万円ぐらいの費用がかかるわけで、今実行委員会を主体にして各方面に寄附金の支援のお願いに回っているところであります。ドイツの子供たちもいっぱいやってまいります。約200名ぐらい来ますが。宮古島の各学校の音楽、それから地域のクイチャーなども取り合わせて1,500名ぐらいの来場を予定しております。前日は市内のパレードもやる予定、様々な催物を企画をしております。これに対する様々な企業からの支援の輪が来ております。これに対して、当局がもっと国際交流の観点から大いに支援もやるべきだと私は思っております。今ダンケフェストの支援だとか、そういったものがありましたが、それ以上に支援の必要があると。もっと積極

的な支援のお願いをしたいと思っております。もちろん当日は市長にも挨拶、いろいろ歓迎の挨拶を予定しております。よろしくお願いをしたいと思っております。

議長、休憩をお願いします。

◎議長（平良和彦君）

何の休憩。

◎我如古三雄君

少し休憩をお願いします。

◎議長（平良和彦君）

我如古三雄君、すみません、続行を。

◎我如古三雄君

次に移ります。②の日独友好交流をさらに推進する観点から、ドイツ都市との友好、交流、姉妹都市締結について伺います。

これは、合併前の旧上野村時代にドイツとの友好交流を図るというふうなことで、ある都市との、シュターンスドルフ市との友好交流締結まで至ったんです。そういうことで、もう合併直前でありましたので、これが流れたというふうな経緯があります。国内では、徳島県の鳴門市に同じようにドイツ館というのがあります。鳴門市とも友好交流を進めております。今現在も、宮古島市になっても、鳴門市との友好交流でありますが、そういう海外に目を向けて、ドイツとの友好交流締結も大いに必要だというふうに思います。そういった経緯からも、今後さらに宮古島市を発展させるためにも、友好交流、姉妹都市の締結が必要かと思います。これについて見解を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

本市では、ドイツ商船遭難事故の救助を歴史的背景として、ドイツ皇帝博愛記念碑贈呈や当時のドイツ国首長であるシュレーダー氏の来訪など、これまでドイツとの歴史的な結びつきがございます。我如古三雄議員ご提案の姉妹都市等の締結についてですが、姉妹都市等の協定には本市と特定の都市との共通の歴史や文化に加え、市民レベルでの教育文化などの交流の継続的な積み重ねを背景として締結することを原則としております。現時点でドイツ国内に本市と直接的な接点を持つ都市は特定されていないことから、現状では締結は困難であると考えております。しかしながら、ドイツとの歴史的なつながりや博愛の精神を後世に伝えていくことは大変重要であると認識しておりますので、今後の交流の在り方につきましては関係者と意見交換等を行い、検討してまいりたいと考えております。

◎我如古三雄君

どうぞ前向きに検討をお願いしたいと思っております。

次に移ります。３Ｄプリンター住宅整備についてであります。本市においては、沖縄県内において初めてとなる先進技術活用型住宅整備事業が導入されます。事業の概要、目的について伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の背景といたしまして、宮古島市では少子高齢化、生産年齢人口の減少、家賃高騰、若年層の住宅問題、人手不足などの顕在化、深刻化が進んでおります。特に医療、介護、教育等の分野におけるエッセンシャルワーカーの確保は市民生活に密接に関わる問題であり、担い手の確保が喫緊の課題となってお

ります。こうした中、建築資材や人件費の高騰に伴う家賃の高騰は、宮古島市の若者や医師、看護師、教員といった転勤を伴う専門職の住宅確保を困難にしており、宮古島離れを加速させる要因として本市の最重要課題と位置づけております。こうした複合的な課題に対応するため、本事業では３Ｄプリンター等の先進技術を活用し、建築コストの大幅な削減、人員の省人化、工期短縮を可能にする住宅建設の実証を行う予定となっております。これにより、働き手の限られる離島においても、低コストでの住宅供給を実現し、島外からの安定的な人員確保と若者の永続的な定住促進を図りたいというふうに考えております。

◎我如古三雄君

この整備についてでありますが、建設場所について上野トロピカルフルーツパーク内に決定に至った経緯について伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の建設場所につきましては、複数の候補地の中で一定の面積が確保できる旧平良児童センター敷地を最有力候補として検討を進めてまいりました。旧平良児童センター敷地については、当初予算要求時の11月時点で樹木が繁茂しており、細かい現場確認ができなかったことから、既存のデータを基に用地造成の費用を試算しておりました。今年３月に樹木の伐採や雑木の撤去を行い、改めて詳細な現地確認をしたところ、隣接する市有地との間に想定以上の高低差があること、また解体予定の建物にアスベストが含まれていることが２月に判明いたしました。これにより、想定した以上の土留めや擁壁等の設置が必要となることに加え、アスベストの処理による解体工事の長期化も避けられないことから大幅な工期延長が見込まれ、当初目標である令和９年４月の入居開始が令和10年にずれ込むことが避けられない状況となりました。

本事業は、本市の最重要課題である住宅問題解消とエッセンシャルワーカーの確保に取り組むもので、迅速な事業推進を図ることが必要との判断の上、市有地での早期着工が可能であり、諸課題をクリアできるとともに周辺の生活環境等を総合的に勘案した結果、上野トロピカルフルーツパークの一部を候補地として選定したところでございます。

◎我如古三雄君

この場所について、地元地域への説明会等は予定あるのかどうか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

説明会についてですけれども、現在自治会長のほうと話を進めておりまして、自治会長と住民説明会の開催時期についても話合いを進めているところでございます。

◎我如古三雄君

地域の活性化、非常にいいことだというふうに思っております。市街地のみにこういったものが集中しないように、やはり地域にも分散してこういった施設ができるということは非常にいいことだというふうに考えます。

③でございますが、本市においては若者の定住について課題を抱えている一方で、医師や看護師、介護士、教師等の専門性が高い職種のほうが不足している傾向にあります。入居者は、どういった方々が対象となるのか伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

入居者についてでございます。本事業では、医師や看護師、介護士、教師といったエッセンシャルワーカーを入居対象者とする予定でございます。中でも医療従事者を最優先としたいというふうに考えております。この理由といたしまして、離島である宮古島市においては、医療従事者の確保は地域医療維持の要であり、市民の暮らしに直結する喫緊の課題であるというふうに捉えております。

市が医療従事者を対象としたアンケートでは、今後も宮古島市で働き続けたいかという問いに対しまして、約６割が分からない、またはそう思わないというふうに回答しております。その最大の理由は、家賃の高さでございました。この結果は、経済的な負担が医療従事者の定着を阻害していると現状を明確に示しているというふうに考えております。確実な医療体制を維持し、市民の不安を解消するためにも、医療従事者の居住支援を最優先で取り組む必要があると判断いたしているところでございます。

◎我如古三雄君

入居の時期はいつ頃を予定しているのか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

入居時期についてでございます。本市の医療体制は、島外からの派遣医療従事者に大きく支えられております。特に新年度となる４月は、人事異動に伴う新たな赴任者の受入れや既存の方々の生活基盤の確保が非常に重要となります。そのため、私たちは４月の業務開始に円滑に対応できるよう、早期の入居開始を目指して準備を進めているところでございます。建物の建築につきましては、早ければ10月から翌年の３月までを予定しておりますけども、この建築期間と並行いたしまして、２月から３月には入居者の募集と決定を進めたいというふうに考えておりまして、４月には入居を開始するように取り組んでまいります。

◎我如古三雄君

家賃の設定などはされているのかどうか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

家賃設定ですけども、現段階ではまだあくまでも想定ではございます。いろいろ複数の要素を総合的に勘案して算定する必要があると思っておりますけれども、できるだけ月額５万円から６万円程度にするように価格設定を行う予定となっております。特に今回新しい住居の居住性を検証していただくモニターとしてご協力をお願いすることになっておりますので、通常の賃貸物件と比較しまして比較的低廉な家賃設定とさせていただく予定となっております。

◎我如古三雄君

次に移ります。イムギャーマリンガーデンについて、指定管理についてであります。イムギャーマリンガーデンの管理について、現行は使用許可書に基づいて、長年にわたり個人による管理体制がしかれております。しかし、公共の施設である以上、公共性、公平性を保つ観点からも、指定管理者制度に基づいて住民の福祉増進に役立てる機能を持たせることが必要かと考えます。個人管理者に対するこれまでの指導、退去命令など、これまでの経緯について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

イムギャーマリンガーデン公園の管理棟につきましては、これまで約30年間にわたり、個人が利用許可申請に基づき、マリン事業所として利用しておりました。直近の許可につきましては、今年度、令和８年度から公園全体を指定管理制度に移行する予定としておりました。そのため、令和７年度の利用期間を昨

年の４月１日から10月31日までと定め、許可をしたところです。現在、許可期限過ぎておりますけれども、管理棟内の片づけなど原状回復期間を設け、昨年の12月31日をもって退去するよう通知を発出しております。しかしながら、期限経過後においても退去は行われておらず、現在も違反状態が継続している状況となっております。また、相手方に対しては、指定管理移行の方針を示した内容文書及び退去の通知等について、文書による通知を４回発出しております。

◎我如古三雄君

これまで４回の退去命令を出しても従わないというふうな状況でありますが、この受託管理者が市に納める使用料納付状況ですが、月２万5,000円ですか、これまで未納があるのかどうか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

管理棟の使用料につきましては月額２万5,000円、年間でいいますと30万円となりますけれども、令和７年度分の管理棟の使用料、４月から10月までででございます。月額２万5,000円と水道使用料金を含めまして、７か月分として23万4,000円ありますけれども、未納はございません。

◎我如古三雄君

今後退去命令に従わない場合の対応、措置ですか、どのような考えですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

今年４月28日付の文書で、５月８日までを期限とした原状回復及び建物の明渡し通知を行いましたが、現時点においても動きがないことから、法的措置も含めた対応策を検討するため、６月２日付の文書で本市の顧問弁護士に相談依頼を行っているところでございます。今後につきましては、顧問弁護士からの回答を待って、その回答内容を踏まえながら適切に対応してまいります。

◎我如古三雄君

きっぱりとした対応でお願いをしたいと思います。

飛ばしまして、４番の本市の出生数についてであります。本市における出生数の推移について、2025年の全国の出生数が過去最少を更新しております。以上を踏まえて伺いますが、本市は宮古島市子ども・子育て支援条例（仮称）の策定によって、子育てのしやすい島を目指し、子育て世帯が安心して子供を産み育てることのできる環境づくりを推進しております。そこで伺いますが、本市における過去５年間の出生数はどのようになっているのか。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

沖縄県の人口動態統計によりますと、宮古島市の出生数は令和３年472人、令和４年475人、令和５年382人、令和６年378人となっています。令和７年度については公式発表がまだですので、住民基本台帳年報の数字では388人となっております。

◎我如古三雄君

全国の出生数ももう60万人台になっていると。これまでのたしか５年前、10年前あたりは170万人とかでしたが、100万人を割って60万人台だと、大変な状況であります。今後どうなるのか、本当に不安であります。

次に、子供が増えない要因についてであります。子供が増えない主な要因について伺います。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

出生数が増えない要因としましては、国全体として所得や雇用の不安定化のほか、非婚化、晩婚化などが指摘されており、とりわけ本市においては若者や女性の島外への流出が進んでいることや住宅確保の困難性なども影響しているものと思われます。これらの要因が複合的に作用し、子供を産み育てることをちゅうちょする状況を生み出し、少子化が進行しているものと考えております。

◎我如古三雄君

時間の関係上飛ばします。

消防行政についてであります。インバウンドによる救急搬送について伺います。インバウンドの急激な増加に伴い、本市における救急搬送の現状について伺いますが、インバウンドの影響でどのような事件、事故等が発生して、なおかつ救急搬送にどのような影響を与えているのか伺います。

◎消防長（狩俣勝彦君）

本市におけるインバウンド救急搬送の現状についてお答えします。

まず、当消防本部における救急出動件数は、令和６年からになりますが、令和６年が4,456件、令和７年が4,388件、令和８年が５月末で1,216件となっております。このうちインバウンドに係る救急搬送人員は、令和６年が29人、令和７年が49人、令和８年が５月末で９人となっており、事故の内訳として、令和７年からになりますが、令和７年は急病で18件、交通事故で15件、一般負傷で９件、水難事故で３件、その他４件、令和８年５月末で水難事故が３件、急病で２件、交通事故で２件、一般負傷とその他がそれぞれ１件となっております。また、インバウンドにおける件数を令和６年と令和７年を比較しますと20件の増となっております。

市民への救急活動に対する影響については、配備されている救急車４台で対応しており、現状大きな支障は来しておりませんが、今後はインバウンド救急事案だけではなく、多種多様な災害を含めた消防行政への需要の高まりに対応するため、消防力強化について関係部署との調整を行っているところでございます。

◎我如古三雄君

次に、教育の振興についてであります。ラーケーション制度導入について伺います。

児童生徒が家族と過ごす時間のため、平日に学校を休めるラーケーション制度の導入が全国の自治体、県内市町村でも広がっております。県内市町村の取組状況、本制度に対する当局の見解を伺います。

◎教育長（宮城克典君）

まず、県内のこのラーケーションの導入については、今年５月５日の新聞報道によりますと、15市町村が導入しているというふうに記事には載っておりました。

見解をということで、ラーケーション制度を利用して保護者と共に平日に校外等で行う体験、探求的な学習活動は、子供たちにとって貴重な経験になるものと考えております。今年度から本格導入となった県立学校における保護者アンケートにおいても、約８割がこの制度を肯定的に捉えていることが分かっております。しかし、その一方で家庭の経済状況等により制度を利用できない体験格差を不安視する声もあり、全ての家庭が均等に活用できないのではないかという指摘もあります。今後は、この制度における課題の整理を行い、先行実施している他市町村の状況も踏まえて、本市における具体的な制度の在り方を前向きに検討してまいります。

◎我如古三雄君

②でございますが、働き方改革の一環として、親が土日に休みづらい環境でも家族で一緒に過ごす時間を確保できることや欠席扱いにならない観点からも、市として運用を拡大し、導入すべきと考えますが、見解を伺います。

◎教育長（宮城克典君）

ラーケーション制度を導入し、家族での時間を確保することにより、親子のコミュニケーションが図られることや､平日に学校を休んでも欠席扱いにならないという安心感の中で親子共々に活動できることは、子供たちにとっても、また日頃そういった時間を取れない家族にとっても大変大きなメリットがあると考えております。また、県立学校が本制度を導入しても市町村立の小中学校にラーケーション制度がなければ､兄弟姉妹がまたがっている家庭では家族全員での休暇が取りづらいことも認識しております。今後は、宮古地区小中学校長会役員会や保護者の皆様のご意見も参考にしながら、本市における制度導入に向け前向きに検討してまいります。

◎我如古三雄君

前向きにということでありますが、本制度の導入については那覇市が９月からの導入というふうなことを打ち出しております。本市のこの導入、いつ頃になるかというのは予定しているのか。

◎教育長（宮城克典君）

まずは、他市町村の実施例を参考に私どもで素案をつくった後、校長会役員と協議を重ね、早ければ２学期以降に試行期間、他市町村でも試行期間を実施している例があります。そして、令和９年４月からそういった本格導入に踏み切るかどうかといった点について協議して進めてまいりたいと思います。

◎我如古三雄君

令和９年度からの導入というふうなことですね。

前に戻りまして、サトウキビ生産振興について伺います。サトウキビ新品種の普及についてであります。サトウキビ栽培において、連続した株出しでの多収とビレットプランターでの機械植付けに適した新しい２つの品種が開発されました。ＲＫ10―29とＲＫ10―1007号であります。農家の高齢化、労働力不足を補うと同時に、サトウキビの安定した生産の構築を目指す必要があります。県は、年度内にも一般向けに配布するとしておりますが、この２つの新品種の普及拡大に向けた本市の取組について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市では、サトウキビ生産の安定と品質の向上及び新品種の普及促進を図るため、沖縄県の委託事業であるさとうきび優良種苗安定確保事業を実施し、優良種苗の増殖及び供給体制の整備に取り組んでおります。沖縄県東村にある国立研究開発法人種苗管理センターで生産、栽培される原種苗を本市の受託農家へ配布し、受託農家により増殖後、市生産農家へ配布を行い、優良種苗の普及拡大を図っております。新品種につきましては、今年１月に農林水産省により新たに品種登録された２種類がございます。１つ目のＲＫ10―29の特徴としましては、ビレットプランターでの機械植付けで良好な発芽性を持ち、高い株出し性や茎数が多く、多収量が期待できます。また、黒穂病にも高い抵抗性を持ち合わせていることも特徴として挙げられます。ＲＫ10―29については、既に本市においても設置の実績があることから、今後も同事業においてさらなる普及拡大を図ってまいります。もう一つの品種、ＲＫ10―1007の特徴としましては、風

折れや倒伏に強いため、台風時の折損被害が比較的少なく、株出し栽培で高い収量性を示しております。手刈り作業で葉を取りやすい特性も備えております。この品種につきましては、沖縄本島の手刈り地域向けに開発された品種となっておりますが、宮古地域における機械刈りでの利用についても支障はないことを確認しておりますので、関係機関等と調整しながら普及について検討していきたいと考えております。

◎我如古三雄君

時間となりましたので、今回質問できなかったものは次回に回したいと思っております。いずれにしても、今回お願いした事項が早急に解決が図られますように当局の取組を期待して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで我如古三雄君の質問は終了しました。

◎前里光健君

早速一般質問を始めてまいります。

市長の政治姿勢について、地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会、意見交換会についてです。南西諸島を取り巻く安全保障環境の変化や自衛隊の訓練、日米共同訓練等に関して、市民の皆様から寄せられている不安や疑念の声を直接伺い、今後の市政運営に生かしていくことを目的に現在開催されていると認識しております。私も上野地域、下地地域で行われた意見交換会にも参加をさせていただきました。以上を踏まえて伺いますが、①、６月25日から始まる日米共同訓練、レゾリュート・ドラゴンの受入れについては、有事を未然に防ぎ、戦争を起こさせないための抑止力、危機管理能力を高める取組につながるものと考えます。市長の認識をお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

日米共同訓練の背景には、中国公船による領海侵犯や台湾周辺での緊張状態など、周辺国の軍事動向の活発化により一層厳しさを増す南西諸島を取り巻く安全保障環境があるというふうに認識しております。そのため、総合的な脅威に対しましてより現実的な備えが必要であり、今回の日米共同訓練は有事を未然に防ぐための抑止力及び危機管理能力の向上に資するものとして位置づけているものと認識しております。

◎前里光健君

そして、②のほうになるんですが、これは新聞報道でも記載がございました。日米共同訓練については、国や沖縄防衛局から説明を受けてその都度判断する。一方で、米軍単独訓練については引き続き自粛を求めるという市長の考え方についていま一度教えてください。

◎市長（嘉数　登君）

国防は一義的に自衛隊が担うものであり、日米同盟は自衛隊の防衛能力を補完、強化する重要な枠組みであると認識しております。この認識に基づきまして、日米共同訓練については自衛隊の訓練の一環であり、現代の厳しさを増す安全保障環境において、国の防衛体制強化や抑止力維持に不可欠であるというふうに考えております。そのため、国や沖縄防衛局からの説明を受け、市民の皆様の生命、財産、そして生活への影響を最大限考慮した上で、その都度必要性や妥当性を判断するとの考え方です。一方で、米軍単独訓練につきましては自衛隊が直接関与しない形での訓練であり、その必要性や日本の防衛との直接的な

関連性が不明瞭な場合がございます。市民の皆様に過度な不安を与えるような運用の広がりは慎むべきであると考えており、引き続き自粛を求めるべきというふうな考えを持っております。

◎前里光健君

私は、意見交換会に先ほど参加をしたということを申し上げましたが、私この新聞報道で見たときに思ったのは、市長が飛躍した仮定や想定の質問に答え過ぎていないのかということなんです。この報道を見て、やはり市民の皆さんからも不安の声が上がっているということで、私はあえて取り上げたいのは、引き続き自粛を求めるという部分です。そこで、この自粛を求めるというところにはいろんな意味が含まれているわけです。なので、必要があれば米軍単独の訓練を、環境、必要に応じて一律に否定、反対はしないんではないかという考えにも捉えられるわけなんですが、いま一度この件に関してお答えください。

◎市長（嘉数　登君）

自粛を求めるという考え方に変更はございません。それ以上でもありませんし、それ以下でもございません。

◎前里光健君

そうですね。自粛を求めると言って、賛成でもなければ、反対でもないということになります。そういう理解でよろしいですか。

◎市長（嘉数　登君）

私が自粛を求めるという考え方を示しているのは、日米安全保障、それから日米地位協定を踏まえての発言ですので、その辺はご理解いただきたいというふうに考えております。

◎前里光健君

市長は明確に答えることはないんですが、答えること自体が今の段階でできないということであれば、私はこの質問をなぜしたかというと、市長はいろんな議論に波及するような答えを意見交換会またはメディアについて話しているんです。

ですから、そこはこの発言自体が、私の中ではこの答え自体は市長がまた米軍訓練に反対なのか、賛成なのかというところにも至りますし、以前から米軍単独の訓練の話があるのかとか、例えば米軍基地の誘致につながっていくんではないのかというような相談も寄せられるわけであります。明日、あさって、そういった意見交換会が行われますけれども、そういった中でこれがまた波及して、別の質問に至らないかということも考えているわけであります。賛成、反対、どちらとも言えない、それも理解はできますけども、市長がいろんな意見交換会で市民の皆さんの不安を収めるためにお話をしているのは分かりますが、こういった議論に移らないような形でまとめていただきたいと思っておりますし、そして一番大事なことはこの島で戦争、有事を起こしてはならないし、そういったことにならないように、今行われていることをしっかりと受け入れているという市長の考え方をそこで示していくということだと思っております。だからこそ、間違ったメッセージが届けられないように、慎重なるお答えをしていただきたいというふうに思っております。それについて何かありますか。

◎市長（嘉数　登君）

意見交換会の中でも、今回の日米共同訓練をなぜ受け入れるに至ったのかという考え方は示されておりますけども、改めてこの場でも説明をさせていただきます。

市民の皆様からのご意見は、真摯に受け止めております。不安があるという声については。しかし、現在の南西諸島を取り巻く安全保障環境が非常に厳しさを増しているということに加えまして、私は地理的に本市は我が国の国防上極めて重要な位置にあるというような現実も改めて強く認識しております。今回の訓練は、そうした現状認識に基づきまして、日米同盟を基盤とした抑止力、それから対応力の強化、特に共同衛生訓練という大規模災害時の人道支援、救助活動にもつながるものであり、その必要性も理解せざるを得ないというふうに考えております。市民の生命と財産、そして地域の安全を守るという、これ市長の重要な職責を果たす上であらゆる側面から総合的に判断をしております。

◎前里光健君

３月の定例会で、私は国民保護シンポジウムの中でいろいろ意見が交わされましたということで、市民の皆さんからの質問に答えている県であったり、市であったり、国、それについてそれぞれ整理すべき課題があって、宿題といいますか、それでやはり意見交換会もするべきだということで申し上げました。そして、市長は今意見交換会ということも行っているところであります。私が見る限り、市長、また役所自体でこの件に関しての一定の役割といいますか、それは果たしてきているのだと思っております。また、明日、あさってありますけれども、そういった中で先ほど我如古三雄議員の質問にお答えをしていますけれども、沖縄防衛局のほうが説明をするということで７月19日来られるということなんですけれども、私が申し上げたいのはそういった様々な質問に対して、また県や国が答えるべき所管の部分も市長は答えていたと思うんです。だからこそ、そこも強く求めて、今取りまとめているデータあると思いますが、それをちゃんと報告をした中で説明をしっかりと求めていただきたいと思っております。それをベースにそういった集まりを持つということでよろしいですか。

◎市長（嘉数　登君）

地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会、意見交換会につきましては、これまで上野地域を筆頭に始めましてやってきております。明日、あさっては平良地域、伊良部地域でも開催いたします。引き続き、市民の皆様との対話を深めてまいりたいというふうに思っております。それと、会議を通じていただいた意見は市としてもしっかりと受け止めまして、これは九州市長会等とも連携をして、国にしっかりと伝えてまいりたいというふうに考えております。

南西諸島を取り巻く安全保障環境の変化については、先島地域の地理的な特性を踏まえ、正確な情報発信が必要との認識でありまして、引き続き国に対して透明性のある丁寧な説明を強く求めてまいりたいというふうに思っておりますし、先ほど答弁したように国の試算によってそういう情報提供の機会を設けられるということですので、市としても一緒になって市民向け説明を行っていきたいというふうに考えております。

◎前里光健君

今なぜ訓練が必要なのかということで、そういった地域の皆さんにもこの安全保障環境についての説明をしっかりと求めていただきたいと思います。こちらについては以上であります。

次に、福祉行政に移ります。宮古島市では、令和８年３月に第４次宮古島市地域福祉推進計画が策定されており、本計画では住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり、地域共生社会の実現を目指している旨の記載があります。その中で、本日私も保護司という立場で、副市長のほうには九州のほう

から来ていただいた担当課と表敬訪問していただいたことを感謝申し上げますとともに、この推進計画に記載をしていただいたことをお礼したいと思います。ありがとうございます。

そういった中で、①になります。第４次宮古島市地域福祉推進計画の中の指標で、住んでいる地域を住みよいと考えている住民の割合が前回の調査よりも減少していました。その要因についてご説明ください。

◎福祉部長（守武　大君）

本市では、今年の３月に第４次宮古島市地域福祉推進計画を策定しました。この策定に当たり、無作為に抽出した市民4,800名にアンケート調査を行い、1,245名の方々から回答をいただいております。そのアンケートの設問で、あなたと地域生活についてという設問で、まあまあ住みよいと答えた方が前回、５年前の調査より6.1%増えましたが、前里光健議員おっしゃるように住みよいと答えた方が14.4ポイントも減っています。また、あまり住みよくない、住みにくいと回答した方の合計が13.1%で、前回調査より5.2%増えております。この方々にどのように変われば住みよいと感じるかを設問したところ、約４割の方が買物が便利になる、家賃や物価の高騰が収まると回答し、また約３割の方が治安がよくなると回答しております。住みよいと回答した方が大幅に減少した要因も、同様な思いがある方が増えたことによると考えております。

◎前里光健君

地域福祉を取り巻く環境というのは、少子高齢化、単身世帯の増加、地域のつながりの希薄化、孤独、孤立、生活困窮など多様、複雑化しているということであります。また、こういった中で課題に対応するためには、行政だけで支えることは私はできないと思っております。この地域福祉推進計画の中では、日常的に地域を支える公的ボランティア、これ保護司、民生委員、児童委員、人権擁護委員、行政相談員などおられます。そういった中で連携を強化し、分野を超えて、また横串を通して支援体制を構築することが私は重要だと考えております。５月29日の新聞報道にありましたが、2025年度宮古島市民生委員、児童委員が受けた相談支援件数というのは5,778件で、前年度よりも315件減少したということなんですが、主な相談内容は日常的な支援、健康・保健医療がメインであったというふうに載っていました。

一方で、民生委員、児童委員の定数というのが130人に対して、現在106人にとどまっているということで、担い手の不足が相談件数の減少につながった、影響したんではないかということであります。ボランティアの方々の目標値も、これぐらい必要ですよという目標値は達成しているんですけれども、日常的に行う公的ボランティアの皆さん方がどんどん減っていると思っています。なので、地域では日常的に支援を行うボランティアの重要性を今後さらに高めることが今言ったような住みよいまちづくり、住み続けられるまちづくりにつながっていくんではないかと私は思っております。その担い手の確保、人材育成を計画の中に位置づけて行政としても支援、連携を強化していただきたいということで、一応ここにはまた具体的に推進計画の中には載ってはいるんですけども、それを踏まえて②になるんですが、住みよい地域づくりのためには公的ボランティア、先ほど申し上げました保護司、民生委員、児童委員、人権擁護委員、行政相談員などの位置づけを明確にして関係機関との連携強化を第３次総合計画に盛り込む必要があると私は考えておりますが、その必要性についてどう思っているのかお聞かせください。

◎副市長（砂川　朗君）

保護司、民生委員、児童委員、人権擁護委員、行政相談員をはじめとする公的ボランティアの皆様には、

それぞれの専門性や地域とのつながりを生かし、市民の身近な相談役として福祉の向上や人権擁護、更生保護活動など幅広い分野で重要な役割を担っていただいております。少子高齢化や人口減少の進行、地域コミュニティーの希薄化、複雑化、多様化する地域課題への対応が求められる中、行政だけではなく、公的ボランティアの皆様や関係機関との連携はますます重要になってくると考えております。このことから、現在進めております市の最上位計画であります第３次宮古島市総合計画策定に当たっては、地域福祉推進計画などの各分野の個別計画と整合を図りながら、住みよい地域づくりに向けた方向性や公的ボランティアの皆様の活動の位置づけ、目標値の考え方も含め、総合的な視点から検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

◎前里光健君

第３次総合計画の柱のキーワードというのは、ウエルビーイングという言葉らしいです。そのウエルビーイングという視点でまた福祉に関する考え方がより深まって施策につなげていただきたいと。また、その中では、やはり、この最上位計画の第３次宮古島市総合計画の中に具体的に盛り込んでいただくことが重要であると考えております。これからの福祉というのはより一層厳しさを増すと思いますので、私はここの総合計画にしっかりと盛り込んでいただく、それでまた福祉部というものがもっと人材を増やすとか強化をしていく必要があると思っていますので、より具体的な文言を記載していただいて、この総合計画の中に盛り込んでいただきたいと思っております。こちらについて、市長、福祉分野すごく経験があると思いますけど、この総合計画載せてくださいという案に関して何かありますか。

◎市長（嘉数　登君）

ご指摘、ご提案については、真摯に受け止めて検討してまいりたいというふうに考えておりまして、ただ市が持っている計画というのは多岐にわたります。総合計画を最上位として、それに伴う分野別計画というものがございますので、その計画案の整合性というんですか、役割を踏まえて、今のご意見も踏まえて検討していきたいというふうに考えております。

◎前里光健君

よろしくお願いします。

少し順番を変えます。教育行政の４番目、夏休み対策について伺います。本市は離島圏に位置し、物価高騰や輸送コストの影響を受けやすい環境であります。夏休み期間における子供たちの健やかな成長を守るために、教育委員会、学校、家庭もあります。関係部署が連携し、現状把握と必要な支援につなげる取組が重要と考えております。以上を踏まえて伺います。夏休みなどの長期休暇期間中において生徒、児童の生活環境や健康状態について、教育委員会としてどのような課題認識を持っているのかお聞かせください。

◎教育長（宮城克典君）

学校の夏休み等の長期休業期間は、家族との絆を深めたり、自然体験や旅行など、多様な活動に参加し、ふだんの学校生活から離れて心身をリフレッシュするメリットがあります。一方で、インターネット依存や通信機器の長時間利用による生活習慣、生活リズムの乱れや、物価高騰に伴う食品の値上げにより、安価で簡単な食事に偏り、その結果、栄養バランスが崩れて体重の増減等のデメリットもあります。また、長期休業明けは十分に食事を取ることができず、痩せて登校するという実態もあると聞いております。そ

ういった議論がなされているのも確認しております。本市においても、実態の把握や注意喚起も必要であると考えます。

◎前里光健君

私５月に上京して、文部科学省の皆さんと意見交換会、また勉強会をしました。そのときには、ＧＩＧＡスクールであったり、ＡＩの活用であったり、沖縄こどもの貧困緊急対策事業ですか、そういった部分を学ぶ機会がありました。今教育長がおっしゃったのは、もちろん生徒、児童全体についてということで、ここで大事なものは注意喚起、周知を徹底するということが大事だと思っています。教育長もおっしゃっていました。夏休み明けに生徒、児童が痩せて来ると。これ国会でも議論になっていたんです。体重を減らしてきた子供たちの課題については、全国的にも取り上げられているということであります。これは、背景にはやはり世界情勢で物価の高騰によってエネルギーのコストを抑えようとか、食料品も高くなって、それをどうにかしようと、そういった背景があるというふうに伺っております。今年は、昨年よりもより厳しいんではないかという話も聞こえてきています。そういった中では、特にこの宮古島市は離島であり、物価高、輸送コストの影響を受けやすい地域でありますので、夏休み期間中の子供たちの状況を把握して、必要であればその支援につなげることが大事だと思って、この質問を取り上げているわけなんですが、再質問させていただきますが、課題を抱える児童生徒、いわゆる困窮世帯に対してはどのように対策を考えているのかお聞かせください。

◎教育長（宮城克典君）

生活環境に課題のある児童生徒の対応は、長期休業期間に気の休まる場所や給食が停止され、食事を十分に取れないことも予想されることから、子供の居場所や食支援を開設する団体の情報を関係部署へ確認、共有し、学校や保護者へ提供することを検討しております。

◎前里光健君

ぜひ夏休み明けに生徒、児童が元気に登校できる体制づくりということで、周知徹底をお願いしたいと思っております。

次に、順番を変えまして、企画行政について伺いたいと思います。お米券の遅れについて。令和７年度宮古島市物価高騰対策事業におけるお米券配布の遅れについてであります。これは、12月予算議決後、本来想定されていた時期よりもこの配布が遅れました。その理由についてお聞かせください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

お米券の配布が遅れた理由についてでございます。お米券配布事業につきましては、令和８年４月から市民の皆様へお米券をお届けできるよう準備を進めてきたところでございます。昨年度、18歳未満と後期高齢者の方にお米券、そしてまた18歳未満の方にというふうに、追加で２回お米券の配布事業を実施しております。その調達手続は数週間程度で済んでいたことから、今回も同様の作業スケジュールになるものと認識をしておりました。しかしながら、今回は前年度とは異なり、国からお米券の利用に期限を設けることが示されたため、期限付のお米券を、これは米の販売事業者、沖縄食糧とか第一食糧です。代理店ではなくて、発行元である全国米穀販売事業共済協同組合から直接調達する必要が生じております。調達先が変更されたことにより、日本郵便と全国米穀販売事業共済協同組合の間で代金支払いの方法の調整、期限切れとなったお米券の市への返金に関する調整、お米券の受託者への納入方法の調整といった各種調整

に不測の時間を要したため、結果として配布スケジュールが大幅に遅れてしまいました。事業スケジュールの見通しが不十分であったことが配布の遅延を招いた要因であると深く反省しております。現在配布を開始しており、順次市民の皆様へお届けできるよう取り組んでまいります。

◎前里光健君

本当に事業スケジュールが甘いということを言わざるを得ません。この質問をなぜ私が取り上げているかといいますと、これは本当に市民の皆さんからいろんな声が寄せられました。期待が高かったということなんです。なので、今回の物価高騰対策というのは、国の地方創生臨時交付金を活用して、そして物価高騰によって影響を受けている市民の生活を支援する重要な事業なんですということが目的なんです。だから、これ速やかに届かないとそれは事業効果がないんです。そういった中で、議会でも12月、市民の皆さんに早期に支援が届くことを前提に議決をしている。さらには、早期に配布されることで物価高に苦しむ市民生活の負担軽減につながるとして議会は議決をしている。しかも、これ２回目なんです。１回目とかではないんですが、２回目でこういったミスをするということで、これは市民全体への配布予定だったわけですよね。多分11月にも国からこういうふうな仕様でやってくださいねって来ているはずなんです。それを見ながらもミスをしているというのは、やはりしっかりとそもそもの見直しが必要ではないのかなというふうに思っております。この事業効果に大きく影響を与えたと私は思っております。企画政策部長も総務財政委員会のほうで、この２回目の配布、なぜお米券なのかという質問に対しては、やはりお米券、使途、用途がいろいろ幅広いと。いろんなものに使えますよと。配布の実績もあります。そして、事務手数料も抑えられると。これは、併せて市内の消費喚起、地域経済対策にもつながっていきますよというタイミングなんです。だから、このタイミングでやることが一番効果が発揮されるというふうに言われていたわけであります。だからこそ、今私は取り上げているんですけど、これまた２回目とか３回目はないと思うんです。そもそもの問題だと思っているので。なので、これを踏まえて②の質問になるんですが、市民生活への影響をどのように認識しているのかお聞かせください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

市民生活への影響ですけども､今年４月から値上げされました飲食料品は約2,800品目に上ったとの報道がございました。物価高騰が市民生活に重くのしかかっております。多くの市民の皆様が、本事業による支援を生活の一助として期待されていると認識をしております。物価高騰による生活への影響を緩和するため、市民の皆様にいち早く確実にお届けできるよう取り組んでまいります。

◎前里光健君

この事業は、また同じように臨時交付金というのが出るかと思います。ただ、同じような扱い方はあるかどうか分かりませんけど、その支援が最大に発揮できるように次回は気をつけていただきたいというふうに思います。

次に、また順番変えますが、自治行政について伺います。宮古島市における認可地縁団体の現状についてということです。①、②番は相談件数の推移というふうに伺ったんですが、データがないということだったので、③のほうから伺います。宮古島市における認可地縁団体の相談内容として、どのような問題が多く上がっているのか伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

宮古島市における認可地縁団体からの相談内容についてお答えいたします。

主な相談内容としましては、認可を受けた場合のメリットやデメリット、それから財産の運用に関すること、それから団体の総会の決議事項に関すること、それから自治会の認可地縁団体、自治会の規約内容に関することなどが相談として上がっているところでございます。

◎前里光健君

恐らく新聞報道等でも、メディアでも皆さんもご承知のとおり、ある地域の団体ではやはり財産とか決議、規約の整備とか、そういったものでいろいろともめているということだと思います。④の質問に移るんですが、本市として認可後の団体、適正かつ円滑に運営できるようにどのようなサポート体制（手引やＱ＆Ａの作成、説明会や個別相談など）を実施しているのか、整備しているのか、お聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

認可地縁団体に現在市が行っているサポートについてお答えいたします。

現在のサポート体制としましては、個別相談による認可制度や関連する法制度などについての説明等を相談に応じ随時行っております。また、自治会からの要望に応じ、説明会の実施についても日程調整の上、対応していきたいと考えております。

◎前里光健君

説明とか随時何か問合せがあったら答えていきますよということなんですけど、私が申し上げているのは、認可地縁団体というのは市長が認定をされているわけなんです。それで、財産の運営をおのおのやってくださいねということで、分かる方は分かると思うんですけど、自治会の総会、それがまた認可地縁団体に変わると全くルールが変わっていくんです。そういった中では、会則とかルールに基づいて、各自治会で議決するかもしれませんけど、そもそも地縁団体になった段階で全くそれが変わっているということを知らずに、継続して慣習法といいますか、その流れでずっとやっている。しかしながら、最終的には何か財産を動かすとか議決をするといったときに、こういった部分が発覚して混乱をしているというような自治会が多く見られているわけであります。なので、今申し上げたのは、手引やまたＱ＆Ａの作成というものが重要ではないか。他市はやっているんです。他市はしっかりつくって、こういうふうにルールにのっとってやってくださいねと、認可地縁団体のルールというのはベースとしてこういう考えがありますということで説明をされているわけです。だから、それをつくってマニュアル化といいますか、これを市が手引などをつくって配布する、そういった考えがないかということです。

◎総務部長（上地俊暢君）

認可地縁団体の運営に関する手引の作成についてでございます。市としましても、近年自治会による相談件数も増えております。その相談対応に続くサポートとして、手引等の作成に取り組んでいきたいと考えております。

◎前里光健君

自治会が認可地縁団体に登録するのは、地域の財産とか、そういったものをしっかり運営して次の世代にも残して、引き継いでいこうというような考えもベースにあるわけです。しかし、そういった中では、これが基に混乱をしていくというのが散見されるわけであります。それで、近年は自治会や地縁団体を取り巻く環境というのは、人口減少、高齢化、役員の成り手不足、また地域活動への参加者減少ということ

で大きく変化をしております。認可地縁団体は、地域づくりの重要な受皿の一つである一方、適正な運営がなされなければ地域内の合意形成、また財産管理をめぐる混乱につながっていくということが想定されます。そのため、本市としては相談や課題の個別相談だけではなくて、こういったマニュアルもつくって、宮古島市全体、地域のコミュニティーの課題ということで捉えて、支援体制を整えていただきたいと思っております。自治会がしっかりとまた本来であれば収めていくべきなんですけども、多分市役所にもいろいろ相談が寄せられていると思います。こういったことがないように、手引などをつくっていただきたいと思っております。市長としても、いろいろメディアではありますが、こういった件に関して一言あればお願いしたいと思います。

◎市長（嘉数　登君）

私もかつて住んでいたところが自治会から地縁団体に移行したときがありまして、そのとき役員をしておりましたので、制度の理解という意味では市役所の人といろいろと相談をさせてもらった記憶がございます。いろいろと地縁団体化するに当たっては疑問もあるというふうに思いますし、Ｑ＆Ａについては先行している自治体の例もありますので、そこはしっかりとそれも踏まえながら策定していきたいというふうに考えております。

◎前里光健君

よろしくお願いします。

次に、８番のほうからいきたいと思います。順番を変えます。情報行政についてということです。１、「市役所のパソコンの押収」と書いていますが、「回収」なのかもしれません。５月の地元テレビ局の報道にて、公共工事用のシステムというのが入った市のパソコン、それを警察署が押収か回収したというような報道があったと伺っております。私は直接は見ていませんけども、それで私のほうにも市民の皆さんから不安が広がっていると声が届いています。この報道との事実関係を教えてください。

◎総務部長（上地俊暢君）

宮古テレビで報道されたパソコンの回収についてお答えいたします。

市としましても、報道については承知しているところでございます。一方で、捜査機関の対応に関する事項については、現時点での答弁が困難であることについてご理解いただきたいと考えております。

◎前里光健君

私が申し上げているのは、総務部長、私は報道ベース、ではどういう報道がされたということ自体は教えていただくことは可能ではないですか。そこを申し上げているんです。そこの事実関係を教えてください。

◎総務部長（上地俊暢君）

宮古テレビの報道においては、本市の農林水産部の積算用パソコンが２台、建設部のパソコンが１台回収（＿＿部分は103頁に発言訂正あり）されたという報道がされております。それについては、我々も確認をしているところでございます。

◎前里光健君

すみません。総務部長、確認なんですけども、パソコンが押収されたということでよろしいですかということで確認をお願いします。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時41分）

再開します。

（再開＝午前11時41分）

◎総務部長（上地俊暢君）

報道においては回収（　　部分は103頁に発言訂正あり）とあったと思いますが、質問にありました押収によるは差押えなのか、協力により提出なのかの質問につきましては、一般論として捜査手法や用語を含む捜査に関する事項については、市がお答えすることが困難なことについてご理解ください。今後事実関係が確認され、市として説明可能な状況となりましたら、改めて皆様にご説明させていただきたいと考えております。

◎前里光健君

説明が可能な状態になったらということなんですけども、今現在もパソコンというのが戻ってきていないよということだと思うんです。ただ、質問したいのはこれがほかの入札とかにも影響しないかということぐらいは答えられると思うんですが、それは問題ないでしょうか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時43分）

再開します。

（再開＝午前11時43分）

◎総務部長（上地俊暢君）

ご質問の事案において、該当する２部において、業務において支障は今のところ生じていないというところでございます。

◎前里光健君

総務部長、いろいろこれについてはうわさが広がって、私のところにもいろんな質問が飛ぶんですが、答えられないんです。なので、今私が申し上げたいのは、捜査の段階があるのでお答えできませんというのと、市のそれ以外の部分でお答えできる文言の整理といいますか、そういった整理はされていますか。

◎総務部長（上地俊暢君）

先ほども申し上げたとおり、捜査機関の対応に関する事項については現時点での答弁が困難であるというところでございますので、ご理解いただきたいと思っております。

◎前里光健君

宮古島市が捜査対象となっているよということで、今もう様々な課題がある中でこういった問題が起きているということは本当に残念で仕方ないんですが、これに対してやはり先ほど答弁ありましたけども、説明可能な状況になったら改めてしっかりと市民の皆さんに説明をするということでよろしいのか、市長、お答えください。

◎副市長（砂川　朗君）

先ほど総務部長からありましたとおり、説明できる状況になれば、市のほうからしっかりと説明はさせていただきます。

◎前里光健君

この後多くの議員の皆さんも通告されていると思いますので、それには真摯に答えていただくようにお願い申し上げます。

次に移ります。建設行政についてお聞かせください。令和６年４月に改定されました中心市街地活性化基本計画について、①、都市再生推進法人の認定制度については、市においても民間主導のまちづくりを後押しする重要な制度として、前向きに検討が進められているものと認識しています。都市再生推進法人の認定制度について、宮古島市は現在どのような検討を行っているのか教えてください。

◎建設部長（下地睦子君）

宮古島市の中心市街地活性化基本計画は、令和６年３月に認定され、同４月に制定をされております。直近では、令和８年３月に変更を行っております。本市では、都市再生推進法人の認定制度導入に向け、その有効性や運用上の課題等について整理を進めております。なお、本制度は民間事業者等が主体となってまちづくりに取り組むことを促進し、都市の再生を推進する上で極めて有効な体制であると認識しております。現在国が定める都市再生特別措置法に基づき、都市再生推進法人として認定されるための要件、具体的な手続の流れ、さらには認定後の法人が果たすべき役割や義務、行政との連携の在り方などを確認しているところでございます。それらを踏まえ、一連の制度設計と運用ルールについて、他の自治体の事例も踏まえて、本市の実情に最適な運用方針を定めるべく調整をしているところでございます。

◎前里光健君

実情に応じた運用を今模索しているということだと思いますが、令和６年４月にこれはつくられているわけですから、私がここで申し上げたいのは、計画のまま終わるということではなくて、こういう方針を出されて、基本計画があるわけですから、しっかりと進めていただきたいということを要望しているんですけども、その中で②の質問に移ります。

公募、審査、認定、スケジュールの整備について、どういうふうに考えているのかお聞かせください。

◎建設部長（下地睦子君）

都市再生推進法人の認定に向けたスケジュールにつきましては、認定に必要となる要領等の整備や関係者との協議を行う必要がございます。具体的には、認定要領及び審査基準の作成、関係部署との庁内調整、申請候補団体との事前協議及び申請準備期間等がございます。その後申請受付から審査、ヒアリングの実施、認定に係る内部手続及び決裁手続を経て、現時点では準備着手から認定までおおむね７か月程度を想定しておりますが、候補団体の準備状況や協議内容等により前後する可能性がございます。今後につきましては、都市再生推進法人制度の活用による官民連携の推進を図るため、必要な手続を着実に進め、早期の認定に取り組んでまいります。ちなみに、都市再生推進法人を認定する予定としましては、今年度内の認定を目指して進めております。

◎前里光健君

今建設部長おっしゃっていただいているんですけど、必要な手続ということで官民連携でここは進めていくよということで、認定は今年度内ということなんですけど、いろいろ今審査基準とか申請の準備、調

整があるということなんですが、現在民間から提案とか幾つか上がっているということでしょうか。あわせて、その場所とかあるんであれば教えてください。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時51分）

再開します。

（再開＝午前11時51分）

◎建設部長（下地睦子君）

現時点で具体的な提案を受けているものはございません。場所につきましては、本市の中心市街地区域は行政区単位を基本に、西里大通り、下里通り、市場通り、マクラム通りを骨格とする商業系の都市機能が集積する中心市街地を中心に、国際クルーズ拠点となっている漲水地区、これは平良港です。とその周辺の史跡や文化財が残る旧市街地の区域としております。

◎前里光健君

かなり広範囲に及ぶんですけども、建設部長、今はまだその提案を受けていないというお話だったんですけれども、もう７か月で行うという話で、年度内という話もありましたけれども、そういったスケジュールを考えたときに、今もう既に受け付けていくとか、そういった状況でなければなかなか進まないと思うんですが、今そのスケジュール上どの段階にあるのか、どこでまた受付をしていくのかというのを教えてください。

◎建設部長（下地睦子君）

現在は、認定要領であったり、審査基準を検討しているところでございます。それを要領と基準を決定するのが、大体８月から９月を目指しております。関係部署との調整に10月頃、公募、事前協議など申請準備期間を11月から12月頃としまして、認定に係る決裁手続等を経て認定を行うのを今年度末までというスケジュールで考えております。

◎前里光健君

まちづくりというのは、皆さんご承知のとおり、数年でできるというふうにはないので、10年、20年、30年見据えて進めていく必要があると思いますので、この部分は早めに推進していただくということなんですけれども、これは私の考えなんですけど、この宮古島のまち、歴史、また文化、地域のつながり、そして人とかまちの変遷、そういったことを理解している事業者にこれからの10年、20年、30年のまちづくりの中でぜひとも関わっていただいて、これを早めに進めていただきたいということを求めて、この質問を終わりたいと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

そして、次、港湾行政のほうをいきたいと思います。平良港国際クルーズターミナル受入れ施設及び施設周辺における課題についてということです。３月定例会でも質問させていただきました。その中では、クルーズ船寄港時における交通混雑、車両動線、警備体制、トイレや案内表示など、施設環境、また観光客の安全確保について質問を行ったところです。全体的に課題があるのではないかという質問に対して、建設部長のほうは、これはもう包括的に不足している部分は今後検証をしていきたいという答弁がありました。そこで伺いますが、３月定例会で指摘した平良港国際クルーズターミナル受入れ施設及び周辺施設

における課題の解決に向けた市の取組、現状どうなっているのかお聞かせください。

◎建設部長（下地睦子君）

平良港国際クルーズターミナル受入れ施設の課題といたしましては、ターミナル内を移動する乗客の動線確保や防犯カメラの設置、施設内のトイレ混雑緩和、バス、タクシーへの円滑な誘導等が挙げられます。その課題解決に向けて、国の補助メニューを確認しながら施設利便性向上に向けて取り組んでいるところです。今後、民間事業者への指定管理等を想定しております。そのため、現在観光案内所で受入れ業務委託を行っております民間事業者にて実証実験を検討しております。その内容といたしましては、観光案内のほかに物販や体験等のコンテンツや二次交通対策等について、クルーズ船寄港時の収益で運営できるような仕組みづくりなどを提案していただいているところです。

◎前里光健君

今実証事業を行っていくということで考えている、また指定管理制度に向けて、そこを導入していきたいという考えだと思いますが、この指定管理導入に向けてはいつ頃を考えているのかお聞かせください。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほども少し触れましたが、国の補助メニュー等を確認している状況でございます。今年度活用できる補助メニューを確認して、次年度以降、作業に着手していきたいと考えております。

◎前里光健君

私、根間康雄議員と５月上京したんですが、そのときに国土交通省港湾局とか観光庁の皆さんと勉強会、意見交換会を行いました。その中で、クルーズ船の受入れに伴う課題というのは全国各地でいろいろあるんですけれども、それぞれの地域の実情に応じた取組によって課題解決を図っているという事例もご紹介をいただきました。そういった中では、国においては受入れ環境の改善などに活用できる補助メニューというものも用意されております。私も根間康雄議員も一緒になって資料も頂いて、それは港湾課のほうにもこういうメニューを国は用意していますよということでお渡しをしているかと思いますが、そういったものを参考にしていただいて、この制度は委託事業者も、また宮古島観光協会も対象となるというふうに聞いています。制度とかを積極的に活用しながら、市の実情に合った受入れの整備体制を進めていただきたいと思います。

また、多くの観光客を受け入れて、観光客だけの満足度を上げるということではなくて、市民の皆さんがより恩恵を受けられるというような、そういった事業の形を目指していただきたいと思っております。今観光計画もつくっているということなので、質の高いクルーズ船の観光というものを目指して、そういうところをまず初めに進めていただきたいと思っております。こちらについては以上です。

すみません。教育行政のほうに戻りたいと思います。３番の情報モラル教育の充実についてということです。タブレット端末やインターネット活用が進む中で、児童生徒がＩＣＴを正しく安全に活用するためには、情報モラル教育の充実が必要と考えております。①、本市における小中学校のインターネットトラブルの件数について分かっているのであれば教えてください。

◎教育部長（久貝順一君）

昨年度教育委員会に提出された児童生徒の事件、事故報告書を基に回答いたします。

インターネットに関連するトラブルとしましては、４件報告されております。うち無許可でＳＮＳへの

個人情報公開が１件、次に画像、動画の無許可での撮影が２件、また画像、動画の拡散が１件となっております。この４件については、いずれも対応済みとなっております。

◎前里光健君

②、本市の小中学校における情報モラル教育の実施状況についてお聞かせください。

◎教育部長（久貝順一君）

昨年度３月、宮古島市内の小中学校において情報リテラシー教育に関する取組を行っている方のアンケートを実施したところ、市内全校、全ての学校で取組を行っているということを確認しております。ちなみに、取り組んでいる内容としましては、道徳等の授業において、市が教材として導入しているインターネットモラル教材の活用、また学校と警察署のサポート授業の一環として、宮古島警察署と連携してサイバー犯罪防止教室の実施、また外部講師を招聘しての情報モラル等の講演会等の実施を行っております。

◎前里光健君

時間が迫っていますので、２番目の教育現場における生成ＡＩの活用についてということで、①、宮古島市教育委員会として生成ＡＩを教育現場で活用する方針はありますかということでお聞かせください。

◎教育部長（久貝順一君）

教育現場におけるＡＩの活用についてお答えいたします。

教育委員会では、生成ＡＩについて学習を支援するツール、道具として捉えておりまして、文部科学省のガイドラインを踏まえながら活用を進めております。現在市が発行しているグーグルアカウントを用いて、希望する学校においてジェミニやノートブックＬＭを活用できる環境を整えております。また、宮古島市教育委員会も生成ＡＩ活用心得を定めまして、例えばリスクを把握した上で個人情報を入力しないこと、またＡＩの回答をうのみにしないこと、またレポート等をそのまま提出しないことなどを盛り込んでおります。また、今後教職員研修、また情報モラル教育を通して、教職員や児童生徒が適切に活用できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

◎前里光健君

一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

前里光健君、総務部長のほうから訂正があるそうです。

◎総務部長（上地俊暢君）

答弁の訂正をお願いいたします。

先ほどテレビ報道事案の質問の中で、報道機関が押収と表現している旨の答弁をいたしましたが、正しくは報道機関は回収と表現しておりましたので、訂正しておわび申し上げます。申し訳ございませんでした。

◎議長（平良和彦君）

これで前里光健君の質問は終了しました。

午前の会議はこれにて休憩し、午後の会議は１時30分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午後零時04分）

（平良敏夫君、着席）

◎議長（平良和彦君）

再開します。

（再開＝午後１時30分）

午前に引き続き一般質問を行います。

順次質問の発言を許します。

◎豊見山貴仁君

議席番号１番、蒼和会の豊見山貴仁です。本日も８つの事項、28問ありますので、どんどん進んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

まず、最初、１番、2025年第９回定例会で提起した課題の進捗状況について。私が第９回定例会で、離島、伊良部島、池間島、来間島の橋周辺へ防犯カメラの設置を提案しておりました。離島の３つの橋周辺の防犯カメラの設置について、市からは当初予算の中で優先順位を再度検討していくというご答弁をいただきました。橋は、島民生活や観光振興を支える重要なインフラである一方、不法投棄や犯罪、事件等の発生時の状況確認など、防犯、安全対策の視点から重要なポイントであると考えております。

そこで伺います。離島、伊良部島、池間島、来間島、その橋の周辺に防犯カメラの設置について、令和８年度中に整備に向けて補正予算を含めた予算計上の検討はなされているのか伺います。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

防犯カメラの設置については、令和７年12月定例会でも答弁したとおり、地域の安全、安心を確保する上でその重要性は高まってきているものと認識をしております。現在本市が管理する防犯カメラについては、一部老朽化した機器の更新を優先して取り組んでいるところでございます。ご質問の来間大橋、池間大橋、伊良部大橋につきましては、現在警察署と意見交換を行いながら、令和９年度からの防犯カメラ設置に向けた検討を進めているところでございます。

◎豊見山貴仁君

令和９年度からの設置に向けての検討ということで、ぜひよろしくお願いします。橋に一つカメラがあるだけで、島民の安心感が保たれると思います。不法投棄の抑制、事件、犯罪の調査、何か不測の事態が起こったときもカメラの画像が確認できるということで、少なくとも橋の往来の状況は確認できるわけです。この効果は、市街地のカメラと比べても優先度のかなり高い効果があると考えますので、島民の安心、安全のためにぜひ早期の実現をお願いいたします。

次の質問です。野そ防除対策について。ドローンを活用したネズミの防除対策の実証事業について。４月28日、多良間島で農業機械メーカーが開催した実演会で、ドローンによるネズミ防除剤を散布する技術などの公開があったと聞きました。以前の市の答弁、これは2025年第９回定例会で仲間誉人議員への答弁で、ドローン用の殺鼠剤、ネズミの防除剤が現状はないということでありましたが、状況が変わったということで認識しております。その認識を踏まえて伺います。令和８年度、ドローンを活用したネズミの防除対策の実証事業を宮古島市として行うことはできないか伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

４月の多良間島でのドローンによる殺鼠剤散布実演会につきましては、主催した機械メーカー、それか

ら多良間村に確認をしております。現時点では、無人航空機で散布可能な殺鼠剤がないことから、これは状況は変わっておりません。今回は防除目的の散布ではなく、あくまでも将来的に散布が可能になった場合を見据えた取組の一環として、散布機材の紹介を目的として実演会を実施したとの回答をいただいております。

◎豊見山貴仁君

次の質問に行きます。

少し飛ばして、４番の下地島農業エリアについて質問いたします。これは、これまでも多くの議員が質問しております。下地島空港周辺地の農業利活用について、特に市が保有する農業ゾーンについての質問です。１番、市が下地島に所有する農地の利用状況について。本市が2021年２月に策定した下地島農業基本計画、こちらがございます。これでは、85ヘクタールの農業的利用ゾーンにおいて基盤整備を行い、従来のサトウキビ主体から農業用水を利用した高付加価値農業を推進する計画となっております。下地島空港残地の農業ゾーンは、本市が整備し、運用することができる貴重な農業用地であり、地域農業の振興や担い手育成の観点からもその活用の検討は重要であると考えます。そのことを踏まえ、近況を伺います。①、現在の農家の貸付状況について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

下地島で市が保有する85ヘクタールの農業的利用ゾーンについては、原野等で耕作できない部分を除いた約61.5ヘクタールにつきまして農地中間管理事業を活用し、年間１反当たり4,000円、件数39件について賃貸借契約を結んでおります。

◎豊見山貴仁君

39件ということで承知しました。

続いて、②、利用されていない土地がある場合、その面積と利用されていない理由について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

現時点で１件が未利用地部分となっております。今年の３月31日が契約期限となっていたことから更新を予定しておりましたが､契約を予定していた耕作者が農業を行うことが困難な状況であるということで、更新されず未利用地部分となっております。近隣地域の農地利用者の方々に活用を勧めているところではございますが、この農地は耕土深が浅く、岩盤質のため、ほかの農地と比較して耕作に不向きな条件も相まっており、現在農地利用ができていない状況となっております。

◎豊見山貴仁君

１件以外は利用されているという認識です。下地島は土地が肥沃と聞いております。耕作したい農家はたくさんいらっしゃると思いますので、その辺の耕作意欲の表れかなと思っております。

続いて、２番の質問です。農業振興への効果について。下地島空港残地の農業ゾーンは、基盤整備を行い、高付加価値作物の生産や新たな担い手の育成を通じて、地域農業の振興を図ることを目的として整備していくものと認識しております。そのことを念頭に伺います。①、これまでの成果について、本市はどのように評価をしているか伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

現在農業的利用ゾーンでは、サトウキビを中心にカボチャ、葉たばこが主に生産されております。この

ゾーンのみを限定した生産量の算出等は行っておりませんが、農業的利用ゾーンがこれまで継続して生産農家に対し貸付けが行われ、農業振興に資する形で利用されている実績を鑑みますと、本市の農業振興に対して一定の貢献がなされているものと考えております。

◎豊見山貴仁君

一定の評価がなされているということで、続いて②の質問に行きます。

下地島農業ゾーンについて、今後どのような活用方針を持っているか伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

85ヘクタールの農業的利用ゾーンにおいては、下地島農業基本計画では基盤整備を行い、従来のサトウキビ主体から農業用水を利用した高付加価値農業を推進する計画となっております。現行計画に基づき基盤整備事業を実施した場合、計画では島野菜や熱帯果樹など、高い収益性と強いブランド力を備えた産地確立のため、農業生産法人等に農地の売却あるいは有償での貸付けを行う計画となっております。活用方針につきましては、これまでと同様に農業振興に資する形を軸としながら進めることになりますが、基本計画の策定から10年以上経過していることから、計画策定時点での方向性と現在の伊良部下地島地域における農業振興の在り方については、改めて検証する必要性があると考えております。

◎豊見山貴仁君

私も改めて検証する必要があるのかなと思っておりまして、もちろん沖縄県のほうでも検討はされていると思うんですが、本市としても主体的に考える必要があるのかなと思っております。これは、宮古島市下地島農業基本計画書でございます。平成24年、二千十……飛ばしますが、この中では下地島空港、物流拠点として実証も進んでいますし、スカイマークにおいて物流のことも動いております。この計画どおりに物流が動き出した段階で、まだ農作物等の発展が、そこの物流を拠点にして出ていくということが確立されると、さらに本市の農業の発展につながることかなと思っております。

また、昨今沖縄県の事業において、下地島空港及び周辺用地の利活用に関わるサウンディング調査がありました。これが、2026年２月に終了しているかなと思われております。この調査を踏まえた上で、今後公募の条件が設定されて、利活用事業の第４期公募が行われるのかなという認識をしております。現在沖縄県有地で耕作されている農地の明渡し期限は令和10年３月となっており、この第４期公募の状況次第で大きな動きがあるものと想定しております。令和７年６月の定例会における質問者、下地信男議員への嘉数登市長の答弁の中で、沖縄県の地元の農家の同意に基づく土地利用方針が決定していることが前提とした上で、基本計画の策定から10年以上、14年になりますか、経過しております。これを見直しも含めた内容の検証だと先ほど農林水産部長からもございましたが、市長からも答弁がございました。引き続き、沖縄県の動向を注視していただき、下地島における農業のさらなる発展を願い、この質問を終えたいと思います。

続いて、５番の中小企業の支援についてです。１、地元企業の優先活用について伺います。以前、令和８年第２回定例会において総務部長から、本市では物品調達等の契約において、市内に本店または支店、営業所がある事業者を入札参加資格者名簿に登録し、各部署において当該名簿から見積り徴取を行うという答弁をいただいております。この制度は、地元企業の受注機会を確保し、地域経済の循環を促進するため、重要な仕組みであると認識しております。一方で、地元事業者の皆さんからは、そのような制度があ

ることは知らなかった、制度は知っていたけど、実際にどの程度活用されているか分からない、島内で対応できる案件があっても市外企業が受注しているように感じるといった声も聞かれます。地元企業の皆さんは、単に事業活動を行っているだけではなく、地域の雇用を支え、税収を支え、地域の行事やスポーツ活動への協力、さらには災害時における協力など、地域社会における大切な存在であると考えます。そのため、制度が存在していることだけではなく、その制度が実際に機能し、地元企業の受注機会の確保につながっているのか検証することが重要であると考えます。

そこで伺います。まず、①、令和７年度の物品調達及び業務委託等における地元企業の受注率について伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

令和７年度、物品調達及び業務委託の地元企業の受注率についてお答えいたします。

一般会計の中で、委託料、公有財産購入費、医薬材料費、消耗品費、被服費、備品購入費などについて発注件数が１万8,992件、契約額が約151億5,000万円となっております。そのうち市内企業への発注件数は１万5,644件で、契約額は約95億5,000万円となっております。それから、市外企業への発注件数は3,348件で、契約額は約55億9,000万円となっております。発注件数による受注率については、市内企業は82％、市外企業は18％となっております。契約金額による受注率については、市内企業は63％、市外企業が37％となっております。

◎豊見山貴仁君

このように数字で示されると、地元の企業も少し納得感はあるのかなと思っております。やはり数字でこのように公表していくということが今後大事なのかなと私は思っております。

続いて、②の質問です。例えば地元企業が対応可能であるにもかかわらず、市外企業が受注した案件がある場合はその理由について伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

令和７年度の一般会計の中で、先ほど島外及び県外企業に発注した件数は3,348件と答弁しております。市外企業に発注している委託業務についてお答えしますと、物流ラインの確保や調査設計、監理、それからプロジェクト構築などの専門性が高い業務が主になっております。それから、市外発注の物品調達につきましては、消防の救助工作車やリサイクル施設維持管理部品、それから災害備蓄用の非常食購入など、特殊な物品が主なものとなっております。

◎豊見山貴仁君

今の答弁ですと、専門性が高い、もしくは特殊なものという振り分けかなと思っています。そのような状況だとどういう状況かというと何とも言えないんですが、もっと詳細というか、細かく分析していく必要もあるのかなと思います。この件についてはここで質問は終わりますが、それ以外の理由も今後お聞かせいただきたいと思います。この問題を質問した目的が、例えばその理由に応じて地元の企業が努力するところがあるのかなというところを発見できればなと思った次第です。例えばそこが足りないから市外企業が受注をしたというのであれば、価格は少し難しいかもしれないですけど、それ以外の小回りが利く部分は地元のほうが知っていたり、近くにいてすぐ対応ができたり、そういった価格以外のところ、本当に宮古島市のことを知っていて動けるところがあるかなと思いますので、その部分のもし中小企業、地元企

業の課題というところを宿題として言っていただけると企業努力をする余地があるのかなと思いますので、ぜひ本市にはこちらの地元企業を育てるという感覚を持って、このような受注業務をまた発注等を考えていただきたいと思います。

私この２つの質問を念頭に、１つ再質問をしたいと思います。こちらは、ローカル発注制度ということについての質問になります。これは、佐賀県の事例であります。佐賀県では、平成15年から取組を開始して、平成24年に佐賀県ローカル発注促進要綱を制定しております。目的は、県内企業の受注機会を確保して、地域経済の活性化と雇用の維持を図ることです。ローカル発注とは、佐賀県では工事の発注や物件、役務の調達を行うに当たり、県内企業を優先的に活用することを定義しております。単に地元企業を使いましょうという努力目標ではなくて、契約制度へ運用のルールを中に組み込んでいる点が特徴と言われています。主な取組としては、公共工事であれば元請業者に対して県内企業の下請活用、資材の県内調達、県内技術者の活用など、またそういうのを仕様書もしくは契約約款に書いていたり、また物品、役務に関しては、物品購入、委託業務については原則として県内企業優先、単独で受注が難しい場合は分離発注もしくは県内企業へ一部を、何％かを市内にと分けて発注するということなどの考え方が運用されていると聞いています。また、ＩＴ分野においては、ＩＴシステムは特別なものかなと思うんですが、随意契約が可能な場合は県内ＩＴ企業を優先、大規模な案件になれば県内企業と共同企業体、ＪＶなどを推奨されているということです。佐賀県は、毎年県内企業受注率、発注率等を公表しているそうです。令和５年の実績は、県内企業の企業発注率は81.6％ということをインターネットで見ました。今回市も82％を達成しておりますし、この数字は島内の会社にとってすごく納得というか、数値として、あっ、そういうふうなんだというふうに腹落ちがいい数字かなと思いますので、制度がありますではなくて、実際に何％発注していますということで大きな特徴かなと思います。

すみません。長くなりましたが、それを念頭に再質問です。本市においても、地元企業優先活用の実効性を確認するため、公共工事やその他物品調達、業務委託における地元企業受注率を継続的に把握、公表する考えはないか伺います。

◎副市長（砂川　朗君）

地元企業の積極的な受注機会を設けることについてでございますが、市としましても多くの経済団体のほうから地元企業の優先発注、また地元資材の積極的な使用についての要請等を受けておりますので、我々としても地元の企業に対して積極的な受注ができるような体制づくりを構築しながら、公表についても積極的にやっていきたいというふうに考えております。

◎豊見山貴仁君

ぜひルール的な制度設計が早く進むように願っております。

次の質問に移ります。少し飛びます。７番の宮古島市検定料補助金交付事業について伺います。１、令和８年度は、市は検定料補助事業を拡充しました。この事業拡充は、子ども議会で子供たちから出された要望を受けて実現したものであると聞いております。私は、子供たちの声が実際施策に反映された大変意義のある取組だと思っております。一方で、保護者、関係者からは、各校によって受検できる検定の種類や回数に差があるという声を聞いております。そのため、まずは現状把握のために伺います。①、小中学校ごとの検定実施状況について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

ご質問の小中学校の検定実施状況についてお答えいたします。

令和７年度におきましては、小学校についてですけども、漢検が22回、数検が６回、英検が４回実施されております。また、中学校においては漢検が31回、数検が28回、英検が31回実施されております。

◎豊見山貴仁君

続いて、②の質問、小中学校ごとの受検者数について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

小中学校ごとの受検者数についてお答えいたします。

令和７年度の小学校の受検者数についてですが、漢検で1,131人、数検で159人、英検では７人であり、合計で1,297人となっております。次に、中学校の受検者数にお答えをいたします。漢検では512人、数検では299人、英検では577人であり、合計で1,388人となっております。小中学校の受検者数の合計は2,685人となっております。

◎豊見山貴仁君

ただいま小中学校ごとの検定の実施状況、回数と受検者数についてご答弁いただきました。事前の聞き取りで細かく知りたかったもので、担当部署と学校ごとの資料云々も事前の聞き取りの中で少し頂戴している部分もございました。ありがとうございました。こちらが細かく数字を出していただいたんですが、これを見る限り、私も全部分析できていませんが、令和６年と令和７年の小中学校の漢検、数検、英検の受検者数と実施回数をいただいています。さらに、詳しい分析や実態把握、聞き取り……市民への聞き取りはこれからなんですが、その表を見るには生徒数の規模とか学校ごとの特徴はあるにせよ、特段差があるとは私は思えませんでした。

次に、２の本事業の成果検証についての質問に行きます。本事業の目的は、単に受検者数を増やすことではなくて、児童生徒の学力向上や学習意欲の向上につなげることにあると考えています。そのため、受検者数ではなくて、受検した結果としてどのような成果が得られたのかを把握することも重要であると考えています。令和７年度の同様の事業では、合格率の算出は行っていないということでした。

そこで伺います。①、教育委員会は本事業の成果をどのような指標に基づいて評価しているのか伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

令和７年度の評価指標についてということで事前に聞き取りをいただいたところでありますので、その内容でお答えいたします。

本事業は、児童生徒の学力や学習意欲の向上を図るとともに、検定料金における保護者の経済的負担を軽減することを目的としております。特に本事業においては、再チャレンジや進級による申請回数の制限を設けておらず、子供たちがステップアップを目指して何度でも挑戦できるように、また複数の検定にも意欲的に取り組める環境を令和７年度から拡充して取り組んでいるところです。このような認識の下、市としましては各検定の実施校及び各学校における受検者数の増減を事業の成果として、これは令和７年度までに関してなんですが、として捉えていたところです。実際、先ほど豊見山貴仁議員がおっしゃっていた合格率に関しましても、これは大きな成果の指標につながるものだと捉えておりますので、その部分は

今年度から進めていく予定としております。また、実施校の推移につきましては、児童生徒にとっては身近な受検機会が確保されているかを示すものでありまして、受検者数の増減は負担軽減の恩恵を受けながら、また子供たちが学習意欲を高め、実際の行動に移したかを図る確かなバロメーターであると考えております。受検実施校、また受検者数が増えることで、子供たちの検定にチャレンジする学習意欲、ひいては学力の向上につながっていると捉えております。

◎豊見山貴仁君

私個人としても､受検者数が増えることは子供たちの学習意欲の向上につながるものと考えております。その点について大変共感しております。一方で、学力向上という視点から見ると、受検者数だけではなくて、合格率、また全児童生徒に対する出願の割合、もしくは全国平均、県平均との比較など、比べることをたくさん出しておりますが、複数の指標はでも継続的に把握することが重要かなと思っており、そのデータも取れるのではないかなと思っております。今回の質問に当たって、教育に携わる先生や有識者の方々に少し回ってお話を伺いました。私がその中で印象に残ったのがありましたので、お話しします。例えば、私はこの観点がなかったので恥ずかしいなと思ったんですが、検定を初めて受ける小学生にとって検定で小さな成功体験、受けるということ自体もどきどきするかなと思うんですが、そのような小さな成功体験が自信となって、その積み重ねが学習意欲の向上につながるとおっしゃっておりました。また、検定を受けて終わりではなくて、出願した理由、また合否の結果はもちろんありますが、あとは取組の振り返り、例えばなぜ落ちちゃったのかとか、何で合格したのかとか、その振り返りということで、この先生は難しい言葉で内省と言っていたんですが、内省することで自分の学びを見詰め直す機会、これも学習意欲の向上や学力向上には大変有効だと思うということで大変大切だという意見がありました。本事業が単なる検定料の補助にとどまらず、子供たちの挑戦する気持ちや学習意欲を高める取組としてさらに充実していくことを期待しております。

最後、すみません、②です。今後本事業の効果を数値として検証するため、各検定の合格率の推移、またそれを一つの指標として把握、活用する考えはあるかを伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

これまでは、先ほども答弁したとおり、受検機会を増やすことで子供たちが各種検定にチャレンジすることを後押しして、合格に向けて勉強する子供たちの学習意欲の向上につながっていると捉えておりましたが､今年度から事業の成果をより多角的に検証するために､各学校から合否結果を提出いただきまして､全体の合格者数についても把握していく予定をしております。これにより、学力向上という目的に対する具体的な成果についてもしっかりと検証を進めてまいりたいと考えております。また、今後におきましてもこれらの指標を通じて事業の効果を的確に検証しながら、児童生徒の学力向上と保護者の皆様への支援につながるよう、本事業の適切な運用に努めてまいりたいと考えております。本事業におきましては、一人の児童生徒が上の級を目指して何度も挑戦していただいて、また複数の合格を重ねることも学習意欲の向上の貴重な成果であると捉えております。また、合格した回数分だけ保護者の負担軽減にも直結するものと考えております。同じ児童生徒に支援が届いた総数である受検者数を集計、把握していくとともに、本事業の目的や成果を検証する指標として延べ合格者数の部分とか、また合格率の推移なども注視しながら、事業の効果的な運用に努めていきたいと考えております。

◎豊見山貴仁君

冒頭にも述べましたが、これは子供たちの意見から拡充がされた事業でもあります。子供たちの学習意欲や挑戦する気持ち、また検証ができるとさらに拡充ができたり、また手厚い支援ができたりするのかなと思いますので、少し検証について細かくお話しさせてもらいました。どうもありがとうございました。

次の質問です。次に、３番、地下水保全について伺います。これは、航空自衛隊の宮古島分屯基地で発見された汚水についてです。６月６日、航空自衛隊宮古島分屯基地内において設置時期や用途が不明な地中構造物が発見され、その内部に汚水がたまっていたと報道されました。汚水は異臭を伴って、約30トンの水量があるとされ、さらにダイオキシン類やＰＦＯＳ、ＰＦＯＡが検出されたということであります。本市からまとまった流出は確認されておらず、危険が生じる可能性は低いのではないかという説明があったと聞いておりますが、市民の皆様からは本当に大丈夫なのかと、地下水への影響はないのかといった不安の声も当たり前のように出ております。私としては、沖縄防衛局はできるだけ速やかに地下水のモニタリング調査、宮古島市にとっては学術調査をしていただきたいという気持ちでございますが、宮古島市にとっても地下水は市民生活や農業を支える極めて重要な資源であります。この本事案を受けて、市民の安全、安心を確保するため、市長はどのような考えで対応していくかお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

沖縄防衛局からの報告を受けまして、私も現場を見てまいりました。構造物が劣化しているような印象はなく、また沖縄防衛局からはまとまった流出はないと見られるとの説明がありました。現時点では、微量な漏れ出しがあるかどうかは分かりませんが、降水量や地下水量が総体的に大きいと見られるため、何らかの危険性が生じている可能性は低いのではないかというふうに受け止めております。しかしながら、安全の確認が重要ですので、沖縄防衛局の担当者には地下水保全の重要性を説明した上で、速やかな撤去と周辺の環境調査及び情報公開を申し入れております。この案件については、土地の管理者である沖縄防衛局が第一義的な責務を負うものとして適切な対処をされるものと考えております。宮古島市としましては、地下水流動や地質などに関する知見の積み重ねがございますので、沖縄防衛局が行う調査に技術的な助言をするとともに、市民の皆様には速やかな情報公開に努めてまいりたいというふうに考えております。

◎豊見山貴仁君

私は、前回３月の一般質問でも地下水保全に関しては質問させていただきました。これとはまた違う話になりますが、やはり地下水に対しての宮古島市民の関心はすごく深いものがございます。私としては、地下水の調査を早くやっていただきたいという気持ちがすごく強いのですが、ぜひ本市からも沖縄防衛局には……話はされていると思いますが、やっていただけるとありがたいなと思っております。さらに力を入れていただきたいと思います。

次に、沖縄防衛局との連携体制について伺います。今回の事案で、沖縄防衛局が汚水を確認してから宮古島市へ報告するまで約２か月を要したと報道されております。私は、本事案の原因究明や市民の不安解消を図るためには、本市と沖縄防衛局との迅速かつ緊密な情報共有が不可欠であると考えております。しかしながら、このような情報共有に時間差が生じたことについては、市民も不安を感じざるを得ないと思います。市は、沖縄防衛局に対して早急な調査を要請しているということですが、今後周辺環境調査の実施、調査結果の共有などについて沖縄防衛局とどのような連携体制を構築していく考えなのかを伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市では、環境保全課を中心に水道部の各課と共同して、沖縄防衛局と今後の対処について調整を進めております。沖縄防衛局から、汚染水等の処理方針についてめどをつけるのに２か月を要し、その分報告が遅くなったと、そのことを申し訳なく思いますという説明を受けておりました。市からは、方針が決まらずとも、早い段階で報告すべきであったというふうにお伝えしております。今後は、緊密な情報の共有と対策の協議を確認しているところです。これまで対面の会合を５回持ったほか、電子メールや電話等による協議ですとか情報共有を行っているところで、直近では先週16日火曜日に汚染水の抜取り作業を始めるという件について対面で作業内容等を確認し、翌17日水曜日に分屯基地において汚染水を抜き取る作業に着手しましたということで現場の確認をしているところです。

◎豊見山貴仁君

環境衛生局長、報告が２か月遅れておりますので、どちらかというと私は消極的なのかなという印象も持っております。本市からも主体的に今の状態が持続できるように、やはり時間がたってしまうと少しずつ間隔が空いてきたり、どうしたりってなったりしますので、こちら側からのアプローチも引き続きやっていただきたい、そして環境衛生局長にもお願いしますが、水質調査をやっていただくようなアプローチはまた引き続きやっていただきたいと思っております。

最後に、市民への情報発信について伺います。このような環境に関する事案において、危険か、安全かという議論だけではなくて、何が分かって、何が分かっていないのか、今どういう状況なんだ、どこまでやろうとして、いついつに何々をするかなど、丁寧に市民に説明することが安心につながるものと考えております。情報が不足すると、様々な臆測や不確かな情報が広がってしまい、市民の不安がさらに大きくなる可能性もございます。そこで伺います。市長は、今後調査の進捗状況や結果について、本市から市民に対しどのような方法で情報提供を行っていく考えなのかを伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

正確な情報を迅速に発信するということは大変重要であると考えております。地下水保全に関しては、豊見山貴仁議員ご指摘のとおり非常に関心の高いことでございますので、沖縄防衛局の迅速な情報の提供等について要請しているところです。今回の件につきましては、全市民向けには報道機関と市のホームページを通じて公表したほか、やはり直接関係が出てくると思われる関連流域、地下水の流域でいいますと上野の流域と川満の流域は該当するんですけども、こちらのほうで地下水採取許可を取って、事業所ですとか、それから個人のほうには文書にて情報提供を行っております。また、地下水採取許可も取ってはいないんですけども、最も近い野原部落会に対しても同じように文書で情報提供を行っています。今後も新たな情報がありましたら、随時速やかな情報提供に努めてまいりたいと思います。

◎豊見山貴仁君

周辺地域への説明はやはり必須でございますし、それ以外の市民に関しても、またホームページが中心になるのかな、それとも説明会の予定はございますかということを伺いたいと思います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

ホームページへの掲載は行っていますけども、迅速さという点では記者会見等の機会を最大限活用したいと思います。それから、今説明会というお話ありましたけども、こちらのほうはある程度情報がまとま

ってから、例えば調査結果が出て、それに対して一定の考察ができるようになったとか、そういう段階において市民を対象にした説明会等の開催を検討してまいりたいと思います。

◎豊見山貴仁君

私も引き続きモニタリングしていきたいと思っています。

続いて、８番、市職員による公金横領問題について伺います。これは、宮古空港駐車場利用料金の着服事案について、５月21日、市職員が宮古空港駐車場料金の一部を着服していたという報道がありました。市民の皆様からお預かりした大切な公金、こちらが不正に扱われたということは大変重く受け止めなければならない問題であります。当該職員は懲戒免職となり、市としても保管金庫の変更や防犯カメラの設置など再発防止策を講じるということですが、市民の信頼回復のためには個人の問題として終わらせるのではなく、組織としてなぜ防げなかったのかを検証することが重要であると考えます。また、本市では過去にも公金に関する不適切な事案が発生しており、そのときも同様に再発防止策を打ったはずではないのかなと思っております。同様の事案を二度と起こさないためには、空港だけではなくて、全庁的な内部統制の強化が必要ではないでしょうか。その観点から以下質問いたします。

まず、発生原因について伺います。ア、今回の事案が発生した原因について、本市はどのように分析しておられますか。

◎建設部長（下地睦子君）

宮古空港駐車場利用料金の着服という状況に至ってしまったことにつきまして、多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけいたしましたこと、大変申し訳なく思っております。今回の件につきまして、年間365日、３交代制の勤務体制で、会計年度任用職員を除く空港課職員全員で駐車料金の回収を行っていることに加えて、空港課事務所への職員以外の出入りも防犯上制限されていることから、空港課職員全員で金庫内の現金を取り扱っておりました。これまでの現金管理体制の検証を行わず、前例を踏襲していたことが今回の事案の発生原因であると考えております。

◎豊見山貴仁君

次の質問に移ります。

イ、また現金管理体制や内部のチェック体制について、どのような課題があったと認識しているか聞かせてください。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほども少し申し上げましたが、職員全員で金庫内の現金を取り扱える管理体制を継続していたことに加えて、年中無休の３交代の勤務体制を限られた職員数で遂行しており、事務所内での職員同士の監視体制が行き届かなかったことも原因の一つと考えております。防止策といたしまして、金庫への現金投函後開錠するまで現金が取り出せない特殊な金庫を６月２日から導入しております。また、事務所内への監視カメラ設置についても現在準備を進めております。また、職員の増員につきましても、会計年度任用職員を６月と７月にそれぞれ１名ずつ増員することに加えて、宮古空港の設置管理者である沖縄県に対してもさらに職員を増員するための予算措置を要望しているところです。今後現金を管理する、取り出せるのは空港課長のみとしたいということで、現在その体制を取っているところです。

◎豊見山貴仁君

やはり人員の制限があったので､増やしますよという答弁になっているのかなと認識しておるのですが、空港課長のみが取り扱うようにしますということなんですが、空港課長のみが取り扱うということ自体が私は問題なのかなとは思っていて、この後の事案に出てきますけれども、どうしても１人で見ているというのは何かしらそういったことが起こってしまう状況が発生すると思っております。人員が少ないということは、チェック体制の部分でどうしてもこの人に任せていると、この人だけが知っているという形になってしまうと、もちろん責任ある役職の人なので、そういうことはないとは思いますが、その仕組みをつくってしまうということ自体が、例えば空港課長ではなくて、職員がなるということがあり得るかもしれない。それは、空港課だけではなくて、ほかの庁舎で起こっちゃうかもしれない。そしたら、またここで公金の扱いを、そういった、雑と言ったら失礼ですけど、雑になっちゃう可能性もあるのかなと私は経験上思っております。

次に、現金管理体制の標準化について。本市では、空港駐車場をはじめ、各種使用料や手数料など多くの部署で現金を取り扱っているものと認識しております。ア、本市には現金管理に関する統一的なガイドラインやマニュアルが整備されているのかを伺います。

◎会計管理者（友利和代君）

まず初めに、４月１日付で会計管理者を拝命いたしました友利と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

現金管理に関するマニュアル等の整備状況についてです。公金等の適正な取扱いや円滑な会計事務を目的とし、根拠法令や会計規則に基づく会計事務の手引き、公金等取扱事務の心得などのガイドラインを作成、配付し、各部局における事務の標準化とルールの徹底を図っております。その中でも、公金等取扱事務の心得では、公金取扱いにおける職員としての意識や組織体制について示すとともに、複数人での総合管理体制や所属長への報告義務など、具体的な実務プロセスを明確化し、公金等の適正かつ安全な管理を確保することに努めているところです。

◎豊見山貴仁君

ガイドラインがあるということで伺いました。私も事前の聞き取りで、このガイドラインとチェックリストを見させていただいております。また、このチェックリストをいつからやっているかということを聞いたら、最初は平成23年ということでしたが、令和６年12月にリニューアル、アップデートしているということでございます。なんで、その後で起きた事案について本件また起こっておりますので、もう一回見直ししていただけないかなとか、運用はどうだったのかなというチェックをしてもらえたらいいかなと思います。

続いて、③、属人化と人員配置についてです。属人化というのは、やはり特定の人、１人の人もしくは数人の人でしか手順が分からないという状態のことだといいます。本市において、現金を扱う業務が特定の職員に依存する、いわゆる属人化の状況がないのかということを伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

特定の職員に依存しているのではないかというご質問にお答えいたします。

本市では、各所属長が出納員として現金の取扱いを含む会計事務を行うこととなっていること、所属長が指定する事務を現金取扱員に委任して取り扱うことができることとなっております。また、現金を取り

扱う場合、各部署においても複数人で集計作業を行っており、特定の職員に業務が過度に依存し、不正等のリスクを高めるような属人化の状況はないものと認識しているところでございます。

◎豊見山貴仁君

続いて、イとウの質問に関してですが、こちらは先ほど建設部長からの答弁……

◎議長（平良和彦君）

豊見山貴仁君、１問ずつね。

◎豊見山貴仁君

割愛したいと思います。先ほど建設部長の答弁から、この部分、改善ということで動かれているのかなという認識ですので、割愛したいと思います。

続いて、④、公金管理において、職員個人のモラルに依存するのではなく、不正を起こしたくても起こせない仕組みづくりを構築することが重要だと考えております。今回の事案を踏まえ、市民の信頼回復に向けて、今後どのような組織づくりを目指していくのか、市の見解を伺います。

◎副市長（砂川　朗君）

去る令和８年４月22日に発覚いたしました市職員による公金横領事案は、行政に対する市民の信頼を著しく損なうものであり、その発生を防げなかったことにつきましては深く反省しております。事案発生後、現金取扱いの手続の中で不正が発生し得ることがないか再点検するとともに、再発防止を徹底することを指示しているところでございます。今後このような重大な不正行為が起きないよう、以下のとおり組織体制の強化と業務プロセスの徹底に努めてまいります。

まず、１つ目でございます。複数人による相互チェックの徹底、２つ目、物理的なセキュリティーの強化、３つ目、公金管理に対する認識の教育、意識啓発の強化、４つ目に不正に対する懲罰の周知など、これらを徹底し、市民の信頼回復を最優先課題として組織風土の醸成に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

◎豊見山貴仁君

ただいま副市長の答弁がございました。この件については、市長からの認識もお伺いしたいと思っておりますので、やはり組織全体ということで市長から答弁をお願いいたします。

◎市長（嘉数　登君）

昨年度、市の不適切な事務処理により、本来受けるべき国庫補助金の一部が交付されずに市に財政的な負担を生じさせた事案に加えまして、本年度に入ってからも職員による公金横領事案、さらには市民集会での表現の自由を制約しかねない行為、加えて市職員の関与が疑われている事案など、市民の皆様からの信頼を損ねる事案が相次いでいることに対し、市政の最高責任者である私自身大変重く受け止めております。

私は、市長就任以来、市民の皆様からの信頼こそが市政運営の基本であり、その土台が法令遵守、すなわちコンプライアンスと適正な組織運営であるガバナンスだというふうに考えております。しかしながら、現状は一部職員個人の問題にとどまらず、組織としてのチェック機能や危機管理意識、コンプライアンス意識の醸成が十分でなかったことを示しているものと認識しております。責任の所在についてでありますが、法令違反や不正行為を行った者に対しては、事実関係を徹底的に調査した上で、法令及び服務規律に

基づき厳正に対処することは当然であるというふうに考えております。一方で、こうした事案を未然に防ぐことができなかった組織管理上の責任は、もちろん管理監督職員にもございますけども、市政運営を統括する市長である私自身にも重い責任があるものと考えております。私は、これまで自らの給与減額という形で責任を明確にしてまいりましたが、重要なのは処分そのものではなく、同じ過ちを二度と繰り返さない組織を構築することであると考えております。失われた信頼を回復するため、再発防止に向けて全力を尽くします。まず、原因究明を徹底し、事務手続や内部統制の総点検、それから公金管理や契約入札に関するチェック体制の強化、コンプライアンス研修の充実、公益通報制度の実効性向上、管理職マネジメント能力向上など、組織全体の抜本的な組織改革を進めてまいりたいというふうに思っています。

最後になりますけども、失われた信頼を取り戻すことは容易でないということは承知しております。しかし、市民の皆様の厳しい声を真摯に受け止め、一つ一つの課題に正面から向き合いながら透明性の高い市政運営と組織改革を断行し、市民から信頼される宮古島市役所の再生に全力で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

◎豊見山貴仁君

これで私の質問を終わります。

◎議長（平良和彦君）

これで豊見山貴仁君の質問は終了しました。

（議員の声あり）

◎議長（平良和彦君）

付け加えますけど、本当に時間を厳守していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎根間康雄君

食事後の１時間、２時間後は皆さんきつくて眠いですよね。今日は小さな声で進めていきますんで、気力で目を覚ましましょう。では、６月、はや１日目、４番目の根間康雄です。よろしくお願いします。

企画政策行政について。もう皆さんご存じと思います。宮古島市上野トロピカルフルーツパークについて進めていきます。１、宮古島市上野トロピカルフルーツパークのコンセプトとして、宮古島全体を森と捉え、いのちの森を島全体に展開する拠点施設と位置づけるとありますが、流れが変わってきています。このことについて、当局の見解を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

コンセプトについての質問だと。宮古島市がエコアイランドとして大切に育んできた水やその水をつくる森、そして観光業が栄える前に人々の営みとして生活を支えてきた農業、そして宮古島という島を一つの生態系として、その中で共存する環境をコンセプトとし、農を中心に据えながら、森と水といった環境資源が一体の生態系として織りなす場所をつくることが重要であると位置づけされているところでございます。

◎根間康雄君

今回質問したこのコンセプトというものは、これは宮古毎日新聞社のホームページから拾いました。そのときに、このトロピカルフルーツパークについての皆さんが集まって、これからトロピカルフルーツパークを島の拠点として、くつろげる場所としてつくろうという話でできたコンセプトです。その中のまた

もう一つに、地域住民の憩いの場や魅力ある観光地、市の農業発展に寄与するためにもこの施設が最適であるという話で、そのときも皆さん一致して進んでおりましたが、今このような内容はどうなっているのか、当局の見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

現在の上野トロピカルフルーツパークでございますけれども、引き続き持続可能な公園自体の経営システムの構築が必要でありまして、宮古島市におきましてもこの農村公園が農業のコアとして事業化のきっかけとなる施設であると引き続き考えております。

◎根間康雄君

私が思うに、宮古島市にやはり市民がもっとくつろげるような場所が必要だと思っています。そのためにも一番身近に感じているのが、今出てきたこの農村公園こそが宮古島に適した大きな公園になるんではないかと私も思っておりますので、その方向性がすごく未来をつくっているように感じます。では、もう一つ、宮古島の農業と産業の融合をコンセプトに、農業や観光、エコを連携した施設とするというふうに、そのときも今言ったように進んでいます。進んでいました。これをやはりこれから先も私個人としましては進めていってほしいと思っておりますが、当局の見解をもう一度伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

トロピカルフルーツパーク、農業を通して産業化、観光プログラムの組成を行うことで、現在宮古島が抱える農業、観光の課題を解決する一助となるよう施設展開を目指しつつ、環境的にはエコアイランド宮古島宣言をしている宮古島のアピールを行う施設だと考えております。

◎根間康雄君

それでは、宮古島市上野トロピカルフルーツパーク設置及び管理に関する条例、もう忘れている方いるかもしれませんが、この条例第１条、「宮古島市の産業及び観光の振興を図り並びに市民の憩いの場を提供するため、宮古島市上野トロピカルフルーツパークを設置する」とありました。これに対しての当局の見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

宮古島市上野トロピカルフルーツパーク設置及び管理に関する条例の第１条によりまして、根間康雄議員ご質問のとおり、「宮古島市の産業及び観光の振興を図り並びに市民の憩いの場を提供するため、宮古島市上野トロピカルフルーツパークを設置する」と規定されております。農産物の直売や加工、観光など、農業振興に資する用途であることを設置目的としております。

◎根間康雄君

では、最後、第３条、宮古島市上野トロピカルフルーツパーク施設は、農産物加工施設、多目的広場、展望台、駐車場、トイレ、遊歩道、格納庫、堆肥舎、マンゴーハウス及び育苗施設とするとあります。こちらについてもよろしくお願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

先ほど答弁しました第１条には、設置目的がうたわれております。

第３条におきましては、その目的を達成するために、根間康雄議員ご質問のとおり、施設は農産物加工施設、多目的広場、展望台、駐車場、トイレ、遊歩道、格納庫、堆肥舎、マンゴーハウス及び育苗施設と

すると規定されております。

◎根間康雄君

どうしても私は宮古島に市民の集える場所、くつろげる場所並びに健康器具が設置されたような公園、本当に必要だと思っています。観光地としても言えるように、観光でただ見て歩くだけでなく、地元の食材、フルーツそれぞれがそろっている。そこに公園がある、集える、こういった観光と市民の一体化した場所、私は今考えている上野のトロピカルフルーツパークだと思っています。ぜひ過去に計画しておしまいではなく、この施設が完成できるように手を取って考えていきましょう。よろしくお願いします。市長から一言お願いします。

◎市長（嘉数　登君）

根間康雄議員がおっしゃられたトロピカルフルーツパークの成り立ちというんですか、それから現在の状況も踏まえて答弁をさせていただきます。

当該施設は、平成30年度に一括交付金を活用しまして、当施設の再生に向け基本計画を策定しておりますけれども、予算面が課題となりまして計画が進まずに、令和３年度から令和６年度にかけてトライアルサウンディングというものを実施しております。これは、どういう利活用ができるかということです。ただ、利活用につながる成果が得られず、令和６年度をもってこのトライアルサウンディングを終了しているという経緯がございます。こういった現況の中で、当施設の一部を活用したいとの申出、これはもちろん庁内でありまして、検討した結果、主要箇所については利用頻度が低く、使用面積も全体の３％程度と当施設の構想に影響を及ぼさないと判断されたことから、申出を受任することとしております。その使用する場合の普通財産への変更手続及び分筆などの手続を行うよう協議を行っておりまして、本定例会でも議論になっている３Ｄプリンターを活用した住宅整備をすることに持っていきたいというふうに考えております。

◎根間康雄君

今答弁のありました３Ｄプリンター住宅ですけども、私のほうの通告書には載っていないんで、さっと流しますけど、せっかく決めたあの施設、私は２度ほど、昨日もですけど、中をずっと見て歩きました。広いです。計画した区域、場所、ここもある程度見てきました。あれほどの規模を市民のために使わない手はないです。３Ｄプリンター駄目だとは言っていません。反対ではないです。３月で承認を得て、４月で場所が変わりましたということが私は嫌なんです。これだけ一言言っておきます。以上です。次へ行きます。

まず、教育行政についていきます。１、子供たちの生きる力を育む学校教育の推進について。こちらは、この第２次宮古島市総合計画の中から取っていますので、ぱっと現状だけ答えるだけで十分と思っていますので、お願いします。

まず、施策基本方針１について、確かな学力の向上を推進します、目標項目として、児童生徒の学力向上､それから全国学力･学習状況調査における全国との比較､粘り強さを令和３年度､宮古島の小学生73.5ポイント、中学生56.8ポイント、その頃の全国は小学生が80.6ポイント、中学生が65.8ポイントでした。これを全国水準にするよう宮古島市も取り組んでいくということでした。現在このポイントはどこまでいっているのか教えてください、お願いします。

◎教育長（宮城克典君）

令和８年度の結果は来月中旬頃に発表されるため、前年度、つまり昨年の達成率についてお答えいたします。

令和７年度の結果は、小学校が72.1ポイントで、全国平均を６ポイント下回っております。中学校は50.4ポイントで、マイナス9.7ポイントの差が生じておりました。この粘り強さに関する項目につきましては、県の平均並みではありますが、全国平均とは若干開きがありますので、本市も重要な課題として捉えております。

◎根間康雄君

宮古島はアララガマという気持ちがあるから、多分粘り強さは大丈夫と思います。どんどん頑張って、子供を伸ばしたいと思います。

では、まず２つ目、施策の基本方針２について。豊かな心を育む教育を推進します、要するに育む、道徳教育の推進と考えてもいいかなと思っております。目標項目として、学級集団づくり、質問調査による要支援群の出現率を10％以下にするという目標達成率がありましたが、現在はどうでしょうか。

◎教育長（宮城克典君）

ここでいう要支援群というのは、本市で実施している質問調査、ウェブQというのがございますが、この実施による結果の数値でございます。いじめ被害や不登校の可能性が極めて高く、非常に不安傾向が強い児童生徒のことを要支援群といっております。令和８年、これは５月に実施しましたので、最新の調査です。要支援群は、本市の児童生徒の数値は2.3％となっております。したがって、目標としている10％を下回って、達成しているということになります。

◎根間康雄君

子供は本当に価値観がみんな違うので、個人個人が全く何をするか分からないこともあれば、これが大人たちをびっくりさせるというのを持っています。こういった子供たちの応援は、我々やっていかなきゃいけないかと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

では、施策の基本方針３について。健やかな体の育成を図る教育を推進します。目標項目として、体育の授業以外で運動に親しむ１校１運動の実施率を令和２年度、小学校が87％、中学校が72％でしたが、これを目標として最大100％まで持っていくということを言っています。今回どのようになっていますか、お願いします。

◎教育長（宮城克典君）

小中学校では、１校１運動の取組として、縄跳びや持久走、球技、体力テストの平均値掲示による目標設定等、様々な取組を実施していることを確認しております。令和７年度、１校１運動の実施率は、小中学校ともに100％の実施率です。これは、各学校の取組推進のほか、小学校では体育専科教諭、中学校では保健体育研究会の研究、実践等の成果と認識しております。

◎根間康雄君

100％実施率というのはすごくうれしいです。やはり運動を日々やっていくと、日常化させて、これも生活習慣の中に組み入れてもらえれば、本当に不登校の子も大分減っていくかなと思っています。ぜひこのような取組お願いいたします。

では、施策、基本方針４について。地域と共にある学校づくりを推進します。目標項目として、学校運営協議会の設置割合を限りなく100％に近づけるということです。現在どのようになっていますでしょうか、お願いします。

◎教育部長（久貝順一君）

学校運営協議会の設置の導入済みの部分です。令和８年６月現在において、学校運営協議会を導入済みの学校はパーセントで表しますと68％となっております。この学校運営協議会につきましては、令和５年度から導入がスタートしておりまして、本市では19の学校区、学校運営協議会が導入される予定となっておりまして、昨年度までに10校が設置されております。また、新たに今年６月までに３校の設置がされております。総勢、合計で19校のうち13校区のほうで導入済みとなっております。残りの６校区にも導入される予定で、今年度で全ての学校で学校運営協議会の導入を目指しているところです。

◎根間康雄君

ちなみに、コミュニティ・スクールという形ですけども、一昔前、私がまだ小学校に自分の子供を通わせていた頃、北小学校でも子供教室がありました。いつの間にか減っちゃったんだけど、私としてやはりこのコミュニティ・スクール、これをどんどん広げていって100％にしていただきたいです。地域と共に、教育現場もそうですけど、子供と一体化できる、そういった環境づくりをすることこそ、本当にこれから先の子供たちを見守るのは我々ではないかなと思っています。少子化に悩むよりも、まず今いる子供たちを一生懸命伸ばしていけば、自然と子供が増えると思っております。まず、そこのところ、教育現場に強くお願いするのはそこです。ぜひコミュニティ・スクールどんどん活用して、100％に早めにやってもらって、各学校で地域と共に何かできる、それを実現していただきたいなと思っております。ぜひお願いいたします。

では、施策の基本方針５についていきます。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を推進しますとあります。ちょっと難しいな。目標項目として、個別支援計画の作成校割合を、またこちらもしっかりと近づけたいということです。要するに特別支援教室とか、そういったところの運営も一緒に考えながらやっていくということで捉えていますけども、現在どのような状況かよろしくお願いします。

◎教育部長（久貝順一君）

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進における幼小中学校の個別支援計画の作成状況について報告をいたします。

本市教育委員会におきましては、特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の社会的自立に向け、幼稚園から小学校、中学校へと至る切れ目のない支援の構築を最重要課題として位置づけて取り組んでまいりました。個別支援計画の作成につきましては、学校や教育関係者の協力の下、特別支援教育に関する研修会等を通して、対象となる全ての幼小中学校において作成率100％を達成しております。これによりまして、対象児童生徒の特性や具体的な支援内容が明確化され、学校間あるいは校内における組織的な支援体制の基盤が整ったと認識をしております。今後も支援の内容が確実に引き継がれ、切れ目のない支援の深化とインクルーシブ教育のさらなる推進に取り組んでまいりたいと考えております。

◎根間康雄君

本当に子供の教育のためにしっかりと進んでいるのを聞けたのはうれしく思います。あとは、卒業した

後の修学から働いていけるという、そこまでのまたサポートができれば、本当に特別支援学校に関しても宮古島市の取組が全国的に評価されるんではないかと思っていますんで､今後ともよろしくお願いします。

では、施策の基本方針６について。グローバル社会で活躍する人材を育成するため、子供たちによる国内外との交流を推進しますとあります。海外ホームステイ参加者満足度を、近年は、令和７年度は80％以上とするという目標を立てていますけども、この辺の目標率はどこまで来ているか、よろしくお願いします。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

海外ホームステイ派遣事業は、市内の生徒を海外に派遣し、海外での研修体験を通して将来国際人として活躍すべき感性と教養を育てることを目的とし、平成22年から実施しております。参加者アンケートによる満足度は、令和５年度が93％、令和６年度が85.7％、令和７年度が91.7％とおおむね高い満足度を維持しており、目標値である80％を上回っております。

◎根間康雄君

児童生徒の海外派遣、要するにグローバル社会で活躍できるようにという考えですけども、最近教育長に話をしたんですが、クルーズ船の中に子供たちを入れて一つの海外を体感させてみる。うちの前里光健議員ともよく話をして盛り上がります。宮古島市の身近にこういう海外を感じさせるという部分もあります。それと、５月に防衛副大臣に会いました。そのときに防衛副大臣が言っていたことが、基地で沖縄の子供たちがホームステイしているんです。こういったまた身近でできるという方法も確かにあるんです。ですから、できるだけ子供たちにいろんな世界を感じさせるためにも、取組をいろいろ切替え、切替えしながら、身近にあるものを利用して子供たちを育てるという取り組み方をこれからもっともっと増やしていただけたらいいなと思っていますんで、教育長、よろしくお願いします。一言お願いします。

◎教育長（宮城克典君）

根間康雄議員おっしゃるとおり、机上の勉強、座して学ぶ以外にも、やはり体を動かしての体験、そして生の、本物の施設や、あるいは体験をするということは、非常に子供の情操教育、あるいはキャリア教育の面でも非常に有効と考えて、推進してまいりたいと思います。

（「ありがとうございました」の声あり）

◎根間康雄君

気持ちが先走っているんです。この答弁はお礼をしたい内容です。一応読み上げます。２、南小学校のそばの別名、センダン木通りのセンダン木が枯れて倒れかかっています。生徒たちの安全のためにも、早急な撤去が必要だと思います。当局の対応をお願いいたしますと書いてありますが、もう教育部長、いいです。座っていてください。私は感激しております。本当に感激しています。実は、近隣の方が相談にいらっしゃったんです。確かに見たら大変です。もう子供たちが乗って、折れて落ちたら骨折か大けがになる。それを写真だけ私は撮っていって見せたんです、教育部長に。これを即撤去してくれました。ただ、残念なことに私の写真が変で、別の木を倒してあったんです。びっくりして再度お願いしました。そしたら、雨の中ちゃんとやってくれました。それも業者へお願いではないんです、皆さん。教育部の皆さんが一緒になってやってくれているんです。業者は頼まないです。これは、私ここで近隣の皆様の頭を一緒に下げて、感謝の気持ちでありがとうございました。こういうことをいつも言いたいです、私は。本当にあ

りがとうございます。

では続きまして、環境行政について、環境保全地域について伺います。１、自然環境保全地域である与那覇湾、伊良部島沿岸、それから下地島があります。宮古島一周道路、外周道路にある海岸などを環境保全地域に指定できないかどうか当局に伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市環境保全条例は、平成９年、1997年に平良市で制定したもので、この条例において自然環境保全地域、条例の中では普通地域という表記もございますが、海岸線から50メートル以上から100メートルまでの範囲内で、市長が自然環境保全上必要と認める区域を指定するというふうに規定されておりますが、これまで指定されている場所はございません。現在新たに指定する予定はございませんが、自治会等で大切にしている場所であって、地権者等の同意が見込める場所については、自治会等からの指定の要請があれば検討してまいりたいと思います。

◎根間康雄君

もう最近、特に言えるのは海岸沿いです。私も月にたった２回だけど、朝早くボランティアで缶とかごみを拾っています。あしたは狩俣沿い行くんですけども、今まできれいな海も、宮古島市の海だと思っていたところに打たれているんです、ポイントが。これがもう１か所ではないんです。何か所か見ています。寂しいんで、何とか守っていきたいという気持ちでこの環境保全地域についてを出しております。

まず、２、市条例に基づく特別保全地区、要するに厳重な保全地区の設置のことですけど、特別保全地区に大野山林、東平安名崎のパナリがありますが、もう少しその意識で何とか国を相手取って増やすことできませんでしょうか、よろしくお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

自然環境保全条例に基づく特別保全地区は、現在大野山林とサンシンパナリ……パナリなんですが、これ東平安名崎ではなくて、字狩俣のほうにあるサンシンパナリです。そちらの２か所が特別保全地区に指定されています。保全地区と同様に開発が制限されている場所としましては、例えば文化財保護法に基づく名勝、天然記念物として東平安名崎、これパナリも含みます。それから、八重干瀬、白鳥崎の岩礁海岸、来間島の断崖、狩俣の植物群落などが指定されています。現在自然環境保全条例に基づく特別保全地区についても今のとこ指定する予定はないんですけども、これも普通地区と同じように、自治会等で大切にされている場所で地権者等の同意が見込める場合には、要望に基づき検討してまいりたいと思います。

◎根間康雄君

では、最後です。自然環境保全地域という固有名詞の指定でないものの、行政が明確に保全の網をかけている大神周辺、来間島南、西沿岸、下地島の西側の通り池周辺地域があります。もう守らないといけない場所です、何があっても。それ以外に思えるような節が幾つかあるんです。そこも何とか同じような形で守る方法はないのか、やる予定ないのか伺いたいと思います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

自然環境保全条例での地区指定は陸域のみが対象となっていますが、今のところ具体的指定はないんですけども、保全種ということで海洋生物が指定された場合には海に多少のいわゆる保全の対策が取れるかなと思っておりますが、海域の保全については文化財保護法に基づく史跡、名勝、天然記念物の指定と、

それから自然公園法に基づく国定公園の指定というものがございます。現在は、伊良部自体が県立自然公園ということで指定されているところです。

◎根間康雄君

本当宮古島は美しい島です。住んだ島を汚く思いたくないだけに、本当守りたい部分がたくさんあります。それを人が人力で勝手に自然を破壊して、もうここにあれがあったのにという過去形になる節が最近多くなっているような気がしますので、ぜひ思いある場所は何があっても守り、残していこうと、次の代のためにも私はそう考えております。ぜひ行政の皆さん、ここの部分を考えながら、今後ともよろしくお願いいたします。

では、次、野犬についてですが、これ私ごとがほとんど入っておりますので、強くは言えません。まず、１、現在の宮古島市の野犬の数というのは把握されているのかどうか、当局に伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市全体で野犬の数どれぐらいいるかというのは正確に把握はしていないんですが、市民の通報を基に放し飼いや野犬等の捕獲を試みていまして、その範囲での数となりますが、今年度宮古島市として把握している数としましては、通報によって把握した数が８匹、これは通報件数は５件ですけども、それからそのうち１匹は捕獲しております。

◎根間康雄君

次の質問が、野犬は群れで活動する。現在３頭から６頭の群れが存在すると言われています。というのは、この群の数は把握しているかという確認をしようと思いましたけど、１件というんで、これは飛ばしますが、私は３件把握しています。あります。よろしくお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

現在把握できている群の数、こちらのほうとしては根間康雄議員からあらかじめ質問のときに教えていただいた件数も含めますと、群５つを把握しております。下地地区に３匹の群れ、上野地区で２匹、それから添道に３つの群れ、これは根間康雄議員から教えていただいたものですが、これは５匹の群れ、それから３匹の群れ、それからもう一つが３匹の群れと、以上となります。

◎根間康雄君

今あったように、日本中、熊の被害で大変なんです。宮古島は野犬が心配です。現在の家畜の咬傷被害、これは宮古島市に届けられている件数ご存じでしょうか。よろしくお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市として把握しているのは家畜でよろしいですか。家畜の咬傷被害の件数は、今年度は１件です。この前の３月定例会のときは咬傷事件はないとお話ししていたんですけども、議会の後に、昨年度末ということになりますが、その間でも１件発生しております。まず、ヤギの被害が今年５月、すくばり農園のほうで出ています。それから、家畜ではないんですけども、ウサギです。鏡原小学校のほうでも６月８日に咬傷事件が発生しているということで、家畜ということでは今年度１件ですけども、それ以外も含めると動物の被害は計２件ということになります。

◎根間康雄君

私もヤギ飼っているんで、ヤギ組合から情報はたくさんもらっております。私が被害に遭ったのが３月

27日、朝気づいたんです。ということは、前の日にやられたんだろうと思うんですけども、そのときに親子２組、計４匹がもうやられていました。写真撮れるようなものではありません。もうすごい残酷です。これをもう人に例えた場合ぞっとします。小さい子供だったらと。もう本当に怖いです。それで、必死で土日を利用して対策しました。なのに、また親子の小屋に入って今度お母さん、子供は無事逃げて何とかなったんですが、またやられました。計５頭。あれからもっともっと、もう何とか屋根までつくって対策してあるんで、今のとこはまだ大丈夫なんですが、実を言うと５月24日、私のメェメェ農園のすぐそばにマンゴー農園があるんです。ここが、結局24日の朝３頭やられました。彼も、私がもう何も言わないから、日がたったから大丈夫だろうと思って閉めなかったらしいです、入り口を。そこで３頭やられ、翌日さらに２頭やられて、１頭はかまれていて心配したらしいんですけど、この１頭も１週間ぐらいで亡くなったという、そういう例があります。それと、今日ある人から電話をもらいました。鏡原の荷川取さんという方です。この方が、子ヤギも合わせて７頭やられています。情報というのはどんどん、どんどん来るんです。誰も新聞載せないんです。私だけ載せたんではないかな、多分。これを軽く見るの怖いです。人にもしもがあったら、子供にあったらです、何よりも怖いのは。一番悪いのは人間です。人間が犬を捨てればこうなるんです。生き物を大切にしないからこうなるんです。だから、そこのことを考えてぜひ取り組んでほしい。でも、何よりもこの野良犬を何とかしないといけないんで、大型の捕獲わななどを設置してもらっています。だけど、野犬は賢くてなかなかかからないんです。だから、先ほど来言っているように、このまま捕獲されず子供に被害があると不安なので、何か対策はないか、行政のほうからの対策を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

根間康雄議員ご指摘のとおり、市では保健所と協力して、わなの設置を行って捕獲を試みているところです。市では、小さめの箱わなのほか、根間康雄議員がおっしゃったように、大型の箱わな、２メートル四方のものもあります。これがなかなかやはり入らないケースがありますので、ほかに市のほうではネットランチャーっていって野犬を捕獲するときに網を発射する鉄砲みたいのがありますので、それを使って捕獲をしているケースもございます。こういった野犬の群れを見た場合、被害に遭う前にぜひ環境保全課なり、保健所のほうに通報していただいて、なるべく直接の捕獲というのも含めて試みたいと思いますので、市民の皆様に情報提供をお願いしたいと思っています。

それから、野犬による咬傷被害が家畜のみならず、根間康雄議員がご心配されるように、我々人間に及ぶということを非常に心配しております。現状の捕獲方法以外、新たな捕獲方法というのは今具体的にはないんですけども、そういったことも新たな手段がないかということを検討しているところです。

それから、野犬そのものではないんですけど、放し飼いというところが野犬の増加に少しはやはり関係していると思いますので、放し飼い防止に対してもいろいろポスター掲示だとか含めて、あるいは放し飼いを見つけたケースについては通報を受けて､飼い主に指導しに行くということも行っているところです。

◎根間康雄君

よろしくお願いします。ありがとうございます。本当怖いです。もう周りが熊で騒いでるけど、野犬は群れです。囲まれたら逃げられないです。１つだけ私言いそびれているけど、私ヤギ以外に鶏も飼っているんです。鶏も約80羽まとまってやられました。だから、放置するともうエスカレートするだけですから、

ぜひ取り組んでいきましょう。お願いいたします。多分大野山林辺りにもいると思う、群が。あの辺が怖いかなという私の意見です。

では、次、まず防災行政無線について伺います。①、防災行政無線の野外スピーカーは現在宮古島市に何か所設置されているのか伺いたいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

防災無線の数についてお答えします。

市の防災行政システムにおける屋外拡声装置、防災無線でございますが、現在設置数は129となっております。地区別の内訳としましては、平良地区において42か所（　部分は137頁に発言訂正あり）、城辺地区において42か所（　部分は137頁に発言訂正あり）、下地地区において18か所（　部分は137頁に発言訂正あり）、上野地区において18か所、伊良部地区において12か所（　部分は137頁に発言訂正あり）の合計132か所（　部分は137頁に発言訂正あり）の設置となっております。

◎根間康雄君

では、伺いますけども、宮古島市内に設置されている一番多い部分、主な部分教えていただけませんか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時21分）

再開します。

（再開＝午後３時22分）

◎根間康雄君

私の調べたものが過去のデータだったんで、あれなんですけども、宮古島市庁舎の屋上に強力な、強力なという言葉が入っているんですけど、大型ホーンアレイスピーカーが５基設置されていて、半径80メートルエリアをしっかりとできる、音が流れるというのがあります。これは旧なのか、現なのか、分かります。これだけでいいです。

◎総務部長（上地俊暢君）

旧平良庁舎に設置されておりました屋外拡声装置、防災無線でございますが、以前は旧平良庁舎の屋上のほうに設置しておりました。北小学校周辺、広い地域をカバーする防災無線となっておりました。旧平良庁舎に利活用事業を行うことになっておりまして、利活用事業に伴って民間企業が今事業を展開しております。その事業に伴って、防災無線の機能を移設しております。旧平良庁舎にあった防災無線については、３か所に分けて移設をしております。１か所がカママ嶺公園、もう一つが宮古島マリンターミナル、それから盛加越公園の３か所に分散設置をしております。

◎根間康雄君

私、北学区、北小学校のすぐそばが本家なんです。その中心の方から一言ありました。宮古島市の中心である北小学校周辺に野外スピーカーの放送が全く聞こえない。我々は、市民から度外視されているんですか。どういうことですかというのを聞きました。音が聞こえないというのは、いろいろ事情があると思いますけども、そこの部分伺ってよろしいでしょうか。よろしくお願いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

以前平良庁舎の屋上にあったスピーカーにおいては、時報のことをおっしゃっていると思うんですが、時報をチャイムで鳴らしておりました。防災情報とは別に、毎日のように定時に鳴らしておりましたが、現在設置しておりますカママ嶺公園、それから盛加越公園については、それから宮古島マリンターミナル、スピーカー設置場所の近辺に住宅、それから事業者が入っておりまして、現在時報についてはその近隣の住民に騒音となる可能性があるということでチャイムを放送しておりません。一方で、災害情報については流しておりますので、防災無線としての機能は十分機能していると考えております。

◎根間康雄君

一応ちゃんと流しているというのは、もうこれ間違いないですので、もしこれを聞いている、私に文句言った方聞いていたら理解してください。

あと、１つ思っているのが、流すと近隣の方で文句言う方がやはりいますよね。地元に住んでいる方はほとんど言わないと思うんだけど。だから、そこのところも、やはりこれが防災のためのスピーカーですので、皆さんが本当理解しながら音を聞いて、連絡を聞いてとできるような宮古島にどんどん変わってきたらいいなと思っています。どうもありがとうございます。

では、市長、お待たせしました。市長の政治姿勢について。いつも最初ですけど、最後に持ってきました。３月26日に提出した決議案、台風、地震、災害及び交通事故等に伴う重傷患者の救助、救急搬送のヘリ部隊配置の要請について。１、宮古島市の医療の現状は、高度救急医療体制や設備が不十分であると考えられます。市民の安全、安心のため、対応をどう考えているのか市長に伺います。

◎市長（嘉数　登君）

根間康雄議員ご指摘のとおり、宮古島市の医療体制については設備の問題、それから専門医の不足、看護師等の医療従事者の不足など、医療提供体制は十分でないというふうに考えております。そのため、人材確保や安定した医療体制を維持していくために国及び県の支援が重要であり、また医療機関に応じた機能分担や相互連携の構築が必要になってくるというふうに考えております。こうした課題は先島地域に限らず、本県の離島自治体共通の課題であるとの認識に立ちまして、本市の提案によって沖縄県離島振興協議会において、令和７年度に離島地域における医療体制の現状、課題、その充実について、県に対し要請を行いました。その際にですけども、病院事業局長からは、県立病院の一丁目一番地は離島僻地医療であるというような心強い回答もございました。今後も離島地域の実情を踏まえながら、国や県に対して継続的な働きかけを行っていきたいというふうに考えております。

◎根間康雄君

本当もう医療関係、逼迫した状態です。宮古病院という県立病院はあるんですけども、本当に病院は県立宮古病院、徳洲会病院、それから伊良部島のほうの伊良部島中央クリニックがあります。でも、安心できない状態でみんないて、ある方はもう宮古島ではできないからって引っ越していった方もいるぐらいですから、そこのところを強く考えて取り組んでいただきたいと思っております。

では、２番です。宮古―那覇間では、年間平均約30件の緊急患者搬送が行われています。現在ヘリ部隊は沖縄本島から出動していて、搬送中に患者が亡くなる事例もありました。中には、搬送、患者を迎えに行く途中で亡くなったこともあります。このような状況が続いている中ですが、宮古島市から搬送することに何とか取り組めないかということで要請書も出したはずです。あの進捗状況は、今どのような方向に

向かっているのか伺いたいと思います。市長、お願いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

救急搬送ヘリ部隊についてお答えいたします。

救急搬送中にお亡くなりになったという事例があったということについては、本当に残念なことだと思っております。宮古島市における急患搬送等の対応としましては、現在陸上自衛隊や海上保安庁により対応いただいているところでございます。離島における医療体制、搬送体制の充実という点について、今後も取り組んでいく必要があると考えております。一方で、搬送時間の短縮につながる航空自衛隊の救難ヘリや現在沖縄県が取り組んでおります沖縄県防災ヘリの取組についても、状況を注視していきたいと考えております。

◎根間康雄君

では、現在は今までどおり、まだどの方向性で取り組むかの部分まではいっていないということですよね。では、確認します。防衛大臣宛ての意見書提出は否決されました、３月。内容が、市長個人からは聞いていませんが、市長が４月、５月中には早急に防衛大臣に前向きな要請を行うからということで、私は市長宛てだけで終わらせました。その後この流れはどうなっているのか、ここの分は市長に伺いたいと思います。

◎副市長（砂川　朗君）

防衛大臣宛ての意見書についてでございます。航空自衛隊救難隊の誘致につきましては、これまで市長や市議会からも国に対し要請を行っているところです。令和８年３月定例会の中でございました要請に関してですが、現在までのところ、市として意見交換の機会を防衛省とは持っておらず、新たな要請についても行えていない状況となっております。一方、現在沖縄県主導で消防防災ヘリの導入に向け協議が進められていることから、これらの動向を注視しつつ、引き続き関係機関との意見交換や情報収集に努めてまいります。

◎根間康雄君

本当に今皆さん全員、市長が特に苦労しているのが有事の問題、自衛隊の訓練の問題、多々持っていて、もう頭がにっちもさっちもいかなく大変だと思っております。だけど、物は考えようです。今です。今この状況だからこそ、宮古島に置けないかと一声かけることも一つの手だと思うんです。もちろん有事戦争あっちゃいけませんよ。これやらさないために動いてもらっていると思っています、私は。だからこそ、そこで何かあったときのための救難ヘリが必要なんです。待って１時間後に行くんではもう無理なんです、緊急患者は。ですから、取り組むのは今年が一番チャンスだと思っています。遅れたらもうどんどん遅れる一方です、何でも。だから、そこでしっかりと取り組んでいただきたい。市長のほうから、まだ数秒あるかな、ぜひ一声だけよろしくお願いします。

◎市長（嘉数　登君）

ありがとうございます。根間康雄議員のご指摘も踏まえまして、適切に対応してまいりたいと思っております。

◎根間康雄君

では、33秒ありますので、この残った時間で。今日は本当にありがとうございました。いつもより声が

小さくて申し訳ないです。何よりも教育部長には心から感謝しております。我々は行政にいろいろ言いますけど、それをまた組み込んでもらえたら感謝が何倍にもなりますので、現在教育部門に関しては何ひとつ不満がありません。今後ともよろしくお願いします。

これをもって終わります。

◎議長（平良和彦君）

これで根間康雄君の質問は終了しました。

しばらく休憩し、15時50分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午後３時36分）

再開します。

（再開＝午後３時50分）

休憩前に引き続き一般質問を行います。

順次質問の発言を許します。

◎狩俣勝紀君

先にお礼を申し上げます。昨日行われました海神祭、教育部長、参加と挨拶をいただきました。ありがとうございます。それと、今月28日は大神島で海神祭があります。20名足らずの島で今度新造船を造って、爬龍船の、進水式もありますので、ぜひ三役のどなたかご参加いただければ盛り上がると思いますので、よろしくお願いします。

もう一つお礼を申し上げます。消防行政について、大神島に新しく消防団員４名認定していただきました。ありがとうございます。引き続き設備のほうもいろいろとお願いしたいと思っております。そういう消防団員が認定されたという中で、地域に非常に芽生えたというか、今度３万3,000人の入島、入客数がいるということで、ぜひ自分たちで島を守ろう、防災、防犯やろうということで、今度防犯協会にも申込みをしております。いろいろと皆さんのいろんな協力、ぜひまた今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、すみません、質問に入ります。１、農林水産行政について。１、狩俣地域農道舗装整備について。①、狩俣圃場整備地区農道舗装整備予定について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

狩俣地域の圃場整備地区でございます狩俣、中之原、白川原、山原、間那津、野田、野田東の７地区に分かれておりまして、昭和56年度から平成16年度まで圃場整備を行っております。

◎狩俣勝紀君

この７地区については、ほぼ20年以上たっているものと思われますけども、その中でまだ未舗装の農道もあります。それで、この未舗装部分の舗装整備予定について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

未舗装の農道につきましては、狩俣地区に限らず宮古島全体にございます。それぞれ地元からの舗装要望もございますので、今調査を行っているところでございます、未舗装の農道につきまして。対応できる補助メニューにつきまして、今沖縄県と調整している段階でございます。

◎狩俣勝紀君

ちなみに、この20年以上たつ圃場整備について、狩俣地区でいえばこの完了後果たしてどれぐらい舗装整備をされたのか、あまり記憶にないんですけども、ただこういう同等の箇所で今現在舗装整備はゼロですか、それともありますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

今手元にデータがございませんけれども、通常の舗装ではなくて、簡易的に舗装した部分はございます。

◎狩俣勝紀君

以前に圃場整備、狩俣地区は非常に早い時期に完了したと思いますけども、何か取り残されたような感じで、未舗装部分が非常に多いように思います。そういうことで、今後とももちろん予算どれだけ頑張って取れるかというのもあるんですけども、地域において今まで議員がいなかったからこういうことになったのかなというのもありますので、今後はやはり計画的な舗装整備が必要ではないかと思っております。白川原地区においては、再整備を一応申請しているところではございますけども、それ以外の場所はかなり、野田に関しては去年かな、一部舗装はして再舗装を凸凹になったとこにやってもらいました。そういうことで、ぜひまた今後はそういう舗装に関しては計画的にしていただきたいと思っております。ほかの件に関してもこれから調査してということですので、そしてこの調査はいつ頃確定して、いつ頃スタートする予定ですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

調査につきましては現在行っておりますけれども、把握していない農道もかなり、把握していないといいますか、農道の延長もありますので、時期的には今明確にお答えすることはできませんけれども、調査は継続してまいります。

◎狩俣勝紀君

狩俣地区においては､20年以上たつのにまだまだ全然整備が進んでいない状況だと感じておりますので、こういう再整備についてもそうなんですけども、ある意味これから調査、それとも計画というのが固められるような感じですので､ぜひもう少し積極的にこういう施工に対しては進めていただきたいと思います。

②、池田原農道整備について伺います。同じような状況ですけども。この範囲は、雪塩工場から池間線に通じる道路ですけど、これは海岸通りです。１つには給水地があるんですけども、かなり凸凹、軽トラにタンクを乗せてそこまで行くにはかなりの困難さがありますので、早急に整備してもらいたいということに対してご返答をお願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

池田原農道につきましても先ほどの農道と一緒でございますけれども、この地区は平成６年に事業完了をしているところでございます。整備後30年以上経過しておりまして、農道改良が必要であることは認識しているところでございます。先ほどと同様に調査を行っておりますので、補助メニュー等については県と調整をしていきたいと考えております。

◎狩俣勝紀君

これから調査計画ということですけども、仮にでもいいと思いますので、今ある凹凸はぜひ整備していただきたいと思います。かなり除草剤散布とかいろんな際に、タンクを載せて回るのに大変困難を来しておりますので、ぜひお願いいたします。以上で農林水産行政について終わります。

２番目、教育行政について。１、小学校遊具設置について。①、各小学校遊具設置予定について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

小学校の遊具設置予定についてのお答えをいたします。

現在教育委員会のほうでは、小学校の遊具施設についての設置計画というのはございません。遊具については、各学校からの要望としては、管理の安全性を求めることとか、修繕、撤去の要望が多い状況となっております。

◎狩俣勝紀君

先頃行われました地域懇談会の席において、小学校、池間もそうですけども、要望があったと思います。答弁を一応確認しましたけども、聞き取りして対応ということでしたけど、それはどうなっていますかということで。

◎教育部長（久貝順一君）

狩俣小学校においては、令和７年11月の地域懇談会の中でＰＴＡのほうから遊具設置の要望がありました。また、本年４月には狩俣小学校の校長先生から校庭に遊具がないということで、校庭遊具の設置についての要望がありました。現在学校側と設置希望遊具、また設置希望場所、設置の箇所の聞き取りの調整は終えておりまして､現在夏休みの期間中に設置をしていきたいということで取り組んでいるところです。

◎狩俣勝紀君

ぜひまた計画を進めていただきたいと思います。

もう一点だけ、池間のほうからもカツオ公園について遊具の確認があったと思うんですけども、地域懇談会の中で、そこについてはどうですか。カツオ公園について。池間。

（「担当が違うのか」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時02分）

再開します。

（再開＝午後４時02分）

◎狩俣勝紀君

改めて池間島のカツオ公園についての遊具設置取組についてお願いいたします。

◎副市長（砂川　朗君）

地域懇談会のほうで、確かにカツオ公園につきましては遊具の設置を求める声がございました。現状を踏まえまして、状況を確認しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

◎狩俣勝紀君

カツオ公園に限らず、学校内においても多分必要だと思われますので、ぜひその辺も狩俣と同様、同じように進めていただければと思っております。

続きまして、２、不登校児童について、１、現在の不登校児童数について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

現在の不登校児童数についてお答えいたします。

令和７年度の不登校児童数は、小学校で135名、中学校で187名、合計322名となっております。

◎狩俣勝紀君

非常に令和３年度からかなりの勢いで増えております。令和３年度に104名。今話したとおり、令和７年度で合計322名、かなり急激な不登校児童数の伸びになっております。という中で、②、不登校対策状況について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

不登校対策の状況についてお答えいたします。

本市教育委員会は、不登校児童生徒の支援も含め、子供たちが学校が楽しいと思える学校、また分かった、できたを実感する学校づくりを引き続き推進をしております。また、今年度はスクールソーシャルワーカーの業務に児童生徒の家庭訪問や登校支援、これは学校職員と共に迎えに行くなどを追加したことや、学習支援員をこれまでの10名から11名へ増員をし、学校の課題に応じた支援に取り組んでおります。また加えて、今年度から不登校対策プロジェクトチーム、仮称ではありますが、それを立ち上げまして、教育委員会のみならず市長部局と連携をしながら、家庭環境に起因する課題への福祉的介入や心身の不安に対する対応の必要性等の情報共有を図って、支援体制を構築する考えとなっております。なお、この仮称でありますプロジェクトチームにつきましては、８月の設置に向けて取り組んでいるところです。

◎狩俣勝紀君

非常に今現在中学生の不登校が多いように見受けられます。そういうこともあって、３の不登校児童就学環境選択について。池間学区、狩俣学区の小中学校へは校区外からの通学等もあり、子供たちが元気に成長し、高校進学へと進んでいく姿も多々見受けられております。児童の就学環境の選択肢を広げて不登校児童の減少につなげるためにも、通学環境の拡大に向けてスクールバスまたは通学補助、助成の考えがあるか伺います。

◎教育長（宮城克典君）

不登校児童生徒の減少につなげるための通学環境の拡大につきましては、本市では不登校傾向にある児童生徒の保護者のほうから学区外の学校への指定校変更の希望があった場合、児童生徒にとってよりよい学習環境を提供できるよう、まずは指定校変更に関する運用基準、これに照らし合わせて、申請の内容を見て許可するかどうか判断しております。これは、児童生徒一人一人の特性に応じた学びの場を確保し、多様な教育機会を提供することを目的とするものでございます。しかしながら、この指定校変更はあくまでも保護者の皆様のご希望に基づいて申請し、認めるものであり、通学に関わる費用と児童生徒の安全確保につきましては、指定校変更を希望される保護者の皆様にご自身の責任において対応いただくことを条件とさせていただいております。現時点におきましては、スクールバス等の運行による通学補助、助成という部分については予定はございません。

◎狩俣勝紀君

今までの条件に沿った考え方だと思っておりますけども、今現在これだけの不登校児童を抱えております、宮古島市が。果たしてこのままでいいですかというのもあります。ましてや子供たちの多様性とか、環境の多様性もあります。そういった面では、間違いなく小さい学校から大きい、クラブ活動関係で校区

外へ変更される方もいます。ただ、こういう方は好きだから行きます、積極的に。しかし、不登校の生徒たちは今後どうしますか。三百何十名います。ましてや申し上げたとおり、池間島に今校区外で来ています。それなりに課題持った子供たち。狩俣にもいました。実は、去年の入学式に参加させてもらいましたけども、非常に動き回っている１年生がいました、入学児童。今年の入学式に参加した時点でそういう子供見当たりませんでした。転校したんですかと聞くと、ちゃんと座っていました。１年間で直っています、その子供。こういう環境があるんでしょうと私は、宮古島に。ただ、これまでは合併、合併でいろんな話が進みましたけども、そういう多人数の学校にそぐわない子供たちを幾らかでも環境、どうですか、選択肢。ましてやこれは300名いる不登校児童、宮古島市の施策としてどうしますかという話で。ただ、環境はあるんです。既にもう生徒たちもここに通って、高校入学までいった子供たちもいます。実績もあります。立ち直った実績も。こういう環境があるのに使わない手はないではないですかと言いたいですが、これは市の施策としてぜひやってもらいたい。これは時間との勝負です。１年１年。子供たちは１年で直った子どももいますから。ただ、待っているのがもったいない、私からすれば。環境はあります。せめて学校の雰囲気を変えるので、大人数は無理です。と考えています。できれば１桁台、何人かで試してもらって、それから広げてもいいかなと思っています。間違いなくこれから下がる傾向はないです。もうこれだけの勢い。令和６年度で265名、令和７年度で322名まで上がっています。これずっと上がりっ放しでしょう。来年止まる可能性はあるかというと、多分止まんないでしょう、この勢いだと。

だから、そういう意味でぜひ早く何かの手を打たないことには。通常の大人が考えている考えでは止まりません。ただ、親と子供に環境を見てもらう。それで無理に連れていく必要はないですから。それで、合うようであればぜひ10名以内、限定でもいいです、そういう中で育ってもらったらいいかなと思っています。間違いなく一人一人どういうふうに、１人でも、２人でも立ち直ってくれる子供がいたら、それは大いに助かります。これは一地域の問題ではなくて、宮古島の施策としてぜひやってもらいたい。322名います。来年増える可能性もあります、間違いなく。これが増えないうちにぜひ手を打ってもらいたいと思いますので、そのことについてお願いします。

◎教育長（宮城克典君）

私もこの不登校児童生徒が増加の一途をたどっているという部分について、非常に心を痛めておりますし、また重要課題だというふうに認識しております。先ほど教育部長からもありましたように、その対策を、このままではいけないということで、不登校対策プロジェクトを今立ち上げ準備をして、８月には起こす予定です。それには、これまでの施策の見直し、そしてこの中には例えば小規模特認校とか、あるいは児童生徒の今おっしゃったような通学の変更等についても、先ほどの基準を見直す等含めて、検討しながら対策を立てていきたいと存じます。

◎狩俣勝紀君

ぜひ前向きにお願いいたします。実は、そういう子供たちが立ち直っていく姿を目の前で見ておりますので、実は昨日の海神祭の宴会でも多動性の特性のある子供も、一緒に余興をしていましたから、みんなと一緒に。それぐらい立ち直れるんです、この地域の中では。そういうことで、そういう環境も大いに利用してもらって、子供たちの立ち直りにぜひ前向きに検討していただきたいと思います。市長、これ宮古島の施策としてお願いしたいんですけども、どうですか、市長、一言。

◎市長（嘉数　登君）

教育長が答弁してきました不登校対策プロジェクトチーム、これはまだ仮称でございますけれども、令和８年度の施政方針をつくるに当たって、これはまさしく教育長と私がこの不登校問題は放っておけないという共通の問題認識の下に施政方針に掲げております。なので、ありとあらゆる方策を講じて不登校児童生徒の解消、縮小に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

◎狩俣勝紀君

また一人でも多くの不登校児童生徒を前向きに成長させていただくために、ぜひよろしくお願いいたします。

続きまして、４番の宮古馬放牧について。①、東平安名崎宮古馬放牧についてお伺いいたします。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

ご質問の東平安名崎につきましては、風光明媚な景勝地であり、国の名勝として文化財に指定されているほか、一部は植物群落として県の天然記念物にも指定されております。狩俣勝紀議員ご提案の東平安名崎での宮古馬の放牧につきましては、名勝地としての景観の変化や天然記念物に指定されている植物群落への食害など生じる可能性があるものと想定しております。このため、文化財保護の観点から、東平安名崎における宮古馬の放牧は困難であると考えております。

◎狩俣勝紀君

文化財絡みですると、やはり困難な部分があると思います。ただ、今現在東平安名崎は荒れ放題です。私の記憶の中では、以前は城辺町時代かなりドライブしながら海が見えました。今、先に行くまで見えないです。天然記念物保護というんですけども、果たしてこの状態で保護できるんですかという、ススキが繁茂しております。実は、３月に与那国馬の視察に行ってまいりました。非常に道路に関して、海までの景観に関してはかなりすっきりしています。海もすごく見えて、景観すごくいい状況でした。道路に飛び出したアダンの葉も全部刈られていましたから。そういう意味では、宮古馬を放牧したところで天然記念物が死滅することはないと思います。ただ、今現在の環境、あれでいいんですかという立場でいくと、観光と整備に向けては馬のほうが一番経済的かなと思っています。城辺町時代からすると本当にさま変わりしています。日本百景に入っている東平安名崎、あまり頻繁に来る場所ではないと思いますけど、地元は、ただ観光客は、毎日行っていますけども、あの雰囲気、日本百景ですかと言いたくなります。もう真っすぐ行くまで海全然見えないです、ススキで囲まれて。せめてそういう環境を幾らかでも改善できる方法がもしあるんでしたらそれでいいんですけども､最善の方法として私は宮古馬の放牧がいいかなと思います。

そして、宮古馬の放牧に関して、与那国馬を見てきたんですけども、道路にはフェンスがないです。テキサスゲートというのがあって、すのこ状態に道路がなっていまして、越境しないという……検索すれば分かります、テキサスゲート。景観は何にも変わらない状態で、馬が内側にいます。できれば、宮古馬に関してもぜひもっと利活用してもらいたいと思っております。それで、今現在宮古馬の頭数は答えられますか。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

現在の頭数は49頭です。

◎狩俣勝紀君

たしか私も何年か前にも質問したんですけども、あれから50頭を超えていないですね。目標は多分100頭ぐらいだったと思いますけども。与那国は、今現在100頭ぐらいいるらしいんです、与那国馬が。それで、今現在売り買いもしています。石垣島の一番先の平久保ですか、そこでも与那国馬を９頭か10頭ぐらい養っていて、引き馬をしています。２時間で１万2,000円。夫婦で午前中に２回取って幾らになるか、もう単純に売上げは計算できると思いますけども、そういう活用の仕方もあります。それで、私が提案したいのは、ぜひ東平安名崎で除草もしながら、環境整備もしながら、観光地としての写真スポット、それとまた観光客が体験できるスポット、海に入って引き馬をするのも結構いい金になるみたいです。すぐはできないかもしれんけど、将来100頭に近づいたときはそういう活用もしてもらいたいと思っています。もう答弁はいいですけども、ぜひ東平安名崎に関しては熟慮してもらって、宮古馬のやはり生かせる場面をつくってもらいたいと思っています。

次、３番、上水道行政について。水道本管接続及び改良工事について。①、久松小学校前の道路、廣鉄筋前から部落内向けの250メートル程度の区間が未接続になっております。その未接続部分の末端部分から複数の個人設置水道管が民間アパート及び個人邸へと接続され、煩雑な埋設状況になっております。現地の状況は、さらに建築が予定されており、さらにまた民間の本管埋設が増えるものと思われます。ということで、本管延長接続予定について伺います。

◎水道部長（砂川　勤君）

久松小学校前の道路から部落内向けの約250メートル程度の未接続区間につきましては、配水地系統の違いからの未接続となっております。この区間には水道本管が布設されていないことから、個人で布設された複数の給水管が埋設されている状況でございます。本市としましても、埋設管を集約することで効率よく管理ができるものと考えますが、個人負担で布設いただいた給水管でありますので、それぞれの方と調整が必要になってきます。今後は、周辺地での狩俣勝紀議員おっしゃる住宅等建設計画などを注視するとともに、予算も含め、必要に応じて適切に対処してまいりたいと思います。

◎狩俣勝紀君

現場のほう、いろいろ業者の声を聞くと、管だけではなくて、電話線とか、そういうケーブル等も埋設されているようです。それで、何か漏水とかあるとかなり複雑な修理になります。そういうことで、ぜひこの本管延長もしくは接続はやはり早急にしていただきたいと思っております。久松地区は、建築が非常に進んでいる状態ですので、あまり後手後手にならないように、また行政のほうの作業もよろしくお願いいたしたいと思っております。

②、高千穂地域の上水道管改良工事について。ア、デイサービスまんまる前道路、これは単純に測りますけども、700メートルぐらいの区間に漏水工事の修理跡が20か所以上あります。この改良工事の予定について伺います。

◎水道部長（砂川　勤君）

狩俣勝紀議員ご指摘の当該箇所につきましては、平成３年度に延長約400メートルの一部改良工事を行っております。これまで一部の工事箇所において、時期は定かでありませんが、何度か漏水工事を実施しております。今後の予定についてでございますが、令和６年度に策定しました耐震管路更新計画を基に、老朽化した上水道管の更新については随時改良していくこととなっております。当該箇所も含めて、改善し

て適切に対処してまいりたいと思います。

◎狩俣勝紀君

予想される答弁ですけども、ちなみにこの時期というのは、これだけの数を漏水していますから、かなり優先順位では上のほうだと思います。それで、計画があるようですけども、予定についてはいつ頃という予定はありますか。

◎水道部長（砂川　勤君）

修正箇所を私も一昨日現場確認してきました。300メートルの間に十数か所程度工事箇所跡が見受けられましたけども、この更新計画については費用対効果の検証とか優先順位を見極めながら改善に努めていくことが必要ですので、優先順位を見極めながら計画を立ててやっていきたいと思います。

◎狩俣勝紀君

かなり現場に近い方はもう不思議がっています。これだけ漏水しているのに優先順位はどうなっているのかという話なんです。こういう漏水箇所があんまりないのに、またどんどん改良工事しているとこもあるということで、優先順位分かっているのかなというような話もありましたので、ぜひそこら辺は地域住民に納得いくような改良工事もぜひ進めていただきたいと思っております。

４番目、防災行政について。津波警報発令周知について。①、増加傾向にある津波警報周知のため、海水浴場等に津波フラッグ設置について伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

市内におきまして、津波注意報または津波警報発令時における津波フラッグの設置につきましては、本市の主要ビーチにおいても市民及び観光客の安全確保のため必要性は高いものと考えており、聴覚に障害のある方や外国人の観光客を含め、多くの方へ視覚的に情報を伝達できる有効な手段であると認識しております。今後設置場所や運用方法など関係機関と連携し、市内主要ビーチに早期に設置する方向で進めてまいります。

◎狩俣勝紀君

実は、その津波フラッグについては、新しく消防団員になりました大神地区の消防団員から提案がありました。もう既に防災、防犯意識が芽生えております。そういう意味でも、３万3,000人の入客数をどうやって守るか、自分たちで何とかしようという意識が芽生えております。そういう意味でも、ぜひまずは離島地域における周知も大事ですけども、特に池間島はダイビング客が多いですね。池間に限らず多いんですけども、そういう意味で船舶にも設置してもらいたい。ビーチに限らず。やはり泳いでいたら、携帯で警報が鳴るわけではないです。だから、そういう意味ではそういう見える場所に津波フラッグは各船舶に対してもぜひ配布及びまたそういう周知ができるかどうか。大丈夫ですか。船舶関係についても、津波フラッグの配置ができるかどうか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時31分）

再開します。

（再開＝午後４時32分）

建設部長、一応詳しく聞いて答えられるから、建設部長が答えるんでしょう。

（何事か声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時32分）

再開します。

（再開＝午後４時33分）

◎建設部長（下地睦子君）

今の狩俣勝紀議員のご質問ですけれども、先ほど観光商工スポーツ部長のほうからビーチについてのフラッグの設置は話をしたところです。市としては、港湾課のほうなんですけれども、マリンターミナルに港湾課が入っております。港湾課のほうは、港の船に向かってというか、海側に向かって建物の窓から津波フラッグを張る形で知らせたいというふうに今準備をしておりますので、フラッグが準備でき次第、マリンターミナルのほうは建物のほうから垂らす形での準備になります。

◎狩俣勝紀君

分かりました。私が質問したかったのは、ダイビング船が沖に出ますよね。シュノーケリングをやっていますよね。災害時に携帯電話はつながりませんから、ダイビング船に津波フラッグを備品として設置できないかという質問です。配布またはそういう周知ね。休憩して。大丈夫。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ダイビング船のフラッグなんですけど、一応宮古島美ら海連絡協議会という協議会がありますので、そちらのほうとまず意見交換を行って、できるかどうか確認して対応したいと思います。

◎狩俣勝紀君

いろいろ現場からの質問を基に私も質問しておりますけども、非常に大神地区においても海水浴に対しては、ビーチのフラッグで確認できると思います。ただ、沖に出た場合の周知の仕方を今確認してもらったんですけども、そういう意味ではぜひシュノーケリングに出た方にも船に掲げることでそういうことが分かるように設置できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。答弁何かありますか。なければいいです。

それでは最後に、企画政策行政について。何人かまた質問もされましたけども、先進技術活用型住宅建設予定地について、当初予定の旧平良児童館跡地から宮古島市上野トロピカルフルーツパークへの変更について伺いますということですけども、何人かも質問されておりますので、私の質問した趣旨はこの見積りをまた変更した、要するに再見積りしたということは、民間において見積りの仕方について、すみません、増えましたということはなかなか言えないんです。そういう意味では、ぜひ見積り、金額をつくる前にぜひ現地の確認はちゃんとやりましたかという質問です。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の候補地として複数検討していた中、去る３月定例会において、旧平良児童センターを最有力として想定していると答弁いたしました。その後土地の勾配や地形等の条件により、新たにトロピカルフルーツパークを候補地に選定しております。旧平良児童センターの選定に当たっては、令和８年度当初予算

要求時の11月時点で本敷地に樹木が密生し、現地の正確な測量や地盤状況の詳細な把握が物理的に厳しい状況であったため、現在の既存の資料と目視による概算で積算を行ったところでございます。今年３月に樹木を伐採した後の調査において、想定以上に高低差があることが判明しております。また、解体予定の建物にアスベストが含まれていることが２月に判明いたしました。これにより、造成費用の増、建築開始までのスケジュールに変更が見込まれたため、当初目標である令和９年４月の入居開始が令和10年にずれ込むことが避けられない状況となりました。市においては、医師や看護師などのエッセンシャルワーカーの住宅確保が困難な状況が宮古島離れを加速させる要因として、市の最重要課題としてスピード感を持って取り組む必要があるという考えのため、事業目的に適した市有地について検討を進めた結果、上野トロピカルフルーツパークの一部を候補地として事業を進めていきたいというふうな考えでございます。

また、トロピカルフルーツパークですけども、一部の土地について、現在の行政財産を普通財産へと変更する手続を進める必要がございます。同パークの現状といたしましては、１筆の土地、これは全体面積が７万7,502平方メートルですが、使用する予定の土地、これは全体面積の3.7％に当たります約2,900平方メートルを分筆する必要がございます。また、その2,900平方メートルの土地につきましても行政財産の状態でありますので、現在の管理する普通財産への変更、担当部署への所管替えに向けて手続を行う予定となっております。

◎狩俣勝紀君

私この質問を出したという趣旨は、この件に限らず、市役所の契約、交渉段階において、市役所職員があんまり現場を把握していないという声が何件か聞こえましたので、一応質問を入れました。こういう数字積算する段階においては、現場の把握はぜひもっと徹底的にやってもらいたいと思います。そうした結果、こういうふうな変更は生まれないと思いますので、ぜひ迅速な行政運営するには当初の調査段階でも要するに十分把握した上で進めていただきたいと思います。

以上をもちまして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

では、総務部長が答弁修正がありますので。

◎総務部長（上地俊暢君）

申し訳ございません。答弁の訂正をさせていただきます。

先ほど４番目の根間康雄議員の一般質問の際に、防災行政無線のスピーカーの数の質問がございました。訂正をさせていただきます。地区別でいきますと、平良地区40と答弁しましたが、正しくは42か所でございます。城辺地区43か所と答弁しておりますが、正しくは42か所でございます。下地地区17か所と答弁しておりますが、正しくは18か所でございます。伊良部地区で11か所と答弁しておりますが、正しくは12か所でございます。合計で129か所と答弁しておりますが、正しくは132か所の誤りでございました。申し訳ございませんでした。

◎議長（平良和彦君）

これで狩俣勝紀君の質問は終了しました。

お諮りします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認め、よって本日の会議はこれにて延会します。

（延会＝午後４時43分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月22日（月）　　４日目

（一　般　質　問）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第４号

令和８年６月２２日（月）午前１０時開議

日程第 １　 一般質問

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月２２日（月）

（開議＝午前10時00分）

（延会＝午後３時24分）

◎出席議員（２２名）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（０名）

◎説　明　員

市長	嘉数登君	環境衛生局長	梶原健次君
副市長	砂川朗〃	会計管理者	友利和代〃
企画政策部長	石川博幸〃	水道部長	砂川勤〃
総務部長	上地俊暢〃	消防長	狩俣勝彦〃
福祉部長	守武大〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
農林水産部長	下地貴之〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
建設部長	下地睦子〃	教育長	宮城克典〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	教育部長	久貝順一〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	生涯学習部長	天久珠江〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席議員は21名で、定足数に達しております。

本日の日程は、議事日程第４号のとおりであります。

これより日程第１、一般質問について、先日に引き続き質問を行います。

本日は、砂川和也君からであります。

順次質問の発言を許します。

◎砂川和也君

一般質問２日目、トップバッター、議席番号13番、Ｎｅｘｔみやこの砂川和也です。通告に従いまして一般質問を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、海浜行政について。現在、宮古島市でマリン事業を営んでいる業者の数を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ご質問の宮古島市でのマリンレジャー事業者数をお答えします。

沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全の確保等に関する条例により、県公安委員会に届出されている宮古島市を所在地とするマリン事業者数は、令和８年４月30日現在で、海水浴場、プレジャーボート、マリーナ業、潜水業、スノーケリング業を合わせまして675件となっております。

◎砂川和也君

675件ということで、年々増えてきた、今は横ばいになっているのかなって感じもあるんですが、一応これは沖縄県警察のホームページで公開されていて、届出数は見られると思うんですけども、やはり今675件でしたか、これが本当に宮古島市の適正な数かどうかというのも私としては疑わしいと考えております。ちょっと数が多いのかなと。これが宮古島市だけで、沖縄県含めるとどのぐらいあるのかなと思うと、今もうオーバーしているのかなという感じはありますが、その考えがある上で２番に行きます。

現在、マリン事業は届出制であります。この制度を許可制にとの声があります。以前に市長もそういう考えがあるということをおっしゃっておりまして、市としても県に訴えていくということをおっしゃっておりました。現在、市の考え、進捗はどうなっているかお答えください。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

現在、マリンレジャー事業の営業には、県公安委員会の届出制となっておりますが、この制度が結果として事業者数の過剰な増加につながっている現状があることは、市としても問題意識を持っております。事業者の増加により、過当競争や事業者の質の低下を招きますと、市民や観光客の安全上の懸念だけではなく、本市の観光イメージにも悪影響を及ぼしかねないと懸念しております。マリンレジャー事業の営業に関する制度は沖縄県の条例に基づくものであることから、これまでも届出制から許可制への移行を含めた実効性のある制度への見直しを県との意見交換会などで要望してまいりましたが、改善には至っておりません。このような課題は、本市に限らず、ほかの離島地域においても同様であり、広域的な課題であると認識しております。市としましては、同様の課題を抱える他市町村や関係機関とも連携し、沖縄県に対しまして現行制度の問題点を提起し、制度の見直しについて引き続き働きかけを行ってまいります。

◎砂川和也君

やはり簡単にはいかないことだと思います。宮古島市だけの問題ではない。先日、議長の代理で先島市町村議会議長会のほうに参加させていただいたときに、与那国町でも竹富町でも、石垣市でも同じようなことが起きているとおっしゃっておりましたので、これはもう宮古島市だけの問題ではない、沖縄全体の問題なのかなと。ただ、沖縄県でも、やはり海岸が活発ではない地域とかは、あまりこの辺の認識がない可能性があります。沖縄県全体の問題なんだけれども、こういう観光地ではないというか、あまりマリン事業等がない市町村には、あまりなじみがないかなという部分があると思うんですけど、やはり先島にとってはもうこれすごい問題になっていると思いますので、ぜひ市長のほうからも強く要望をしていただいて、許可制というのが難しいのであれば、今ちょっと条例が変わりカヤックとか、サップとかというのはそういう協会に入ってくださいと。協会というのに入って、認定してくださいと。今２年間ぐらい猶予があるということで、沖縄県としてもこれは問題だなと思って、そういうふうにルールを変えてきている部分はあると思います。ただ、これがもう届出数がどんどん増えてくると、３年後にはもう1,000件、1,000事業者に増えていくとなると、今度は事業者同士のトラブルが起きたりとか。やはり６月６日でしたか、台風が近づいてきたということで、大雨洪水警報とか発令されていたときに新城海岸に行ったんですけど、その状況でウミガメツアーをやっているんです。正直私らからすると、この天気でこういうことやる、危ないなって思うんですけど、複数の事業者が車を止めて、ツアーをやっておりました。それに対する注意をしたところで、私に止める強制力もないので、これがもし事故とか起きたとき、ただでさえ、今宮古島市の医療機関というのは人が足りない状況で、そこに力を注いでしまうと、本当に医療が必要な方に問題が出てくると思うので、この辺は引き続きしっかり一緒にやっていきたいと思いますので、市長、何かお考えあればお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

砂川和也議員もご懸念のとおり、近年の海難事故の発生状況等を鑑みますと、安全体制の強化が重要な課題であるというふうに認識しております。一方で、許可制の議論がございますけども、その導入は営業の自由との関係で、まず法的な整理が必要であり、市単独での対応というのはなかなか厳しい状況があるのも認識しております。今後、国や県の動向ですとか、今ご紹介いただきました与那国町とか竹富町とか石垣市でも同じような状況があるというふうに聞いておりますので、そういった他の自治体の事例を注視しながら、利用者の安全確保に対する方策について研究してまいりたいというふうに考えておりますし、これも砂川和也議員からありましたように登録制というところも、許可制には至らないでも、一定程度対策を講じることは可能かなというところもありますので、その辺も踏まえて、県ともしっかりと意見交換してみたいというふうに思っております。

◎砂川和也君

ぜひ市長、よろしくお願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。市が県から移管されております４海岸、前浜、砂山、吉野、中の島、これは適当なところにも行ったんですが、実はこの４海岸だけではなくて、パイナガマとかトゥリバーとかも含めてでございます。タトゥーや入れ墨等の露出規制看板は設置可能か伺います。これ以前も一般質問で質問した経緯があると思います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

本市の海岸でのタトゥー等の露出につきましては、個人の表現の自由との兼ね合いもございますが、家族連れや観光客の皆様が本市の海岸を安心して快適にご利用いただく環境を確保する観点から、懸念する声があることは承知しております。このような状況は、観光地としての本市のイメージに関わる課題であると考えております。完全にタトゥー等の露出を禁止することは、関係法令とも照らし合わせて慎重に検討する必要がありますが、他市町村におきましても、同様の課題に対し啓発やマナー喚起の取組を進めている事例があると承知しております。本市としても、これらの先進的な事例を参考に、市民や観光客の皆様が安心して快適に海岸を利用していただけるよう、規制看板の設置も含め、様々な対策を検討してまいりたいと思います。

◎砂川和也君

私の周りでも、友達とかでタトゥー、入れ墨入れている方もいますし、また海外から来られた方というのは、もう普通で、特に多いと思います。そこら辺は一概に規制というのは難しい面はあると思うんですが、パイナガマ等でやはりそういった方がいると、怖くて近寄れないという声が結構聞こえております。最近はもう怖くて行かないようになりました。前はちょっと怖くて近づけないくらいだったが、今はもう怖くて行かないというふうにもなっているということになっていますので、お願いベースでもしかするとなるかもしれませんが、できればなるべく露出を控えてください、ラッシュガードを着てください、何か着てくださいみたいな看板とか立てられればいいかなと思います。神戸の須磨海岸であったり、条例でそういうのをやっていると思いますので、観光商工スポーツ部長がおっしゃったように他市を参考にやっていただいて、これから観光客が120万人を超えてどんどん入ってくる中で、こういうちょっとしたマイナスイメージ、ネガティブキャンペーンになるようなことは、やはり少しでも改善していっていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

続きまして、17ＥＮＤ駐車場問題についてでございます。皆様も17ＥＮＤのほうに行くと分かると思うんですが、路上駐車をしているので、後ろから車が来て、いっぱい車が止まっていたら、何だろうなと思ってちょっと前のほうへ行っちゃうと、もうＵターンができなくなって、そこにどんどん後ろから車がついて、後ろを見るとずらっと並んでいて、車が出せないという状態になることがあるんです。やはりこの解消法、今はポールを立てていて、逆にそのポールが右、左、みたいな形でやっていると思うんですが、事故が多発するんではないかなというような、やはり車が後退したくても、後ろに並んでいるので後退できないということになっております。だから、矢印を何か引いたりとか、ポールの位置も今現在正しいのかなとかいろいろあるので、その辺、当局としてどのような認識しているかお聞かせください。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ご指摘の17ＥＮＤ周辺の路上駐車の状況、またそれに伴う交通上の危険性につきましては、これまでも多くの意見をいただいており、大変危険な状況であるとは認識しております。市といたしましても、17ＥＮＤが観光客の皆様にも人気スポットであり、多くの車両が行き交う場所であることから、安全かつ円滑な交通環境を確保することは喫緊の課題であると認識しており、何らかの手だてを講じる必要があると考えております。今後は、宮古島警察署や市の関係する部局と緊密に連携を図りながら、路上駐車等の対策について早急に対応してまいります。

それと、ご質問の道路中央にセンターポールがあって、これが逆に危険ではないかということなんですけど、このセンターポールの位置の調整や路面への進行方向の示す矢印につきましては、改善策の一つとして、これらの案も含めまして、市の関係する部局と連携して検討してまいりたいと思います。

◎砂川和也君

やはり駐車場問題、要は大きい駐車場があれば、止めるようなところがあればできると思うんですけど、県立公園、自然公園ですか、指定されていて、なかなかできないという面もありますということで、ただ西里通りも矢印引いて逆走が減ったよということもありますので、そういう矢印とかはできるかなと思いますので、やはりこれからどんどん観光客増えますので、ぜひ早急な対応をお願いしたいと思います。

続きまして、２番、令和５年度宮古島市省エネ家電製品買換促進補助金制度について、この補助金制度の検証結果を伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

令和５年度宮古島市省エネ家電製品買換えの検証結果についてお答えいたします。

この補助制度の補助申請書に記載された家電のスペックベースの試算では、年間電力消費量が４万キロワットアワーの削減、二酸化炭素換算で約27トン、電気料換算で約185万円の削減と見積もっております。令和６年に補助対象者の一部について調査を行ったところ、量的評価には至りませんでしたが、夏の電力消費が抑制されており、エアコンによる省エネ効果が示唆されております。

◎砂川和也君

環境衛生局長、ちょっと苦しい、あまりちゃんとした統計取れていないんではないかなというふうに思ったんですけど、この事業、経済工務委員会でもこの事業はいいのかなということを言わせていただきました。やはり買換えとかやったときに、これは電気代がどれだけ下がるかということを一応その当時の担当部局の企画政策部長は出しますということをおっしゃっておりましたが、電化製品を買い換えただけで家庭の電力消費量が下がるかどうかって別だと思います。例えば子供が１人増えた、子供が１人島を出ていったとかになってくると、それだけでも、要は家族構成によって電力消費量が変わってきたりすると思います。買換えすると、これ買換えなんですよね。いわゆる持っている人、買い換えてくださいということであって、そうすると今まだ使える家電を買い換えて、それを処理するエネルギーというのもかかってしまいます。なので、私としては新規の方というのを対象にしたほうがよかったのかなとかも思いますし、この制度設計が環境衛生局長はしっかりちゃんとしていたと思うかどうか、お答えください。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

制度設計の件についてお答えいたします。

この補助制度は、省エネ精度の高い家電製品に買い換えることで、全体としての消費電力量を抑えようということでありました。砂川和也議員おっしゃるとおり、家族構成が変わったりですとか、いろんな諸条件が量的評価を困難にしているだとか、多くの側面があったかと思います。そういった点で、制度設計に関して、その後の追跡が可能かどうか、補助制度の目的に応じた成果が見込まれるかどうかということに関しては、もう少し踏み込んで考える必要があったのかなと思います。したがいまして、今後、補助制度の設計に当たっては、補助制度の目的に応じた成果が見込めるかどうか、その成果をどうやって把握するかどうかというのを十分留意する必要があるかと考えております。

◎砂川和也君

この事業は多分新型コロナウイルス感染症拡大の際の特別交付金か何かでどうしても使わないといけないというのがあったと思うんですが、市長も、副市長のときに、この補助金の効果検証あるいはデータの検証というところで、当然事業実施に当たっては省エネ効果の分析というのは必要だというふうに思っております。検証をやっていく中で、消費電力で、事業ではどのくらいの省エネ効果があったかというのは当然やっていかないといけないというふうに思っておりますというふうに､副市長時代に答えております。でも、なかなか納得いく検証できていないのかなというのも事実だと思いますので、やはり事業をやる際は失敗する事業も中にはあると思いますが、やはり費用対効果をしっかり検証して、この事業での結果を糧にして、次はもっといい事業をやるというんですか、そういう反省というんですか、事業のＫＰＩというのをしっかり求めていくみたいなこともこれから必要かと思いますので、その点を指摘しておきたいと思います。

続きまして、防災行政についてに移らせていただきます。宮古島市公式ＬＩＮＥの運用について、これはちょっと気になったことがありまして、津波注意報が発令されていますと。９時何分だったか、公式ＬＩＮＥで……６月８日、９時５分に津波情報が発表されました。宮古島・八重山地方、津波注意報というのが出たんです。９時５分です。その後に９時23分に、現在、宮古島市には、海の中にいる人は直ちに海から上がり海岸や港から速やかに離れてください、注意報が解除されるまで海に入ったり近づかないでくださいというのが９時23分にＬＩＮＥで来ていまして、その後10時１分にマイナンバーカードの休日受付みたいなのが来るんです。何か注意してくださいって言っているのに、30分後にはマイナンバーカード休日受付やっていますみたいな流れがあるときに、これ注意報だったからなのか。これが警報だったらそういうことはないのか、公式ＬＩＮＥの運用ってどういうふうになっているのかなということを確認させてください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

砂川和也議員のご指摘のとおり、緊急時における情報発信の在り方については、市民の皆様の安全、安心につながる重要な事項であるというふうに認識しております。現在の運用ルールといたしましては、暴風警報や津波警報が発令された際には、通常の定期配信を停止した上で、緊急性の高い防災情報を優先的に配信するように改善しております。例えば台風６号の影響で６月１日に暴風警報が発令された際、当初予定していた定期配信を延期しまして暴風警報発令により影響の出るごみ収集に関する情報配信を行っております。一方で、その他の警報や注意報につきましては、緊急性や影響の範囲に応じて判断しておりまして、今後も市民の皆様に、より迅速かつ必要な情報が届くように、運用改善に努めていきたいというふうに考えております。

◎砂川和也君

分かりました。一応、ちゃんとそういう運用ルールはあって、今回注意報だったから、警報ではないのでということでやったと思うんですが、どっちの優先順位が高いのかなというふうに私も思いましたし、市民からそういう声もあったので、その辺も今後改善していくということなので、必ずしも今このタイミングでこれ流さなきゃいけないのかなというのは多少あると思うので、その辺は私も一緒に考えていければと思います。そういう声があったということはしっかり伝えさせていただきたいと思いますので、よろ

しくお願いいたします。

２番、これ多分根間康雄議員もおっしゃっていたと思うんですけども、行政無線が聞こえにくいという声が寄せられています。市の考えを伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

防災行政無線が聞き取りにくいとの質問にお答えいたします。

現在市内に設置してある防災無線、屋外拡声器でございますが、一般的なメガホン形状のホーン型、それから長方形型のスリムスピーカー､それから中型ホーンアレイスピーカーを音響伝達調査を行った上で、市内で132か所に設置をしております。聞き取りにくいとの問合せに関しましては、現地で確認を行い、音量を調整するなど、個別に対応しているところでございます。また、市として情報の多重化を図っており、市公式ＬＩＮＥなどのＳＮＳ、それから防災アプリ、それから配信メール、それから地元の報道機関であるＦＭみやこに同様の情報を配信しており、これらの手段を通じて、どこにいても情報にアクセスできる状態を目指し、市民の皆様へ防災マップ等を活用し、周知啓発に取り組んでいるところでございます。

◎砂川和也君

皆さんも頑張って聞こえるようにしていると思うんですけど、やはり場所によって、何か言っているんだけど、何を言っているか分からないということがあるんです。何か防災無線から聞こえるな。これ電話かけるとそれが聞けるようなところがあったりとか、今アプリだとかいろいろ言っているんですけど、やはり、ではインターネットを持っていない方にどうするかということも考えなきゃいけないなと思っていて、インターネット設備を持っていないときに。そのときは、だからＦＭラジオというのはすごい、もしかすると優良だよとか、何か言っていたよねとなったときに、それを多分聞き返せない方が結構いるみたいで、それはだからインターネット環境がないとかラジオを聞いていないときに、電話したら何か教えてくれるところがあるんでしたっけ。

◎総務部長（上地俊暢君）

聞き逃した方への対応でございますが、宮古島市では、スマートフォンなどをお持ちでない方にも災害情報が行き届くように、防災無線で放送された内容やラジオ放送への緊急割り込みの配信などを行っておりますが、聞き直しをしていただくためにフリーダイヤルがございます。そちらに電話することにより、屋外拡声器で流れた内容を改めて電話で聞くことができるようになっております。

◎砂川和也君

フリーダイヤル番号を周知していただいて、多くの皆さんに教えていただければなと思います。よく公設市場のところもあると思うんですけど、公設市場付近の方も聞こえづらいという声を聞きますので、できればそういう電話番号にかけたら聞き返せるということがあまり知られていないようですので、しっかり周知していただきたいと思います。

時間もあれなので、ちょっと急いでいきたいと思います。港湾行政について。トゥリバー地区の管理体制です。３月定例会にて４月から公募型プロポーザル選定による事業管理するとの答弁がありました。現在の進捗を伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

トゥリバー地区の管理体制についてですけれども、当初の計画では令和８年４月からの貸付けを目指し

て作業を進めておりました。トゥリバー地区海浜公園の貸付契約は、契約期間が10年間の長期となることから、借地借家法第23条第２項の定めによる事業用定期借地権設定契約となり、同条第３項により、公正証書による契約締結が必要となる旨、示されております。そのため、公証センターに契約書作成を依頼しまして、令和８年６月４日に契約を締結し、翌６月５日から貸付けを開始しております。

◎砂川和也君

では、もう６月５日からになったということですね。多少遅れたというのは、手続がちょっと遅れましたということですね。分かりました。でも、一応議会では４月からやるとおっしゃっていたので、できればそこら辺はしっかりスケジュール立てていただきたいなと思います。我々には４月からやるって説明を受けていますので、そういう手続が遅くなるというんであれば、それも見込んだ形をやらなきゃいけないんではないかなと思います。

看板がありまして、港湾課のままなんです。今もかな。私が行ったら、たまたまトイレ掃除をされる方がいて、鍵が締まっていて、この方がずっと待っていたんです。私は９時30分、40分頃にトゥリバーに行ったら、ずっと何か、最初何しているのかなと思っていたんです。そうしたら、何かその事業者かな、来て、鍵を開けていったんです。これ、でも看板には９時から開いていますと一応書いていますから、こうやってむしろ新しい事業者が管理をすることでサービスがよくなるのであれば、むしろもっと早く開けるべきではないのかなと思うし、トイレの清掃の方は大分待たれておりまして、聞いたら、最近開くのが遅いんだよねとおっしゃっておりましたので、逆に新しい事業者を公募してよくなっていくというのに、最初からつまずいている感ありますので、本当にしっかりと管理していただきたいと思いますが、これはもうしっかり管理してくださいということで、次の質問に移らせていただきます。

道路行政について、腰原39号線の進捗状況を伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

腰原39号線の進捗状況についてお答えいたします。

本路線は､宮古地区トラック事業協同組合から宮古空港横の市道Ａ―78号線までの延長約150メートルの道路でございます。現況道路の幅員は約４メートルと狭小で、車両の擦れ違いが困難であり、非常に危険な状態であることから、通行の安全性の向上と円滑な交通の確保を図るため、令和６年度から本事業に着手しております。これまでの進捗といたしましては、令和６年度に詳細設計を完了し、令和７年度には分筆測量業務を完了しております。今年度におきましては、現在、道路拡幅部の用地買収及び物件補償を進めており、今年度内に完了する予定です。その後の予定としましては、令和９年度に工事を着手し、同年度内の完了及び供用開始を予定しております。市といたしましては、引き続き関係権利者や地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら着実に事業を進め、早期の完成に努めてまいります。

◎砂川和也君

この腰原の自治会総会でもどうなっているんだって話が出ましたので、来年度には工事始まって、来年度にはもう工事終わるということを今いただきましたので、みんな喜んでおります。感謝申し上げます。ありがとうございます。

続きまして、伊良部102号線の進捗状況を伺います。こちら私、ゴールデンウイーク前ですか、ちょっと道路がぼこぼこおかしいよという話がありまして、伺いまして行ったところ、職員の方がすぐ現地に伺っ

ていただいて、ゴールデンウイーク入るとあれだから、早く行ってねと言ったら、すぐ行っていただきました。そうすると、ちょっと何か道路の下に空洞がある可能性があるということで、鉄板とかも敷いていただきまして、早い対応ありがとうございます。今これがどうなっているかという進捗を伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

伊良部102号線についてですけれども、現在緊急の対応として敷鉄板を設置しております。また、週２回程度、定期的にパトロールを行い、交通の安全性を確認しているところでございます。今後の対応につきましては、凹凸、ひび割れが生じている範囲の舗装を全面改修するとともに、雨水が道路内に浸入しないような構造物を併設する計画としております。また、工事発注は既に完了しておりまして、６月15日付で事業者と契約締結しております。なお、工期は６月16日から11月22日までとなっているところです。

◎砂川和也君

半年ほど事業期間ということで、現場にいなかった市民の方にも説明させていただきたいと思います。

続きまして、公共Wi―Ｆiについて質問させていただきます。公共Wi―Ｆi環境について、令和６年３月定例会一般質問にて「現在導入している機器が更新の時期を迎えていることから、今後のWi―Ｆi環境の整備につきましては関係機関と意見交換を行い、本市において最適な環境整備に向けて検討しているところでございます」との答弁がありましたが、現在の進捗を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

市内の公共Wi―Ｆi環境につきましては、現在も現行の公衆無線ＬＡＮサービスを継続して利用していただいております。一方で、機器の老朽化による更新時期などの課題があることから、現行の公共Wi―Ｆiサービスの見直しを含め、通信環境の再整備に向け、取り組んでいるところでございます。その取組の一環としまして、本年５月に公募型プロポーザルを実施し、現在、選定事業所と連携しながら、訪日外国人旅行者向けに、通信環境整備の実証事業を、本日は大型クルーズ船が寄港しておりますので、それに合わせて本日から実証を開始しております。実証後の検証を行いまして、現行の公共Wi―Ｆiサービスの見直しも含め、最適な通信環境の整備を進めてまいります。

◎砂川和也君

今日から、何か実証事業を行っているということですか。実証実験って具体的に何を行っているか、伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

実証実験の具体的な内容です。実証内容としましては、本日から約３か月間、訪日外国人旅行者向けに無料ｅＳＩＭ、１ギガの配布を予定しております。無料ｅＳＩＭの取得方法は、実証事業のポスター、もしくはチラシに掲載されたＱＲコードを読み取ることで取得可能となります。この実証事業により、訪日外国人旅行者の通信環境の利便性向上を図ることになります。

◎砂川和也君

今日から行っていて、訪日の方々に向けてｅＳＩＭ、１ギガ付与するようなことをやっていると。これ今後、どこまで展開していくんですか。普通の観光客にも、日本人の方にもやるんですか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

この実証実験は、インバウンド、訪日外国人旅行者向けの実証実験となります。日本人は該当しません。

◎砂川和也君

日本の方にもやってもらいたいです。検証結果によっては日本の方もやってください。

今あるこのWi―Ｆiは、では今どうなっているんですか、今ある公共Wi―Ｆiは。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

今あるWi―Ｆiということですが、先ほども答弁しましたが、現在も運用しております。

◎砂川和也君

運用は停止しているんですけど、アクセスポイントが生きているのかな。スマートフォンに電波が入ってくるんです。これが邪魔をするんです。Wi―Ｆiがつながるのに、つながらないんです。なのでネットワーク自体、プロバイダ自体の契約切れているかもしれないけど、多分ルーターが生きているんではないですか。アクセスポイントが多分邪魔をしているので、このアクセスポイントを切っていただきたいのですが、どうでしょうか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

アクセスポイント、現在も運用しておりまして、現在Wi―Ｆiは１か所における同時接続数は端末100台となっております。制限時間は１回30分で、接続回数の制限はありませんが、どういった……

◎砂川和也君

すみません。何か聞き取りのときのあれがうまくできていなかった。すみません。

今、ｅＳＩＭに切り替えていくということをお聞きしました。今ある公共Wi―Ｆiというのが現在市内で幾つか稼働していると思うんですが、これがあまりアクセス環境がよくないです。私が持っているスマートフォンに急につながったりします。でも、これ自体が速度が遅かったりしております。多分そういうのがあるので、市民の皆さんからも、この公共Wi―Ｆi邪魔だよねというような声が聞こえております。これを更新しないというんであれば、これを切ると思います。ただ、根本の回線を切っても、ルーターからWi―Ｆiの電波が飛んでいると、ルーターから出てくるWi―Ｆiの電波を拾ってしまいます。なので、これは何もインターネットにつながっていない電波だけが飛んできて、それを拾ってしまうことになるので、アクセスポイントを切る作業が必要かなと思います。このｅＳＩＭをやっていくということで、今後、当局としてはｅＳＩＭを中心にやっていくので無料のWi―Ｆiスポットというのは廃止するという方向でよろしいですか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

この実証実験の結果を踏まえて検討することになりますが、市としましては、最終的にはこのｅＳＩＭの検証、実証実験は民間主導でやってほしいと期待をしております。その中で運用がうまくいくようであれば、現在の公共Wi―Ｆiの廃止も含めて検討していきたいと考えております。

◎砂川和也君

では、今、もう今日から行っている実証検証の結果ということなので、先ほども省エネ家電のことも言いましたけど、しっかり検証をやって、しっかり効果が出るような事業をやっていただきたいと思いますので。ただ、公共Wi―Ｆiはちょっとやはり不評ですので、もう切ってもいいのかなと私は思っています。

続きまして、教育行政について。糸満市の中学校で、天井ボード材の一部が生徒の机の上に落下したことがありました。これは、業者の施工不良があった可能性が想定されるそうです。この問題は、もしかし

たら宮古島市でも起こり得るかもしれません。このことに対して、国、県や、国から何らか宮古島市にこういうことをやってくださいとか、こういう予算がつきましたよとか、そういうのがあるかなと。もしこれを宮古島市だけで対応すると大変だなと思ったのでお聞きしています。

◎教育部長（久貝順一君）

今月初め頃、糸満市の公立中学校のほうで天井ボードが落下したということで報道がありました。この報道を受けまして、沖縄県教育庁から、令和８年６月９日付で学校施設における維持管理の徹底等による安全確保について、児童生徒の生命、身体の安全確保に万全を期すよう通知があります。その中で、令和６年４月15日付で文部科学省のほうから通知がありましたけども、維持管理の徹底による安全確保についてということで、維持管理の徹底、また事故等の情報通知について周知がございました。その中で、学校における安全点検要領に基づいた形で実際は運用をしております。補助についてはございません。

◎砂川和也君

分かりました。しっかりと要領に沿って、安全点検をお願いしたいと思います。

次、給食センターに従事される方は、月に数回検便検査を行うと聞いております。現在も運用は変わらないか伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

給食センターに従事される方の検便の検査についてお答えいたします。

この検便検査につきましては、学校給食衛生管理基準というのがございまして、その中において、検便は赤痢菌、サルモネラ属菌、また腸管出血性大腸菌、O―157と呼ばれているものがあります。また、その他必要な細菌について、毎月２回以上実施することとなっております。この基準に基づきまして、現在も学校給食調理場、５調理場の学校給食従事者において毎月２回の検便検査を実施しております。また、毎朝なんですけども、この給食従事者の下痢、発熱、また腹痛、嘔吐の有無等の健康状態を個人ごとに把握するなど、点検を実施しております。

◎砂川和也君

市の給食栄養士さんですか、去年私が伺ったときには５名ほどいるというお話でしたけど、現在は何名配置か伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

給食栄養士の配置人数についてお答えいたします。

学校給食に関する栄養教諭につきましては、国の配置基準、これ公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の中では、給食センター栄養士基準配置としまして、児童または生徒数が1,500人以下の場合は１人となっています。また、児童または生徒数が1,501人以上から6,000人未満までは２人の配置が義務づけをされております。児童または生徒数6,001人以上であると３人が基準となっておりまして、本市の学校給食調理場におきましては1,500人以下の調理場、これ城辺、上野、下地、伊良部については、各学校の共同調理場、栄養士１人の配置を行っております。また、平良学校給食共同調理場におきましては、約4,100食ほど提供しておりますので、配置基準では栄養士が２名となっております。合計で６名の栄養士の配置となっております。

◎砂川和也君

しっかりそろっているということなので、安心しました。ありがとうございます。

続きまして、公園行政について移らせていただきます。根間公園の運用について、今新しく根間公園というのができておりますが、結構私のもとに苦情が来ておりまして、もう既にステージのところで夜中宴会をやっていると。そこでよく寝ている方がいると。もう路上寝をしていると。あの公園ができたせいで、この近隣の方々から、夜中に騒音が増えたということで、あまりこの公園の運用について、何のために建てたんだというようなお叱りの声を何名かからお聞きしました。この根間公園というのは、この運用について、どういうふうな考えで今後やっていくのか、どういう位置づけであるのかということを改めてお聞かせください。

◎建設部長（下地睦子君）

根間公園についてですけれども、根間公園の整備につきましては、当初根間公園は宮古島市の中心的な商業地域の中心部に位置しておりまして、商業地では唯一の街区公園として昭和41年に都市計画決定されているところでございます。平成15年には根間地区土地区画整理事業により本公園用地が創出されましたが、未整備のまま現在に至っていたというような中で、早急な整備が望まれてきておりました。根間公園の整備につきましては、基本設計の中で各通り会や宮古島観光協会等のメンバーから要望があったことから、根間公園利活用に関する意見交換会を開催し、そこで取りまとめた結果を実施設計に反映し、整備を行っております。

どのような運用をしていくかということですけれども、現在治安が悪化しているという内容につきましては、宮古島警察署によるパトロール巡回を増やすなどのお願いをしてまいりたいと思っております。

◎砂川和也君

警察のパトロールの巡回を増やしていただく。でも、結構前からここに交番は建てれないんですかという声もよく聞きます。難しい時代で、本当はそこにいらっしゃる人たちのモラルの問題なんですが、すぐ近くにコンビニもあるので買えてしまって、そこで宴会をして眠る。冷たいから寝ているという声も聞いたりするので。ただやはりこれ通り会や観光協会の方からも聞いて、その意見も取り入れて造ったという部分もあると思うので、ある意味、建設部長も板挟みになっているかもしれません。ただ、やはり近隣の方々とすると、もっといい公園ができると思っていたのに、何かちょっとがっかりしているという声も聞こえておりますので、今後これがゴールなのかなと思うといま一つ。いろいろまた意見を聞くときにはぜひ柔軟な対応で、公園の在り方について考えていく必要もあるかなと思いますので、また、まだできたばかりですので、いろいろいい面、悪い面、出てくると思いますが、しっかり検証して、またこれもやっていただきたいと思います。やはりそれぐらいしか私も言えないかもしれないです。今後また何か市民の皆さんからあったときは、都度その意見を言わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後の質問です。これは前里光健議員と一緒で、テレビ報道について。５月に地元テレビ局にて公共工事の予定価格算出などに使うシステムの入った市のパソコンが、農林水産部２台、建設部１台を宮古島警察署が、これ回収なんですか、押収、回収したとの報道があったが、市民から不安の声が聞こえます。当局の見解を伺いますということですが、これなかなか答えづらい質問かと思いますが、聞きたいのは、当局としてはもう寝耳に水だったのか、当局としても何か怪しいなと思って、実は当局内でも捜査って何かいろいろ考えていたのかというのがもし答えられるのであればお答えください。

◎総務部長（上地俊暢君）

テレビ報道事案についてお答えいたします。

そのような報道がありまして、情報があることも承知しているところではあります。報道内容について市民から不安の声があることは市としても十分承知しておりますが、前里光健議員にも答弁したとおり、捜査機関の対応に関する事項については、現時点で答弁が困難であることについてご理解いただきたいと考えております。

◎砂川和也君

ほかの議員の方も同じような質問されておりますが、質問してもご理解くださいという答弁になると思います。ただ、やはり市民から我々いろんなうわさを聞いて、どれが正しいか分からない状況となっておりますので、早く捜査が進むことを祈って、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで砂川和也君の質問は終了しました。

◎大城　仁君

蒼和会の大城仁でございます。本定例会では、公園やスポーツ施設など、市民の体力向上、健康増進、子供たちの健全な発育、発達に資する施設に関する質問、それから市民から不安の声が上がっております航空自衛隊宮古島分屯基地の汚染水と日米共同訓練の件を中心に質問を行ってまいりたいと思います。

それでは、通告に従いまして質問いたします。まずは、都市公園について。私、市議会議員選挙の際にも掲げた政策の一つでありますこのＰａｒｋ―ＰＦＩを活用した公園整備というところで、国土交通省が出しているガイドライン、このＰａｒｋ―ＰＦＩについて要約しますと、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する施設を設置し、そこから生じる収益を活用して、公園施設の整備改修等を一体的に行う者を公募により選定する制度、民間投資により市の財政負担を軽減しつつ、公園の質向上、公園利用者の利便の向上を図る整備管理手法であるとございました。本市の公園における植栽であるとか遊具、それから遊歩道の管理について、なかなか管理、手が行き届いていないというご指摘を市民から受けるわけではございますけれども、しかしながら公園の管理につきましては、公園の管理に充てられる予算にも限りがある。やむを得ず順番待ちの状況になるということも、重々理解はしております。だからこそ民間投資、民間活力でもって公園整備を進めていくべきという考えがございますが、まずはそれを念頭に、Ｐａｒｋ―ＰＦＩ導入に当たり、本市において今後どのような手続が必要なのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

Ｐａｒｋ―ＰＦＩ公募設置管理制度の導入に当たりましては、まず対象公園の現状や課題、地域ニーズ、上位計画との整合を整理し、民間事業者へのサウンディングにより、事業性を検証いたします。その上で公募条件を定めて事業者を選定し、協定締結、整備、供用へと進めるとともに、供用後も公共性や安全性に配慮しながら適切に運営状況を確認してまいります。

◎大城　仁君

続いて、令和７年９月定例会で建設部長から答弁がございました。少し読み上げます。「新たに推進する宮古島市の第四次集中改革プランの推進項目に位置づけておりますので、関係部署と調整を図りながら

積極的に取り組んでまいります」という答弁がございました。第三次行財政改革大綱における第四次集中改革プランでは令和９年度の公募開始とありますが、実施状況について伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

令和８年２月13日から２月18日までの期間でサウンディング調査を行っております。参加事業者数は３者となっております。

（狩俣政作君、着席）

◎大城　仁君

今サウンディング型市場調査で３者という答弁であったかと思います。こちらサウンディング型市場調査、私も市のホームページで今年２月頃に確認をいたしました。その際、11月頃まで募集するという旨の記載があったかと思いますが、３月定例会後に再度確認すると、そのページが見当たらず、今のお話ですと２月18日までの募集であったんですか。これ11月までということで私は認識していたんですけれども、現在どのような状況でいらっしゃいますか。

◎建設部長（下地睦子君）

現在は、サウンディング調査を行った業者との調整に注力をしているところでございます。ただし、資料の提供及び提案の受付は行っておりまして、引き続き11月頃まで提案は受け付ける考えでございます。

◎大城　仁君

私も市民の皆様にサウンディング調査があるというこの情報を共有しておりましたが、やはり現在基となる資料が手に入れられない状況でございますから、この制度を積極的に活用していくに当たっては引き続き、今ご答弁いただいたように募集を続けていただきたいと思います。宮古島市ではもちろん初めての試みですので、島内事業者が手を挙げようとする際には、事前に専門的な知識を身に付けたり、またスキームを考えたり、ある程度準備期間が必要になってくると思います。そして、公園に対する細かな市民ニーズを把握しているのは、ふだん利用されている市民の皆様かと思いますので、その市民提案を受け入れる体制づくりはぜひ行っていただきたい。サウンディング型市場調査はあくまで市場調査ではあるんですけれども、この調査を基に公募要領を作成していくと考えると、非常に重要な手続かなと思っております。真に公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図るという意味でも、ぜひ11月までということでお願いしたいところであるんですけど、これホームページの掲載は行う予定はありますか。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほども少し答弁させていただきましたが、定められた期間に先に提案していただいた事業者を優先するという考えで、皆さんとの内部の詳細についての調整を進めているところではございますが、引き続き11月まで受け付けるということを考えますと、大城仁議員が今おっしゃるように、ホームページに掲載するべきかと考えております。早急にホームページには掲載するようにいたします。

◎大城　仁君

続いて、今現在、カママ嶺公園、盛加越公園、サニツ浜ふれあい広場など６つの施設、公園を中心に、そのほか13か所の公園施設の提案も募集していると認識しておりますが、以前、仲間誉人議員への答弁で、伊良部カントリーパークもその13施設に入っているという答弁があったかと思います。私も、スポーツ関連施設にも提案を受け付けていいのではないかなと思っております。

先日、伊良部の区長の皆様に、伊良部野球場のバックネットのウインチがさびて、腐食が激しいといった声をいただきました。伊良部野球場では、都市公園法の関係でＰａｒｋ―ＰＦＩ導入は制度上難しいのかなと思っているんですけれども､以前に下地野球場や城辺総合公園の検討のお話もあったかと思います。こちら、また19施設に新たに盛り込んでいく、スポーツ施設が新たに盛り込まれていくということが検討できないか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

都市計画課で管理している公園は、21公園ということになります。現在19公園とおっしゃっておりましたが、それらに関しては今後Ｐａｒｋ―ＰＦＩ導入に向けて検討していくという考えでございます。

◎大城　仁君

ぜひ検討よろしくお願いします。

続きまして、次の質問に移りますが、みなと緑地ＰＰＰの件で議会議決が必要か否かという議論があったかと思います。今回Ｐａｒｋ―ＰＦＩ導入に当たって議会議決が必要な事項があるか、当局の見解を伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

Ｐａｒｋ―ＰＦＩの導入そのものは、都市公園法に基づく公園管理者の事務として行われるものでございますので、一般には議会の議決を要するものとなっておりません。

◎大城　仁君

一般的には議会議決を必要とするものではないということなんですけれども、みなと緑地ＰＰＰの件もそうだったんですけれども､それはＰａｒｋ―ＰＦＩについても事業期間の目安が最大で20年間ほど､20年間市の大切な財産を使用する上では、やはり我々市議会議員、市民の代表者として説明を受ける、もしくは多少の議論をする場が必要ではないのかなと考えております。例えば事業者の選定から契約締結までの間に、先ほど手続の順序でありましたけれども、そのような手順を盛り込めないかと思っておりますので、こちらは要望という形でお伝えさせていただきます。

このＰａｒｋ―ＰＦＩに限らず、市の財産を民間で活用して、本市が持つ課題解決につなげるという制度であったり手法というのは多々あるかと思いますので、ぜひほかにも手法導入検討をいろいろとお願いしたいと思います。

それでは、次の質問に移ります。ＪＴＡドーム宮古島について、来年度で供用開始10年を迎えるＪＴＡドーム宮古島について、アリーナ部の人工芝のメンテナンス計画について伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ＪＴＡドーム宮古島の人工芝につきましては、表面の芝部分が法定耐用年数である10年を迎えますが、現状では特に支障を来しておりません。交換が必要な状況にないため、現在、取替えなどのメンテナンスの予定はございません。

◎大城　仁君

かしこまりました。

続いて、現在飲食を伴うイベントですとか、テーブル、椅子を人工芝上で使用するイベントにつきましては、ポーターパネル設置が義務づけられていると思います。このポーターパネル設置が市民主催のイベ

ントに与える影響について、当局としてはどのように考えているのか見解を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

現在、ＪＴＡドーム宮古島では、飲食を伴うイベントの場合にはポーターパネルの設置を条件に許可を出しております。このパネルの設置作業を外部委託した場合、相応の費用が発生することは認識しておりますが、人工芝保護の観点からも必要な処置であると考えております。

◎大城　仁君

では、ポーターパネル設置があるからこそ、耐用年数10年を超えても今のところ問題なく使用できていると思うんですけれども、この設置作業というものがなかなか重労働でして、設置に慣れていない場合ですと、最初のずれが後半には大きなずれとなって全面設置がなかなか難しくなるといった声も聞いております。また、これを専門の業者にお願いするとしても、約80万円ほどかかる。また、イベント前後で設置、撤去の作業もあって、設置料から、さらに施設使用料が余計にかかってしまうという現状がございます。こちらもし今後対応、現在まだ人工芝状態がいいということではあるんですけれども、メンテナンス計画、張り替えの計画の中に、利用時に逆に人工芝を張る方式にして、誰でも簡単に設置できるようにしていただきたい。それによって、市民に幅広い用途で使っていただける施設になるのかなと思っております。

一方で、サッカーやゲートボールの利用も多いと伺っておりますので、芝を張った状態にするのか、張らない状態をデフォルトにするのかというのは、議論はあってもいいかと思いますが、直近で張り替えの機会はないということなんですけれども、ぜひそういった検討が行えないか伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

人工芝を張り替えできないかという質問かと思うんですけど、現在の人工芝の劣化が進み、利用者の利用に支障が出るようであれば、撤去し更新することは考えられますが、現状では撤去は予定しておりません。しかしながら、過去に担当課でも人工芝撤去の検討を行っております。その中で、撤去費用が高額であることや、土間の上に設置する人工芝に適切な製品がないこと、また大城仁議員もおっしゃったようにフットサルやゲートボール、運動会など、人工芝での利用者が多いことから、前回は人工芝の撤去を見送っております。

◎大城　仁君

現在問題ないにしても、いずれ張り替えの時期がやってくるのかなと思いますので、そのときになってから議論するというよりかは、そのときまでにどういった張り替えがいいのか、以前にはそういった商品がなかったということなんですけれども、またいろいろ出てくると思いますので、それも含めて今からの検討をお願いしたいと思います。

続きまして、市所有の屋内練習場、宮古島市伊良部屋外運動施設多目的屋内運動場、それから宮古島市平良多目的屋内運動場、そしてＪＴＡドーム宮古島について、市民向けの一般開放が可能か伺うという質問なんですけれども、現在ＪＴＡドーム宮古島のほうは、遊具も設置された親子ふれあいＤＡＹという取組をされているかと思います。エア遊具を新調する補正予算案も本定例会で出てきておりますし、そういった設備を活用するためにも、雨天時や猛暑日には子供たちが自由に遊べる空間としてＪＴＡドーム宮古島を提供したいと思っておりますが、そういった市民向けの一般開放が可能なのか伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

現在、ＪＴＡドーム宮古島では、イベントなど予約がないときは、当日券売機で使用料を支払い、個人利用が可能です。伊良部屋外運動施設多目的屋内運動場と平良多目的屋内運動場につきましては、人員の配置の都合などがありまして、予約以外の利用は難しい状況となっております。夏休みに開催する親子ふれあいＤＡＹは、市の自主イベントとして遊具を設置しているため、傷害保険をかけるなどの対応をして開催しております。そのため、事前に開催日を決定し、周知して利用していただいております。予約のない週末に関しましては、遊具の設置はございませんが、一部を親子向けのスペースとして、ネットなどで区切り、個人向けに開放しております。

◎大城　仁君

保険の関係上で、遊具は難しいけれども、親子向けのスペースもしっかりつくって対応いただいているということで、ありがとうございます。また、やはりイベントがない場合には個人利用ができますよということが、まだまだ市民の方に浸透していないのかなと思っております。例えば金曜日の段階で、土日にはもう予約が入っていないということが把握できているかと思いますので、個人利用が可能な場合には、例えば市の公式ＬＩＮＥでプッシュ型で通知するとか発信するという手法も取っていただけないかなと思っております。毎週金曜日、永遠にやっていくというわけではなくて、ある程度周知徹底がなされたら、必要はないと思うんですけれども、今スポーツ振興課のほうで管理されているこの予約システムに関しても、なかなか市民の方はご存じない方もいらっしゃると思います。そういった発信を公式ＬＩＮＥ等で今後行えないかというところで伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

市には子供の遊び場が少ないなどの、市民の皆様からのご意見をいただいております。ＪＴＡドーム宮古島での個人利用が可能な週末は、宮古島市の公式ＬＩＮＥなどで情報を発信するとともに、市民に広く周知するという取組を今後進めていきたいと思います。

◎大城　仁君

公式ＬＩＮＥでの発信について前向きな答弁をいただいたと思っております。

やはり市民から全天候型の公園施設の要望が多数ございます。そう簡単に短期間で整備できるものではないと思っております。だからこそ既存の施設をフルに活用して子育て世代を応援していきたいと強く思っておりますので、ぜひ引き続き調整をよろしくお願いいたします。

続きまして、スイミングプールについて。令和６年５月に民間のプールが閉業したことについて、市民生活への影響をどのように認識していますか、伺います。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

民間のプールは、長年にわたり市民の健康増進や水泳の競技力向上などに大きく貢献してきた施設であることは承知をしているところです。本市においては唯一のスイミングプールであったことから、運動機会の創出につながるなど、一定の影響はあったものと考えております。

◎大城　仁君

このプールの閉業当時の議会議事録をいろいろと見ておりますと、実現可能性調査を行うという旨の当局側の答弁があったかと思います。宮古島市民プール実現可能性調査の結果について伺います。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

令和６年度に実施した市民プールの実現可能性調査業務では、市民やスポーツ団体等へアンケート調査を実施した結果、健康の維持、増進やストレス解消等を利用目的としたウオータースライダーや流水プール及び歩行用プールなどの多様なプール機能に加え、お風呂、スパ、トレーニングルームといった附帯機能の整備を求める意見が多くございました。その結果を踏まえ、市民の求める機能を備えた施設を整備した場合、着工から約60年間使用で約280億円の財政負担が示されております。

◎大城　仁君

約60年間で約280億円ということで、すごい数字だなと思っているんですけれども、この実現可能性調査結果を受けて、今後どのように市は対応していくのか、当局の方針を伺います。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

市民の健康の維持増進や幼児、子供を安心して遊ばせられる居場所など、必要性については十分に認識しているところではあります。一方で、民間施設が再開に向けた整備を進めていることから、民間の整備状況や稼働状況を注視しながら、民間との協働も視野に入れた取組を検討していく方針を、市長と教育委員会が民意を反映した教育行政を推進していくことを目的に設置された宮古島市総合教育会議において確認しているところであります。

◎大城　仁君

今、民間での再開の話もあるというところで、実際に私もその民間の事業者の方といろいろ意見交換をしました。この60年間で約280億円というコストがかかる事業、これを今民間で整備していく。これだけ公共性、公益性の高い事業を民間投資で行っていただけるということは、なかなかこんなありがたい話はないんではないかなと思っております。当局の皆様にもご協力、ご支援をいただきたいと思っているところなんですけれども、この民間によるスイミングプール再建について、市として支援策を講じる予定があるか伺います。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

運動機会の確保は、市民の健康増進や運動機能の向上など、健康寿命の維持にも寄与するものと認識しております。今後につきまして、民間施設との協働も視野に入れながら、市民ニーズも考慮し、検討してまいりたいと考えております。

◎大城　仁君

ハード面の支援も検討いただいていたというところもあるんですけれども、改築に係る費用については着工のタイミングも相まって、なかなか補助を行うのは難しいと聞いております。しかしながら、健康増進、高齢者支援、学校教育等々、様々な課と連携して、例えば利用料について、民営となるとそれなりの利用料金を設定しなければ事業の持続性が担保できないという、確保できないというところもありますので、そういった市民利用の面で補助をしていく、その議論をぜひ協働でというところでございますので、今からしていただきたいと思っております。

ただ、先日、海上保安庁の船の視察に伺った際に、海上保安庁の方から、潜水士を目指す方、それから泳力向上を目指す職員から、スイミングプールを整備してくれないかという要望があるという意見がございました。その際に、恐らく消防も同様の意見を持っているんではないかというお話もございました。こういった実は潜在的なニーズというのも、なかなか表に出てきていないだけでかなりあると思っておりま

す。７月３日にはこの再建プロジェクトの事業説明会があるということでしたので、ぜひ当局の皆様にもご参加いただいて、協働の形であるとか支援策を一緒になって考えていただきたいと思っております。

続いて、本市の人口動態についてという質問に移ります。本市で出生した者のうち、現在も本市に住民票登録のある者の割合を年代別で伺いますと通告ではございますけれども、こちら事前の聞き取りの中で、そのような数字を算出することは難しいということでしたので、割愛いたします。この質問の意図としましては、次の質問にもつながるんですけれども、少子化問題、出生数の減少について、先日、こども家庭局長の我如古三雄議員への答弁でもありましたように、本市において若者や女性の島外流出、住宅確保の困難性も少子化に影響しているという旨の答弁がありました。本市で生まれ育った方たちが実際どれぐらいの割合で現在も本市で住み暮らしているのか。例えばＵターン者を増やすという施策が実際効果的であるのかというところを数値的に議論をしたくて質問したものでしたけれども、今回難しいということで、次の質問に移ります。

若者定住促進における定量的目標を伺います。

◎市長（嘉数　登君）

本市の第２期人口ビジョンでは、人口動態や将来の推計人口を踏まえ、人口の社会減対策と自然減対策を講じることにより、2060年、これ令和42年に当たりますが、に約５万5,000人の人口の将来展望を掲げております。本ビジョンにおいては、20代から30代の若者層に特化した定量的な目標は示されておりませんが、15歳から64歳の生産年齢人口の目標約３万500人、これは全人口に占める割合55％を掲げております。

若者の定住促進は、本市の持続可能な地域社会の維持に不可欠であり、最優先となる課題と捉え、その重要性を深く認識しているところでございます。一方で、少子高齢化の進行、それから他地域との人材獲得競争が激化している現状を踏まえますと、若者人口の増加を目標とすることは、楽観視できない状況にあるというふうに考えております。そのため、本市といたしましては、若年層の人口構造を維持していくことが重要であるというふうに考えております。この維持ですけれども、働き世代の人口比率を現状水準で保ち、極端な減少を抑制するとともに、Ｕターン等による年間一定数の若者の移住を継続させることを意味しております。今後につきましては、地域経済の担い手や次世代人材を確保し、地域コミュニティーの活力を維持していくために、各施策に取り組んでまいります。なお、先ほどご紹介しました現行の第２期人口ビジョンにつきましては、来年改訂予定の総合計画と併せて見直しをかけてまいりたいというふうに考えております。

◎大城　仁君

生産年齢人口ベースで55％、３万500人というところで、人口構造の維持ということは取り組んでいただきたいと思っております。実際にこのご答弁いただいた目標達成のためにどのような取組を行っているのかというところで、その取組内容について伺います。

◎市長（嘉数　登君）

本市では、若者の定住促進を持続可能な地域社会の維持に不可欠な喫緊の課題と捉え、特に若年層の住宅確保を最重要課題として認識しております。この目標達成に向けた主な取組といたしまして、新たな住宅供給でございますが、これは市有地を活用した若者定住支援住宅の建設を進め、若い夫婦や子育て世帯向けの住宅不足緩和を図るものです。

次に、先進技術を活用した住宅供給としての取組として、これは３Ｄプリンター技術による低コストかつ持続可能な住宅建設モデルの構築を目指すものになります。これは、エッセンシャルワーカーの居住も支援しつつ、検証も踏まえ実施する予定でございます。

それから、既存ストックの活用といたしまして、これは市営住宅の地域対応活用枠の導入、それから県営住宅における地元優先枠の設定により、Ｕターン、移住希望者の住宅の確保を支援してまいります。さらに、空き家の有効活用を促進するため、空き家等管理活用支援法人と連携しまして、これは掘り起こしから利活用までを一体的に推進するとともに、市単独事業として修繕費用の補助制度も創設し、住宅不足の解消と定住促進を図っているほか、こちらはソフト事業になりますけども、ミャーク新婚ライフサポート事業における補助額の市独自のかさ上げ、それから宮古島市子どもの権利と子育て支援に関する条例、これまだ仮称でございますけども、その条例の策定を進めております。

これらは相乗効果を生む施策、事業と考えておりまして、この取組を通じて若年層の住宅確保、そして子育て支援を進めまして、地域経済の担い手や次世代人材の確保、ひいては地域コミュニティーの活力維持を目指してまいりたいというふうに考えております。

◎大城　仁君

本当に様々な施策があるかと思います、今ご説明でも受けましたとおり。ただ、ここに数値的な目標があれば、当局の取組が、より市民に分かりやすく伝わるんではないかという思いで質問させていただきました。

次の質問に移ります。現在内閣府が行っている事業で、地方創生支援事業というものがございます。東京23区もしくは東京圏、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県に在住または通勤の方が地方へ移住して起業や就業等を行う場合に移住支援金を支給するというものです。地方へのＵＩＪターンを促進し、世帯での移住には最大100万円、単身では最大60万円を支給。18歳未満の子供を帯同して移住する場合には、子供１人当たり最大100万円を加算されるとあります。この地方創生移住支援事業を活用した移住者支援金制度の導入について、当局としての考えを伺います。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

地方創生移住支援事業の移住支援金制度は、東京圏から地方への移住を促進し、地域の担い手確保につなげることを目的とした国の制度でございます。沖縄県内では、令和８年度時点で石垣市を含む一部市町村で実施されておりますが、県内11市のうち、実施している市は石垣市のみであり、その他４町村で実施をしております。本制度は、大城仁議員ご紹介していただいたとおり、東京23区内に在住していた方、または東京圏から東京23区へ通勤していた方が主な対象となっており、対象者が限定されることに加え、就業、起業、テレワーク、関係人口など要件確認が複数に分かれております。また、支給後も一定期間の定住継続や条件等を満たさなくなった場合の返還義務も生じることになります。

本市では、これまでもミャーク新婚ライフサポート事業をはじめ、住宅確保に向けた様々な取組や、今年度から始まる３Ｄプリンター住宅の実証実験に向けた取組など、若者世帯や子育て世帯の定住支援に取り組んでいるところでございます。今後も、既存の定住支援策の充実を図りながら、ご紹介の本制度が若者のＵターンなど、本市の課題解決に資するものとなるか、県内実施市町村の運用状況や実績等を踏まえ、導入の可否について調査研究をしてまいりたいと考えております。

◎大城　仁君

今市民生活部長の答弁でもございましたけれども、隣の石垣市で行われていると。石垣市が行っているから宮古島市もというのはやや乱暴な主張になるかと思いますので、あくまで今後の検討材料として注視していただきたいなと思っているんですけれども、石垣市では、本事業における石垣市独自の要件として、対象者を石垣市出身者とするとしております。ここでいう石垣市出身者というのは、石垣市内にある小中高、または特別支援学校に在籍していた者、過去に継続して１年以上本市に住民登録があった者、この全てに該当する者と定めております。石垣市では、Ｕターン者に限定して実施している事業ということです。本市にＵターンで戻ってくる際に、給与面の不安でありますとか生活コスト面の不安、それから移住定住にかかるコストの不安というところが、様々な障壁がございますので、この制度、その不安を払拭するいい事業であると思います。もちろんミャーク新婚ライフサポート事業ですか、これもすごくいい数字を残していらっしゃるというのは伺っておりますので、引き続きその事業を行いながら、ぜひ石垣市の実績にも注目していただいて、継続して本市での導入検討をよろしくお願いします。

次の質問に移ります。航空自衛隊宮古島分屯基地で発見された地中構造物中の汚染水について、こちら先日豊見山貴仁議員への答弁もございましたので、発見に至った経緯については伺いませんが、内容物の流出可能性について当局の見解を伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

航空自衛隊宮古島分屯基地で発見された構造物中の汚染水についてです。中身が流出している可能性についてなんですけども、予断を持っての判断はできないんですが、沖縄防衛局によりますと、今年２月から現在に至るまでの約４か月間、水位に変化がないということであります。ですので、まとまった水量の流出がないというふうに沖縄防衛局のほうから報告を受けております。

今月、６月17日水曜日から、構造物の内部の汚染水の抜取り作業が始まっております。なるべく一日も早い抜取り作業の完了を目指したいという話をしておりますが、過去の微量な流出の有無については分かりません。しかしながら、降水量や地下水量は相対的ボリュームとしては大きいと見られることから、何らかの危険性が生じている可能性は低いのではないかというふうに我々は考えております。

◎大城　仁君

まとまった流出はないのではないかというところで、危険性の低さというところも今答弁でありましたけれども、今後、市としてどのような対応策を持っているか伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

市としての対策の質問ですけども、市としましては沖縄防衛局と情報共有をずっと図っているところです。それで、沖縄防衛局側には一日も早い抜取り作業の完了、それから島外への搬出、それから残された構造物に関しての撤去ということで、沖縄防衛局からもそのような説明を受けており、こちらのほうも、ぜひそのようにしていただきたいというふうにしております。その後、過去に流出があったかどうかについては確信が持てないので、沖縄防衛局において調査を行うとしておりますので、市では調査方法に関する技術的な助言等を行いつつ、適宜情報の発信に努めてまいりたいと考えております。

◎大城　仁君

分かりました。沖縄防衛局からまずもって地中構造物の撤去を優先的に、そしてその後土壌調査を行う

というふうに伺っておりますが、ぜひ当局には、国で沖縄防衛局で地下水がどのような状況であるのか土壌調査だけでなく、水質調査も実施すべきだと強く要望していただきたいと思います。土地の管理者は国でありますので、その土地からの汚染水の流出がないとはっきりさせるために、市独自の予算を使うというのはなかなか納得ができないところです。

また、この件につきましては、本定例会において陳情書も出されております。陳情書の添付資料を確認すると、過去に、今答弁でもございましたけれども、ＰＦＡＳが検出されているという事例がありました。今回偶然見つかった地中構造物と直接的な関係があるかは定かではないんですけれども、今回の構造物が以前のＰＦＡＳ検出に関係がないとすれば、ほかにも地中構造物があるのではないかという疑念が生じてしまいます。今回は30トンの汚染水のほかに同様の構造物があった場合に、地震などの拍子で一気に汚染水が地下水に流れ出す可能性もゼロではありませんので、分屯基地においてほかに構造物がないか、地中の調査を行うべきと考えております。沖縄防衛局に、今申し上げた水質の調査と地中の調査、この２つを強く要望していただきたいと考えておりますが、当局の見解を伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市では、市長部局、それから水道局、両方併せまして、これまで水道水源、それから水道水源以外の地域も、地下水の流動に関して様々な調査、知見を持ち合わせております。それから、地下水審議会に附属する形で学術部会ということで、専門家もたくさんお願いしておりますので、こちらのほうとしましては技術的な知見を提供して、やはり適切な調査を行えるよう、沖縄防衛局と協議してまいりたいと思っております。

◎大城　仁君

宮古島市からの助言をもらうと、沖縄防衛局、会見での資料でもございましたので、ぜひそのように対応いただければと思っております。

続きまして、福祉行政についての質問に移ります。今年２月、聴覚障害者の方の集まりがございまして、今井絵理子参議院議員にもご参加いただいて、しっかりとした組織づくりを行っていこうという話合いがされました。それをもって３月14日、宮古島市聴覚障がい者の会の総会も行われまして、会長をはじめ、役員が決まりました。その場では、本市の手話通訳士の方、それから福祉部の守武大部長にもご出席をいただきました。ありがとうございます。当局とはこれまでの個別での相談ではなく、組織としての意見交換も可能になってくるのかなと思っておりますが、今後の連携強化について見解を伺います。

◎市長（嘉数　登君）

大城仁議員からもあったように、去る３月14日に宮古島市聴覚障がい者の会の設立総会が開催されました。非常に喜ばしいことであり、今後の活動に期待を寄せております。意見交換会についてですけども、これ日程調整の上、対応してまいりたいというふうに考えております。

◎大城　仁君

私も議員に当選させていただきまして、聴覚障害者の方と、そこからなんですけれども、いろいろとコミュニケーションを取るようになってきました。いろいろ手話通訳士についてのご相談もあるんですけれども、話によると市のほうでも新しく人員が増えたというふうに伺っております。今後、こういった市の聴覚障害を持たれた方への支援策として、どういったことを考えていらっしゃるのか、見解を伺います。

◎**市長（嘉数　登君）**

令和８年度の手話通訳者の配置でございますけども、これまでは手話通訳士として１名配置しておりましたけども、新たに手話奉仕員を採用いたしまして、手話通訳士が１名、手話奉仕員１名の合計２名となっております。それから、その手話通訳者の育成というところでございますが、定期的に養成講座を実施しているほか、手話全国統一試験を希望される方については、航空運賃の助成を行っております。

これらに加えまして、令和７年度からは補聴器の両耳支給の特例支給を実施しております。さらに、通訳アプリの個人携帯への導入を開始しており、聴覚障害者への支援を拡充しております。今後、意見交換会の中で要望や提案があるかと思いますが、それについても十分検討し、調整してまいりたいと考えております。

◎**大城　仁君**

現在でもそういった様々な施策を事業を行っていらっしゃるということで、ありがとうございます。また今後についても、ぜひ連携強化をお願いいたします。

続きまして、障害者支援施設利用者の送迎につきまして、通所であるとなかなか送迎が大変だという話を伺いました。本市にも施設様々あるかと思いますが、障害者の方にとっても、その施設に合う合わないがあるということで、自宅近くの施設を利用できず、やむを得ず遠方の施設に通っているという現状が、家族がそういった連日送迎をしている現状があると伺っております。そこで、障害者支援施設利用者の送迎について、本市で実施または検討されているか伺います。

◎**福祉部長（守武　大君）**

障害福祉サービス事業所利用者の送迎については、昨今の人材不足により、実施できるところとできないところがあるのが現状です。対応策として、現在実施している移動支援サービスが考えられます。このサービスは、全国的に通所や通勤は対象外となっておりますが、本市といたしましては、個別のケースについて、本人の障害の程度や車両の乗り降りに支援が必要な場合などの事情を勘案した上で、特例としてサービス利用を調整していくことが可能であると考えておりますので、障がい福祉課のほうまでご相談いただきたいと思います。

◎**大城　仁君**

移動支援サービスは通所には適用されないところを特例としてというところで、いろいろご配慮いただきまして、ありがとうございます。もし通所が難しいとなると、やはり入所できる施設の数を各地に増やす、母数を増やす取組が必要になるかと思うんですけれども、なかなか人手不足でというところでもあると思いますので、そういった取組をぜひ行っていただけたらと思います。これから障害を持つ方、お世話する家族、どんどん高齢化していくと思います。通所の問題は、よりこれからはっきりと問題として出てくるかと思いますので、引き続きぜひご検討よろしくお願いします。

最後に、日米共同訓練について。今回受入れに至った経緯なんですけれども、こちらは先日答弁がございましたので、割愛させていただきます。先日の答弁もそうですし、昨日の伊良部地区での意見交換会も私出席させていただきまして、そういった経緯につきましては把握できました。その中で不測の事態への対応とトラブル発生時の情報共有の在り方について、昨日伊良部地区のほうで少しこういったお話が出たんですけど、こちら沖縄防衛局としっかり、不測の事態、協議がなされているか伺います。

◎**市長（嘉数　登君）**

沖縄防衛局からは、訓練の安全管理を徹底することはもとより、万が一不測の事態が発生した場合、市民の安全を最優先とし、関係機関と連携し迅速に対応するとの説明を受けております。それから、米軍機の事故等が発生した際には、防衛省として速やかに職員を派遣し、関係機関や米軍に対し事実関係の確認や調整を行った上で、得られた情報については市に対して速やかに情報提供を行い、迅速かつ適切な情報発信に努めるというふうに伺っております。

◎**大城　仁君**

今回の日米共同訓練について先日のご答弁の中で、日米安全保障、日米地位協定を踏まえての発言であるという答弁がございました。今も米軍機の事故については沖縄防衛局が事実確認を行うという話もありましたけれども、やはり何らかのトラブルが発生した場合に、日米地位協定に基づくと、沖縄県警や宮古島市がどこまで関与できるのかという問題も生じてくると思います。本市内において、米軍基地、また米軍が日常的に駐留するようなことは考えられませんし、また今回の訓練もあくまで自衛隊機による訓練であると、物資輸送であると伺っております。しかしながら、今後、あるか分からないですけど、２回目、３回目というのがないとも限らない中で、日米地位協定について市長はどのようなスタンスなのか、沖縄県内にある11市の一つとして自らの考えを発していかなければいけないと考えておりますが、この日米地位協定について、市長の見解を伺います。

◎**市長（嘉数　登君）**

私は、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、日米同盟の重要性は一層高まっているというふうに認識しております。一方で、市民の生命、財産を守る立場にある自治体の長として、事件、事故の対応、それから情報提供等の在り方については課題が残されているというふうに考えております。協定そのものが果たしてきた役割を否定するものではありませんけれども、時代に即した見直しは必要であるというふうに考えております。

◎**大城　仁君**

時代に即した見直しということで、しっかりと九州市長会等でも発信をしていただけたらと思っております。市民の生命、財産を守る職責があると前回答弁でおっしゃっておりましたので、そのためにできる行動というのはたくさんあると思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思っております。

今回の一般質問、スポーツ施設、公園についての質問を行わせていただきました。本市が有する様々な施設をフルに活用することで、より充実した公共施設、公共サービスを提供できると考えております。若者定住促進、島外への若者流出を防ぐ施策としても、移住支援金制度も含めて、施設の充実、サービスの充実というのは有効であると思いますので、そこは引き続き議論をさせていただきたいと思います。

これをもちまして、私、大城仁の一般質問を終えさせていただきます。ありがとうございました。

◎**議長（平良和彦君）**

これで大城仁君の質問は終了しました。

午前の会議はこれにて休憩し、午後の会議は１時30分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午前11時53分）

再開します。

（再開＝午後１時30分）

午前に引き続き一般質問を続行します。

順次質問の発言を許します。

◎池間　仁君

議席番号２番、蒼和会の池間仁です。それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

まず初めに、１、農業振興行政についてです。１の農産振興係の業務についてですが、今期のサトウキビ産業については製糖工場の操業が、昨年末から年内操業が展開され、沖縄製糖、宮古製糖城辺工場、宮古製糖伊良部工場、３工場の生産量は約32万4,000トンとなっております。最近のサトウキビ植付け状況を見ると、株出し栽培の面積が全体の65％を占めており、要因として考えられることは、高齢化による農家の減少や、温暖化による気温上昇や作業環境の悪化も考えられるとしております。

今年の３月定例会で、事業費の適正化について質問をいたしました。当局のご理解の下、ビレットプランターへの植付け作業料金の委託料金を10アール当たり、現行、そのときは7,000円でしたけども、１万4,000円、倍増です。拡充をしております。そのことを踏まえまして、①、さとうきび新植夏植促進事業の進捗についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

さとうきび新植夏植促進事業は、低反収株出しの更新を目的として、植付け機械による新植夏植え委託作業料金に対しまして、令和７年度までは作業機の種類を問わず、10アール当たり7,000円の補助金を交付しておりました。前年度からの変更点としましては、ビレットプランターと全茎式プランターで約２倍程度作業料金に開きがあったことから、補助率の均衡性を図りながら、ビレットプランターの利用促進向上のため、令和８年度からそれぞれの機種別で補助額を設定したところです。種苗代を除いた10アール当たりの作業料金の２分の１に相当する額をベースに、ビレットプランター10アール当たり１万4,000円、全茎式プランター7,000円のいずれか低いほうを補助額として拡充しております。事業実施期間としましては、７月下旬から10月末までを予定しております。

◎池間　仁君

実は、この全茎式プランター、もしくはビレットプランターの作業料金に関しては、現在なかなか高齢化が進む中、この植付けというのに関して非常に作業が進んでいない現状が見受けられます。その中で、やはり機械化が進行する中、特にビレットプランターに関しては非常に期待がありながら、しかしながら作業料金が高いというような声もあって、今回の拡充措置に関しては、非常に農家の皆さんからも本当に高い評価を受けて、期待もしておりますので、増産に向けては非常に明るい材料になったかなと思って、またお礼も申し上げたいと思います。

次に、②の有機質肥料事業の進捗についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

有機質肥料でございます。本市における有機質肥料に係る事業につきましては、ＪＡおきなわなどで取り扱う商品を袋単位で購入する場合の購入補助に加えまして、販売元からの計量販売により直接購入する、いわゆるばらでの購入に対する補助を実施しております。ばら購入用につきましては、前年度まで１トン

当たり2,000円の補助を実施しておりましたが、有機質肥料の活用促進による環境への配慮、地力増進による生産基盤の強化、農薬使用量の低減等につなげることを目的としまして、令和８年度から支援額を拡充し、補助額をトン当たり3,000円に増額しております。また、補助対象期間につきましても、年度当初４月から翌年の２月末の肥料購入を補助対象期間として、年間を通した切れ目のない支援を行ってまいります。また、今年度は、本事業に加えまして、さとうきび新植夏植促進事業の活用により、低反収株出しの更新を行う農家に対しては補助額を上乗せし、１トン当たり4,000円を上限に補助金交付を行ってまいります。

◎池間　仁君

農林水産部長、各堆肥についても、ばらということでありますけれども、拡充措置というのは非常に大事なことで、植付けだけではなくて、植え替えるときにはやはりしっかり土壌を肥やす、それが最低限の増産につなげる基本的な作業になるのかなと思いますので、このセットの拡充というのは非常に期待をしております。

嘉数登市長は、就任当初から化学肥料から有機質肥料への転換を促進し、持続可能な地下水保全を目指しております。化学肥料を抑えることにより、地下水保全にもつながるので、ぜひともこういった有機質肥料の部分については、化学肥料を少しやはり減らして、有機質をまたカバーしてくれるようにお願いをしたいと思います。

次に、③についてですが、現在サトウキビの植付け比率は、株出しが65％と、全体の約７割を占めております。増産を目指すのであれば、基本的にはやはり株は植付けをして、２回から３回、その程度がやはり基本的な栽培の指針になるかと思いますが、個人差ももちろんあります。各工場とも、今回も含めて年内操業の機運が高まって、春植えをする環境が非常に整ってきております。その点を踏まえて、③の新植夏植促進事業、今回は夏植えという形での事業実施でありますけども、それをやはり夏植えだけではなくて、春植えと夏植え、それの更新という形での事業実施というのが非常に効果を生むんではないかなというふうに思いますので、それについての拡充についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

さとうきび新植夏植促進事業でございますけれども、低反収株出しの更新を図りながら、生産性向上、安定生産等の推進を目的としておりますけれども、本市のサトウキビ生産面積のうち約７割に当たる4,200ヘクタールを株出し栽培が占めております。株出し栽培は、毎年収穫が可能となる反面、収穫回数を重ねることにより反収が低下する傾向にあるため、適期更新が重要であると認識しております。特に近年は、株出し回数の増加により、株出しを含めた全体の収穫面積が増加する一方で、生産量が比例しない状況になっております。本市では、夏植え切替えによる低反収株出しの更新を促すため本事業を実施しておりますけれども、池間仁議員ご指摘のとおり低反収株出しの更新という観点で見た場合、生産性向上を図るためには、春植えにつきましても同様に更新に係る支援は必要であると考えております。そのため、今年度の事業の利用実績、また生産農家からの春植えについての要望等も確認、検証しながら、本事業の拡充については検討していきたいと考えております。

◎池間　仁君

農林水産部長、前向きな答弁ですけど、本当にありがとうございます。夏植えだけだと、やはり偏ります。土地の有効活用を踏まえてみると、柔軟な環境整備、これは必要だと思います。サトウキビに限らず、

やはりこういった更新を、あるいは柔軟な対応をすることは、また牧草とか、あるいは葉タバコ、また露地栽培など、各分野においても非常にこれ関連してきますので、ぜひともこの更新の事業に関しては前向きに検討していただきたいと思います。

次に質問移ります。２の宮古地区さとうきび糖業振興会について。①、令和７年度の主な取組について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

宮古地区さとうきび糖業振興会は、宮古島市、多良間村、ＪＡ宮古地区本部、農業共済組合、製糖工場、参与会員として沖縄県及び農業委員会を加えまして、ＪＡさとうきび対策室を事務局として構成されております。地域の実情に即した形での沖縄県の基幹作物であるサトウキビの生産振興、地域経済及び農家経営の安定的向上を図ることを目的として設置されております。主に４つの項目がありますけれども、サトウキビ生産振興、２つ目に機械化一貫体系の確立推進、３つ目に農地の高度利用対策、４つ目に農作業受委託の組織化対策などを柱としまして、国の実施する補助事業等を活用して、幅広く農家への支援を行っております。

ご質問の令和７年度における主な取組としましては、セーフティー事業を活用した農薬及び土壌処理剤購入に係る助成をはじめ、生産対策として有機質資材や緑肥の購入、心土破砕などの機械作業委託に係る補助事業の実施、さとうきび生産産地確立実証事業を活用したスマート農業システムの導入等、幅広く事業を実施しております。また、栽培講習会や農業機械のメンテナンス講習会等も行っております。

◎池間　仁君

農林水産部長から今説明があったように、いろんな分野において国の事業を活用して、ＪＡのさとうきび対策室ですか、窓口となって、この事業に取り組んでいると思いますけども、先ほど説明あったようにサトウキビ振興、農家支援のために多岐に取り組んでいるというのはもう承知しておりますが、その点を踏まえて、②の生産振興対策に関する増産計画、それについて伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

池間仁議員のご質問にありますように、現在７年連続で交付金単価が据え置かれている状況にございます。この間、生産資材等の価格高騰や、人件費、輸送費等の上昇など、生産者を取り巻く環境は厳しく、据置き措置は生産意欲の低下や担い手不足の加速につながることが懸念されます。交付金は国の甘味資源作物に関する制度の一つであり、これまで本県では、ＪＡ沖縄中央会を中心に、生産者の生産意欲が保たれるような水準確保について度重なる要請が国に対して行われてきました。本市では、サトウキビ生産の経営安定を図っていく観点から、農業資材の購入補助、機械作業の委託費助成など、生産農家の安定生産に向けた各種支援策を実施しております。ただ、池間仁議員ご指摘のとおり、交付金単価が据え置かれている状況下におきましては、農家支援の拡充や新たな支援内容などについて今後検討が必要になると考えております。引き続き、国、県、その他関係機関と連携を密にしながら、生産農家への支援を行ってまいります。

◎池間　仁君

農林水産部長の答弁では、交付金はまだ言っておりませんけども、これからまた言いますけども、実は今般やはり各分野においても、農業環境は依然としてやはり資材高騰の高止まりがあり、燃料高騰、また

人件費、特に農家の今農林水産部長から説明のあった支援についても、委託費がかなり増えています。機械化に伴うそういったものがあるのかなと思いますけども、そういった実態を見ると、交付金も含めて、砂糖の買取り価格、これが近年は据え置かれておりますけども、実質的に農家手取りというのは減少傾向にあります。そういうのを踏まえると、しっかりしたこういった今のさとうきび糖業振興会、各関係団体、県、また市、ＪＡ関係、製糖工場、そういった組織があるわけですから、ぜひそういった全体的な課題は、この糖業振興会が中心になって引っ張っていただきたい。それで足りない部分をぜひ宮古島市がフォローしていく。そういった関係性というのは必要かなと思いますので、継続した取組をぜひ要望したいと思います。

次に、サトウキビ生産者交付金について。①、サトウキビ産業は地域経済を支え、離島振興のみならず、国土保全、食料安全保障に寄与する重要な作物と考えます。その観点から、交付金拡充への取組について伺います。

◎副市長（砂川　朗君）

サトウキビ生産者交付金についてでございます。本市における2025―2026年産のサトウキビの生産量は、約32万4,000トン、生産額にして約78億7,000万円を算出しております。サトウキビ産業は、基幹作物としての本市の農業振興はもとより、地域経済において極めて重要な役割を担っているものと認識しております。先ほどの農林水産部長の答弁の中でもありましたが、国の甘味資源作物に関する制度の一つである交付金の水準確保については、度重なる要請を国に対して行ってまいりました。2020年から７年連続で据置きとなっております。その間の社会情勢の急激な変化による生産資材などの価格高騰により、生産者を取り巻く環境は年々厳しい状況に置かれているのが現状でございます。そのため、本市としましては、島の暮らしと経済を守る観点や農家の経営安定確保に向けて、交付金の拡充は重要であるというふうに考えておりますので、引き続き国への要請は行ってまいりたいというふうに考えております。

◎池間　仁君

交付金、据置き７年間やっています。財源が厳しいというのは承知しております。現在、農畜産業振興機構の発表によりますと、国内の消費量約80万トン、その国内生産の割合、これが大体３割から４割。残りの７割前後は海外からの輸入に頼っているという現状になっています。内訳が、調べたら、タイが約40％、オーストラリアが約40％、南アフリカ10％、その他10％、そういった内訳で海外から輸入品が入っているということです。サトウキビ生産者交付金は、農畜産業振興機構が直轄する糖価調整制度の、財源の仕組みで交付金は支給されております。安い輸入糖から調整金を徴収して、財源としてサトウキビ農家、製糖事業者に支給されている仕組みとなっております。農林水産省の令和７年12月の資料によると、やはり原油高、為替相場、主要産地の自然災害などが起きて、国際価格が高騰し、糖価調整制度の砂糖収支が悪化しているという報告を受けております。今回のイラン情勢、国際状況は予断を許されない状況にありますし、特に原油価格の高騰は、輸入等への影響が非常に懸念をされております。そうなると、現行の糖価調整制度という仕組みからすると、調整金の財源というのが一層に厳しくなるのかなと非常に懸念をしております。

以上を踏まえて、②の令和８年度サトウキビ生産者交付金の要請計画についてお伺いをいたします。

◎副市長（砂川　朗君）

令和８年度の要請計画でございます。サトウキビ生産者交付金につきましては、例年、ＪＡ沖縄中央会を中心に、沖縄県糖業振興協会、日本分蜜糖工業会、各地区生産組合等で組織される要請団により、農林水産省及び自民党畑作物対策委員会等に対して要請が行われております。今年度の計画としましては、去る令和８年２月の沖縄県さとうきび対策本部委員会を皮切りに、各地区におけるサトウキビ価格、政策要請に関する意見交換会が開催され、11月に行われる予定のさとうきび政策確立沖縄県農業代表者大会を経た後、同月中旬頃に農林水産省、内閣府等に対して要請行動を実施していくことになっております。今年度の要請計画の内容については、今後の意見交換会等を経た後、要請内容が決定されることになっております。要請活動については、引き続き関係機関と連携を図りながら、市としても経営安定の確保が保たれるよう、実情に即した農家支援の強化に取り組んでまいりたいと考えております。

◎池間　仁君

先ほど少し触れましたけども、国内の砂糖生産量、消費量は、大体国内でいうと約40％ぐらいです。そのうちの80％がてん菜糖、要するに北海道のビートです。残りの２割がサトウキビ、これは鹿児島県、沖縄県含めてのサトウキビの生産量というふうに認識をしております。実は、沖縄のサトウキビ生産量の４割強、宮古島が生産量を支えているということになります。調べてみたのですが、この砂糖というのがどういうふうに使われているかなというのを調べてみました。９割がほとんど業務用です。残り１割はどういうふうに使われているかと、医療品、化粧品、それと化学繊維、この３つの分野に残り１割が使われているというふうに発表されております。したがって、エネルギー産業のみならず、医療産業も含む分野でこのサトウキビ、砂糖というのは非常に大きな役割を担っているのかなというふうに思っていますので、ぜひ国内問わず、国外の状況が非常に混沌していますので、そういった観点からすると、やはり食料安全保障、あるいは国土保全という観点から、非常に向き合わないといけない時期に来ているのかなと思っております。先ほども触れましたけども、糖価調整制度による財源確保というのは非常に厳しいというのはもうこれは承知されていますので、ぜひまたできればグローバルな観点から、ぜひアプローチの仕方も今後検討する必要があるかなと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。

次の質問に移ります。子育て支援についてです。①の宮古島市子育て支援条例の取組についてお伺いをいたします。

◎市長（嘉数　登君）

現在沖縄県内においては、沖縄県と那覇市において、子どもの権利に関する条例制定に向けた動きがありますが、本市においては、これ仮の名称ですけども、宮古島市子どもの権利と子育て支援に関する条例として取組を進めております。市長就任の際に公約の柱として子育て支援を掲げ、昨年４月には子育て応援宣言を行いました。この宣言の具現化を目的として、今回の条例制定を行うこととしており、その際には国連の子どもの権利条約の理念を踏まえて、全ての子供たちの権利保障と子育て支援の充実を図りたいというふうに考えております。

条例づくりにおいては、次の２点を重要視しております。まず１つ目に、実効性の確保というところです。条例を理念のみで終わらせず、子供たちや取り巻く大人たちの幸福に具体的につなげていくこと。２つ目として、市民参画の確保です。条例制定はゴールではなく、スタートであるというふうに考えておりまして、制定後に条例で定めたことが実行に移されていくためには、素案の策定段階から多くの市民に主

体的に関わっていただくことが重要であるというふうに考えております。しっかりと情報発信を行いながら、市民の皆様と共に条例づくりに取り組んでまいります。取組の詳細については、担当局長から答弁させます。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

取組についてお答えいたします。

昨年度は、市民の皆様と共に、子供の権利などについて学びながら、子供の日常や子育ての中で感じる違和感や課題を話し合う対話型のワークショップを全４回実施しました。今年度は条例づくりを本格化させるため、当事者である子供や保護者などを委員とする宮古島市こどもまんなか市民会議を立ち上げ、素案づくりに取り組みます。また、子ども・子育て会議や専門家会議を開催し、専門的な知見を取り入れるとともに、会議に参加できない市民や子供の声を居場所等に出向いて集めるアウトリーチ活動にも力を入れていく予定です。年度内に条例案を固め、令和９年６月定例会への上程を予定しております。

◎池間　仁君

就任当初から、嘉数登市長が掲げている宮古島市子育て応援宣言、やはりこの支援条例については一丁目一番地というふうに嘉数登市長自らもやはりおっしゃっているように、ぜひ切れ目のない条例制定を目指して取り組んでほしいと思います。

次に、②の妊婦等包括相談支援事業の支援強化について、アの継続取組の内容についてお伺いをいたします。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

市では、妊娠期から切れ目のない支援を行う妊婦等包括相談支援事業と、妊娠認定した方を対象に５万円、胎児の数に応じて５万円を支給し、経済的支援を行う妊婦のための支援給付金の２つの事業を一体的に取り組んでおります。今後も継続して取り組んでいきます。さらに、物価高騰対策として、令和８年度に限り５万円の追加給付を実施しておるところでございます。

◎池間　仁君

説明にもあったように、継続支援は非常にいろんな取組でやっている一方で、初日の我如古三雄議員、午前中の大城仁議員からもありましたように、出生数については非常に皆さんやはり気にされて触れております。この減少傾向というのは、昨年はもう400名を切って388名となっており、本当に減少傾向にあるなというのは数字でも表れております。宮古島市においては、各部局において様々な取組を実施して、妊婦の心身面あるいは経済面、これはもう本当に切れ目のない支援事業であるとは理解をしておりますけども、その点を踏まえまして、イの支援事業に対する出生率との検証についてはどういうふうに考えているのかお伺いいたします。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

検証についてでございます。子育て支援に関する各種事業と出生率との因果関係については、既存の学術研究において、例えば人口当たり保育所数が多いことや所得に対する補助、扶助費が出生率を上昇させる効果があることが確認されているとの情報があります。一方、少子化の要因としては、所得や雇用の不安定化のほか、非婚化、晩婚化などによる影響もあるとの指摘もあり、とりわけ本市においては住宅確保の困難性なども影響しているものと思われるため、本市において子育て支援策のみによる出生率に対する

効果を検証することは、困難な面があるのではないかと考えております。

他方、より有効な対策を講じていくためには、こうした複合的な施策による効果を検証することも重要であると思われるため、どのような方法があるかについて、各関係部署と連携して検討してまいりたいと考えております。

◎池間　仁君

やはり検証はなかなか本当に結果を出すのは難しいかなと、因果関係は非常に厳しいかなと思いますけども、そうしても支援事業というとやはり何らかの形でやっているわけですから、少なからず検証というのはどこかで必要かなと。その結果を求めるのではなくて、やはりそういった支援に対する検証というのは少なからずいろんな側面から見る必要があるのかなと思いますし、また検証することで、もしかしたら新たな考え、新たなる発見ももしかしたら出るのかなというふうに思いますので、ぜひまたその辺は検討していただきたいと思います。

次に移ります。２の、ゼロ歳から２歳児の保育料無償化についてですが、①、対象となる保育園児の人数についてお伺いをいたします。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

令和８年度、認可保育所等に通うゼロ歳から２歳児は、６月１日時点で783人となっております。

◎池間　仁君

②です。その783人の中の子供たちに対して、国や市の軽減措置対象人数についてお伺いいたします。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

保育料の国の軽減措置対象人数は426人、国の軽減措置を拡充し、市独自で実施している多子軽減措置の対象人数は41人となっております。

◎池間　仁君

今のこども家庭局長の説明からすると、約６割ぐらいですか、軽減措置をされている皆さんは。だと思いますけども、私が申し上げたいのは、ゼロ歳から２歳のくくりからすると、やはり対象になっている子供たちとそうではない子供たちがいるわけですから、ぜひ支援に届いていない子供たちに、何らかの支援措置が市のほうとしてできないかなというふうに考えます。軽減措置の対象、必ずしも無償化とは限らず、減免なりなんなり、いろんな方法で支援をしていくのは、市としては考えがあるのかお伺いをいたします。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

宮古島市では、安心して子供を産み育てることができる環境をつくるとともに、子育て世帯の経済的負担を軽減し、子供たち一人一人の可能性を最大限引き出すための支援を切れ目なく実施する必要があるため、多子軽減措置として、中学生以下の子供が４人以上いる世帯に対して保育料の減免を実施しているところです。今後は、対象世帯を高校生、18歳以下の子供が４人以上いる世帯へ拡充する方向で検討を進めております。池間仁議員ご提案の保育料の無償化については、世代間や認可保育所に通っていない児童がいる世帯間との公平性の観点から、将来的な安定財源の確保を前提とした上で、ゼロ歳から２歳児の保育料無償化の実行可能性を慎重に検証してまいります。

◎池間　仁君

何をやるにしてもやはり本当に安定的な財源は必要かと思いますし、その辺については理解しますけど

も、これだけ出生数が減少していく中で、入り口となる子供の環境、入り口で守る、あるいは育てる、そういった環境整備は非常に大事かなと思います。必ずしも無償化がそのすべではないんですけども、ぜひまたそういった手を差し伸べるのも、ぜひまた市のほうとして検討いただきたいというふうに思います。

次の質問に移ります。水産振興行政についてです。１の①の伝統漁法支援事業、アギヤー漁について、取組についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

アギヤー漁の支援につきましては、宮古島市水産業振興補助金を活用しまして、網や漁具及び高圧ガスボンベなどの漁に使用する資材の費用を伝統漁法支援事業として、補助率が２分の１以内で補助を行っております。

◎池間　仁君

令和８年度、調べた伝統漁法支援事業、平良地区と伊良部地区ですか、のほうには項目はありますけども、宮古島漁業協同組合の予算計上は多分今年なかったと思います。その理由について分かればお伺いいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

理由につきましては、今手元に資料がございませんので、後ほどお答えいたします。

◎池間　仁君

現在、聞き取りでありますけども、佐良浜地区においても担い手不足等によって、伝統漁のアギヤー、これができなくなっている状況かなというふうに聞いております。実は私の地域の西原地区においては、モズク生産、あるいはアーサ生産、若い担い手がかなり育っていまして、彼らにこういったアギヤーの伝統漁ですか、意見交換をする機会を二、三回ぐらい持って状況の確認等をしている中で、この若手の漁師のメンバーから、もうぜひ自分らにそういったアギヤーの漁を新規漁業者として応援してくれないかと、かなりの前向きな話があって、これはもう非常にありがたい話だなと思っています。いろいろ聞いたら、十数年前にも、皆さんでやっていた経験があるそうで、そういったもし途絶えているんであれば、自分たちが実際にそういった経験もあるし、ぜひさせてくれと、非常に前向きな話があります。そういう意味で、②の新規漁業者、そういった皆さんの支援について、市のほうとして考えがあるのかお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市としましても、アギヤー漁の保存、継承については非常に重要なことだと考えております。今、各漁業協同組合に対して、宮古島市水産業振興補助として支援は行っておりますので、漁業者の皆様におかれましては、まずは漁業協同組合と相談、調整の上、事業計画について申請を行っていただければと考えております。

◎池間　仁君

令和８年度の施政方針、その中にも、市魚であるグルクンを水産資源の価値や魅力を広く発信すると、これ明記されております。しかし、現状ではグルクン漁、それそのものがないわけですから、そもそもそれがなかなか厳しいのかなという中で、幸いにもそういったやる気のある若い皆さんがいるわけですから、そういった意向も取り込んで、市としてもぜひ積極的に。我々ももちろんバックアップしますけども、市のほうとしてもぜひ一緒に取り組めばなと思いますが、その内容について、もし嘉数登市長、見解があれ

ばお伺いしたいと思います。

◎市長（嘉数　登君）

池間仁議員ご指摘のように、アギヤー漁ですけども、グルクン漁のみならず、カツオの一本釣りに欠かせない生き餌の捕獲においても重要な役割を果たしていると考えております。かつて数十人規模の組織が幾つかございましたが、近年漁業者の減少によって担い手不足が深刻化し、さらには高齢化が進み、後継者の確保が大きな課題になっているというふうに認識しております。この担い手不足の原因としましては、ボンベを背負って潜るために健康へのリスクが高いこと、それから環境の変化による漁獲量が減少し、それに伴い収入の減少につながること等から、若い世代が定着しにくいという経済的なハードルが考えられます。

一方で、島外からの移住者がアギヤー漁の技術を学んでいるという情報もありますし、先日私も佐良浜の方々、ぜひとも復活といいますか、やりたいというようなお話を伺っております。これまで先人たちが培ってきたアギヤー漁を途絶えさせないためにも、市としてどういった支援が可能か、検討している漁業協同組合の皆さんとも意見交換してまいりたいというふうに考えております。

◎池間　仁君

嘉数登市長の話しているとおり、途絶えているのもいろいろ理由はあると思いますけど、また全くできないわけではないですので、お互いまた意見交換をして、市魚のグルクンでありますので、ぜひまた漁も継承するためにもぜひ一緒に取り組んでまいりたいと思います。

次に、２のカキの養殖実証事業について。①、実証概要についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

カキの養殖実証事業でございます。令和７年度から宮古島市における牡蠣養殖実現可能性調査業務委託によりまして、海洋環境データの収集と分析を行っております。環境条件から管理型カキ養殖の候補漁場を選定するとともに、海面での実証試験を実施し、実現可能性を調査する業務内容となっております。

◎池間　仁君

②の９月の中間免許、（ア）の特定区画漁業権の付与に向けて、話が以前からあると聞いています。その進捗状況についてお伺いいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

特定区画漁業権につきましては、宮古島漁業協同組合が県や関係機関へ申請を行っているところでございます。今年９月に取得見込みとなっております。

◎池間　仁君

農林水産部長の答弁にもあったように、９月頃にそういった付与があると。その後、当然実証して、付与があった後は多分海ですか、実際に養殖をしていくかなと思いますけど、その事業化に向けた養殖の計画、あればお伺いをしたいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

先ほど実現可能性調査を行っていると答弁しました。その調査事業を行うに当たりまして、海面での養殖実証も調査範囲に含まれております。９月に特定区画漁業権の中間免許を取得後の計画としまして、漁業権取得地におきまして海面養殖が可能か、実証を行っていく予定となっております。

◎池間　仁君

ぜひともカキの養殖事業、成果が実証されれば、水産業の枝葉が広がりますし、また新たな担い手も恐らくつくられるかなと期待しておりますので、ぜひ成果が出るようによろしくお願いをしたいと思います。

次に、３の大浦湾内のモズク漁場について。①のモズク生産量の推移についてお伺いをいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

西原地区の生産量としまして、令和４年度508トン、令和５年度570トン、令和６年度273トン、令和７年度264トン、令和８年度332トンとなっております。

◎池間　仁君

モニターの準備をお願いいたします。これ５月の大潮の上旬ぐらいですか。これモズクの、実際に漁場の状況です。ちょっとアップしますけど、このくいみたいなやつがありますね。これが、実はモズクを実際に養殖している漁場になります。これ白いのは、もう本当に砂地です。本来だと水があるはずのところが、こういうふうにして干上がっていると。全体的にです。これもそうです。これなんかも完全に干上がっています。これはドローンで撮った映像ですけど、広範囲にこういった白いところが点在している。それ、そういうぐらい、もう漁場は大潮の特に干潮になるとこういった状況があると。非常に厳しいのかなというふうに。モニター終わります。

以前、３月にもちょっとお話ししましたけども、平成19年ぐらいから市の当局とはやり取りをしているというのは実際に確認していますし、農林水産部長からさっき生産量の話もありましたが、急激にここ５年間、４割強、もう本当に減少に至っています。必ずしもこの堆積が原因かどうかは不明ですけども、少なからず漁場の砂の堆積というのはもうこのように進行しているというのは明らかですので、非常に懸念をしております。

６月12日に宮古島漁業協同組合と西原モズク生産組合、その連名で嘉数市長宛てに、水産業振興のため、砂堆積の現状を理解していただく、モズク特区の整備に市の支援と配慮をお願いしたいとの趣旨で救済要請をしております。その中で、嘉数登市長から重要な問題と受け止め、どういった対策が恒久的な解決につながるのかというふうな前向きな答弁がありました。このような状況を踏まえ、この漁場の砂堆積状況に関わる支援事業、どういった支援事業があるのか、市の考えをお伺いしたいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

大浦湾の砂堆積状況の支援につきましては、これ６月12日に宮古島漁業協同組合や西原地区モズク生産者から、池間仁議員同席の上で要請があったところです。その際の市長コメントにもありましたように、要因については、潮流や台風の影響も考えられますが、確実な学術的根拠がないことから、専門家の意見も聞きながら、恒久的な解決策を関係機関と協議しながら進めていきたいと考えております。

◎池間　仁君

かなり事業実施に向けてハードルが高いというふうには承知しておりますけども、以前にもお話ししましたけども、やはりこの大浦湾の漁場というのは、西原地区にとって非常に親しみのある場所でもありますし、我々池間島から分村して、今年152年になりますけども、漁師のまちとして、歴史もありますし、またそういった漁法も、今回やはり養殖の技術も継承して、しっかり後世にもつないでいる漁場でもあるんです。そういう面からすると、我々もそうですけど、当局の皆さん、あるいは同僚議員の皆さんも、ふる

さとに対する思い、非常に強いかなと思っています。我々も大浦湾というのは非常に歴史観があって、これからも後世には残したい、当然漁場でもありますので、そういう意味からすると、単なる砂堆積を取り除くというわけではなくて、そういった歴史的な背景、もしくはまた将来的な観点からも、非常に大事な、これ問題だと、あるいは課題だというふうに認識していますので、ぜひ嘉数登市長、当局のお力添えをいただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問に移ります。４のスポーツ行政について。①の宮古島100ｋｍワイドーマラソン、今後の取組についてお伺いをいたします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

宮古島100ｋｍワイドーマラソンは、1991年に第１回大会が開催されてから、本年１月に開催された大会で36回目を数える歴史ある大会です。しかしながら、近年は参加人数も低迷しており、ボランティアスタッフの確保にも苦慮している状況であります。本大会は、長きにわたり本市のスポーツ振興や観光閑散期対策として地域活性化に貢献してまいりましたので、大会の開催目的はおおむね達成したと考えております。本市としましては、現在、大会の在り方などにつきまして、ボランティアスタッフの大部分を担っている市職員にアンケートを取っております。その結果を踏まえた上で、大会を主催する市陸上競技協会と意見交換を行い、本年８月に開催予定の実行委員会総会において、今後の大会の在り方について判断したいと考えております。

◎池間　仁君

観光商工スポーツ部長の説明にもあったように、この大会は第36回、非常に長きにわたって宮古島の大会を盛り上げてきたというふうに認識をしております。さっき、アンケートの実施もあるというふうに聞いておりますけども、しっかりした幅広い意見も取り入れ、大会の在り方についてはぜひ熟慮していただきたいなと思っております。

次に、②、ワイドー・ズミ大学駅伝についてです。令和８年度予算計上、100万円ほど多分計上されていると思います。大会関係者にヒアリングをしたら、昨年の14校中４校の学校に合宿支援として活用しているというふうにお伺いをしております。私も、毎年大会行われますけども、一ファンとして非常に楽しみにしておりますので、ぜひ市のほうとしても積極的にそういった支援については取組を行っていただきたいと思いますけども、そのことを踏まえて、今後、参加大学への合宿支援拡充、それについてお伺いをしたいと思います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

本市では、宮古島大学駅伝実行委員会に対しまして、大会前後の合宿を行う大学の支援を目的に、宮古島市スポーツアイランド事業補助金を交付しているところです。本大会は、実行委員会をはじめ関係者のご尽力により、各メディアへの露出等もあり、認知度も向上しており、年々参加校も増えております。市としましては、宮古島大学駅伝は、経済効果も含めまして、様々な面で可能性を秘めた大会であると考えておりますので、合宿を行う大学の支援につきましては、今後実行委員会や関係機関と協議等を行い、支援拡充について検討したいと考えております。

◎池間　仁君

観光商工スポーツ部長の説明にもあったように、かなり島外ではこの宮古島大学駅伝ワイドー・ズミの

知名度が非常に高いというふうに聞いておりますし、大学三大駅伝にも引けを取らないぐらいの可能性があるよというふうに話がちまたで聞こえているというのはもう本当にお伺いしています。その点を踏まえて、イの全国４大学駅伝大会実現に向けた展望についてお伺いをいたします。

◎副市長（砂川　朗君）

宮古島大学駅伝ワイドー・ズミの展望についてでございます。本年２月に開催されました宮古島大学駅伝ワイドー・ズミは、関東圏での特別番組等により、全国的にも大会としての知名度の向上が図られており、箱根駅伝、出雲駅伝、全日本大学駅伝の大学３大駅伝に匹敵する可能性を秘めた大会だというふうに認識しております。大学３大駅伝は、全国的にも圧倒的な人気を誇ることから、仮に宮古島大学駅伝ワイドー・ズミが３大大学駅伝に匹敵する大会と認知された場合は、本市のさらなる知名度向上となり、観光振興においては大きなインパクトがあるものと考えております。本市としましても、実行委員会をはじめ、関係団体と連携を図りながら、全国から注目される大会として発展していけるよう、必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

◎池間　仁君

４大大学駅伝となったら、かなりの効果が期待されますので、諦めずに、ぜひ実行に向けて頑張ってまいりましょう。

次に、５の教育行政について伺います。

１の閉校学校跡地施設について。①の閉校後の今後の利活用について。アの運動場跡地の利用状況についてお伺いをいたします。

◎教育部長（久貝順一君）

閉校後の運動場跡地の利用状況についてお答えいたします。

閉校後の運動場跡地の利活用状況につきましては、佐良浜小学校の運動場において児童福祉施設や高齢者、福祉施設の整備をして、跡利用として活用する予定となっているところでありますけども、それ以外の運動場につきましては、跡利用はないものと考えております。

◎池間　仁君

今、跡地利用がないという、計画はないということでよろしいですか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後２時28分）

再開します。

（再開＝午後２時28分）

◎教育部長（久貝順一君）

大変失礼しました。跡利用については、今後いろいろと議論しながら進めていくと思うんですけども、現在の利用状況としては利用されていないというところです。

◎池間　仁君

私は、12月にも少しその件については触れましたけども、この跡地利用、平成26年、2014年からですか、もう用途廃止年度が来間中学校が閉校となってから大体十二、三年ぐらいたっているところがやはりあり

ます。少し維持管理もやはり、その中で少なからず、2,300万円余りの予算計上しているわけですから、ぜひそういった、できれば利用されていない施設については、財源を、なるべく支出を少なくして、少なからずそういった利用活用ができれば、市のほうとしての財源も入るわけですから、そういった観点から整理についてはぜひ取り組んでいただきたいなというふうに思います。イのほうに関しては割愛をしたいと思います。

時間がないですので、進みます。２の西辺幼稚園における閉園後の利活用について。①、休園中の当該園舎の放課後子ども教室の活用にする旨の要望がありますが、市の見解をお伺いいたします。

◎教育部長（久貝順一君）

休園中の西辺幼稚園につきましては、去る６月３日に西辺小学校から学校施設使用の申請を受けております。内容としましては、期間として令和８年６月８日から令和９年２月末まで、放課後子ども教室として使用をしたいというふうな申請がありまして、既に使用の許可をしております。

◎池間　仁君

当園は、令和９年度、閉園が決まっております。そういうことを踏まえて、閉園後の放課後児童クラブとしての……

（「時間です」の声あり）

◎池間　仁君

では、次回の質問にまた持ち越したいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

先ほど、宮古島漁業協同組合からの、予算がついていないという件につきましてですけども、水産業振興補助金でございます。宮古島漁業協同組合に聞き取りしたところ、漁業者からの要望がなかったということでございます。

◎池間　仁君

以上をもちまして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで池間仁君の質問は終了しました。

◎砂川浩平君

まず初めに、所感を述べたいと思います。市民の皆様におわびを申し上げます。メディアにも取り上げられていますが、今回のワールドカップ観戦を含む渡航につきまして、多くのご意見、ご批判をいただきました。市民の皆様にご心配をおかけしたこと、また私の行動に対して厳しいご指摘をいただいたことを真摯に受け止めております。

その上で、私自身の考えも率直にお伝えさせていただきます。今回の渡航は、議員になってから思いつきで決めたものではありません。昨年、今年と開催されたサッカー大会において、最優秀選手への副賞としてワールドカップ観戦を約束しており、その少年の引率者として渡航したものです。議会期間中ということもあり、ご批判をいただくことは当然だと受け止めております。しかし、私は、選挙公約にスポーツ振興を強く訴え、子供たちの目の輝きが島の未来の輝きになると信じており、宮古島市で開催されるスポーツ大会の観戦や意見交換をしております。島の子供たちに世界最高峰の舞台を見せることには大きな意

味があると考え、引率を決断しました。そして、その責任を果たす以上、この経験を決して無駄にしてはいけないと強く感じています。

私は、先日30歳になりました。ワールドカップの舞台で国歌を歌い、自国の誇りを胸に、世界を相手に戦っていた選手たちも、私と同じくらいの世代です。その姿を見たとき、私はただ感動しただけではありません。同じ30年を生きてきた人間が、国を背負い、本気で世界と戦っている。その事実に胸を打たれ、同時に自分自身へ問いかけました。私は、宮古島市のためにどれだけ本気で闘っているのか。宮古島は小さな島です。しかし、この島で暮らす人々の夢や可能性は決して小さくありません。私は、今回、世界中から人が集まり、国を挙げて大会を支え、スポーツが人々に夢と誇りを与える姿を目の当たりにしました。だからこそ、改めて思います。宮古島市の子供たちにも、もっと大きな夢を見てほしい。世界に挑戦できる環境をつくりたい。島に生まれたことを誇りに思い、自分の可能性を信じる子供たちを増やしたい。そして、その環境をつくる責任は、議員である前に、この島に生きる一人の大人として、私自身にもあると強く感じています。

また、今回の件を通じて、地域メディアの役割についても改めて考える機会となりました。今回の記事をきっかけに、多くの市民の皆様が、議員の行動に関心を持ち、私の同世代の友人たちからも、新聞記事の写真が数多く送られてきました。私はそのとき、地域メディアには、今なお人の心を動かす大きな力があると実感しております。だからこそ、議員の行動を厳しく見詰めることと同時に、宮古島市の子供たちの挑戦、若者たちの努力、地域で前向きに頑張る人たちの姿もぜひ積極的に発信していただきたいと思います。子供たちの活躍が伝われば、その家族や同世代も地域に関心を持つきっかけになります。それは、地域メディアの未来にとっても、宮古島市の未来にとっても、大きな意味があると考えています。

今回いただいた批判は甘んじて受け止めます。しかし、私はこの経験によって下を向くのではなく、より大きな責任と覚悟を持って宮古島市の未来のために働いてまいります。30歳という節目を迎えた今、言葉だけではなく、結果で示していくことをお約束申し上げます。市民の皆様からいただいたご意見を胸に刻み、信頼回復に努めながら、これまで以上に宮古島市の発展のため全力で取り組むことをお誓い申し上げ、私の所感とさせていただきます。

一般質問に行きます。発言事項２番、新設されたふるさと創生課について。ふるさと納税について。ふるさと創生課は、多様化する社会課題に対応し、スピード感を持った行政運営を進めるために新設されたと認識しております。同課は、本市の魅力発信と自主財源の確保を同時に進める重要な役割を担っており、少子化対策をはじめとする重点施策を効果的に推進するための要であると理解しております。

そこでお尋ねします。今期のふるさと納税において、市は、個人版で18億円、企業版で5,000万円の目標を掲げて取り組まれていると伺っていますが、現在の進捗状況について伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

ふるさと納税の個人版と企業版の寄附額の状況についてでございます。令和８年度の４月、５月の寄附額についてでございます。個人版ふるさと納税の寄附額は、４月、５月、２か月で１億3,713万円となっておりまして、前年同時期と比べて4,271万円の増、率にして45.2％の増となっております。企業版ふるさと納税につきましては、寄附額が10万円となっており、前年同時期に比べ32万円の減、率で68.7％の減となっております。今年度の個人版ふるさと納税の目標額を達成するための取組といたしましては、５月に新

たな返礼品提供事業者を募る説明会を開催し、返礼品の充実を図っております。また、寄附を募る方法といたしまして、今年度新たに「旅前納税」、さらに「現地型ふるさと納税」の導入を進めております。企業版ふるさと納税の目標達成の取組といたしましては、今年の11月に宮古島市主催で、都内にて首都圏の企業を招いた企業版ふるさと納税イベントを開催する予定となっております。現在の進捗状況といたしまして、本イベントの運営委託事業者を６月に選定したところでございます。このイベントでは、市職員が本市の地域課題等を企業に向けてプレゼンテーションし、課題解決に共感をいただいた企業から企業版ふるさと納税を寄附していただくことで課題を解決しつつ、目標額を達成していきたいというふうに考えております。

◎砂川浩平君

個人版ふるさと納税のこの２か月での4,200万円のアップというのが現地で使われている､今先ほどおっしゃった現地型ふるさと納税とかを対応しているからでしょうか、伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

先ほど申し上げました旅前納税と現地型ふるさと納税、これ現在検討を進めているところでございまして、まだこれの導入には至っておりません。寄附額、昨年16億円を超えまして、過去最高となっておりますので、宮古島市の知名度、いろいろなやはり旅行の返礼品が宮古島市はとても人気がございますので、そういったところでやはり知名度が魅力がアップしているものと考えております。

◎砂川浩平君

２番、本市に多大な貢献をいただいた高額納税者、個人版も企業版も含めてなんですけど、感謝状の贈呈や、今後も継続的なご縁を持てるような関係人口創出に向けた取組を行っているのか、市の見解を伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本市では、個人で寄附をいただいた全ての方に対しまして、宮古島市の海をイメージしたオリジナルデザインの封筒で、受領証とお礼状を送付しております。お礼状はポストカードになっておりまして、表面はお礼のメッセージ、裏面が宮古島市の美しい風景の写真となっております。手に取った方がまた宮古島に訪れたいと、宮古島に行きたいというふうに感じていただけるよう工夫をしております。法人向けといたしましては、企業版ふるさと納税の寄附をいただいた企業様を市のホームページ上で公表を行っているところです。寄附額の大小にかかわらず、寄附をいただいたことについてはとても感謝しておりまして、その感謝を表す方法や継続的なご縁を持つ取組については、寄附を活用した事業の結果を報告するとともに、お礼のメッセージをお送りし、企業への感謝の意を伝えたいと考えております。高額の寄附をいただいた個人、法人の皆様への対応につきましては、他の自治体の情報を収集しながら、感謝の気持ちが伝わる方法を検討していきたいと考えております。

◎砂川浩平君

実際そのようなことがあると、ふるさと納税してくれた方も喜ぶと思うので。ただ、私の友人も、東京の方が何人かふるさと納税してくれたんですが、ほかの地域はお礼があったけど、宮古島市はないねという話があったりしたので、そこはしっかりやっていかないといけないかなと思います。また、総務省公表データベースでふるさと納税、毎年毎年上がっていっているんですけど、2024年度約１兆2,728億円の市場

があります。この市場をどう宮古島市に取り込めるかというのはとても大事なことだと思いますので、ぜひ取り組んでいってほしいなと思います。

また、このふるさと納税をする際に、１万円を入れた人は空港前に花を10株、１万円を充てます、３万円だと子供の遠征費に充てますなど、自分が納税したことによって宮古島市とどう関われているのかというのももっと、例えばはがきや今送っている感謝状みたいなものに、市の公式ホームページだったり、ふるさと納税のホームページをつくって、この島の関わっている関係人口が増えるというような仕組みをつくって、寄附者には返礼品、島にとっては観光消費、事業者にとっては売上げ、市にとっては関係人口を増やせるような取組をしていくことはとても大事だと思いますので、今後とも一緒になって頑張っていきましょう。

続きまして、３番、宮古島市新総合体育館の建設について。１、新総合体育館建設事業について。①、現在終わりの見えない物価高騰や円安のあおりを受け、市民生活や市内事業者の経営は非常に困窮しています。このような状況下で、当初想定から約２倍の150億円にまで膨れ上がった新総合体育館の建設を、さらなる予算上振れのリスクを抱えながら、なぜ今進めなければならないのでしょうか。他事業の予算を圧迫してまでこのタイミングで着工しなければならない圧倒的な大義名分について、具体的な見解を伺います。

◎副市長（砂川　朗君）

宮古島市新総合体育館の建設についてでございます。新総合体育館整備によって他の事業に係る予算計上への影響はなく、他の事業実施に係る必要な予算は、当初予算並びに補正予算で計上されているものというふうに認識しております。体育館整備に関しましては、宮古島市合併時における新市建設計画、「新しい島づくり計画」における施策の一つというふうにうたわれております。加えて、老朽化による施設利用環境を改善する必要性もあり、宮古島市のスポーツ、文化交流活動の推進に寄与するものとして早急の整備が必要というふうに考えております。事業費が増額していることにつきましては、近年の建設資材や人件費など建築コストの高騰に加え、当初総合体育館のみとしていた整備計画に、国民保護法に基づく特定臨時避難施設の整備も加わったことから事業費が増額となったところでございます。新総合体育館並びに特定避難施設の整備に向けては、市民の利用やスポーツ振興など、本市の様々な施策に影響がないよう、引き続き計画的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

◎砂川浩平君

総事業費150億円のうち、国からの補助金などの財源措置を除き、宮古島市が最終的に負担することになる実質的な手出し額、一般財源の投入額や将来にわたる市債の返済負担額は幾らになる見込みですか、伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

現時点での概算では、国庫補助金等の特定財源を最大限に活用した結果、市の実質負担額は一般財源で2,405万8,000円、市債償還で26億5,900万円、庁舎等建設基金で10億6,640万円となります。

◎砂川浩平君

この巨額の負担が将来の宮古島市の財政健全性を脅かし、ひいては福祉や教育などの市民サービスを低下する要因になり得ないか、見解を伺います。

◎**建設部長（下地睦子君）**

本事業を進めるに当たり、本市の財政計画の枠内で収まることを確認しながら実施しており、新たな総合体育館の整備は、心身の健康増進等の観点から、市民サービスの向上につながると考えております。

◎**砂川浩平君**

体育館は、建てて終わりではありません。完成後に毎年発生する電気代や修繕費などの維持管理費、ランニングコストは市の財政を長期的に圧迫することが懸念されます。市は年間幾らの維持管理費を想定していますか、伺います。

◎**建設部長（下地睦子君）**

年間維持管理費というご質問でございますけれども、総合体育館分の想定としましては、類似施設の燃料費や光熱水費などの実績を基に、面積比率でおよそ3,500万円程度と算定しておりますが、近年の燃料費高騰や物価上昇推移の情勢から、およそ5,200万円ほどを見込んでいるところでございます。

特定臨時避難施設の維持管理費補助につきまして国に要望しておりまして、多良間村、与那国町、石垣市、竹富町においても同様に要望しているとのことでございます。今後も先島圏域で連携を取りながら要望してまいりたいと考えております。

◎**砂川浩平君**

年間約5,200万円ほどかかるということですが、それは市民の利用料金などの収入だけで賄える見込みなのか伺います。

◎**建設部長（下地睦子君）**

公共施設である総合体育館の運営は、多くの人々がスポーツ、文化交流を通した健康増進に利用する場所、また生命、生活を守る災害時等の拠点として活用されるなどの、公共の福祉として行われる投資的経費であると捉えているところでございます。そのため、一般財源で先ほどの金額を歳出することになりますが、利用料金に加え、ネーミングライツ等も導入するなどして維持管理費等の負担軽減につなげる考えです。

◎**砂川浩平君**

これは、ネーミングライツとか利用料だけで5,200万円を賄えるということですか、伺います。

◎**建設部長（下地睦子君）**

利用料やネーミングライツの導入により、維持管理費等がこれらで賄えるかというご質問かと考えておりますが、それで全て賄えるものとは考えておりません。一般財源で先ほどの金額を歳出することになると考えております。

◎**砂川浩平君**

実は私、このワールドカップの引率した際にダラスという地域で日本対オランダの試合を見たんですが、前夜祭で、このダラスという地域にはトヨタの工場などがあって、結構日本人も多くおられて、日本人を応援する現地の人もたくさんいる中で前夜祭が行われて、そこでダラスの市長だったり行政の方々がいて、沖縄県の宮古島市の砂川という市議会議員ですという話をしながら話を聞いたんですが、そこでキム・トルベートさんという行政の責任者の方が話していたことが、私たちも今宮古島市、自分のまちで体育館を造る、やはり今スポーツをもっともっと振興していきたいという話をすると、行政の力だけでやっていく

ことはなかなか厳しい。また、世界から今宮古島って、アメリカの方々でも沖縄県は知っていますし、宮古島に行っているという方もいたんですが、それぐらい世界で有名になっている宮古島で、どうスポーツを振興させていくか、逆に言えばチャンスもたくさんあると思うので、これを民間を誘致して、ＰＦＩだったり、また新たな形で体育館を世界基準のものを造れるような取組をやっていくことが必要かなと思いますが、そこに関して市長の見解を伺いたいです。

◎副市長（砂川　朗君）

体育館、現在宮古島市で計画している新総合体育館並びに特定避難施設でございますが、これにつきましては財源の確保のめどが立ったということで、それについては公の力でもちろん整備はしていく予定でございます。ただ、運営に関しましては、先ほども建設部長から答弁があったとおり、ネーミングライツ等、また民間のほうからの収入が得られるような形で、少し考えながら、民間の皆様にもご協力がいただけるような仕組みを講じていきたいというふうに考えております。

◎砂川浩平君

続きまして、事項４番、先進技術活用型住宅整備事業について。１、先進技術３Ｄプリンター活用事業について。①、具体的な事業の進め方について伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業のスケジュールについてでございます。令和９年４月にエッセンシャルワーカーの入居開始を目指して準備を進めているところでございます。具体的には、行政財産から普通財産への変更及び担当部署の所管換え、これは農林水産部から企画政策部ということになります。等の手続を経まして、10月中旬頃には着手したいというふうに考えております。

◎砂川浩平君

地元の企業からもよく声が上がるのですが、地元の経済循環への影響について、市の見解を伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

地元企業への経済循環への影響についてでございます。３Ｄプリンターといった新しい技術の導入により、これまで手作業で行われてきました型枠工事や現場でのコンクリート打設など、一部の工程で作業量が減少することが予想されますが、地元事業者への役割が完全になくなるとは考えておりません。現在本市が直面する喫緊かつ最も深刻な課題は、住宅費の高騰、それに伴う若年層及びエッセンシャルワーカーの流出であり、これが地域の消費活動の縮小、税収の減少、医療、福祉、教育などの公共サービスの担い手不足といった経済全体の衰退に直結しかねないというふうに考えております。また、建設業界自体も深刻な人手不足に直面していることから、このままでは住宅需要に応えられない危機的な状況になることも考えられます。

こうした中で、３Ｄプリンター住宅建設は、多くの人手を要する型枠、打設工程の一部を代替することで、限られた人的資源で効率的に建築や建設現場全体の生産性向上が期待できると考えております。また、省人化を図ることができれば、地元事業者の熟練技術が不可欠な基礎工事、内装工事、設備工事などで人でしかできない高付加価値作業に振り分けられるというふうに考えておりまして、結果として３Ｄプリンター住宅建築は、人手不足の解消、住宅供給能力を向上させることによる定住促進が可能になるというふうに考えております。加えて、地域経済全体の消費を刺激し、建設関連産業全体に新たな仕事を生み出す

ことで大きな経済循環効果をもたらすことが期待できるものと考えております。

◎砂川浩平君

人手不足だからという考えだと思うんですが、逆にお金が、企業の努力も足りないというものはあると思うんですが、人手不足になっている理由が、そうやって宮古島市だったり国からの予算を宮古島市で行うときに宮古島市の企業が使われていないからこそお金が回らないという観点もあると思いますが、そこについてどうお思いか、見解を教えてください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

宮古島市でやはり若者が宮古島市離れが進んでいる要因の最も大きな要因としましては、住宅問題、家賃の高騰、そして自ら住宅を持つことが非常に厳しい状況があることが要因となっております。こういうふうに地元のほうから、宮古島市から担い手がどんどん離れていきますと、やはり若い人たちが経済を回していく、そして次の世代につなげていくということができなくなっていきますので、経済規模がどんどん縮小していくものと考えておりますので、こういったところに人手不足、そういった若者を定住させることで、より大きな経済循環がもたらされるものと考えております。

◎砂川浩平君

本事業において熊本県の企業が国の予算を獲得し、主体となって事業を展開すると聞いています。その中で、今までの宮古島市を見ても、公共工事だったりこれまでの事業というのは、今回熊本県のこの事業が国から予算を取ってきてやるということで、宮古島市もそこでやるということだと思うのですが、島の企業は、例えば国から予算を取るためのコンサルティングだったり、そこに対しての考え方というか、アンテナを張っていないと思うんです。張れないぐらいの余裕がない状況になっている中で、宮古島市としてコンサルタントを置いて、国からこういった予算があるけどどうですかというのを、宮古島市の島内の企業にアドバイスしたりする、そのような考えはありますか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

砂川浩平議員、これ地元企業へのコンサルティングや伴走支援型の体制づくりについてでよろしいでしょうか。３Ｄプリンター住宅のような先進技術を導入するに当たりまして、誰が担い、いかにして地域経済の成長につなげていくかという事業性の視点は、大変重要であるというふうに認識しております。特に離島地域においては、市内事業者の育成に官民連携で取り組むことが極めて重要だというふうに考えております。島外の優れた技術を単に導入するだけではなく、その技術を市内の事業者が習得し、自らの力として活用できる環境を整えることも行政の役割であると考えております。

一方で、技術は開発した民間事業者の努力の成果であり、そのノウハウの共有が容易ではないという側面もございます。そのことから、本事業を単なる実証実験で終わらせるのではなく、技術協力を予定している事業者とも協議を重ねながら、市内事業者への横展開構築に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

◎砂川浩平君

続きまして、５番、選手派遣費について。１番、スポーツ大会などにおける選手派遣費の支給迅速化について。①、県外や沖縄本島で開催される大会への選手派遣費について、申請から実際の支払いまでに多大な時間がかかっており、保護者から支給はまだですかという不安や困惑の声が多く寄せられています。

特に高校総体や中体連など重なる繁忙期においては、担当部署の業務負担が爆発的に増加していると考えられますが、現在の支給遅延の主な原因をどのように分析していますか、伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

選手派遣費の支給遅延の主な要因についてお答えいたします。

支給遅延の原因といたしましては、昨年度は１年間の中で４回に分けて申請期限を設けて定めていたところがありました。それで、期限直前に申請が集中して、確認作業が増えたことで支払い遅れがあったことや、また申請者からの申請書類の不備と問合せの増加が挙げられております。申請書類の不備が多くあって、申請者からの再提出に時間を要したために支給の遅れが生じたものと考えております。

◎砂川浩平君

書類の不備が多いということですが、これって何か難しい手続になっているのか、もっと簡易的にできないのかとか、何か方法があれば教えてください。

◎教育部長（久貝順一君）

特に申請に関して複雑ではないと思います。ただ、領収書の中身の記入ミスであったり、数字の記入ミスとか、合計金額が合わないとか、提出していただく領収書がなかったりとか、そういった部分があったということも聞いております。

再度来庁していただいて、再度提出という形になるんですけども、なかなか持ってきてくれない申請者もいるということもありまして、それで支給の遅れが起こったのが原因かなというふうに考えています。

◎砂川浩平君

実際に私も結構窓口のほうに保護者の方と行ったりするのですが、やはり指導者から保護者のほうに対してしっかり説明がいっていなかったりする部分もあると思うので、どこかのタイミングで指導者を集めて説明会をするなり、もっと効率的にできるような、デジタル化するなり、方法があると思うので、ぜひやってほしいと思います。

それとまた、先ほど言った高校総体や中体連などピークのときに対応するため、今年度会計年度任用職員の増員や他部署からの応援体制を構築すべきと考えますが、市の見解を伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

これ②のピーク時に対応するための質問かと思っています。選手派遣につきましては、現在正職員１名と会計年度任用職員１名の合計２名で業務を行っております。ただ、近年、申請件数及び窓口への問合せ等も増加傾向にあることから、現在会計年度任用職員の１名増員を予定しております。また、申請手続の中で電子化も検討しているところがありまして、これまでどおりの紙媒体による申請の継続をしていきますけども、電子化導入をすることで、申請者が直接窓口に来庁せずに済むことや、また担当職員の負担軽減にもつながることがあるものと考えております。あと、繁忙期には、課内、各係内で応援体制を構築して対応していきたいと考えております。

◎砂川浩平君

どちらにとってもメリットになると思うので、ぜひよろしくお願いします。

続きまして、発言事項１番、宮古島市におけるサトウキビ産業の増産体制構築と市直営種苗センターの設立について。サトウキビ産業への補助投資効果と現状認識について。国費、県費による手厚い農業機械

整備事業、リース料などの補助金交付など、長年にわたり本市のサトウキビ産業に膨大な行政投資が行われてきたにもかかわらず、生産量、反収、収穫面積が思うように増えない要因について、市当局の現状認識を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市では、サトウキビの安定生産を図るため、これまで農薬、肥料等の購入補助をはじめ、農業機械の導入支援など、各施策を実施してまいりました。近年の生産農家の高齢化等による生産者の減少、農業資材の価格高騰など、生産基盤の維持が課題となる中においても、生産量及び作付面積はおおむね一定の水準が維持されていることから、本市としてはこれまでの施策が農家負担の軽減、労働力不足解消等に対して一定の効果が得られているものと考えております。

一方で、生産量増加の阻害要因としましては、低反収株出し圃場の増加による反収の低下、労働力不足による栽培管理の遅れなどが生産量全体の底上げに影響していることや、干ばつ、台風被害などの外的要因も複合的に絡んでいることが阻害要因として影響しているものと認識しております。

◎砂川浩平君

では２番、現行の種苗配付システムにおける目詰まりと不公平性について。①、優良種苗の増殖、配付について、民間委託、受託農業者、農業協同組合、製糖会社を中心とした現行の３段階増殖ルート及び行政連絡員を介した紙ベースの希望調査が一般の兼業農家への目詰まりや情報、アクセスの不公平性を生んでいるのではないか。本市における配付実態の把握状況を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市では、サトウキビの病害虫による減収を避けるため、東村にある種苗管理センターで生産された健全無病苗を定期的に導入することで、安定生産と品質向上及び新品種の普及促進を図っております。内容としましては、沖縄県の事業であるさとうきび優良種苗安定確保事業により、市から委託を受けた原苗圃の種苗設置者を介しまして、増殖された優良種苗の受領を希望する一般の生産農家へ配付をしております。配付の際には、行政連絡員に依頼し、生産農家に対して受け取りを希望する品種の調査を実施しております。各行政区からはその結果が提出されていることから、受取を希望する生産農家の意向は反映できているものと認識しております。

◎砂川浩平君

３番、最新品種ＲＫ10―29やＲＫ10―1007などの導入による農家所得向上の経済効果について。①、本市においてビレットプランターでの植付けに適し、極めて高い多収性、発芽率を誇る最新品種ＲＫ10―29やＲＫ10―1007などの優良無病苗が希望する全ての農家へ100％公平に行き渡った場合、本市全体の生産量及び農家所得の底上げにどれだけの経済ポテンシャル、試算があるか伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

種苗更新による経済的なポテンシャルにつきましては、品種ごとの平均反収、株出しの更新時期、植付け方法等、生産農家によってもそれぞれ異なるため、詳細な経済的効果を示すことは難しいと考えておりますが、砂川浩平議員ご提案の多収性、高い発芽率を特徴とする新品種の健全無病苗が希望する全ての農家へ行き渡ったと仮定し、種苗更新を行うことで、現在の平均反収、仮に5.4トンから6.4トンに１トン向上するとした場合です。単純計算で10アール当たり約２万4,000円の手取りが増えることになります。さら

に、2025―2026年産の本市の生産実績を基に市全体の経済的効果、農家手取り額を試算しますと、生産量は約５万9,000トン増の38万3,000トンとなります。増加分の５万9,000トンに平均手取り額の２万4,000円を乗じた場合、生産額は市全体で約14億1,600万円増額となります。あくまでも全収穫面積で種苗の更新がされた場合の仮定の算出であります。優良苗である新品種の苗の普及が拡大した場合におきましても、干ばつや台風被害などの外的要因等によって、収量の変化は大きく左右されるものと考えております。引き続きさとうきび優良種苗安定確保事業による健全苗の普及及び定期的な植え替えの推進等、増産につながるよう支援していきたいと考えております。

◎砂川浩平君

実際にやった場合、14億1,000万円ほどのアップがあるということですが、市直営スマート種苗供給センターの設立について、利害関係のある民間委託や形骸化したアナログ調査から脱却し、離島行政の一丁目一番地であるサトウキビの増産と農家所得向上を確実に成し遂げるため、宮古島市が責任を持って管理、増殖、ダイレクト供給を行う市直営の種苗センターを設立すべきと考えるが、市長の決断を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

砂川浩平議員ご提案の本市で管理運営を行う市直営の種苗センターにつきましては、独自で管理運営するとなった場合、元苗圃設置圃場の確保及び管理を行う人材の確保、管理に要する農業機械一式の導入等が必要と思います。令和７年度の実績を参考にした場合、１次増殖分に必要な圃場だけで約18ヘクタールの面積が必要となります。２次増殖と合わせると、合計で10倍の180ヘクタールの面積を要することになります。また、増殖用の圃場は、かんがい設備が整っていることが必須の条件となること、技術面、管理面、これは病害虫対策などでございます。でも多くの課題が考えられますので、市としてはこれまでと同様に種苗管理センターにて生産された健全な苗を、種苗設置者を介した形で生産農家へ普及させていくことが効率的かつ効果的であると考えております。

◎砂川浩平君

農業をやっている方には、生活の本当にインフラになっていると思います。先ほど池間仁議員からもあったように、所得がなかなか上がらない状況の中で、行政はそれに対して見ているだけではなく、何か取組とか今後の考えはありますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

農業に限らず、これまでいろいろ市としても支援はしているところでございますけれども、最初のご質問にもありましたとおり、なかなか収量が伸びていかないという状況もございます。ただ、市としては、これまで同様に、引き続き農家に対する支援は行ってまいりたいと考えております。

◎砂川浩平君

今後も農業に対してのバックアップをよろしくお願いします。

発言事項６番に行きます。子供たちの遊び場について。１、屋内用エア遊具の活用方法について。①、子供たちが天候に左右されず、安全に体を動かして遊べる屋内用エア遊具のご利用方法について。ア、市は今後この遊具をどのような施設に設置する予定か伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

答弁する前に確認したいんですけど、この遊具は、今回の議会で提案している遊具のことでよろしいで

すか。はい、分かりました。今定例会の補正予算で購入予定のエア遊具は、ＪＴＡドーム宮古島の備品として購入いたします。ＪＴＡドーム宮古島では、令和４年度から、市の自主イベント、親子ふれあいＤＡＹを実施しておりますが、所有するトランポリンなどのエア遊具が老朽化により破損したため、新規購入を行い、今後のＪＴＡドーム宮古島のイベントでの利用を予定しております。

◎砂川浩平君

今言ったイベントや事業で活用していくとありますが、どんなイベントで活用していく予定ですか、伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

ＪＴＡドーム宮古島自主イベント、親子ふれあいＤＡＹで主に活用していきますが、子育て世代への遊び場の提供及び施設の有効活用を目的として開催しております。本年度は、夏休み期間中に２回、あと秋のシルバーウイークなどでも開催を検討しておりますので、多くの世代の皆さんに参加していただきたいと思います。

◎砂川浩平君

天気はいつ雨が降るか分からない状況の中で、例えば夏休みとか、子供たちが学校が休みで家にいて、でも外で遊びたい、でも雨が降っているから遊べないという状況の中で、ＪＴＡドーム宮古島に行けば遊べるみたいな環境をつくれれば、子育て世代はもっともっと喜ぶと思いますが、この夏休みの２回だけではなく、もっともっと増やす考えはあるのか、見解を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

夏休みの期間中に空きがありましたら、券売機で購入していただいて利用は可能です。

◎砂川浩平君

券売機でエア遊具を利用するという表示があるんですか、券売機に。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

先ほど大城仁議員にも答弁しましたけど、夏休み期間中、親子ふれあいＤＡＹで使用するエア遊具、これは市の自主イベントとして開催しているものですから、この開催する前に傷害保険を掛けます。ですので、この傷害保険を掛けますので、そのために事前に開催日を前もって決定して、周知して利用していただいておりますが、そのままＪＴＡドーム宮古島に来てエア遊具を使う場合、保険とか適用できませんので、その場合はエア遊具は貸出しをしておりません。空いている時間帯は、ネットで区切って、この広場で遊んでいただくという形を取っております。

◎砂川浩平君

この子育て世代、よく雨が降ると、元ＴＳＵＴＡＹＡ沖縄の宮古島店上に屋内の遊び場があるのですが、そこに本当に人がたくさんいて、なかなか子供を連れていっても危ないとか危険となっている場合も本当によくありますので、そういった際にＪＴＡドーム宮古島に行けば遊べるという環境をつくることができれば、もっともっと子育て世代も、宮古島市に住んでよかったと思えると思うので、ぜひ取組をよろしくお願いします。

では、早くなりましたが、一般質問を終わらせていただきます。

◎議長（平良和彦君）

これで砂川浩平君の質問は終了しました。

お諮りします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認め、よって本日の会議はこれにて延会します。

（延会＝午後３時24分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月24日（水）　　５日目

（一　般　質　問）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第５号

令和８年６月２４日（水）午前１０時開議

日程第 １　 一般質問

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月２４日（水）

（開議＝午前10時00分）

（延会＝午後３時29分）

◎出席議員（２１名）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃		
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（１名）

議員（２０番）	粟国恒広君

◎説　明　員

市長	嘉数登君	環境衛生局長	梶原健次君
副市長	砂川朗〃	会計管理者	友利和代〃
企画政策部長	石川博幸〃	水道部長	砂川勤〃
総務部長	上地俊暢〃	消防長	狩俣勝彦〃
福祉部長	守武大〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長兼総務課長	上地等〃
農林水産部長	下地貴之〃	総務部次長兼財政課長	国仲英樹〃
建設部長	下地睦子〃	教育長	宮城克典〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	教育部長	久貝順一〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	生涯学習部長	天久珠江〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）諸般の報告書

令和８年６月２４日（水）

６月２２日	本会議延会後、議会運営委員会が開催され、「台風７号の接近に伴い、２６日（金）に暴風警報が発令され、閉庁となる場合の会期及び日程」について諮問したところ、①会期の延長は行わないこと、②２６日（金）に予定されている議員・４名の一般質問は最終本会議の２９日（月）に行い、質問終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決した。 なお、台風の進路等により、状況に変化が生じた場合は、再度議会運営委員会を開き、協議することも確認された。 以上

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席議員は21名で、定足数に達しております。

本日の日程は、議事日程第５号のとおりであります。

この際、諸般の報告をします。

事務局長から報告させます。

◎事務局長（友利毅彦君）

議長の命により、諸般の報告をいたします。

６月22日本会議延会後、議会運営委員会が開催され、台風７号の接近に伴い、26日金曜日に暴風警報が発令され、閉庁となった場合の会期及び日程について諮問したところ、１つ目、会期の延長は行わないこと、２つ目、26日に予定されている議員４名の一般質問は最終本会議の29日に行い、質問終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決しました。

なお、台風の進路等により、状況に変化が生じた場合は、再度議会運営委員会を開き、協議することも確認されております。

諸般の報告は以上です。

◎議長（平良和彦君）

これより日程第１、一般質問について、先日に引き続き質問を行います。

本日は、下地茜君からであります。

順次質問の発言を許します。

◎下地　茜君

議席番号22番、市民フォーラムまてぃだ、下地茜です。早速ですが、通告に従い一般質問に入らせていただきます。

まず、保育行政からお伺いしたいと思います。保育園の閉園に当たり、施設の改修などの場合でも長期耐用年数の補助金返還が求められている問題で、前回３月定例会でも複数の議員より一般質問での質問がございました。市長からも国へ働きかけをするとの答弁があり、報道もなされているところではありますが、国の反応なども含めて進捗をお教えいただきたいと思います。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

小規模保育施設の処分制限期間の問題については、５月12日に市長から直接こども家庭庁長官に要請書をお渡しし、市の実情もお伝えして取扱いの見直しをお願いいたしました。長官は、大変真摯に耳を傾けてくださり、今後関係省庁とも協議を行いつつ、制度運用の見直しに向けて検討を行うとの前向きなご回答をいただくことができました。また、九州市長会に対して、本市から要望事案として提案し、承認されましたので、今後は広域的な課題として国に伝えられ、さらなる検討が進められるものと考えております。

◎下地　茜君

こども家庭局長おっしゃったように、この問題、広域での課題として上げていただいたということで、この問題についてはそのままいけば恐らく大きな社会問題化しかねない、全国共通の課題だと思っており

ます。ぜひ県内ももちろんそうですし、県外市町村とも課題共有しながら、解決に向けて取組をお願いしたいと思います。

それでは、続いて一時預かり事業、余裕活用型についてお伺いします。３月定例会では要綱等を整理し、施設の意向を伺いながら運営の在り方を検討し、実施に向けて調整を行っていくとの答弁をいただいていました。方向性の確認にとどまっていたかなと思いますので、今後どのような調整を経て検討していくのかをお伺いできればと思います。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

一時預かり事業についてお答えいたします。

一時預かり事業、余裕活用型の現況としましては、要綱案などを取りまとめているところでございます。今後の取組としましては、各施設に対し、入所受入れの状況や職員配置の状況等も含め、施設の意向を丁寧に伺いながら、事業実施に向けて調整を進めてまいりたいと考えております。

◎下地　茜君

一時預かり事業の一般型の際も、当時の久貝美奈子議員、また砂川和也議員からも、ぜひまず現場の声を聞いてくださいと一般質問を通して何度か求められていて、市長が実際に事業者を訪ねられて拡充が決まっていった経緯があると思います。一時預かり事業、小さな制度ですけれども、必要としている保護者がいて、事業者側からの希望もあります。丁寧にニーズに向き合っていただきたいと思います。

教育行政について続いてお伺いしたいと思います。福嶺学区のＰＴＡ、自治会長、それから住民などでつくる福嶺学区活性化連絡協議会から２月、要請が上がっていたと思います。保護者や児童生徒が少人数教育を希望する場合には、学区外通学について認めていただきたいということなんですが、先日狩俣勝紀議員からも不登校の子供たちが少人数校を選べるよう、通学先の選択肢を広げられないかというような提案がありました。現在の学区変更制度でも確かに不登校の生徒については、希望があれば受け付ける仕組みがあります。ですが、対象となるのは実際に不登校になった後なんです。学校になかなか行きたがらないなとか、不登校の兆候が見られるなといった段階では学区変更を申請することができません。私自身、不登校のお子さんを持つ保護者の方とお話をしたことがありますが、その中で感じたのは、やはり一度子供の気持ちが学校から離れてしまうと、もう一度学校へ行こうという、この気持ちを向けることはなかなか、決して簡単ではないなということでした。少人数教育を希望する場合の学区外通学について、検討の進捗をお伺いいたします。

◎教育長（宮城克典君）

小規模特認校指定に向けた検討の進捗状況についてですが、現在の検討内容といたしましては、小規模特認校制度ではなくて、複式学級を擁する過小規模校への通学を希望する保護者に対しては通学指定校変更を認めることができないかどうかという点で、通学指定校変更に関する運用基準の一部見直しを検討しているところです。

なお、小規模特認校についても宮古島市公立小中学校の全体の課題の一つとして、今後も協議をしてまいります。

◎下地　茜君

今地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールの制度も始まっていると思います。地域の特色を生かし

た魅力ある学校づくりを進めるのであれば、その魅力を選べる仕組みづくり、地域を越えて学べる仕組みづくりも併せて考えていただけたらと思います。ぜひ前向きな検討をお願いいたします。

次に、②についてですが、小規模校に年度途中で複数名転入がある場合の教員配置についてお伺いいたします。

◎教育長（宮城克典君）

教職員の配置人数については、児童生徒の人数や学級数によって決まっております。これは、県教育庁宮古教育事務所が配置等を行っております。年度途中に転入生があり、学級が増える場合には、随時宮古教育事務所と学校とで調整する必要があります。現時点で教員確保、人材確保が課題となることから、すぐに配置できるとは言えませんが、その状況となった場合には確実に教育事務所と学校と調整してまいります。

なお、新しい年度の児童生徒確定の基準日は、例年４月１日となっていることから、その基準日の確実な在籍数による配置となります。その際は校長からの需給計画等を参考として職員配置を決定しております。

◎下地　茜君

今後もし学校から相談がある際には丁寧なご対応をお願いしたいと思います。

続いて、人事行政についてです。国は、仕事や家庭生活であったり、あと治療を無理なく両立できる職場づくりを進めようとガイドラインや指針をつくり、企業や自治体に取組を呼びかけています。今年からは病気の治療を続けながら働く人への支援について、事業主が社内の支援体制を整えることが努力義務となりました。

①についてですが、両立支援について庁内で共有できるような指針の取りまとめをされているかお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

治療、育児、介護等と仕事の両立支援についての庁内での対応方針についてお答えいたします。

本市における育児及び介護と仕事の両立につきましては、宮古島市職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び規則において、勤務時間の割り振りの変更や時間外勤務、残業の制限を可能としております。また、育児に関しましては、地方公務員の育児休業等に関する法律及び宮古島市職員の育児休業等に関する条例及び規則に基づき、短時間での勤務も可能としているところでございます。

それから、治療につきましては、年度当初に病気休暇を10日付与しているほか、長期で療養が必要な場合は医師の診断に基づき、90日の範囲内で必要と認める期間の休暇の取得が可能となってございます。それから、90日を超えて療養が必要な場合は休職となりますが、復職時には状況に応じて試し出勤制度を取り入れ、午前中のみなど短時間の勤務から始め、徐々に勤務時間を延ばしていく方法を取っているところでございます。

◎下地　茜君

治療、それから育児、介護もそうですが、勤務上の配慮が必要な職員について現在どのような方法で把握しているかお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

勤務上配慮が必要な職員についての把握方法についてお答えいたします。

病気治療中の職員については、全職員を対象に毎年度実施している人事異動等に関する調書の中で、治療中の病気の有無、治療中である場合は疾病名、入院期間または入院予定期間、通院頻度を確認しております。それから、育児及び介護に関しましては、本人からの申出により把握しているところでございます。

◎下地　茜君

勤務上の配慮が必要な職員について、異動後も継続して配慮が受けられるよう、本人の同意を得て、必要な情報を異動先の管理職に引き継ぐ仕組みがあるかどうかお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

現状としましては、本人に提出いただいた情報は、現在総務部内でとどめており、所属管理職への情報共有等は行っていないところでございます。職員間で協力しながら円滑に仕事を進めるためにも、管理職の職員が所属職員の健康状態を把握することは必要であると考えております。今後人事異動等に関する調書において、所属の上司へ伝えることに同意するか否かのチェック欄を設け、同意する場合についてはそういった情報を所属上司と共有し、確認を行っていきたいと考えているところでございます。

◎下地　茜君

異動時の調書の中で状況は確認されているというお話もありました。その調書で、例えば治療が必要な方であれば、どういう配慮が必要なのかとかも、恐らく今そこまで書かれてはいないのかなと思うんですけれども、そういうような必要な配慮をチェックしていただくとか、書き込んでいただくとか、疾病名までは共有したくない、本人の申出があれば、では配慮していただきたい事項までを共有するとか、少し内容など工夫して、他の部署でも共有できるような状況をぜひつくっていただけたらなというふうに思います。

あと、指針の取りまとめについても、いろいろ条例や規則があるとは思うんですけれども、各課でこういう場合にはこういう対処をしましょうねというような考え方の共有などもあったほうがいいのかなと今ご答弁聞いていて思ったところではあるんですが、④について、両立支援の取組について今後の本市の考え方をお聞きしたいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

両立支援についての庁内での今後の仕組み充実についてお答えいたします。

育児、介護、治療と仕事の両立については、現状は主に既存の休暇制度を活用しております。勤務時間の変更や短時間勤務など、働き方の幅を広げられないか、県内の自治体や全国の自治体の先進事例等についても調査をするなど、制度の拡充について取り組んでまいりたいと考えております。

◎下地　茜君

ぜひ両立支援について、組織としての指針をしっかり職員、管理職に広く共有していただいて、両立支援できれば個人の申出であったり、課ごとの対応に委ねるのではなく、組織全体で継続的に支える体制づくりをぜひ進めていただければと思います。

続いて、財産管理、庁舎管理規則についてお伺いいたします。５月15日は、沖縄県が本土に復帰した日です。平和な沖縄県の実現を願い、1978年から続く平和行進が今年も県内各地で行われました。宮古島市では５月17日、市役所の敷地内で出発式と市民集会が開かれました。私もこの場に参加しておりました。

その際集会で使用された拡声機について、市の職員から拡声機の使用は認めていないとして、止めに入ったということがありました。その後市のほうは、申請者への案内が不十分だったと経緯を説明しています。ですが、実は当日職員から複数回、申請の際に拡声機の使用は禁止と伝えていたという説明を受けています。拡声機の使用、許可制であるとの認識は担当係にはあったのでしょうか。確認したいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

庁舎管理規則についてのご質問にお答えいたします。

申請時に職員が発言した趣旨は、一律に使用を禁止するという意図ではなく、宮古島市庁舎管理規則第４条が定める喧騒、騒音トラブルに発展する可能性を未然に防ぐ観点から、拡声機やのぼりの使用を控えていただくようお願い、自粛の要請ということで申し上げたものでございます。本市の規則におきましては、適切な許可を受ければ拡声機等の使用は可能であり、申請時におきましては喧騒にわたる行為と誤認されないよう、適正な音量で使用してくださいといった、より丁寧な条件付許可の手続について具体的な説明を尽くすべきであったと認識しております。説明不足により、一律禁止であるかのような誤解を招いた点については改善をしてまいりたいと考えております。

◎下地　茜君

拡声機の使用が許可の対象であるのであれば、本来は申請内容であったり、使用方法を確認した上で判断することになるように思います。許可制だともし認識していたのであれば、なぜ審査ではなく、先に自粛要請に進んでしまったのかなとも思うのですが、総務部長の話では具体的な聞き取りが必要だったということなので、追加質問で準備していたんですが、飛ばしてイについてお聞きしたいと思います。

駐車場の使用をめぐる対応についてです。市は後日申請がなかったため、使用を認めなかったという説明をされておりました。一方で、当日は職員から他の利用者への影響を考えて、使用を認めなかったという説明がありました。ただ、この日は日曜日で庁舎閉まっていまして、一般の市民利用はほとんど想定されない状況でした。経緯について見解をお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

駐車場の使用についてのご質問にお答えします。

今回の集会の申請においては、申請者側から参加者が集まったら行進のみをして解散するとの説明があり、駐車場を使用したい旨の説明や申請はなされておりませんでした。本市としましては、事前の申請がなかったことから、当日の車両の乗り入れはないものと認識し、保健センター前ピロティーの使用のみを許可したものでございます。意図的に駐車場の利用を制限したわけではなく、事前の申請、調整がなかったので、許可が出ていなかったということでございます。

◎下地　茜君

そこで集会で人が集まる、出発式で、そこを出発して行進をして戻ってきて、また集会をするということなんですけども、当然車の利用がないわけがないと想像できると思うんです。どこか別のところに皆さん歩いてこられる方、まず車社会の宮古島市ですし、どこか別のところに止めないとそこは成り立たないと思うのと、当日の発言等も考えると、当日対応に当たった職員も主催者、参加者も使用は禁止されているという認識されているような状況だったかと思います。一方で、後日の説明から分かることは、適切に申請をしていれば利用できたということです。そのことが事前に伝えられていたのか、マイクや駐車場の

利用について、実際申請する機会は十分に確保されていたのかという点、見解をお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

事前の説明についてお答えいたします。

今回申請者側から駐車場の使用については言及がなかったため、市側において参加者の車両移動に伴う影響について、事前に具体的な検討を行うに至りませんでした。しかしながら、行進を伴う活動の性質上、十分想定できたはずであり、本市としては対話不足であったと真摯に受け止めております。拡声機についても、事前の対話が不足していたということは、真摯に受け止めているところでございます。

◎下地　茜君

当日参加した國仲昌二議員と私で公開質問状を提出しています。回答では、今後規則を整理していくということでした。「市民が真ん中の宮古島へ」というのが市長のスローガンです。とても大切な考え方だと思っております。この観点から今後の規則の整理に当たり、庁舎での市民活動をどう位置づけるかお聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

今回の窓口における市の対応は、庁舎管理規則第４条が定める喧騒を未然に防ぐため、拡声機等の使用を控えていただくようお願いを申し上げたものでございます。本市としましては、制限の範囲内であっても、休日の閉庁時などの状況に応じ、条件つきで許可し得る具体的な手続の案内や、より丁寧な対話を尽くすべきであったと認識しており、今後は運用の明確化に向けたマニュアルを整理し、適切な対応に努めてまいります。

◎下地　茜君

基準のほうを整理していくということかと思います。一方で、公開質問状の回答の中には市主催の行事と市民活動では目的が異なるので、必ずしも同じ取扱いにはならないという考え方も示されていました。では、もし市民活動を制限するとき、その判断は何に基づいて行われるのでしょうか。単に市民活動だからという理由なのか、それとも実際に生じる影響や支障などを客観的な状況に基づいて行われるのか、何の利益を守るための制限なのか明確にする考えはあるかお答えいただきたいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

市主催の行事との区別と、それから基準についてのご質問ございました。市が主催、共催する行事は、本市自らの行政事務事業そのものの執行であり、庁舎の本来の目的に沿った利用でございます。これに対し、市機関以外の者が主催する集会は、庁舎管理規則第５条第１号に基づく目的外の使用に当たるため、両者は区別して管理することは法的に正当な区別であります。

それから、喧騒の具体的な基準というところであると思いますが、数値による厳格な基準は設けておりませんが、一般的な庁舎管理上の解釈としましては本庁舎の窓口業務や事務の円滑な執行が著しく妨げられるか、または他の来庁者に深刻な支障や不快感を与えるかを基準としております。休日の閉庁時においては、この事務妨害の程度をより緩和して、柔軟に解釈すべきであったと認識しているところでございます。

◎下地　茜君

今回日曜日の閉庁時で、周辺に住宅もない環境でしたので、私たち参加した側としては利用に関し、実

際にどのような支障があったのか分からない状況でした。今後は市民にとっても、なぜその制限が必要なのかが分かるような整理をお願いしたいと思います。

では、次の質問です。航空自衛隊宮古島分屯基地敷地内で見つかった地中構造物についてです。調査ではダイオキシン類やＰＦＡＳ類が検出されています。このうちダイオキシンは、水に溶けにくい性質であることから、地下水への流出よりも土壌に残留することによる影響が懸念されます。今回発見場所は防衛省の敷地内であり、今後は防衛省が主体となって調査や対応を進めることが求められます。一方で、ＰＦＡＳは水に溶けやすく、地下水などを通じて広範囲に拡散する可能性が指摘されています。今回のこの件については豊見山貴仁議員の質問でも答弁がありましたので、①については割愛いたします。

次の②ですけれども、市のほうでは地下水保全条例に基づいて、環境衛生局が地下水モニタリング調査を行っています。過去の報告書を確認しますと、令和４年度、それから令和５年度はＰＦＡＳについても個別に調査が行われていました。調査３地点で行っていまして、このうち２地点では１ナノグラムパーリットルなんです。

一方、防衛省敷地の南側に位置するムカワノカーという井戸では５ナノグラムパーリットルと、ほかの地点より高い値が確認されています。国の暫定基準値を下回る数値ではありますが、分屯地に最も近い地点で確認された結果として今後の推移を注視する必要があると考えます。今回の地中構造物の発見を受けて、ＰＦＡＳを毎年の地下水モニタリング調査に組み入れる考えについてお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

まず、この場をお借りしまして、経過報告を少し追加させていただきたいと思います。先週６月17日木曜日から汚染水の回収作業が始まっておりまして、これが進んでおり、22日月曜日から汚染水とともに構造物にたまった沈殿物、これの回収作業に入ったというふうに報告を受けております。

それでは、ご質問のほうにお答えいたします。環境衛生局においては、令和４年、令和５年にＰＦＯＳ、ＰＦＯＡの調査を行っておりますが、その後令和８年度から令和10年度にかけての３か年間についても年１回５か所で調査するということで、予算計上と、それから債務負担行為の設定をさせていただいております。今年度については、この案件について事情を把握する前で既に実施済みでしたので、上野流域では調査していないんですけども、今後は沖縄防衛局の調査と重複しないように、かつ連携した上で調査地点を選定して、継続的な調査を行ってまいりたいというふうに考えています。

◎下地　茜君

少し確認をしたいんですが、５か所というところでした。防衛省と連携した上でということなんですけれども、防衛省が基本的に敷地内を対応していくかと思うんですけれども、上野周辺のこの駐屯地周辺の調査というのは今後加えていくのか、その辺り少し分かりにくかったので、お聞かせください。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

調査の方法については、ただいま沖縄防衛局と調整中なんですけども、少なくとも上野流域に関しては沖縄防衛局、または市のほうで必ずカバーできるようにということで調整しているところです。

◎下地　茜君

今のところ市がやるか沖縄防衛局がやるかというところはまだ未定だけれども、いずれかの方法で近隣についての上野の流域ですか、についても調査は検討していくということですね。ありがとうございます。

推移も含めて調査を続けること、市民の水に対する安心、また本市の早い対応にもつながると思いますので、しっかり取り組んでいただきたいと思っております。

それから、水道部では水道水源についても継続的な調査を行っていると思います。公表資料によると、袖山水源では令和６年２月に６ナノグラムパーリットル、令和７年の11月には７ナノグラムパーリットルが検出されています。数値そのものは低い水準ではありますが、継続的な調査によって、その推移を確認できる状況にあります。こうした調査、単に数値を監視するだけではなく、汚染の由来であったり、広がり方を分析する手がかりにもなるかと思うんです。今回の地中構造物の発見は、まずこの水源地の数値を見て、ＰＦＡＳがどこから来ているのか、そしてどのような対策が必要なのかをより詳しく調べる契機になるかもしれません。水道水源のＰＦＡＳの検出について本市の見解をお伺いいたします。

◎水道部長（砂川　勤君）

ご指摘の２か所の水源において、原因は不明となっております。ＰＦＡＳ濃度が継続して確認されており、直近では令和８年５月の水質検査で１リットル当たり３ナノグラムと国の定めた基準値を下回っております。また、これまでも微量ながら検出されていることから、引き続きモニタリングを実施し、適切な水質管理に努めてまいります。

◎下地　茜君

実はこのムカワノカーの数値、５ナノグラムパーリットルよりも少し高い数値が出ているなと思っていまして、そしてこれが毎年少し、袖山水源と申しましたが、別の水源地でももう少し下の水準で出ているんです。なので、これを継続的にもちろんモニタリングも必要だと思うんですけれども、分析であったり、今回のこの件をきっかけにして、少し沖縄防衛局にも調査に協力していただくなど、取組が必要なんではないかなと思っています。

少し話が戻りますが、今回の件を受けて、本市として具体的にどのような方針が必要か、専門家に意見を伺う機会も必要かと思いますが、地下水審議会、特に学術部会を開催する考えがあるかお伺いいたします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

現在野原岳周辺では、令和４年度から令和５年度にかけて、水道部のほうで地下水及び地質構造に関する詳細な調査を実施済みであります。沖縄防衛局との調査等に関する、あるいは対策に関する協議においては、今私たちが持っている既存の知見である程度対応は可能かと思うんですけども、今下地茜議員おっしゃった地下水審議会の学術部会、こちらのほう適宜指導を仰いでまいりたいというふうに考えております。

◎下地　茜君

防衛省の対応については、市への情報共有までに時間を要したことから、対応が迅速ではなかったんではないかという指摘も出ているところです。市がまず対応と調査について防衛省に求めていくことはもっともなことだと思いますが、一方で市民の生活を支える大切な地下水資源を守るためには市としても主体的な対応が求められると思います。地下水審議会、また学術部会開いて聞いていくということは、主体的な対応というのが判断できていくかなと思いますので、実施する予定ということですが、ぜひ実施していただきたいと思っています。ぜひ敷地外への影響がないかを確認するためにもモニタリング調査の強化や

分析など、市が担える取組を早急に進めていただきたいと思います。

では、少し飛ばして、７番の基地行政についてお伺いしたいと思います。宮古島市では６月25日から、明日から予定されている日米共同訓練についてです。過去行政が市民に対し、どのような説明を行ってきたか確認したいと思います。

①についてですが、2016年、これは月が10月28日ということでしたか、ですけれども、2016年に防衛省が宮古島市民に対して事前説明会を行っています。その際に配備に関する説明、オスプレイに関しても言及しておりますので、どのような説明がなされたのかをお伺いいたします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

防衛省は2016年、これは平成28年になります。10月に陸上自衛隊配備に関する住民説明会を開催するに当たり、住民の皆様からの事前質問に対する回答をホームページに掲載しております。その中では、オスプレイの配備はあるのかという問いに対しまして、現時点で宮古島市にオスプレイを配備する計画はない旨の回答が示されております。

◎下地　茜君

では、日米共同訓練については、同じこの事前説明会でどのように説明がなされていたかお伺いいたします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

これも防衛省のホームページに掲載されております。陸上自衛隊配置についての住民説明会の事前質問への回答において、日米共同訓練については現時点において具体的な訓練計画等は決まっておらず、宮古島市において日米共同訓練を行う計画はない旨の回答が示されております。

◎下地　茜君

今回の既に始まっている日米共同訓練ですけれども、オスプレイの飛来を伴う日米共同訓練、宮古島市で行うということで、説明と異なるのではないかと思いますが、この辺りはどのように説明されますか。

（「下地議員、確認です」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時44分）

再開します。

（再開＝午前10時44分）

◎市長（嘉数　登君）

この2016年の質問に対する回答ということで、先ほど現時点で宮古島市にオスプレイを配備する計画はございませんという回答がございました。これ質問が２つ出ておりまして、１つにはオスプレイの配備はあるかということと、オスプレイも来るんでしょうかという問いに対して、その当時、現時点では宮古島市にオスプレイを配備する計画はないというような回答があったというふうに受け止めております。

それから、日米共同訓練につきましても同様の回答といいますか、当時、現時点で当該駐屯地を使用して、米軍と共同訓練を行う具体的な計画もありませんというような回答があったかというふうに思っておりますけども、今回日米共同訓練が実施されることについては、この間の日本、それから南西諸島、宮古

島市を含む安全保障の環境が変化してきているということを捉まえてのことだというふうに受け止めております。

◎下地　茜君

環境が変化したということは、きちんと説明を受けていないわけです、市民は。なので、察してくれということなのか、本来は説明会ということになろうかと思いますけれども、そこについては何かございますか。

◎市長（嘉数　登君）

この件といいますか、自衛隊の装備、配備ですとか訓練につきましては、市民の中からその都度丁寧な説明をというようなことが上がってきていて、宮古島市もその旨を沖縄防衛局あるいは防衛省にも伝えてきたところだというふうに思っております。

今回宮古島市主催で意見交換会を５地区で開催をさせていただきました。日米共同訓練に賛否もありましたし、それからもろもろの意見がございました。もちろんそれは国のほうに伝えてまいりますけども、この間国に求めておりました情報提供の機会という意味では、７月19日に開催するということがございましたので、市民の声といいますか、市の声を真摯に検討していただいた結果なのかなというふうに受け止めております。

◎下地　茜君

防衛セミナーのお話もありました。これは、毎年県内で沖縄防衛局が主催して、年数回開催されているものかと思います。国の安全保障政策への理解を求める一般的な広報事業、当初の説明との整合性や方針の経緯について住民に説明責任を果たす場とは性格が異なるのではないかと思っています。市長の認識では、国が広報事業である防衛セミナーを今回の方向変換について住民に説明する場として位置づけているという認識なのか、そのような説明会で十分足りるというお考えなのかお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

今回の訓練の背景にありますものは、先ほど来申し上げているように日本、南西諸島、それから宮古島市を取り巻く安全保障の環境の変化というところが一番あるのかなというふうに思っておりまして、やはりそこは専門的な知見を持っている防衛省が市民に丁寧に説明することが必要だというふうに思っております。まずそこを理解した上でないと、我々といいますか、市民も訓練の必要性についてなかなか納得がいかないという部分もあるのかなというふうに考えておりまして、そういう部分も含めて今回国のほうには情報提供の機会ということを求めてきた経緯でございます。

◎下地　茜君

まさに情報提供の機会というお話がありましたが、恐らく市民が求めているのは情報提供の機会ではなく、説明責任を果たす場だと思うんです。市民の説明責任の重さ等も示されている対応との間に、大きなギャップがあるんではないかと思っています。

少し先に進んで、市長が選挙期間中に米軍については自粛すべきと述べられてきたことについて、これは令和７年、昨年の３月定例会で市長として日米共同訓練で米軍の訓練があった際、自粛を要請していくかという私の質問に対して、市長、何とご答弁されたか、いま一度お聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

令和７年３月定例会におきまして、下地茜議員からの米軍の施設使用について自粛を求めるかという質問に対して、緊急時以外は自粛を求めていく立場であると申し上げております。

◎下地　茜君

沖縄防衛局の説明もそうですが、また市長の説明、当初とは異なる現状だとお認めになりますか。

◎市長（嘉数　登君）

今回日米共同訓練について受け入れた、容認したということは、私は昨年来といいますか、日本の安全保障環境を捉えまして、その都度考える必要があるということも申し上げております。先ほど来申し上げているように南西諸島を取り巻く安全保障環境は、現在一層厳しさを増しており、中国公船による領海侵犯、それから尖閣諸島周辺での漁業者の皆様の操業困難など、周辺国の軍事動向は活発化しておりますので、そうしたことを総合的に勘案しまして、今回日米共同訓練が必要であるというふうに判断をいたしました。

◎下地　茜君

市長、抑止力の強化のために、必要な訓練というふうにおっしゃいます。ですが、今回の訓練、災害救助というふうに書いてありました。それも抑止力の強化となるのか。つまり平時のみならず、有事の実働も想定しているということなのか確認させてください。

◎市長（嘉数　登君）

今回の訓練は、日米双方による日本の防衛、すなわち自己防衛と大規模災害時の輸送救助という観点から、必要最低限の範囲内で実施するというところでありますので、その必要性を私は理解しているところでございます。何といっても市民の生命と財産、地域の安全を守るという市長の職責を果たす上で、これあらゆる可能性といいますか、それを排除しない形で判断をさせていただきました。

◎下地　茜君

では、有事対処としても想定しているということですね。

以前石垣市の国民保護の説明会で、有事になってからの避難で間に合うのかという質問に、石垣市長がこう述べられていました。米軍、自衛隊が展開する事態になってからの避難は想定していない。それよりもっと早い段階での避難になるということです。米軍、自衛隊がこの島で展開する状況になったときには民間人は避難していて、島にはもう誰もいない。国防上そう想定されているのではないでしょうか。与那国前町長もおっしゃっておられました。民間人と軍人がごっちゃになるような状況はつくるべきではない。国際法の軍民分離の原則です。

日米共同訓練がこの島で行われるということは、私たちがこの島から出ていくこととおのずとセットとなる。市長は、そうならないための抑止力の強化と言うかもしれませんが、なぜその抑止力をこの島に置く必要があるのか。その結果として住民が負うリスクは誰がどう説明されてきたのか。抑止力が必要だとして、そのコストを誰が負い、そのコストについて誰が説明をするのか、納得できる市民がどれほどいるんでしょうか。市長、抑止力のために負わされる私たちのリスクについて、市長はないと考え、説明不要とする立場でしょうか、あるいは国なりが説明すべきだと考えますか。お考えをお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

国防政策についての説明責任は、これ第一義的には国にあるというふうに思っておりますし、今後も情

報提供の機会を含めて、国のほうには求めてまいりたいというふうに思っております。一方で、私は市民の生命、財産、それから平穏な暮らしを守る責務がありますので、国から提供された情報については速やかに、可能な限り丁寧に市民の皆様に提供していきたいというふうに考えております。

◎下地　茜君

国防は国の専権事項とはいいますが、国民保護はやはり市にもスキームがありますので、これが一体となっている状況、どちらか切り離せないような状況を考えると、一方のメリットは言うけれども、一方のデメリットは言わないというような状況が今あるかと思いますので、国民保護の説明というと防衛省ではなく、内閣官房になりますけれども、その辺りのやはり説明責任なかなか果たされていないんではないかと思うので、そこはしっかり求めていただきたいなと思っています。

国民保護について、次回にこちらしっかりお聞きしたいと思うんです。なぜ今回ではないかというと、質問提出した後に県なりに少し聞き取りをすると、少し言っていることのニュアンスのずれが感じられましたので、これに関してはもう少しこのニュアンスのずれを詰めて、次回以降にお聞きしたいと思っております。

問題提起だけしますと、現在本市は島外避難のシミュレーションを行っていますが、これはどこが主体かとなるとやや曖昧です。国は、市町村に協力しているというふうに言っていて、県はというと国と県、今回は県が主催というものではなく、市町村との共催ということです。国や県の説明を総合すると、やや市町村の責務が重くなっている印象です。シェルターの運用も検討されていますが、これも含めて国民保護計画にどう反映されるんですかというと、これも国と県、市町村の認識ってそれぞれニュアンスが異なるんです。先週末、市長との意見交換会では、自助、共助、公助という考え方に触れる参加者もいました。これは、災害対策基本法の文脈なら理解できます。ですが、国民保護法の話でまず自助と言い始めると、少し事情が異なってきます。なぜなら市民が自ら判断するために必要な情報を、市あるいは市民はそもそも持っていないからです。今市長が他県に足を延ばすなど積極的な姿勢も見られますが、そのことは国民保護法の何に基づき、国民保護法のどこに反映されるのか、また次回以降細かくお聞きしたいと思います。

５分余りましたが、早く皆さんがお昼に行けるように、以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで下地茜君の質問は終了しました。

◎仲間誉人君

議席番号12番、Ｎｅｘｔみやこの仲間誉人といいます。早速ではございますが、通告に従いまして一般質問を進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、質問の順番を変えたいと思います。先に８番の環境衛生行政についてです。不法投棄について、島内ごみゼロ大作戦において撤去し切れなかった不法投棄場所の対応についてでございます。５月30日の語呂合わせのごみゼロの日ということで、宮古島全域で一斉にごみ拾いをしませんかという呼びかけがあり、主催が宮古の海をキレイにし隊、そして協力が宮古島市役所の下、島内ごみゼロ大作戦が実施をされております。この日は目の前にあるごみを１つ拾うと、宮古島全域で一斉にごみを拾う、皆さんも身近な場所でごみ拾いを行い、ごみのない美ぎ島にしていきましょうということでありました。そして、各地区

でごみ拾いが行われたと思っております。私も参加をしました。伊良部仲地の仲地橋近くで、朝の５時50分に集合をいたしまして、参加が大体30人ぐらいですか。約２時間ほど拾ったんですが、量がすごくて、全て拾い切れない状況でありました。その場所については、不法投棄のごみが何年も投棄されてきた、蓄積されてきた場所であると。指定ごみ袋以外の以前の黒いごみ袋であったり、空き缶のラベル等も古いラベル等が見受けられましたので、そういうふうに思いました。以前のごみ拾い活動の中で拾い切れなかった場所、それ以降もその後５か月をかけて全て撤去したという場所もあったというふうに聞いております。そういった撤去し切れなかった場所の対応について伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

まず、今回ごみゼロの日の呼びかけにたくさんの市民の皆さん、議員の皆さんが応じてくださり、参加してくださいましたことにお礼申し上げたいと思います。

ご質問の回収し切れなかったごみの件です。不法投棄ごみの撤去は、投棄した者が撤去すべきというのが大前提にはなるんですが、投棄した者が特定できない場合は法律上その処理は土地の所有者、または管理者の責務とされております。ご指摘のあった場所は、土地の所有者等は現在確認中なんですが、民有地だった場合市が直営でやるか、委託でやるかにかかわらず、市が撤去することはできません。しかしながら、大量の不法投棄物の撤去は、民間にとって大きな負担となっていることは事実であります。市としては、何らかの支援策を講じる必要があると感じるところですが、県外の自治体では民有地の不法投棄の撤去に関して補助金を交付している事例もありますので、現在財源の確保も含めて、同様の補助制度を導入できないかどうか検討しているところでございます。

◎仲間誉人君

その土地の所有者での撤去と、そしてもちろん投棄した方の責任において撤去をするということでありますけれども、この予算の確保に向けて動いていくということでの答弁だと思いますけれども、撤去をする際の予算の確保ができれば撤去に向かうということであります。撤去された場所を道路建設課のほうに行って、土地の所有者、名義確認をしたところ伊良部町という表示があったと思いますので、その辺もちゃんと調べて適切に対処をしていただきたいと思っておりますが、民有地だった場合等を考えたときに、その場所の撤去を地域の自治会等に委託をすることも考えていただきたいなと思っております。というのは、やはり自治会へ委託をすることで自治会が活動費を、体力をつけるという意味でも、自治会の活動が活性化すれば地域のにぎわいにもつながっていくのかなというふうに思っておりますけれども、当局の見解を伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

不法投棄ごみの撤去は、現在市の土地に関しては一部委託業務を行っているとこですけども、ごみの回収、運搬については法律に基づくごみの収集、運搬業務の許可が必要となりますので、自治会への委託というのはちょっと難しいかもしれません。また、民有地に関しては市のほうで委託するというわけにいきませんので、今後制度整備、財源の確保も含めて、できた場合には補助という形での対応ということも検討してまいりたいと思っております。

◎仲間誉人君

環境衛生局長、しっかりと調べをした上で適切に対処していきたいというふうな答弁でありますので、

ぜひとも適切な対処ができるようにお願いをいたします。

次の質問に移ります。次は１、防災行政についてです。災害時の避難所、学校施設についてです。①、停電時の対応について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

停電時の対応についてということで、すみません。聞き取りの際、停電時の給水の話だったと思っているのですが、その答弁でよろしいですか。聞き取りの中では停電時の給水についてという話であったもんですから、それでお答えしたいと思っております。

停電時の給水については、各小中学校、避難所となっているところがあります。その中で停電時の給水についてなんですけども、現在結の橋学園、また西辺中学校改修した中で、受水槽の方式を使っているところがありますので、それとあと平良第一小学校が高架タンク方式という形になっておりまして、停電時には給水が止まってしまう可能性があるというふうに聞いております。その他の学校につきましては、水道直結方式を採用しておりまして、停電時においても給水は可能となっております。

◎仲間誉人君

予備電源等があるというふうにも聞いております。私が聞き取りをした中では、結の橋学園に停電が発生した際に、水のくみ上げポンプが使えないということで、子供たちを下校させたという事例を聞いております。その後予備電源の設備が設置をされているというふうに聞いておりますけれども、その予備電源の設備、燃料がガソリンだと思うんですけれども、３時間しかもたないというふうに学校側からは聞いております。そして、その予備電源を動かすことについて、専門の担当者が来て動かすことでなければ、すぐ作動はさせられないというふうに聞いております。作動したとして、教職員にもこの使い方というのは伝えるべきであるかなと私は考えております。

そして、ガソリンの燃料が切れた際の、３時間経過しても、停電が改善されなかったという点、ガソリンが切れた際に追加で入れる例えば市内のガソリンスタンド等、給油販売施設等との協定等は結ばれているのか伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

結の橋学園につきましては、おととしの４月に宮古島市が全島停電があったところであります。その中で約８時間半ほど停電をしたというところがあって、ほぼ全域にわたって約２万5,500世帯が停電したというところがありました。その際に結の橋学園のほうの水の給水ができなかったというところもありました。それを受けて、令和６年の10月に非常用電源、発電機を設置をしたところです。その中でこの非常用発電機に関しては、停電して作動した中で、２時間ほどしか稼働できないというふうに聞いております。２時間ほどしか稼働できないんですけれども、近くに燃料の貯蔵タンクを設置しておりますので、台風シーズン前後に、適切な時期に点検、補充を行っているところであります。また、災害時においても、安全面に配慮しながら燃料の補充をやっていこうということで、一応委託業者と契約を結んでいるところであります。

◎仲間誉人君

次の質問に移ります。

②、職員の就業時間外の対応についてですが、休日や夜間等、避難者が学校に来た場合の対応はどうす

るのか伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

時間外の放課後、夜間、休日の災害が発生した際の学校の対応についてお答えいたします。

放課後、夜間、休日の時間外に災害が発生した際には避難所となる学校施設を開放しないといけないところであります。ただ、その前に施設の安全確認をした上で避難所の開設に向けて準備していくこととなっております。ただ、夜間、休日においては、学校職員が学校近隣に住んでいる場合は問題はないというふうに考えておりますけども、伊良部島であったりとか池間島にあっては橋でつながっているところもあって、橋が通行止めになった際の課題があるというふうには考えております。そういう意味では早期に避難所の開設をしないといけないところがありますので、その中では学校と地域が連携して取り組んでいく必要があると考えております。

◎仲間誉人君

そういった場合の対応については、近い場所に住んでいる教職員がいればその方が対応すると。そして、橋が通らない場合の対応は、地域とも関わりを持ちながらいくということでありますけれども、やはり橋を渡ってくる教職員のほうが多いというふうに私は思っております。なので、地域との連携が必要であるかなと。また、協議等、どういった備えをするのか必要であると思いますけれども、それを踏まえて次の質問に移ります。

③、学校教職員と地域との連携について伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

学校と地域との連携についてお答えいたします。

避難所運営については、学校が主体となって行うということではなくて、本市の地域防災計画の避難所開設運営マニュアルというのがありまして、その基本方針においては避難所は地域住民の自治による運営を目指すとうたわれていることから、事前に市の担当職員、地域住民、また学校側で組織する避難所運営委員会を設置しないといけないと考えております。各学校における避難所運営委員会を設置する中で、現在避難所運営委員会が立ち上がっていないところもありますので、早期に設置をしていきたいと考えております。今後は各学校において避難所運営委員会を設置する必要もありまして、学校運営協議会等とこのことについて協議をしておく必要があると考えておりまして、引き続き学校や関係部局と連携をして取り組んでいきたいと考えているところです。

◎仲間誉人君

避難所については学校が主体ではないという答弁がありましたけれども、学校は校長先生が管理はしているというふうに思いますので、やはり何かする場合にも校長の判断で行われるというふうに思っております。なので、主体ではないというのはちょっと違うのかなと私は考えております。しかし、やはり先ほどの答弁であったとおり橋が通れなかった場合の対応については、地域が主体となって動く可能性も追求するべきところかなと私は考えております。

それで、地域との連携という点については、先日の21日に佐良浜地区の土砂災害避難訓練がありました。そこには宮古島市、そして宮古島警察署、宮古島市消防、行政連絡員と地域自治会等が一体となっての訓練がございました。避難場所や避難ルートの確認、そして自助、共助、近隣住民等への注意の呼びかけや、

また応急手当ての方法と止血方法や骨折時に新聞紙、タオルを使った固定方法、また毛布と棒を使った応急担架の作り方など、消防職員が丁寧に説明をされておりました。学校でもこういった勉強会とか体験するのも必要かなと思っております。そして、21日には避難所に飲み水のほか、赤十字社の炊き出し等もございました。そして、その際に、飲料水は担当職員が多分準備をされたというふうに思っておりますけれども、以前津波警報が出た際に避難指示が出ました。そして、結の橋学園が避難所に指定されていることで避難してきた方がいたと。しかしながら、水の備蓄がなかった。そして、慌てて先生方が自分たちの持っていた水を、ペットボトルを提供したと。学校施設を含めた避難所指定場所には、最低限飲料水の備蓄の必要性があると考えますけれども、当局の見解を伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

先日行われました土砂災害訓練には、仲間誉人議員も参加していただきまして、ありがとうございました。

先ほど教育部長が答弁しましたように、避難所を開設し、また運営するには市職員だけではなくて、地域の住民や学校教職員とも協力しながら対応していくことが基本であると考えております。特に災害への備えや災害が起きたときの必要な支援には自助、共助、公助、先ほど仲間誉人議員もおっしゃっていましたが、その中でも地域住民が協力して自分たちの身を守る共助と自助が防災や減災の要になると考えております。そのため市においては、共助、自助の連携は地域防災力の向上に役立つため、地域における自主防災組織の結成を各地域で促しているところでございます。今後地域での防災講話等において、自主防災組織の必要性を伝えることで自主防災組織が結成され、学校区において地域住民、自治会、学校と連携した訓練が実施できないか考えていきたいと思っております。

また、備蓄品につきましては、現在市では集中管理をしているところでございますが、仲間誉人議員がおっしゃっていたように避難所への設置についても市民から意見がありますので、庁内でも分散配置がいいのかどうかというものを検討させていただきたいと思っております。

◎仲間誉人君

ぜひ設置に向けて動いていただきたいというふうに思っております。やはり避難してくる方々は、避難所に着くと喉が乾いていると思います。また、先ほどあった停電になって、水が出ないという想定もされると思っております。やはり災害は、いつ起きるか分からないというのが前提ではありますけれども、やはり皆さん承知をしているとは思いますけれども、地域の皆さんも実際に起こることを想定して、本当に危機感を持って参加をしていただきたいなというのが、私は今回訓練に参加をしての思いであります。20名ぐらいですか、避難を想定して避難所に来た方々は。やはり少ないなという印象を受けました。起こったときにどうするかの対応をやはり地域の方々が本当に真剣に考えていないと、被害が拡大するかも分からないというところであります。

これは、要望ではございますけれども、今回は市と消防、警察署が参加をしていただいておりますけれども、次回はぜひ、私の考えでありますけども、自衛隊の方も協力をいただきたい。そして、いろんな目線からの災害への対応の備え、そして訓練を行っていただければと思っております。やはり日米共同訓練についても、あらゆる面での対応、備えをしっかりと行っていただきたい。そして、市民の生命と財産を守っていただきたいというふうに思っております。

次の質問に移ります。次に、２、教育行政についてです。文部科学省は、教育ＤＸの一環として、ＡＲなどの先端技術の活用を推進しています。そこで、学校教育におけるＡＲ技術の導入について当局の見解を伺います。

◎教育長（宮城克典君）

オーグメンテッド・リアリティー、通称ＡＲ技術は、拡張現実と呼ばれる現実の風景や物体にデジタル情報を重ねて表示する技術であります。近年教育現場においては、授業で児童生徒の理解を助ける教材として活用される可能性があるものとして認識しております。

◎仲間誉人君

ＡＲといっても、やはり種類、多くのカテゴリーと教科とありますけれども、文部科学省の認可を受けた、スポーツ庁の認定を受けたスポーツの導入について私は話をしていきたいと思っております。

ＡＲスポーツによる体験型の学習においてというのは、年齢差、体格差、性差関係なくできる競技であると。その中の日本発祥の代表的なＡＲスポーツということで、ＨＡＤＯという名称のスポーツがございます。ゴーグルを着用し、腕にはスマホを着用して行うというスポーツでございます。そのＨＡＤＯを、ＡＲの活用を教育現場でできないかという。私は、聞き取りをしたところでございますけれども、都心部においては高校、大学、そして有名大学、神奈川県においては単元として導入され、単元化をされているとしています。九州においても、スポーツで有名な高校には部活動まで設置をしているというふうに聞いております。やはり体育の授業での活用、そして九州の学校ではふるさと納税を活用して、中学校に導入をしたという事例があるというふうに聞いております。地域交流としての活用実績も、そしてＡＲスポーツの導入が変えた体育の時間、そして不登校の改善につながった小学校の実践例もあるというふうに聞いております。先日の不登校の質問については、先日の狩俣勝紀議員の質問で、宮古島市における不登校児童の数が322名ということで増加傾向にあると。そして、対策としては不登校対策プロジェクトチームを８月に立ち上げるというふうに答弁がありました。

文部科学省においては、高校の教育改革に関する基本方針を設定をいたして、2040年に向けた高校生の姿、Ｎ―Ｅ．Ｘ．Ｔハイスクール構想を上げております。全ての高校生の多様な個性やニーズ、そして興味、関心に応じた教育機会、アクセスの確保を確立することで、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成するとしております。県内ではＡＲを活用したイベントの開催はありますけれども、まだ自治体への導入事例がないということであります。県内に先駆けて宮古島市が取り組むことで話題性が生まれたり、不登校への支援、こども家庭庁などがうたっている非認知能力の向上、またこれからのＩＴ、ＤＸに関連した人材の育成につながるというふうに私は思っております。そして、移住者も呼び込めるなど、学校同士の交流、また総合学習が図られるなどの効果が期待をできると考えております。小学生、中学生対象として小中一貫校で導入した場合においては、小学校では体育の授業、中学校では職業体験も含めた探求学習での導入をという声もあります。子供たちの学びの環境、遊びの環境の変化にも対応できるのかなというふうに考えております。教育長の見解を伺います。

◎教育長（宮城克典君）

仲間誉人議員からもご紹介いただいたＡＲスポーツ､その一つとしてＨＡＤＯというものがございます。現在本市小中学校においては、ＡＲ技術の一つとしてＨＡＤＯ等を活用した行事とか授業は導入しており

ません。今後の取組としては、文部科学省の情報や先進自治体の取組等を注視することに加え、まずは私自身、あるいは担当職員もこのＨＡＤＯというものを体験会や実践会等で自分自身が体験し、参加する中で教育的効果性を確認することも必要であるというふうに考えております。また、仲間誉人議員からもご指摘あった不登校対策、私のほうも喫緊の課題として感じておりますので、まずＨＡＤＯというのは私自身がＹｏｕＴｕｂｅで見た限りにおいては、とても効果性あるものというふうに思いました。それを体験に代えて、それから先進自治体、あと他県の学校、体育授業に取り入れているところもありますので、情報収集をした上で、また検討してまいりたいというふうに思います。

◎仲間誉人君

教育長、宮古島市内のホテルにおいても、大手のホテルでありますけれども、早ければ７月に導入を予定をしているというふうに聞いております。この導入するホテルとの連携も含めて、試験的な導入、やはり教育長がおっしゃられていた体験会、実演会でのイベントとしての体験導入も含めて検討をお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。次、結の橋学園、①、建設中プールの進捗状況を伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

結の橋学園に建設中のプールの進捗状況なんですけども、当初７月末の工期を予定しておりまして、５月末時点の進捗率といいますと64％となっております。中東情勢の影響もあって、一部建築資材の納期の遅れ、また資材の注文の停止などの報告を施工者のほうから受けております。特に塗装材については、メーカー側から明確な納期の回答が得られていないという状況となっております。このような状況から、工期の最終月である来月には改めて今後の見通しについて、また完成時期について協議を行って、工期の延長について検討する予定となっております。

なお、学校側にも同様の理由から工期について遅れる可能性が高いという説明をしておりまして、ご理解をいただいているところです。

◎仲間誉人君

６月末で64％ということで……

（「５月」の声あり）

◎仲間誉人君

５月末で64％という。７月末で工期を終えるという予定であったというふうな答弁でございますけども、今定例会において議決内容の変更、設計変更が行われております。その内容が土間コンクリートの追加、そして校舎とプールの間の段差、駐車スペースとしての活用をするということで盛土、土間コンクリートについて２点舗装を行うとしておりますけれども、この中東情勢による資材が入ってこない、納期が遅れているという含めて、トータルの工期の延長、供用開始、いつ頃になるのかはこれから協議をしていくということですか。分かりました。やはり７月末が工期であったことに対して、これまで建設用重機等の進入路の課題もありましたし、今度は追加、設計変更もある。そして、中東情勢が絡んできての工期の延長が図られているということでありますけれども、やはり子供たちが楽しみにしているプールなんです。なので、早期に着工、供用開始に向けてもらいたいというのは本音ではありますけども、中東情勢等いろんな課題があっての工期の延長と。いろんな協議、対策をした上で、早期に進められるようにお願いをした

いと思います。これは、要望で伝えておきます。

次の質問に移ります。３、漁業行政についてです。１、カツオ一本釣り漁について、①、一本釣り漁の餌取り漁師が年々減少傾向にある現状について当局の見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

一本釣り漁の生き餌捕獲につきましては、アギヤー漁の漁業者が行っておりますが、昨年アギヤー漁を行う漁船が３隻から２隻に減少し､乗組員においても高齢化が深刻になっている状況は把握しております。

◎仲間誉人君

伝統漁法、アギヤーについての支援は行っているけれども、３隻あった餌取り船が２隻になっている。そして、高齢化もあって減少の傾向にあるということでありますけども、これは聞き取りは漁業協同組合から受けたんですか。お伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

現状につきましては、仲間誉人議員から情報をいただいたところです。

◎仲間誉人君

そうですよね。私が伝えました。できれば言ってほしくないです。漁業協同組合から聞いたと言ってください。

私もやはり課題があるから、課題に対してどういうふうに向き合うかということで漁師にも聞き取りをするんです。これまでもいろんな聞き取りをしてきましたけれども、今回の餌取りの現状について当局がどういうふうに考えているかという内容の質問であるんです。なので、アギヤー漁への支援、漁業支援を水産業振興補助金であるとか支援をしてきた経緯があるというふうに思いますけれども、その支援をしてきたにもかかわらず、漁師が、担い手が不足であったり、こういった続かない。そして、減少傾向にあるというのは、やはり何か取り組まないといけないというふうに私は思うんです。だから、今回はこういった質問をしていますけれども、課題として漁師の減少の要因としてやはり高齢化、先ほど農林水産部長答弁がありましたけれども、高齢化や、また未経験での挑戦が難しい特殊な漁であると。それに加えて収入が不安定である。漁に興味はあるものの、住む場所の確保ができていないなど、かなりハードルが高い。操業するに当たっても、操業支援が今のところないというふうに聞いてはおりますが、また操業するにしても、サバニの確保、ダイビングタンク、充填機、網、複数の潜水士、１人ではできませんので、複数の潜水漁師の確保など、設備の投資や人員の確保があって、かなりハードルが高いというふうに聞いております。やはり安定した餌取り漁の操業が継続することによって、安定したカツオ船の操業を支えていくというふうに私は思っております。増えることでアギヤー漁が活性化して、漁師の保全、担い手も続いていくのかなというふうに思っております。なので、やはり水産業振興補助金もそうなんですけれども、技術革新等も考えていかなければならないかなと思っております。追い込み漁もそうですけれども、集魚灯を使った事業、イワシ等をグルクンの代用できるような取組も必要かなと思っております。

そこで、私は聞き取りをした中で、課題の解決に向けていくには担い手を募集しても、住むところがないという点、そして漁船、漁具の老朽化による不安定操業を課題として聞いております。その点を踏まえて、②の支援策はあるか伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市としましては、漁業協同組合の事業計画に対し、水産業振興補助金として支援をしております。漁業協同組合は、その補助金を活用し、伝統漁法支援事業として漁で使用する網や漁具などの資材費について２分の１以内で補助は行っております。現在既存の補助事業のほか、国や県の補助事業の調査等を行いながら、漁業協同組合や関係機関と意見交換を行っていきたいと考えております。ご質問にあった住居も含めたことですけれども、以前の議会答弁の中で漁村再開発施設用地等を活用した定住環境の整備というのも答えてあるんですけれども、その場所は海沿いでございますので、津波等の心配もありまして、そこには整備は難しいかなとは考えておりますが、また別の観点で検討していきたいと考えております。

◎仲間誉人君

農林水産部長、やはり支援策を考える上で、いろんな聞き取り等が大事かなと私も考えております。もちろん答弁にもありましたけれども、先ほど私が課題に挙げた住居の不足については農林水産部長が答弁したとおり、令和６年９月の定例会において私が質問した答弁において、若い漁業者の定住に向けては、やはり仕事場、職場となる海に近いほうがいいというふうに考えております。この漁村再開発施設用地等については、漁民住宅というようなものも建設ができることとなっております。そういう市営住宅、まずどれぐらいの希望があるのか、入居希望があるとかニーズがあるとかいうのを各漁業協同組合の皆さんと確認、意見交換などをして考えていきたいというふうに思いますとその当時の農林水産部長が答弁をされました。今の答弁を聞くと、まだ調査はされていないというふうに理解しますが、どうですか。農林水産部長、答弁お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

漁業協同組合等を通して、意見交換は引き続き行っているところでございます。

◎仲間誉人君

引き続き意見交換をするということであります。住む場所の確保等が若者の定住、そして地域の産業、それは私の佐良浜という地域は漁業協同組合、水産業を通して活性化してきた地域でありますので、やはり地域を盛り上げるには漁業が必要であると私は考えております。なので、その取組として現在、夏場は漁業するけれども、冬場は農業をするという方も多くいらっしゃいます。１年を通して漁業を営んでいくという点については夏場一本釣り、餌取り、そして冬場はモズク漁を行うなどのやはり養殖業も含めた技術の革新を考えることが必要かなというふうに私は考えております。年間を通して漁業に従事できる法人化を含めた環境の構築を目指すことに向かって、行政が手助けをしていただきたいというふうに思っております。やはりそのためには意見交換が重要であるというふうに考えますけれども、市長の考えをお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

ただいま仲間誉人議員から貴重なご意見といいますか、大きなヒントをいただきましたので、意見交換を通じて市としてどう支援していけるかということと、やはりこういう事業をやってみたいという、自らやってみたいという、漁業者の皆様自体がどういう計画の下にこれを実施していくのかという、ある意味での成功までの物語というんですか、そこをきちんと行政と漁業者の皆さんで共有しなければいけないというふうに思っておりますので、ぜひ意見交換をさせていただきたいと思いますし、せんだっての海神祭、私も佐良浜のほうで声をかけていただきました。アギヤー漁ぜひとも復活したいというような声がありま

したので、もちろん議員からの情報提供も非常に貴重ではありますけども、行政自らが現場に足を運んで、情報収集したいというふうに考えております。

◎仲間誉人君

やはり意見交換を行った上で、漁業者も行政もやはりいい方向に進めたいというのは共通の認識であるというふうに思っておりますので、様々な意見を出し合った上で課題を洗い出し、何ができるのか、どういうふうに進めていけるのか協議をしていただきたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。４の農業行政について、さとうきび優良種苗安定確保事業についてです。種苗配付後の成果について伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

優良種苗を配付することでの反収向上などの具体的な恩恵の享受につきましては、品種ごとの特性、更新回数、圃場などの生産条件の差異、気象条件の影響などの外的要因も重なり、複合的になることから、詳細な数値等でもって効果を具体的に示すことは難しいものと考えております。サトウキビは、種子での増殖が困難なことから、成長した栄養体である苗を増殖する必要がありますが、増殖率が10倍程度と低い上に、ウイルス病や細菌病等に一度感染すると薬剤散布等の一般的な方法では防除が不可能であり、種苗を介して病気が伝染、拡散します。これらの罹病した種苗を農家が自家増殖し、繰り返し生産を行うと生産地では病気が蔓延し、収穫量が減少するなど大きな影響を及ぼすことになります。優良種苗の配付目的は、このような潜在的な状況を回避する効果がございます。そのため優良種苗の配付は、病害虫への抵抗性により、サトウキビの生産性向上、生産農家の安定生産に寄与していることから、生産農家についてはその恩恵は直接的に受けているものと認識しております。

◎仲間誉人君

この優良種苗安定確保事業についての質問でありますけども、配付後についてはやはり農家の使い方かもしれないですけれども、効果を示すのには難しいと、やはり恩恵は受けているものと考えておりますという答弁です。いい苗であれば、増やしていけば、やはり農家の反収増にもつながるというふうに思います。試験的でも配付後の反収アップにつながったのかという追跡や経過観察のデータ収集等も行うことで、地域によって、地域の土壌等にもよると思いますけれども、地域の特性、土質等、苗の品種にもよるというふうに思いますけれども、農家がやはり、答弁では受けているものという答弁でありましたけれども、実際この事業が農家に対してどれだけの恩恵を与えたのか、検証の必要性、それを行っていただきたいなと思っております。種苗配付後のデータの収集の必要性を検討したほうが単年度での、年度ごとに配付をしているというふうに思いますけれども、単年度での事業とか成果とかではなくて、年度をまたいで、次の年にも継続的なサトウキビの生産量の増と農家の収益増にもつながるというふうに私は考えるんですけども、当局の考えを伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

データ収集のご質問がございました。現時点で配付された種苗についての直接的なデータ収集は行っておりませんが、事業効果についての検証は必要と考えております。製糖工場を中心に、関係機関と意見交換をしながら、実施につきましては今後考えていきたいと思っております。

◎仲間誉人君

やはり関係機関と調整等、協議、調査に向かっては、簡単ではないとは思いますけれども、ぜひ生産農家のためにも実施をしていただきたいというふうに思います。

次の質問に移ります。次に、観光行政についてです。観光地における受入れ環境整備について、①、整備を求める声として、トイレ、シャワー、駐車場の整備を求める意見が多い現状について、当局の対応を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

本市を訪れた観光客の皆様に市内の観光を快適に楽しんでいただくためには、受入れ環境の充実は重要であると認識しております。本年３月に宮古島市を訪れた観光客の皆様を対象に実施したアンケートの結果では、トイレ、シャワー、駐車場の整備を求める声が多くありました。市としましては、令和２年度に策定した観光地の主要インフラ整備計画を基に観光施設の整備を進めておりますが､財源等の問題もあり、一部の施設の整備にとどまり、計画どおり進捗できない状況にあります。このような中、来年度から宿泊税の使途事業の執行も始まる予定ですので、その財源を有効活用し、市内の観光施設の整備を順次進め、観光客の受入れ態勢の強化を図りたいと考えております。

◎仲間誉人君

宿泊税の導入も含めて、駐車場等に関する質問については砂川和也議員も質問をしておりました。17ＥＮＤです。私も17ＥＮＤの要望、その際は道路建設課のほうに質問をしたというふうに思っておりますけども、この駐車場行って戻るときにどこかでＵターンしないといけないということが課題かなというふうに思っております。やはり駐車スペースがない分、行くと詰まっていくんです。前に車止まると、後ろから来たらもう出れなくなるというような状態が続くということで、以前に17ＥＮＤの入り口のほうをロータリー化できないかという質問をしたことがあります。その際は下地島、伊良部島が自然公園法として守られているので、そこが課題になってくるというふうな答弁がございました。やはり困っていることに対して県に伺いをかければ、何かしらの解決策が見つかるのかなというふうに私は考えております。観光地全てにおいて駐車場のスペースの課題は多いと思いますので、ぜひ観光課、そして道路建設課も一緒になって取り組んでいただきたいというふうに思っております。要望として伝えておきます。

次の質問に移ります。次、学校跡地についてです。１、旧佐良浜小学校の跡地利用について、①、利用計画について状況を伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

旧佐良浜小学校の跡地利用についてお答えいたします。

閉校した学校施設の利活用については、令和４年度に策定した閉校学校施設個別計画で位置づける優先順位にて、段階的に取組を進めることとなっております。計画上の順位としまして、まずは公共的な利活用を検討し、その次に地域による利活用の検討、いずれも実施しない場合に公募による民間利活用への検討へ移行することとしております。旧佐良浜小学校は、現在公共的利活用を、今検討する段階にございます。現在旧佐良浜小学校跡地の一部では、公共的利活用として児童館が設置されるとともに、こども園の整備への取組も進められております。それから、少子高齢化社会に対応する地域福祉の向上として、福祉の森構想の検討も行っているところでございます。

◎仲間誉人君

協議会を行っているということでありますけども、やはり閉校して６年、７年ですよね。いまだ、児童館とこども園は進んでいると思いますけれども、今回今年度、来年度で解体を行うということについて、公共的な取組を検討している段階という答弁でありますけども、昨年、令和７年の６月、地域の自治会、前里添自治会、池間添自治会から跡地の利活用についての要請が出されております。そこには若者の定住に向けた住環境の整備が挙げられております。この住環境の整備が挙げられていることから、今回３Ｄプリンターを活用した集合住宅の建設とかもありますけれども、そういった３Ｄプリンターを活用した住宅の建設というのは、考えは協議の中では出てきているのか伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

現在旧佐良浜小学校跡地については、旧校舎の解体に向けた設計業務の実施も進んでおりまして、これらのスケジュールを踏まえながら、公的利活用への検討を進める必要があると考えております。市としましては、現在進行、検討している取組も踏まえつつ、公共的利活用についての早期検討、完了を図るために、庁内において関係各課連携して議論、検討を行うための旧佐良浜小学校利活用・庁内検討チーム、これ仮称でございますが、これを組織し、取組を加速させたいと考えておりまして、来月には検討チームを設置したいと考えているところでございます。

◎仲間誉人君

来月には検討チームを立ち上げるということであります。この若者定住に向けた住環境の整備については、地域内にある事業所が地域優良賃貸住宅制度を活用しての建設の考えを持っている方もいますので、そこも含めた利活用方法が検討されれば地域にとってもプラスであるし、やはり地域内での事業所が手を挙げるということは、もう本当に地域を思ってのことだと私は考えておりますので、ぜひともそこも配慮をいただきながら協議の中に加えるとか、そういうふうに進めていってほしいと思っております。総務部長、どうですか。市長、どうですか。

◎総務部長（上地俊暢君）

仲間誉人議員からありました民間からのアイデアとか提案については、公共施設の利活用や地域の活性化等の事業展開することが重要だと考えておりますので、効果的な手法とか事業者からの提案等については、その都度庁内でも意見交換を行っていきたいと考えております。

◎仲間誉人君

総務部長、よろしくお願いいたします。

次、最後の質問です。道路行政について、佐良浜中央線（仮称）整備について、①、進捗状況を伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

佐良浜中央線の進捗状況についてでございます。本路線については、佐良浜地域振興協議会はじめ各団体の皆様からこれまで３度にわたり要請がございました。また、令和８年３月定例会におきましては、本件に関する陳情書の提出がございました。現在の進捗状況といたしましては、令和６年度に行った概略設計を基に、対象となる土地、家屋の所有者確認及び相続の有無について佐良浜地域振興協議会などと協力し、調査を実施しておりますが、調査を進める中で、未相続の土地が多く確認されております。こうしたことから、令和８年５月22日に佐良浜地域振興協議会の皆様の主催により、専門家を交えた相続に関する

勉強会を開催したと報告を受けております。事業採択要件について、県から全ての地権者の同意が求められているため、全員の同意がなければ事業の採択が見込めない状況にございます。また、未相続の土地についても、相続の見込みが確認されなければ、事業実施後に支障が出ることから、全ての地権者の同意、相続の見込みが確認された時点で沖縄県へ新規採択要望を行う予定です。

◎仲間誉人君

一般質問終了します。

◎議長（平良和彦君）

これで仲間誉人君の質問は終了しました。

午前の会議はこれにて休憩し、午後の会議は１時30分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午前11時59分）

再開します。

（再開＝午後１時30分）

午前に引き続き一般質問を続行します。

順次、質問の発言を許します。

◎富浜靖雄君

議席番号７番、公明党の富浜靖雄です。通告に従い一般質問を行います。よろしくお願いいたします。

まず初めに、市長の政治姿勢について。去る５月17日の日曜日に行われた平和と暮らしを守る宮古郡民大会において、市庁舎入り口前付近の集会で拡声機使用を市の職員が制止した問題について、今日午前中、下地茜議員も質問しておりましたが、私なりに疑問に思う点がありますので、質問させていただきます。

市役所の敷地内を使用する際、行政財産使用許可申請が必要だと認識しております。この申請書にそもそも拡声機を利用するための利用申請が必要なのかお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

庁舎における拡声機使用についてのご質問にお答えいたします。

市民、団体が行政財産を使用したい場合には、宮古島市財産管理規則第31条、行政財産の使用許可申請に基づき、行政財産使用許可申請書を提出していただくことになっております。その際に行政財産の名称、所在地、使用する部分の面積、使用目的、使用期間、その他必要な事項について申請書に記入していただくことになっております。庁舎は行政財産であることから、財産管理規則に基づき、申請書を提出していただくことになりますが、宮古島市庁舎管理規則第５条、許可を必要とする行為に明記されている市の機関以外の者が主催する集会又はこれに類する行為をすること、それから旗、まく、プラカードその他これらに類するもの又は拡声機、宣伝車等を所持し、若しくは持ち込もうとする行為をすることについては庁舎を使用する際に許可が必要な行為となることから、申請書のその他必要な事項の項目に記載していただくことになっております。

◎富浜靖雄君

今答弁のありました宮古島市庁舎管理規則第５条、許可を必要とする行為で、旗、まく、プラカードその他これらに類するもの又は拡声機、宣伝車等を所持し、若しくは持ち込もうとする行為というのがあり

ます。それに許可が必要なので、持ち込もうとする行為という文言もあるので、これは事前に聞き取りをして、その他の項目に書き込んでいただくというような形でやるという意味合いでよろしいでしょうか。

◎総務部長（上地俊暢君）

富浜靖雄議員ご指摘のとおり庁舎の使用許可申請書の中に、その他の事項のところに書き込んでいただくということになります。

◎富浜靖雄君

行政財産使用許可申請書、私も出したこともありますし、受け取ってやったこともあります。その他の項目は確かにあるので、そこに書き込んでいただくという形で許可という形、行政財産使用の利用を許可するという形になるということだと思っております。

続いての質問に行きます。この宮古島市庁舎管理規則の禁止事項にけん騒にわたる行為とあるんですけど、このけん騒にわたる行為とはどのような行為なのか当局の見解をお聞きしたいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

庁舎管理規則にあるけん騒にわたる行為についての見解でございます。宮古島市庁舎管理規則第４条、禁止行為でございますが、庁舎における禁止行為と定めているのは示威又はけん騒にわたる行為をすることという明記がございます。集会での拡声機の使用は、この行為に該当する可能性があると考えております。一方で、当日は日曜日でございまして、本庁舎には200台程度のスペースを持つ駐車場も含め、庁舎敷地は十分な余裕があります。平日のような公務への実質的な妨害、けん騒があったかについては、状況に応じた慎重な判断が必要であり、一律にけん騒と断定することは不適切であったと考えております。

◎富浜靖雄君

けん騒にわたる行為、けん騒というのを辞書で調べると、大勢の人が集まったり、物音がしたりしてやかましく、騒がしい状態のこと。私は、この庁舎前の集会においては、近隣住民にもやかましくないんではないかなと、騒がしいと感じることはないんではないかなと思います。ということは、やかましいとか騒がしいと思う人がいなければ、この集会している人だけであれば、集会している人だけがやかましいとか騒がしいとは思わないと思うので、これはけん騒には当たらないんではないかなと思います。周りの住民とか、苦情がない場合というか、苦情が来ないであろうという想定の下であれば、けん騒に当たらないと私は思っているんですけど、その点はどうでしょう。

◎総務部長（上地俊暢君）

けん騒と判断するかどうかというところでございますが、一般的に庁舎管理上の解釈としましては本庁舎の窓口業務や事務の円滑な執行が著しく妨げられるか、またはほかの来庁者に深刻な支障や不快感を与えるかを基準としているところでございます。質問の休日の閉庁時においては、事務妨害の程度をより緩和して、柔軟に解釈すべきであったと認識しているところでございます。

◎富浜靖雄君

柔軟に、そうですね。私もそう思います。いわゆる人がいない、窓口業務をしていない。それだったら私もけん騒に当たらないと思います。誰かがうるさいと言うわけではないので。ただ、もし違うイベントで、別の団体が別のところで、それに影響を与えるようだったらけん騒に値すると思います。なので、その柔軟な判断というのはぜひ今後やっていただきたいと思います。

続いての質問に行きます。新聞報道で基準を検討するとの発言が記載されておりました。どのように基準を検討しているのかお考えをお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

今後の申請時の対応についてでございます。今回窓口での職員の対応は、けん騒防止のための一方的な禁止の押しつけではなく、事前のトラブル防止を意識したお願いではございましたが、結果として申請者に対し、規則第５条第１項第５号に基づく条件つきの持込み許可の手続を案内できなかった点については運用の不備であったと認識しております。今後につきましては、申請時に平日か休日かなどの状況や駐車場の利用希望の有無を市側から確認し、休日の集会であれば音量は地声の補助程度にとどめ、第４条のけん騒にわたらないこと、駐車場は指定の範囲を利用することなどの具体的な条件を付して、事前に拡声機等の持込み、使用を許可できるよう事前確認マニュアル、それからチェックリストを整備しまして、丁寧な対話を通じた申請受付業務に努めてまいりたいと考えております。

◎富浜靖雄君

先ほども言いましたけど、私行政財産使用許可申請をしたことがあります。そのときのその他の部分にそういう拡声機持ち込みますよとか、プラカードを持ち込みますよとかいうのを聞かれたこともありませんし、逆に職員時代は聞いてやったこともありません。今総務部長の答弁では、マニュアルをつくりますと、それでチェックリストをやりますと。なので、これはある意味聞き取りの場でそういうふうにして職員がチェックしてやるのか、それとも書いてくださいと申請者に言うのかというのは、どういう対応を考えているかというのをお聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

事前確認マニュアルについては庁内で運用いたしますが、チェックリストにつきましては申請者のほうにも共有しまして、両方確認の上でチェックをするという形になると考えております。

◎富浜靖雄君

では、申請書を持ってきたときなのか、書くときか分からないんですけど、話し合いながらこういうふうな、ではこっちチェックですねとか、必要ですね、使いませんねというやり取りをしていくと。いいと思います。分かりやすく言うと、この問題の原点はそういう意思疎通だったと思うので、結局意思疎通さえしっかりできていれば、別にそんな大騒ぎするようなことではないと思います。なので、ぜひ市民に対しては丁寧な聞き取りというか、そういう申請時にもこういうことですよというのを分かりやすく説明していただいて、一番は市民にも役所の職員にも手間にならないようにしたほうがいいと思います。分かりやすく言うと、細かくチェックしたり、細かく申請したりすると、職員も手間ですし、ある意味借りようとする市民の方も手間になります。なので、その聞き取りの中で分かる範囲、できる範囲をある意味検討するようなイメージでやっていただければ本当にいいんではないかなと思いますので、ぜひそういうふうな形でやっていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の質問に移ります。宮古空港の駐車場の利用料金についてお伺いします。市空港課の男性職員の公金横領についてお伺いいたします。新聞によると、再発防止策について、原因の検証と公金の管理体制の見直しを含めた防止策を速やかに講じていくとの報道がありました。豊見山貴仁議員への答弁にもありましたが、再度この防止策についてお伺いいたします。

◎副市長（砂川　朗君）

宮古空港での駐車料金の公金横領の事案についてでございます。去る令和８年４月22日に発覚いたしました市職員による公金横領事案は、行政に対する市民の信頼を著しく損なうものであり、その発生を防げなかったことにつきまして、誠に申し訳ございませんでした。事案発生後は、現金取扱いの手続の中で不正が発生し得ることがないか再点検するとともに、再発防止を徹底することを指示しているところです。今後このような重大な不正行為が起きないよう、組織体制の強化と業務プロセスの徹底に努めてまいりたいというふうに考えております。具体的な再発防止策につきましては、担当部長のほうで説明いたします。

◎建設部長（下地睦子君）

今回の事案が発生した状況につきまして、年間365日３交代制の勤務体制で、会計年度任用職員を除く空港課職員全員で駐車料金の回収を行っていることに加えて、空港課事務所への職員以外の出入りも防犯上制限されていることから、空港課職員全員で金庫内の現金を取り扱っておりました。これまでの現金管理体制の検証を行わず、前例を踏襲していたことが今回の事案の発生原因であると考えております。防止策といたしまして、金庫への現金投函後、開錠するまで現金が取り出せない特殊な金庫を６月２日から導入しております。また、事務所内へ監視カメラ設置についても現在準備を進めているところです。

◎富浜靖雄君

金庫とか、防犯カメラとか、そういう対策を行っていくと。私は公金横領については、これもう犯罪なので、いけないことだとはもうよく、重々承知なんですけど、現金を職員にいじらせるというか、対応させるというのが私はずっとあまりよろしくないなというふうに思っております。

なので、続いての質問に行きます。宮古空港の駐車場、県の施設と認識しております。現在自動料金精算機での現金のみの対応となっています。空港は年中無休、先ほども職員の方３交代制でやっていると言いますけど、年中無休です。現金の出し入れ、回収業務は、市職員の負担になっていると推測されます。現金の取扱いを極力減らす観点から、また駐車場から出る際小銭を探したり、お釣りを受け取ったりする時間が不要になれば、スムーズに駐車場を出ることができると思いますので、キャッシュレス決済をご検討できないかお伺いいたします。

◎建設部長（下地睦子君）

宮古空港では、市民や観光客からキャッシュレス決済について問合せはございますが、現在は現金のみ取扱いになっております。宮古空港は、県管理空港でございまして、キャッシュレス決済に対応していくには機器の取り替え等が必要になります。宮古空港駐車場機能の拡充に併せて、県に要望をしてまいりたいと考えております。

◎富浜靖雄君

ぜひ要望していただきたいと思います。結構このキャッシュレス決済は、全国の空港でやはり大きな空港がもう導入していて、分かります。それなりの大きい空港ですから、駐車場も出入りもすごく激しいと思うので、やっているんですけど、一応沖縄県の那覇空港でもやっておりますので、宮古も石垣も離島なので、それだけのお金をかけて、駐車場のキャッシュレス決済を導入するというのが県にとって、予算面からも大丈夫なのかというのはちょっと思いますけど、ただ現金の取扱いは必ず行うんですけど、キャッシュレス決済をやれば現金の取扱い、そんなに頻繁にやらなくても済むんではないかなと思ったりするの

で、ぜひとも県のほうに要望していただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に行きます。国立療養所宮古南静園についてお伺いいたします。去る６月８日に公明党のハンセン病問題対策本部のオンライン会議、ウェブ会議システムのＺｏｏｍで、私も参加させていただきました。３月定例会の下地茜議員の質問でも宮古南静園将来構想実現に向けた協議会の開催に触れて質問がありました。私からも国立療養所宮古南静園、将来の運用について、市としてどういうふうにお考えを持っているのかお伺いをいたします。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

国立療養所宮古南静園の将来構想については、平成21年に国立療養所宮古南静園将来構想が策定された後、長く議論の場が設けられておりませんでしたが、将来構想のさらなる実現や見直しに向け、今年２月におよそ16年ぶりに宮古南静園将来構想実現に向けた協議会が開催されたところです。この協議会には入所者自治会や退所者の会、社会福祉協議会等のメンバーのほかに厚生労働省や沖縄県の職員にもオブザーバーとして参加していただいております。今後はこの協議会の中で、将来の活用方法について協議されていくことになっています。

◎富浜靖雄君

この協議会のメンバーなんですけど、入所者とか退所者の方も入っていらっしゃいますか。そこをお聞かせください。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

協議会のメンバーとしましては、入所者自治会、退所者の会、社会福祉協議会等のメンバーが入ってございます。

◎富浜靖雄君

また再質問させていただきます。

国立療養所宮古南静園は、入所者ももうかなり高齢化が進んでおり、もう減少しております。ハンセン病の偏見や差別の歴史を今後に語り継ぐ場所として、この場所に人が集まる、もしくは滞在して学べるような場所にしていただければなと思っております。観光地化でも私は構わないと思います。人が集まらないような場所になってくると、寂れて忘れ去られてしまうんではないかと危惧しております。ぜひどのような運用が理想的なのか、先ほど言ったメンバーで意見の交換をしていただき、継続的にやっていただき、できればそのご家族、逆に言うと入所者、退所者のご家族の意見もぜひ取り入れていただいて、よりよい将来の運用を考えていただきたいなという思いがあります。この点について一言お願いします。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

本協議会の委員について、地域住民との協議ということで答えさせていただきます。

本協議会の委員については、平成21年策定当時の検討委員会の委員の皆様を中心に構成されておりますけれども、今回新たにハンセン病回復者の家族会の方を委員に加えております。また、近隣の自治会から将来構想について協議に参加したいというご意見ありましたら、協議会において検討させていただきたいと考えております。

◎富浜靖雄君

本当にいろんな方の意見を取り入れてやろうという姿勢が見えるので、もうぜひとも話し合って、より

よいものにしていただければなと思います、将来的に。

この国立ハンセン病の療養所は全国に13か所あるんですけど、13か所いろいろなパターンがあります。いろんな条件があるので、その場その場で、その地域地域での本当に考えがあってしかるべきだなと思います。昔、無らい県運動っていって、もう国民に危機感を、国の法律をつくってあおって、隔離して、人権がめちゃくちゃ侵害されたという、この歴史があります。これは、もうまさしく知識の不足です。治る病気を治らないとみんなに認識させて、それで隔離して、人間という尊厳を踏みにじった事件というか、出来事ではないかなと思います。ただ、もう起きた以上は、これをぜひ将来にわたって、こういう間違いもあったんだと、これからやっちゃいけないというような施設にしていきたいなと思います。公明党が進んでこれに取り組んでいるのはそういうことです。結局悪いことが悪いと認めて、その悪いことを将来に残さない、逆に言ったら引きずらない、同じことをやらないという、ある意味教訓の場所にしていただければいいかなと思いますので、ぜひとも、私もこれはハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会、国を訴えたメンバーの団体なんですけど、その方たちともウェブで話を聞かさせていただきました。もう聞けば聞くほど本当に大変な歴史だなと思っていますので、引き続き公明党も取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、根間公園についてお伺いいたします。今定例会において砂川和也議員も質問しておりましたが、新しくきれいに整備された根間公園ですが、私のほうにも近隣住民の方から様々なお声があります。そこで、今後の運用についてどのようにお考えなのかお伺いいたします。

◎建設部長（下地睦子君）

根間公園の管理についてですけれども、当面の間は都市計画課で管理を行う予定ですが、公園管理費の縮減を図るため、今後は指定管理制度の導入を含め、設置許可制度やパークＰＦＩといった多様な手法の活用を検討してまいります。

◎富浜靖雄君

都市計画課で管理していくと。しばらくの間はやっていただきたいなと思います。

続いての質問なんですけど、民間の、以前まだ公園が整備される前は西里大通り商店街振興組合でも夏祭りに使用させていただいて、イベントとかを持っていたんですけど、民間レベルでイベント開催したいので、ここ、根間公園を使いたいと、今後、そういった場合、この申請の仕方というんですか、従来の申請の仕方なのか、それともちょっと変わるのか。もしくは利用時間とか利用時間帯、平日オーケーだけど、土日は駄目ですとか、そういうふうなのか。細かいんですけど、変わらなければ、以前と変わらないよというんであればそれでも結構ですので、答弁をお願いいたします。

◎建設部長（下地睦子君）

利用方法についての申請は、以前と特に変わりはございません。イベントで公園をご利用いただく場合は、利用予定日の３日前までに都市計画課へ公園内行為許可申請書及びイベントの内容、内容と申しますのは実施目的、日時、場所はもう公園の場所です。あと、参加予定人数、配置図等が確認できる資料を提出していただいております。

なお、利用可能な時間帯につきましては、ご提案いただいたイベントの内容により個別に判断してまいります。

◎富浜靖雄君

今商工会議所主催の宮古島夏まつりですけど、根間公園を利用するとお聞きしているんですけど、そのときちょっと気になる点が１つありまして、聞き取りのときも話していないんですけど、飲食とかは全然問題ないですか。今までどおり別に飲食、外であるので、飲食とかやっても、別に問題ないよというのであれば、そこだけをお聞かせ願ってもいいですか。

◎建設部長（下地睦子君）

根間公園の宮古島夏まつりの利用につきまして、申請書は届いております。特に飲食を禁止する内容の通知はしておりませんので、普通に飲食はしていただいて結構です。

◎富浜靖雄君

飲食、整備される前はやっていたので、大丈夫だと思ったんですけど、新しくきれいになっているので、飲食したらまずいというふうになっちゃうのかなと思ったんですけど、それ普通に大丈夫であれば、別に問題ないかなと思います。ありがとうございます。

では、続いての質問に行きます。防犯カメラの設置についてです。３月定例会でも質問させていただきましたが、建設部長は、検討したいという答弁でした。検討なさっているのかというのをお聞かせ願えればと思います。

◎建設部長（下地睦子君）

防犯カメラの設置につきましては現在見積りを依頼しております。今後設置場所について検討を進めてまいります。

◎富浜靖雄君

見積りを取っていただいているということは、設置していただけるということで、ありがとうございます。では、設置をいつ頃というふうに思っているかというのをお聞かせ願えますか。

◎建設部長（下地睦子君）

現在見積りをお願いしているところですけれども、場所の選定を行っている状況でして、場所が決定次第工事を行うため、使用開始としましては９月頃を予定しております。

◎富浜靖雄君

９月頃、ぜひよろしくお願いいたします。実は近隣住民の先輩に当たるんですけど、車のガラスをいたずらされて割られたと。これ普通に、根間公園内ではないんですけど、もうすぐそばです。すぐそばで、それはもうすぐ警察署にも被害届を出していると。結局人が集まると、何かしらそういうトラブルというんですか、というのは起きると思うので、もう防犯カメラが設置できるということなので、安心して、何かあったらまたその防犯カメラを証拠として警察署にも提示できるんではないかと思って、住民の方も安心すると思います。もう本当にありがとうございました。

では、次の質問に行きます。みどり推進課についてお伺いいたします。みどり推進課というのが以前にあったんですけど、今回何かなくなっていて、気づくのが遅かったんですけど、みどり推進課がなくなっているなと思いまして、これどういう経緯でそうなったのかなというのをお伺いいたします。

◎総務部長（上地俊暢君）

みどり推進課についてでございます。みどり推進課は、令和７年度末まで農林水産部において、緑化事

業に関すること、緑化育苗センターの管理や保安林等の維持管理の業務を担っておりました。これまで外部施設に執務室を構え、職員が４名、会計年度任用職員10名ほどで業務を行ってきたところでございます。今回の組織編成は、令和７年度の行財政改革推進本部、これは庁内に設置されているものですが、より効率的、効果的な行政運営を目指すため、県内の宮古島市以外の10市の状況も参考に、組織のスリム化を図るべく検討を進めた結果、農政課に係として編入することに決定し、令和８年４月１日に組織編成を行っているところでございます。

◎農林水産部長（下地貴之君）

私から農林水産部の観点でお答えします。

今年度より農政課森林緑化係として編入されておりますが、業務内容につきましては昨年度と変わらず、継続しているところでございます。現在は業務内容の見直しや改善を進めている最中であり、今後は費用対効果を十分に考慮しながら、業務の一部や所管施設の管理委託等についても検討し、より効果的かつ効率的な緑化推進業務の遂行ができるよう取り組んでまいります。

◎富浜靖雄君

以前若かりし頃、森林組合にいまして、みどり推進課とはすごく親しく、いろいろ事業をさせていただいた記憶がありまして、課がなくなったのは個人的にちょっと寂しいなと思ったんですけど、ただ先ほど言った効率化、効率的に運営していくという意味では全然私は賛成です。

再質問なんですけど、係にしたことによって、メリットとかデメリットというのがもしあるのであれば、メリットしかないよというのであればそれでも構わないんですけど、それに対して答弁いただけますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

メリットとしては、課が減ったというのはもちろんありますけれども、デメリットは特に、ないわけではないんですが、例えば今花や苗木の販売を行っております。旧みどり推進課に常駐しておりましたけれども、基本的な職員はこの庁舎にいることになりますが、ただ現金を扱う部署ですので、職員はいないといけないんですが、旧みどり推進課に。そういった面で少し不便な部分はありますけれども、そのことに関しましても今月曜日から金曜日までの販売を行っておりますが、今後少しずつ見直しをして、例えば月、水、金のみであるとか、見直しを行っている状況にございます。

◎富浜靖雄君

デメリットとして、苗木の販売のときの現金の取扱いというようなのがあるというふうにお聞きしたので、ただメリットも大きいと思います。職員の、課ではなく、係ですので、係長が仕切ってやるというのでいいのかなと。非常勤職員は、大体作業されている方だと思いますので、そこ減っていないのかなと思うので、それはそれで別に問題ないかなと思います。ですので、ぜひ今からいろいろ出てくると思いますけど、よりいい方向に進んでいければいいんではないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、次の質問に移ります。農業行政についてです。今定例会で豊見山貴仁議員も質問しておりましたが、大型ドローン、野そ防除散布について。多良間村で最新農業機械実演会というのがあったので、その記事を見たときに野その防除剤を散布できますよという記事が載っていたので、おっとと。今まで登録できないというふうに言っていたような気がしておりますので、多良間村で行った最新農業機械の実演会について、当局としてどこまで把握しているのかというのをお聞きしたいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

多良間村での実証事業です。先日の豊見山貴仁議員にお答えしておりますけれども、今回の農業機械実演会につきましては、主催した機械メーカー、それと多良間村に確認をしております。内容としましては、ドローンによる殺鼠剤散布機械の紹介のほか、サトウキビ病害虫用のフェロモンチューブの散布機械の実演を実施したというふうに聞いております。

◎富浜靖雄君

再質問します。

以前より答弁をなさっているのは、ドローンを活用しての野そ防除剤は、農林水産部長の答弁では無人航空機での散布は登録されていないため、ドローンによる散布はできない状況というふうに答弁しているんですけど、この登録というところが少し引っかかっていまして、ただこの多良間村の実演の報道を見たときに、登録されたから、そういう技術を公表しているのかなと思ったんです。今の登録という状況というのは変わっていない状況なんですか。それをお聞かせ願いたいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

これまでも答弁しておりますけれども、現状も無人航空機で散布可能な登録殺鼠剤はございません。

◎富浜靖雄君

ちょっと確認をさせていただいてもいいですか。これが可能かどうかは分からないんですけど、登録を、技術的にはもうあると。知り合いのドローン関係の会社を運営している人がいまして、その人にも聞いたら散布することはできると。野そ剤を、薬剤を散布することはできるんだけど、その登録というのがないから、正式にできないと。ある意味メーカーが許していないと。だから、逆に言うと登録されていないので、それをもし散布できる技術はあるので、散布したとして、何か起こったら保証できませんよという形になるのかなというふうに思っているんです。これ調べたら、農林水産省にこのメーカーとその話をして、まけるような状況に、だから普通の農薬とかはそれができているから、できているというふうに認識しているんですけど、この登録をもししていないので、できないよと。これ市役所でできないということだと思っているんです。ですけど、これ個人で、もしですよ。市役所が前その野そ剤を配っているよって聞いたので、それをもらって、個人でドローン取扱事業者を雇って個人でやるということは、これは可能なんですか。それとも、役所としては勧めないという考えなんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

もちろん市としましては、登録されていないものを航空防除は適切ではないと考えております。今回の多良間村につきましても、散布したものを全て回収したというふうに聞いております。

◎富浜靖雄君

やはり登録していないのに、市役所がやりなさいと、勧めますよとは言えないと私も思います。ただ、個人的にメーカーの方に話聞いたら、いや、やることはできると言っていたので。

次の質問に行きます。以前ヘリコプターでやっていましたよというのはお聞きしております。ドローン活用のメリット、みんなが言っているのは、簡単な話、少ない投資というんですか、ヘリコプター借りるまでもなく、少ない金額で、ドローンなので、思ったポイントにまけると、まきやすいというのがあるので、みんながドローンを使ってやれないかという質問をしているというふうに思っております。できる技

術はありますと。機械もありますと。だけど、登録ないから、できないよというのであれば、市としては要望がいっぱいあるんであれば、この登録に向けて、県なり国なりに要望するとかというふうなのを検討するときに、そういうふうなお考えがあるかというのを教えてもらえますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

殺鼠剤の登録につきましては、あくまでもメーカー側のほうで行うものでございますけれども、市としてメーカー側に要望するかどうかは現時点では考えておりません。登録の情報収集については引き続き行ってまいります。

◎富浜靖雄君

メーカー側が登録を要望するというか、やる側はメーカーですと。お聞きすると時間もかかるし、費用もそこそこかかりますよと。やはりメーカーが、メーカーなので、やはりそれを売っていかないといけないので、メリットがあるなら進めるだろうし、メリットがなければやらないというふうに思います。ただ、技術があるのであれば、使えるような何か形の取組、メーカーに働きかけるのでもいいですし、国に働きかけるのでもいいですし、やっていただければなと思うんですけど、これは私もそんなに農業機械の、そういう薬のメーカーの方々とも話していないので、また今後話を続けてできる方向に持っていければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、次の質問に行きます。福祉行政についてです。高齢者外出支援タクシー利用助成事業についてお伺いいたします。申請書の提出期間についてお伺いいたします。

◎福祉部長（守武　大君）

高齢者外出支援タクシー利用助成事業の申請時期につきましては、特段の定めは設けておらず、年間を通じて随時申請が可能となっておりますので、必要となった時点で申請していただきたいと思います。

◎富浜靖雄君

年間を通して可能ということであれば、予算範囲内であればもういつでもどうぞという意味合いでよろしいですか。それとも、予算が超えても受け付けて、それを逆に言ったら補正でまた対応するとかというのもあり得るということなんでしょうか。

◎福祉部長（守武　大君）

予算については、もし足りなくなるようであれば補正なり流用なりの対応をしていきたいと思います。

◎富浜靖雄君

補正までしていただいて、１年、年間申請ができるというのであれば、思い立ったときでもできるし、いいなと思います。多ければ補正も考えていると。もうぜひよろしくお願いします。

続いての質問に行きます。この申請の提出時間帯、庁舎が開いている時間帯での申請が普通なのかなと思うんですけど、時間帯はどのようになっているかお伺いしたいと思います。

◎福祉部長（守武　大君）

申請時間につきましては、市役所の開庁時間である午前８時30分から午後５時15分までとしておりますが、申請される方の状況は様々であることから、個々の状況に応じて対応してまいりますので、まずは高齢者支援課まで電話にてご相談いただきたいと思います。

なお、本人の来庁が困難な場合にはご家族や代理人による申請も可能です。

◎富浜靖雄君

この質問、これ市民からの相談なんで、時間帯は庁舎が開いている時間というふうに認識したんですけど、その方が言っていたのが庁舎が開いている時間帯に私は仕事やっているので、仕事は朝の８時半ではなくて、８時から始まって、６時ぐらいまでやっていると。もう行っても閉まっていると。なので、私は申請できないと。これを申請するのは親のため、親のものを代わりにやりたいと言っているけど、できないと言っていたので、その質問をさせていただきました。

代理の申請も可能ということは、相談して申請書の書き方を習って、それを持ち帰ってやるという形でいいと思うんですけど、その相談するときも庁舎の開庁時間帯というふうになってしまうとちょっと厳しいかなと思うので、電話とかというのでもそういうふうな相談は受けていただけるのかというのを教えてもらっていいですか。

◎福祉部長（守武　大君）

まず、電話で高齢者支援課のほうに相談していただいて、ではどなたが代わりに来ていただけるかとか、申請書をどうやって渡したらいいかとかいう相談からしたいと思いますので、まずは電話で相談していただければなと思います。よろしくお願いします。

◎富浜靖雄君

こういう市役所の時間帯とか、そういうふうな申請の時間帯で来れないという方もいらっしゃると思うので、これは提案です。婚姻届とかは休みの日でも警備員の方が預かっていただける。死亡届もそうですけどというのがあるので、もし相談で、もう休みの日しか来れないというのなら、そういうところも考慮していただければなと思います。開庁時ではなくて、休みの日しか来れないという方の相談にもぜひ乗っていただければなと思いますんで、これ要望しておきますので、よろしくお願いいたします。

では、次の質問に行きます。環境行政についてです。これも市民からの相談なんですけど、家庭から出た園芸用とか家庭菜園用の土の処分についてお伺いいたします。この相談の内容は、処分をどうしたらいいかということで、私なりに調べてみたら、多くの自治体では土というものは自然物なので、一般ごみとしての回収は行っていないのが一般的です。宮古島市も同様です。そこで、こういう問合せというのが市民から市役所に来ているか、あるのかというのをお伺いいたします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

園芸用の土の処分についての市民からの問合せですけども、月にゼロ件から２件程度の問合せがございます。

◎富浜靖雄君

月にゼロ件から２件程度。自分は、あまりないのかなと思っていたんですけど、あったことに、あるんだなというのは今思いました。

では、そのまま次の質問に行きますけど、土を処分しようと思ったときに自分のおうちで庭があるとか、畑を所有していますよとかという人であれば、そこに持っていって、まけば処分できるなとは思っているんですけど、この質問をした方の話は、単純に言うと、この人の話ではアパートとか結局集合住宅、市営住宅、そういうお住まいの方で、庭もないし、畑も持っていない。勝手に誰かのおうちの庭とか畑にまくことはできないと。それはそうでしょうねと思いますので、なのでどういう処分の方法があるんですかと

いうふうに言われて、自分も分からないなと思ったので、質問させていただきます。

この処分方法について問合せがあった場合、市役所としてどのような指導なりアドバイスとかは行っているのかなというのをお伺いいたします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

園芸用の土の処分について問合せがあった場合には、衛生施設課のほうで農家や知り合いなど、土を再利用してもいいという方に譲るように案内しているんですけども、どうしても譲り先が見つからないというケースには衛生施設課の窓口まで少量ずつ持ってきてもらうようにしております。富浜靖雄議員もおっしゃったように、市では土を廃棄物として扱っていないんですけども、衛生施設課のほうで引き取った土は、クリーンセンターの中にある緑地ですとか花壇等に再利用するように使っております。

◎富浜靖雄君

農家とか譲り受けるところがあるのか探していただいて、ない場合も対応しているというのが分かったので、すばらしいなと思います。いいことだと思います。

ある事例を紹介しておきます。これ神奈川県の相模原市ですけど、これホームセンターのカインズというところと提携していて、家庭で不要になった土を回収して、それをリサイクルして、また再度販売するという取組をしています。これリサイクルの観点から、いい方法だなと思います。ただで引き取って、それをリサイクルしてまた販売して、その料金をどういうふうに使っているか分からないですけども、市の収入に入れて、何かしているかもしれません。そこまでは調べていないんですけど、こういうリサイクルの方法というのもご検討できないかなというのを質問したいなと思うんですけど、よろしいですか。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

園芸用の土のリサイクルについてなんですけども、クリーンセンター、衛生施設課のほうでは未開封の園芸用の土であれば再配付ということも考えられるんですけども、開封済みですとか使用後のものに関しては安全性の確保という観点で殺菌等の処理が必要というふうに考えております。今市のほうでは先ほどお話しされた元のみどり推進課、そちらのほうですとか上野資源リサイクルセンター、それから外部の民間組織、宮古森林組合等に問い合わせたところ、やはり同様の理由で殺菌処理等の対処が困難ということで、今のところは考えていないということであります。

◎富浜靖雄君

この殺菌処理、本当にそうだと思います。カインズがそれをやっているんです、単純に。やって、だから販売して利益を得ているのかなとは思うんですけど、これは今やってではなくて、こういう事例があるので、リサイクルという面も一応考えられますので、考えてくださいという提案ですので、よろしくお願いします。

では、最後の質問に行きます。教育行政について、市立図書館の所蔵新聞についてお伺いいたします。島外在住の、これ宮古島市出身の方なんですけど、連絡をいただきまして、その方、平良第一小学校、平一小学校に在籍していて、若いとき、小学校のときに。すごい前です。交流を何かした記憶があって、それが昭和34年の話なんです。学校に行って調べたんですけど、調べ切れなくて、学校行って調べ切れなかったので、図書館に行って、当時の新聞を見させていただきました。ただ、所蔵している新聞の劣化が激し過ぎたので、劣化が激しいので、ふと新聞の所蔵方法はどういうふうに今考えているのかなというのを

お聞きします。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

新聞の所蔵方法についてお答えいたします。

地元新聞２紙につきましては、宮古島市立図書館資料収集方針に基づき、収集、保存しております。保存に当たっては、２か月ごとに原紙の製本を行い、資料の劣化防止のため、24時間温度管理を行っている書庫で適切に保管しております。

◎富浜靖雄君

ちゃんと保存していただいているなとは思うんですけど、本当に古い新聞は劣化が激しいです。見たところ切り抜かられているところもありました。これちょっとまずいなと思ったので、もしデジタル化のお考えがあればお伺いいたします。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

デジタル化についてでございますが、現在図書館ではスキャナーを使用し、所蔵する地元新聞の発刊日の古いものから順次デジタル化を進めているところです。古い新聞のため、劣化が激しい部分もありますが、可能な範囲でデータ化に取り組んでいるところです。

◎富浜靖雄君

これで私の一般質問を終わりたいと思います。劣化が激しいのは、本当にデジタル化というのは大切な取組だと思いますので、ぜひやっていただきたいと思います。ありがとうございます。

◎議長（平良和彦君）

これで富浜靖雄君の質問は終了しました。

◎狩俣勝成君

議席番号８番、幸政会、狩俣勝成です。本日最後の質問となりますので、よろしくお願いいたします。

早速通告に従いまして質問していきたいと思います。１の市長の政治姿勢について。宮古島市固定資産税の課税免除の特例についてですけども、これは昨年の９月定例会で宮古島市固定資産税の課税免除の特例に関する条例の一部改正について可決された案件ですが､その後市民の方から問合せが数件ありまして、私はこの条例には何もホテルだけではなく、特定高度情報通信技術を活用した設備５Ｇとか、その通信システムを構成する機械及び装置、また器具の備品などの取得が含まれておりましたので、私も総合的に判断して賛成したんですけども、しかしながら市民の疑問点が多く聞かれることから、質問させていただきたいと思います。

まず、①の離島の地域における課税免除について内容についてお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

宮古島市固定資産税の課税免除の特例について、離島地域の課税免除についてお答えいたします。

宮古島市固定資産税の課税免除の特例に関する条例に定めております離島地域における課税免除の規定は、令和９年３月31日までの間に旅館業法第２条に規定する旅館、ホテル営業及び簡易宿所営業の用に供する設備の新設、改修、または増設に対して、課税されるべき初年度から５年間固定資産税の課税免除を行うものです。また、対象施設の要件として、設備の取得価格の合計が資本金の規模に応じて定められた額以上である必要がございます。

◎狩俣勝成君

一応新設とか、改修とか、また増設とありますけども、これは新築だけではなく、もし中古物件を購入した場合も対象になるかどうかお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

中古の物件も対象になるかというご質問でございます。対象となる要件としては、旅館、ホテル営業及び簡易宿所営業の用に供する設備、建物、附属設備の新設、改修、増設と設備の取得価格の合計規模が定められておりますので、その要件を満たしているのであれば中古資産のほうも対象となります。

◎狩俣勝成君

確認できました。

要件を満たしていれば、中古物件を購入しても、対象になるということなんですけども、それでは新築、または中古物件を購入して課税免除を受けて５年以内に売却した場合でも、何か罰則とか、遡って固定資産税を納めるとか、そういったのはないかどうかお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

免除を受けた資産を５年以内に売却した場合でございますけど、免除を受けた分の税額を返還することはございません。年ごとに課税されますので、売った段階で減免が受けられなくなるということでございます。一方で、偽りの申請、その他不正行為があった場合は宮古島市固定資産税の課税免除の特例に関する条例に基づき、想定額の固定資産税を徴収することとなります。

◎狩俣勝成君

そうなると、新築して５年以内に売却して、購入した業者がまた５年以内に売却する。それを繰り返すと、この特例がある以上、そこの土地、建物の固定資産税は納税されないのかなと思うんですけど、これで大丈夫ですか。

◎総務部長（上地俊暢君）

要件が５年となっておりますので、５年後に売却して新たな所有者になった場合に、新たな所有者がこの特例を受けることは可能ですので、新たな所有者のほうで免税が受けられるということは可能でございます。

◎狩俣勝成君

なぜ私がこの質問しているかというと、市民からはいろんな声が、疑問点が上がっていると先ほど申し上げましたけども、市民からは市内で数年で名前が変わっているようなホテルが何か所か見られるという疑念の声も聞かれていますので、誤解されないような制度をしっかりと考えてもらえたらいいかなと思います。

次の質問イです。それでは、この課税免除を受けている事業者数についてお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

課税免除を受けている事業者数、直近の令和７年度の実績でお答えさせていただきます。

第３条の離島地域における課税免除を受けている事業者、旅館業でございますが、47件でございます。うち個人が11件、法人が36件となってございます。

◎狩俣勝成君

では、総務部長、これ課税免除された額は聞くことは可能ですか。

◎総務部長（上地俊暢君）

課税免除額については、令和７年度実績で7,374万円でございます。そのうち税収補填が国からございますので、そのうちの5,530万5,000円は税収補填として市の歳入があるというところでございます。

◎狩俣勝成君

国からもあるんですけども、この7,374万円、これ１年間でそれだと思うんですけども、単純計算でこの免除は一応５年となっているんで、単純に５年となると３億円余り超えるんですよね。今言っている１年間で令和７年実績47件で、１年7,374万円となっていますけども、これを踏まえて、この課税免除による効果についてお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

課税免除による特例措置の効果ですけれども、観光業を支える旅館業の設備投資を促し、地域資源を活用した観光振興を通じて雇用機会の創出、確保や経済活動の活性化が図られることが効果と考えております。具体的には宿泊施設の活性化により入域観光客数が増加することによりまして、令和元年度、宿泊施設の件数が285件から、令和６年度は549件と増加しております。観光消費額についても令和元年度が約644億円、令和６年度は約1,072億円と428億円の増と大幅に増加しておりますので、観光施設の活性化は観光客の誘致、観光消費額に貢献すると考えております。貢献して、効果があるというふうに考えております。

◎狩俣勝成君

それだけの効果が生まれていると。入域観光客の増加であったり、観光消費額の増加、来年度からですか、宿泊税の見込みもあるのかなと思っております。

それでは、次のその他の課税免除について、課税免除の種類について簡単にお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

その他の課税免除の内容についてお答えいたします。

先ほど答弁しました離島地域における旅館業の課税免除のほかに、宮古島市固定資産税の課税免除の特例に関する条例においては情報通信産業振興地域、それから観光地形成促進地域、産業イノベーション促進地域、産業振興促進地域における対象の固定資産税が課税免除となっているところでございます。

◎狩俣勝成君

では、これも直近の実績で、３つの課税免除の件数をお願いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

先ほど説明した課税免除を受けている事業者数と金額についてお答えいたします。

令和７年度は情報通信産業振興地域における課税免除について２社、それから産業イノベーション促進地域における課税免除について４社が課税免除を受けております。金額につきましては、情報通信産業振興地域の課税免除額が1,382万円、産業イノベーション促進地域の課税免除額が4,483万7,000円となってございます。

◎狩俣勝成君

総務部長、では情報通信産業振興地域における課税免除が２件、産業イノベーション促進地域における

課税免除が４件、もう一つ、産業振興促進地域における固定資産税の課税免除はゼロですか。

◎総務部長（上地俊暢君）

先ほど４つの項目を申し上げましたが、課税免除があるのは情報通信産業振興地域、それと産業イノベーションについてのものでございますので、観光地形成促進地域と産業振興促進区域については実績はございませんでした。

◎狩俣勝成君

それで、これを踏まえて今後、期限が今令和９年３月31日までとなっておりますけども、この延長を考えているのかどうかお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本制度の継続をするかどうかということにつきまして、本市の経済及び県全体に与える影響を検討して判断していきたいというふうに考えております。特に旅館業に係る件につきましては、小規模自治体では雇用創出に一定の成果を上げておりますし、離島住民の定住促進や実際の税収増など、地域活性化に寄与しているという側面がありますので、この点を踏まえまして判断していきたいというふうに考えております。

◎狩俣勝成君

本当に市民からはホテルが増えることによって、水は大丈夫かとか、ごみの処理はどうなるんだとかいう話がよく聞こえますけども、隣の石垣市ではこの離島の地域における課税免除が入っていないんですけども、そのほか４つぐらいはあったんですけど。ですから、目的が達成された課税免除は削除してもよいのではないのかなとか、課税免除の種類別に考えてもいいのではないかと思っていますので、この辺は十分しっかり検討して、この経済効果だったり、効果が十分に出せるようなものを残していくという感じでいいのかなと思っていますので、ご検討をよろしくお願いします。

次に、子供の遊び場整備について、各自治会が字有地等に子供の遊び場を整備する場合の支援策についてお伺いします。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

現在各自治会等が行う公民館修繕や備品購入に関しては、宝くじ助成を財源として補助事業を行っておりますが、ご質問の遊び場等を整備する事業に関しては補助の対象とはなっておりません。しかしながら、子供たちの遊び場の確保については地域のにぎわいを創出する上でも大切な場所であると考えることから、他市町村の事例や外郭団体等で助成可能な事業がないか調査し、各自治会に情報提供してまいりたいと考えております。

◎狩俣勝成君

これ私も、仲間誉人議員も言っていたけど、意見交換が大切だということでありまして、私もこれ城辺の友利地区のお母さん方と意見交換をしていたとこで、数多く出たのが子供の遊び場がないということで、友利には自衛隊の宿舎がございまして、宿舎の駐車場などで遊んで大変危険だと。向こうは国道沿いに面してボールが飛び出していったりとか、いろんな危険な思いをしたことがあるという話がありまして、この話がたくさん出ました。そこで、友利地区は子供会活動も活発で、先日行われました宮古島市子ども会育成連絡協議会主催のみや子リンピックという競技があったんですけども、ここに子供や大人約100人が参

加しました。そのうち約３割に当たる30名程度が友利地区の子供会のメンバーでした。また、月末の日曜日をカレーの日に設定し、子ども会育成連絡協議会のメンバーでカレーライスを提供しているそうです。こうした活動を後押しする意味でも子供の遊び場は必要だと思います。市長は、日本一子育てのしやすい島を目指し、子育て世代が安心して子供を産み育てることのできる環境づくりを推進するとおっしゃっておりますので、市長のほうから何か一言お願いできますか。

◎市長（嘉数　登君）

私も地域の懇談会ですとかいろんな会合で、親御さんからそういった要望たくさん受けております。昨年ですか、伊良部島のほうで受けた案件で、児童館でバスケットボールコートを整備したところは非常に大きな反響がありまして、子供たちだけではなくて、親御さんにも喜ばれているという事例がありましたので、そういう整備の実績というのは実感をしております。今狩俣勝成議員がおっしゃっていたように別の地区でもそういった活動が盛んになっているということですので、しっかりとその財源を確保して、対応してまいりたいというふうに考えております。

◎狩俣勝成君

市長もよくウーマンズミーティングとか、そういった意見交換の場に積極的に参加しているのは分かっていますので、私も少しまねてやってみました。そしたら、そういう結果出ましたので、本当にありがとうございます。設置管理を全て自治会が行うということなので、特別な遊具の設置はせず、簡易なボール遊びができる広場の整備がいいということであります。参考に、上野の新里にあるぶんみゃー前公園、あそこは芝生で整備して、周囲を散歩できるようなコースになって、あとバスケットボールのリングがあったり、あずまやがあったりとか、そういったのがあって、ああいうのができればいいなという話をしておりましたので、ぜひとも支援の検討をお願いします。

次に、日米共同訓練についてですけども、これに関しては多くの議員が質問しておりますけども、私から１点だけ。宮古島市において、日米共同による災害対処訓練として、日米の共同調整所の運営訓練、共同衛生訓練及び航空機による物資補給、輸送訓練を計画していますが、今なぜ日米共同訓練が必要かどうか、市長の見解をお伺いします。

◎市長（嘉数　登君）

本市は、離島県の中の離島でありまして、大規模災害発生時など、市単独での対処には困難な面があるというふうに考えております。自衛隊の皆様にはこれまでにも様々な局面で災害対処面でご協力いただいておりますけども、今回の日米共同による災害対処訓練では、これは自衛隊のみでは対処が困難な状況を想定した訓練であり、その際に米軍と連携して何ができるのか、どのような役割分担が可能なのかといった点を踏まえて実施されるもので、ある程度理解をしております。狩俣勝成議員ご指摘のとおり何か事態が発生した際に、私も訓練以上のことはできないというふうに考えております。日頃から備えとして日米共同による訓練の重要性は認識しており、迅速かつ的確な災害対処を行う基盤を構築し、市民の安全、安心を守る上で必要なものであると捉えております。

◎狩俣勝成君

私もいろいろ検討してみたんですけども、やはり大規模災害時においても米軍の支援も必要になることがあるかと思います。それにおいては日頃から連携して訓練していくのが大切だと思っていますので、以

上でこの質問は終わります。

次の宮古島市のＤＸ推進について、①、災害発生後、罹災証明書の発行までの被災者支援業務の流れについてどうなっているかお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

災害発生後から罹災証明書の発行までの被災者支援業務の流れについてお答えいたします。

災害が発生した場合には、被災者から罹災証明書の交付の申請を受けた市は、現地調査や写真などにより行います。調査の上で、住居等の被害状況を調査することになっております。調査結果に基づき、市が住居の全壊や半壊などの被害程度を判定し、罹災証明書を発行、交付することになるという流れでございます。

◎狩俣勝成君

紙ベースでのやり取りかなと思っていまして、現地調査行って、また戻ってきて報告書作って判定するという流れかなと思っています。これ実際に罹災証明書を発行したことはあるんですか。

◎総務部長（上地俊暢君）

近年は大きな災害がございませんので、自然災害の罹災証明を発行しておりませんが、火災などについては消防本部のほうで罹災証明書発行しておりますので、消防本部での罹災証明書の発行はございます。

◎狩俣勝成君

ただ、災害等が宮古島市はまだ発生していないので、発行はまだということなんですけども、今全国的に災害起きたときに、すぐ罹災証明の話が出ます。この罹災証明書の発行が迅速な被害者支援が実現できるものと考えております。

そういったシステムを導入した自治体から、例を言いますと大分県の日田市で令和３年豪雨災害のときと比較した今の効果でありますけども、今災害発生から被害者支援にかかる時間、要するに罹災証明書発行までに要した時間がこれまでは14日間かかったんですけども、このシステムを導入後に７日間と、約半減されています。

もう一個、福島県の福島市においては、令和４年福島沖地震と比較した台帳業務短縮効果ということです。こちらは災害発生から被災者支援までにかかる時間、これが前までは400時間だったのが、システム導入後200時間まで短縮されております。ですので、こういったシステムの導入を検討できないかお伺いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

災害発生後の罹災証明書の発行までの被災者支援業務のＤＸ化についてでございます。災害発生後から罹災証明書発行に至るまでの被災者支援業務のＤＸ化は可能だと考えております。現在災害が発生し、被災した場合、罹災証明書の申請をオンライン申請で対応できないか庁内で検討し、準備を進めているところでございます。

◎狩俣勝成君

災害は、先ほども言っていましたけど、いつ起こるか分かりませんので、そういった下準備は前もってしていたほうがいいのかなと思います。

次、道路建設行政について。１、道路上にはみ出した草木等の適正な管理についてですけども、これ最

近私もあちこち回ってみると、何か私有地らしいところ、民有地から道路にはみ出してきて、道路の半分ぐらいまで塞がっていたり、道路に支障が出ているところがあって、何か所か写真を撮って道路建設課には預けてあります。それを踏まえて、この私有地からはみ出した草木を発見した場合の対処法についてお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

私有地からはみ出した草木は、地権者の所有物ですので、管理は地権者となります。そのことから、草木の剪定、除去は地権者自らが行う必要があると考えております。そこで、私有地からはみ出した草木を発見、または市民から指摘をいただいた場合、現場確認後、道路交通への影響があるか協議し、危険、または支障があると判断された場合は法務局にて地権者の住所を確認し、通知文を郵送し、草木の撤去、除去を依頼しているところでございます。

◎狩俣勝成君

私も何か所かお願いしたところ、地下ダム資料館から七又風力発電所近くの一周道路に抜ける道、約300メートルぐらいか、そこがもう車も一台も通れなかったんです。最近行ってみると、両脇の雑木がきれいに刈り取られていましたけども、そこもその土地所有者にさせたのかお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

狩俣勝成議員がおっしゃるその箇所ですけれども、法務局のほうで地権者を確認し、通知文を送付して、地権者の皆さんに撤去をしてもらっております。

◎狩俣勝成君

今回は地権者がちゃんとやってくれたから、いいんですけども、そういった通告というか勧告ですか、そういった通知文を送付しても、従わない場合はどういうふうな処置をしているんですか。

◎建設部長（下地睦子君）

道路管理者といたしましても、財政支出を抑えるべく、地権者に対応いただきたい次第ではございますが、連絡を取ることができない場合には交通の安全が確保できる最小範囲内での撤去、除去を行っております。ただし、原則として私有地の草木の管理責任は地権者であるので、粘り強く依頼していきたいと考えております。

◎狩俣勝成君

粘り強くとは言うんですけども、私ちょうどこの質問文をつくっているときに、６月４日の新聞に下地の与那覇前浜からＡコープ下地店に向けて進む片道１車線が大きなガジュマルが車線にはみ出して、大型観光バスなどが通行する際、この木をよけようと対向車に寄り、はみ出す状況も見られる。そして、またそこは交差点付近ということで、歩行者用の信号も設置されているというんですけども、新聞の写真から見ても全然見えづらい、見えない状況となっています。こうしたところは、もう宮古島市のホームページにあったんですけども、台風や大雨の災害時やその他緊急の必要がある場合には宮古島市、道路管理者が通行に支障があると判断し、草木の剪定や伐採及び撤去をすることがあります。その際、発生した費用を土地所有者に請求する場合があります。いわゆるこれ行政代執行かなと思っていますけども、これを利用して行政代執行した例ってあるのかどうかお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

現在のところ行政代執行は行った例はございませんが、場合によっては行政代執行が可能となることから、撤去、除去を行って、費用を地権者に負担していただく、請求するなども検討してまいりたいと考えております。

◎狩俣勝成君

この新聞に載っていた下地の件なんですけども、どう見てもこれ緊急性があるなと思いますので、この辺もし地権者がいるんだったらそこにやってもらう。もし連絡つかないとかそういった、やってもらえないのであれば、ぜひもうこれも視野に入れてやってもらいたいと思います。

次に、農業行政について、畜産振興について、市の畜産農家戸数の減少について。新聞報道で宮古島市の畜産農家戸数は、2025年12月末時点で460戸、前年同期に比べて46戸減少。20年間で601戸減り、今後も同様ペースで減少し続けると14年後には畜産農家がゼロになるという報道があります。これに対し、離農していく農家の主な経営体型についてお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

令和７年の12月末現在で、飼養頭数調査というのがございます。畜産農家戸数460戸、飼養頭数7,731頭、母牛の頭数4,470頭となっております。畜産農家戸数の内訳としましては、母牛頭数が10頭未満の小規模農家312戸、10頭以上30頭未満128戸、30頭以上50頭未満15戸、50頭以上の大規模農家５戸となっており、廃業農家につきましては46戸ございました。畜産農家が廃業する際、一度に牛を手放すのではなく、数年かけて段階的に頭数を減らしていくのが一般的でございます。廃業理由としましては、高齢者によるものと後継者がいないことによるものが主であります。

◎狩俣勝成君

やはり高齢者とか高齢化とか後継者がいないと。そうなると、やはり小規模にどんどん減らしていくと思うんですけども、次のイなんですけども、この小規模畜産農家への支援についてお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

小規模畜産農家につきましては、畜産課におきましても、農家の方から資金調達についてのご意見があったことから、昨年８月、ＪＡの金融部及び畜産部、市の畜産課の３者で意見交換を行っております。ＪＡ金融部が取り扱う商品を利用して母牛購入を行った農家がいることや、金利が安く、返済方法が選択できるなど、農家にとっては利用しやすい商品があること、ほかの金融商品や既存の貸付事業などもあることをお互いに確認しております。４月に行った畜産農家向けの事業説明会におきましても、ＪＡ畜産部及び金融部の担当職員も参加していただきました。その際、金融商品等の紹介をしていただきました。また、畜産経営に関する様々な相談につきましては、宮古家畜保健衛生所、宮古農林水産振興センター農業改良普及課に相談窓口がございますので、ぜひご利用していただきたいと考えております。

◎狩俣勝成君

私のところに緊急優良母牛更新事業とか、そういったのがあるんですけども、そういうのを活用したいんですけども、これは最初に購入費用を捻出しなくちゃいけない。後で上限40万円ですか、戻ってきますけども、それに対する本当に何か資金繰りというか、資金調達が厳しいという声もあります。今言っているようにそういった利息の安い借入れができるとか、そういった窓口があればそういったとこに相談して、何かできるかなと思っていますので、相談窓口を新設したということなので、それをどんどんアピールし

ていってやっていければいいかなと思っています。

次に行きます。養豚農家について、現在の養豚農家の状況についてお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

養豚農家でございます。令和７年12月時点における市内の養豚農家は10戸、飼養頭数は456頭でございます。このうち100頭以上を飼養している農家は２戸となっております。

◎狩俣勝成君

だんだん減ってきているかなと思っていますけども、何年か前に養豚農家が母豚が200頭規模のものをやりたいという話が、伊良部島のほうですが、あったんですけども、なかなかできていません。こういった養豚農家の誘致への何か課題というのがあるんでしたらお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

養豚農家誘致への課題、これまでの経過ということでお答えします。

県外にて大規模な養豚事業を展開し、本市にて飲食業を営む事業者とＪＡが母豚200頭規模の養豚事業を導入したいとの要望がございました。島内で独自に用地選定を行っておりましたが、適地が探せず、市有地を使用させてほしいとの要望がございました。そのため市有地の中から候補地を選定し、提案しているところでございます。

◎狩俣勝成君

伊良部島のほうはできなかったということで、恐らく私もその候補地である周辺の方々に聞くと、やはり臭いの問題とか、水質汚濁とか、衛生害虫とか、そういったいろんなのは大丈夫かというのが聞かれます。ただ、調べてみると養豚農家への規制はかなり厳しく、悪臭に対しては臭気指数規制を導入している市区町村もあるということです。また、排水対策として、水質汚濁法等で一定規模以上の事業所における排出水の水質基準を設置して、養豚に対しては有害物質のうち硝酸性窒素等のほか、閉鎖性海域に関する大規模経営に対しては窒素、リットル当たり130ミリグラム、リンがリットル当たり22ミリグラムの暫定基準を設定。特に幅広い養豚農家に対しては、硝酸性窒素暫定基準としてリットル当たり400ミリグラムですけども、これを将来的には一般排水基準、リットル当たり100ミリグラムへの移行に向け、低コストな排水処理技術の開発や各農家段階での排水管理のさらなる改善が必要だと言われております。また、アミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物から一酸化二窒素の排出量を抑制することができるとしております。

そして、地域貢献の取組として紹介しますと、千葉県銚子市では排せつ物は堆肥として農地に還元、また堆肥の高品質化や利用性の高いペレット堆肥を堆肥製造所と連携し、地域内循環体制を構築しております。加えて、ペレット化することにより輸送性を高め、肥料メーカーを通した広域流通にも取り組んでいるということです。こうした先進地を視察して、市民に理解してもらう取組が必要だと思いますけども、見解をお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

先進地視察につきましては、現在検討中でございますけれども、今案としてありますのが沖縄本島で沖縄科学技術大学院大学が研究、開発したその技術を利用して、沖縄県の環境科学センターと畜産関連事業者が共同で実施を行っている養豚場がございます。地元住民からの要望や関係機関との調整が整い次第、

視察を行う方向で取り組んでいきたいと考えております。

◎狩俣勝成君

私この養豚業に対しては、本当に宮古島市に必要だなと思っています。千葉県にある会社を何回か視察に行っているんですけども、松阪ポークといって、かなり本当においしいんです。甘い。聞いたらやはり餌にこだわっていて、これも、だから宮古島市だったら宮古島ブランドができると。宮古島市の黒糖を給餌してあげれば、本当に柔らかい甘い肉ができるよということで、養豚というのはやはり餌にこだわってつくれば本当にブランド化して、いい肉が提供できるかなと思っています。それに加えて宮古島市の食肉センターの経営改善、これにも大きく貢献するのかなと。要するにヤギとか牛は、屠畜したらもうその主が持っていくんですけども、豚はある程度買上げできるので、これ屠畜して解体して販売。今でも販売はしているんですけども、販売量が増えることによって、食肉センターの経営改善にもつながるのかなと思っています。食肉センターの社長は市長でありますので、この辺に関して市長の見解をお伺いします。

◎市長（嘉数　登君）

社長でもありますけども、市長でもありますので、両方の立場から答弁をさせていただきます。

まず、食肉センターですけども、屠畜される家畜が主に牛、豚、ヤギ等々になっていますけども、新しい食肉センター建設整備計画での屠畜処理計画が豚換算頭数でいくと年間で7,900頭とされているのに対して、令和７年度、昨年度の実績が2,065頭にとどまっており、稼働率が26.1％ということで、大変厳しい状況にございます。全国的に食肉センターの収益の柱は豚と牛とされておりまして、豚の処理頭数を増やすことが施設を安定稼働させる収益の基盤となるとされておりまして、牛については豚に比べて処理頭数が減りますが、１頭当たりの枝肉単価や手数料が高く、部分肉カットなどを一貫して行うことで収益性の向上が期待できます。ただ、本市の肉用牛生産は繁殖経営が中心ですので、子牛の大半は肥育素牛として島外へ出荷されることや肉用牛生産農家の高齢化、それから離農の進行によって農家戸数も減少傾向にあることから、今ご指摘のある小規模養豚農家経営の支援や新たな養豚農家の誘致は有効な手段の一つであるというふうに考えております。

市長の立場で言うと、こうした取組によって養豚農家における頭数の確保、収益の確保というところにもつながりますし、食肉センターと、それから消費者目線でいきますと、地元の食肉の安定供給の観点にもつながるというふうに考えておりまして、市としても前向きに捉えております。

◎狩俣勝成君

計画では年間7,900頭、これが今2,065頭ということです。今この農家がやろうとしているのは、年間4,000から5,000頭出荷できるということなので、それを足したら目標に近づいていくのかなと思っていますので、ぜひいろんな課題がありますけども、勉強しながら私も取り組んでみたいなと思っています。

次に、イムギャーマリンガーデンについて、トイレが使用中止となっている状況について伺うとありますけども、これは経済工務委員会の中でも質疑があって、今月の18日、19日に工事予定とのことでしたので、昨日見に行ったらもう完了して、トイレは使用可能になっていましたので、この問題に関しては割愛したいと思います。

次、スポーツ行政について、カママ嶺公園市営テニスコートについて、照明設備についてなんですけども、これ３月定例会で山下誠議員への答弁で、既存の電柱４本に計６基の照明器具設置を予定していると

答弁していますが、現時点での配置計画についてお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

現在の状況といたしまして、今４面中２面のコートに１基ずつ照明が設置されております。夜間に試合を行える照度を備えるには１面当たり４基程度の照明設備が必要となります。令和８年度予算では、１面に対して照明を設置する予定としております。来年度以降につきましては、照明設置後の利用状況を確認の上、検討してまいります。

◎狩俣勝成君

私も電柱４本に計６基の照明器具をつけるということなので、これ全体的にぽかんと明るくするだけになるのかなと思ってちょっと心配しておりまして、テニス協会の方々と意見交換したら、もう予算が限られているんであれば、もう１面だけでもいいので、試合ができる状態にしてほしいと。そのほかのコートに関しては継続事業でもいいので、来年度以降でもやってほしいという話がありましたので、これについてはそういった考えがあるということでありますので、よろしくお願いします。

次のイの設置予定の競技レベルについて、一般競技大会ができるのか、それとも練習用だけなのかという件についてお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

照明設置には競技レベルというのが３段階ございます。競技区分１が公式競技、これは全国大会などが行えるものです。競技区分２、これは一般競技で予選大会、地方大会などが行えるレベルのものです。競技区分３、これが練習試合やトレーニングなどが行えるレベルのものとなっております。今回３段階ある区分のうち競技区分２、一般競技の予選大会、地方大会が行える要件を満たす照明設備の設置を予定しております。

◎狩俣勝成君

では、今予定している照明器具の設置、これ完成時期はいつ頃を目指しているのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

資材の納期が４か月程度かかる見込みとなっておりますことから、設置完了時期は年明け頃と考えております。

◎狩俣勝成君

では、令和８年は１面試合ができる状態ということで、引き続き来年度以降も、できれば４面とも大会ができるようなレベルに持っていってほしいなと思います。

次、宮古島市陸上競技場駐車場の雨水処理について、進捗状況についてお伺いします。これは、道路は道路建設課、陸上競技場の駐車場は観光商工スポーツ部という、管轄が違うと聞いております。その中で道路建設課のほうは予算計上してありましたけども、観光商工スポーツ部の管轄といいますか、予算がちょっと見えなかったので、その進捗状況についてお伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

市陸上競技場からファミリーマート宮古工業高校前店までの区域における大雨時の冠水対策につきましては、該当する区域内の道路部分につきましては建設部で対策工事を行い、陸上競技場周辺区域内におきましては観光商工スポーツ部で対策工事を予定しております。陸上競技場周辺区域内につきましては、昨

年度に実施設計が完了し、工事発注の準備は整っておりますが、今年度におきましてはまずは道路部分を先行して対策工事を実施し、施工後の現場の改善状況を確認した上で、必要に応じて陸上競技場周辺区域の工事につきましては実施を予定しております。

◎狩俣勝成君

観光商工スポーツ部長、先に道路のほうで工事をやって、様子を見て何か後からやるみたいな感じなんですけども、私の素人考えで、陸上競技場が上部にあります。そしたら、そこの敷地内の水は、その敷地内で処理したほうが道路に流れていく水も少なくなるのかなと思っています。あそこの東川根自治会とか各通り会の要請を見たら、市陸上競技場を流れる雨水は流れの速い状態になり、大雨時には足を取られ、大変危険な状況にありますとなっています。恐らく道路のほうは、多分下流のほうで浸透ますとかを設置していくとは思うんですけども、やはり普通逆かなと思うんです。まずは陸上競技場の駐車場の敷地内で止めて、その後に道路に行くという感じかなと思っています。今回は管轄が２つの部署に分かれておりますので、これできれば観光商工スポーツ部として駐車場、そこだけでも先にやってもらえないかなと思いますけど、いかがですか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

先ほども答弁しましたけど、本年度は建設部において下流部の工事を実施することから、冠水被害はある程度緩和されるものと見込まれています。施工後の下流部の道路の改善状況を確認した上で、さらなる対策が必要であれば、早い段階で陸上競技場周辺区域内の工事については実施したいと考えております。

◎狩俣勝成君

道路のほうでやって、これを様子見てからやるというのは、多分これは簡単には治まらないと思います。逆に上のほうから先にやってこないと、これは本当にどうなるんだろうと思っていますので、これは恐らく浸透ますの排水容量の設計に関しても、道路のほうは恐らく駐車場は駐車場でのみ込むので、そこ見ないで、その道路部分だけの設計になっているのかなと私は思います。ですので、道路と観光商工スポーツ部の、これ全く別の件で考えてもらってやっていかないと、もう水が流れる危険な状態と言っていますから、下流まで水が流れるまで道路はもう本当に川のようになって流れていって、そこに年寄りとか子供たちが足を取られてけがするおそれもありますので､その件に関してもう一度検討できないかお伺いします。

（「検討すると言って」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時27分）

再開します。

（再開＝午後３時27分）

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

狩俣勝成議員おっしゃるとおり本当は同時にやったほうが一番いいかと思うんですけど、やはりまずは予算の都合上も少しあるんですけど、建設部のほうでやっていただいて、早い段階でできるように検討していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎狩俣勝成君

では、観光商工スポーツ部長、有言実行で早い段階でぜひお願いします。

これをもちまして私の今回の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで狩俣勝成君の質問は終了しました。

お諮りします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認め、よって本日の会議はこれにて延会します。

（延会＝午後３時29分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月26日（金）　　６日目

（一　般　質　問）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第６号

令和８年６月２６日（金）午前１０時開議

日程第 １　 一般質問

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月２６日（金）

（開議＝午前10時00分）

（延会＝午後５時50分）

◎出席議員（２２名）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（０名）

◎説　明　員

市長	嘉数登君	会計管理者	友利和代君
副市長	砂川朗〃	水道部長	砂川勤〃
企画政策部長	石川博幸〃	消防長	狩俣勝彦〃
総務部長	上地俊暢〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
福祉部長	守武大〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
農林水産部長	下地貴之〃	教育長	宮城克典〃
建設部長	下地睦子〃	教育部長	久貝順一〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	生涯学習部長	天久珠江〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	農業委員会会長	長濱国博〃
環境衛生局長	梶原健次〃	農業委員会事務局長	川満邦広〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）諸般の報告書

令和８年６月２６日（金）

６月２４日	本会議延会後、議会運営委員会が開催され、「台風７号の接近に伴い、暴風警報が発令され、閉庁となった場合の一般質問の進め方」について諮問したところ、①２６日（金）の一般質問は６名とすること、②最終本会議の２９日（月）は２名の一般質問を行い、終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決した。 以上

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席議員は21名で、定足数に達しております。

本日の日程は、議事日程第６号のとおりであります。

この際、諸般の報告をします。

事務局長から報告させます。

◎事務局長（友利毅彦君）

議長の命により、諸般の報告をいたします。

６月24日、本会議延会後、議会運営委員会が開催され、台風７号の接近に伴い、暴風警報が発令され、閉庁となった場合の一般質問の進め方について諮問したところ、本日の一般質問者は６名とすること、最終本会議の29日は２名の一般質問を行い、終了後、委員長報告、質疑、討論、表決を行うことと決しております。

諸般の報告は以上です。

◎議長（平良和彦君）

これより日程第１、一般質問について、先日に引き続き質問を行います。

本日は、下地信広君からであります。

順次質問の発言を許します。

◎下地信広君

幸政会自民党の下地信広でございます。サッカーも気になるところでございますが、しばらくの間、お付き合いをお願いしたいと思っております。

先週ですか、６月19日、県紙の新聞に下地島空港が税関空港に指定される見通しという記事が載っておりました。それを読んで、非常に幸せな気持ちになりましたけど、今下地島空港の利用状況といいますと、2025年の上半期で20万人以上、超しております。国内線が18万865人、国際線が３万7,436人となっておりますが、これが税関空港に指定されますとさらに国際線の誘致促進が期待され、宮古島市の特産品が外国に輸出でき、物流の活性化による経済効果、さらなる観光産業の発展ができると期待しております。これも市長があちこちの省庁とか関係機関に要請したたまものだと、トップセールスに感謝を申し上げます。

それでは、一般質問に入りますが、最初の質問の順番を変えまして、３番目の日米共同訓練について質問します。日米共同訓練の実施についての意見交換会は、６月６日から始まっていますが、６月６日といいますとちょうど東京の馬事公苑でせたがやふるさと区民まつりがありました。世田谷区と宮古島市との交流も行われましたけど、世田谷区からは世田谷区長、議長、副議長をはじめ約30名ほどのメンバーが集まっておりました。宮古島市からは、平良和彦議長と私と公明党の富浜靖雄議員と事務局の４名でございます。それで、非常に４名で盛り上げてはきましたけど、やはり副市長、市長が一人もいないと、非常に行ったメンバーは肩身の狭い思いをするので、ぜひとも次回からはどちらか１人必ず参加するようお願いしたいなと思っております。

それでは、まず質問しますが、土曜日、日曜日も返上してまで国防に関わる日米共同訓練について、地

域ごとに意見交換を実施しております。その意義と目的について改めてお伺いいたします。よろしくお願いします。

（前里光健君、着席）

◎市長（嘉数　登君）

地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会は、日米共同訓練が本市で実施されることに対し、市民の皆様が様々なご意見を抱かれている状況を踏まえ、私が訓練受入れの判断に至った経緯とその背景にある考えを直接お伝えし、市民の皆様とともに地域の平和を守るという共通の目標に向かって、共に考える機会とすることを目的に開催したものでございます。

◎下地信広君

市民の安心、安全、暮らしを優先にしたと受け止めておりますが、21日で終わっていますよね、この説明会は。それで、地域ごとの今度質問内容、例えば基地のある地域住民とか、市街地の住民であるとか、そういう各地域の住民の意見に相違はあったのかどうか、その感想をまとめて簡単でよろしいですので、よろしくお願いしたいと思います。

◎市長（嘉数　登君）

今回の意見交換についての意義ですとか地域ごとの意見はどうであったかということの趣旨のご質問にお答えします。

今回の意見交換会は、市民の皆様の多様なご意見を直接お伺いし、対話することができた大変有意義な機会であったというふうに認識しております。また、本市を含む南西諸島を取り巻く安全保障環境の現状について、市民の皆さんと共有し、共に考えることができたものと考えております。このことは、市民の皆様にこの地域を取り巻く状況を自分事として捉えていただき、共に安全で安心な地域社会を築き上げていく上で重要な契機となったものと考えております。意見交換においては、賛否それぞれの立場から様々なご意見をいただきました。特段その地域によって違いがあったとの認識はなく、各地域で切実な思いが寄せられたものと真摯に受け止めております。市民の皆様からのご意見をしっかりと受け止め、責任を持って国に届けてまいりたいと考えております。その上で、引き続き国に対しては、透明性のある情報公開と市民の皆様に寄り添う丁寧な対応を求めてまいりたいというふうに考えております。

◎下地信広君

私もこういう説明は、訓練も大事だなと思っておりますが、私は伊良部島のところしか聞いていませんけど、日米合同訓練とかけ離れた質問が多かったのかなと、そういうふうに感じました。自衛隊とか基地に反対する方々のやり玉になっているんではないかなという、そういう気がしましたけど、今回のような国防に関する説明事例をつくっていますけど、今後も同じような訓練があれば説明するのかどうかお伺いしたいと思います。

◎市長（嘉数　登君）

市民の皆様の不安ですとか懸念、これはしっかりと受け止める必要があるというふうに考えておりますので、その都度、開催の必要性も含めて判断をしてまいりたいというふうに考えております。

◎下地信広君

秘書広報課の職員の皆さんも企画政策部長も総務部長も大変お疲れさまでございました。

次の質問に移りたいと思います。次は、１番に戻って、森林環境譲与税についてお伺いします。森林環境譲与税は、令和６年から年間1,000円を住民税と併せて国税として徴収されていると思いますが、宮古島市に入る税収入についてお伺いいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市に入ってくる森林環境譲与税でございますけれども、令和６年度が1,176万4,000円、令和７年度が1,239万6,000円となっております。

◎下地信広君

それでは、その税収の使い道でありますが、②番になりますけど、宮古島市において具体的な活用事例についてお伺いしたいと思います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市では、森林環境譲与税を活用しながら、これまで大野山林や学びの森、ヤーバルやすらぎの森などの森林整備や倒木が起きた際の撤去作業、市有林内の森林資源量の調査を行っております。令和８年度におきましては、これらの森林整備事業に加えまして、木材利用促進のため、木を使ったソファーベンチ、テーブル、椅子やおもちゃ等を購入する予定となっております。

◎下地信広君

続きまして、③、宮古島市の森林率についてお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市における、まず森林面積でございますけれども、総面積は3,262ヘクタールとなっておりまして、森林率は16％となっております。

◎下地信広君

16％か。森林の効果というか、使い道とか、いろんな部分で貢献している部分ありますけど、私は小さいとき、特にサシバが本当にたくさん飛んで止まっていたんです。特に字仲地の橋と字国仲の橋の間、これがすごくもう空を覆って、本当に空が見えないぐらいたくさんいました。小さい木にもみんな止まっていたんですけど、ちょうど今ゴルフ場があるところとか、伊良部仲地市営住宅辺り、この辺もすごくもう木がたくさんありまして、サシバをいっぱい見ることができました。この森林率だけでサシバが戻るとは思いませんけど、ぜひともっともっとこの森林率を増やしていただきたいなと思うし、特に私が考えているのは、サシバの森構想というサシバの森を利用して、前の森みたいな感じで茂ったところでサシバを見ながら散歩もできる、観光客が見れればいいかなと思ったりして、また高齢者のためにも森林を歩くということは非常に健康にもいいのかなと。今学びの森のためにも森林環境譲与税を使っていると言っておりましたけど､それと同じようなことを旧市町村の郡部のほうもできれば森林率アップしてもっともっと、効果があるんではないかな、健康面でも効果はあるのかなと思っております。特にゴルフ場の１ホール、２ホール、ホールとホールの間にモクマオウとか高い松を植えて、少しでもサシバが止まれればなと思っておりますので、両方兼ね備えて、サシバの森構想、もしできれば宮古島市が土地も買って、使っていない土地等あれば森林率を上げていただきたいなという要望でございます。

そして、森林は地球環境を守り、生き物や人の生活を支える多面的な役割を持っていると思います。皆さんご存じのように、森林は光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を放出します。日本の森

林は、年間１億トンの二酸化炭素、CO_2を吸収していると言われております。地球温暖化が進む中で、宮古島市の森林率が増えることを願って、次に移りたいと思います。

次は、宿泊税についてでございます。宮古島市の宿泊税の導入は、令和９年２月１日を予定していると伺いました。予定どおりなのか。これ沖縄県が来年２月には導入する、同じように。観光目的税、宿泊税をめぐって、宿泊事業者のシステム改修にかかる費用を助成するシステム補助金の申請の件数が少ないということで、今月末だった申請期限を11月まで延長しています。それで心配して、宮古島市の状況はどうなのか、ベンダーとの調整についてお伺いしたいと思います。

◎総務部長（上地俊暢君）

宿泊税の導入についてお答えいたします。

現在、令和９年２月１日の宿泊税施行に向けて、特別徴収義務者となる宿泊事業者等の登録申請を市のほうで受け付けているところでございます。議員ご指摘のとおり、登録申請が少し遅れている状況ではございます。また、税システムを導入することが必要となるため、システム提供事業者、ベンダーでございますが、市も調整を行っているところでございます。市としましては、10月頃に段階的運用を実施し、12月頃までにはシステムの構築が完了する予定となっているところでございます。

それから、先ほどご質問の事業者についても同様にシステムの導入が必要でありまして、それについて県のほうが補助を設けているところでございます。さらに、特別徴収義務者である事業者等の負担軽減のため、電子申告納付及び手書きでの申告納付に対応できるよう、関係機関と調整を行っているところでございます。

◎下地信広君

特別税、税を徴収する事業者、今最近ホテルも増えていますが、大体何件ぐらいでしょうか。

◎総務部長（上地俊暢君）

今年度４月に想定される宿泊事業者、特別徴収義務者を想定をしておりまして、今把握しているのが1,000件余りを想定をしております。

◎下地信広君

それでは、②の宮古島市への税収見込み、３月定例会での答弁では５億400万円となっておりますけど、いろいろ観光客も増えるともっと増えるのかなと思っておりますが、税収の使途を決める会議体が開催されているのであれば、その内容をお伺いしたいと思っております。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

宿泊税の使途を議論する場として、本年６月８日に観光目的税使途事業協議会を立ち上げ、協議を開始しており、本年度は合わせて４回の協議会を開催する予定で進めております。協議の内容としまして、市役所の各部局や民間事業者などの観光関連事業者から使途要望事項を集約し、宿泊税の財源が活用できる事業を協議会の中で選定し、優先順位づけを行う内容となっております。協議会の構成員は、市役所のメンバーとして、観光課長をはじめ宿泊税の使途に関連する部局の課長、民間事業者などからは、宮古島観光協会をはじめ、宿泊事業者、二次交通事業者など、16名の構成員となっております。また、必要に応じて委員以外の協議会への参加依頼を行うことも可能としております。

◎下地信広君

宿泊税の使い道なんですが、市民から市民生活のバランスを取っていただきたいということで、どういうことかといいますと、観光客が持ち込むちり、ごみとか、使う水とか、そういった部分にも使ってほしいと。今水問題で地下水を利用しているわけですけど、基準内でありますが、いろいろとまた農薬成分が入っているのが見つかったりしております、微量ながら。そういった部分にも使ってもらえないかなという、そういった要望等もありますので、ぜひとも検討していただきたいと思っております。

次に移りたいと思います。４番目の中東情勢が見通せない中、宮古島市のごみ袋等石油製品の確保について、当局の見解をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

宮古島市では、指定ごみ袋の在庫を一定量、クリーンセンターのほうで確保しております。そのほか、製造業者のほうから毎月納品を受けているんですけども、こちらのほうも滞りなくできております。現時点では、市民生活に影響が出るような供給不足は生じておりません。原材料価格は、やはり高騰しているんですけども、これにつきましては宮古島市と製造業者の間で製造単価を上げる変更契約を６月８日付で行っておりますけども、市民への販売価格については変更ございません。

◎下地信広君

他の市町村によると、中東情勢の混乱による石油製品の供給不足から、ナフサを原料とする自治体指定のごみ袋の品薄が続く。そういう中で、指定外の袋の使用を認める自治体も増えているというのがありましたから伺っているんですが、では今のところ目詰まりとか値上げの予定はないということで理解してよろしいでしょうか。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

値上げの予定はございません。

◎下地信広君

よかったと思っております。

それでは次に、５番目の宮古島市の現金取扱い事務についてお伺いいたします。市の行政において、直接現金収受を行っている部門は何か所あるのか、まずはお伺いしたいと思います。

◎会計管理者（友利和代君）

現金収受を行っている部門の数ということでございます。今年度６月時点で、市長部局で20の課、教育委員会で２課、２施設、計24か所となります。

◎下地信広君

24か所、結構多いですね。少なければそれぞれの対策を述べてほしかったんだけど、時間がないし、今日は６名登壇ということなので、それでは２か所だけ指名しますので。いろいろ対策についてはお伺いしましたが、豊見山貴仁議員の質問に、現金を取り扱う業務について、特定の職員に依存する属人化の状況はないと答弁しておりますけど、非常に難しい言葉を豊見山貴仁議員が使ったもんだから、大したもんだなと思って私も引用しておりますが、１人ではなくて何名かの方でやっているということなんですが、それでもこういう不祥事が起きたということは、私はチェック機関がぬるいんではないかなと思っておりますので、まずは道路建設課と、２年前に述べた、今指定ごみ袋の現金を扱っている環境衛生課、この２つの部署に対策についていま一度答弁お願いしたいと思います。まずは建設部長から。

◎建設部長（下地睦子君）

道路建設課というご質問でしたが、道路建設課ではなくて、多分空港課だと思いますので、空港課のほうで答えさせていただきます。

空港課の今回の事案に関しましては、これまでも答弁をいたしましたが、年間365日、３交代制の勤務体制で、会計年度任用職員を除く空港課職員全員で駐車料金の回収を行っていることに加えて、空港課事務所への職員以外の出入りも防犯上制限されていることから、空港課職員全員で金庫内の現金を取り扱っておりました。これまでの現金管理体制の検証をせず、前例を踏襲していたことが今回の事案の発生原因であると考えております。防止策といたしましては、金庫への現金投函後、開錠するまで現金が取り出せない特殊な金庫を６月２日から導入しております。また、事務所内の監視カメラ設置についても現在準備を進めているところでございます。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

私からは、衛生施設課についてご説明いたします。

衛生施設課では、指定ごみ袋の販売料、それからそのほかに一般廃棄物の処理手数料、この２つに関して現金の取扱いを行っております。現金は、課の中に設置した金庫に一旦入れるような形にしているんですけども、まず公金取扱い担当者が金庫の鍵を管理しております。お釣り用の現金のほかは、市に納入された分については速やかに納付書を発行した上で銀行口座へ入金しておりますが、その際には伝票等のチェックもした上で金額の確認を行っているところです。

◎下地信広君

なるべくだったらもうキャッシュレスのほうが一番安全なんですが、なかなかそうもいかないということで、指定ごみ袋に関しては、前回は振込にしなさいと、振込でやれば問題は起きないんではないかなということも言ったんですが、なかなかそこは全部うまくいかないところがあるので、ぜひともチェック体制、今述べたようにしっかりしていただきたいなと思っております。

次に移りたいと思います。次は、福祉行政についてです。福祉行政の中の保育行政についてお伺いいたします。まず、保育園に兄弟姉妹がいる中で、別々の保育園に預けているという事例が見受けられますので、これ何とか、前も出たんだけど、配慮が必要だと思われますが、何とかならないものか、原因とかあれば教えてください。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

兄弟姉妹が同じ保育所に入れない理由についてでございます。本市の認可保育施設を別々に利用している主な理由としましては、希望する施設で定員を超える申込みがあり、兄弟姉妹で同時入所がかなわなかったため、保護者があえて別々の施設の入所を希望したためと考えております。このような状況を踏まえて、兄弟姉妹で同じ施設の利用を継続して強く希望する保護者に対しましては、丁寧にお話を伺い、施設の空き状況等を確認しながら、可能な限り希望に沿えるよう対応したところでございます。

◎下地信広君

いろいろ原因はあると思います。一番の原因は、子供が少なくなっているという部分で保育士が、なかなか先生たちが見つからない。前は定数を増やす申請をしていたのに、保育園の運営規程の中でどうしても加算が取れないということで、減になっているという部分で、嫌々ながらも定数が減ってしまったらこ

ういうふうに預けられる場所が少なくなっていると、そこが原因だなと思っておりますし、そもそもやはり少子化を防ぐためにはこういうサービスも、保育行政もしっかりした、こういうふうにお父さん、お母さんたちが本当に預けやすい、そういう環境をつくっていくのが大事かなと思っておりますので、特に子育て応援宣言をしている宮古島市でございますので、ぜひともこういう兄弟がばらばらに預けられないように、しっかり取り組んでいただきたいなと思っております。

それでは、２番目のひとり親家庭の生活支援についてお伺いいたします。ひとり親家庭世帯の自立を図るため、どのような支援をしてきたのか、具体的事例があればお伺いしたいと思います。

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

宮古島市ひとり親家庭生活支援事業は、ひとり親家庭の自立支援を目的として、民間アパート等の確保及び提供を行う住宅支援や家計管理の助言などを行う生活支援のほか、子育て支援、就労支援など、ひとり親家庭の個別の事情に応じた自立支援計画を作成し、専任の生活支援コーディネーターによるトータルサポートを行っております。支援期間は原則１年となっております。これまでの支援実績は、令和５年度で１世帯、令和６年度で２世帯、令和７年度に２世帯となっており、貯蓄額の増加や生活改善につながっております。今年度は、支援対象を３世帯を目標としている中、現在は昨年度から継続している１世帯を支援している状況です。引き続きひとり親家庭の自立と子供の健やかな成長を支援するため、事業を継続してまいります。

◎下地信広君

確認したいんですが、ひとり親家庭というのは父子家庭だけなのか、それとも母子家庭、父子家庭両方なのか、よろしくお願いします。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時33分）

再開します。

（再開＝午前10時33分）

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

対象としては父子、母子両方なんですが、実績としては母子のほうの実績しかないということでございます。

◎下地信広君

母子のほうが多いということで、お父さんは遠慮しているのかね、男の人が。

それでは、就労支援とか、アパートを活用した住宅支援もしているということなんですが、このすばらしい事業をどういうふうにＰＲしているのか。つまりは、母子会の組織があるのか、父子会の組織があるのか、また民生委員を通しても勉強会みたいのをやっているのか。せっかくですので、ＰＲが大事だと思うので、この事業を活用するためには、そこのところ分かればお教えください。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前10時34分）

再開します。

（再開＝午前10時35分）

◎こども家庭局長（狩俣博幸君）

各課連携した機関からいろんな情報が上がってきた場合に支援につなげているという状況でございまして、説明会等についてはこれから検討してまいりたいと考えております。

◎下地信広君

何分今日は６名登壇ということで、私もなるべく10分前に終わろうということで急いでおりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

それでは、次の３番目の宮古島市のスポーツ振興、活性化についてお伺いいたします。宮古島市スポーツ推進計画、７年計画、平成27年から平成34年版は、ＰＤＣＡサイクル、つまり計画、実施、評価反省、改善を活用し、見直しをして成果と課題を検証することで次へのステップとなるものでした。新計画は今どうなっているのか、お伺いしたいと思います。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

新計画はどうなっているのかについてでございます。スポーツ基本法に基づく地方スポーツ推進計画については、令和４年度にスポーツ庁から地方スポーツ推進計画の策定等に係る事務負担軽減について通知があり、必ずしも単独の地方スポーツ推進計画である必要はなく、総合計画等においてスポーツ行政を位置づけることも可能であること等が示されております。また、同通知内で、国は令和８年度の第３期スポーツ基本計画の終期までに、地方公共団体における実態等を把握した上で、地方スポーツ推進計画について必要な措置を講ずるとあることから、今後の国の動向を注視しているところです。一方、本市はスポーツアイランドを掲げており、スポーツ推進に取り組んでいることから、スポーツ推進計画策定の必要性について、スポーツ振興課を中心に協議を進めているところです。

◎下地信広君

よく分かりましたが、スポーツ推進計画というのは国が定めておりますが、今後のスポーツ活性化の指標となると思うんです。ですから、スポーツ推進計画を作成してもらいたいなと思っておりますので、国は国、また宮古島市は宮古島市で具体的に、私は前のスポーツ計画、すばらしいと思っておりますので、ちょうど令和４年に多分切れているなと思って今質問していますから、ぜひとも検討していただきたいと思っております。

次に、２番目のスポーツ振興に必要な有識者会議の宮古島市スポーツ推進審議会、そして宮古島市スポーツコンベンション推進協議会等の開催についても、実績があればお伺いしたいと思っております。よろしくお願いします。

◎生涯学習部長（天久珠江君）

スポーツ推進審議会についてお答えいたします。

スポーツ推進審議会は、スポーツ基本法に基づき、スポーツ推進計画、その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査、審議する機関です。審議会は、審議案件に応じて開催しており、令和２年度に開催して以降、審議事項がないことから、開催しておりません。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

私からは、宮古島市スポーツコンベンション推進協議会について説明いたします。

宮古島市スポーツコンベンション推進協議会は、本市における各種スポーツ大会や合宿誘致などの全般について、市内の各スポーツ関連団体と市が連携して、受入れ強化を図ることを目的に平成27年度に発足しております。これまで協議会では、伊良部屋外運動施設野球場の完成後の合宿誘致をはじめ、各種スポーツ合宿受入れ窓口の一元化などを中心に協議してまいりました。令和４年度の協議会において、伊良部野球場の合宿誘致や合宿受入れ窓口の一元化はおおむね整ったことから､現在は開催していない状況です。しかしながら、今後、新総合体育館完成後の合宿誘致活動などもございますので、本年度中には協議会を開催する方向で進めてまいります。

◎下地信広君

スポーツ推進審議会、そして宮古島市スポーツコンベンション推進協議会、両方ともあまり芳しくない答弁をもらいましたが、有識者によるスポーツに関する提言とか意見要望等は、私はスポーツ振興にも不可欠だと思っておりますので、ぜひとも開催していただきたいと思っております。

次です。パラスポーツについてお伺いしますが、パラスポーツも国内外の大会が開催され、認知度が高くなっています。宮古島市における障害者のスポーツ活動推進はどのような状況なのか、お伺いしたいと思います。

◎福祉部長（守武　大君）

本市の障害者のスポーツ活動推進については、宮古身体障害者連合会や宮古地区手をつなぐ育成会が中心となり、各種スポーツ大会を開催しているほか、毎年、沖縄県のスポーツ大会やサウンドテーブルテニス大会の参加実績がございます。なお、今年度は10月に青森県で開催される全国障害者スポーツ大会へ、２競技３名の派遣が決定しております。このほか、昨年度から一般社団法人琉球スポーツサポートによるボッチャ大会が開催されており、好評を得ております。本市といたしましても、障害者のスポーツ活動については各種団体への委託事業を行っておりますので、さらなる活用を推進し、障害者スポーツの振興を図ってまいります。

◎下地信広君

やはり障害者も市民の一人として、取り残されないように、スポーツ施策を立てて実践していただきたいと思っております。

次、４番目のほうに移りますが、宮古島市のスポーツイベント、トライアスロン、ワイドーマラソン、大学駅伝、ビーチバレーボール等、宮古島市のスポーツ活性化に貢献しております。競技者との交流による人材育成は開催されているのか、お伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

本市で主催している全日本トライアスロン宮古島大会などのスポーツイベントでは、市が主催する交流行事は行っておりませんが、トライアスロン大会に出場した台湾の選手は、下地中学校を訪れ、生徒との交流を行っております。また、その他の出場選手も市内の小中学校などで交流があるものと認識しております。また、去る２月に開催された宮古島大学駅伝においては、実行委員会が主体となり、大会に出場した日本体育大学が伊良部島小中学校の生徒を対象に陸上教室を開催しております。また、同じく大会に出場した東海大学におきましては、市内の中高校生と合同練習を行っており、有意義な交流が図られたもの

と考えております。本市としましても、著名な大学などのスポーツ選手との交流は、子供たちにとっては貴重な体験であり、人材育成にもつながると考えておりますので、今後も関係機関と連携し、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

◎下地信広君

宮古島市に合宿で訪れる一流競技者による宮古島市の競技者､そして指導者への実技講習とか講演会は、宮古島市のスポーツの底辺拡大、普及、育成、そして競技力の向上、人材育成に役立つと思っておりますので、せっかくの機会ですので、推進していただきたい。また、やっておりますので、ぜひまたこれを拡大していただきたいなと思っております。

次、スポーツに関連することで、どうしても私は親子３代リレーを体育の日とかスポーツの日に全宮古島でやりたいといつも考えております。これは、おじいとおばあ、そして子供、孫は50メートル、お父さん、お母さんは100メートルということで、孫はどこから連れてきても構いません、沖縄でも東京でも。全宮古島の大会をぜひとも、これは別に答弁は要りませんが、９月までに検討していただきたいな。お願いします。宮古島市陸上競技協会メンバーと相談しながら、細かいルールはまた相談していただきたい。どうしても親子３代で走りたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは次に移ります。道路行政について。県立宮古病院前、オリーブ薬局前の街灯について、これもう何か月にもなっていると思いますが、街灯が消えて暗いため、修繕はできないかお伺いしたいと思います。

◎建設部長（下地睦子君）

下地信広議員ご指摘の街灯が設置されている箇所は、県立宮古病院前交差点からマクラム通りにかけての市道大原線で、オリーブ薬局前の１基の街灯が点灯していないことを確認しております。故障原因を調査の上、早期に適切な修繕を実施してまいります。

◎下地信広君

ぜひよろしくお願いしたいと思います。

２番目に、伊良部字仲地の理髪店前にある排水溝ですが、コンクリートの蓋が壊れて危険な状態になっております。向こうの道は幅が狭くて、対向車が来ますとどうしても排水の蓋に乗らないと通れない状況なので、その修理の計画はあるのかどうかお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

伊良部字仲地の排水側溝蓋の破損についてですけれども､ご指摘の箇所は既に現地の確認を行っており、現在、安全確保のため、応急的な対応と併せて、早急に修繕を行うよう業者へ依頼しております。今月末までには修繕をいたします。また、先日現場を確認した際、周辺住民の皆様から、この溝に足を取られてけがをした子供がいるであったり､骨折した高齢者がいるとの話を聞き､大変申し訳なく思っております。先週からＡＩ搭載のパトロール車が導入されておりますので、今後はこれらを活用して、同様のことが起こらないよう、早期の修繕を実施してまいりたいと考えております。

◎下地信広君

今月末までということですので、ありがとうございます。よろしくお願いしたいと思います。

次、最後になりますけど、伊良部字伊良部の塩田公園のあずまやの解体工事について、これはもう何回

も述べていますが、どうなっているのか計画をお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

塩田公園内にあるあずまやにつきましては、先月５月21日に解体工事を発注しております。解体自体は既に終了しておりますが、今後整地工事を行いまして、８月末の完了を予定しております。

◎下地信広君

ここは公園で、子供たちが結構遊びに来るので、一応縄は張ってあるんだけど、心配しておりました。８月末で終わるということで、大変ありがとうございます。よろしくお願いします。

今日は、前も言ったように６名の方が登壇しますので、１人10分ずつ縮めれば多分早く終わると思うんで、次の議員にも期待して終わりたいと思います。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで下地信広君の質問は終了しました。

◎平良恵泰君

宮古創進会、議席番号５番、平良恵泰です。下地信広議員、まいていきますので、よろしくお願いします。

早速もう一般質問に入らせていただきます。まず、１番、農業行政について。１、稲作について。令和７年12月定例会以降、私が一般質問で上げさせていただいております稲作についてですが、６月に石垣市のほうへ視察に行っていただき、ありがとうございます。今回は、台風の影響もあり、担当部署と私が同日に視察はできませんでしたが、視察された担当職員から話を伺うとともに、また私も別日で視察を行わせていただきました。石垣市においては、今年から民間による２つのパターンでの試験栽培を行っていました。節水型乾田直播と乾田直播です。どちらも乾いた田んぼに種をまき、発芽させるまでの工程は変わりませんが、発芽後に畑に水を張るかどうかに違いがあります。節水型については、収穫状況が芳しくない一方で、乾田直播については、通常の田んぼに近しい収穫が見受けられていました。今回の結果は、十分に満足できるものではないと業者の方はおっしゃっておりました。石垣市は、民間企業における実証実験であり、改善の余地は大いにあるとのことで、可能性を判断するのは早く、今後も継続して取り組んでいくそうです。

それらを踏まえてですが、①、石垣市での視察の結果を踏まえて見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

稲作につきましては、今月上旬に石垣市において実施されている試験圃場の視察を行っております。内容としましては、従来の栽培方法である育苗から田植を行う移植栽培とは異なり、水を張らない状態での圃場に直接種をまく稲作の乾田直播栽培についてでございます。今回の視察では、２つの試験圃場の視察を行っております。１つは、播種後に水を張った状態にして栽培を行う圃場、もう一つは播種後も水を張らずに２週間に１回程度の給水を行う節水型乾田直播栽培の圃場の視察を行っております。収穫時期は８月以降になるとのことでございますが、６月上旬の時点におきまして、水を張った状態で栽培している圃場では発芽、生育状況ともに良好で、節水型と比較すると大きな差があるとのことでございます。実証試験を行っている事業者からは、現時点での試験段階の評価としては、節水型乾田直播栽培については、労働時間とコストの削減にはつながるが、通常の植栽栽培並みの収量は見込めないとの意見をいただいてお

ります。

◎平良恵泰君

石垣市では、乾田方法で作付時に農業機械のメーカーによっても収穫の状況の違いが大きく見られるとのことでした。

そこで、②ですが、農業技術は土壌、水利用、気候条件によって結果が異なります。石垣市での検証結果だけで宮古島市における稲作の適否を判断するのではなく、宮古島市の環境下で小規模な試験栽培を実施し、データを蓄積する必要があると考えますが、改めて市の見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

平良恵泰議員ご提案の稲作の試験栽培につきましては、先ほど答弁したとおりでございますけれども、先日の石垣市の視察内容から、栽培環境や生産体制が整った地域において成り立っているものであり、本市において同様の条件を確保するのは容易ではないと認識しております。また、本市の農業は基幹作物のサトウキビを中心に展開されており、農地の利用、労働力の確保、販路形成等を総合的に勘案すると、現時点において積極的に取り組むことは難しいものと考えてはおりますが、県内のほかの産地の情報収集等につきましては引き続き行ってまいります。

◎平良恵泰君

ぜひ引き続き情報収集をお願いしたいと思います。

続くんですけど、石垣市の民間企業は宮古島市で米卸業をしていた会社でもありまして、宮古島市で実証実験をするのであれば、情報交換含めて協力したいという話はしてくれました。また、石垣市で生産されたお米のほぼ全てが石垣島内で消費されるそうです。先日石垣市でオープンした牛丼チェーン店のすき家もこのお米卸業者から石垣産のお米を100％使用しているとのことで、島内での需要に対して供給が追いついていないのが石垣島内での現状だそうです。ぜひ稲作をサトウキビに次ぐ農業作物として、宮古島市でも実証実験栽培が進んでいければと思います。

次、２番です。地産地消について。今定例会の補正予算でも上がっておりますが、生食用パイン生産拡大事業等など、このように新規作物生産者への生産支援を行っていただければと思います。

そこで、①、私の令和７年12月定例会の質疑にありました地産地消認定品目について、現時点での検討状況をお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

地産地消について、ほかの自治体の取組事例を確認したところ、生産品目の認定ではなく、沖縄県と同様の地元産食材を積極的に使用する飲食店等を認証する認証店制度や、地域特産品をブランドとして認証する地域ブランド制度などを採用しており、これらは販路拡大やブランド化、付加価値化の部分が主な目的の出口戦略であります。農政課では、六次産業化等での付加価値創出の部分とも共通しますが、まずは入り口部分である生産物の品質及び安定供給確保のため、生産基盤の底上げを行うことが重要であると認識しております。農作物の生産振興の観点から、品目を特定するのではなく、本市の生産農家が生産、供給できる作物への支援を行い、生産拡大に取り組んでいるところでございます。その結果として、宮古島産の様々な農作物が島内の市場へ流通し、消費者へ届くこととなり、地産地消へつながっていくものと考えております。

◎平良恵泰君

おっしゃるとおり販路だけでなく生産技術底上げのためにも、担当部局のほうからぜひ支援をお願いしたいと思います。

次、２番、ふるさと納税についてです。①、先日の砂川浩平議員の質問とかぶってしまいますが、改めてにはなります。①の本年度のふるさと納税額の目標について、ア、個人版についての目標額、お伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

令和８年度の個人版ふるさと納税の目標額は、令和７年度から１億3,000万円アップの18億円と設定をしております。

◎平良恵泰君

次、イです。企業版についての目標額をお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

令和８年度企業版ふるさと納税の目標額は、令和７年度から1,800万円増の5,000万円と設定しております。

◎平良恵泰君

ふるさと納税額については、2024年が約11億8,000万円、2025年が約16億6,000万円、そして今年度が18億5,000万円となっておりまして、2024年から2025年、11億8,000万円から16億6,000万円の40％増に比べると、今年度、ふるさと創生課の新設などを踏まえましても、ちょっと目標額がやや控え目かなと感じました。今年度の目標設定額について、改めて設定根拠等があれば教えてください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

令和７年度のふるさと納税のうち個人版の実績が約16億6,500万円となっております。令和６年度の11億8,300万円から比べますと大幅に伸びております。これは、これまでふるさと納税と併せて各ポータルサイトでポイントを付与するというものがあったんですけども、それが昨年の９月をもって終了しております。それで、駆け込みで大幅に増になったものと認識しております。これまでの実績、またふるさと創生課の新設を踏まえまして、令和７年度の実績に１億3,000万円増の18億円というふうに設定しているところでございます。

◎平良恵泰君

では、まず今年度の目標達成に向けて、担当部局としても、市議全員でも前向きに取り組んでいければと思います。

続いて、②です。目標達成額に向けて主力として想定している返礼品は何かお伺いいたします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

主力となる返礼品でございますが、令和７年度実績では宿泊券などの旅行関連の返礼品が寄附額全体の74.6％を占めております。これが寄附額増額の牽引役となっております。続きまして果物、肉類などの一次産業の返礼品は10.8％、ゴルフなどの体験型返礼品が8.8％となっております。これまでの過去の実績を踏まえますと、宿泊券などの旅行関連が今後とも返礼品の主力となるものと想定しております。

◎平良恵泰君

比較的、旅行が７割を占めるということで、かなり多いのかなと思いますが、役所の想定、今年度の目標額設定に向けても、この構成割合をある程度維持していくものと考えますか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

市としましては、一次産業の返礼品、これを伸ばしていきたいというふうに考えておりますが、当面の間はやはり旅行関連の返礼品が主力となるものと想定しております。

◎平良恵泰君

ふるさと納税は、宮古島市の産業をアピールする場所でもあり、地場産業を成長させる場所でもあると考えます。ホテルの宿泊、旅行等にとどまらず、地場産業である農水畜産業の返礼品も多く取り入れ、地場産業を成長させていければと考えております。

そこで、③です。本市として今挙げた返礼品、特に一次産業の返礼品の現在の生産量は、目標金額に十分対応できる生産量を確保、供給体制が見込まれているかお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

第一次産業における返礼品の中では、マンゴーが最も多くの寄附額を集めております。そのほか、モズク、海ブドウ、メロンといった返礼品もあるんですが、割合は１％にも満たない僅かな状態となっております。本市におけるマンゴーの生産量は、令和４年度での実績になりますが、推定で620トンというふうに推定されております。そのうち同時期にふるさと納税の返礼品として発送したマンゴーは1.8トン、これは宮古島市で生産されたマンゴーの全生産量の0.3%にすぎませんでした。例年、ふるさと納税で発送される量は、島内のマンゴー生産量全体の１％以下となっておりますので、目標金額に対する生産量としては十分であるというふうに考えております。供給体制についてですが、第一次産業の生産物、特にマンゴーは個人による売買や小売店、飲食店などの販売ルートが様々となっております。今後、生産品を返礼品に配分する量を増やしていただくためには、農家の皆さんにふるさと納税の制度とメリットを理解していただくことで多くの返礼品を供給できるようになるものと考えておりますので、供給できるように取り組んでまいります。

◎平良恵泰君

今答弁いただいたように、かなりマンゴーもふるさと納税に関しては出荷トン数が少ないんだなというのが印象的ではありますが、おっしゃっていただいたように一次産業の返礼品を増やしていく方向であるに当たって、④の本市で地産地消振興センターや各補助金等で六次産業化への支援を進めていますが、加工するためには、まず原材料となる農水畜産物の安定生産、確保が不可欠です。それらを踏まえて、ふるさと納税額の目標達成のために、加工支援だけでなく、生産者への支援も併せて重要ではないかと考えますが、見解を伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

六次産業化による農畜水産物の高付加価値化を推進していくためには、加工や販売といった出口戦略だけでなく、その原材料となる生産物の安定供給と品質の確保が極めて重要であると認識しております。いかに優れた加工品や魅力的なブランド戦略を構築したとしても､その基礎となる原材料の生産量が不足し、あるいは品質にばらつきが生じた場合には､安定した商品供給や消費者からの信頼確保は困難となります。このため、本市では農林水産の各分野におきまして、生産基盤強化のための支援や生産技術の向上、病害

虫対策、担い手の確保、育成など、関係機関との連携により生産量の確保と品質の高位平準化を目指すべく取り組んでおります。その上で、生産された農畜水産物を地域内で加工し、ブランド化や販路拡大、さらには観光産業やふるさと納税との連携は、地域内でより多くの付加価値を創出することにつながることから、農漁業者の生産意欲をより高めるものと認識しております。

◎平良恵泰君

次、⑤です。六次産業支援、ふるさと納税戦略、これが企画政策部になると思います。原材料生産支援が農林水産部になると思いますが、これらを一体で進めていく、考えていける部署横断の体制はあるかお伺いいたします。

◎副市長（砂川　朗君）

部署横断の体制についてでございます。ふるさと納税に関しての部署間の連携という点では、現在、生産、加工、返礼品といった取組ではなくて、交流イベントや観光ＰＲイベント等において、ふるさと納税の周知や返礼品の試食などのほか、情報交換など、ＰＲ活動が主となっております。ふるさと納税で寄附額の多い自治体は、先ほど企画政策部長のほうから答弁があったとおり、肉類や海産物など魅力的な一次産業品目を返礼品として取りそろえていることが強みの一つとなっているというふうに認識しております。本市におきましても、ふるさと納税の寄附額増加につなげるためには、返礼品の大部分を占めている旅行関連品以外で、地元農畜水産物を活用し、寄附者にとって魅力のある返礼品を多数取りそろえていくことが必要であると分析しております。ふるさと納税の仕組みは、本市の農畜水産物の魅力を全国に発信でき、新たな販路の開拓やリピーターの獲得、ブランド化に大きな可能性を有し、また返礼品として求められる品質、安定供給確保のための生産基盤の底上げを行うことで選ばれる産地としての転換となり、ブランド力向上や高付加価値化への体制の構築が、売れる農畜水産物、稼ぐ農畜水産物としての新たな価値の創出につながる有効な手段であると考えております。平良恵泰議員ご指摘の六次産業支援、原材料生産支援、ふるさと納税戦略として各部署がそれぞれ行っている取組を連携、融合していくことは重要であると考えておりますので、生産、加工、販売、これ返礼品のほうですが、それぞれが好循環へとつなげられるよう、部署間において連携体制を構築していきたいというふうに考えております。

◎平良恵泰君

ふるさと納税を伸ばしていくためには、売る力だけでなく、つくる力の強化も必要だと考えており、つくるとは単に生産ではなく、生産から加工、販売に至る一連の過程をストーリー化して、商品をブランディングしていくことが重要だと考えます。

⑥です。ふるさと納税額目標達成のために、六次産業への支援と並行して、農水畜産生産者への支援拡大、生産体制そのものの戦略を強化することが本市経済への波及効果や所得向上にもつながると考えますが、見解をお伺いいたします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

ふるさと納税の寄附額の拡大を図るためには、魅力ある返礼品の開発や六次産業化の推進に加え、その基礎となる農畜水産物の安定供給体制を確保することが重要であると認識しております。本市の返礼品には、マンゴーをはじめ、メロン、宮古牛やヤギ肉、モズクなど豊かな農畜水産資源が代表的でありますが、持続的な返礼品供給は生産現場の維持、強化なくしては成り立たないものと考えております。そのため、

本市といたしましては、生産基盤の整備、生産技術の向上、担い手の確保、育成などを通じて、生産体制の強化への取組と併せて、関係部局との連携により一体的に生産から加工、販売、さらにはふるさと納税による情報発信、販路拡大までを一連の地域経済循環として捉えております。地域内でより多くの付加価値を創出することが、生産者所得の向上はもとより、雇用創出や地域経済の活性化にもつながるものと考えております。今後も農畜水産業を本市経済の重要な基盤産業として位置づけ、生産基盤の強化と高付加価値化の両面から、持続可能な産業振興に向けて生産者支援に取り組んでまいります。

◎平良恵泰君

ふるさと納税で返礼品として扱われるものは、宮古島市を代表する特産物だと思いますので、ぜひ今後とも生産のほうから支援をお願いいたします。

次、３番、観光行政についてです。これは、先日、砂川和也議員、仲間誉人議員の質問ともかぶりますので、①のほうは割愛させていただきます。

②のほうからで、17ＥＮＤ駐車場の管理、整備について、沖縄県と委託管理契約等はあるかお伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

17ＥＮＤについての質問でございます。県と委託契約があるかという質問かと思います。17ＥＮＤ周辺の駐車場の土地につきましては、所有者は宮古島市となっております。現在の駐車場も市で整備しており、沖縄県との委託契約等はございません。

◎平良恵泰君

次、③です。現在の17ＥＮＤの駐車場を含む安全面や交通管理上の課題について、本市はどのような認識を持っていますか、お伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

17ＥＮＤにおきましては、訪れる観光客の急激な増加に伴い、駐車場に入り切れない車両が路上駐車を余儀なくされている状況が常態化しております。車両の円滑な通行が妨げられるだけではなく、緊急車両の進入にも支障を来すおそれがあるなど、市民や観光客の安全に関わる大きな懸念が生じており、早急な改善の必要があると認識しております。

◎平良恵泰君

17ＥＮＤは、おっしゃるとおり宮古島、伊良部島を代表する観光資源です。観光政策において量より質を目指す本市において、観光地の保全、整備は必須であります。路上駐車による交通事故の危険、また17ＥＮＤでは遊泳をする観光客もいます。緊急時の緊急車両のスムーズな通行、人命の安全確保のために、早急な整備と拡張が必要だと考えますが、④です。17ＥＮＤ周辺における駐車場整備、拡張について、今年度行う予定があるかお伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

17ＥＮＤの駐車場周辺は、自然公園法及び県立自然公園条例に基づく第３種特別地域に指定されており、駐車場の拡張、整備には県自然保護課との調整や、また手続などが必要になりまして、時間を要することが考えられますので、今年度におきましては現在のところ整備の予定はございません。

◎平良恵泰君

画像のモニターのほうお願いしたいんですけど、今写っているのが17ＥＮＤの現状になります。これは、ゴールデンウイーク前後で私が行ったときのなんですけど、路駐ではなくて、これ駐車場がもう止めれなくてＵターンしたいけど、Ｕターンできない状況が左側です。右側が、それの逆方向から撮ってはいるんですけど、センターポールだったり、縁石の延長上にポールが立っているんですけど、これがもうＵターンをしたいけど、し切れなくて、ポールが倒れていたりという状況になります。

次、めくるんですけど、先ほど観光商工スポーツ部長から答弁いただいたように、拡大します。見づらいです。今、赤枠、見づらいですが、赤枠の中が宮古島市が所有している土地となっておりまして、もうちょっと拡大すると、これが今駐車場として使用されている場所、そこから路駐だったり、駐車をするために待っている車の列になります。

次がこの画像なんですけど、これが沖縄県の担当の方からいただいた自然公園法に関する書類にはなるんですが、先ほど答弁いただいたように、伊良部島は自然公園法による規制がありますが、自然公園法の中でも先ほどおっしゃっていただいたように第３種特別地域となっておりまして、これの内容が特別地域の中では風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、通常の農林漁業活動においては規制のかからない地域であり、草木の伐採は許可制とのことでした。担当の方とやり取りしましたが、書類上の手続で、許可制ではありますが、約３か月ぐらいあれば許可は出せるんではないかということで、あとは予算次第かなと思っております。

それらを踏まえて、⑤です。17ＥＮＤ駐車場周辺、もしくは新規駐車場整備について、改めて見解をお伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

17ＥＮＤの駐車場の新規の整備につきましては、先ほど来答弁しておりますけど、路上駐車の対策をまず行いまして、それを踏まえた上で、今後新規整備も含めまして、受入れ環境の強化を検討してみたいと考えております。

◎平良恵泰君

路上駐車自体が、そもそも駐車台数が少ないから起こっているのかなと思いますので、先日の砂川和也議員、仲間誉人議員からもあったように、ロータリーの設置と併せて、駐車場拡大をぜひ検討していただければと思います。

次、４番です。情報行政について。１、住民票を本市に有さない住民人口について、①、本市は、住民基本台帳人口約５万5,000人を基礎として行政運営が行われていますが、実際には住民票を有していない長期滞在者や就労者など、多くの実態居住者が生活していると考えます。それらを踏まえて、本市としてこのような実態をどのように認識しているかお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本市では、観光業や建設業に関わる関係人口の増加等から、住民票を移さずに本市に居住されている方が一定数存在すると考えられております。行政サービスは、住民票を登録することが原則であり、住民票を移さない場合、居住地において受けられない行政サービスは多岐にわたります。一方で、生活のインフラであるごみ処理等の行政サービスについては、住民票の有無にかかわらず、居住地において受けることができます。また、住民登録がなければ住民税が他市に納付され、歳入が不足する一方で、実態人口に基

づく歳出は増加するという不均衡が生じると認識しております。加えて、総合計画や将来人口推計等、実態の人口を反映できず、将来需要の見通しに誤差が生じることから、本市が策定する各種行政計画の策定にも影響が生じるものと認識しております。

◎平良恵泰君

次、②です。本市では、住民票を有しない実質的な居住者数について、調査、推計を行っているかお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

国や地方公共団体が行う統計調査は、社会や経済の現状を正確に把握し、各種行政施策を立案するための基礎資料として実施されております。住民票を有さない実質的な居住者数については、現行の統計調査の制度上、直接的にその数を把握するための調査は整備しておらず、行政としてその数を推計することは困難となっております。

◎平良恵泰君

先ほど答弁いただいたように、住民票を有しない居住者も生活インフラであるごみ処理、水道、道路など、多くの行政サービスを利用しています。それらを踏まえて、それに伴う追加的行政コストを試算したことがあるかお伺いいたします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

ごみ処理や水道、道路といった生活インフラについては、住民票を有さない方にも行政コストが生じていることは認識しております。しかしながら、現行の統計制度においては、住民票の異動を伴わない実質的な居住者数を直接的に把握する仕組みが整備されておらず、コスト算定の前提となる実態の把握が困難な状況にあります。加えて、各種行政サービスにかかるコストは、利用者ごとに直接的な負担や影響を切り分けて把握することが難しい構造となっております。例えばごみ処理については、排出されるごみの量を居住者ごとに個別に識別する仕組みとはなっておりませんので、住民票の有無による利用実態の区分はできない状況にあります。このように居住実態の把握そのものに制約があることに加え、各種インフラにかかるコストについても利用実態との個別対応が難しいことから、住民票の有無に基づく行政コストを具体的に試算することは困難であり、これまでにおいても実施しておりません。

◎平良恵泰君

住民票を有しない実質的居住者によるインフラ等公共サービスへの費用､コストが上がるということで、実態人口による行政サービスの公平かつ健全な運営のために、住民票を有しない実態居住者からも財源を確保する必要があるかどうか、考えをお伺いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

行政サービスの公平性や健全な財政運営の観点から、重要な論点ではあると認識しておりますが、住民票を有しない場合には原則として住民税の課税対象とならないことから、行政サービスの利用実態と税負担との関係を制度上直接的に対応させることは難しい状況にあります。また、実態居住者の把握や行政コストの試算も困難であることも含め、住民票を有さない方を対象とした新たな財源確保の仕組みを構築することは難しいと考えております。

◎平良恵泰君

私の試算にはなりますが、仮に住民票を有さない実態居住者が常時１万人いた場合、住民基本台帳５万5,000人ベースですと、まずこの住民基本台帳から約18％増になります。令和６年度決算書ベースで、清掃費、土木費、衛生費等の全体の支出額から算出しても、年間約５億円前後のコストが発生しております。また、令和６年度個人住民税は約23億円、人口１人当たりにすると約4.2万円。住民票を有さない実態居住者１万人が住民票を仮に移せば、約4.2億円の自主財源が確保することができます。しっかりと財源を確保し、行政運営に反映していくことが重要であると私は考えておりまして、次の⑤ですが、これも私からの提案ということで、水道料金の契約形態が一般用か営業用かで分かれているように、住民票を有さない実態居住者との契約内容を営業用もしくは新たな契約形態を設ける案についてはどうか、見解をお伺いします。

◎水道部長（砂川　勤君）

水道事業について、まず初めに本市水道事業の料金形態は用途別に、一般世帯での使用を対象とした一般用、営業施設等での使用を対象とした営業用、その他官公署用、臨時用、船舶用の５つに区分されております。平良恵泰議員ご質問の住民票の有無を基準とした新たな料金区分については、過去の判例において、水道施設といった公の施設の利用者を異なる取扱いにする場合には、その違いに合理的な理由が必要であるとの考え方が示されております。いわゆる住民票がないことだけを理由に別の料金区分を設けたり、営業用料金を適用したりすることは、利用者間の公平性の観点から適当ではないと考えております。

また、聞き取りの際に確認の方法として水道の契約者と住民票の突合についてご質問がございました。水道使用者が住民票を有しているかの確認方法については、水道事業で保有している情報と住民票を突合するには膨大な時間と労力、併せて個人情報保護の観点から、対応が困難であると考えております。

◎平良恵泰君

住民票を有さない実態居住者を把握するのに時間とコストがかなりかかるということですが、宮古島市の現状として、観光の発達に伴い、地元住民への生活インフラ等への影響が出てきていることは皆さん承知だと思いますので、これらを踏まえて、ぜひ今後とも私の質問をスタートとして検討していただければと思います。

次に、５番、建築行政についてです。１、用途地域について。本市では、急激な観光需要により人口構成や土地利用状況が大きく変化している一方で、現在の用途地域が現状や将来のまちづくりの方向性と必ずしも一致していない地域もあると考えます。それらを踏まえ、現在の用途地域は土地利用状況や将来に向けたまちづくりと適合しているか、見解をお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

用途地域の見直しにつきましては、沖縄県都市計画運用指針の中で、宮古島市都市計画マスタープラン等の各上位計画に示される各地域の市街地像、用途地域指定の経緯等を踏まえ、土地利用の現況及び動向を勘案して、各地区に適した用途地域を定めることとなっており、おおむね５年ごとに見直しの検討が推奨されております。本市におきましては、令和３年４月に宮古島市都市計画マスタープラン、令和４年11月に沖縄県都市計画区域マスタープランが改定されており、市役所周辺地区やトゥリバー地区、国道390号線久松地区などを新市街地ゾーンとして位置づけ、計画的な土地利用の整序、誘導を図る方針が示されております。両方の計画も目標年次を基準年からおおむね10年から20年としており、今後の用途地域の指定や

見直しについてはこれらの計画との整合を図りつつ実施していくこととなります。また、見直しや上位計画への位置づけについては、その判断に当たり、令和９年度に沖縄県で実施予定の都市計画基礎調査等の結果を踏まえるとともに、現在の土地利用の実態や人口動態、都市の人口密度などを総合的に勘案し、土地利用に一定の制限を課す規制であることを念頭に置きながら、慎重に判断してまいります。なお、見直しを行う場合には、既存の用途地域に連続する形で段階的に検討していく方針です。

◎平良恵泰君

私がこの用途地域を挙げているのは､宮古島市の急激な観光に伴う発展に規制をかけたいわけではなく、しっかりとした生活住居専用とするエリアと観光として対象としていくエリアを分けていくべきではないかというところからの提案です。久松地区の海側は、用途地域が無指定だったり、商業地域と隣接している住居専用地域で飲食店を営業している店舗は、深夜零時を回るとお酒が提供できる、できないがある、深夜酒類提供許可が住居専用だとできないのですが、その許可がないにもかかわらず12時以降も違法にお酒を提供しているなどの情報提供もあり、早期の見直しが必要かと考えております。

そこで、②です。用途地域の見直し期間が５年ごとに推奨されているとのことですが、本市における見直しは次はいつ頃を予定していますか。

◎建設部長（下地睦子君）

用途地域の指定及び見直しにつきましては、個別の施設立地の動向だけで判断するものではなく、都市計画マスタープランや都市計画区域マスタープランなど、上位計画との整合を図りながら検討する必要がございます。宮古島市都市計画マスタープランは令和３年４月に、沖縄県都市計画区域マスタープランは令和４年11月に改定されており､現在はこれらの計画に基づき､先ほども申し上げましたが､おおむね10年から20年先を見据えた都市づくりを進めているところでございます。また、用途地域見直しの判断材料となる都市計画基礎調査につきましては、令和４年度に実施しておりまして、次回は令和９年度を予定していることから、今後は令和９年度の基礎調査結果を踏まえ、土地利用の実態や将来動向を把握した上で、必要があれば上位計画との整合性も含め、指定や見直しを慎重に判断してまいりたいと考えております。

◎平良恵泰君

令和９年度の見直しということで、もうすぐではありますが、平良字がつく場所でも用途地域無指定のところがかなり多く、今後の見直しが必要なところは多いと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

次、施設行政についてです。１、公設市場について。①、指定管理に向けた現在の状況についてお伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

公設市場についてお答えします。

公設市場の指定管理に向けましては、昨年度、担当課において、県内で公設市場の指定管理を行っている名護市と石垣市の公設市場を視察しております。視察では、市の担当者と指定管理者との意見交換を行い、指定管理の状況や市場運営に関しての知見を深めております。現在、令和９年度からの指定管理に向けて、担当課で指定管理者募集に向けた準備を進めているところでございます。

◎平良恵泰君

令和９年度から指定管理に向けて動いているということで、一部心配の声が上がっているのが指定管理

者の指定管理の内容です。指定管理する者が入居者との契約まで行えるのであれば、現入居者は指定管理者によって契約満了に伴い退去させられるのではないかという声がありました。

それらを踏まえて、②、本市が現在考える指定管理の内容についてお伺いいたします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

現在導入に向けて検討を進めております公設市場指定管理者の業務内容としまして、施設内の清掃や設備管理などの維持管理業務、施設の安全管理や施設活用などの運営業務、そして使用料等の収納管理業務など、市場の運営の全般にわたる業務を対象とすることを考えております。それと、入居者から心配の声が上がっている問題ですが、公設市場の入居者の選定、入居許可、入居取消しにつきましては、指定管理者に権限が移譲されることなく、現在と同様に市が引き続きその権限を持つ予定です。また、入居期間につきましては、公設市場条例により入居許可期間が１年と定められておりますので、これを更新することが可能となっております。そのため、指定管理者が独自に入居期間を定めることはできません。入居、更新につきましても、使用料等の著しい滞納や条例で定める違反行為など、特段の理由がない限りは原則として更新が可能になります。したがいまして、入居者の方が不当に退去させられるようなことはございません。

◎平良恵泰君

今の入居者には、公設市場改修前からあそこで仕事、商売をしている方もいらっしゃり、そのような心配の声があったので、今の話を聞いてよかったなと思います。

それで、③です。既存の入居者への説明状況についてお伺いいたします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

公設市場の指定管理に関する入居者の皆様への説明会につきましては、現在、本年３月末に退去された区画の新しい入居者の選定を行っておりますので、入居者が決定次第、既存の入居者の皆さんも含めまして説明会を開催する予定でございます。

◎平良恵泰君

説明会はこれからということですが、現段階で、④、入居者からどのような意見等があるかお伺いいたします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

先ほど答弁したとおり、議会終了後、７月頃に入居者の説明会を実施する予定でありますので、今のところ入居者からの意見などは確認はできておりません。

◎平良恵泰君

公設市場は、立地含めてかなり注目度が高い場所かなと思いますので、ぜひ現入居者とも前向きな説明会、意見交換をしていただければと思います。

これで私の一般質問を終わります。

◎議長（平良和彦君）

これで平良恵泰君の質問は終了しました。

◎平良敏夫君

市長の政治姿勢についてということですけど、市長は就任以来、市民との交流を大切にして、意見交換

等数多くこなしてきて、市民との距離がより近いイメージがあります。

休憩していいですか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午前11時44分）

再開します。

（再開＝午前11時44分）

◎平良敏夫君

市長は、市民との距離がより近いイメージがありますが、その成果というのをよろしくお願いします。

◎市長（嘉数　登君）

市政運営においては、市民の皆様との対話を重視し、各種シンポジウムの開催や意見交換の機会を通じて、多岐にわたる多様な意見を伺ってまいりました。１つには、各地区を対象とした地域懇談会ですけども、これは市民生活に密接に関わるインフラ整備ですとか地域の活性化、それから防災といった幅広いご意見、ご要望を多数いただいておりまして、これらの要望を具体化するために、令和７年度から新たな予算項目、これ地域懇談会要望事業費というものを設けまして、可能なものから順次取り組んでおります。それから、子育て世帯、とりわけ一時預かり事業を利用される保護者の皆様との意見交換を通じて、現場の切実な課題やニーズを具体的に把握し、これは令和８年度から市独自の処遇改善支援策の実施につなげております。これらに加えて、地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会においては、市民の皆様が抱える不安や疑問を含めた多様なご意見を直接伺いながら、丁寧な対話を重ねるとともに、宮古島未来戦略会議やウーマンズミーティングの開催を通じて、本市の将来を担う若者や女性ならではの視点、それからアイデアなど、多様なご意見をいただき、本市の政策形成に生かしているところであります。様々な意見交換会等を通じて寄せられた市民の皆様のお声は、行政が進める各種施策が市民生活の実態や地域課題を的確に把握するための、まさに政策形成の基盤であると強く認識しております。今後も市民の皆様との対話を重ねながら、市民が真ん中の豊かで明るい宮古島市の実現に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

◎平良敏夫君

私は、嘉数登市長の行政運営は高く評価しているところであります。６月20日には地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会を宮古島市未来創造センターで開催しています。平和を守ることと現実に備えることは決して矛盾しない、この市長の言葉は真理だと私は思っております。そして、市民との意見交換会で市政へ反映させることは大事なことでありますが、市長は中長期ビジョンで大型プロジェクトの芽出しも取り組んでいく必要があると考えます。例えば市民プール建設だったり、滑走路横断トンネルだったりも夢物語ではないと思っております。かつて宮古島市は、夢の大橋を３か所も開通させました。東京直行便も開通させました。そして、国営地下ダム事業、世界で初めての超大型プロジェクトも成し遂げました。その当時は、どちらも夢物語だったと思われます。しかし、当時の市長を先頭に、要請活動を粘り強く行ったことで、夢の大橋ができ、夢の東京直行便が開通して、地下ダム事業で水なし農業から脱却して、今の宮古島市の繁栄があります。10年後、20年後、50年後を見据えての政策推進を市長には強くお

願いしたいと考えております。市長は、答弁はできますか。

◎市長（嘉数　登君）

まさしく平良敏夫議員のご指摘のように、今の我々の生活、宮古島市の生活というのは、先人たちの苦労の下に成り立っているものだというふうに思っております。挙げれば切りがないです。伊良部大橋をはじめ、様々な観光を牽引するような、活性化するような取組を数多く成し遂げられてきたものだというふうに思っております。これからの10年後、20年先を見据えての行政運営ということですけども、先ほど議論のありました宿泊税につきまして、私は宿泊税については観光客の皆様にご負担いただいている新たな財源である以上、その使途についても市民にも観光客も分かりやすく、かつ将来に向けた効果が実感できるものでなければならないというふうに考えておりまして、例えば単なる維持管理費だけのものではなくて、未来に対する投資であるべきだというふうに思っております。観光の量から質と言っておりますので、観光の質を高める投資ですとか、市民生活にも恩恵をもたらす投資、それから次世代にも誇れる宮古島市をつくる投資、こういった３つの視点をも念頭に、成長財源としてしっかりと活用しながら、今平良敏夫議員ご指摘の大型プロジェクト、例えば天候に左右されない観光コンテンツはどうあるべきなのかというところも含めて検討していきたいというふうに考えております。

◎平良敏夫君

次に行きます。５月の中旬に宮古テレビ報道で、警察署が宮古島市公共工事積算システムを押収との件なんですけど、これまでの答弁は現在調査中で答弁は困難としております。今日現在、状況は変わっていないかということで、よろしくお願いします。

◎総務部長（上地俊暢君）

報道にあった事案についてお答えいたします。

１日目の前里光健議員の質問にお答えしておりますが、それから状況は変わっておりません。そのときにもお答えしたとおり、捜査機関の対応に関する事項でありますので、事実確認等が明らかでない状況での説明が困難であるということについて、またご理解いただきたいと考えております。

◎平良敏夫君

次、道路行政についてでありますけど、たくさんあるんですけど、下里通り、西里通りを南から北に横断するバリアフリー道路ですか、なかなか名前が分からないんですけど、しきしま隣のコインパーキング前歩道にマンホールが設置されているんですけど、歩道とマンホールの蓋、その高低差が５センチほどあります。危険です。実際何名かの方がそのマンホールに引っかかって倒れて膝を擦りむいたり、けがをしたと聞いております。早急に改修すべきではないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

◎建設部長（下地睦子君）

ご指摘のありました市道A―23号線の歩道に設置されておりますマンホール蓋と歩道の高低差に関する件ですけれども、高低差が生じた原因につきまして現在調査を進めているところでございます。原因を特定した上で、段差を解消する工事を早急に進めてまいります。

◎平良敏夫君

バリアフリー道路ということで、そこの歩道に段差があるということは、そこで転んでけがする、何のためのバリアフリーか分からないような、本末転倒の状況になっていないかということでありまして、や

はりあそこは人通りも多いし、結構高齢者も歩くかなと思っているんです。その高齢者の方々が何で分かったかといったら、１人、自分の知っている人が倒れて、膝だけではなくてということがあって、しきしまに行った帰りだったもんですから、行ってそこから絆創膏もらったりして、聞いたら結構あるよみたいな話ししていたから、そういうこと言っているんですけど、だけどちょっとした段差で高齢者というのは倒れますから、ぜひ早めに補修していただきたいなと思っております。よろしくお願いします。

次、城辺４車線道路の宮古自動車学校前の道路の中央のマンホールの質問をしているんですけど、先日確認したら改修されていました。危険な段差と認識していたんだと思うが、長期間改修されなかったことがやはり問題ですよねということです。

次、３番、同じように二重越五差路の交差点のマンホール段差の改修についてということでありますけど、そこも答弁よろしくお願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

市道Ａ―１号線、二重越五差路交差点のマンホールの段差につきましては、現場を確認しております。当該マンホール周辺において、大型車両の頻繁な通行による影響を受け、路面にわだち状のくぼみや凹凸が生じておりました。周辺の劣化した舗装を広範囲にわたり修繕し、マンホールと路面との段差を解消する工事が必要であるため、予算を確保し、速やかに整備を行いたいと考えております。

◎平良敏夫君

道路だから大型車両通ります。一番の問題は、マンホールつくっているところの、マンホールのボックスの横辺りがみんなどこを見ても陥没しています。やはり工事の問題かなと思いますから、そこら辺のところも十分注意してやってほしいなと思っております。

次、４番、毎日新聞社からサンエー方面までの道路の不具合ですけど、そこも前から気にはなっているんですけど、今回いい機会だと思って質問させていただきます。陥没の補修はしてあるんですけど、雑な補修になっていて、がたがた、がたがたしていると思うんですけど、そこどうなっているんですかということで、よろしくお願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

市道中央縦線のご指摘の箇所につきましては、広範囲にわたり複数の凹凸が生じております。当該箇所につきましては交通量も多く、経年劣化の範囲も広いため、大がかりな修繕が必要であると考えております。関係課等と調整の上、計画的に修繕を行っていきたいと考えております。

◎平良敏夫君

次ですけど、荷川取地区にある警察署の宿舎前の丁字路なんですけど、今までも何度か質問したことあるんですが、がたがたして波打って、あそこも大型車両が通るし、それで一時停止線があるもんだから、そういう影響でなっているのかなと思っているんですけど、そこは片側の車線は補修してあるように見えるんですけど、一時停止側の車線は補修されず、がたがたのままになっています。これ何か理由があるんですか。なかったらなかったで。

◎建設部長（下地睦子君）

ご指摘の市道Ｂ―１号線、臨港道路荷川取線に接続する丁字路の箇所につきましては、大型車両が頻繁に行き交うため、アスファルトの舗装がわだち状になっている状況です。平良敏夫議員がおっしゃる箇所

については、下水道管が通っておりまして、一時期、私が環境衛生局にいる際に、下水道の管が劣化しているか何かで吸い出しされているのではないかということで調査を行ったことがありますが、下水道管の影響ではございませんでした。ですので、この周辺の路盤、道路の下のほうなんですけど、その転圧が少々弱いのではないかというふうに考えております。これは、予算を確保した上で計画的に修繕を行ってまいりたいと考えております。

◎平良敏夫君

もう何度も確認しているんですけど、片側の車線は、宿舎側の車線はきれいになっているわけです。補修されていると思います。だけど、こっち側だけ補修されていないもんだから、もしかしてこれは地域住民との話合いで、よくありませんか。道路に段差があって、そこで必ず止まれるようなやり方でやったのかなと思ったんだけど、今聞くとそういうことではないわけですから、すごくがたがただというのは分かりますよね。相当前からですから、ぜひ早めの修繕をよろしくお願いしたいと思います。

６番ですけど、同じ道路の止まれの文字が消えているんですけど、向こうはよく一時停止違反で捕まった方もたくさんいらっしゃるんではないかなと思っているんですけど、止まれの文字が消えているんですけど、後にもこれつながるんですけど、止まれの文字、書くことできますか。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほどご質問のＢ―１号線の止まれの標示についてですけれども、交通規制の管理者である宮古島警察署に確認をいたしました。宮古島警察署からは、令和６年度に一時停止の交通規制が廃止されたとの回答でございました。廃止された理由としましては、当該箇所が丁字路であり、交通の優先関係が明確であることから、交通の安全上、一時停止の規制の必要性が低いと判断されたためとのことでございます。交通規制は、警察署が道路交通法に基づき、地域の交通状況や安全性を総合的に判断して決定しているものでございます。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後零時01分）

再開します。

（再開＝午後零時01分）

◎平良敏夫君

今聞いたのは、あそこは、あんまり言いたくないけれども、一時停止違反で捕まったことがある場所でして、それが令和６年からはなくなったというわけですね。それで、止まれの文字も要らないと、そういうことになっているわけですか。

◎建設部長（下地睦子君）

おっしゃるとおり一時停止の交通規制そのものが廃止されたことで、止まれという文字もなくなっている、路面標示を行う必要がなくなったということでございます。

◎平良敏夫君

取締り自体をしなくなったんですか。まあ、いいです。分かりました。あそこで本当に一時停止、向こうに広場があるから、向こうから見えていて、捕まった方がたくさんいたと思うんですけど、そういう心

配ないということは、一時停止しなくても通る方が増えるのかなと思って、逆に言うと、思いますけど、質問昼からしたいと思いますけど、よろしいですか。

◎議長（平良和彦君）

ご協力ありがとうございます。

休憩します。

（休憩＝午後零時03分）

再開します。

（再開＝午後零時03分）

ただいま平良敏夫君の質問の途中ですが、午前の会議はこれにて休憩し、午後の会議は１時30分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午後零時03分）

◎議長（平良和彦君）

再開します。

（再開＝午後１時30分）

午前に引き続き平良敏夫君の一般質問を続行します。

◎平良敏夫君

まず、８番、いさむ自動車前交差点での右折専用ラインの白線が見えません。かねひで方面から交差点を右折する車が何か大きく飛び出して、ファミリーマートのほうから直進する車と接触しそうになるんですけど、右折ライン、停止ラインを早急に引くべきだと思うんですけど、同じような質問ばかりですけど、どうかよろしくお願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

ご質問の交差点は県道になります。県道78号線の交差点ということになります。県道の管理者である宮古土木事務所に確認したところ、同事務所管内には他路線にも区画線の補修を必要とする箇所が複数ある状況となっているとのことです。当該箇所の区画線の補修につきましては、優先度や予算の状況を踏まえ、今年度の実施に向けた検討を進めてまいりますとの回答でございました。市としましては、国道、県道に関する要望等につきましては、沖縄県宮古土木事務所に報告し、速やかに対応していただくようお願いしてまいります。

◎平良敏夫君

あの交差点の停止線が全く見えないもんだから、向こう側から車がつうっとはみ出してきて、直進で行こうとするときに邪魔になっているし、危険な状況かなと思っております。それでもって、７番ですけど、多くの道路のセンターラインとか横断歩道、または一時停止の白線が消えていることについて、今さっき答弁あったんですけど、ここはいいです。

次、９番、また視点違うんですけど、キャタピラー前の交差点で北から来た車が、高野のほうから、空港前から来た左折車と同時に右折して、危険を何回か感じております。優先道路に違反していないかということを考えているんですけど、いかがですか。

◎建設部長（下地睦子君）

平良敏夫議員ご質問の県道78号線、これは平良城辺線です、と県道243号線、高野西里線が接続する交差点につきましては、宮古島警察署に確認いたしましたところ、平良敏夫議員がおっしゃいます内容の件ですけれども、道路交通法第37条に違反する可能性があるとの見解でございました。また、同状況への対応を依頼したところ、宮古島警察署としても引き続き当該交差点におけるパトロールにおいて、必要に応じて対象車両への指導、取締りを行っていくとの回答でございました。

◎平良敏夫君

この同じような状況を、４車線に２車線から入るときに右折車が、いさむ自動車前交差点もそうなんですけど、右折車が内側の車線に入ってくるわけです、左折車のほうが優先だと思うんですけど。そういう状況本当によく見かけるから、少し宮古島島民の交通マナーが悪いのかなと見ているんですけど、これってさっき答弁あったんですけど、取り締まることできるという話でしたよね。そこも取り締まることできるんでしょうか。

◎建設部長（下地睦子君）

ご質問いただいておりますいさむ自動車前交差点の右折車の件につきましても、同様の交通課題であると考えております。取締りにつきましては、宮古島警察署に要望してまいりたいと考えております。

◎平良敏夫君

さっきも言いましたけど、こっち側からの左折と向こうからの右折が一緒に入ってきて、こっち側は右側の、内側の車線に入りたいんだけど、勝手に入られているから、全く自分の思うような車線に入れない。それで、もしかしたら右側から右折してきた車線は内側の車線に入りながら途中から外側の車線に入るみたいな、そんな行動が見られるもんですから、ぜひこれ取り締まってというか、何かどこか啓発してほしいなと思っております。

道路は生活の基盤で、観光客が増えてレンタカーが増えてきました。道路の整備は、安全、安心な生活の基盤です。道路整備を見るとその自治体の成熟度ということが分かるんではないかと思っておりますので、宮古島市の道路事情というのは決して褒められるような状況ではないですので、ぜひ頑張ってやってほしいなと思っております。

次に、農業行政についてであります。化学肥料、硫安がＪＡで購入できない、在庫切れとのことですけど、これ農家から直接あって、肥料が買えないよという話だったから質問させていただくんですけど、いかがでしょうか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

硫安の在庫状況につきまして、取扱店であるＪＡおきなわの資材店に確認したところ、サトウキビの株出し圃場への施肥と牧草地への施肥が重なる時期があり、その期間において一時的に品薄になることがあるという回答を得ております。

◎平良敏夫君

これって、ではホルムズ海峡の影響ではないということでありますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

あくまでも一時的なものでございます。

◎平良敏夫君

他の化学肥料で在庫切れはあるかということでありますけど。

◎農林水産部長（下地貴之君）

化学肥料の在庫状況につきましても、同様にＪＡおきなわの資材店に確認しております。硫安のほか、春きび一番につきましても時期によって品薄になることがあるという回答をいただいております。

◎平良敏夫君

品薄になることは仕方ないよね、当然だよねという捉え方は違うと思いますから、いつでも在庫あるべきだと考えます。そこのところ注意しておきます。品薄で結局どこで売っているか分かんないけど、ないです。ＪＡにないです、売れないということは。品薄で、買いに行ったんだけど、硫安買えなかったよ、在庫がないよということだったということですけど、在庫がないということは、宮古島のＪＡにないわけでしょう、宮古島市の。だから、そういうことが……

◎議長（平良和彦君）

答弁……

◎平良敏夫君

いやいや、大丈夫です。そういうことが本来はあっちゃいけないんではないかなと思っておりますので、農林水産部長から私が言っておったよって注意しておいてください。

３番ですけど、今の説明聞くと、化学肥料の在庫はあるが、出し渋っているというううわさがありますけどという、そういう話があったんですけど、答えますか、多分大丈夫でしょう。今の答えてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

農業資材の供給遅れ等につきましては、生産農家の経営に大きく影響する重要な課題であると認識しております。ご指摘の内容につきましては、市として事実確認はできておりませんが、肥料の需給状況や配送体制等については関係機関と情報共有を図りながら、状況の把握に努めてまいります。

◎平良敏夫君

そんな私としては出し渋りなんてあり得ないと思うんですけど、農家の人が荷下ろししておったよ、それで港の倉庫に置いてあったよみたいなこと言うもんですから、誤解ではないかなと思っておりますけど、ぜひそういうことがないようによろしくお願いします。

もう一つ、サトウキビ農家がよく使う硫安に市からの補助がないと聞いているんですけど、いかがでしょうか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

本市では、国が掲げるみどりの食料システム戦略に基づきまして、環境負荷低減を図り、持続可能な循環型農業により生産農家を支援するため、肥料購入補助事業については有機質肥料に重点を置くことを方針として定めております。化成肥料への補助につきましては、地下水への影響が比較的少ない緩効性肥料のみを対象とし、昨年度は追肥名人、春きび一番、ＢＢゼロカリの３品目を対象としておりましたが、今後は有機質資材への転換をさらに進めるため、支援内容についての見直しを検討することとしております。

◎平良敏夫君

５番目のその理由は何かということで聞いているんですけど、今説明ありましたので、地下水に与える

影響が大きいということなんですか。そういうことでありますか。地下水に与える影響が大きいから、理由が、５番目の。

◎農林水産部長（下地貴之君）

平良敏夫議員ご質問のとおりで、地下水への影響も踏まえまして、現在緩効性肥料のみを補助対象としているところでございます。

◎平良敏夫君

緩効性肥料にはこれからも補助はつけるんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

緩効性肥料につきましても補助は今ついておりますけれども、今後は有機質肥料への転換も含めて、そこへ重点的に支援をしていくことも考えておりますが、今現在、緩効性肥料について今後の方針についてはまだ決定しておりません。

◎平良敏夫君

農家に言わせると、農家にはやはり硫安ですか、早く効く肥料、それを求める方が多いらしくて、それで何でよという話があるんですけど、次の質問に移りますけど、結局緩効性肥料、地下水に影響を与えるということは、有機質肥料に変えていくよということでありますけど、それ有機質肥料に変えていくよと、これからはという話でありますでしょう……答弁する。いいよ。多分そういうことだと、化学肥料から有機質肥料に転換していきたいという話だと思うんですけど、その中でしっかりと取り組んでいかないと、やはり本当に有機質肥料、満遍なく配布しないとと思うんですけど、まず有機質肥料について、狩俣自治会で堆肥製造の実証事業を行っていると思いますが、進捗状況を教えてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

狩俣地区における堆肥製造施設につきましては、地域資源を活用した循環型農業の推進及び地力増進を目的に、狩俣自治会を事業実施主体として、令和５年度から令和６年度にかけて整備されたものでございます。本施設は、狩俣自治会が宮古島市農地地力増進及び循環型農業実証事業を活用し、令和５年度に設置箇所の造成工事、令和６年度に本格的な整備として土間コンクリート工、堆肥置場等の整備を行い、令和６年度末には完了しております。その後、令和７年度において、狩俣自治会をはじめ地域の関係者による有機質資材の攪拌作業や散布体制、効果検証等を担う組織づくりを進め、令和７年度、昨年度から検証に係る散布作業等が予定されておりました。現在の稼働状況としましては、地域の農家への周知を図りながら、一部圃場への散布は行っております。関係者による協議や堆肥製造に向けた準備、地域への周知など、継続的な運営体制の構築や役割分担等について現在調整をしております。それに時間を要しておりまして、組織体制の確立としてはいましばらく時間を要する見込みとなっております。

◎平良敏夫君

休憩お願いします。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後１時46分）

再開します。

（再開＝午後１時46分）

◎平良敏夫君

この事業の執行をする組織というのは狩俣自治会ですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

事業実施主体は狩俣自治会となっておりまして、自治会を中心とした地域における組織体制を構築し、事業を展開していくことになっております。

◎平良敏夫君

組織体制構築というのがよく分からないんですけど、今はその組織がないということなんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

組織体制の構築なんですけれども、今関係者間の調整であるとか役割分担の整理というものに時間を要しております。ですから、当初から進捗に遅れが生じている段階でございますけれども、市としましては地域主体の取組を基本に、関係機関と連携をしながら、継続的な運営につながるよう積極的に関与しながら、運営体制の早期構築に向けて支援を行っていきたいと考えております。

◎平良敏夫君

堆肥ストックヤードというんですか、それ令和６年度に終わっているという話ですよね。そこの現場見てきたんですけど、堆肥は山積みされているんですけど、３か所に分けて、これを何か取ってから配布している様子が全く見られないわけです。向こうに重機があったんですけど、あの重機って市が提供しているんですか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後１時48分）

再開します。

（再開＝午後１時49分）

◎農林水産部長（下地貴之君）

重機につきましては、隣接している業者がおりますので、そこから貸与している状況でございます。

◎平良敏夫君

その重機についてですけども、狩俣勝紀議員から聞くと、故障して使えないという話でした。何でそれ聞くかという話になるんですけど、いや、まず向こうで、あの状況で、あれスコップで車に積むわけにいかないから、どうしても重機必要になってくるわけです。それで、さっき言っていた化学肥料から有機質肥料に転換していくという話ししているわけですから、市から重機提供したらどうでしょうか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

重機につきましても、高額な機械でございますので、どういった支援ができるかというのは今後検討してまいります。

◎平良敏夫君

今高額な機械という話がありましたけど、この高額の機械を事業主体に買えというのがそもそも無理なんですよ、幾ら考えたって。これはもう一緒になって話し合いながら、考えながら、いや、どうしてもな

いと積み込むこともできないし、散布もできないってわけになるわけですから、せっかく始めている事業、さっきも言ったように化学肥料から有機質肥料に変えるという、そういう大きな事業があるわけですから、ぜひそこのところをしっかりと何か解決してやっていってほしいなと思っております。

次に行きます。宿泊税ですけど、来年の２月１日から施行、徴収される宿泊税ですけど、多くの宿泊事業所の協力が必要になってくると思っているんですけど、進捗状況はいかがでしょうか。

◎総務部長（上地俊暢君）

宿泊税についてお答えいたします。

現在、令和９年２月１日の宿泊税施行に向けて、特別徴収義務者、これ宿泊事業者になりますが、の登録申請の受付を行っているところでございます。今後のスケジュールにつきましては、令和８年、今年12月までに特別徴収義務者の登録申請の受付、それから税システムへの入力を行う登録事務を行い、登録が完了した宿泊事業者へ特別徴収義務者であることを証する証票を施設ごとに送付することにしています。令和９年１月以降は、特別徴収義務者へ宿泊税申告書及び納入書を送付いたしまして、宿泊のあった月の翌月末日までに申告納入していただくことになります。これらの業務と並行しながら、特別徴収義務者の登録が未申請である宿泊事業者への連絡先調査や申請勧奨通知などを実施し、必要に応じて現地調査を行いたいと考えております。市としましても、宿泊税施行前までには全ての宿泊事業者の特別徴収義務者の登録を完了したいと考えておりますが、現時点で申請の状況が進んでいない、少ない状況でございます。また、施行後においては宿泊税の未申告特別徴収義務者への申告勧奨等を随時行っていくこととしております。

◎平良敏夫君

回答で今未申告というのは、総務部長、聞いていますか。宿泊施設だけど、それ申請しないということですか。そういうことですか。

２番目、納期内に完納した宿泊事業者には３％納税報奨金が支払われるということですけど、納期内に完納できない事業者に対してはどのような措置を取ることになりますか。必ずそういう方出てくると思うんです。そんな方にはどういう措置取ることになりますか。

◎総務部長（上地俊暢君）

納期内に完納できない事業者への対応でございます。宿泊税の徴収においては、宿泊税を直接ご負担いただく宿泊者の皆様を納税義務者、宿泊者の皆様から宿泊税をお預かりし、本市へ納付する義務を負う宿泊施設事業者の皆様を特別徴収義務者として定めてございます。定められた納期までに宿泊税を完納いただけない特別徴収義務者、宿泊事業者の皆様に対しては、ほかの税目と同様に地方税法及び本市の条例に基づき、督促状の送付から財産調査、さらには滞納処分の執行に至るまで、法令に基づいて厳正かつ公平な徴収事務を実施してまいります。

◎平良敏夫君

宿泊税ということですけど、先進、先にやっている県とかあるわけでありますけど、トラブルも、最初ですし、結構起きそうな気がするんですけど、問題というのは、大きなホテルは問題ないですよね。やはり小さい旅館だったり、そういうところが問題かなと思っていますけど、順調にいくことを祈っております。

次飛ばしまして、港湾行政についてです。宮古島市は、クルーズ拠点旅客受入れ施設、総事業費の85％、９億9,680万円を国から借り受けています。起債償還計画どおりに償還されていますかですけど、答弁いいです。

次、ごめんなさい、６番、港湾施設使用料について。クルーズ船で来島する乗客から新たに港湾施設使用料の徴収について、当局は検討すべきではないかという質問であります。

◎建設部長（下地睦子君）

他の港湾におきましては、施設使用料が徴収されている事例があることは承知しているところではございますが、本市におきましては現在、施設使用料は徴収しておりません。その理由としまして、令和３年度から係船料が増額されたことに加え、岸壁とＣＩＱ施設間のシャトルバス運行費用をクルーズ船社が負担しているという実情がございます。一方で、平良敏夫議員ご質問のとおり、受益者負担についても施設の持続可能な運営のためには重要な観点であると認識しております。今後の寄港実績やクルーズ船社の負担状況、また石垣港などの動向を注視しつつ、関係者と協議の上、施設使用料の徴収について検討を進めてまいりたいと考えております。

◎平良敏夫君

再質問ですけど、以前市はクルーズ船で来島する乗客から新たに港湾施設使用料を徴収する方向で検討を進めていたと思うんですけど、これ2020年４月にクルーズ船専用岸壁、供用を開始する時期に導入予定としていたと思いますが、なぜこれが変更に至ったかということ……重複していますか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後１時58分）

再開します。

（再開＝午後１時58分）

◎建設部長（下地睦子君）

なぜ予定が遅れているかということかと思います。令和３年度以前、新型コロナウイルス感染症による影響でクルーズ需要が大幅に減少し、厳しい状況に直面をしていたところです。そこで、クルーズ船の寄港回数が今後順調に戻らないことも想定し、そのときは延期しております。順調に今回は回復しておりますので、今後施設の使用料については検討してまいりたいと考えております。

◎平良敏夫君

いろいろ事情があって遅れている、延期しているという、現在はそういう状況ですか。変更になったわけではなくて、やめたわけではなくて、そういうことですね。初日の我如古三雄議員の質問に、インバウンドの事件とか事故、病気等で救急車が出動していると。インバウンド客は、消防署だけではなく警察署等、多くの宮古島市の組織に負担をかけています。また、市長は観光客は量から質への転換を表明しております。このような要因でインバウンドの港湾施設使用料を徴収すべきと考えるが、再度答弁できますかということですけど、徴収予定なんですか、さっきの話では。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほども少し答弁をいたしましたが、他港、他の港湾施設であったり、あと国、県の動向を見極め、似

たような港湾施設を持つ石垣市と連携して施設使用料については検討していくという考えです。

◎平良敏夫君

次に、７番目に行きます。宮古島市では以前からあったが、特に近年、投資勧誘だったり、マルチ商法のトラブルを耳にする機会が本当に増えております。沖縄県消費生活センター宮古分室にはトラブルの相談があると思いますが、年間どれほどの相談がありますか。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

本市では、沖縄県消費生活センター宮古分室、宮古島市消費生活相談窓口が市民からの消費生活トラブルに関する相談を受け付けており、投資詐欺やマルチ商法に関する相談も寄せられております。令和７年度における総相談件数については、沖縄県消費生活センター宮古分室で343件、うち投資詐欺、マルチ商法については11件、宮古島市の窓口での総相談件数が100件、うち投資詐欺、マルチ商法については４件となっております。

◎平良敏夫君

特に近頃は、こっちに書いてみたんですけど、ＳＮＳだったり、メールだったりで、本当に多くの詐欺が、投資詐欺だったり、フィッシング詐欺だったり、たくさんあるわけです。ロマンス詐欺というのもありまして、これは届け出ているのは本当に氷山の一角だと思うんです。しっかりと宮古島市の問題として捉えていかないと、ひょっと引っかかっちゃって恥ずかしいから言えなかったりとかいうこと、現在、やはり周りにも何名かいることを知っておりますので、このことに関してはこれから考えていかないといけないのかなと思っております。

２番目に、トラブルの相談の内容ってどんなもんでしょうか。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

ご質問、消費生活相談の内容について、沖縄県消費生活センター宮古分室によると、まず個別の相談内容の詳細については、個人や事業者の特定につながるおそれがあるため、具体的な事例を挙げることは控えさせていただきますとの回答でございました。その上で、当市の消費生活トラブル相談の傾向についてお話をさせていただきます。まず、例年多く寄せられる相談内容は、通信販売での定期購入契約に関するトラブルです。こちらは、以前から変わらず引き続き注意が必要な状況となっております。そして、最近特に増加傾向にあるのが、先ほど平良敏夫議員もおっしゃっていましたＳＮＳなどを通じた新しい手口のトラブルがあります。投資詐欺やマルチ商法のトラブルもこちらに含まれることになります。投資詐欺の多くは、高利を、利回りをうたうＦＸや未公開株、暗号資産などを装い、冷静な判断力を奪う形で金銭を要求する特徴がございます。特に高齢者の方々は狙われやすく、一旦被害に遭うと取り返したいという心理から２次被害につながりやすい傾向が見られます。一方、マルチ商法は、若者を中心に簡単に稼げるといった誘い文句や、友人、知人からの誘いを通じて商品購入やセミナー参加を強要するケースが多く、ＳＮＳでの勧誘も増加しております。当市のように顔見知りの多いコミュニティーでは、親しい関係性を悪用するケースも懸念され、手口が巧妙化、多様化しているという特徴があります。

◎平良敏夫君

特に投資詐欺もそうだけど、マルチ商法、それの詐欺というのは、友達、親戚、みんななくすんです。実際にそういう方います。だから、今450件ぐらいあるようなこと言っていたんですけど、そのことはさっ

きも言ったけど、本当に氷山の一角だと思うんですけど、これでどれだけの損失が宮古島に起こっているかということを、どのように調べるか分かんないけど、調べてみることも必要ではないかなということと、もう一つ、そういうことに対する、今でもやっていると思うんですけど、啓発をしっかりとやって取り組んでいってほしいなと思っております。

時間ですけど、早く終わろうかなと思うんですけど、なかなか終わらないです。

宮古島市熱帯植物園についてなんですけど、みどり推進課が今はなくなって、私も寂しいんですけど、みどり推進課がきれいに整備して、行ってみたら本当にきれいで、芝生もきれいに花がたくさん咲いていて、わあ、いいところだなと、私なかなか宮古島市でそんなところ見たことなかったもんですから、いいところだなと思うんですけど、寂しいことに観光客も地元の方もいないわけです、そこには。もったいないなという思いがありますので、提案なんですけど、子供が集まると親ももちろん当然集まりますよね。家族も集まる。そういうことで、植物園に小さな動物園を併設すればどんなかなと、前も言ったような気がするんですけど、宮古馬はもともといます。それで、ヤギとか豚とか鶏、アヒルとか、家畜でいいんですけど、そういう家畜を飼うことによって、子供たちはすごく喜んで見に行こうといって、もちろん両親を連れてくるし、みんなで行こうという、そういうみんなが集まれる場所になれるんではないかなと思っておりますので、思いはあの植物園そのままにしておくのもったいないよねという思いであります。そのことに対して答弁はできますでしょうか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

植物園の中に動物園ができないかということですよね、動物園ができないか。まず、幾つか課題がありまして、やはり一番大きな課題が植物園でスペースの確保ができないこと、スペースの確保が難しいこと。あと動物たちの健康管理、日々の餌やり、清掃、衛生管理、動物の生態や臭気に関する専門知識、経験を持った飼育員の確保が難しいんではないかと思っておりまして、現状では難しいものと考えます。

◎平良敏夫君

できないよという理由並べるというのは幾らでも簡単だよね、全てのことに言えるけど、事業始めることも。できないことの理由はたくさんある。簡単に並べられる。だけど、これを打破していくことがやはり市民のためには、ほかのことに関してもですけど、必要ではないかなと思っております。何ならあんなたくさんではなくて、ヤギを二、三匹置いておくだけで、子供たちが餌あげたり、現在もありますけど、そういうことをやるだけですごく変わると思います。ぜひ実現してほしいなと思っておりますけど、例えば宮古馬の隣に、同じ敷地だから、例えばヤギを二、三匹置くということできませんか。

◎市長（嘉数　登君）

平良敏夫議員、どうもありがとうございます。平良敏夫議員の質問の大きな趣旨というのは、せっかくある植物園を市民のため、観光客のためにいかに活用するかという点だというふうに思っておりまして、いろいろ動物の飼育とかご提案がありましたけども、市のほうには例えば子供の遊び場というような要望もありますので、どういった形で活性化といいますか、今以上に活用していただけるかという点から検討してまいりたいというふうに考えております。

◎平良敏夫君

植物園の入場者の数って年間把握できるかということで、できないという話だったんですけど、これも

やはり把握する必要あるかなと思います。そのことによって、ああ、増えたね、減ったねって、いろんな結果も得られると思いますから、そのほうも、例えば今機械的なものたくさんあると思いますから、そこも加えて検討してもらえたらいいかなと思っております。

建設部長、車両検査については次に回しますので、よろしくお願いします。

これで平良敏夫の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで平良敏夫君の質問は終了しました。

◎粟国恒広君

一般質問４日目、今日は６名の登壇ということで、午前中から皆さん時間を気にしながら質問しております。私も早めに終わりたいという気持ちはいっぱいいっぱいあるんですけど、質問事項が多岐にわたるので、時間いっぱい使って質問していきます。では、よろしくお願いいたします。

まず、市長の政治姿勢についてお伺いいたします。第３次宮古島市総合計画策定について、令和９年度から始まる宮古島市の最上位計画である、今後10年間の市政運営の方向性を定める重要な計画です。そこでお伺いしますが、市民の意見をどういうふうな方法で計画に反映するのかお伺いいたします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

現在、次期計画である第３次宮古島市総合計画の策定に取り組んでおります。令和７年度におきましては、次期総合計画の策定に向けた基礎資料とするため市民意向調査を実施し、市民の皆様の暮らしに対する実感や今後のまちづくりに対する意見の把握に努めたところでございます。そのほかにもワークショップや市民アンケートについても実施しております。市民アンケートについては、昨年の12月に実施しておりまして、市民アンケート、ウエルビーイングアンケート、中高生ウエルビーイングアンケート及び高校生の進路アンケートの４種類を実施しております。さらに、市内の関係団体７団体を対象とした事業者ヒアリングを実施し、現在抱えている課題や今後のまちづくりに対するアイデア、意見を伺っております。今後は、これらの調査で寄せられた意見を踏まえながら、庁内の検討委員会や総合計画審議会で議論を進めてまいりたいと考えております。

◎粟国恒広君

今の答弁だと、これから市民の意向をいろいろ検討しながら策定にまいりたいという話かなと思うんですけど、これ地域説明会とかそういった開催予定はあるんですか。もしそういった開催予定があれば、何回ぐらい開催するのかを含めて答弁お願いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

総合計画の地域での説明会というのは、特に実施する予定はございません。令和８年度において、庁内の推進体制として課長級による作業部会と部長級による策定委員会に加えまして、外部有識者等で構成される総合計画審議会を設置しております。これを４回ほど実施するとともに、今年の12月には計画素案に対するパブリックコメントの実施を予定しておりまして、令和９年３月に議会へ議決事項である基本構想の提案を予定しているところでございます。

◎粟国恒広君

地域説明会はないと、審議会を４回ぐらい開催するという答弁かなと思っています。それで、今本市が

抱える人口減少、そして市長も今後の人口ビジョンという感じで、去る大城仁議員の若者の定住促進という感じで答弁がありました。そこで、2060年、令和42年の人口将来展望を５万5,000人でやっているんです。私は、この記事を見たときにすごくびっくりしました。今後10年の総合計画の中で、市長はかなり飛んだ答弁をしているのかなと私自身思うんです。2060年、あと三十何年ですか。令和42年ですね。あと34年ですか。この総合計画において、しっかり10年スパンで計画を立てる中で本市の抱える人口ビジョン、それをどういうふうな感じで想定しているのか。令和18年、これから10年後です。令和42年の話をしても誰も私信じないと思うんです。ですから、市長、今この令和18年の人口ビジョンをどう考えるか、答弁お願いします。

◎市長（嘉数　登君）

せんだって私が本市の人口に関して答弁させていただいたのは、既存の人口ビジョンでございます。ですので、かなり大きな数字になっているかというふうに思っておりまして、その一番大きなものが合計特殊出生率、これはもう本市も２を切って1.53まで来ております。ただ、計画策定時においてはまだ２名を上回っておりましたので、そこを基礎として2.何ぼというような目標、それから人口がこれだけになるというような推計立てておりましたけども、昨今の情勢を踏まえますと、人口についても改めて検討しなければいけないということで、先日答弁の際にも総合計画の策定と併せて人口ビジョンについても見直していきたいというような答弁をさせてもらったところです。

◎粟国恒広君

今の答弁を聞くと理解できたかなという感じで思っています。ただ、今後この総合計画の中で、やはり10年スパンというのが市民も分かりやすいと思うんです。ですから、そういった総合計画にしっかり、市長、10年ビジョンで策定していくという方向をしっかりやってもらいたいなと思っております。

それで、今回総合ビジョン、令和８年までにやるんですけど、後期で、その辺については現市長も、令和５年後半ですか、令和６年と携わっています。その達成感というのはどういうふうにお考えなのか、答弁お願いします。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後２時21分）

再開します。

（再開＝午後２時21分）

◎市長（嘉数　登君）

第２次後期計画の達成状況はという趣旨の質問にお答えします。

第２次総合計画に掲げた目標値の達成状況については、計画全体では103の目標項目を設定しておりまして、そのうち100％達成した項目が33項目、達成率は32％となっております。達成した項目としては、環境分野において、硝酸性窒素濃度の低減が進んだこと、教育分野において、海外ホームステイ参加者の満足度の向上や宮古島市歴史文化資料館の利用者数の増加などが挙げられます。また、福祉分野では、高齢者支援ボランティア数の増加、さらに産業分野では、サトウキビ生産額の増加、それからふるさと納税の寄附額の増加、観光消費額の拡大など、一定の成果が確認されているところでございます。一方で、全体と

しての達成率が32%にとどまっている状況については、大変重く受け止める必要があるというふうに認識しております。目標設定の妥当性、それから達成可能性、さらには進捗管理の在り方について改善が必要であるというふうに考えております。そのため、第２次総合計画の効果検証の結果を踏まえまして、第３次総合計画の策定においては、目標値の設定方法も含め、より実効性のある計画となるよう策定を進めているところでございます。

◎粟国恒広君

令和４年から令和８年の達成率32%、いろんな感じで今答弁されているんですけど、やはり基本構想、そして基本計画、それに基づいてしっかり計画を立てて、今後の10年後の宮古島市を、しっかり取り組んでほしいなと思っております。宮古島市を取り巻く社会情勢は、本当に日々混乱しているのかなと私感じています。そういう意味でも、その社会情勢をしっかり把握しながら、今後策定に取り組んでもらえればなと思っておりますので、今後の10年後の宮古島市の進路を決める大事な羅針盤ですので、ぜひ策定については早めに、３月定例会では素案も、随時議会で報告してもらいたいなと思っております。やはり重要なのは、何をやるかではなくて、どこまで達成するかなんです。今言ったように32%というのは、市長それで満足しているかどうか分からないんですけど、やはり市民が求めているというのは、策定したものを50%以上ぐらい達成したほうが、市民としても今後の総合計画に、ああ、これだけこういう感じでやっているんだというふうに見えてくるんです。ぜひ前期でそういった達成度をしっかり上げてもらうことを、この場でどういうふうに取り組むかということを答弁できればと思うんですけど。

◎市長（嘉数　登君）

現在の総合計画策定時と今とでは、宮古島市を取り巻く環境というのも大いに変わっていると、劇的に変わっているというふうに思っております。観光がこれほど伸びるとは、あの当時、策定当時はまだ見通せていなかったというふうに思っておりますし、それから我々が事務を遂行するに当たっては、ＤＸとかＡＩの活用といったような劇的な変化が起こってきております。もちろんそれ以外にも大きな変化、もともとあった少子高齢化、郡部における過疎化というのはどんどん進んでいっております。そういった課題を、その時々の課題をしっかりと把握して、10年間でどこまで持っていけるのか、あるいはどういう処方箋を立てるかというところをしっかり考えながら、なおかつこれを行政だけで判断するんではなくて、市民も納得した形で総合計画をつくることが一番重要だというふうに思っておりますし、もちろん粟国恒広議員指摘の計画はつくるけれども、何もできなかったというのであれば、その計画をつくった意味がありませんので、そこはしっかりと目標達成に向けて進んでいけるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

よろしくお願いいたします。

続きまして、２番目、航空自衛隊宮古島分屯基地の地中で見つかったダイオキシン、有機フッ素化合物汚染水問題ですけど、この問題に関しても多くの議員が質問しています。私はこの問題で、情報開示が発見から１週間遅れたということをマスコミ報道で話がありました。その件に関して、こういった情報の発信というのはやはり沖縄防衛局と本市とどういうふうな、緊密というか、連携を取って情報を早く発信してくれと、その体制についてどうお考えかお答えください。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

今栗国恒広議員ご指摘の点ですけども、情報発信に関しては市としましてはなるべく速やかに正確に届けるということは非常に重要だと考えております。今回公表が遅れた件につきまして、沖縄防衛局のほうでは２月に構造物を発見して、その後４月にダイオキシン等が見つかったというところが、また市に報告するのが遅れたということなんですけども、これに関しては沖縄防衛局のほうでは対処方針を決めるのに時間がかかって、それで報告遅れたと、この件については申し訳なく思うということでありました。市のほうでは、情報を受けましてから、沖縄防衛局から受けた情報を公表することに関して、市から公表していいかというのを沖縄防衛局に問い合わせたところ、それで１週間が経過しております。沖縄防衛局に対しては、速やかに情報発信ができるように常に求めているとこですし、また市としましても沖縄防衛局と緊密に連携を、連携というか、情報共有を取っているとこでございます。

◎粟国恒広君

情報の開示というのは、やはり速やかに行うべきです。市民もそこについてはやはり不安を感じているんです。そこでお伺いしますけど、汚染水が見つかったということで、あの基地の中には井戸があるんです。周辺にも井戸があるんです。そういった感じで、井戸の水質のモニタリング調査、そういった計画はあるのか、その辺について答弁お願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

調査については、ただいま沖縄防衛局と調整をしているところです。

◎粟国恒広君

環境衛生局長、市民が不安なのはやはりダイオキシンが、汚染水が漏れていないかというのが一番市民の関心が強いんです。そして、我々の生活用水というのはほとんどもう地下水に頼っているので、その辺の周辺井戸のモニタリング調査、漏れていないというのを、しっかり市民に安心、安全だよというような説明ができる調査をしっかりやってもらいたいと思いますので、ここはしっかりやってください。

次に移ります。旧平良庁舎の利活用について。今年の５月から仮囲いの設置が行われています。今後の完成時期についてお伺いします。これについては、ぜひ工事工程、大まかでいいです。何年度に完成してという工程の予定をお聞かせください。

◎総務部長（上地俊暢君）

旧平良庁舎の利活用事業についてお答えいたします。

現在、手続が進んでおりますが、今月に建築確認の許可が下りた旨、実施主体である株式会社旧平良庁舎プロジェクトから連絡を受けているところでございます。現在先行して仮設工事、解体工事に着手しておりますが、これから工事が、今月、建築確認の許可が下りたことから、これらの工事が完了次第、速やかに本格的な改修工事に着手する予定となっております。現在のスケジュールにおいては、供用開始を令和９年度内と予定をしております。当初の予定から遅れておりますが、令和９年度内に供用開始の予定で事業を進めているところでございます。

◎粟国恒広君

この施設というのは、本市が一番民間投資というか、民間事業という感じで、ＰＦＩ事業導入という感じで、これスタートなんです。開始が令和９年とすると、令和10年かな、スタートは、という感じですけ

ど、やはりかなり遅れていますよね、これ。その辺もやはりみんな市民が見ている大事な工事なので、行政もこの工事工程をしっかり把握しながら、一日も早くサービス提供ができるように努めてもらいたいなと思っています。

それで、次に行きます。宮古島市新総合体育館建設についてお伺いいたします。この質問については、維持管理費､あるいは建設費の当初からの大幅な増額という感じで砂川浩平議員もおっしゃっていました。私は、その観点でお伺いしたいんですけど、体育館建設はもう一括の入札でやると。総工事費が159億円。それで、やはり一番市民が感じているのは維持管理費なんです。建設部長は、維持管理費用が約5,000万円ぐらいというような想定をしていたんですけど､年間5,000万円というとやはり宮古島市の一般財源から捻出するのは大きいんです。そういう意味で、例えば特別避難施設という感じで、上物と地下物という感じで分かれて建設するんですけど、これそもそも国が今の南西状況のことを考えると、避難施設が必要だよという話、内閣府が言ってきた事業なんです。それを鑑みると、維持管理費も国に支払ってもらうということを検討しなきゃいけないと思うんです。今の南西地域の国防を考えると、やはり台湾有事とか、いろんなものが取り沙汰されている中で、国の安全保障をしょっているのはみんな南西地域なんです。そういう意味では、市長、維持管理費に対して市長の考えを、私の要望としてはもう全部国にやってもらう、市民負担はないように、その辺に関して市長の答弁をお願いします。

◎市長（嘉数　登君）

特定臨時避難施設の完成後の維持管理については、もちろん市としても後年度負担というところを考慮しまして、令和７年度においても防衛省のほうに要請をしております、維持管理費については国費で見てくれないかと。同じような問題がこの宮古島市だけではなくて、石垣市もこれから造ります。与那国町も竹富町も、それから多良間村も同じような特定臨時避難施設を造るということになっておりまして、もちろん昨今の資材の高騰によって建設費自体もそうなんですけども、シェルターについてはその後の維持管理をどうするかというところと、そもそもこれは安全保障上の必要性から出てきた話であって、そこはやはり国費で見てくれないかというような話をしておりますので、単独の自治体でももちろんやりますけども、この美ぎ島美しゃ市町村会のほうでもしっかり要請をしていきたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

これは、もう南西地域における、石垣市もそうだし、多良間村にも同じように建設をやっていくということですので、やはりこれだけの施設を造る、建設に当たってこれだけの費用がかかる。もちろん補助金もかなり高額な補助金出て、市民負担というか、市の財政負担もいろいろあるんですけど、やはり造った後の維持管理費というのはすごく大きいんです、10年先、20年先。

そこでお伺いしますけど、新総合体育館は建設後10年以上にわたり市民が利用する施設だと私は思っています。市長は、この施設によって市民にどのような価値を提供して、将来の世代に何を残そうとしているのか、その辺をお答えください。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後２時36分）

再開します。

（再開＝午後２時36分）

◎市長（嘉数　登君）

もちろん市民の健康増進のための施設であるというふうに考えておりますけども、それに加えてスポーツコンベンション、各種大会がありますけども、それは沖縄本島だけではなくて、やはり離島でも分散開催というような形で、我々宮古島市はスポーツアイランドの構想を掲げておりますので、ぜひそういう活用の仕方をしていきたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

市長、やはりこういった考え、私いいと思うんです。いろいろ沖縄ではそういったアリーナ、ＭＩＣＥ、いろんな課によって、こういうふうな感じで維持管理をどこから捻出するのか、あるいはまた市民にこういうスポーツ会場を提供するのかということについては、市街地にあるんで、利便性もいいので、やはりそういったところにもスポーツだけではなくて音楽イベントもしっかり盛り込んで、そこで収益上げるというのも大事ですから、今市長の答弁を聞いて、今後この体育館がどういうふうに利活用されていくのか楽しみです。ぜひ今の答弁をしっかり皆さん記憶して、体育館建設、着実に進めてもらいたいなと思っています。

次に、３Ｄ住宅実証事業についてお伺いいたします。当初予定の変更がありました。私は、当初予算もらうときには、本来ならここで造るんだというんだったらその場所の実態調査は大事なんです。蓋を開けてみたら、いや、盛土が必要だとか、そういうのではなくて、予算確保に向けてはしっかりそういった事前調査は必要だと思うんです。上野トロピカルフルーツパークですか、そこでやるというふうな説明もあったんですけど、やはり変更による市民負担、事業効果、影響はないと考えているんですか。その辺をお答えください。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の候補地につきましては複数検討していた中から、去る３月定例会において旧平良児童センターで検討している旨を答弁させていただきました。その後、地形と、あとアスベストの検出等がございまして、工事の長期化が懸念されたことから、早期に着手できる場所、候補地を探したところ、上野トロピカルフルーツパークに変更となっておりますけども、やはり市の喫緊の課題であります少子化、あと生産年齢の減少という部分に対しまして、地域社会を支える上で重要なエッセンシャルワーカーの方々も島外からの派遣に頼らざるを得ない状況がありますので、本市で勤務をしてもらうために、宮古島市、こういう新たな先進住宅の実証に向けて取り組んでいくということで考えております。市民への影響については、特段今のところないものと考えております。

◎粟国恒広君

変更による市民負担、そして事業効果は影響がないと考えているということです。市長、本事業は私は単なる実証事業ではないと思うんです。やはり将来の住宅政策、そして人口減少に対する対策等々につながっていく可能性を持つ事業だと私思っているんです。市長としてこの事業を通して宮古島市の住宅問題をどのように解決していくのかということを、市長、お聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

若者の定住促進を目的として取っている施策事業としては、この３Ｄプリンターを活用した事業だけで

はなくて、私は既存のストックも活用しながらということで、今使えるものは全て活用した上で、それから新たな事業を生み出していこうという姿勢を持っております。３Ｄプリンターを活用した事業についての狙いですけども、やはり昨今人件費の高騰、資材の高騰、地元で造るとかなり建築費がかさむというところで、新たな工法を入れることによって建設単価を下げることはできないか、要は持家をより取得しやすくできないかという観点を持っております。それから、２次的な効果としましては、何も当該技術を持っている企業だけではなくて、そこに絡んでいく地元の企業の技術の進歩というようなところも２次効果というふうに期待しておりまして、そういう相乗効果が相まって、将来マイホームが持てるという希望ですか、そういったものが宮古島市への定住を後押ししてくれるということを期待してこの事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

そうですよね、市長。今宮古島市でも若者はマイホームはほぼ諦めています。これだけの建築単価です。一戸建てなんて、もう夢の夢ですよ、これ。ですから、そういう事業を導入するというのは、将来の住宅事情を大きく、宮古島市の、変えていくのかなと、私もそこを期待しています。そういったものは、ぜひ市民にも、実証ですけど、そういった報告をしっかりこの議会でも、議場でも報告するよう期待しております。

次に、都市計画事業についてお伺いいたします。久松のスキラ地区、トゥリバー地区、都市計画事業の導入についてです。この質問に関しては、３月定例会でも取り上げてですね、当局の答弁だと、マスタープランを導入するというか、努力するという感じの答弁はないというような答弁だったかなと私は記憶しているんですけど、３月定例会でこの地区はもう、久松地区ではもう圃場整備も入れないと。ですから、用途の変更、農業用地としていたんですけど、ここの変更をやってほしいと。

これ写真で見せます。これ県道久松港線です。この大きな通りが県道です。こういった感じで民家がどんどん続くと、建築確認、農地が５条申請でこういうふうな感じで住宅建設が進んでいます。要するに道路脇はみんな建築確認が下りているんです。その奥へ行くと、みんなもう袋地です。ですから、午前中の平良恵泰議員の質問にもありました。久松地区のスキラ地区の都市計画、令和９年度に事業を調整していくという感じのお話ですけど、現在どういうふうに調整が行われているか、その辺を、建設部長、お答えください。

◎建設部長（下地睦子君）

スキラ地区についてでございます。午前中も平良恵泰議員に答弁した内容のこととなります。各地域の市街地像や土地利用の現況、動向を勘案し、各地区に適した用途地域を定めるものとされております。その上で、スキラ地区につきましては現行の宮古島市都市計画マスタープランにおいて、市全体の土地利用の方向性を示す中でも市街化を前提とした土地利用地域としては位置づけられておりません。用途地域の具体的な指定の方向性も示されておりません。加えて、当該地区は、農業振興地域整備計画に基づく農用地区域に指定されております。優良農地として保全が図られております。このため、原則として農業以外の土地利用、特に市街化を前提とした用途地域の指定につきましては、現行の土地利用計画との整合性を欠くことから、慎重な検討が必要であると考えております。粟国恒広議員がおっしゃるスキラ地区について、久松地区についてですけれども、令和４年度宮古都市計画基礎調査において、１ヘクタール当たりの

人口が10人から19人、用途地域をかぶせるに当たりましては、目安としてですけれども、住居地の用途地域における目標人口としましては、ヘクタール当たり40人から60人が最低でございます。この都市計画の基礎調査においては、いずれも基準に満たないため、見直しには至っておりません。令和９年度の調査において、基準をクリアした場合は見直しの検討を行うことになるものと考えております。

◎粟国恒広君

建設部長、今答弁したのは、基準に合っていないと、人数の数。そこは、これ全体層の、やはり県が決めている都市計画の、または国の都市計画法というんですけど、これ地元に、例えば宮古島市の行政に合った都市計画をしなきゃ私いけないと思うんです。宮古島市は、都市計画をかぶせないと、土地区画整理になると建っている家を、道路通しますから、どかしてくださいという感じで都市の計画張るんです。都市計画と土地計画の違いです。今、竹原地区もそうです。大原地区もそうです。もう40年たっても進まないんですよ、これ。ですから、こういった農振除外、農振地域となっているんですけど、我々地元はもう農振しませんと、圃場整備導入しませんと、自治会議決があるんです。そこをしっかり鑑みて、今後の都市の在り方、宮古島市の住宅不足、そこら辺を踏まえて都市計画を入れたらどうですかと私は質問しているつもりなんです。これについては、時間もあれですから、今後厳格にもっともっと質問言っていきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、空港南側については、民間企業と今後話をしますので、これについては割愛したいと思います。

宮古島夏まつりについてお伺いいたします。宮古島夏まつりについてですが、市民交流、そして観光振興、そして地域経済の活性に大きな役割を果たしているイベントだと私は感じています。今後の開催に向けて、今主体となっている宮古島商工会議所、そして行政が今どういう感じで関わっていくべきかというのが私は重要なテーマになっていると思うんです。そこで、今後市はどういう位置づけでこのイベントをやっていくのかなということを聞きたいと思います。答弁をお願いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

宮古島夏まつりについてお答えします。

宮古島夏まつりは、従来は商店街の振興を目的に開催されておりましたが、現在は多くの市民が楽しむ市民参加型のイベントとして定着しております。一方で、３つの通りを車両通行止めにして２日間行う歩行者天国は、予算や人員確保などの負担が大きく、加えてイベント開催時の事故防止に向けた警備体制強化が求められているため、開催には様々な課題を抱えております。こうした実情を踏まえまして、夏祭りの実施内容や運営体制の見直しなど、今後関連する団体等と議論をする必要があると考えております。

◎粟国恒広君

今までの宮古島市の行政の取組ですと、やはり宮古島商工会議所が主体となっていて、補助金を捻出すればいいのかなという感じの動きにしか私は見えないんです。ですから、この祭りというのはやはり宮古島市を代表する市民の祭りであるんです。宮古島市の誇りの祭りであるんです。経済面、そして観光振興、私はこれはすごくそういった２つの事業に寄与する事業だと思います。今後10年、20年先を見据えてこの祭りを、歩行者天国は今回１日ですね、今回の話ですと。沖縄全体の祭りだと那覇市もこういった感じで、祭り自体がもう縮小になってきているんです。一つの観光ＰＲで始めた祭りだと私は思うんですけど、そ

のお祭りを、これ友好都市も姉妹都市もこの祭りにはみんな参加するんです、宮古島夏まつりには。これは、もう行政が主体としてやるべきだと思うんですけど、市長、そこは市長どうですか。市長の見解をお伺いします。

◎副市長（砂川　朗君）

宮古島夏まつりの実行委員会事務局の在り方についてでございます。夏祭りに対する市の関わり方につきましては、現在の運営体制や関係団体との役割分担などを踏まえながら検討していく必要があるというふうに考えております。夏祭りを将来的にも開催していくためには、実行委員会の持続的かつ安定的な運営体制が求められますので、関係団体の皆様とも意見交換会を行いながら、持続可能な運営について検討していく必要があるというふうに考えております。

◎粟国恒広君

ぜひ副市長、関係団体としっかり協議して、やはりこれだけ歴史ある宮古島夏まつりでございます。そこに島外からもいろんな方が来るんです。ふるさと納税もそうですし、返礼品もそうですし、私は宮古島市の経済をすごく促進している祭りだと思います。ぜひ今後ももっともっと盛り上げるために、歩行者天国ももう本当に１日より２日、元に戻すという前向きな考えでぜひ事業主体と意見交換してください。よろしくお願いいたします。

続きまして、ふるさと納税の返礼品についてですが、午前中も平良恵泰議員がしっかりやっていました。ふるさと納税、もう第一次産業の返礼品をしっかり、企画政策部長は、今10％台ですか、それを30％ぐらいまでに持っていくような仕組みをつくりたいという答弁もありましたので、ぜひ期待しております。そのためには、やはり生産農家、母体となる、そこへの支援も大事だと思っております。それを踏まえて質問していきたいと思うんですが、今後小規模事業者、そして個人事業者が返礼品に参加しやすいような手続、商品開発の支援等々どう考えているか、答弁お願いします。

◎企画政策部長（石川博幸君）

小規模事業者が返礼品事業者に参加するためにはということでございますが、事業者がふるさと納税の返礼品を提供するためには、宮古島市の返礼品提供事業者登録と総務省からの地場産品の承認を受けることの２点が必要となります。事業者登録につきましては、ふるさと納税制度や登録の流れを説明し、制度にご協力いただける方には誓約書等を提出していただき、要件を満たした事業者を返礼品事業者として登録しております。

次に、返礼品になるためには、商品が総務省の定める基準を満たし、承認を受ける必要があります。そのため、各事業者には申請に必要な情報提供をいただいております。国から承認が下りた返礼品を各ポータルサイト等へ掲載する流れとなっております。ふるさと納税返礼品提供するに当たっては、やはり事業者のメリットが必要だと思っておりますので、農家からこういうふうに返礼品になることで販売手数料がかからない、そして広告料もかからないということで経費節減につながり、収益の向上が図られるとともに、全国規模での販路拡大とか新規顧客の獲得につながる可能性もありますので、事業者登録に向けても取り組んでいきたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

時間がないので、質問を飛ばしていきたいと思います。まず、農業委員会行政についてお伺いいたしま

す。この質問の中で、平良字松原の563―２、563―３、563―４、569―３、この４筆、これ写真を見せたいと思うんですけど。今写真ができているのが、これ、まず農業委員会会長、３月の質問の中で、これは裁判所の提起があるんで、その質問に対しては私には説明できないという答弁がありました。私、裁判所に確認しました。これ事件番号ついているかどうかお答えください。

◎農業委員会会長（長濱国博君）

農地法による農地を農地以外の目的に利用する場合は、農業委員会へ農地転用申請の手続を行わなければなりませんが、粟国恒広議員ご指摘の平良字松原563―２以外の563―３、563―４、569―３の３筆について、指導は行っておりません。現在、登記簿上の土地所有者から直接聞き取りを行っており、文書での回答を求めているところでございます。指導については、土地所有者から文書での回答をもって対応したいと考えております。また、平良松原……

（「休憩お願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

今答弁やっているので。

◎農業委員会会長（長濱国博君）

563―２については、地目及び現況が道路になっており、農地転用申請の対象外になります。

（「議長、休憩お願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後２時59分）

再開します。

（再開＝午後３時00分）

◎農業委員会会長（長濱国博君）

粟国恒広議員ご指摘の地番については、土地所有者及び場所が特定できるものであり、質問の４筆を含め、裁判の結審をもって答弁を差し控えたいと考えておりましたが、粟国恒広議員の裁判とは関係ないとのことでしたので、農業委員会としては裁判に関する前提でお答えいたします。

まず、松原563―２については、現況が道路、登記簿上の地目が公衆用道路になっており、農地転用申請の対象外になります。

次に、松原563―３、563―４、569―３の３筆は、現況道路として整備されていますが、登記簿上の地目はそれぞれが３筆とも農地であり、農地違反の対象になります。粟国恒広議員ご指摘の３筆については、松原地区の違反ヤードに直接つながる道路として利用されている場所にあります。農業委員会がいろいろ調べた結果、松原地区の違反ヤードと違反ヤードにつながる無許可で道路を整備した当事者が裁判を提起した原告と同一人物であることが裁判に関連しているとの判断であります。この裁判は、今後農地転用などの在り方を見据えた上での農地行政の業務の一つとして考えており、証明及び訂正の必要はないと考えております。

◎粟国恒広君

農業委員会会長、これ違反というのを認めましたね。本来ならここは違反でしたらあなたは指導するべ

きですよ。地目がこれ畑です。隣が申請されていて、これ許可されているんです、４条申請で。そこが違反していても指導がされていないというのは、今回分かりましたので、今後その辺については追及していきたいと思います。

次に、農地法の４条審査基準についてお伺いいたしたいと思います。農振除外の４条申請について、基本的な申請除外の基準を教えてください。

◎農業委員会会長（長濱国博君）

農地転用の審査基準としまして、①、農地区分等について、②、資力及び信用、③、転用行為の妨げとなる権利を有する者の同意状況、④、申請に関わる用途に遅滞なく供することの確実性、⑤、行政庁の免許、許可、認可などの処分の見込み、⑥、申請地以外の土地利用見込み、⑦、計画面積の妥当性、⑧、周辺の農地等に関わる営農条件への支障の有無、以上８つの項目を基準として審査いたします。

◎粟国恒広君

大体分かりました。写真を見せてほしいんですけど、農業委員会会長、これ圃場整備されて、隣にスプリンクラーがされています。宮古島市の農業委員会は、農地区分として甲種農地、あるいは第１種農地、第２種農地、第３種農地と分かれているんですけど、この土地は第何種農地になるんですか。第何種だけ答えてください。

（「議長、休憩して」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時05分）

再開します。

（再開＝午後３時06分）

◎農業委員会会長（長濱国博君）

今写真で見せられても、我々は現場を確認した上で、数名の委員、事務局と種別の判断はします。ただ、粟国恒広議員の話を、質問を聞くと、スプリンクラーがあって農地整備もできていると言われたものを推測すると、恐らく第１種農地だろうという考えであります。

◎粟国恒広君

推測ですけど、第１種農地ということで、原則、不許可ですね。情報によると、状況によると不許可なんです。でも、これ許可されているんです。――――――――――――――――――――――――――――これ指摘しておきます。

続いて、農林水産行政についてお伺いします。竹アラ地区の圃場整備、それについて今月入札が行われたと思っております。皆さん、説明会では今年の８月までには工事完了するという説明でしたよね。市長、市長自ら行って説明したときに８月までには完了するという説明でした。その件に対して、８月もう過ぎているんです。それを農家にどういう説明するのか、その辺をお答えください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

竹アラ地区の土地改良事業です。たしか説明会等でも８月までにということでございました。現在６月でございますけれども、工事が遅れていることは事実でございます。圃場整備につきましては、２月に完

了しておりますが、現在、畑地かんがい施設、スプリンクラー等の設置工事を行っております。計画変更による追加の予算決定が３月となり、農道法線、それから圃場の配置変更に伴う変更設計が生じたため、畑地かんがい施設工事、幹線、支線の契約が６月となっております。今後は、幹線、支線工事の進捗を踏まえながら、早期の完成を目指して取り組んでまいります。

◎粟国恒広君

この事業、市長、市長自ら行って丁寧に説明して、しかし終わらないんです。その件に関して、市長、やはり農家の皆さんにおわびとか、そういったものはないですか。市長の考えをお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

農家の皆さんへの説明会の中で、度々工期が延びていることについては、たくさんの苦情といいますか、ありました。その中にあっても、事業推進を理解してくださっているわけですから、少なくとも８月完了と言っていたものがもろもろの理由によって延びるようであれば、改めて行って農家にきちんと説明すべき、それは戸別に回るのか、集まってもらうのかは担当部局のほうで考えてもらいますけども、そういう対応は考えていきたいというふうに考えております。

◎粟国恒広君

飛ばしまして５番目の漁村再開発施設用地の利活用について伺います。

この施設は、宮古島市で久松、大浦、狩俣、そして浦底と、各地区に置くんですけど、ここで私が質問したいのは、さきの３月定例会でもいろいろ言ったけど、再開発整備したこの遊休地、要するに遊んでいる土地をどういうふうに管理していくか、その件について答弁お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市の管理漁港において策定されている漁港用利用計画に基づいた用途がありますので、農林水産部としては遊休地という扱いはしておりません。今後の施設用地活用としましては、令和５年３月に法改正がありました漁港漁場整備法及び水産業協同組合法の一部を改正する法律でございます。それから、漁港施設用地と民間貸付けが可能になったことから、民間からの活用等の申出があれば、漁業協同組合、船主会、地域の方々などと合意形成を図りながら、市として漁港施設の利活用の後押しができればと考えております。

◎粟国恒広君

農林水産部長、おっしゃるところ十分分かるんです。でも、これ整備して30年も何も事業が行われていないんです。遊休地と言わないという答弁ですけど、遊休地なんですよ。事業計画もないんですよ。そこを１年、例えば半年放置すると、もうこれ原野になりますよ。私が言いたいのは、今遊休地ではないというんであれば、30年もたっているんですから、事業導入に向けてしっかりやることなんです。それで、清掃等管理、これ前回も何か話があって、320万円とかいろいろあったんですけど、今久松漁港を管理するだけで、皆さんがやっているのは八十何万円あるんです。平方メートル当たり７円。これ一般財源から出ているんです。今回全部、全体をすると、私の計算でいったら250万円いきますよ、これ。この財源どこから出すんですか。その辺についてお答えください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市が管理する漁港の清掃委託でございますけれども、これは例年一般財源でございます。

◎粟国恒広君

時間がないから。そうですよね、一般財源から。二百何十万円いきますよ、これ、今皆さんが積算している単価でいうと、平方メートル数掛けると。そこをしっかり鑑みて、そういった用地の利用についてはしっかり考えてください。これ皆さんの財源でやるんです。でも、地域にいる方がいろんなボランティアで、240万円宮古島市が捻出するところ、地域の方が30万円逆に払って美化活動やっているんです。そこら辺をしっかり鑑みて、今後の用地については検討してください。

時間がないので、最後に狩俣地区の循環型農業、時間がないけど、これ、市長、令和５年、令和６年、市長、副市長に聞いてね。これ6,000万円の事業を投入しているんです、一般財源から。先ほど平良敏夫議員も言いました。6,000万円の事業を投入したんですけど、その実証実験の着地点はどこですか。農林水産部長が答えるんですか、市長が答えるんですか。時間がないのでお答えください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

運営体制の構築に時間を要している状況でございますけれども、現在、組織づくりに向けた取組を行っております。市としましても、県制度補助、その他関係機関等へ協力支援を仰ぎながら、地域における体制と施設を利用した循環型農業の確立を目指し、先駆的なモデル事業の一例になるよう取り組んでまいります。

（「議長、休憩お願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時16分）

（休憩中、下地信男君から粟国恒広君の発言は、不穏当な発言ではないかと発言があった）

◎議長（平良和彦君）

再開します。

（再開＝午後３時18分）

先ほどの粟国恒広君の発言については、後刻音声データ等、記録を調査の上、議長において適当な措置を取ります。よろしいですか。ご了承願います。

（何事か声あり）

◎議長（平良和彦君）

分かりました。では、これ後で確認してから行いたいと思います。ご了承願います。

これで粟国恒広君の質問は終了しました。

しばらく休憩し、15時40分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午後３時18分）

（粟国恒広君、退席）

◎議長（平良和彦君）

再開します。

（再開＝午後３時40分）

休憩前に引き続き一般質問を行います。

順次質問の発言を許します。

◎山下　誠君

議席番号14番のＮｅｘｔみやこ、山下誠から質問させていただきます。

最初に、災害対策についてお伺いします。教育部長、避難施設についてですけれども、仲間誉人議員の質問のときに、学校施設も避難施設になっているんだけど、停電時に水が出ないのは現在西辺中学校だけでいいですか。

◎教育部長（久貝順一君）

山下誠議員ご指摘のとおり、西辺中学校のみが受水槽方式を活用しておりますので、それ以外は直圧式という形になっておりますので、停電時に給水ができないのは西辺中学校のみ（　　部分は291頁に発言訂正あり）となっております。

◎山下　誠君

結の橋学園も受水槽を使っているって答弁していませんでしたっけ。

◎教育部長（久貝順一君）

失礼しました。訂正します。停電の可能性があるのは、結の橋学園と西辺中学校のみとなっております。

（何事か声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時41分）

再開します。

（再開＝午後３時42分）

◎教育部長（久貝順一君）

訂正いたします。受水槽の方式を活用しているのは、結の橋学園と西辺中学校のみです。

◎山下　誠君

この質問を出したのは、補正予算を見る前だったから出したんだけど、西辺中学校と結の橋学園が停電時に水が出ないという話を聞いて、そんなことあるのかと思って調べたら、本当にそうだったんだ。ただ、結の橋学園はもう既に出ているという理解でいいんですよね。停電時も使えるという、まずそこからお願いします。

◎教育部長（久貝順一君）

結の橋学園については、発電機は設置をしてあります。

◎山下　誠君

それでは、西辺中学校の発電機、1,500万円ぐらい補正で上がっているんだけども、1,500万円ものお金を費やすということは、これ自動方式で、結の橋学園とは違って、停電したら勝手に非常用電源に切り替わって水道が使えるという理解をしているんだけど、違いますか。

◎教育部長（久貝順一君）

今回設置しようとしている発電機につきましては、停電時に自動運転に切替えをして、常時水が校舎のほうにも行き渡るような形で発電機が自動で作動するという形になっております。

◎山下　誠君

確認ですけど、結の橋学園は自動ではないと私は受け止めたんだけど、西辺中学校は自動で、結の橋学園は自動ではない理由は何かあるんですか。

◎教育部長（久貝順一君）

すみません、説明下手だったかもしれません。結の橋学園も自動と手動の切替えはできる発電機となっております。両方、西辺中学校のほうも手動と自動の切替えができる発電機の設置となっております。

◎山下　誠君

では、停電時には自動で切り替わってちゃんと給水できるという理解でよろしいですね。それを今回なぜ補正予算での対応になったかをお伺いしたいんだけど、もともとの当初の設計段階から入れておけばよかったんではないかなと思います。というのも、後でそういう工事をすると、多分余計にコストかかっているんではないかなと素人考えながら思うんですけど、いかがですか。

◎教育部長（久貝順一君）

当初、外構工事に組み込んで非常用発電機の工事も予定をしておりましたが、それとは別に追加工事等もあったものですから、工期の変更をしたことがありまして、本来は２月の中旬頃の工期だったと思うんですけども、これが３月の中旬頃までに延びたというところもあって、発電機を設置することについては工期内に施工することが困難であったということもありまして、財政課とも調整をしながら、今回の６月の補正での計上という形でお願いをしているところです。

（「一回休憩いいですか」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後３時45分）

再開します。

（再開＝午後３時46分）

◎教育部長（久貝順一君）

校舎の建て替えに当たりまして、事前に水道部とも協議、相談を行いました。教育施設課としては、当初水道本管からの直結給水方式、直圧式、それを検討していたんですけども、新校舎の規模を鑑みると、本管へ直結した場合、周辺地域への水圧の低下を招き、日常生活に影響を及ぼす可能性があるとの指摘を水道部のほうから受けました。その協議結果に基づきまして、周辺地域の安定給水を確保しつつ、また校舎内へ必要な水量を供給するために、直結方式ではなく受水槽を設置する方式を採用した経緯がございます。その中で、外構工事の中に組み入れて、受水槽の設置は校舎の改築のときでしたけども、発電機の設置は外構工事の中で行うという形で当初組み入れていた部分があったんですが、追加工事等、また工期の遅れ等もありまして、それで今回の補正というふうな経緯となっているところです。

◎山下　誠君

普通の一般的な考え方としたら、外構工事でそれをやるというのが変だなと思っていて、だって停電し

たときに水くみ上げるにはどうするのかといったら、それはもう本当中核だと思うんです、非常用発電機の設置は。だから、それを外構工事でやろうとする発想自体が私は理解できなくて、これ委員会のときに聞いたら、委員会のときは地域の水圧が弱まるかもしれないからという話だったでしょう。だけど、聞き取りのときは確かにそう言っていた。外構工事でやろうとしたらできなかったという、だから補正に上げたと言っているんだけど、そもそも非常用発電機の設置を外構工事でやるという発想は、それ普通、一般的ですか。

◎教育部長（久貝順一君）

発電機の設置に関して、改築に当たって受水槽の設置をする中で、本来ならばやらなければならなかったことかなと考えてはいるんですけども、その中で、もう急遽かもしれません。その辺のいきさつについて確認しないといけないんですが、外構工事の中に組み入れて当初進めることとなっていたというふうに聞いております。

◎山下　誠君

その外構工事で適切かどうか、あんまり詳しく私分からないけど、ただ外構工事ではないと思うんです。だから、最初の設計の段階から入れておけば絶対にコストカットは数百万円単位でできたというふうに私は思っていて、それを補正でやることによって余計なコストをかけているんではないかなという趣旨の質問だったんです。多分そうだと思う。それで、結の橋学園を先に建設していて、結の橋学園でも受水槽をやるということは分かっていたわけだよね。その後西辺中学校の校舎改築に手をつけているわけだから、それだったら西辺中学校でこれだけの費用がかかる、本体工事から入れなければならないという発想になるのが普通かなと思うんです。それを最初の初期の段階から外構工事として考えていたということは、これ行政の進め方としてどうかなと思いますけれども、これはよくよく調べてから対応してください。もう一回聞いてみたいと思います。

続いて、公共施設管理計画、１番のほう、市長の政治姿勢についてお伺いします。これ個別の管理計画があると思うんですけども、これの計画と照らした進捗状況をまずお答えください。

◎総務部長（上地俊暢君）

公共施設管理計画の進捗状況についてお答えいたします。

宮古島市では、公共施設における類似施設等の整理、適正化に向け、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定し、全庁体制にて取組を進めることとしております。同計画は、平成28年度の策定後、国の指針変更により、令和５年度において改定を行っているところでございます。平成28年度の計画では、約47.2万平方メートルであった公共施設等の延べ床面積は、改定を行った令和５年度においては約53万平方メートルとなっており、削減目標があるものの、増加している状況でございます。主な増加の要因としましては、その期間中に総合庁舎の整備、それからＪＴＡドーム宮古島、宮古島市未来創造センター、クリーンセンターなどの大型施設を整備することによって、平成28年度から令和５年度までに５万8,000平方メートル増加している状況でございます。

◎山下　誠君

先ほどの粟国恒広議員の質問の中で市長もやり取りがあったと思いますけど、計画ができても実行できなければ意味がないという市長の発言がありましたけども、まさにこれはもう意味がない状況になってい

て、せっかく計画をつくったのに実行できていない。これは、市長だけの責任ではないです、もちろん。歴代の市長の責任でもありますけれども、やはりそこはすごく残念だなと思います。だから、市長が今一生懸命資産のリストラとして走り回っているのはそういう意味もあるんだろうなと思っていて、計画に合わせて減らしていこうとしていると思うんです。行政経営会議が出した９施設、公共施設としての機能を廃止すべきとする答申、これについてですけれども、答申があった後にいろいろな意見、紙面で見ましたけれども、その影響はどの程度ですか、まずお答えください。

◎総務部長（上地俊暢君）

イの行政経営会議の答申についてお答えいたします。

財政健全化を進めるための取組としまして、公共施設の整理、適正化を行い、真に必要な公共施設等を選別することで、人的経費、維持管理費及び更新経費のコスト削減を図ることが重要であると考えております。宮古島市では、昨年度に行政経営会議を立ち上げ、各施設に要している経費等を数値化した施設別行政コスト計算書を用いつつ、行政だけの目線でなく、外部からの意見、議論をいただきながら、廃止する施設は廃止する、残すべき施設は残していくという資産リストラの取組を推進しております。令和７年度においては、９つの施設について行政経営会議へ諮問を行い、答申を受けましたが、令和８年度においても対象施設を選定し、同会議で議論いただくとともに、会議での議論、意見を類似的な施設へ横展開する等によって、庁内での取組を広げていきたいと考えております。資産リストラの推進によっては、公共施設の整理、適正化を進め、施設の維持、更新等にかかるコストの縮減を図っていきたいと考えております。昨年度、諮問、答申を行いました９施設については、今年度から取組を進めてきまして、９施設のうち８施設については２年をめどに取組方針を決定する、１施設、大きいうえのドイツ文化村については５年をめどに取組を進めるということで庁内で取組を進めているところでございます。

◎山下　誠君

分かりました。２年をめどに８施設ですね。ただ、うえのドイツ文化村なんですけども、今定例会でも我如古三雄議員がおっしゃっていた、やはり地域の考え方っていろいろあって、そことの調整がとっても難儀なものになると思っていて、それってかなり市長としても政治判断問われることが来ると思います。でも、そうして減らして……我如古三雄議員、怒らないでね。減らしていくときに、我如古三雄議員のような方々が出てきて、うわあっとなっていったときに、うまくまとめて、やはり減らさないといけない現実は間違いなくあるではないですか。それは、ぜひとも実行に移して、うえのドイツ文化村やれと言っているわけではなくて、着実に地域の理解を得ながら進めていっていただきたいなと思います。

それで、そのまま新総合体育館の建設についてお伺いしますが、これは砂川浩平議員と粟国恒広議員が聞いていましたけど、5,200万円という維持管理費の話がありましたけど、これは、建設部長、取りあえず上物の維持管理費という理解でよろしいですか。

◎建設部長（下地睦子君）

5,200万円と先日お答えした維持管理費についてですけれども、これは地下駐車場部分の常時地下駐車場として使用する際の電力料なども含まれております。

◎山下　誠君

そうすると、いわゆるシェルター、特定臨時避難施設、これを維持管理していくための数値化が私は必

要だなと思っていて、それがないと幾ら一体かかるんだというところがあると思います。このシェルター部分の維持管理費が幾らか試算はできていますか。

◎建設部長（下地睦子君）

特定臨時避難施設の維持管理費の試算といたしましては、設備の更新費などで年間約750万円程度、また施設稼働時に調達する自家発電用の燃料費を約1,400万円と試算しているところです。

◎山下　誠君

今答弁していただいた750万円のものは、それは維持管理費として年間の支出額、あと例えば施設の、あれは多分高度な施設を入れると思うんだけども、施設の更新費とかも今後かさんでいくんだけど、その更新する場合のお金とかは全然試算できていませんか。例えばあれ大型の発電機入れなきゃいけませんよね、多分。そういったものの更新費用というのは試算できていますか。

◎建設部長（下地睦子君）

現在試算しているのは、設備の維持管理の更新費として試算しているところでして、発電機など将来的に入れ替える際の管理費としては試算はしておりません。

◎山下　誠君

どうして、建設部長、こういうこと聞くかというと、先日同僚議員の質問のときに市民プールの話がありましたよね。市民プールの場合は、しっかりと60年間だったＬＣＣ出していますよね。280億円でしたっけ、280億円かかるよというふうなことをやって、これを建設すると大変だよということ印象としてすごい伝わるんです。ところが、市民プールと比べてもっともっと大きな施設を造ろうとしているのに、今後のランニングコストがどれだけかかるかということが試算できていないって、とても怖いなと思う。更新費も含めてなんだけど、さっき750万円というのは言ったけど、10年後、30年後どれだけお金がかかるかという具体的なシミュレーションがあればもっともっと理解が深まると思っていて、市民プールのときにそうやって試算はしているのに、新総合体育館のときはしないってなってくると、やはりそれダブルスタンダードになってしまいますので、そこはしっかりと出していただきたいなと思うんですけど、そこら辺国との調整、今後どのように続けていくかお答えください。

◎建設部長（下地睦子君）

特定臨時避難施設の維持管理費につきましては、補助金でもって出していただきたいということを国に要望しておりまして、先島圏域であります多良間村、与那国町、石垣市、竹富町においても同様の要望をしているとのことです。今後、先島圏域で連携を取りながら要望をしていきたいと考えております。

◎山下　誠君

市長にお答え願いたいんですけど、市長は直接要請に行っていますよね。反応はいかがですか。ちゃんと出してくれそうな感じですか。

◎市長（嘉数　登君）

要請時において、特にこの件に関して明確な回答というのはございませんでした。今のところはです。ただ、これが、当時は石垣市と宮古島市、先行しているこの２市のほうでそういった話をさせていただきましたけども、今般多良間村でもそうですし、竹富町、与那国町とも同様の特定臨時避難施設を整備するに当たって、もちろん建設費も物すごく高騰しているんですけども、この機能を今後長期にわたって維持

しなければいけないその維持管理費は、もともとどういう目的の施設なのかというところを考えてみますと、やはり国の支援がないとおかしいよねという話になりまして、これ一緒になって要請かけていこうという話になっておりますので、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えています。

◎山下　誠君

その際には維持管理費の中に機材の更新費も含めて全部それは国が持ってくれという主張でいいと思いますので、ぜひともその要望を実現させてください。

それで、市長、今159億円ですか、総工費が、もうどんどん、どんどん膨れ上がって、最初に出した、2019年でしたか、あのときに比べるともう３倍、４倍か、今４倍になっているんだけど、今後の上振れも心配していて、市長の中でこれ以上膨張していくと、どこかでもう止めよう、もう規模を縮小なり、あるいは凍結なり、そういうこともそろそろ頭の中にあるのかなと思っているんですけども、そこら辺どういうお考えですか。

◎建設部長（下地睦子君）

建設費としまして、事業予算ベースで約150億円の予定となっております。現時点では、この事業予算内に収める予定としているところでございますが、物価上昇などやむを得ない事情により上振れした場合の対応としましては、国へ事業費増額を要望していきたいと考えております。また、工事発注後の工事費増に対して、規模縮小による対応は事業執行に多大な影響があることから、現在のところは検討しておりません。

◎山下　誠君

国に要望するのはもちろんだとは思うんだけど、その分手出しも当然出ていくわけで、その分の負担がどんどん上がっていくのがとても心配です。もしあの施設10年、30年と続けていく中で、30年後ってもう私らここにはいないし、後の世代に対してちゃんと責任持つためには、維持管理費も含めてこれだけお金がかかるよということを示しておかなきゃいけないと思いますので、特に建設費だけは何とかすれば抑えられる。だから、キャップをどこで締めるかということやはり考えておったほうがいいのかなと思います。ある程度の予算キャップというのをどの辺で……ないですか、今は、どの辺で止めるというのは、これ以上膨れたらもう考えるという。

◎市長（嘉数　登君）

大変山下誠議員にも市民にも不安を与えているのかなというふうに思いますけれども、今現在我々が取り組んでいるのは、上振れしている予算、整備総額をいかに抑制できるかという観点と、上昇した場合でもちゃんと補助で見ていただけるようにお願いしているところでございます。もちろん要するに読めない部分もありますので、それはどう対応していくかというのは、当然頭の中でシミュレーションしておかなければいけませんし、それは何を財源として検討するかというと、財調ですとか基金、そういったものが仮にどの程度増えたら耐え得るかというところについては、注意深く検討してまいりたいというふうに考えております。

◎山下　誠君

上振れするんではないかなと思っていて、もっともっと、その場合に普通の資材高騰もそうなんだけども、今後中東情勢の影響も、多分タイムラグがあるから、遅れてやってくると思うんです。そうすると、

またまたそれも影響して輸送コストも上がっていくだろうし、多分ではなくてほぼ確実に上振れはすると思います。だから、ある程度もうここまではいけないというところはそろそろ考えておったほうがいいのかなと思っていて、市長もご存じのように全国の自治体で事業の凍結だとか規模縮小というのはどこでも起こっていることで、こんな小さな宮古島市で150億円も投じてやるというのは、大変な巨額なお金ですよね。市民の皆さんの間でも、これはもう200億円いくんではないかという、もう普通にうわさレベルで出てきている事業なんで、この庁舎が110億円ぐらいでしたか、120億円ぐらいでしたか。もうそれも上回っているという状況を考えると、やはり市長のシミュレーション、頭の中でそろそろ始めたほうがいいと思いますので、ぜひとも抑制のためによろしくお願いします。

続けてまいります。飛ばして農地行政について先にお伺いしましょう。農業委員会はいるよね。農地法及び農業振興地域の整備に関する法律についてですけれども、農業委員会会長、これはもう一応裁判にかかってはいますけれども、今後の対応方針含めて、答えられる程度でいいです。裁判に関わることは答えなくていいし、先ほど見て、あんなふうに答えるとよくないと思いますので、裁判に関わることは触れずに、対応方針についてお答えください。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時05分）

再開します。

（再開＝午後４時05分）

◎農業委員会会長（長濱国博君）

今後の対応といたしましては、松原地区における違法な農地転用以外に、他の部署に関係する法律等にも抵触していることから、情報の共有を含め、担当部署と連携を図りながら対応してまいりたいと考えております。

◎山下　誠君

一応、農業委員会会長、念のため確認をさせてください。これ裁判が終わるまでは当然農業委員会として動き出しは難しいと思うんですけど、当初示していた、いわゆる行政代執行、それをやっていく、裁判が終わってしっかりとした形ができれば、行政代執行に手をつけるという理解でよろしいですか。

◎農業委員会会長（長濱国博君）

そのとおりであります。

◎山下　誠君

では、そのとおり進めてください。

あと沖縄県の対応についてもお伺いしたいと思います。農振法整備に係る法律について、これ命令を出して、もう命令期限は過ぎていますよね。状況を教えてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

沖縄県において、今年の２月２日付で農業振興地域の整備に関する法律第15条の３の規定に基づきまして、法人１者に対し、原状復旧の命令書が出されております。命令書におきまして復旧完了時期を５月７日と定めていたことから、５月14日に宮古農林水産振興センターと農政課が共同で現場確認を実施してお

ります。原状復旧されていないことを確認したところです。

◎山下　誠君

それを踏まえて、今後の対応としては沖縄県も含めてどういう対応をされるんですか。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時08分）

再開します。

（再開＝午後４時09分）

◎農林水産部長（下地貴之君）

今後の方針でございます。農業振興地域の整備に関する法律における今後の対応につきましては、沖縄県の農振法違反事案処理要領に基づき適切に対応してまいります。

◎山下　誠君

適切というのは、要領には何と書いているんですか。行政代執行も入っているのか。適切のあれを教えてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

処理要領におきましては、復旧命令に応じない場合、必要に応じて刑事告発や行政代執行の実施が定められております。

◎山下　誠君

農業委員会の場合は、よく分かんないんだけど、告発ではなくて代執行にいっているんだけど、県の場合、刑事告発になるんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

事案にもよると思いますけれども、要領には刑事告発や行政代執行ということになっております。

◎山下　誠君

適切にということなんで、刑事告発、行政代執行を含めて沖縄県とも調整しながら速やかに進めてください。農業委員会のほうもしっかりと進んでいますので、ぜひともよろしくお願いします。

次の質問ですけども、関連して、公共財産の取扱いについて。久松漁港内における公共財産についてでありますけれども、これ前回も質問させていただきましたけれども、資材ヤードをお貸しする代わりに減免措置をしているんだけど、そこでヤギを飼ってルール違反だという、役所の指摘に従わなかったという……従ったのか。従ったかどうか分かんないけど、その結果として減免措置について検討するということだったけど、その後検討してどういう結果になったんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

久松漁港の漁村再開発用地につきましては、これまで事業者がヤードとして目的外使用しておりました。隣接用地の除草を条件に使用料を減免してきたところでございます。３月定例会におきまして、市長からゼロベースで協議を行う旨の答弁がございました。これを踏まえまして、漁村再開発用地の在り方について改めて検討した結果、目的外使用許可条件を厳守することとし、使用料の減免につきましても市の要領

にのっとり、より厳格に適用することといたしました。こうした方針に基づきまして、改めて事業者のほうへ目的外使用料と許可条件を提示し、協議を重ねてきたところです。しかしながら、事業者の代理人から、この条件では借りることはできない旨の意思表示がございました。今後は、速やかに当該用地の原状回復を求めてまいります。

◎山下　誠君

資材は、まだ残ったままということですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

市が提示した条件での除草はできないということで、減免は当然なくなります。ですから、使用許可につきましても取下げがございましたので、今資材を置いているヤードにつきましては速やかに、一応３か月から４か月程度かかるという見込みではございますけれども、原状回復を求めてまいります。

◎山下　誠君

３か月から４か月は猶予期間、その間にどけてと言っているわけですか。いや、私心配だなと思っていて、一応もう申請も取り下げたんだったら速やかに移動するのが妥当ですよね。その速やかが４か月って、それ速やかではない。そんなに量がたくさんあるんですか。向こうの先方と調整した結果、４か月でやりましょうと市も応諾したということ。

◎農林水産部長（下地貴之君）

取下げがあったのが今週でございまして、現在まだ協議中でございますけれども、先方の考えとしてはそういうことでございます。ただ、市として現状も確認しながら、なるべく早期にという考えではございます。

◎山下　誠君

そこは、速やかに調整をしてやってください。これがまただらだらと長引かないように気をつけていただいて、今回の資材ヤードの件は、何も粟国恒広議員がだけが悪いとは私は思っていなくて、いろいろ役所との調整もうまくいっていなかったんだろうなと、十分な話合いもできていなかったんだろうなと思っています。ただ、市役所のルールを守らなかったという点は別です、それは。それは、やはり先方のほうが悪いと思いますので、そこは速やかに、資材は早くどけてもらって、市役所が有効に活用してほしいんだけども、その資材をどけた後の活用はどう考えているんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

まずは、原状回復を求めてまいりますけれども、その後の運用につきましては、使用希望者がいる場合は用途を確認した上で条例に基づいて手続を行ってまいります。

◎山下　誠君

今回の場合は、目的外使用ということでヤードを置いてやって、その代わり除草ということでしたよね。同じように資材ヤードとして使いたいと。その向かい側の施設の草刈りを除草するとやったら、同じような減免措置、今までやってきたとおりの減免措置でやらせるんですか。決めていないかな。

◎農林水産部長（下地貴之君）

現状まだそこまでの調整はしておりませんけれども、まず希望者がいるかどうか、今後実際に使用したいという意向を示している業者もいるんですけれども、公募等も含めまして今後調整してまいります。

◎山下　誠君

ごめんなさい、役所としてそんなことができるかどうか分からないけど、一応公募をやって、もう早く期限を決めて、そしたら先方も早くどけてくれると思うから、公募も急いだほうがいいかなと思います。ただ、資材が残ったまま公募ができるかどうか分かりません。でも、何らかの期限を決めてあげないと、多分動きが鈍ると思いますので、ぜひ公募は早めに進めていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

そのまま続いて２番の民宿キャンプ村について行きます。これも、観光商工スポーツ部長、前回お伺いして、２回公募に、失敗とは言わないね。公募しても来なかったということだけれども、３回目に向けて調整をしていきたいということだったけども、現状はいかがですか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

民宿キャンプ村についてお答えします。

民宿キャンプ村につきましては、地域活性化につなげるべく、地元事業者による効果的な有効活用を目指し、これまで２回にわたり、施設貸付けに係る公募を実施してまいりました。しかしながら、応募いただいた事業所はあったものの、公募要件に照らし合わせると応募要件に合致せず、現時点においては貸付者の選定には至っていない状況にございます。現在、３回目の公募に向けて、より多くの地元事業者に応募していただけるよう、貸付条件の見直し、要件の緩和等の検討を進めているところでございます。

◎山下　誠君

２回目の公募からもう大分たっていると思うけど、緩和の内容、今具体的にどこまで進んでいるか教えてください。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

緩和の内容でございます。条件緩和の具体的な内容につきましては、地元事業者の皆様がより積極的に民宿キャンプ村の活用に手を挙げていただけるよう、貸付価格の見直しを検討しております。現在検討しておりますのは、施設の建物部分を２回目の公募まで有償貸付けをしておりましたが、これを無償で貸付けし、土地部分の賃貸料のみとして事業者の皆様の初期投資や運用の負担を軽減できるよう、貸付価格を低く設定したいと考えております。民宿キャンプ村は、国の補助金を活用して整備された施設であり、まだ耐用年数が残っていることから、財産処分には国の承認が必要となります。施設の募集に当たっては、当初、先ほども申しましたが、貸付け部分を有償で貸し付けて運用することで国からの承認を得ておりましたので、その有償貸付けを無償貸付けに変更するため、再度国の承認を得る必要がございます。現在無償貸付条件の承認を得るため、国、県と協議を進めている段階でございます。承認が得られ次第、必要な手続を行い、公募してまいります。

◎山下　誠君

観光商工スポーツ部長、確認ですが、前回２回目の公募のときに、うろ覚えだけど319万円とか320万円とかというお金があったと思うんだけど、これは貸付料でしたか、それとも土地代含む使用料としての設定でしたっけ。教えてください。どっちでしたっけ。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時20分）

再開します。

（再開＝午後４時20分）

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

山下誠議員ご承知のとおり、１回目の貸付けが560万円余りございました。２回目の貸付けが370万円余りでございまして、その中には土地代も140万円余り入っております。

◎山下　誠君

それで調整を進めているということで、いつ頃をめどに３回目の公募に手をつけられますか。大体時期的なものって出てきていますか。お願いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

いつ頃公募をするかということです。本年３月24日に先ほど答弁しました県への財産処分の承認の内容変更通知を行っておりますので、承認変更の協議を進めております。公募のめどにつきましては、現時点では具体的なめどをお示しできない状況です、県と調整しておりますので。本市としましても、キャンプ村の利活用が強く望まれていることを深く認識しておりますので、国との調整が進み、財産処分の承認が得られ次第、公募手続を開始するよう準備を着実に進めてまいります。

◎山下　誠君

施設を使わない期間が長引けば長引くほど老朽化も進むと思うので、急いでこれは対応してください。よろしくお願いします。

農林水産業の振興についてお伺いします。農林水産部長、園芸施設設置・修繕補助事業なんですけど、間違っていたら指摘してください。当初予算でもともと4,600万円あったものが、これが2,600万円減ですか、2,000万円。肥料購入補助については、同額だったんだけども、園芸施設設置事業、これが2,000万円以上減額したことの影響って出ていますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

結論からいきますと影響は出ておりません。この事業は、令和６年度から既存ハウスの修繕を含めて、使用年数の延伸を図ることで施設の有効活用、生産農家の経営コストの削減を図るため、修繕事業を重点的に実施する方針としております。また、新規設置につきましても、今年度から新規就農者やこれまで事業を申請したことがない新規申込者を優先して交付決定する方針としております。

◎山下　誠君

影響はないとおっしゃるんだけど、私のとこには何件かその話が来ていて、何でこれ減らしたのという話なんだけど、予算って通常、前年度の実績ベースで組んでいきますよね、当然。2,600万円の減額というのは結構でかくて、新設の園芸施設を設置する際に、今年度の令和８年度の設置見込みはどれぐらい考えているんですか。前年度何件だったか分かんないけど、それと比較してみたいんです。今年度は何件ぐらい予定しているんですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

今年度の予算額は2,000万円、そのうち新設が500万円、これ上限が100万円ですので、５件です。残り1,500万円は修繕となっております。これは、上限が50万円となっております。

◎山下　誠君

前年度が５件ぐらいしかなかったから、今年度はもう予算を減らして、そう対応したという理解でいいですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

前年度は、新規の分が結構あったということで、修繕をすることで長く使っていただこうという考えで方針として決めておりましたので、今回は新規が減って修繕のほうに重点を置いたということでございます。総額としては減っておりますけれども、そういう方針であります。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時26分）

再開します。

（再開＝午後４時27分）

◎農林水産部長（下地貴之君）

方針につきましては、修繕メインということで、それはそのとおりでございます。修繕分につきましては、1,500万円計上しておりますが、予算額に結構余裕がございます。そのため、６月末から追加募集予定ではございますけれども、締切り後、交付予定額の確認を行いまして、残りの残の見込みがあれば新規分に充当したいと考えております。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時28分）

再開します。

（再開＝午後４時29分）

◎農林水産部長（下地貴之君）

失礼しました。令和７年の実績が、まず修繕からいきます。申請数が39件、面積として7.6ヘクタール、それから新設設置申請数が28件ございました。面積として1.8ヘクタールとなっております。

◎山下　誠君

今言っている新設は、新しく設置するという意味での新設と言ってますけど、28件あったのに今回５件というのはどうかなと思います。何人かからこの話は聞いていて、ただ皆さんの説明を聞いていると、修繕とか更新にお金を充てたいからという言葉も聞いていて、その声も確かに多いのは多いんです。ただ、新設を求める人もやはりいて、特に若い人ってそうですよね、お金ない人は。やはりそういう意味では、新設の部分もしっかり手当てしてあげないといけないと思うんだけども、結果として28件もの申請があったのに今回５件だけというのは、それはあまりにも減らし過ぎではないかなと思いますが、お考えをお聞かせください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

山下誠議員のところにそういう声が届いているということでございます。農政課としても確かに減らし過ぎという話もあるのは承知しております。ただ、先ほども答弁しましたように、現在の施設の使用年数を延伸していただきたいということで、修繕に重点を置いていきたいという考えで今回の予算措置となっております。これにつきましてはご理解いただきたいと思います。

◎山下　誠君

もう少し納得をさせていただきたいんだけど、やはり今の農林水産部長の答弁では納得がいかなくて、そういう声があるにもかかわらず減らした。減らさないで現状のままだったら私は構わなかったと思うんだけども、やはり2,600万円という数字が大き過ぎて、多分これがみんな気になっていると思います。だから、多分申請をしに行ったんだけど、今年は令和８年度５件だから、もう受け付けられませんと断られたのかどうか分からないけど、とにかくそこをどうして減らしたんですかと。今宮古島市もそうだし、沖縄県も、これは全国どこでもそうだけど、新規就農者だとか担い手だとかを今一生懸命育てようとしているではないですか。生産者が高齢化していく中で若い人がどうしても必要なのに、それ設置しようとするときにお金がないようでは、やはりそれはかわいそうだなと思います。一応更新する人たちも、ずっと宮古島市をしょって園芸施設をやってきたから、それはそれでそこも充当は大事だと思うんですけども、新しくやりたいという人に対してそこを減らすというのはどうかなと思いますが、これも農林水産部長では難しいかな。もうこの辺、市長、どうですか。

◎市長（嘉数　登君）

せっかく農業をやろうという新規就農意向の人がいるということでございますので、そういった声にもしっかりと応えていきたいというふうに思っておりますし、そもそもはハウスの設置状況というものがしっかりと把握できていません、正直申し上げて、宮古島市はどこに何棟あるのか、耐用年数に対してどのぐらいたっているのかと。まずは、その資源の負荷量というんですか、何がどこにどれだけあって、次年度はどれぐらい出てきそうだというところもしっかりと調査しながら、年次計画的に市の単独事業で新規ですとか修繕やる部分もありますし、県の事業でやる部分もありますので、役割分担しながら、うまく修繕ですとか新規、特に新規就農についてはそういった意向が生かせるような計画を立てて取り組んでいきたいというふうに思っております。

◎山下　誠君

今の市長の答弁を聞いていると、もしかしたら昔造った施設があって、それが使われていないかもしれない。もし修繕とか更新をすれば若い人もそこ使えるよねという意味での、そういうことですか、調査という意味ですか。

（「マッチングも含め」の声あり）

◎山下　誠君

そういうこと。だとすれば、早く調査をしていただいて、調査してから予算減らしてもよかったかなと思う、今ではなくて。大変お困りの声をいっぱい聞いているから、やはりここは申請状況もこの後も加味しながら、補正での対応も含めてぜひともご検討願いたいなと思います……補正するの。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時34分）

再開します。

（再開＝午後４時34分）

◎農林水産部長（下地貴之君）

先ほど市長からもございましたけれども、島内には遊休化したハウスが各地にあります。この既存施設を有効活用するために、農業委員会とも連携しながら解消に向けて取り組んでまいりますけれども、どういった方法があるかというのは部内でも調整していきたいと考えております。具体的に調査が必要であれば、もし予算が必要であれば補正予算の計上も含めて、どういった調査項目があるのかも含めて、検討してまいります。

◎山下　誠君

その調査をするというのは、非常に大事だなと思います。どれだけ空いているのか、遊休化している施設がどれだけあるのかって調べるのはとっても大事だなと思います。使えるものは使えばいいと思うし。ただ、農林水産部長、私が言ったのは、補正の件は調査の費用ではなくて、新設部分の補正予算も考えられないかという質問です、今後。多分申請件数は５件では済んでいないですよね。申請というか、申請したい人、５件で止めているなら。だから、そういった方々、申請状況見ながら、補正増も含めて検討はできませんかという意味です。

◎副市長（砂川　朗君）

新設、設置の部分ですけども、今後も申請状況、また現状も踏まえて、ニーズを踏まえながら検討してまいりたいというふうに考えております。

◎山下　誠君

ニーズは絶対にあると思うから、ぜひともご検討ください。かなり強い口調で怒っていらっしゃる方もいて、やはり減額が響いているなと思います。多分計画していたんでしょう、今年はこれだけつくろうみたいな。それ申請しようと思っていたけど、それがもう通らなかったみたいな話をしていて、やはりすごい怒り方なんです。だから、ここは十分にご検討いただいて、年度内に一度対応していただけないかなと思います。

次に、もう時間があんまりないけど、国民保護計画についてお伺いします。国民保護計画、避難計画には賛否いろいろあって、考え方も様々だとは思います。ただ、宮古島市は地下に潜るところがないから、外に行くというのはもう仕方がないかなという考え方もあるんですけど、何万人がそこに避難するのか分からないけど、戻ってきた後のことをとても心配しています。その議論があまり聞こえないので、１か月も２か月ももしも避難することになれば、多分宮古島市の経済はもう完全にストップして、立て直しに数年かかると思うんです。そこらあたり国としてはどういうふうな説明をされているのか、もしそういう考えが説明されているならお答えください。

◎総務部長（上地俊暢君）

国民保護における帰還後の住民の生活についてでございます。令和４年度から、国、沖縄県、先島５市町村、それから指定公共施設、航空会社等と共同で広域避難についての検討を今重ねているところでございます。また、九州、山口、各県においては、令和６年度に受入れ初期の検討を行い、令和７年度からは

避難が中長期になった場合の検討を行っております。一連の検討の中におきましては、避難後、帰還後の検討について、まだこれまで行われていないところでございます。一方で、昨年度、本市において行いましたオープンハウス型の住民説明会においては、市民の不安が避難のときの生活や戻ってからの生活を不安に思っているというところが多くありました。国としては、復興の検討と併せて、補償についても個別具体的な判断が必要なことから、武力攻撃事態が終了した後の復興生活の在り方の一環として検討すべきであると回答しておりますが、市民の不安は大きいことから、市としましても避難後の生活、それから帰還後の生活、それから補償については国に対して丁寧な説明が必要だということで、国、県に要望として伝えているところでございます。

◎山下　誠君

それは、ちゃんと交渉してください。やはり帰還後が一番心配だと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、陸上競技場の件お伺いさせてください。宮古島市議会スポーツ振興議員連盟副会長も務めていますので、この件は質問させてください。宮古島市陸上競技場なんですけども、利用状況は飛ばします。照明設備についてお伺いしたいんですが、あそこでやっている陸上クラブ、あれクラブなのかな、陸上クラブの方々から、どうしても冬場暗くて練習が危険だということで、照明の明るさが、よく分からないんだけど、もう少し時間を延ばしてほしい、もう少し明るくしてほしいという要望があったんだけども、市役所にはそういう話は届いていないですか。もし届いていないんなら調査をお願いしたいんですけど、いかがですか。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

宮古島市陸上競技場内の夜間照明につきましては、現在メインスタンドにある６灯のＬＥＤ照明を点灯して利用していただいております。夜間の照明の利用状況につきまして、指定管理者の市スポーツ協会に聞き取りしたところ、一部の競技者、利用者から暗いという指摘あるようですが、おおむね問題なく利用していただいているとの報告を受けております。担当課でも確認を行いまして、利用者に支障があるようであれば、今後照明の角度も調整するなど、適切に対応してまいります。

◎山下　誠君

今定例会においては、財政のことで結構言いましたけども……教育部長、何か答弁もらいましたか。準備できた。答弁もらえた。準備できた、回答するやつ。調べておいてねと言ったけど。

（何事か声あり）

◎山下　誠君

まだ。まだなら、次回。

（何事か声あり）

◎山下　誠君

時間止めて。休憩、休憩。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時41分）

再開します。

（再開＝午後４時42分）

◎山下　誠君

教育部の非常用発電機ですか、それのお金の使い方も含めて、私は絶対コストカットできたと思っている。教育委員会でも調べてほしいんだけど、何かせっかく結の橋学園の前例があったのに、そこに行けなかったということも含めて、そこは反省してほしいなと思います。

あとハウスの件は、市長、ぜひともこれは補正増をご検討いただきたいなと思っています。財政抑制しなさいと言いながら、農林水産業にはお金出しなさいと言うのも矛盾もありますけれども、でも必要なところにはしっかりと手当てをしていただいて、宮古島市発展に尽くしていただきたいなと思います。

それでは、一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで山下誠君の質問は終了しました。

（粟国恒広君、着席）

◎議長（平良和彦君）

本日の会議時間は、議事の都合によりこれを延長します。

◎國仲昌二君

市民フォーラムまてぃだ、國仲昌二です。まず、宮古方言、ミャークフツでご挨拶いたします。ンーナ　ゾーカリ　ウラーンマ、皆さんご機嫌いかがですか。今日は、もう６人目となります。ブガリーブガリ　ウズパズヤースガ、大変お疲れだとは思いますが、私の質問にもお付き合いよろしくお願いいたします。

それでは、質問に入ります。順番を変えまして、最後の11、情報公開についてから先に伺いたいと思います。よろしいでしょうか。何名かの議員が質問していますけれども、警察署が市のパソコンを押収したという報道がありましたので、警察署からの依頼文書について開示請求をしましたが、行政文書存否応答拒否通知書によって開示請求を拒否されました。そこで伺いますけれども、行政文書の存否を明らかにすることを拒否することができるというのはどのような場合が考えられるのか、具体的に理由を伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

行政文書存否応答拒否通知についてでございます。宮古島市では、情報公開に関する基本方針として、地方自治の本旨にのっとり、市民の知る権利を最大限尊重し、法令に抵触しない限り、可能な限り情報の公開に努めることを基本としております。ご質問の行政文書存否応答拒否につきましては、本市の情報公開条例第10条に基づき、行政文書の存否応答を拒否することができる手続となっております。具体的に考えられる例としましては、特定個人の病歴に関する情報、特定個人の懲戒処分に関する情報、特定法人の行政指導に関する情報、犯罪の内偵捜査に関する情報、特定分野の試験問題に関する情報などについては、存否応答拒否の判断を行うこととなります。

◎國仲昌二君

行政文書存否応答拒否通知書に開示、不開示マニュアルが資料として添付されて、今回拒否できる事例は犯罪の内偵捜査に関する情報ということです。市としては、今回の事案が犯罪の内偵捜査に関する情報

と認識しているのかなということでよろしいでしょうか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時47分）

再開します。

（再開＝午後４時48分）

◎総務部長（上地俊暢君）

一般的なことを申し上げますと、捜査機関の対応に関する事項については、事実確認等が明らかでない状況ではこの場でお答えすることが困難であることをご理解いただきたいと思います。

◎國仲昌二君

この件に関しては、何名かの議員も質問して、市民も非常に心配しておりますので、今後とも注視していきたいというふうに思っております。

次は、戻りまして３です。みなと緑地ＰＰＰについて伺います。議会の議決が必要かどうかについては、３月定例会でいろいろ議論となりましたが、その件について少し確認したいので、質問いたします。この件について、国のガイドラインが変わり、議会議決が不要になったというような報道がありました。そこで伺いますけれども、ガイドラインはいつ変更されたのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

ガイドラインがいつ変更されたのかということですけれども、ガイドラインは令和８年２月に確定版となっております。それ以前は、令和７年３月時点ではガイドラインは案となっており、それには議会議決が必要との記載がございました。確定版では、その記載は削除されております。

◎國仲昌二君

そうですよね。ガイドラインは、令和８年２月ということです。皆さんのガイドラインの変更により議会答弁が変わった、要するに議会の議決は不要になったというコメントは、これ訂正しますか。どうしますか。

◎建設部長（下地睦子君）

市としましては、ガイドライン案に基づき作業を進めてきたところ、令和７年３月に答弁した時点でのガイドライン案には議会議決が必要となっておりました。その後、制度運用が開始され、国のほうでも地方自治法と港湾法を整理した結果、議会議決が不要となったことから、それに沿って作業を進めているということを説明させていただいたところです。３月26日に議員の皆様方にご説明を申し上げたとおりですが、本制度を活用した場合でも行政財産を無償で貸し付けることがあった場合には議会議決が必要となることから、募集要項作成の段階では議会議決の必要性を完全に排除することができない制度であり、決して当初から議会議決必要と、それを運用して誤認をして運用したということではないという説明をさせていただいたところです。

◎國仲昌二君

そうですよね。皆さんが言っているガイドラインの変更というのは、ガイドライン案にあったものが、この案がなくなった時点では変わっているということで、ガイドラインが変わったということではないで

すよね。そこをもう一度お願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

おっしゃるとおりガイドラインが変わったわけではなくて､ガイドライン案と当初はなっていたところ、確定版が令和８年２月に出た時点ではガイドラインとなっていたというところでございます。

◎國仲昌二君

皆さんが今回議会の議決が不要になったのは、ガイドラインが変わった、要するに国の方針が変わったかのように説明しているので、これおかしいんではないかなということで調べたんです。国土交通省港湾局産業港湾課にも確認しました。議会の議決が必要と表の中にあったのは案の時点で、議会の議決については各自治体の条例等があって、誤解を招くということで省いたと。制度が変更したとか、ガイドラインが変更したということではないというふうに言っていました。それから、私、説明するときにやはりしっかり、あの時点では案でしたと、ガイドラインを変更したんではなくて、案の時点であったので、それを議会の議決が必要と思っていたんだけどというような、しっかりした説明をしていただきたいなと思うんです。議会への説明会でも多分ガイドラインの変更で議決が不要になったというような説明だったかと思います。新聞にも皆さんのガイドラインの変更により答弁内容が変わった、議会の議決が不要になったというコメントがありますけれども、これは訂正しますか。

◎建設部長（下地睦子君）

令和８年３月26日の説明会で説明した内容としましても、市としましてはガイドライン案に基づき作業を進めてきたところと説明をさせていただいたところです。

◎國仲昌二君

では、この件はガイドラインが変わったんではなくて、ガイドライン案の時点ではそうだったということですね。

では、次行きましょう。②です。令和７年３月時点では、議会の議決は必要だったという根拠についてですけれども、３月定例会においての答弁で、先行事例の神戸市、大阪市、新潟県については、議会の議決を得ることなく契約締結に至ったということを答弁していますけども、神戸市と大阪市の認定はいつだったかというのは分かりますか。

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後４時55分）

再開します。

（再開＝午後４時56分）

◎國仲昌二君

私が調べてありますから。この制度の第１号認定、神戸市なんです。神戸市が令和６年２月８日、第２号認定は大阪市です。大阪市の認定は、令和６年３月５日。令和６年２月８日、令和６年３月５日時点で神戸市、大阪市ともに議会の議決を得ることなく認定しているんです。それがなぜ令和７年３月時点では議会の議決が必要だったという説明になるのか、その辺お願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

ご質問ですけれども、令和７年３月時点のガイドライン案には議会の議決が必要となっていたことにつきましては、これは国土交通省のほうから港湾課のほうにそのガイドライン案の内容で資料が事前に送られてきていた。令和６年度から事業を進めておりまして、既にガイドライン案が港湾課のほうに送付されてきておりました。それに基づいてのその答弁でございました。

◎國仲昌二君

この答弁というのは、令和７年３月時点では議会の議決が必要だったという答弁ということですか。いや、ガイドライン案ができたのは令和７年３月ですけど、それあくまでも案の段階ですよね、ガイドラインができたわけではなくて。その案ができる前に実際に神戸市も大阪市も議会の議決を得ることなく認定しているんです。だから、皆さんが言う令和７年３月時点では議会の議決が必要だったというのは違うんではないですかというのが私の考えですけど、いかがですか。

◎建設部長（下地睦子君）

港湾課のほうに送られてきていた資料によると、その時点ではガイドライン案で、そのガイドライン案の中では議会議決は必要となっていたということで、市としては議会議決が必要という説明をしております。

◎國仲昌二君

角度を変えるんですけど、みなと緑地ＰＰＰというのは、港湾法が改正された令和４年12月から施行されているんです。その２か月後あたりからこういった国土交通省の説明資料というのが出ていまして、その中で制度の手続のイメージということでフローチャートがあるんです、フローチャートが。このフローチャートの中に議会の議決というのは出てこないんです。その後の説明資料見ても、そのフローチャートに議会の議決というのは出てこないんです。ですけど、令和６年３月に市が公表した募集要項のフローチャートには議会の議決というのが出てくるんです。皆さんが言っている、ガイドラインの案というので議会の議決というのが表に入ったのは令和７年３月の話ですから、その前から宮古島市は議会の議決が必要というふうに判断しているんですけど、これは何を根拠に、要するにその時点ではもう神戸市も大阪市も議会の議決を得ることなく認定をしているんです。私が国土交通省の資料探しても議会の議決が必要というようなフローチャートが出てこないので、この募集要項で議会の議決が必要というふうに判断したのはどういうことなのかなということを伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

国土交通省からみなと緑地ＰＰＰガイドライン案として送られてきた表の中に議会の議決、これはみなと緑地ＰＰＰに関しては必要という明記がされておりますので、それに沿って市としては必要という内容で公募したということになります。

◎國仲昌二君

公募したのは令和６年３月ですね。ガイドライン案が来たのは令和７年３月ですよね。だから、このガイドライン案に基づいてというのは合わないと思うんですけど、もう一度お願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほど来申し上げておりますが、案が示されたみなと緑地ＰＰＰガイドラインの案の日付としては令和７年３月31日となっております。ただし、既に宮古島市としましては令和６年から事業を開始しておりま

して、その際、国土交通省から送られてきた資料によりますと、それは令和７年３月31日以前ですけれども、既にこの内容にはガイドライン案が示されておりまして、その中に示された内容が議会議決が必要となっていたということになっております。

◎國仲昌二君

ということは、皆さんとしては、先進地というんですか、先例地というんですか、先行事例ですか。神戸市とか大阪市については特に調べなかったということでよろしいですか。

◎建設部長（下地睦子君）

令和６年事業開始時期は、国のほうと、国土交通省とのやり取りで主に事業を進めておりました。その後、令和７年度以降に先行自治体の事例を調査研究してきたというところです。

◎國仲昌二君

次に行きます。次、長期貸付けについて伺います。①の貸付価格は適正かについてですけれども、皆さんの顧問弁護士の見解については資料いただきまして、その中で適正な価格での貸付けであれば議会の議決は不要であり、適正な対価とは当該財産の有する市場価格をいうということです。市の募集要項で見ると、最低額以上の金額を提案することになっていて、最低額というのが収益施設の設置に係る借地料は年間１平方メートル当たり365円、つまり１日１円です。これは適正な価格なのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

今回長期貸付けを行う用地は、港湾施設として港湾課で管理しております行政財産でございます。そのため、宮古島市港湾施設管理条例の中で定めております緑地部分の単価で貸付単価を設定しております。それが平方メートル１円、１日当たりと定められているところが根拠となっております。

◎國仲昌二君

今、港湾課の使用料ですか、これはたしかひらりん公園あたりかな、港湾施設の緑地を、例えばサッカーとかそういったスポーツ関係で使用するときの単価が１日１円というふうな設定だと思うんですけど、私が聞いているのはこの事業の貸付けとして１平方メートル当たり１日１円というのが適正かどうかということを確認しています。

◎建設部長（下地睦子君）

今回導入するみなと緑地ＰＰＰの事業につきましては、令和４年の港湾改正法による港湾法第51条の規定により、港湾の環境の整備に関する事業を実施する民間事業者に対し、港湾管理者が行政財産である緑地等の貸付けを行うことができる制度として創設されております。それに基づくとの考えから、港湾施設管理条例に示される単価を設定しております。市としましては、民間事業者から貸付料金が収入となることに加え、これまで市で実施しておりました除草作業や清掃、巡回といった維持管理の作業について、費用を含め事業者が担うことにより、市の負担が軽減されることも考慮しております。

◎國仲昌二君

いろいろ考慮しているということですけれども、例えば先行事例である神戸市は不動産鑑定による評価額だということです。宮古島市の場合、顧問弁護士の見解である適正な価格、当該財産の有する市場価格というものについてはどのように確認したのでしょうか。伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

今回長期貸付けを行う施設は、港湾施設として港湾課で管理している行政財産ですので、港湾施設管理条例の中で定めている単価を採用したということでございます。國仲昌二議員がおっしゃる内容としては、不動産鑑定評価等を入れて確認するべきであったかということかと考えますが、それについては今回不動産鑑定は入れておりません。

◎國仲昌二君

ということは、顧問弁護士の見解である適正な価格と対価とは、当該財産の有する市場価格ということについては、市は港湾施設の使用料ということで、それが適正価格だと判断したということでよろしいですか。

◎建設部長（下地睦子君）

今回行政財産の条例に基づく価格で適正と考えて事業を実施したということでございます。

◎國仲昌二君

では、②行きます。事業者が撤退した場合の対応についてということです。この事業は、30年という長期間の貸付けなので、事業の途中で事業者が撤退する場合もあるかもしれないというふうに考えますけども、そうした場合に市はどういうふうに対応するのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

事業用の定期借地権設定契約により、期間内の解約については賃借人から一方的に解約することはできません。合意解約の場合は、明渡しの１年前までに賃借人から賃貸人に対して書面により報告し、明渡し日までに原状回復するということになっております。

◎國仲昌二君

解約という話が出てきたんですけども、例えば事業を行っている事業者が、自分たちこの事業を継続できそうもないので、この事業者に承継したいみたいな手続というんですか、そういったのは可能なんですか。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時11分）

再開します。

（再開＝午後５時12分）

◎建設部長（下地睦子君）

事業借地契約の中で維持管理、運営の引継ぎ等の条項がございまして、この中で借地権の残存期間満了内に維持管理、運営を引き継ぐ者が選定された場合、後継事業者が緑地等の維持管理、運営を適切に実施できるよう、合理的な範囲での業務の引継ぎを行わなければならないとなっておりますので、これに市のほうで確認が取れました場合には事業承継は可能となります……市が合意した場合です。失礼しました。

◎國仲昌二君

いやいや、維持管理の事業承継ではなくて、いろんな商業施設とかそういったのもつくって運営しているわけですよね、その事業者。その事業についても事業者が継続できないので、別の事業者に承継します

といったときに承継することが可能なのかということです、私が言っているのは、清掃とかそういったものの維持管理の話ではなくて。そこもう一度お願いします。

◎建設部長（下地睦子君）

事業承継に関しましては、無断譲渡などは禁止されております。ただし、市の承諾を得た限りはこの限りでないと定められております。

◎國仲昌二君

市の承諾があれば、別の事業者に事業を承継することもできるということなんですけど、例えばこういう承継しますとなった場合に、その事業の承継が正当かどうかということについて、例えば議会だったら、議会が関与するということはもちろん市民が関与するということですけども、そういった関与することは想定していますか。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時15分）

再開します。

（再開＝午後５時16分）

◎建設部長（下地睦子君）

事業の承継に関しまして、今回と同じように議会の議決を得ないものですので、議会の議決を得るなどのことはないと考えますが、当然事業が大きいものになりますので、議会への説明は必要と考えております。

◎國仲昌二君

撤退する事業者が別の事業者に事業承継することは、市の承諾があれば可能というんですけど、それが議会の目も届かない､それから市民の目も届かないところでされていくというのは非常に不安を覚えます。ここら辺は、もう少しきちっとした対応というんですか、それは必要ではないかなと思うんですけども。

では、次行きます。③です。貸し付けた市有地への市民の出入りについてですが、自由に出入りできるのか、何らかの制限を受けるのか伺います。

◎建設部長（下地睦子君）

事業者により建設、管理される施設につきましては、営業時間等の関係により出入りは制限されるようになると思いますが、その他については市民が出入りすることを制限するといったことはございません。

◎國仲昌二君

市のホームページによると、ひらりん公園の全体面積約１万3,632平方メートルですか。その中で緑地面積というのが422平方メートル、僅か３％ですけど、この緑地以外は商業施設になるということですか。自由に出入りできるのは、この緑地だけということなんですか。そこら辺お聞かせください。

◎建設部長（下地睦子君）

事業者により、先ほども申し上げましたが、建設、管理される施設に関しましては、有料施設などに関しましては、営業時間などもございますので、それにより出入りは制限されることはあると考えます。そ

れ以外の施設に関しては、特に制限されるということはございません。

◎國仲昌二君

事業者が管理する、これ有料施設という言い方を今したんですけども、私が聞いているのは有料施設というのは緑地以外の施設を指しているんですかという。要するにひらりん公園があって、その３％しか緑地面積というのはないんです。だから、市民が自由にできるのはひらりん公園の敷地の中で僅か３％分しかないんですかという、それともそれ以外のものは全部有料施設となるんですかというところです。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時19分）

再開します。

（再開＝午後５時21分）

◎建設部長（下地睦子君）

詳細の資料持ち合わせておりませんので、資料を確認して答弁させていただきたいと思います。

◎國仲昌二君

私が心配しているのは、今市民が自由に使える施設がもしかしたらもう３％しか自由に出入りできないんではないかという不安があるので質問したんです。後で説明お願いします。

では、次行きます。次は、４、行政財産について伺います。長期貸付けについてということで、みなと緑地ＰＰＰ、今質問した以外にあるかということですけれども、議事録を調べていたら平成29年６月定例会と９月定例会で、イムギャーマリンガーデン駐車場を民間会社が建設する、プールの用地に占用許可を出したという一般質問のやり取りがありますけれども、これについて、平成29年に占用許可を出したというあれですけど、確認しますけれども、この占用許可は今でも継続していますよね。

◎農林水産部長（下地貴之君）

イムギャーマリンガーデンにつきましては、隣接用地でありますホテルがございます。そこの野外プールが設置されている面積と貯水槽、それから避雷針が設置されている場所がございます。その面積につきまして、平成29年から当初は３年間、現在は５年ごとに更新の手続を行っております。

◎國仲昌二君

それで、平成29年６月定例会で、こういった行政財産を貸付けするのは法的に問題ないかというような質問があったんですけども、地方自治法においても、行政財産管理規則においても問題ないというような答弁がされています。これ現時点でも問題はないと考えているんでしょうか。伺います。

◎農林水産部長（下地貴之君）

平成29年の答弁と同じく、地方自治法第238条の４第７項におきまして、行政財産はその用途または目的を妨げない限度においてその使用を許可することができると規定されております。現在もその認識でございます。

◎國仲昌二君

それでは、宮古島市議会の議決に付すべき公の施設の利用及び廃止に関する条例についてはどうですか。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時24分）

再開します。

（再開＝午後５時25分）

◎國仲昌二君

いやいや、議会の議決に付すべき公の施設の利用及び廃止に関する条例の第２条において、次に掲げる公の施設について、５年を超える期間にわたり独占的な利用をさせる場合は議会の議決を得るというふうに規定されているんです。公園もその対象になっているんです。イムギャーマリンガーデンは公園ですよね。

◎農林水産部長（下地貴之君）

更新期間は、５年ごとでございますので、５年を超えておりませんので、適法だと、条例に基づいてと考えております。

◎國仲昌二君

これ何のための条例なんですか。独占的な利用を、５年を超える期間にわたる場合は、議会の議決を得る。もう10年ぐらいたっています。これ今の答弁だったら、利用許可３年、利用許可４年とあれば永遠に貸し付けることができるではないですか。もう10年ぐらいになっているんではないですか。しかも、独占的な利用をさせています、プール用地として。こんな利用許可の期間が５年だから議会の議決が必要ないといったら、これ何のための条例なんですかということになります。もう一度お願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

平成29年当時の友利自治会との覚書も確認した上で、一般市民が利用できることなど11項目の確約書を交わしております。そのため、ホテル自体が確かに使ってはおりますけれども、一般市民も利用できるということで、今回は、今回というか、当初は３年間、現在は５年ごとに更新を行っているという状況でございます。

◎國仲昌二君

いや、友利自治会がどうのこうのではなくて、宮古島市の条例で公園を５年を超えて独占的に利用させる場合は議会の議決を得ることが必要ですよと条例で定められているんです。友利自治会との覚書がどうのこうのとか、そういったことではなく、市民が利用できるどうのこうのではなくて、条例で議会の議決を得るように定められているんですけども、それについてはどうですかということです。もう一度お願いします。

（「休憩」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時28分）

再開します。

（再開＝午後５時28分）

◎國仲昌二君

時間を取りそうなので、ぜひ後で市としての見解を教えていただきたいというふうに思って、次に進みたいと思います。

次は、５、３Ｄプリンター住宅、１の旧平良児童センターについて、①、当初予算の積算について。アは、詳細な調査についてということですけども、これについては今定例会で、本敷地に樹木が密生し、現地の正確な測量や地盤状況の詳細な把握が物理的に厳しい状況であったため、既存の資料と目視による概算で積算を行ったと答弁していますので、割愛して、次の予算の積算はどのように行ったかに行きます。

まず、既存の資料と目視による概算で積算を行ったということですけれども、既存の資料とは何でしょうか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

既存の資料とは公図でございます。

（「公図」の声あり）

◎企画政策部長（石川博幸君）

公の。

◎國仲昌二君

目視による概算とは何ですか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

職員が現場に赴いて、目視によって現場を確認することでございます。

◎國仲昌二君

その公図と、それから職員の目視で積算を行うことができたんですか。

（「休憩をお願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時31分）

再開します。

（再開＝午後５時31分）

◎企画政策部長（石川博幸君）

事業の予算計上段階では、既存の公的資料、目視調査から得られる情報を総合して、その時点での事業規模と概算費用をもって概算費用を算定いたしました。

◎國仲昌二君

既存の資料で、それで目視で職員が概算して、それで予算計上するんですか。財政課の査定にはそれで説明できるんですか。もう一度伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

概算で算定したんですけども、これは事業の方向性を定めて予算要求を行うための初期段階の積算として算定しております。

◎國仲昌二君

事業の初期段階と言うんですけど、そんな職員による目視で予算要求したり、あるいは予算案に組み込んだりするんですか。もう一度伺います。

（「休憩をお願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時34分）

再開します。

（再開＝午後５時34分）

◎企画政策部長（石川博幸君）

土地造成費用ですので、面積と単価によって算定を、概算いたしております。

◎國仲昌二君

それで、概算して予算を計上したと。ところが、３月に伐採や雑木の撤去を行い、詳細な現地確認をしたということですけれども、この伐採したというのは敷地全体を伐採したんですか、それとも一部だけ伐採したんですか。現場を見ると一部だけかなと思うんですけど。

◎企画政策部長（石川博幸君）

敷地全体を伐採しております。

◎國仲昌二君

伐採したのは３月ですよね。ということは、令和７年度の予算で伐採することができたと。予算はあったんですよね。そんな予算もあるのに、公図とか、あるいは職員の目視とか、そういったもので予算計上したんですか。予算を計上する前に、予算要求する前に、しっかり伐採とか撤去を行って詳細な現地確認をしたらよかったんではないですか。伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

伐採については、企画政策部ではなく、その当時、財政課のほうで行っておりますけれども、本来國仲昌二議員のおっしゃるとおり、事前に伐採して詳細な情報をつかんで予算を計上すべき、それがプロセスだったかなとは思っております。

◎國仲昌二君

皆さんの説明を聞いて、例えば目視であるとか、あるいは既存の資料であるとかを基にして予算要求して、その予算案を議会に提案したという説明ですから、私はその程度の積算で議会に提案しているのかということで、それだと信用できなくなるよという思いがあってこの質問をしています。もちろんそういうことはないと思うんですけども、予算計上する場合はしっかりとした根拠を持っているとは思うんですけど、これに関しては説明が腑に落ちなかったので質問しました。

次行きます。次、２、上野トロピカルフルーツパークについて。３Ｄプリンター住宅建設場所を上野トロピカルフルーツパークに選定した理由について伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の必要性については、少子化等が急激に進んでいるということと、エッセンシャルワーカーの方

々の島外からの派遣に頼らない現状があるという、こういうことが背景にあったということ、これまでの答弁で申し上げてまいりました。本事業は、令和９年４月の入居開始を予定しておりましたので、当初予定しておりました旧平良児童センターで建物の解体業務や土地造成を進めた場合、入居開始が令和10年度にずれ込むことが避けられない状況となりました。本市が抱える喫緊の課題解決のためにも、可能な限り迅速な対応が求められていると認識していたことから、早期入居の実現を最優先とし、市有地で早期着工が可能であり、土地造成が容易なことなどの諸課題がクリアできるとともに、周辺の生活環境なども総合的に勘案した結果、上野トロピカルフルーツパークの一部の敷地において調整を進めているところでございます。

◎國仲昌二君

上野トロピカルフルーツパークは、宮古島市上野トロピカルフルーツパーク設置及び管理に関する条例の第１条で、宮古島市の産業及び観光の振興を図り、並びに市民の憩いの場を提供するための施設だと定められています。また、第３条で、施設は農産物加工施設、多目的広場、展望台、駐車場、トイレ、遊歩道、格納庫、堆肥舎、マンゴーハウス及び育苗施設となっています。そこで伺いますけれども、この上野トロピカルフルーツパークに３Ｄプリンター住宅を造るとなると、目的外使用ではないんですか。伺います。

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の実施につきましては、上野トロピカルフルーツパーク、約７万7,000平方メートルの一部に当たる土地、約2,900平方メートルについて、現在の行政財産を普通財産へと変更する手続を進める必要があると認識しております。具体的には、建設用地の約2,900平方メートルを行政財産としての用途を廃止する手続を行う予定をしております。また、現在当該土地の管理が農林水産部であるため、この用途廃止と並行して、本事業を所管する部署へ所管替えの手続も実施いたします。そういう手続を経て事業を実施しますので、当該土地は目的外使用には当たらない普通財産として適切に事業を進めていきたいというふうに考えております。

◎國仲昌二君

行政財産から普通財産にするというのは、2,900平方メートルということでよろしいですか。

◎企画政策部長（石川博幸君）

約2,900平方メートルでございます。

◎國仲昌二君

上野トロピカルフルーツパークですけども、ここは過去に宮古島市の農業と産業の融合をコンセプトに、農業や観光、エコ連携する施設として10億円かけて整備しますという答弁とか、あるいは今定例会においても、農業のコアとして、農業を通じて産業化観光プログラムの組成を行う、あるいはエコアイランド宣言している宮古島市のアピールを行う施設というふうに位置づけているんです。何でそんな重要な位置づけである施設の中に、しかもですよ、わざわざ行政財産から普通財産に変更してまで３Ｄプリンター住宅を建設するんですか。伺います。

（「休憩をお願いします」の声あり）

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後５時43分）

再開します。

（再開＝午後５時43分）

◎企画政策部長（石川博幸君）

本事業の目的ですけども、本市では少子高齢化、生産年齢人口の減少、家賃高騰、若年層の住宅問題、人手不足等が顕在化、深刻化しているという現状がございます。特に医療、介護、教育等の分野におけるエッセンシャルワーカーの確保は、市民生活に密接に関わる問題であり、担い手確保が喫緊の課題となっております。こうした中で、宮古島市の若者や医師、看護師といった転勤を伴う専門職の住宅確保を困難にしており、宮古島離れを加速させる要因として本市の最重要課題と位置づけております。そのため、こうした複合的な課題に対応するため、本事業で建築コストの大幅な削減、人員の省人化、工期短縮を可能にする住宅建設の実証を行うこととしております。これにより、働き手の限られる離島においても低コストで住宅供給を実現し、島外からの安定的な人員確保と若者の永続的な定住促進を図るため、取り組んでいきたいという考えの下、市有地をそこに選定してやっております。

◎國仲昌二君

企画政策部長、私はなぜ３Ｄプリンター住宅を上野トロピカルフルーツパークに建設するのと。別に３Ｄプリンター住宅建設がおかしいんではないのと言っているわけではなくて、必要性は分かります、必要性は。ただ、いろんなところで上野トロピカルフルーツパークは本当に核となる施設だということを過去からずっと言っている中で、なぜわざわざ行政財産を普通財産にしてまで上野トロピカルフルーツパークに造らないといけないのという質問だったんですけど、もう時間がないので次に、次にといっても、もう答弁を受けていたらあれですから、私の所見を述べていきたいと思います。

市長の発言の中で、沖縄は地理的に国防上の最前線であるという発言したという新聞報道がありましたけれども、これについて私は、これはもう私の考えを述べますけども、沖縄は地理的に国防上の最前線にあるという言い方、国防は軍事基地の過重な負担を沖縄に強いるポジションにいる人たちが使う常套手段だなというふうに考えているんです。実は政府も、海兵隊が沖縄に駐留している理由について、戦略的な要衝に位置しているというふうにして、地政学的な理由で在沖海兵隊が駐留していると説明しているんですけども、2012年の当時の森本敏防衛大臣が、軍事的には沖縄でなくてもいいんだよと、ただ政治的に考えると沖縄が最適の地域だというふうに述べて､政治的な理由として許容できるところが沖縄にしかない、つまり許されるところが沖縄にしかない。本土に基地を持っていくと住民が反対する。だから、沖縄に置くしかないという本音を言っているんです。それが私にとっては非常に沖縄差別だなということで、これについてはこれからも声を出していきたいと思っております。

それから、平和集会についてのことですけれども、私が問題にしたいのは、市の職員の市民に向き合う姿勢、あのとき市民に対して高圧的で命令口調で対応したんです。これは、一部の職員の問題というよりは、市役所全体の職場風土の問題ではないかというふうに懸念します。市職員は、全体の奉仕者として主権者である市民のために公平公正に働かなければならないと。だからこそ税金からその対価として給与が支払われていると。その自覚が職場で徹底していないから、事務ミスや不祥事を招いているのではないか

とも考えています。今回の事案を通して市全体で自分たちは全体の奉仕者であるということを肝に銘じていただくことを強く求めて、私の一般質問を終わります。農林水産部長、後で先ほどの見解はお願いします。ありがとうございました。

◎建設部長（下地睦子君）

先ほど國仲昌二議員の貸し付けた市有地への市民の出入りについてということでございましたけれども、先ほど答弁いたしましたように、事業者により建設、管理される施設については、営業時間等の関係により出入りは制限されるという話ですが、営業時間内であれば市民の出入りについて制限されるものではないと考えております。

◎議長（平良和彦君）

これで國仲昌二君の質問は終了しました。

お諮りします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認め、よって本日の会議はこれにて延会します。

（延会＝午後５時50分）

令 和 ８ 年

第４回宮古島市議会(定例会)会議録

６月29日（月）　　最終日

（一般質問、委員長報告、質疑、討論、表決）

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）議事日程第７号

令和８年６月２９日（月）午前１０時開議

日程第 １		一般質問	
〃 第 ２	議案第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について	（委員長報告）
〃 第 ３	〃 第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ４	〃 第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について	（ 〃 ）
〃 第 ５	〃 第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）	（ 〃 ）
〃 第 ６	〃 第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ７	〃 第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）	（ 〃 ）
〃 第 ８	〃 第４９号	財産の取得について	（ 〃 ）
〃 第 ９	〃 第５０号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１０	〃 第５１号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１１	〃 第５２号	議決内容の一部変更について	（ 〃 ）
〃 第１２	〃 第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１３	〃 第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について	（ 〃 ）
〃 第１４	陳情書第 ２ 号	宮古島での日米共同訓練とオスプレイ飛行の中止を求める陳情書	（ 〃 ）
〃 第１５	〃 第 ４ 号	渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める陳情書	（ 〃 ）
〃 第１６	〃 第 ３ 号	航空自衛隊宮古島分屯基地で発見されたダイオキシン類及びＰＦＡＳへの対応を求める陳情書	（ 〃 ）
〃 第１７	意見書案第 ３ 号	渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書	（文教社会委員会提出）
〃 第１８	決議案第 ３ 号	レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議	（議員提出）
〃 第１９	〃 第 ４ 号	頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議	（ 〃 ）

◎会議に付した事件

議事日程に同じ

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

総務財政委員会
委員長　富　浜　靖　雄

委 員 会 審 査 結 果 報 告 書

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第１０９条の規定により報告します。

記

議案番号	件　　名	結　　果
議案 第４３号	令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）	原案可決
議案 第４６号	宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について	〃

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

総務財政委員会
委員長　富　浜　靖　雄

陳情書審査結果報告書

本委員会は、付託された陳情書を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第１４２条の規定により報告します。

記

議案番号	件　　名	結　　果	措　　置
陳情書 第２号	宮古島での日米共同訓練とオスプレイ飛行の中止を求める陳情書	不採択とすべきもの	

◎不採択の理由

陳情書第２号については、「自国を守る抑止力を高める取組で、今回の訓練が戦争につながるものではない」「有事を起こさせないという考えに基づき、抑止力や対処能力を高めることは必要。実施に当たっては、必要最低限の範囲で行われるべき」との反対意見と、「訓練を実施後、米軍の訓練が宮古島で常態化することへの懸念やオスプレイ飛行に関する安全性への不安がある」との賛成意見があり、採決した結果、賛成少数で不採択とすべきものと決した。

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

文教社会委員会
委員長　下　地　信　広

委員会審査結果報告書

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第１０９条の規定により報告します。

記

議案番号	件　　名	結　　果
議案 第４５号	令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）	原案可決
議案 第４７号	宮古島市介護保険条例の一部改正について	〃
議案 第４８号	宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について	〃
議案 第４９号	財産の取得について	〃
議案 第５０号	議決内容の一部変更について	〃
議案 第５１号	議決内容の一部変更について	〃
議案 第５２号	議決内容の一部変更について	〃
議案 第５３号	宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について	〃

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

文教社会委員会
委員長　下　地　信　広

陳情書審査結果報告書

本委員会は、付託された陳情書を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第１４２条の規定により報告します。

記

議案番号	件　　名	結　　果	措　　置
陳情書 第４号	渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める陳情書	採択すべきもの	

◎採択の理由

陳情書第４号については、陳情書の趣旨を了とし、全員異議なく採択すべきものと決した。

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

文教社会委員会
委員長　下　地　信　広

閉会中、継続審査の申し出について

本委員会は、下記の事件について、閉会中もなお審査を要するものと決定したので、会議規則第１１０条の規定により申し出ます。

記

１　件　名

議案番号	件　　名
陳情書 第　３　号	航空自衛隊宮古島分屯基地で発見されたダイオキシン類及びＰＦＡＳへの対応を求める陳情書

２　理　由

陳情書第３号については、閉会中も慎重審査を要する。

令和８年６月２９日

宮古島市議会
議長　平　良　和　彦　殿

経済工務委員会
委員長　狩　俣　勝　成

委 員 会 審 査 結 果 報 告 書

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第１０９条の規定により報告します。

記

議案番号	件　　名	結　　果
議案 第４４号	令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）	原案可決
議案 第５４号	宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について	〃

令和８年第４回宮古島市議会定例会（６月）会議録

令和８年６月２９日（月）

（開議＝午前10時00分）

（閉会＝午後３時04分）

◎出席議員（２２名）

議長（１６番）	平良和彦君	議員（１０番）	狩俣勝紀君
副議長（１３〃）	砂川和也〃	〃（１１〃）	前里光健〃
議員（１〃）	豊見山貴仁〃	〃（１２〃）	仲間誉人〃
〃（２〃）	池間仁〃	〃（１４〃）	山下誠〃
〃（３〃）	大城仁〃	〃（１５〃）	狩俣政作〃
〃（４〃）	砂川浩平〃	〃（１７〃）	下地信広〃
〃（５〃）	平良恵泰〃	〃（１８〃）	我如古三雄〃
〃（６〃）	根間康雄〃	〃（１９〃）	平良敏夫〃
〃（７〃）	富浜靖雄〃	〃（２０〃）	粟国恒広〃
〃（８〃）	狩俣勝成〃	〃（２１〃）	國仲昌二〃
〃（９〃）	下地信男〃	〃（２２〃）	下地茜〃

◎欠席議員（０名）

◎説　明　員

市長	嘉数登君	会計管理者	友利和代君
副市長	砂川朗〃	水道部長	砂川勤〃
企画政策部長	石川博幸〃	消防長	狩俣勝彦〃
総務部長	上地俊暢〃	企画調整課長	伊佐智彦〃
福祉部長	守武大〃	総務部次長 兼総務課長	上地等〃
市民生活部長	幸地幹夫〃	総務部次長 兼財政課長	国仲英樹〃
農林水産部長	下地貴之〃	教育長	宮城克典〃
建設部長	下地睦子〃	教育部長	久貝順一〃
観光商工スポーツ部長	川平敏光〃	生涯学習部長	天久珠江〃
こども家庭局長	狩俣博幸〃	選挙管理委員会委員長	下地勇徳〃
環境衛生局長	梶原健次〃	選挙管理委員会事務局長	加賀谷雅司〃

◎議会事務局職員出席者

事務局長	友利毅彦君	次長補佐	下地茜君
次長	狩俣智紀〃	議事係長	砂川果倫〃

◎議長（平良和彦君）

これより本日の会議を開きます。

（開議＝午前10時00分）

本日の出席人数は22名で、全員出席であります。

本日の日程は、議事日程第７号のとおりであります。

これより日程第１、一般質問について、先日に引き続き質問を行います。

本日は狩俣政作君からであります。

順次質問の発言を許します。

◎狩俣政作君

議席番号15番、公明党の狩俣政作です。質問の前に一言申し上げます。令和７年６月の定例会にてブックスきょうはん宮古南店が令和７年８月末をもって、これまで運営していた商業施設の店舗を退去するということで相談がありました。本市から書店がなくなるということで、宮古島市として何か支援できないかという質問をしましたけども、その後、市長を含め職員とも意見交換を何度も行い、あれから１年がたちましたが、退去時期も本年５月まで延ばしていただき、その間無事に店舗を確保し、６月１日に新店舗オープンを迎えることができました。この日は台風で悪天候でしたけども、多くの市民が駆けつけてうれしそうに本を購入しておりました。これまで尽力していただいた市長をはじめ、職員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、質問に参ります。まず最初に、教育行政です。虐待を受けている児童生徒への対応ですけども、３月定例会の一般質問で、宮古島警察署や関係部署と連携して、虐待は犯罪ですなど強いメッセージが入ったチラシなどを配布しながら、家庭訪問するなどの要望を行いましたが、その後どうなったか伺います。

◎教育部長（久貝順一君）

児童生徒への虐待対応については、令和８年５月、文部科学省から改定された学校・教育委員会等向け虐待対応の手引きを踏まえ、学校から虐待の疑いや相談があった場合は、関係部署と連携しながら、家庭訪問や保護者面談等を実施する方針です。また、虐待は子供の心と体を壊す犯罪ですという強いメッセージと相談窓口を記した独自の資料、チラシを作成しまして、教職員や保護者への周知や、さきに述べた家庭訪問等の際に配布、説明するなど、本市教育委員会の防止策の一つとして取り組んでいく考えとなっております。ちなみに、チラシの配布、活用については、８月からの取組を予定をしております。

◎狩俣政作君

ぜひともよろしくお願いします。

５月26日に衝撃的なニュースが流れました。プロ野球の現役の監督が辞任するという、事の発端は自宅で姉妹げんかが始まり、仲裁に入りましたが、長女に言い返されたことに激昂し、胸ぐらをつかんで押し倒したと。暴行を受けた長女は、対話型ＡＩに父親からの暴力を相談したところ、児童相談所への通報を勧められ、それに従って長女が児童相談所に相談し、児童相談所から警察署へ110番通報され、警察官が自宅に駆けつけ、監督は暴行の現行犯で逮捕されました。これに関連して、今の子供たちはほとんど携帯を持っています。本市でも同様のケースが起こる可能性があると思いますけども、その際に教育委員会は児

童生徒が自ら児童相談所に通報することに対してどのような対応を取りますか、お伺いします。

◎教育長（宮城克典君）

虐待を受けた子供や、それを面前で見た子供が直接児童相談所等の機関へ連絡や通報することは、緊急かつ切実なＳＯＳ発信であり、正当な権利であると考えます。今回の事案については、実子から児童相談所への緊急通報であったということですが、やり過ぎだという声もある一方で、虐待事案については過去にも生命に関わる事案もあり、決して親権者等のしつけの範囲と見逃すことはできません。児童相談所や警察が取った対応は正当なものと考えます。過去には宮古島市でも幼児の虐待死事件もあり、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト等のおそれがある場合にはちゅうちょすることなく通報や相談ができることを市民の皆様にもご理解とご協力をいただきたいと思います。また、子供たちからＳＯＳを受信した場合については、教育委員会に通報がありました場合は緊急保護に努めながら、児童相談所、警察との緊急連携対応を行いたいと思います。

◎狩俣政作君

教育長、私も同感です。なかなかいろんな、ヤングケアラーとかアンケート取っても、そこに答えてしまうと、後で先生たちに言われて、おまえ話したのかみたいな虐待につながる可能性があります。緊急性問わず何かあったら自分たちでできるような仕組みづくりをぜひともお願いします。

次に行きます。②、教育委員会として児童生徒の薬物に対する意識や実態についてのアンケート調査は実施しているかですけども、これは市民の方から市内の飲食店で薬物が横行しているとの声が聞こえております。若い世代が多く利用しているということですけども、とても心配です。新聞報道でも、５月には多良間村の海岸に末端価格2,500万円相当の約１キログラムのコカインが漂着しておりました。また、６月11日には、大麻を営利目的所持容疑で宮古島市の35歳の男性が逮捕されたとの報道がありました。本市の子供たちが巻き込まれないよう、児童生徒が薬物に対する知識を得るための教育が必要だと思いますが、教育委員会の取組はどうなっていますか、お伺いします。

◎教育部長（久貝順一君）

現在のところ薬物に関するアンケート調査は実施しておりませんが、沖縄県においては高校生や中学生を含む未成年者が大麻等の使用により検挙される事例が相次いでいることを確認しております。本市においても懸念されるところですが、国の第六次薬物乱用防止五か年戦略においては、外部講師を招聘した薬物乱用防止教室等について学校保健計画に位置づけ、全ての中学校において年１回は実施するとともに、小学校においても開催に努めることとされていることから、教職員対象の研修会の周知、また授業、これは保健体育等の授業において薬物乱用に関する内容を確実に取り上げること、また警察や麻薬取締官等を招聘した薬物乱用防止教室を実施することを全小中学校へ４月13日付で通知をしております。

◎狩俣政作君

６年前、夜回り先生で有名な水谷修先生が市内の中学校で講話をしました。私も聞きに行きましたけども、とても話の内容があまりにもリアル過ぎて、もう聞いていて怖かったぐらいです。その講話の後にちょっと話す機会があったんですけども、先生がおっしゃるのは、道を外れていく子供たちというのは見ていて大体分かりますと。生活困窮世帯とか虐待がある世帯、家にいても居場所がない子供たちが外に行くために外に出て、悪い先輩、悪い大人に関わることで道を外れてしまう。なので、事前に該当する児童生

徒に対して先生や地域の大人が関わることで､道を外れてしまうことがないようにできるんではないかと、子供たちにちゃんとした情報を提供して、しっかり教育させれば、道を外すことはなくなると話しておりました。早急にそのようなアンケート調査とか、いろんな講話を実施するようによろしくお願いいたします。

③に行きます。宮古島警察署との情報共有や連携体制はどのようになっているかですけども、私には市民からいろんな情報が入ってきます。なので、実際宮古島警察署にも入っていると思うんですけども、このような情報というのは教育委員会には共有できていますか、されていますか、お伺いします。

◎教育部長（久貝順一君）

本市教育委員会では宮古島警察署との情報共有や連携体制として、主に小中学校、あと高等学校及び特別支援学校の担当者と警察の連携による定期の協議会、これ宮古島地区学校警察連絡協議会といいますけど、通称で学警連と呼ばれているものです。学期ごとに年３回の定例の協議会を行っております。また、必要に応じて臨時の協議会を実施しているところです。協議会では警察署員により市内の犯罪発生状況や未成年飲酒等の問題行動に関する情報提供を受け､再発防止策についても検討する機会となっております。また、小中高等学校及び特別支援学校の担当者と警察署員が対面により協議することで、書類のやり取りや緊急時のみならず、いつでも直接電話等により相談、情報共有ができる体制づくりに取り組んでいるところです。

◎狩俣政作君

私たちというか、私とか狩俣勝成議員とか根間康雄議員はもうＰＴＡの会長だったので、私たちがＰＴＡのときは防犯パトロールというのが頻繁にあったんです。もう夜ＰＴＡだけで、市内のどの辺に悪い子がいるかなというのも大体分かるんです。そこにパトロールしていました。そういうことが今やっているのかなということもあるんです。前はそういう車が回っていたら分かったんだけど、最近見えないので、そういうことがないのかなと思うので、そういう部分もぜひできるようにお願いします。

次に行きます。市民生活行政です。本市のビーチの使用についてですけども、ビーチが使用できない状況が発生しているということで、これ市民からビーチが使用できないと、あるいは使用しづらいとの声が上がっております。来間漁港の横のビーチは字有地とビーチの境界が分かりづらく、字有地側に店舗があり、ビーチ側には人工物のベンチのようなものが設置してあります。また、その店舗に入るまでの道路を木材で整備し、看板や流木のオブジェも建てられております。まるでプライベートビーチみたいな感じなので、一般市民が使おうとすると入りづらい状況になっています。もう一つは、パイナガマビーチです。ビーチの一部に店舗があり、その店舗が運営している遊具、水上バイクなどがビーチの家に置いてあり、占用しているので、その店舗前のビーチは一般の市民は使用できません。この店舗は、４月中旬にビーチで焼却行為が行われ、消防署が出動する騒ぎになりました。これまでも騒音や迷惑駐車等もあり、周辺の住民が平穏な生活を害されております。このようなビーチの状況を当局は把握しておりますか、お伺いします。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

来間港の隣のビーチについて、私から答弁したいと思います。

市内のビーチを市民や観光客の皆様が安全かつ安心して利用できる環境を維持することは、市として重

要な責務だと認識しております。狩俣政作議員ご指摘の来間港隣のビーチは県の管轄ではございますが、市でも利用状況について確認しております。ビーチに隣接する私有地において事業者が営業活動を行っており、営業区域とビーチとの境界線が分かりづらいことや、ビーチにおいてビーチパラソルなどの貸出し営業を行っていることから、市民や観光客が利用しづらい状況が生じていることは認識しております。

◎建設部長（下地睦子君）

パイナガマビーチに関しては、建設部のほうで答弁をさせていただきます。

パイナガマビーチは、市民や観光客が安心して利用できる憩いの場として重要な公共空間であり、その利用環境の維持、向上は本市の重要な責務であると認識しております。狩俣政作議員ご質問のパイナガマビーチに隣接する私有地において営業を行う事業者に関する市民からの苦情や不安の声については把握しており、利用者の安全性や快適性の観点から看過できないものと考えております。ビーチでの焼却の件については、狩俣政作議員から情報提供がありまして、その後警察と共に内容を確認しております。その上でですが、それで水上オートバイやバナナボート等の浜への停留につきましては、条例等で規制されている範囲外での行為であるため、現状規制を行うことは困難な状況です。停留の目的としては、休憩等のための一時的なものであるべきと考えておりますが、地元住民の方々への影響を最小限に抑えられるよう、引き続き利用者への啓発活動を強化してまいりたいと考えております。

◎狩俣政作君

②の質問に行きますけども、今の答弁ですとなかなか規制が難しいなと思うんですけど、今後まだビーチはいっぱいあります。このような事例をちゃんと規制しておかないと、事前に、同じような案件のビーチはどんどん増えると私は思います。だって、このビーチは県のもので、その手前が字有地とかだったら、もう借りて店舗をつくって自由に使うような状況になっているではないですか、今。市としてある程度規制をつくって、何かしら対策を講じるのか見解をお伺いします。

◎建設部長（下地睦子君）

私有地内での営業であっても、その行為が周辺環境や公共の秩序、ビーチ利用者の安全に影響を及ぼしていると認められる場合には、関係部署との連携を図りながら、状況把握に努め、必要に応じて沖縄県、宮古島警察署、海上保安庁など関係機関との情報共有を行い、それぞれの所管法に基づく対応を要請してまいります。市民や観光客が安心して宮古島の海浜を利用できる環境を確保するため、現場確認や利用実態の把握を継続して行い、問題の未然防止や早期対応に努めるとともに、利用者の安全性の確保並びに問題の抜本的な解決を目指し、関係機関や他の自治体の事例等を参照し、ビーチにおける利用ルールやガイドラインの必要性について模索し、対策を講じていきたいと考えております。

◎狩俣政作君

ぜひよろしくお願いします。

次に行きます。２番、国立療養所宮古南静園の永続化についてですけども、本市の見解ということで、現在国立療養所宮古南静園には28名の方が入所しております。ハンセン病は、国の間違った施策によって、国家による強制隔離により患者やその家族が激しい差別と偏見に苦しめられた歴史があります。先日宮古南静園内にあるハンセン病歴史資料館に伺い、見学させていただきました。これが本当にあったのかなと思うほどひどい、当事者の動画や文章を読むと大変心が苦しくなりました。いろんな年代の新聞もあって、

そんな中の一つをここで紹介しようと思ったんですけども、あまりにもひど過ぎて、紹介するのやめます。なので、ぜひ議員の皆さんも当局の皆さんも見学に行かれて、ハンセン病のことをしっかりと勉強して、またこの施設が永続化につながるように一緒に協議したいと思いますので、よろしく願います。もちろん現在では治療薬によって完治する病気であり、後遺症がある回復者や、その周囲の人が接触しても、感染することは絶対ありません。

６月８日に公明党ハンセン病問題対策会議全国会議がＺｏｏｍで行われ、全国に13か所ある国立療養所に所属する公明党議員と国会議員、厚生労働省と延べ60人ほどで対策会議を行いました。宮古島市には宮古南静園がございますので、私と富浜靖雄議員も参加して、私も宮古南静園の現状をお話しさせていただきました。現在令和８年６月時点で医療法定床、病床ですね、部屋が100床あります。一般舎棟で独身が12床、夫婦が20床、うち入居者は12床です。不自由者棟と介護センター、独身が30床、夫婦は20床で、入居者数は16床です。病棟は18床ございますが、利用者はゼロです。入所者の平均年齢は92.6歳で、男性14名で最高齢は99歳、女性が14名で最高齢が105歳です。県内の療養所で最も高齢化が進んでいる状況です。また、入所者の高齢化に伴い、年間三、四人が亡くなられる。また、28名中、認知症の診断がついている方が10名、受診されている方が７名、入所者の60％が認知症として診断及び受診されている状況です。全国的に同じような課題に直面しており、施設の永続化のことでも議論が交わされました。大前提として、この施設をハンセン病の悲劇を風化させないよう維持し、国と自治体との協議でどのように運営していくかとなります。厚生労働省の職員も、自治体が利用したい方向性を示していただければ、それに沿うように支援したいと話しておりました。そこで、私が一番挙げたいのは、空き室を利用しての高齢者居住施設とＤＶを受けた方の一時避難用シェルター施設に使用してほしいと思います。そうすれば、売店の再開や地域の医療の確保のための病院、内科、外科の再開などをしていただければ、人が集まり、地域のコミュニティーとしても利用しやすくなると思います。当局の見解をお伺いします。

◎市民生活部長（幸地幹夫君）

平成21年に策定された宮古南静園将来構想には、福祉施設としての併用として老人保健施設やグループホーム、ＤＶ被害者支援施設等が計画されておりましたが、入居居住棟などのある土地は海抜７メートルのくぼ地となっており、災害時の避難が困難であるとの理由から、福祉施設としての実現には至っておりません。これらについては、今年２月に設置された宮古南静園将来構想実現に向けた協議会において、津波対策等を含め、福祉施設として実現可能なのかどうか検討されていくものと考えております。

◎狩俣政作君

ぜひ前向きな検討をお願いします。津波災害を考えて、そこは使えませんと言うと、入所してから、開所してから何十年間そんな災害はないですから、もし何かあるんであれば、すぐ避難できるようなバスとか置くとかやればいいと思うんで、これ特に問題なのが今高齢者施設の喫緊の課題なんです。宮古島市で高齢者が借りることができるアパートは、もうほとんどないです。また、介護認定を受けていても、専用の施設に入居できることはありますけども、これも順番待ち状態で、入居待ちが多いと。また、今住んでいるアパートを大家が家賃を値上げして、退去を求められることはたくさんあります。私も実際５月に相談を受けました。借家で、大家に７月までに退去するように言われた高齢夫婦です。多くの方のおかげでやっと１部屋探しました。役所にも不動産にも何度も通い、入居に伴う見積りを出し、保証協会の審査も

終わって、あした不動産に前家賃や諸費用を振り込んだら入居ができるという段階で前の日にオーナーから連絡があり、入居の拒否でした。その理由が高齢者だからです。守武福祉部長をはじめ生活福祉課の職員にはとてもお世話になりました。１か月以上もかかってやっとこぎ着けたのに、最後に、高齢者は受け付けませんとのことです。市営住宅に申し込んでも、高齢者は１階ではないと生活が厳しいんです。なので、なかなか空き部屋出てきません。宮古島市の高齢者率は、予想以上に進んでいます。南静園の永続化について、なかなか協議も進んでいないと関係者からも苦言がありました。今年２月に協議会が開催されて、入所者の会、対象者の会も参加され、その中で副市長が会長に選任されたと。これを機に永続化について早々に動いていけばいいと思いますけども、市長の見解をお伺いします。

◎市長（嘉数　登君）

平成21年当時将来構想で掲げた一般市民に対する医療施設としての活用に関してですけども、実現していたんですけども、コロナ禍以降一般外来診察が制限されております。また、平成24年には退所者や入所歴のないハンセン病回復者の要望によりまして、保険診療による病棟への入院制度が実現したものの、これについてもコロナ禍以降、受入れが中止をされております。宮古南静園によりますと、医師不足のために再開のめどが立っていないということでございます。それから、今年２月に開催された宮古南静園将来構想実現に向けた協議会の中で、コロナ禍以降も病棟が閉められている状況に関しまして、退所者のほうからは、再開を希望しているとの報告がございました。市民の皆様が安心して社会生活を送り続けられるよう、今後の重要課題として、まずはその医療施設について市及び本協議会として国、これ恐らく厚生労働省と財務省のほうにも及ぶかと思うんですけども、国へ直接要請することを含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

◎狩俣政作君

市長、ぜひよろしくお願いします。

次の質問に行きます。３番、本市の積算システムが入ったパソコンを宮古の警察署が回収したとの報道がありました。この中で３問挙げているんですけども、これまでの同僚議員の質問にもなかなか答えられないということなので、角度を変えて質問します。この積算システムが入ったパソコンは誰でも使える状況だったのかお伺いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

農林水産部の農村整備課には標準積算システム、これ沖縄県土地改良事業団体連合会と契約をして導入した上で積算業務を行っております。現在の管理状況ですが、課内に設置したノートパソコンが４台ございます。それぞれユーザーＩＤとパスワードを入力する仕様となっておりまして、積算業務に従事する職員のみ利用できる状況となっております。

◎狩俣政作君

例えば農政課にいた職員が異動になりました。異動になった後でも、そのパスワードが分かれば、その異動先から来て見られるということですか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

パスワードが変わっていなければ、見ることはできます。

◎狩俣政作君

多分そういうことがあったと思います。パスワードが変わっていないので、誰でも見られる状態になったと思っているので、今後対策としてパスワードを随時変更するとか、ＩＤを変えるとか、どのような対策を考えていますか。

◎農林水産部長（下地貴之君）

契約先である沖縄県土地改良事業団体連合会と相談をした上で、定期的にパスワード変更するかどうか、恐らくできると思いますけれども、対策はしていきたいと考えております。

◎狩俣政作君

ぜひよろしくお願いします。

次の質問に行きます。３のスポーツ行政について、１、アジアスポーツアカデミー構想についてです。スポーツ振興課との個別連携協定についてですけども、元西武ライオンズの選手であった石毛宏典さん、先月５月25日付で日本プロ野球ＯＢクラブの新理事長に就任されました。その石毛さんが代表であるアジアスポーツアカデミーが宮古島市を拠点にして東南アジア、全国から生徒を集めて宮古島市で野球、テニス、ゴルフ、サッカーなどのプロ選手を育成する施設を開設する構想であります。昨年７月に来島し、市長をはじめ担当部局とも石毛さんを含めた役員の方々と何度か話合いの場を設けてきました。また、宮古島市スポーツ協会会長、宮古島市議会スポーツ振興議員連盟、宮古島商工会議所、伊良部商工会、宮古青年会議所にもプレゼンを行い、全面的に応援するとの確約もいただきました。また、タウンマネジメント会社として沖縄トヨタ自動車、日本トランスオーシャン航空株式会社、株式会社北斗リゾート宮古島、株式会社琉球銀行、株式会社国建、ＮＴＴ西日本、パナソニック株式会社、三菱地所株式会社、ＴＳＰ太陽株式会社、そうそうたる会社ばかりです。役員の一人である小谷野勝衛さんは株式会社ユー・エス・イー沖縄宮古島オフィス準備室室長で、住民票を移して宮古島に住んでおります。伊良部商工会のメンバーでもあります。ここでなぜ個別連携なのか、包括ではないのかというのは、野球は伊良部野球場を４月から11月のオフシーズンに使用します。サッカーは、伊良部カントリーパークを天然芝に張り替えて行う。城辺や下地、上野においては、10面確保できる用地を用意してテニスを行う。ゴルフはサシバリンクス伊良部など多くの部局が絡むということと、開始時期が異なるので、まずは野球から開始するためにスポーツ振興課との個別連携の協定となっております。見解を伺います。

◎観光商工スポーツ部長（川平敏光君）

現在、アジアスポーツアカデミーから、本市のスポーツ施設の活用やスポーツ振興及び地域活性化に関する個別連携協定について提案を受けているところです。本市といたしましては、個別連携協定につきましては、アカデミー校としての活動実績や市へのスポーツ振興への貢献、地域への波及効果などを総合的に勘案する必要があると考えております。現時点におきましては、同アカデミーは生徒を募集している段階であり、具体的な活動実績や成果がまだ確認できない状況であることから、その効果や継続性について慎重に見極める必要があります。また、施設の利活用や地域活性化の在り方については、短期的な視点ではなく、中長期的な視点に立って判断するべきものと考えております。このことから、現時点においては、個別連携協定を締結段階には至っていないとの認識でありますので、引き続き今後の活動状況や地域への貢献、さらには本市のスポーツ振興や地域への波及効果などを総合的に勘案しながら、検討してまいりたいと考えております。

◎狩俣政作君

生徒募集に関しても、進捗状況として、本来６月１日に市長を表敬して概要を説明する予定でした。台風で流れましたけども、生徒募集の進捗状況として、７月25日に東京、８月１日に大阪で国内の中学生を対象にしたセレクションを開催し、最終的に20名程度を選抜し、来年４月からスタートすると。特別枠として宮古島市の中学生も数名募集するということです。そうそうたるタウンマネジメントの会社がそろって、空き施設の利活用とか改修工事などＰａｒｋ-ＰＦＩを使ってやると、ほとんど宮古島市の持ち出しはないという中で、結構この構想は大きいですけども、すごく楽しみな構想だなと私は思っております。これを、去年７月に来てもう１年になりますけども、いろんな話を聞いている中で、早々と進めることが大事かなって、担当が代わる代わるで話が違うんではなくて、まず個別連携ということでスポーツ振興課という部分を取っていますので、それに関しては市長のほうはどう思っているのかなと、市長に答弁お願いします。

◎市長（嘉数　登君）

石毛スポーツアカデミー事業構想については、宮古島エコアイランドスポーツプロジェクトとして、関係者の皆様、石毛氏、小谷野氏、宮里氏から、本市のスポーツ施設を活用した事業構想の提案をいただいております。今回のプロジェクトは、元プロ野球選手の方が発起人となっておりまして、各競技において実績のあるインストラクターが指導を行う計画となっております。プロを目指す高いレベルの指導が本市で行えることは、地域のスポーツ活動に取り組む本市の子供たちにとっても、間近に優れた指導や技術を見る機会となり、スポーツへの意欲向上につながるものというふうに考えております。それから、地域活性化や本市施設の有効活用にもつながる可能性を秘めているものと認識しております。ただ一方で、公平性及び公正性を確保する観点から、施設の現状や利用状況、それら関係する条例や要綱等の基準に沿って慎重に判断する必要があるものと考えております。引き続き本プロジェクトの具体的な内容や本市における実現可能性について関係部署で検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

◎狩俣政作君

ぜひ前向きな検討をよろしくお願いします。

続きまして、環境行政について質問いたします。１番、クリーンセンターの炉の管理についてですけども、運用してからこれまでの維持管理費の総額、運用して、何度も何度もメンテナンスが行われておりますが、その維持管理費総額をお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

クリーンセンターの炉の管理について、これまでの維持管理費についてのご質問でございます。

平成28年にオープンしまして、供用開始しまして、令和７年度までの10年間で累計での修繕費は877万円、工事請負費は２億9,546万円、年次点検費２億2,468万円、合計５億2,884万円となります。

◎狩俣政作君

10年間利用してきて、修繕費に５億2,000万円がかかるってすごいことだと思うんですけども、②番の質問に行くんですけど、この運用時間が16時間となっていること、これが要因ではないかとあるメーカーが言っていました。要は炉を24時間燃やすことによって保たれるのに、一旦冷やすことによって炉のタイルみたいな、これがすごく影響を及ぼしているというんです。なので、なぜ運用は16時間になっているのか

伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

焼却炉の運転時間についてお答えいたします。

クリーンセンターの焼却炉を１日16時間運転とする根拠ですけども、これは2008年２月の宮古島市ごみ処理施設及び葬斎場建設委員会において、24時間運転を前提とした施設を整備した場合、突発的なごみの量の増加に対応できないということを理由にして､16時間運転を前提とした施設整備が出されております。今狩俣政作議員ご指摘されたように施設を整備した企業に問い合わせたところ、24時間運転しますと焼却開始や停止に伴う温度の変化が少ないことから炉に負担がかけないということはそのとおりだということであります。しかしながら、24時間で運転した場合、現在年間のごみの処理量が１万6,000トンぐらいあるんですけども、これを24時間運転で処理した場合、週に３日程度炉を止めることとなります。そうすると、16時間運転に比べて停止期間が長くなることから、停止期間中の温度変化の幅が大きくなるということから、逆に熱膨張、収縮の程度が大きくなって、現状の処理量においては16時間運転のほうが温度の変化が小さいので、炉の負担は小さいと考えられるというような回答をいただいているところです。

◎狩俣政作君

今後多分今、後でも質問するんですけど、エリアの改正とか働き方改革で週休２日になった場合には、今の１万6,000トンの量は変わらないですけども、運ばれる回数は減りますよね、間違いなく。そうなると止めると思うんですけども、これをどっちがいいのかなって考えたときに、今メンテナンスする業者は数人来られますよね、１回の来島で。僅かな期間で帰っていってしまうんですけども、本来それをメーカーではなくて、職員でもできるんではないかなという声を聞きます。わざわざメーカー呼ばなくても。10年間で５億円以上かかっているメンテナンス費用を取るか、ちゃんと24時間で早めに燃やしていくのがいいのかという部分は、第三者委員会とかもつくっていただいて、検討してもいいんではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

市としましては、現状においては１日16時間運転が妥当ではないかというふうに考えてはいるんですけども、狩俣政作議員おっしゃるとおり今後ごみの収集体制も変わるということを考えております。また、焼却すべきごみの搬入量が増加した場合、24時間運転のほうがランニングコスト及び維持管理費の両面でメリットがあるというような可能性もあるんです。最近施設整備した、あるいは現在施設の運転管理している業者とは別の方、別の業者が24時間運転でもうまくいくんではないかなというようなお話をされていましたので、実際施設の中の運転状況を見ていただいて、その上で技術提案をお願いしております。ですので、その時点で検討に値するような技術提案がなされた場合には、狩俣政作議員おっしゃったように委員会だとかということをつくって、運転管理のほうを見直すということは今後考えていきたいというふうに考えております。

◎狩俣政作君

環境衛生局長、ぜひよろしくお願いします。

次に行きます。２番、一般家庭ごみ収集委託業者へのアンケートについてです。近年の物価高騰や労務環境の変化に伴う収集委託業者の皆さんへアンケートを実施し、31業者中24業者から回答していただきま

した。その結果、物価高の影響を感じているという業者が95.8%にも及ぶことについてですけども、このアンケートの結果、本当に物価高の影響を感じているという、かなりあるというのが16社、ある程度ある７社、あまりないが１社だったんです。ほとんどが燃料費、あと車両維持費、消耗品費、その中の一つに委託費の妥当性についてというのがあるんです。委託費は適切な額である12社、増額が望ましい12社、ここで分かれるのは、多分これまでエリアが何も変わっていない、自分のエリア内では何も変わっていない委託業者と、そのエリア内にマンションができているとか、居住者が増えて仕事量が増えている業者がいるんです。そのためにいろんなガソリンも使うだろうし、その辺で増額してほしいという声もあります。この件について、今後の対策を環境衛生局長にお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

近年の物価高は、家庭ごみの収集受託業者のほうにも影響を及ぼしていると認識しております。今狩俣政作議員のほうでおっしゃいました、収集エリアは変わらなくても収集量増えているだとか、そういうような件もあります。現在受託業者の皆さんと話合いを持っておりまして、今後来年度、あるいは再来年度になるかもしれないんですけども、実際の収集業務の実態、例えば燃料どのぐらい消費しているだとか、燃費どれぐらいになっているだとか、そういう具体的なデータをもらった上で委託料の積算根拠をきちんと精査していきたいというふうに考えております。加えて、今年度契約では３月末に契約を締結するんですけども、契約当初から燃料費については精算条項を設けております。具体的には軽油１リットル当たり税込み149円で精算しているんですけども､受託業者が利用している給油所にて10%以上の価格増減があった場合には、その差額を四半期ごとに精算するというようにしております。

◎狩俣政作君

環境衛生局長、リットル149円の燃料費があって、それから10%ぐらいまた上がってくると、それを申請すれば、その分の燃料代はちゃんと払いますよということでよろしいですか。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

正確には申請というよりも、こちらのほうできちんと価格を調べます。10%は、下がっても、上がっても精算するということで業者と契約を締結しております。

◎狩俣政作君

今年１月に意見交換を行い、また懇親会も行いました。２月末、３月上旬、５月と、４回ほどの意見交換会を行っております。私もその場に毎回参加していますけども、最初のほうはどの業者も話もできなくて、意見も出ていなかったんですけども、環境衛生局長の人柄というか、いつでも来ていいですよみたいな話をしていただいて、５月の意見交換会は結構な方が話されておりました。すごくいい環境になっているなと思います｡環境衛生局長の丁寧な説明のおかげで業者の方々も前向きな気持ちになっていますので、本当にありがとうございます。

次の質問行きます。３番のエコアイランド推進費についてですけども、３月定例会で計画の見直しという答弁がありました。現在どのようになっているのか、見直しの進捗状況をお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

エコアイランド推進費についてお答えいたします。

エコアイランド宮古島推進計画の見直しについては、今年６月３日に推進本部を開催いたしました。そ

の推進本部で見直しに係る基本方針を確認したんですけども、主な内容としましては、まず１つ目、目指すべき姿である目標、これと達成の程度を図るための指標というものを区別して再整理すること、一部目指すべき姿と指標が重複しているところがございます。区別がきちんとできていないところがありますので、それをきちんと再整理するということ。

２つ目として、市以外の主体、市民ですとか、事業者によるエコに関連する事業、たくさん行われています。そういった事業や活動のうち実施状況をきちんと追跡するものを推進計画の中に組み入れるというようなことなどを確認いたしました。見直し作業については、支援業務として外部の業者を予定していますけれども、支援業務はプロポーザル方式による公募を６月５日に開始しております。この議会終わった後に業者選定、プロポーザルを実施して業者を決めていきたいと思っているんですけども、支援業務の受託者が決定した後に諮問機関であるエコアイランド宮古島推進計画検討委員会というのがございますので、こちらのほうに諮問いたします。このほかには市民や事業者から意見を吸い上げる機会も必要かと思っておりますので、そういった機会を設けて計画に反映していきたいというふうに考えています。具体的な吸い上げの方法については、プロポーザルで提案された内容に沿って検討していきます。計画の見直しについては、令和８年度末の完了、令和９年度からの計画実施を想定しております。

◎狩俣政作君

新しい見直し計画は、令和８年度末に完了と今おっしゃいました。前回の計画のときは５年間やったんです。５年間やって、達成できないというか、そのときの答弁では、目標が高過ぎたためにできなかったんですという話で、それを改めて見直すということで、１年間で何か達成できるのかなって逆に心配なんですけど、その辺の答弁をお願いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

先ほど私の説明があまりよくなかったみたいで、失礼いたしました。今年度、令和８年度末までにかけて行うのは見直し作業でありまして、見直しを行った計画は５年程度の計画期間を設けたいというふうに考えております。推進計画は、今考えているのはエコアイランド宮古島宣言2.0をベースに、理想的な姿を長期目標として掲げつつ、計画期間は進捗管理ができる５年程度の内容でまとめて、それに沿った成果指標というのを盛り込んでいきたいというふうに考えております。

◎狩俣政作君

環境衛生局に４月から新しくエコアイランド推進課が編成されて、環境衛生局長も大変だと思うんですけど、いろんな情報もなかなかないまま話しているんですけど、これまでやってきた５年間の目標が達成できなかったからって、また１年かけて見直し案を完了して、それから５年間向かっていくという中で、このエコアイランド推進費に対する考え方、意義というのはどこにあるのかお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

エコアイランド推進費の意義についてのご質問です。宮古島市は、エコということで地下水保全も含めて市の各部署、各課で地下水保全を含めて環境に取り組む施策を展開しております。これについては、市の総合計画でもそれぞれ位置づけをしてはいるんですけども、いま一度エコアイランドということで横串を通す形で政策を体系化して、それで中身をきちんと推進していくということが必要だというふうに考えています。それで、それぞれの課ごとに施策を進めてもいいんですけども、整合性ですとか、きちんとエ

コアイランド、宮古島に住み続けるためにはやはり環境問題というのは避けて通れませんので、そこら辺に関する意識の統一感といいますか、施策としての体系づけ、整合性を取るため必要だというふうに考えております。

◎狩俣政作君

よく分かりました。

次に行きます。４番、脱炭素先行地域実証についてですけども、進捗状況を伺います。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

脱炭素先行地域の進捗状況についてお答えいたします。

この事業は、令和６年度から令和10年度を事業期間とした事業です。対象地域は下地地区と狩俣地区を対象に､住宅や施設などに1,608件の施設や建物を対象に太陽光発電と蓄電池を導入するＰＰＡ補助事業をメインとしていますが、令和７年度末まででは101件の実績にとどまっております。今年度まだ事業費の執行はございませんが、これまでのところ新たに100件の申請を受け付け、交付決定に向けた事務を進めているほか、350件の申請準備に向けた申込相談があるところでおります。今のところ昨年度を上回る進捗を見込んでおりますが、当初計画のＰＰＡ、1,608件の達成には相当の困難を伴うことから、計画の変更について、国とも協議をしてまいりたいと考えております。

◎狩俣政作君

当初1,608件に対して今101件で、追加として350件の申請が、申込みがあるという話ですけども、これ現実的にできるのかなと私は不安があります、正直言って。全国的に執行率の低い事業ではありますけども、理由があると思うんです、進まない理由とか。たしかこの事業、あと２年ぐらいで終わりですよね。ゴールをどこに持っていくかというのは、何か協議はされていますか、お伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

先ほど狩俣政作議員のほうから、全国的に執行率が低いというお話ありましたけども、宮古島市において今のところの執行率が低い一つの理由が建物の老朽化のため太陽光発電設備の設置が困難な事例が多く見受けられるということがございます。ですので、事業の推進を図るため、カーポート型の太陽光発電設備や既存太陽光発電設備の撤去費用も交付対象に含めるという計画変更の手続を行っているところです。それでも当初計画の達成は難しいと見込まれていることから、目標の設定見直しについて、国と調整を行う予定であります。

◎狩俣政作君

環境衛生局長、お願いがあります。宮古島市、停電が多いですよね。類似自治体、石垣市と比べても多いです。ある方の調査では、宮古島市は石垣市より太陽光パネルが多いんです、実証事業も多かったことがあって。前回の、去年の４月かな、大規模停電が起こりました。あれも聞くと、昼間ためた太陽光の蓄電池にたまったのが夕方ぐらいから使われてきて、切れる時間だったという話もあるんです。それで、蓄電池の電気が切れて、それから買電をするので、一気に買ったためにブラックアウトしたという事例もあります。これは、沖縄電力は鳥が当たったとか、雷があったと言うんですけど、ぜひこの部分の検証はしていただきたい。その後に沖縄電力、大きな蓄電池を２基造りましたよね。なので、実際停電と太陽光パネルの因果関係があるかどうかという話もしっかりとやらないと、停電によってすごく被害を被る人がた

くさんいます。仕事を休むとか、そういうのを何の保証もないと言われるのかはしっかりと検証はしていただきたい、これ要望として終わります。よろしく願います。

以上をもちまして一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで狩俣政作君の質問は終了しました。

◎下地信男君

今定例会一般質問最後の登壇となります。幸政会の下地信男でございます。よろしくお願いします。何か分かりませんが、昨日の宮古毎日新聞に私の顔写真が掲載されていて、びっくりしていますけれども、私の本番は今日ということでご理解ください。

それではまず、市長の政治姿勢について。６月、今月の６日から21日までに開催した地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会、これは①として、意見交換を実施した目的については、これまで地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会、意見交換会でも市長が何遍も丁寧にお答えしておりました。そして、今定例会でも同僚議員に対する回答もありましたので、少し割愛して、これに関連する質問を２つばかりしたいと思います。日米共同訓練の意義を市長は抑止力、それから災害対処能力を高めるということを述べておりましたけれども、市長の考える抑止力というのは何なのか、まずはお聞かせください。

◎市長（嘉数　登君）

私は、市民の生命、財産を守ることは、市長としての最大の責務であるというふうに考えております。その立場から申し上げますと、有事は絶対あってはならず、平和的な外交努力による問題解決が最も重要であるということは言うまでもありません。しかしながら、現在の安全保障環境、とりわけ南西諸島を取り巻く情勢はかつてないほど厳しさを増しているというふうに認識しております。こうした現実を踏まえると、外交だけで平和を維持することは容易ではなく、日本という国の主権を守るための抑止力と万が一に備える対処力の両方を備えることが必要であるというふうに考えております。

◎下地信男君

今市長の答弁にもありましたけれども、なぜ今抑止力を高める必要があるのかということを、市長の見解をお願いします。

◎市長（嘉数　登君）

現在東シナ海や台湾海峡周辺では軍事活動が活発化しておりまして、本市が我が国の安全保障だけではなくて、シーレーンに隣接するという、経済活動においても地理的に重要な位置にあるということは、これは現実として受け止めなければならないというふうに考えております。日米共同訓練は、離島県のさらに離島に位置する本市において、大規模災害時の人命救助、それから島嶼部における対応能力を強化するとともに、有事を未然に防ぐための抑止力の維持に資するものであるというふうに考えております。私は、意見交換会の中でも繰り返し述べておりますけども、平和は願うだけで実現するものではありません。外交による信頼醸成と抑止力、対処力を備えた安全保障の両輪によってこそ守られるものであるというふうに考えております。

◎下地信男君

私は、この意見交換会、上野地域、平良地域、それから下地地域に参加いたしました。市長が抑止力ということ、それから宮古島が南西日本防衛の要であるということをいろいろ一生懸命話をしているんですけど、会場に来られた方々、市民の方々は、多分それにぴんときているという方は数名だったかなと思います。これはなぜかというと、今中国も含め東アジアの勢力、こういう軍事的ないわゆる安全保障が崩壊しているという状況を市民が多分十分に理解していないんではないかというところに、市長との議論がかみ合わないなというところが少し感じられました。私たち防衛議員連盟がこういった、要するに有事を招きかねないといいますか、安全保障というのが、これまでの安全保障が崩壊しているという状況は、東アジアではどういう現状であるのかということを勉強会しました。いろいろ資料も頂きながら、沖縄防衛局の企画部長をお招きして勉強会しました。ロシアは、北方領土を含む極東に新型装備を配備して、中国と共同訓練を繰り返している。北朝鮮は、弾道ミサイル発射数が10年前の20倍になっている。それから、中国は国防費を40兆円、これは10年前の２倍です。現在の日本の国防費は８兆円ですから、５倍です。これによって尖閣諸島の周辺の力による現状変更、あるいは南シナ海の岩礁破砕によって強大な軍事施設を整備している。それから、中国はもう日本全体の軍備と同じ規模の軍備、あるいは軍事施設を３年間で、日本の持っている規模と同じのを３年間でもう整えてしまったと、こういう状況が理解できないと、なかなか抑止力、あるいは対処能力を高めるといっても、何が世界で起こっているかというのを分からないと、なかなか議論が進まないのではないかということで、市長が現状を直視するという言葉が空回りしているような気がしました。この状況を、私たち防衛議員連盟でもやりましたけども、市民にどんどん知らせていくというんですか、市民が現状を認識する機会をつくっていく必要があると私は思います。幸いに来月の19日に２月以降、２回目の防衛セミナーということをやってくれることになっていますので、防衛省は、沖縄防衛局はこういうのは継続してやっていきたいという話をしているので、多くの市民の皆さん方にはこのセミナーにご参加いただいて、今、日本を取り巻く本当に大きな国がどういう考えを持って、どういう体制を整えているかということを十分に理解する、そういう機会にしていただきたいと思います。

次の質問ですけども、国民保護計画、有事に伴う島外避難を拒否した市民の対応ということですけども、これは意見交換会で出た質問でありますけれども、私の周りにもほとんどのお年寄りは避難しないということを断言しているので、こういう質問をしました。そのときの対応について見解を伺います。

◎総務部長（上地俊暢君）

国民保護計画における島外避難についての拒否した市民等への対応についてお答えいたします。

国民保護法においては、市民も避難等に協力することが規定されており、現在検討中の避難実施要領については、原則全住民に避難していただくことで検討を進めております。一方、国民保護法においては、避難を強制する措置は規定されていないことから、避難を拒否される方については、ご理解いただけるよう話をさせていただくという対応になるものと考えているところでございます。

◎下地信男君

これは、最終的には説得するというところに避難計画にはあると思いますけども、２番目の、家畜やペットの取扱いについても担当職員に話をすると、今出てくる課題を一つ一つ県と国と協議をしながら、それをどうするかという議論をしているので、全体を一挙に求められてもなかなか回答できないというのがありました。大変難しいというんですか、これまでにない計画をつくっているわけですから、職員も大変

にしているなと思いました。国、県との連携も必要ですから、立派な計画というんですか、安心できるような形をぜひつくっていただきたいと思います。②は割愛します。

日米共同訓練について、私の所見ですけども、昨日自衛隊と、それから海兵隊の共同訓練のお互いの慰労会というのがあって、そこに招かれて参加しましたけれども、自衛隊反対の方々は、これは戦争のための準備の訓練だという話を盛んにしていますけども、ここに参加された方々の隊長というんですかね、隊長といろいろ話を聞きましたら、やはり災害時に道路が通れなくなったらそこを開ける、それから物資が不足したらその物資をちゃんと届けると、そういう役割を担った部隊であるということをはっきり申し上げておりました。何も戦争の準備ではなくて、宮古島が大きな災害に見舞われたときに自衛隊と共に率先して救助や、それから安全体制を構築していくということを話しておりましたので、本当に頼もしい思いがして、またなかなか友好的で、いろいろクイチャーも踊ったりしましたけど、本当にむしろ楽しいひとときを過ごすことができました。

次の選挙についてです。これは、３月にも質問をしてお願いしましたけども、やはり投票率を上げなくちゃいけないということです。昨年の衆議院選挙においては、県内の投票率が54.44％だったのに、本市は44.14％、10ポイントも差があって、大変不名誉な結果となっています。９月13日に執行される県知事選挙に向けては、やはり投票率を高めるといいますか、選挙に参加する市民、そういう呼びかけが必要です。県行政のトップリーダーを決める選挙、これを参加しないというのはもう本当に民主主義が崩壊してしまいます。多くの市民が投票できるような仕組み、環境をぜひつくっていただきたい。選挙管理委員会の所見をお聞きします。

◎選挙管理委員会委員長（下地勇徳君）

２月に執行されました衆議院議員総選挙において、本市の投票率は44.14％となり、前回令和６年10月27日執行を約５ポイント上回りましたが、県内市町村において最下位という極めて厳しい結果となりました。衆議院議員総選挙の期日前投票所につきましては、日程が極めて短かったことから、市役所の１か所のみでの運用となり、これまで実施していた４地区の地域の有権者の皆様にはご不便をおかけしたことを認識しております。９月13日に執行予定の沖縄県知事選挙における期日前投票所につきましては、会場や人員の調整を行い、市役所のほか城辺出張所、伊良部公民館、下地公民館、上野公民館でも実施したいと考えております。これらの投票所の確保や環境整備に加え、投票を済まされた方のうち希望者に対し投票済書を交付し、投票行動の促進を図ります。また、明るい選挙推進協議会と共に啓発、宣伝や、選挙公報を多角的に展開し、若年層を含む幅広い世代への周知徹底を図ってまいります。本選挙管理委員会としましては、引き続き市民の皆様が安心して投票できる環境づくりに努め、投票率の向上、ひいては健全な民主主義の発展に貢献してまいりたいと考えております。

◎下地信男君

旧郡部でやるというのはもちろんお願いしたいところですけども、他県では大型店舗を活用してやっているというところで効果が上がっているというところもあります。ぜひ新しい手法も取り入れて、投票率の向上に取り組んでいただきたいと思います。ありがとうございます。

飛ばしまして、消防行政から質問させてください。宮古島市消防本部の消防職員の適正規模についてということで、現在の定数職員と、それから現状、実態、実際の職員数についてお聞きします。

◎消防長（狩俣勝彦君）

消防職員数の現状については、条例定数93名に対し83名の職員数となっております。なお、定員適正化計画における令和15年度の目標値は82名となっております。

◎下地信男君

適正化計画ではさらに１名減という方向だということですけども、昨年９月の定例会において、消防職員が休暇中にもかかわらず現場に駆り出されるという状況を指摘して、もっと増やすべきではないかと質問しました。それに対して、当局は、今きちんとした、一般財団法人消防防災科学センターというところに宮古島市の環境に適する職員の適性調査をしているという答弁がありましたけども、３月にはその成果が出るという話でしたので、その結果、成果というのはどのような形になっているのか教えてください。

◎消防長（狩俣勝彦君）

消防力適正化配置等調査結果についてですが、現在消防本部では救急救助活動に当たる警防要員が全ての災害に対し業務で対応している現状を踏まえ、試算が行われました。その結果、指揮隊救助出動において、兼務ではなく、専属の隊員を配置することが望ましいとの考えに基づき、現在の職員数83名に対し124名と試算が示されております。

◎下地信男君

今の兼務でされている職員を、兼務をほどいて単独でやるということになると124名というのが宮古島市の環境においては適正であるという話ですね。この数字を市長はどう受け取るかということになりますけども、このとおりいくともう40名ぐらい増やさないといけないので、とてもではないかというふうに思いますけども、でも改善すべきは改善すべきだと思いますし、職員が休暇中に駆り出されるということはもうあってはならないと私は思います。これ全てを一挙に解消するというのはなかなか難しいと思いますけども、この難しい局面、市長の見解をお伺いします。

◎市長（嘉数　登君）

市民の安心、安全の確保や観光需要の増加に伴いまして、市の防災力を高めるために自助、共助、公助の３つの要素が連携することが不可欠であるというふうに考えております。その中で、消防団や地域の自主防災組織と合わせ、公助の部分である消防体制強化の必要性は私としても認識しております。今後は本調査の結果を踏まえ、本市の定員適正化計画による定員管理、それから財政状況、消防職員の労務管理、これからの人口推移や消防需要等を総合的に勘案し、適正な消防力強化に努めてまいりたいというふうに考えております。

◎下地信男君

市長、ある程度今消防のほうと意見交換をして、取りあえず何名はという具体的な数字は出ていないんですか。消防長か。消防長、お願いします。

◎消防長（狩俣勝彦君）

これまでも適正な人員については、人事当局と調整を行っております。今後も適正な人員配置については、話合いを行っていきたいと思っております。

◎下地信男君

消防業務というものが本当に人命を救う、市民の財産を守るという観点からすると、もちろん市職員は

全体大事にしなくちゃいけないという部分がありますけれども、その辺が職員が大変な思いをしている、休暇もなかなか十分取れない、家族と一緒にいる時間にもちょっと出てこいという環境が本当にいいのかどうかということ、そこがネックです。その辺は改善してほしいという思いです。そういう知見を有する一般財団法人消防防災科学センターというところの判断もまた十分に吟味する必要があると思いますので、市長には前向きにお願いしたいと思いますが、去年の９月は、市長はやると言ったような気がしますが……やるということですね。どうぞご検討をお願いします。

次に、福祉行政です。食の自立支援事業受託事業というのがありますけれども、これは高齢者へのなかなか食事が作れない方々への配食サービスの事業ですけれども、事業の内容を簡単に説明をいただけますか。

◎福祉部長（守武　大君）

食の自立支援事業は、在宅で生活する高齢者に対し、食の自立の観点から、十分なアセスメントを行った上で計画的かつ継続的なサービスを提供することにより、自立した生活の継続と生活の質の確保を図ることを目的として、高齢者支援課において実施しております。事業の実施に当たっては、市が委託する事業者において、栄養バランスに配慮した食事の提供と併せて配達時の安否確認を行っております。

◎下地信男君

福祉部長、現在この受託している業者は何者か教えてください。

◎福祉部長（守武　大君）

現在の受託事業者は４者になります。また、障がい福祉課において実施している障害者に対する配食サービスの受託事業者は２者となっております。

◎下地信男君

高齢者の皆さん方に配食している業者から少し相談を受けて、４者のうち３者から相談を受けました。従来ですと見積りを市のほうから依頼があって、見積りを参考に今年は1,000円にしようとか2,000円にしようとか、大体金額は決まっているんですけど、昨年そういうのがなくて、年明けて２月頃にもう令和８年度は1,000円でいくぞという話があって、ところが昨今の物価高、1,000円ではなかなか厳しいということがあるようです。1,000円だとどうしても料理を圧縮するというか、量を少なくしたり、内容を変えないといけないんですけど、配食した高齢者の皆さん方が、最初に見せた写真と違うではないかという話があって、いろいろトラブルがあるようなことで、なぜこういう形になったのかということを募集要項を調べたら、その中に、私は市役所が上から目線で仕事をしているなということを感じてしまいました。質問は、もうファクスかメールでお願いします。電話や窓口での口頭による質問は受け付けませんとか、説明会は開きませんというようなことがあって、こういう福祉サービスをしているのは、ましてやこれは配食と一緒に見守りもお願いしているんです。こういった市民に寄り添う事業を、業者に対して意見を聞くこともなく、1,000円でやってくれ。この業者は、1,000円になるともうこのような質素な弁当になりますよと提示しても、それはそれでいいと。こういうサービスの在り方があるのかなと思って、疑問というか、ある意味市役所の仕事は何じゃと思いましたけども、福祉部長、これなぜ見積りを徴収しなかったかということからお聞きしましょうか。本来は業者から見積りを取って、その価格に、昨今の物価高の中で当然業者からはプラスアルファで上がってくると思われるんですけど、これは、いや、1,000円ですと、前年度同様

でお願いしますと話があったのはなぜなのかということを聞かせてください。

◎福祉部長（守武　大君）

本事業の委託料につきましては、事業仕様書に基づく単価設定となっております。委託料につきましては、令和６年度から１食当たり1,000円に引き上げておるところで、それを踏襲する形で今年度も料金設定をしておりましたので、見積りを取っていないという状況でした。非常に配慮が足りなかったと思っております。

◎下地信男君

福祉部長、厳しいことを言うかもしれませんが、本当に配慮が足りません。さらに、お願いですけど、事業者の皆さん方から聞くと、本当に大変です。城辺、保良のほうに配食して、いなければ平良辺りに行って、ただもう一度行かなくちゃいけないんです。こういう燃料費もかかる。それから、そういう条件も付しているという中で、令和６年度から1,000円で固定してやっているということは、なによりはこの業者の皆さん方のことを市役所が聞く耳を持たないというのはおかしいですけど、聞かないんです。そういう環境になっていると私は聞きました。これをぜひ改善したいんですけど、他の地域は、一回配達に行っていなければ、もうそれはそれでよしと。再配達するんだったら、幾らかの上乗せをするということをやっているということをこの人たちは調べて、私に言っていました。言いたいのは、サービスを提供する、受けている方々と、皆さん方と、もしかしたらエリアの選定とか、いろんなことが業者の皆さん方から意見が出てくると思います。これは真摯に聞いていただいて、本当によりよいそういったサービスを組み立ててほしいなと思います。これいかがですか。

◎福祉部長（守武　大君）

私のほうにも受託者から、食材費、配達に関する経費の上昇など、昨今の物価高騰による影響についての相談がありました。本市といたしましては、このような状況を踏まえ、受託者が安定的に事業運営が図れるよう、委託料の見直しについて対応を現在進めているところです。それと、下地信男議員がおっしゃったように、配達する場所とか、そういう不在だったときの対応とか、それも含めて検討していきたいと思います。

◎下地信男君

付け加えますけども、募集要項の中に、ファクスかメールのみで、電話や窓口での口頭による質問は受け付けませんというのも除いてください。やはりお互いのコミュニケーションの中で事業を進めていくべきだと思います。

次に、点字式ごみ袋の状況ですけども、市民に親しまれてきたという点字式ごみ袋が、一時期は50万枚発行したという例があった点字式ごみ袋が今急激に減少しているという状況を聞きました。点字式ごみ袋の販売状況についてお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

点字式ごみ袋の販売数は、令和５年度では32万9,000枚、令和６年度では26万枚、令和７年度は22万4,000枚となっております。

◎下地信男君

市は、この減っている理由、状況について、その要因については何なのかということを分析しているこ

とがあればお聞かせください。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

販売数が減っている理由についてですけども､直接ユーザーからの意見の聞き取りを行っていないので、あくまでも想定でございますが、点字式ごみ袋はかつて四角い形をしていたんですが、これが視覚障害者や視力が衰えた方にとっては上下が分かりにくいということで点字式ごみ袋を2013年に導入したんですけども、2023年に形状をU字型に変更したと。これによって上下の判別は、点字がなくても容易にできるといったことで点字式の販売量が減っているのではないかというふうに考えております。

◎下地信男君

点字式ごみ袋が減ってきているということは、点字式ごみ袋を作るというのはコストが多分かかっていると思います、普通のごみ袋より。市は、こういう減ってきている点字式ごみ袋を今後どういう取扱いというか、なくしていくのか、いわゆるコストがかかっているわけですから、今後の方針についてお伺いします。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

点字式ごみ袋は、下地信男議員おっしゃるとおり製造コストがかかっております。現在点字を打たなくても、ごみ袋の製造原価そのものが高騰しておりますので、今後点字式ごみ袋は加工用の袋がなくなり次第、終了したいというふうに考えております。

◎下地信男君

今の環境衛生局長の答弁は、点字式ごみ袋はもう廃止していくという方法で理解していいですね。これは、市民のごみだけの問題でなくて、私が理解しているのは、ごみ袋への点字入力というのはもう身障者の就労支援所などでも行っていて、そういう施設については、その請負施設については、とても大事な事業だという声があります。そういうことを踏まえると、何らかの形で、赤字を抱えてさらにやれとは言いませんが、こういう部分の補完というのも私は必要ではないかなと思うんですけど、環境衛生局長の見解をお聞かせください。

◎環境衛生局長（梶原健次君）

ごみ袋への点字加工については、直接的な目的は視覚障害者等への配慮ということで、その加工に伴って副次的な効果として就労支援も果たしてきておりました。しかしながら、U字型ごみ袋を導入したことで事業目的はもう達成しておりますので、副次的効果のほうはそのために持続する必要がございません。しかしながら、これまで加工に携わった方々に対しては、何らかの支援が必要ということであれば、清掃などの軽作業ということも検討できますので、市役所のほうに別の就労支援となるような事業はできないかということでご相談いただければと思います。

◎下地信男君

那覇市と宜野湾市が新しくこの点字式ごみ袋を導入したいという、そういう取組があるようです。２つの自治体がこのごみ袋に対してどういったメリットを見いだしてやるのかは分かりませんけれども、でもそういった状況も含めて、また新たな市民に還元できるような、そういうメリットがあるかもしれませんので、環境衛生局長、その辺も注視していただけませんか。ありがとうございます。

次に、教育行政です。児童生徒の学力向上の取組についてお伺いします。

◎教育長（宮城克典君）

本市の児童生徒の学力については、若干低いという指摘がなされております。本市児童生徒の下回っている状況という一つの要因として、小学校低学年段階における基礎学力の定着不足も一つの要因ではなかろうかと分析しております。そこで、３年前から低学年における基礎学力の向上に焦点を当て、平良第一小学校及び平一幼稚園を本市の研究指定校に位置づけ、実践的な研究を進めております。その結果、現在同校の平均正答率は全国平均とほぼ同率の状況になっています。確かな成果が表れていると認識しております。今後はこの平良第一小学校での実績をモデルケースとして他校へと速やかに普及させることで、宮古地区全体の学力向上を推進してまいります。あわせて、全ての学びの土台となる幼児教育の質を高めるため、今年度は保育園、幼稚園、小学校職員を対象とした連絡会や研修会などを年間30回以上開催してまいります。さらに、これら指導力の向上に向けた取組に加えて、ＩＣＴ教育の整備を一層進めるなど、指導体制と施設環境の両面から、誰一人取り残さない教育環境の充実を図ってまいります。

◎下地信男君

基礎学力の向上に取り組んだところ、全国平均並みにまで達しているということですけども、私が質問した趣旨は②にあります。家庭と地域との連携についてです。琉球大学の先生だったと思いますけど、宮古島市で講演された際に、これはもう十四、五年ぐらい前の話ですけど、沖縄の家庭教育力はとても低いと。基本的生活習慣の乱れが低学力の原因であるということをずばり指摘していました。生活習慣と学力は密接な関係にあるということで、家庭教育の充実、大切さを訴えていましたけど、先ほども狩俣政作議員が地域巡回、いわゆるＰＴＡの皆さん方のパトロールというのも、最近はなかなかやっていないと思われます。これが地域全体の教育力の低下につながっていると。いわゆる学校では、先生方が一生懸命やっているんだけども、大事な部分の家庭ではどうなのと。きちんと基本的な生活習慣はできているのか。スマートフォンなども、もう寝るまでずっと使っていないかとか、家庭学習はどうなっているかとか、そういう本当に大事な連携すべきところが、学校教育の部分は見えるけども、家庭とか地域の教育力を高めていくという取組はほとんど見えないです。それが実際だと思います。学校と家庭と地域で３者で連携して子供たちを育てるとあった、昔のこういう考え方がもうどこか行ったのかなという気がして、心配していますけど、その辺の教育長の見解をお聞かせください。

◎教育長（宮城克典君）

下地信男議員がおっしゃるとおり、学校が社会や家庭、地域と連携、協働し、未来の創り手となる子供たちを共に育むことはとても大切なことだと思います。昨年、2025年の全国学力・学習状況調査の質問紙というのがございまして、１日当たりどれぐらいの時間勉強するかという質問に対して、小学校で全くしないという率が6.3%、中学校で全くしないが12.2%、いずれもその前の年度より増加しています。ですから、学校だけではなく、各ご家庭でも家庭学習の習慣化、そして定着、基礎学力がつくには、先ほど申したように家庭での教育力というのも必要になります。ぜひご協力をお願いしたいと思います。

それとあわせて、かつては学力向上に関しては地域、学区単位とか公民館単位での学事奨励会等もあって、地域の子は地域で育てるという意識が非常に高かったように思います。また、児童生徒数も多くて、様々な活動、スポーツ面での応援とか活発であったというふうに思いますが、市町村合併とか、あとコロナ、少子化、そういった状況で学校、家庭、地域との連携が停滞ぎみで、少し希薄になっているというふ

うに感じます。今年度、コミュニティ・スクールが全学校に導入されますので、そういった中でもぜひ論議を深めて、学校、地域、そして保護者と一体となって学習意欲を高めていければというふうに感じております。

◎下地信男君

教育の重要性、地域を担う子供たちを本当に前向きに、大人になっても道の真ん中を堂々と胸を張って歩けるような宮古島市の出身の子供たち、こういうのを育てていきたいですね。

次に、戻りまして農業関係です。３の農林水産業についてですけども、上地長山地区の整備事業についてということで、去る３月定例会で、今年度事業採択をして進めていたけれども、やはり同意を取るのが大変だということで、ただその同意を取るのが大変な理由として、共有地が多いということで足踏み状態になっているということでした。農家と協議しながら進めたいという答弁をいただきましたが、その後どういうふうになっているのかお聞かせください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

上地長山地区の整備事業でございます。３月定例会でも答弁しましたけれども、地区内に共有地の筆数が多く点在しておりまして、また相続人も多数おります。そのことから、事業への同意取得に時間を要しているところでございます。これは現状も変わっておりません。当地区は、地元農家からの早期の整備事業採択の要望が強いことは承知しておりますので、まずは早期に地元説明会を開催し、共有地問題の解決や同意取得等を推進委員や受益者の皆様方と協力しながら実施し、沖縄県と調整を図りながら、早期の事業採択に向けて取り組んでまいります。

◎下地信男君

この地区には、個人の方ですけど、受益農家の方がもう自分で足で同意をもらって一生懸命積み上げてきたけど、なかなか事業採択に至らないということがありました。県に言っても、囲んでいる土地が26ヘクタールということで、県事業として取ってくれないかという話をしても、やはり条件は同意が必要だということでした。担当課に聞いても、同意が取れている部分と取れない部分を２つの地区に分けてやろうかということもいろいろ検討しているようですけど、何より市役所と農家の皆さん方の、本当にここも意思疎通というんですか、コミュニケーションというのか、どっちかといったら行政からの投げかけが弱いのかなという気がします。採択に向けては、お互い協力しなければいけない部分がたくさんあると思うので、農林水産部長おっしゃるように、地元農家とまず話合いをしてみてください。これはぜひお願いしたいと思います。

次に、竹アラ地区の整備後の沈砂池の安全対策、これ侵入防止柵がありません。しかも、学校が近く、市営住宅が近く、子供たちがよく見られるという状況なので、近所の方が心配してお願いしております。沈砂池の侵入防止柵についてお答えをお願いします。

◎農林水産部長（下地貴之君）

竹アラ地区の西側沈砂池につきましては、下地信男議員ご指摘のとおり、常に水が張っている状況でございます。今後、水を排出する対策工事を行う予定でございます。その排水対策工事と同時期に、安全対策のため侵入防止柵の設置も発注する予定でございます。

◎下地信男君

この竹アラ地区のほかの沈砂池には、きちんと立派な防止柵があったのですが、２か所まだですよね。設置するということなので、もう急ぎ設置をお願いします。

次の農業振興のための地力増進の取組についてということで、もうかねてというか、当然のことながら、農業振興のためには土をどういうふうにして作っていくかというのが大きな課題だということですけども、今市のほうでは、有機質肥料をばらで配布しようということを農家に希望者を募っているという状況になっています。これは、対象が肥料登録された肥料に限るということを聞きました。それはそれでいいんですけども、製糖工場の関係者に聞くと、製糖工場にはもう混合堆肥、もうそういう肥料、畑に還元したい副産物というんですか、これがたくさんある。これを何とかしてほしいということがあります。なぜこういう有機質のばらの対象に製糖工場などのバガスや混合堆肥を対象にしないのか、何か理由があるんですか、お聞かせください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

肥料登録された理由も含めてお答えします。

事業実施につきましては、補助事業の公平性及び適正な執行を確保する必要があるため、法令による登録申請に基づき品質が確認され、販売の届出がされている肥料を対象としております。それから、製糖工場の混合堆肥でございます。製糖工場で製造、排出されるバガスや混合堆肥について、各工場に聞き取りを行っております。製糖副産物を利用した資材のうち、宮古製糖の混合バガス１種類のみが特殊肥料として前年度に沖縄県に対して届出がされていることを伺っております。製糖工場側とまだ協議はされておりませんけれども、そのため現時点では対象品目ではございませんが、製糖副産物の利活用促進による循環型農業の確立、地力増進の観点から、補助事業への対象も含めた活用の方向性につきましては、現在検討しているところでございます。

◎下地信男君

今農林水産部長がおっしゃるような資源循環型の仕組みづくりというのが極めて大事かなと思っていて、宮古製糖は県に特殊肥料として届出をしたということですけども、ということは沖縄製糖も届出をすれば、これは肥料として認定されるという可能性は高いですよね。同じものができているわけですから。私は、次の質問の中で、狩俣地区に設置された堆肥製造施設の稼働状況、これ平良敏夫議員への答弁で状況が分かりました。座喜味一幸前市長が市長をされているときに、ぜひ上野資源リサイクルセンターの拡充をして、製糖工場から出る堆肥であるとか畜産農家の牛ふんを活用して、そして今散布する機材がないということで、マニアスプレッダーというのも常備し、製造施設の製造拠点、配布する拠点というものを集中して大々的に予算を投資してやるべきだという提言してきたんですけど、残念ながら各地区に１つずつ造っていくということになりました。それの第１弾が狩俣地区です。狩俣地区なぜ動かないかという答弁に、組織の問題だと。運営する組織の確立がなかなか難しいのであれば、私はこの上野資源リサイクルセンターを拡充して、有機質肥料をつくる、集中的にここに予算を投入して、配布まで、マニアスプレッダーという機械今あるので、こういうことを予算を集中して、人間も投入してやっていくべきだと思います。それはもう市役所にしかできません。行政しかできない。そういう多くの農家の期待に応えるような体制づくりは、各地区任意で組織をつくるというのでは無理です。ぜひこれを考えていただきたいんですけども、市長の見解を聞かせてください。

◎農林水産部長（下地貴之君）

上野資源リサイクルセンターは、現在指定管理事業者により運営されており、剪定枝、バガス、牛ふん、汚泥等を活用して堆肥製造を行っております。本施設では、製造された袋単位での堆肥販売をはじめ、マニアスプレッダーによる圃場整備事業の現場への堆肥散布が行われております。マニアスプレッダーの台数、職員数等の要因も重なりまして、農家個人の圃場への散布は行われていない状況となっております。上野資源リサイクルセンターにかかわらず、マニアスプレッダーの導入は本市全体の有機質資材の利活用促進につながるため、市としても循環型農業の確立に向け、国、県の補助事業の活用も検討しながら、取り組んでいきたいと考えております。

◎下地信男君

農林水産部長、上野資源リサイクルセンターは指定管理者が運営してやっているというのはよく知っています。ただ、この施設を造るのは市です。市がどの程度の規模の農家の需要に応え得る規模を造ってほしいと言っているんです。材料はありますよね、製糖工場、畜産農家、枝葉もあります。枝葉は今山積みです。見たら、十分に消化し切れていない。そういう環境を見たときに、狩俣の取組も見ながら、いや、これは一極に集中して、予算を思い切り投資して、農家のそういう需要に応えていくべきだと私は思います。工場から出る廃棄物、副産物も活用して、それが資源循環型ではないですか。そういうことをぜひ検討していただきたいと思います。

すみません。教育委員会の質問を１つ忘れました。下地小学校の環境整備、環境の問題ですけども、下地小学校の入り口近くに鉄骨ビニール温室があります。それがもうこの鉄骨ビニール温室が見えないぐらい樹木が生い茂って大変です。これを何とか撤去してください。いかがでしょうか。

◎教育部長（久貝順一君）

鉄骨ビニール温室の撤去についてお答えいたします。

現場については、令和８年６月11日に現場を確認済みです。あと、近隣の畑等にも影響が及んでいるとの話も伺っておりまして、撤去に向けて現在見積り等の依頼をしておりますので、撤去に向けて取り組んでまいります。

◎下地信男君

ありがとうございます。ついでに、隣の飼育小屋ももう邪魔になっているということです。それから、もう一つ、下地小学校からも出ていると思いますけど、要望が、体育館の雨漏り、雨の日はもう赤いバケツが並んでいます。そして、床はぬれて、壁はもう水で膨張しています。それもぜひ改善していただきたいと思います。

最後の質問になります。児童生徒選手派遣補助事業の拡充について。少年野球チームの指導者からの要望がありました。市内ではチーム数がもう激減して、なかなか練習試合もままならないような状況になっているようです。子供たちは、それでも、沖縄一になるぞという気持ちを持っている、それを沖縄本島に遠征できる、子供たちのやはり対戦試合経験を増やして強化を図っていきたいという、遠征費の支援要請があります。これら遠征に向けた強化のための補助支援はできないかお聞かせください。

◎教育部長（久貝順一君）

下地信男議員のご質問の中では、練習試合のための遠征という意味合いかなと思っております。選手派

遣費につきましては、島外の公式大会への補助を目的としておりまして、令和８年度も保護者等の要望もありまして拡充等を行っております。練習試合につきましては、現在は事業の目的とは少し外れているところもありますので、練習試合における派遣費の補助については、現時点では考えてはおりません。

◎下地信男君

議長、声が小さいよ。明快な答弁ありがとうございます。宮古島市の小学生バレーボールの指導者に前泊清先生という方がいます。この人の教えた小学校チームは、もう全国大会まで行きます、沖縄を制して。とても抜群の指導力を持った先生だと有名です。私も縁があってこの先生に娘がお世話になって、全国大会まで連れていってもらいました。この前泊先生の指導方針というのが、チームを編成したら、すぐ沖縄本島にチームを連れていくんです。そこで試合をさせて、度胸をつけるというんですか、そういう臆しないように経験を積ます。石垣市にも私も行きました。やはり離島の子供だから、そういうところがあるということを理解して、そういう大会の前に出向いて、何試合か試合をして度胸をつけさせるというか、そういうことをしていました。今開催中のＦＩＦＡワールドカップの日本代表選手の26名中22名が海外登録だと聞きました。やはり海外のチームの中に入って、海外のトップアスリートともまれているから、臆することなく堂々とプレーできるのかなと思います、ですよね、砂川浩平議員。ワールドベースボールクラシック、アメリカとの決勝戦、大谷選手が、憧れるのはやめましょうと言いました。憧れてしまうと、もう萎縮してしまうよと。世界のトップクラスになるにはやはり気持ち、ハートが負けては駄目だよということだと思います。やはりその辺を宮古島市の子供たちを鍛えていただきたいなという思いで質問いたしました。

最後に、所見を申し述べます。市が実施した、地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会、これは市民に開かれた市政運営として高く私は評価しております。多様な意見、あるいは苦言が出る中で、市長自らがマイクを持って、誠意を持って対応している姿がとても印象的でありました。誠意はやる気の裏返しという言葉がありますけれども、市長、これからも誠意を持って山積する課題には堂々と自信を持って、職員をまとめて取り組んでいただきたいと思います。

以上申し上げて、私、下地信男の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（平良和彦君）

これで下地信男君の質問は終了しました。

これをもちまして一般質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩し、午後の会議は１時30分から再開します。

休憩します。

（休憩＝午後零時01分）

再開します。

（再開＝午後２時05分）

この際、日程第２、議案第46号から日程第16、陳情書第３号までの計15件を一括議題とし、各所管委員長から審査結果報告を求めます。

◎総務財政委員会委員長（富浜靖雄君）

委員会審査結果報告書。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。総務財政委員会委員長、富浜靖雄。

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第109条の規定により報告します。

議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）、原案可決。

議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正について、原案可決。

続いて、陳情書審査結果報告書。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。総務財政委員会委員長、富浜靖雄。

本委員会は、付託された陳情書を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第142条の規定により報告します。

陳情書第２号、宮古島での日米共同訓練とオスプレイ飛行の中止を求める陳情書、不採択とすべきもの。

不採択の理由。陳情書第２号については、「自国を守る抑止力を高める取組で、今回の訓練が戦争につながるものではない」「有事を起こさせないという考えに基づき、抑止力や対処能力を高めることは必要。実施に当たっては、必要最低限の範囲で行われるべき」との反対意見と、「訓練を実施後、米軍の訓練が宮古島で常態化することへの懸念やオスプレイ飛行に関する安全性への不安がある」との賛成意見があり、採決した結果、賛成少数で不採択とすべきものと決した。

◎文教社会委員会委員長（下地信広君）

委員会審査結果報告書。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。文教社会委員会委員長、下地信広。

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第109条の規定により報告します。

議案第45号、令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）、原案可決。

議案第47号、宮古島市介護保険条例の一部改正について、原案可決。

議案第48号、宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について、原案可決。

議案第49号、財産の取得について、原案可決。

議案第50号、議決内容の一部変更について、原案可決。

議案第51号、議決内容の一部変更について、原案可決。

議案第52号、議決内容の一部変更について、原案可決。

議案第53号、宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定について、原案可決。

陳情書審査結果報告書。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。文教社会委員会委員長、下地信広。

本委員会は、付託された陳情書を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第142条の規定により報告します。

陳情書第４号、渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める陳情書、採択すべきもの。

採択の理由。陳情書第４号については、陳情書の趣旨を了とし、全員異議なく採択すべきものと決した。

閉会中、継続審査の申し出について。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。文教社会委員会委員長、下地信広。

本委員会は、下記の事件について、閉会中もなお審査を要するものと決定したので、会議規則第110条の規定により申し出ます。

陳情書第３号、航空自衛隊宮古島分屯基地で発見されたダイオキシン類及びＰＦＡＳへの対応を求める陳情書。

理由。陳情書第３号については、閉会中も慎重審査を要する。

◎経済工務委員会委員長（狩俣勝成君）

委員会審査結果報告書。

宮古島市議会議長、平良和彦殿。経済工務委員会委員長、狩俣勝成。

本委員会は、付託された事件を審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第109条の規定により報告します。

議案第44号、令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）、原案可決。

議案第54号、宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定について、原案可決。

◎議長（平良和彦君）

これで委員長報告は終わりました。

これより委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑があれば発言を許します。

◎國仲昌二君

総務財政委員長に質問します。

陳情書第２号についてなんですけれども、不採択の理由の中で、下から２行目の右側のほうから、オスプレイ飛行に関する安全性への不安があるという意見があったということですけれども、具体的にはどういった意見があったのかお聞かせください。

◎総務財政委員会委員長（富浜靖雄君）

具体的にというのは、実際有事になったときの動きの訓練をしているということはそういう心配の声もあるという意見と、議会から何らか市民の側に寄り添った意見を出す必要があるという意見の２つをお聞きしております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

（「質疑なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これで質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、日程第２、議案第46号、宮古島市職員の給与に関する条例の一部改正についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第46号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第46号は可決されました。

次に、日程第３、議案第47号、宮古島市介護保険条例の一部改正についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第47号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第47号は可決されました。

次に、日程第４、議案第48号、宮古島市母子及び父子家庭等医療費助成に関する条例の一部改正についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第48号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第48号は可決されました。

次に、日程第５、議案第43号、令和８年度宮古島市一般会計補正予算（第２号）に対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第43号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第43号は可決されました。

次に、日程第６、議案第44号、令和８年度宮古島市水道事業会計補正予算（第１号）に対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第44号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第44号は可決されました。

次に、日程第７、議案第45号、令和８年度宮古島市下水道事業会計補正予算（第１号）に対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第45号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第45号は可決されました。

次に、日程第８、議案第49号、財産の取得についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第49号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第49号は可決されました。

次に、日程第９、議案第50号、議決内容の一部変更についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第50号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第50号は可決されました。

次に、日程第10、議案第51号、議決内容の一部変更についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第51号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第51号は可決されました。

次に、日程第11、議案第52号、議決内容の一部変更についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第52号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第52号は可決されました。

次に、日程第12、議案第53号、宮古島市城辺地域密着型介護事業所指定管理者の指定についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第53号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第53号は可決されました。

次に、日程第13、議案第54号、宮古島市農畜産物処理加工施設指定管理者の指定についてに対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより議案第54号を採決します。

本案に対する委員長報告は可決であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、議案第54号は可決されました。

次に、日程第14、陳情書第２号、宮古島での日米共同訓練とオスプレイ飛行の中止を求める陳情書に対する討論の発言を許します。

◎國仲昌二君

陳情書第２号に賛成の立場から討論いたします。

陳情理由に、事故率が民間航空機の事故発生率0.001％に対して、米海兵隊2.4％、空軍6.23％と非常に高いということを指摘しております。昨年12月、アメリカ政府監査院と米海軍航空システム司令部は、オスプレイの重大事故率の2023、2024会計年度に、それ以前の８年間の平均を３割から８割上回ったとの報告書を公表しています。2010年以降で35人死亡、そのうち2022年度以降が20人の死亡となっており、近年の重大事故率の上昇を示しております。日本においても、2023年、屋久島沖での米軍オスプレイの墜落事故、2024年の与那国町での陸上自衛隊オスプレイ落下事故など記憶に新しいものがあります。このように異常なまでに事故率の高いオスプレイが飛来する宮古空港周辺は、西側や北側は民家等が密集し、東側には大型商業施設や宿泊施設が隣接しており、住民の不安は高まっております。日米両政府は、なぜ市民に不安を与え、危険にさらしてまで訓練をするのか憤りを禁じ得ません。市民の安心、安全な生活を守る観点から、異常なほど事故率の高いオスプレイの飛行中止を求める陳情に賛成の立場の討論といたします。

◎議長（平良和彦君）

ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより陳情書第２号を採決します。

本件に対する委員長報告は不採択でありますので、会議規則第69条の賛成者先諮の原則に基づき、本件

は挙手により採決します。

なお、挙手のない者は否とみなします。

お諮りします。陳情書第２号は採択することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手少数）

◎議長（平良和彦君）

挙手少数であります。

よって、陳情書第２号は不採択されました。

次に、日程第15、陳情書第４号、渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める陳情書に対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより陳情書第４号を採決します。

本件に対する委員長報告は採択であります。委員長報告のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、陳情書第４号は採択されました。

次に、日程第16、陳情書第３号、航空自衛隊宮古島分屯基地で発見されたダイオキシン類及びＰＦＡＳへの対応を求める陳情書については、文教社会委員長から会議規則第110条の規定により、申出書のとおり閉会中の継続審査の申出がされております。

お諮りします。日程第16、陳情書第３号については、文教社会委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査に付することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、陳情書第３号は文教社会委員会に閉会中の継続審査に付することと決しました。

これで市長提出の議案の審議は終了しましたので、当局の皆さんは退席してください。

休憩します。

（休憩＝午後２時26分）

（当局退席）

◎議長（平良和彦君）

再開します。

（再開＝午後２時27分）

次に、日程第17、意見書案第３号、渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書を議題とし、提案者からの提案理由の説明を求めます。

◎文教社会委員会委員長（下地信広君）

意見書案第３号、渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書。みだしのことについて、別紙のとおり議会の議決を得たいので、会議規則第14条第２項の規定により本案を提出します。令和８年６月29日、宮古島市議会議長、平良和彦殿。文教社会委員会委員長、下地信広。

本文を読み上げて提案理由の説明に代えさせていただきます。

渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書案

離島に住む患者の通院費等負担軽減策として、2017年から県1/2・市町村1/2で県の支援が始まりました。2022年から国の支援が始まり、負担割合は、国８、県１、市町村１となり支援対象も増えてきました。これまでこの支援に多くの患者・家族が助けられていて、とても有難い支援だと感謝しております。

今年度から更に沖縄県の予算が増額され、沖縄県離島患者等通院費支援事業補助金交付要綱が一部改正されています。一般不妊治療を受ける夫婦や不育治療・検査を受ける夫婦、未熟児及びその親権を行う者が対象に加わりました。付き添い要件も見直され、付添人の関係性が取り除かれました。「通院に同行し、支援する者として市町村が認めるもの」と改められ、また、（離島患者等が18歳未満の場合は２名まで）対象とすると変更されています。とても前進した内容だと思っています。

しかし、各市町村の支援内容を見ますと、県の要綱には入っていないものをそれぞれの市町村が独自に行っているケースがあります。例えば、宮古島市では育成医療の子供や難聴治療の必要な子供も支援しています。少子化対策、人口流出を防ぐ意味でとても大切だと思います。

多良間村では、心臓手術の方も支援対象にしています。心臓の弁置換術やバイパス手術は、県立宮古病院でも県立八重山病院でも行っていません。18離島市町村の医療機関では出来ないので治療の際は沖縄本島の医療機関を受診します。多良間村は心臓病の方の大変さを考え支援対象としています。他の市町村も足並みを揃えて支援する必要があると思います。

与那国町では透析患者を支援対象としています。沖縄県では、宮古島、石垣島、久米島、伊江島、南大東島以外の離島には透析施設がありません。このため、５つの島以外に住んでいる方が透析治療を必要とする場合、島外の病院に週３回通院するか、透析施設の近くにアパートを借りて生活するかになります。患者・家族にとって負担は大きいので与那国町の支援は素晴らしいと思います。

かつて宮古島の患者達も沖縄本島の透析施設近くでアパートを借りて生活されていました。宮古島で透析治療が出来るようになったのは、昭和60年（1985年）からです。

医療に地域格差があり離島に負担があるのは事実です。県の要綱に入っていなければ支援してもらえないし、独自の支援では、財源の少ない市町村にとっては負担があります。離島の市町村が足並みを揃えて財源の負担を軽くして支援してもらうためには、何よりも県の要綱にその内容を盛り込むことが不可欠であると考えます。要綱の中に対象を拡充し、一人でも多くの方が支援を受けられるよう、もう一歩踏み込んで離島全体の支援の底上げが図られるよう、心よりお願い申し上げます。

つきましては、下記項目について、県の要綱に盛り込んでいただけますよう、強く要望いたします。

記

１．育成医療を支援対象とすること。

２．心臓手術・検査等、離島で治療や検査ができない疾患を支援対象とすること。

３．透析治療等、離島に設備がなく、島外での治療を余儀なくされる治療を支援対象とすること。

４．通院患者の付き添いに関する要件を以下の通り改定すること。

現行の「通院患者等が18歳未満の場合、付き添いは２名まで認める」に加えて、「また、18歳以上でも複数の付き添いが必要なケースに関しては、医師の判断をもって付き添いを２名まで認める」と追記し、18歳以上の複数付き添いが必要なケースに対応すること。

以上、地方自治法第99条により意見書を提出する。

令和８年（2026年）６月29日

沖縄県宮古島市議会

宛先、沖縄県知事。

◎議長（平良和彦君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑があれば発言を許します。

◎前里光健君

質問させてください。

この意見書、とても賛同するに値するものなんですけども、記１の育成医療を支援対象、この育成医療という部分が具体的に何を指しているかというのを教えていただきたいというのと、２の心臓手術、検査等、離島での治療や検査ができない疾患を支援対象とすることで、もし分かれば宮古島市には大体何名ぐらいいらっしゃるのか、求めている人がいらっしゃるのか分かるのであれば教えていただきたいなというのと、あとは３点目は、宛先が沖縄県知事となっていますが、重要なものなので、県議会とかも必要ではなかったかなと思いますが、知事のみとした何か理由がありますか。

◎文教社会委員会委員長（下地信広君）

質問に答えますが、我々の中ではこういう細かいことは話し合いませんでしたけれども、要綱の中でしか分からないので、細かい内容は。ただ私の知識の限りでは、育成医療というのは障害者とか不妊治療を受けた方々、そういうふうに理解しておりますし、沖縄県に出すというのは、市町村だけでやった場合には、前も言ったように財源の負担があるということで、県にやったほうが県の支援も受けられるんではないかなと。つまり項目が違うから、県の支援項目と、また各離島の支援項目とは違うということで、県の補助金交付要綱に盛り込んだ場合にはこの補助金が県から交付されるということで、財源の各離島の負担が少なくなると、そうご理解したほうがいいのかなと思っております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

（「質疑なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて質疑を終結します。

ただいま議題となっております日程第17、意見書案第３号は委員会提出の案件でありますので、会議規則第37条第２項の規定により委員会付託を省略し、直ちに処理します。

これより討論に入ります。

日程第17、意見書案第３号、渡航費支援の更なる充実に向けた要綱の盛り込みを求める意見書に対する討論の発言を許します。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより意見書案第３号を採決します。

本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、意見書案第３号は可決されました。

次に、日程第18、決議案第３号、レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議を議題とし、提案者から提案理由の説明を求めます。

◎根間康雄君

レゾリュート･ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議。近年、国際情勢は緊迫の度を増しており、南西諸島を取り巻く安全保障環境も……

◎議長（平良和彦君）

休憩します。

（休憩＝午後２時39分）

再開します。

（再開＝午後２時39分）

◎根間康雄君

申し訳ありません。時間を焦っています。では、もう一度。

決議案第３号、レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議。みだしのことについて、別紙のとおり議会の議決を得たいので、会議規則第14条第１項の規定により本案を提出します。令和８年６月29日、宮古島市議会議長、平良和彦殿。提出者議員、根間康雄、賛成者議員、前里光健、平良恵泰。

本文を読み上げて提案理由の説明に代えさせていただきます。

レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する
市民との意見交換の場の設置を求める決議

近年、国際情勢は緊迫の度を増しており、南西諸島を取り巻く安全保障環境も厳しさを増している。

レゾリュート・ドラゴンをはじめとする日米共同訓練等については、近年の国際情勢の緊迫化や、南西諸島を取り巻く安全保障環境の厳しさを踏まえると､有事を起こさせないための抑止力を高めるとともに、万が一の事態に備えた対処能力を向上させる有効な取り組みであると考える。

このような状況の中、市民からは、訓練の目的、安全対策、市民生活への影響等の他に有事の際の国民

保護や住民避難についても、市民から多くの不安や疑問の声が寄せられている。

有事は決してあってはならないものであるが、万が一の事態に備え、市民の命と暮らしを守るためには、国民保護計画及びそれに基づく住民避難計画について、市民をはじめ全ての関係機関がともに理解を深めていくことが重要である。

特に、避難の判断、避難情報の伝達方法、避難先及び移動手段の確保、要配慮者・避難行動要支援者・観光客等への対応、医療・福祉体制、避難先での生活支援、戻った後の生活支援、財産保護に関する考え方などについては、市民の関心も高く、丁寧な対応が求められている。

これまで、市議会における議論に加え、防衛省、沖縄防衛局及び沖縄県の担当者を招いて開催された『沖縄県国民保護共同訓練に係る住民説明会』に係るシンポジウム（２月28日実施）や、市主催により市内各地域で実施された『地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会』（６月６日、７日、13日、20日、21日実施）を通じて、市民の疑問や不安を直接伺う機会が重ねられてきた。このように、国及び関係機関には、これまで市民に対する説明及び意見交換の機会の確保にご配慮をいただいており、こうした取組は市民の理解を深める上で大きな意義を有している。

一方で、こうした機会を重ねる中で、市民からは多くの意見、不安、疑問が寄せられ、蓄積されてきた。その中には、宮古島市のみで対応・判断できるものだけではなく、防衛省、沖縄防衛局、沖縄県等が所管し、関係機関が直接応答すべき事項も多く含まれている。

そのため、これまでの国及び関係機関による取組を踏まえつつ、市民の不安の払拭を図り、国民保護計画及びそれに基づく住民避難計画の実効性を高め、より現実的かつ具体的な訓練の実施につなげていくためには、各担当機関と市民がより建設的な意見交換を行う機会を設けることが必要と考える。

よって、以下の内容を求める。

記

１．防衛省、沖縄防衛局、沖縄県等に対し、各種訓練、国民保護計画及びそれに基づく住民避難計画に関して、これまでに市民から寄せられ蓄積されてきた不安、疑問、要望に対し、各担当機関からそれぞれ回答を得るとともに、市民とより建設的な意見交換を行う場を設けるよう求める。

以上、決議する。

令和８年（2026年）６月29日

沖縄県宮古島市議会

宛先、防衛大臣、沖縄防衛局長、沖縄県知事、沖縄県議会議長。

◎議長（平良和彦君）

これで提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑があれば発言を許します。

◎大城　仁君

質問１点ございます。今回建設的な意見交換を行う場を設けるように求めるということなんですけれども、これまでもこの決議書にもあるとおり、沖縄県国民保護共同訓練に係る国民保護シンポジウム、それから今月ずっと行われております市主催の地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会が開催され

ております。その上で、より建設的な意見交換の場というところで、具体的にはどういった意見交換の場が建設的であると考えているのかなというところで１点質問したいと思います。今建設的という言葉の定義としては、そのことのよさを積極的に認めた上で、さらによくしていこうとする様とあります。本当にいろいろ住民でも意見が分かれる中で、建設的な意見交換の場というものはどういうふうに想像されているのか伺います。

◎根間康雄君

意見交換の場の建設的という表現なんですけども、一応説明会は確かにこれまで大分行われてきました。市長が市民の皆様に一生懸命伝えています。ただ、大変と思うのは、宮古島市長が国から、県から、ある内容をまとめて伝えようとするのは無理があるんです。これ建設的な意見で、本当伝えたいんです、実は。でも、餅は餅屋で、立場、立場があるんで、そこから伝えないといけない部分があるはずなんです。我々市民というのは不思議なもので、断片的にしか質問ができないんです。だから、思っちゃうと、宮古島市のこと以外のものも質問しちゃう。具体的な内容を必要としつつも、気がついたら、家畜どうするかとか、話が飛んじゃうんです。それを、できることであれば専門的な、今言っている国から、県からの方がいらっしゃってもらって、もう少し建設的な、しっかりとした具体的な内容を質問に応じて答えられる場、ここの意見交換の場をぜひ持っていただきたいというのが私の気持ちです。だから、ここだけではできない内容がもうたくさんあると思うんです。ですから、建設的な意見というのは、その場所でさらに深みを帯びて持っていけたらいいなと思っております。

◎議長（平良和彦君）

ほかに質疑はありませんか。

（「質疑なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて質疑を終結します。

ただいま議題となっております日程第18、決議案第３号は会議規則第37条第３項の規定により委員会付託を省略し、直ちに処理したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、そのとおり決しました。

これより討論に入ります。

日程第18、決議案第３号、レゾリュート・ドラゴン等の訓練及び国民保護計画に関する市民との意見交換の場の設置を求める決議に対する討論の発言を許します。

◎豊見山貴仁君

蒼和会の豊見山です。この決議案に関して、反対の立場から討論いたします。

本決議案の趣旨については、私は一定の理解をしております。市主催で市内５か所で開催された意見交換会、このうち３か所参加し、各地域の質疑等も聞いてまいりました。訓練や国民保護計画について、市民への丁寧な説明や意見交換の場は必要だと考えております。しかし、このような決議書は、宮古島市議

会として対外的に意見を、意思を示す重いものであり、本来であれば提出前から各会派に十分な説明がなされ、会派内での協議、文面の確認、修正の余地など丁寧な調整が行われるべきだと考えております。今回は、提出から本会議までの期間が短く、十分な協議ができていないと考えております。また、このタイミングでの決議案提出にも疑問があります。よって、現時点での提出には賛同できず、この決議案に反対いたします。

◎議長（平良和彦君）

ほかに討論はありませんか。

◎前里光健君

この決議案に対して賛成の立場から討論をいたします。

先ほど根回しが足りなかったようなお話がありましたけれども、これまでの議会の議論、一般質問でも取り上げられておりますし、その前にも意見交換会もありました。それも現場に私も行きましたので、その前のシンポジウムもございました。そういったものを考えたときに、今回の議会においても多くの議論が上がったわけであります。なぜこのタイミングかという話もあったと思うんですけど、これまで十分時間あったと思うんです。その文書を見て、皆さんがそれを読んで、この内容に賛同するかどうかはもちろん自由なんですけれども、やはり２月の、先ほど申し上げたシンポジウム、また議会、意見交換会もあります。そして、より建設的な意見交換会の場を求めるということが大事なんです。これまで積み上げてきた中で、どうしても市長、当局が質問を受けてやるんですけど、国とか、県とか、また防衛省、沖縄防衛局とかに対しての質問があったりとか、ではなぜ今これが、訓練が大事なのかとか、今の国際情勢をどう考えて、今危機が迫っているのかどうかとか、そういったことも市長はそういうふうにお話はしますけれども、実際にはもう少し国のほうが丁寧にお話をして、今こういう状況なので、訓練が必要ありますよとか、そういったものをもう少し具体的に説明をいただいた中で、あと質問……ちょっとすみません、いろいろと整理できていませんけども、やはり国民保護、国民避難計画というのは、どうしても実効性を高めなければいけないと思うんです。要支援者どうしますかとか、戻ってきた後の生活、また行ったときの生活どうなるんですか、仕事どうなるんですか、学校どうなるんですかとか、様々質問が寄せられているんです。これ一気に答えることはできないと思うんですが、こういうふうに意見交換をより建設的にするためには、一つ一つ市民の皆さんの声を聞いて、そして情報提供だけではなくて、こういうのはどうですか、ああいうのはどうですかというような、直接話を聞く機会というのはこれからも定期的に持っていくことが重要だと思っていますし、レゾリュート・ドラゴン以外にもこれから訓練はあるわけです。そういった中でも状況の説明、または市民との意見交換というのは必要になってくると思いますので、そういった意味ではこの決議書は必要であるというふうに考えております。賛成討論とします。

◎議長（平良和彦君）

ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより決議案第３号を挙手により採決します。

なお、挙手のない者は否とみなします。

本案は原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手少数）

◎議長（平良和彦君）

挙手少数であります。

よって、決議案第３号は否決されました。

次に、日程第19、決議案第４号、頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議を議題とし、提案者から提案理由の説明を求めます。

◎國仲昌二君

決議案第４号、頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議。みだしのことについて、別紙のとおり議会の議決を得たいので、会議規則第14条第１項の規定により本案を提出します。令和８年６月29日、宮古島市議会議長、平良和彦殿。提出者議員、國仲昌二、賛成者議員、下地茜、根間康雄。

本文を読み上げて提案理由の説明に代えさせていただきます。

頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議

宮古島市の事務ミス等が頻発している。

昨年以降だけでも、市職員の事務ミス、不祥事が発覚し、市長をはじめ、副市長や部長など幹部職員が謝罪する姿が毎月のように報道される。なかには、3,000万円を超える一般財源からの補填や国庫補助金の返還など、直接市民に損失を与える事案もある。

また、公用車の交通事故による損害賠償の報告も数多く議会にあがっている。

そのほか、議会への対応も杜撰で、議案や数値の誤りによる訂正や度重なる答弁の訂正も続出している。

議会としても、多くの議員が一般質問等で原因究明と再発防止策を強く求めるほか、令和７年12月には議会運営委員会が、提出議案の訂正が多いとして口頭で改善を求めてきており、そのたびに、市長をはじめ当局は、「業務マニュアルやチェックリストの整備、複数職員によるダブルチェック体制の強化、定期的な職員研修、職員主体のチェックする仕組みづくりを徹底する」旨答弁してきた。

にもかかわらず、その後も事務ミス等が発覚し、今議会前には、公金横領による市職員の懲戒免職という重大な不祥事が起きてしまった。

また、警察による市のパソコン押収があったとの報道もある。

このままだとさらに重大な事務ミス等が発生するおそれは否定できない。

市の事務ミス等の頻発については、市議会のチェック機能が働いていないという市民の指摘もあり、我々市議会の責任も問われている。

よって本市議会は、市長に対し、事務ミス等により、これ以上市民に迷惑や損害を与えないように、市内部での自浄作用を発揮して、徹底した原因究明と再発防止策を講じるよう強く求めるものである。

以上、決議する。

令和８年（2026年）６月29日

沖縄県宮古島市議会

宛先、宮古島市長。

◎**議長（平良和彦君）**

これで提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑があれば発言を許します。

（「質疑なし」の声多数あり）

◎**議長（平良和彦君）**

これにて質疑を終結します。

ただいま議題となっております日程第19、決議案第４号は会議規則第37条第３項の規定により委員会付託を省略し直ちに処理したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎**議長（平良和彦君）**

ご異議なしと認めます。

よって、そのとおり決しました。

これより討論に入ります。

日程第19、決議案第４号、頻発する事務ミス等の原因究明と再発防止策を求める決議に対する討論の発言を許します。

◎**池間　仁君**

蒼和会、池間仁です。反対討論の立場で意見を述べます。

決議内容については、私の周りからも当局に対する厳しい指摘があることは認識しております。議会チェックの機能は、当然ながら常に必要と考えており、今定例会でも多くの議員から一連の事務ミス、公金横領等についても踏み込んだ質疑がされております。そのことを踏まえると、与野党を問わず市民の声を反映し、当局に対する説明を求めていることは市議会の機能がしっかりと果たしていると思います。当局側も指摘に対しては真摯に受け止めており、さらなる原因究明と再発防止策を講じると市長をはじめ当局は答弁をしております。

以上のことを踏まえて反対討論といたします。

◎**議長（平良和彦君）**

ほかに討論はありませんか。

◎**下地　茜君**

賛成の立場で討論したいと思います。

以前から続いてきた事務ミスや不祥事に対して、これまでも謝罪であったり、申入れなどの経緯がございますが、それを踏まえて改善が見られたのかというと、なかなかそう言うには厳しい状況が続いています。マニュアルを増やすということだけではなく、風通しのよい市政になっているのか、相談しやすい体制はできているのかなど、体制についてさらに真摯に見直す時期に来ているのではないかと思います。地方自治法では、市は議会を設けることとなっていて、その役目は市政のチェックです。二元代表制に基づいて襟を正すきっかけにしていただきたく、決議案に賛成します。

◎**議長（平良和彦君）**

ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

これにて討論を終結します。

これより決議案第４号を挙手により採決します。

なお、挙手のない者は否とみなします。

本案は原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手少数）

◎議長（平良和彦君）

挙手少数であります。

よって、決議案第４号は否決されました。

これで今定例会に付託された案件の審議は全部終了しました。

お諮りします。今定例会において議決された各議案について、会議規則第43条の規定により条項、字句、数字、その他の整理に要するものについては、これを議長に委任されたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

◎議長（平良和彦君）

ご異議なしと認めます。

よって、そのとおり決しました。

これをもちまして令和８年第４回宮古島市議会定例会を閉会します。

（閉会＝午後３時04分）

上記のとおり会議の顛末を記載し、相違なきことを証する為ここに署名する。

令和８年６月29日

宮古島市議会

議　長　　平　良　和　彦

議　員　　下　地　信　広

〃　　平　良　恵　泰